

学位請求論文

小型仿製鏡をめぐる考古学的研究

広島大学大学院文学研究科人文学専攻
地表圏システム学講座考古学分野博士課程後期

D 0 6 4 6 2 7

脇山 佳奈

学位請求論文

小型仿製鏡をめぐる考古学的研究

広島大学大学院文学研究科人文学専攻
地表圏システム学講座考古学分野博士課程後期

D 0 6 4 6 2 7

はじめに

古墳時代の仿製鏡は、日本列島で多量に生産された青銅鏡であり、当時の人々の独自の思想の中で生み出された器物である。極端に小さな面径の仿製鏡を多量に生産するという状況は、古墳時代における青銅鏡生産の特徴である。

古墳時代仿製鏡は面径で大小の作り分けがなされ、仿製鏡が古墳の被葬者の身分の違いを示すものであったと考えられている。内行花文鏡に大型と小型のものがみられる状況は、作り分けを端的に示す事例である。しかしながら内行花文鏡と比較し、素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡は、文様が非常に単純であるがゆえに、各鏡式に対応する大型仿製鏡を想定することは難しい。さらに小型仿製鏡は、その政治的な意味合いの度合い、生産地が大型仿製鏡と同様に畿内地域にあるのか、それとも地方にあるのかという点でも未だに決着がつかない。

著者が古墳時代における小型仿製鏡の意義の解明について研究を進めるようになったきっかけは、広島大学学部在籍中に広島県宇那木山2号墳の発掘調査に参加したことによる。この調査では古墳時代小型仿製鏡である珠文鏡が出土し、卒業論文のテーマとなった。卒業論文では『古墳時代小型仿製鏡の研究－珠文鏡を中心として－』を作成し、宇那木山2号墳出土の珠文鏡の特異性を明らかにすべく、珠文鏡の分類と編年に取り組んだ。修士論文でも引き続き『小型仿製鏡の研究』という題目で、重圏文鏡・珠文鏡・内行花文鏡の研究を行い、これら3鏡式の出土遺跡を比較することで、それぞれの意義について検討を深めた。ただし、この段階では珠文鏡の政治的な役割の有無や生産体制については課題として残った。

本論は、小型仿製鏡⁽¹⁾の中でも、特に素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡の小型鏡に焦点をあてている。さらにこれらの小型仿製鏡と比較する資料として仿製内行花文鏡、石製模造鏡、土製模造鏡を取り上げ、両者の関係について論じた。古墳時代の青銅鏡には、中国鏡をはじめ、大型・中型・小型の仿製鏡があり、それらは副葬品として古墳から出土したり、集落・祭祀遺跡では住居・川・溝から出土するなど、多くの場面で使用された道具である。しかしながら、青銅鏡の研究は中国鏡や大型仿製鏡を中心に進められており、小型仿製鏡から古墳時代を検討した研究は少ない。したがって、その生産体制や意義を明らかにす

べく、本論を組み立て、論を展開することとする。本論文で対象とする資料は日本列島および朝鮮半島南部から出土する弥生時代後期後半から古墳時代の遺物である。

(註)

(1) 「小型仿製鏡」は「小形仿製鏡」と書き表されることもあるが、本論では「小型」・「中型」・「大型」と称する。

凡例

1. 年代は大賀克彦 2003 「第1表 副葬品組成の変遷」『風巻神山古墳群』福井県清水町教育委員会、iv頁。および、大賀克彦 2012 「前期古墳の築造状況とその画期」『前期古墳からみた播磨』第13回播磨考古学研究集会実行委員会、47－55頁の編年である前Ⅰ期～前Ⅶ期、中Ⅰ期～中Ⅳ期、後Ⅰ期～後Ⅳ期を用いる。ただし、時期を細分できないものについては、前期・中期・後期としている。

前Ⅰ期～前Ⅳ期は3～4世紀、中Ⅰ期～中Ⅳ期は5世紀、後Ⅰ期～後Ⅳ期は6世紀から7世紀初頭としている。

2. 土師器の編年は石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編 1998 『古墳時代の研究』6 土師器と須恵器、雄山閣、および堀大輔 2003 「第3表 土器編年併行関係対応表」『風巻神山古墳群』福井県清水町教育委員会、viii頁などを参考にした。関東地方については比田井克仁 2001 『関東における古墳出現期の変革』、雄山閣出版を主に参考にした。

3. 遺跡名称については、○○1号古墳は、○○1号墳と表記している。

4. 青銅鏡を数える際の量詞は「面」とし、土製模造鏡・石製模造鏡を数える際の量詞は「点」とする。

5. 図の内行花文鏡の諸例は縮尺不同であり、それ以外については等倍にしている。

目次

はじめに	i
凡例	iii
目次	iv
図一覧	ix
表一覧	x viii
第1章 本書の目的と課題	1
第1節 仿製鏡全体に関する研究	1
第2節 仿製鏡の生産に関する研究	5
第3節 小型仿製鏡の意義に関する研究	6
第2章 素文鏡の研究	12
はじめに	12
第1節 素文鏡の研究史	12
(1) 祖形に関する研究	
(2) 素文鏡の分類に関する研究	
(3) 素文鏡の意義に関する研究	
第2節 素文鏡の分類と編年	14
(1) 分類方法	
(2) 素文鏡の資料紹介	
(3) 分類ごとの概要	
(4) 分布	
(5) 素文鏡の変遷	
第3節 素文鏡の特質	35
(1) 古墳出土の素文鏡の検討	
(2) 集落・祭祀遺跡出土の素文鏡の検討	
(3) 共伴する青銅鏡の検討	
(4) 鼻鈕の素文鏡の意義	
(5) 円鈕の素文鏡の意義	
第4節 小結	45

第3章 重圏文鏡の研究	65
はじめに	65
第1節 重圏文鏡の研究史	65
(1) 分類に関する研究	
(2) 「珠文状結線文」をもつ重圏文鏡の研究	
(3) 重圏文鏡の祖形・意義に関する研究	
第2節 重圏文鏡の分類と編年	68
(1) 分類	
(2) 重圏文鏡の資料紹介	
(3) 分類ごとの説明	
(4) 重圏文鏡の編年	
(5) 重圏文鏡の画期	
第3節 重圏文鏡の特質	109
(1) 重圏文鏡の流通と消費	
(2) 共伴する鏡について	
(3) 櫛歯文鏡の検討	
(4) 重圏文鏡の製作	
第4節 小結	119
第4章 珠文鏡の研究	159
はじめに	159
第1節 珠文鏡の研究史	159
(1) 分類に関する研究	
(2) 珠文鏡の系譜に関する研究	
第2節 珠文鏡の分類と編年	162
(1) 分類方法	
(2) 珠文鏡の資料紹介	
(3) 分類ごとの出土遺跡とその年代観	
(4) 珠文鏡の変遷	
第3節 珠文鏡の特質	224
(1) 分布	
(2) 出土遺跡の検討	

(3) 共伴する鏡の検討	
(4) 朝鮮半島出土の珠文鏡について	
(5) 珠文鏡の系譜について	
(6) 放射状区画をもつ珠文鏡について	
(7) 珠文鏡の生産体制について	
第4節 小結	248
第5章 内行花文鏡の研究	320
はじめに	320
第1節 内行花文鏡の研究史	320
(1) 分類に関する研究史	
(2) 祖形に関する研究史	
(3) 生産地や意義に関する研究史	
第2節 内行花文鏡の分類と編年	325
(1) 分類方法	
(2) 外区文様の細分	
(3) 花文間の単位文様の分類	
(4) 四葉座の分類	
(5) 内行花文鏡の資料紹介	
(6) 分類と内区の花文数との関係	
(7) 出土遺跡の時期についての検討	
(8) 内行花文鏡の製作方法の画期	
第3節 内行花文鏡の特質	398
(1) 内行花文鏡の変遷	
(2) 同范(型)鏡について	
(3) 内行花文鏡の鈕孔形態	
(4) 古墳出土の内行花文鏡	
第4節 小結	410
第6章 石製模造鏡の研究	520
はじめに	520
第1節 石製模造鏡の研究史	520
第2節 石製模造鏡の分類	521

(1)	分類	
(2)	石製模造鏡の資料紹介	
第3節	分類と出土時期の検討	538
(1)	石製模造鏡の分布	
(2)	古墳出土の石製模造鏡	
(3)	集落・祭祀遺跡出土の石製模造鏡	
(4)	石製模造鏡の出現時期	
(5)	石製模造鏡の画期	
(6)	韓国竹幕洞遺跡との関係	
第4節	小型仿製鏡と石製模造鏡の関係	546
(1)	模倣の対象となった鏡に関する検討	
(2)	青銅鏡と共伴する事例	
第6節	小結	549
第7章	土製模造鏡の研究	574
	はじめに	574
第1節	土製模造鏡の研究史	574
(1)	分類に関する研究	
(2)	模倣の対象や意義に関する研究	
(3)	土製模造鈴鏡の研究史	
第2節	土製模造鏡の分類	577
(1)	分類	
(2)	土製模造鏡の時期ごとの特徴	
(3)	集落・祭祀遺跡出土の土製模造鏡	
(4)	古墳出土の土製模造鏡の時期	
(5)	土製模造鏡画期	
第3節	土製模造鏡の特質	622
(1)	土製模造鏡の模倣の対象について	
(2)	土製模造鏡と石製模造鏡の関係	
(3)	土製模造鏡と共伴する青銅鏡	
(4)	土製模造鈴鏡との関係	
第4節	小結	625

第8章 小型仿製鏡生産技術の変化と画期	703
第1節 小型仿製鏡の鈕孔形態	703
第2節 断面形態からみた画期	704
第3節 小型仿製鏡の鉛同位体比分析	722
第4節 小結	728
第9章 結論	730
第1節 小型仿製鏡についての総説	730
第2節 小型仿製鏡および模造鏡の出土遺跡	734
第3節 小型仿製鏡と模造鏡	736
第4節 小型仿製鏡の画期	740
第5節 小型仿製鏡からみた古墳時代社会	742
おわりに	744
図表・図版出典	745
謝辞	750

図一覧

第1図	分類の基準	15
第2図	1 A類の諸例	29
第3図	1 C類の諸例	29
第4図	2 A類の諸例	30
第5図	2 B類の諸例	30
第6図	素文鏡出土遺跡の分布図	32
第7図	素文鏡の関係図	33
第8図	素文鏡の画期	34
第9図	時期別の遺跡の種類	41
第10図	素文鏡出土の遺跡名	48
第11図	素文鏡の諸例	49
第12図	素文鏡の諸例	50
第13図	素文鏡の諸例	51
第14図	素文鏡の諸例	52
第15図	素文鏡の諸例	53
第16図	4類の面径と鏡体の厚みの関係	91
第17図	1・2類の諸例	96
第18図	3類の諸例	97
第19図	4類の諸例	98
第20図	4類の諸例	99
第21図	4類の諸例	100
第22図	5類の諸例	101
第23図	6類の諸例	101
第24図	7類の諸例	102
第25図	7類の諸例	103
第26図	珠文状結線文の形状（縮尺不同）	104
第27図	弥生時代小型仿製鏡の諸例	106
第28図	重圈文鏡の関係図	107

第 29 図	重圈文鏡の画期	108
第 30 図	分類ごとの遺跡の種類	110
第 31 図	遺跡の種類と面径の関係	110
第 32 図	櫛歯文鏡の諸例	115
第 33 図	西ノ別府遺跡例と類似する諸例（実物大）	116
第 34 図	西ノ別府遺跡例との比較（実物大）	117
第 35 図	重圈文鏡の分布	117
第 36 図	重圈文鏡出土遺跡名	122
第 37 図	重圈文鏡の諸例	123
第 38 図	重圈文鏡の諸例	124
第 39 図	重圈文鏡の諸例	125
第 40 図	重圈文鏡の諸例	126
第 41 図	重圈文鏡の諸例	127
第 42 図	重圈文鏡の諸例	128
第 43 図	重圈文鏡の諸例	129
第 44 図	重圈文鏡の諸例	130
第 45 図	重圈文鏡の諸例	131
第 46 図	重圈文鏡の諸例	132
第 47 図	珠文鏡の部分名称図	162
第 48 図	文様の説明	163
第 49 図	A-A 3 類・A-B 類の諸例	225
第 50 図	A-B A 3 類・A-D 類・A 2-B 類・A 2-D 類の諸例	226
第 51 図	A 3-B 類・A C A-D 類・A C-B 類・A C-D 類の諸例	227
第 52 図	B-A 類・C A-D 類・B C-B 類・ B C-D 類・D-B 類の諸例	228
第 53 図	D-B 類・D-B 2 類・D-A 3 類・D-D 類の諸例	229
第 54 図	珠文鏡の関係図	231
第 55 図	珠文鏡の出土する年代及び画期	232
第 56 図	珠文鏡の分布図	234
第 57 図	珠文鏡の分布図	235
第 58 図	古墳の種類と墳丘の関係	237

第 59 図	古墳の規模と面径の関係	237
第 60 図	朝鮮半島出土の珠文鏡の分布図	241
第 61 図	珠文鏡とその祖形	243
第 62 図	京都府馬場遺跡出土珠文鏡	243
第 63 図	放射状区画をもつ珠文鏡の諸例	246
第 64 図	放射状区画をもつ珠文鏡の諸例	247
第 65 図	類似する珠文鏡の比較	249
第 66 図	同型の珠文鏡	250
第 67 図	珠文鏡出土の遺跡名	253
第 68 図	珠文鏡出土の遺跡名	254
第 69 図	珠文鏡出土の遺跡名	255
第 70 図	珠文鏡出土の遺跡名	256
第 71 図	放射状区画をもつ珠文鏡出土の遺跡名	256
第 72 図	珠文鏡の諸例	257
第 73 図	珠文鏡の諸例	258
第 74 図	珠文鏡の諸例	259
第 75 図	珠文鏡の諸例	260
第 76 図	珠文鏡の諸例	261
第 77 図	珠文鏡の諸例	262
第 78 図	珠文鏡の諸例	263
第 79 図	珠文鏡の諸例	264
第 80 図	珠文鏡の諸例	265
第 81 図	珠文鏡の諸例	266
第 82 図	珠文鏡の諸例	267
第 83 図	珠文鏡の諸例	268
第 84 図	珠文鏡の諸例	269
第 85 図	珠文鏡の諸例	270
第 86 図	珠文鏡の諸例	271
第 87 図	外区文様	327
第 88 図	花文間の単位文様	329
第 89 図	四葉座	329

第 90 図	内行花文鏡の出土時期	390
第 91 図	内行花文鏡の関係	400
第 92 図	同範（同型）鏡の諸例	404
第 93 図	同範（同型）鏡の諸例	405
第 94 図	同範（同型）鏡の諸例	406
第 95 図	内行花文鏡と珠文鏡の断面図	407
第 96 図	内行花文鏡の諸例	413
第 97 図	内行花文鏡の諸例	414
第 98 図	内行花文鏡の諸例	415
第 99 図	内行花文鏡の諸例	416
第 100 図	内行花文鏡の諸例	417
第 101 図	内行花文鏡の諸例	418
第 102 図	内行花文鏡の諸例	419
第 103 図	内行花文鏡の諸例	420
第 104 図	内行花文鏡の諸例	421
第 105 図	内行花文鏡の諸例	422
第 106 図	内行花文鏡の諸例	423
第 107 図	花文の検討	424
第 108 図	花文の検討	425
第 109 図	花文の検討	426
第 110 図	花文の検討	427
第 111 図	花文の検討	428
第 112 図	花文の検討	429
第 113 図	花文の検討	430
第 114 図	花文の検討	431
第 115 図	花文の検討	432
第 116 図	花文の検討	433
第 117 図	花文の検討	434
第 118 図	花文の検討	435
第 119 図	花文の検討	436
第 120 図	花文の検討	437

第 121 図	花文の検討	438
第 122 図	花文の検討	439
第 123 図	花文の検討	440
第 124 図	花文の検討	441
第 125 図	花文の検討	442
第 126 図	花文の検討	443
第 127 図	花文の検討	444
第 128 図	花文の検討	445
第 129 図	花文の検討	446
第 130 図	花文の検討	447
第 131 図	花文の検討	448
第 132 図	花文の検討	449
第 133 図	花文の検討	450
第 134 図	花文の検討	451
第 135 図	花文の検討	452
第 136 図	花文の検討	453
第 137 図	花文の検討	454
第 138 図	花文の検討	455
第 139 図	花文の検討	456
第 140 図	花文の検討	457
第 141 図	花文の検討	458
第 142 図	花文の検討	459
第 143 図	花文の検討	460
第 144 図	花文の検討	461
第 145 図	花文の検討	462
第 146 図	花文の検討	463
第 147 図	花文の検討	464
第 148 図	花文の検討	465
第 149 図	花文の検討	466
第 150 図	花文の検討	467
第 151 図	花文の検討	468
第 152 図	花文の検討	469

第 153 図	花文の検討	460
第 154 図	花文の検討	471
第 155 図	花文の検討	472
第 156 図	花文の検討	473
第 157 図	花文の検討	474
第 158 図	花文の検討	475
第 159 図	花文の検討	476
第 160 図	花文の検討	477
第 161 図	花文の検討	478
第 162 図	花文の検討	479
第 163 図	花文の検討	480
第 164 図	花文の検討	481
第 165 図	花文の検討	482
第 166 図	花文の検討	483
第 167 図	松林山古墳出土の舶載内行花文鏡	484
第 168 図	石製模造鏡の模式図	522
第 169 図	石製模造鏡の分類	523
第 170 図	石製模造鏡の分布	540
第 171 図	石製模造鏡の出土遺跡の年代	543
第 172 図	竹幕洞遺跡と前方後円墳の関係	547
第 173 図	八幡山遺跡と前方後円墳の関係	547
第 174 図	石製模造鏡の出土遺跡名	552
第 175 図	石製模造鏡の諸例	553
第 176 図	石製模造鏡の諸例	554
第 177 図	石製模造鏡の諸例	555
第 178 図	石製模造鏡の諸例	556
第 179 図	勝坂祭祀遺跡出土銅鏡	557
第 180 図	勝坂祭祀遺跡出土石製品	558
第 181 図	土製模造鏡の模式図	577
第 182 図	土製模造鏡の分類	578
第 183 図	土製模造鏡の出土遺跡の分布	615

第 184 図	土製模造鏡出土遺跡の年代	616
第 185 図	土製模造鏡の遺跡名	628
第 186 図	土製模造鏡の遺跡名	629
第 187 図	土製模造鏡の諸例	630
第 188 図	土製模造鏡の諸例	631
第 189 図	土製模造鏡の諸例	632
第 190 図	土製模造鏡の諸例	633
第 191 図	土製模造鏡の諸例	634
第 192 図	土製模造鏡の諸例	635
第 193 図	土製模造鏡の諸例	636
第 194 図	土製模造鏡の諸例	637
第 195 図	土製模造鏡の諸例	638
第 196 図	土製模造鏡の諸例	639
第 197 図	土製模造鏡の諸例	640
第 198 図	土製模造鏡の諸例	641
第 199 図	土製模造鏡の諸例	642
第 200 図	土製模造鏡の諸例	643
第 201 図	土製模造鏡の諸例	644
第 202 図	土製模造鏡の諸例	645
第 203 図	土製模造鏡の諸例	646
第 204 図	土製模造鏡の諸例	647
第 205 図	土製模造鏡の諸例	648
第 206 図	土製模造鏡の諸例	649
第 207 図	土製模造鏡の諸例	650
第 208 図	土製模造鏡の諸例	651
第 209 図	土製模造鏡の諸例	652
第 210 図	弥生時代小型仿製鏡の鈕孔形態	706
第 211 図	重圏文鏡の鈕孔形態	707
第 212 図	重圏文鏡の鈕孔形態	708
第 213 図	重圏文鏡の鈕孔形態	709
第 214 図	重圏文鏡の分類ごとの鈕孔形態	710

第 215 図	重圏文鏡の分類ごとの鈕孔形態	711
第 216 図	珠文鏡の鈕孔形態	712
第 217 図	珠文鏡の鈕孔形態	713
第 218 図	珠文鏡の分類ごとの鈕孔形態	714
第 219 図	珠文鏡の分類ごとの鈕孔形態	715
第 220 図	内行花文鏡の鈕孔形態	716
第 221 図	内行花文鏡の分類ごとの鈕孔形態	717
第 222 図	素文鏡の鈕孔形態	718
第 223 図	素文鏡の鈕孔形態	719
第 224 図	素文鏡の分類ごとの鈕孔形態	720
第 225 図	鈕孔形態からみた画期	721
第 226 図	重圏文鏡・櫛歯文鏡の鉛同位体比	726
第 227 図	珠文鏡の鉛同位体比	726
第 228 図	内行花文鏡の鉛同位体比	727
第 229 図	小型仿製鏡と模造鏡の年代	741

表一覧

第1表	分類の対応関係	15
第2表	古墳出土素文鏡の一覧	37
第3表	集落・祭祀遺跡出土素文鏡の一覧	42
第4表	素文鏡の出土遺跡一覧	54
第5表	4類の櫛歯文の本数	91
第6表	古墳出土の重圏文鏡一覧	111
第7表	集落・祭祀遺跡出土の重圏文鏡一覧	113
第8表	重圏文鏡の出土遺跡一覧	133
第9表	櫛歯文鏡の出土遺跡一覧	141
第10表	珠文鏡の分類	163
第11表	分類と時期	230
第12表	時期別の遺跡の種類	236
第13表	古墳出土の珠文鏡と共伴する鏡の一覧	240
第14表	集落・祭祀遺跡出土の珠文鏡と共伴する鏡の一覧	240
第15表	珠文鏡の出土遺跡一覧	272
第16表	放射状区画をもつ珠文鏡の出土遺跡一覧	287
第17表	内行花文鏡の分類と花文数の関係	383
第18表	有節松葉文帯をもつ内行花文鏡の分類	393
第19表	有節松葉文帯をもたない内行花文鏡の分類	395
第20表	同範(型)鏡の事例	403
第21表	内行花文鏡の出土遺跡	409
第22表	古墳の種類と鏡の面径	409
第23表	内行花文鏡一覧	485
第24表	石製模造鏡の出土遺跡一覧	559
第25表	土製模造鏡の出土遺跡一覧	653
第26表	小型仿製鏡の鉛同位体比	725
第27表	鏡式ごとの遺跡の比較	734

第1章 本論の目的と課題

第1節 仿製鏡全体に関する研究

日本列島では弥生時代から古墳時代に数多くの青銅鏡が生産されており、今までに約2800面が確認されている（下垣2011a）。これらは倭鏡・倭製鏡・倣製鏡・仿製鏡などと称されている。「仿製鏡」という用語は富岡謙三によって使用された用語であり（富岡1920）、筆者もこれを用いることとする⁽¹⁾。本節では複数の鏡式を含む研究、および大型仿製鏡と小型仿製鏡に関する研究を紹介することとする。

仿製鏡研究は、三宅米吉が中国鏡とは異なった姿を呈することに着目したことから始まった（三宅1897）。その後高橋健自はこれらを日本で生産されたと指摘した（高橋1908）。

その後は富岡謙蔵や後藤守一によって本格的に集成と研究がなされ、仿製鏡の特徴を中国鏡と比較して抽出している。富岡謙蔵は仿製鏡とする基準を4点あげている。以下の内容である。

- (1) 文様表現の手法については中国鏡が鋭利で鮮明であるのに対して、模造鏡は模糊であり図像も大きく変化され、時には全く無意義のものとなり、線や文様が丸みを帯び、一見して原型ではないと認められること。
- (2) 中国鏡は内区文様が意味を有して配列されるのに対し、模倣と思われるものは一様に文様化して、本来の文様の意義を失っていると思われるもの。
- (3) 仿製鏡と認められるものは、中国鏡の主要部の一つを成す銘文を欠き、文様の中に銘帯があるものといえども、中国鏡にみられるような章句はなく、偽銘帯となり、本来の文字の位置には無意味な図や幾何学文が配置される。
- (4) 中国鏡にはその存在をみられない鈴をつけるもの。

さらに、細かく仿製鏡の分類を行い、(一) 方格渦文鏡、(二) 方格四神鏡、(三) 細線式獣帯鏡、(四) 内行花文鏡、(五) 鼉龍鏡、(六) 画像鏡、(七) 神獣鏡、(八) 神人鏡、(九) 半肉彫式獣形鏡とする。それらとは別に、変形図様鏡類、乳文鏡類を設定している。乳文鏡類は小型品に限られ、その分布は全国に亘っていると指摘する（富岡1920）。なお、この中に筆者が検討の対象とする「珠

文鏡」、「重圏文鏡」が含まれている。

後藤守一は『漢式鏡』の中で、富岡のあげた仿製鏡と中国鏡とを区別する4つの根拠のうちの(1)～(3)については、中国鏡にもその特徴をもつものが存在することを指摘する。仿製鏡の推定には、著しい特徴を具備するものには問題ないが、推定とするほかないものも数多く含まれていると述べる(後藤1926)。鏡式は以下のように分類する。

イ、素文鏡　ロ、細線鋸齒文鏡　ハ、夔鳳鏡　ニ、内行花文鏡　ホ、重圏文鏡
ヘ、TLV式鏡　ト、葉文鏡・雙葉文鏡　チ、神獸鏡　リ、書画鏡　ヌ、獸
帯鏡　ル、盤龍鏡　オ、獸帯鏡　ワ、鼉龍鏡　カ、獸帯鏡　ヨ、位至三公鏡　タ、
鈴鏡　レ、星雲文鏡　ソ、変形文鏡

さらに仿製鏡を三群に分けており、第一群は中国鏡をそのまま模鑄したもので、多少の変形はあるにせよ、大体において原様式の趣を存するもの、第二群は相当程度に変形しているものであるが、その根底に中国鏡の趣を存するもの、第三群は中国鏡の範疇から離れて、日本の文様を現したものとした。仿製鏡の年代については、母型の中国鏡より年代の後出するものであり、大多数は後漢代に出現し、三国代・六朝代初中期を盛行の中心として後期に衰えたものと推定している。その中で小型仿製鏡を含む変形鏡は三国代から六朝代初期に推定できるとしている。また、製作地については各地方の鏡がすべてその地方で作られたとも、すべての鏡が大和及びその付近で鑄造されて各地に輸送されたとも断言しがたいとする。この中で筆者が取り扱う重圏文鏡・珠文鏡は「変形文鏡」に含まれる。

戦後の1945年以降は、仿製鏡の出現年代について具体的に検討されるようになった。小林行雄は、方格規矩鏡と内行花文鏡が最初に仿製され、次に三角縁神獸鏡の仿製がなされたという説を排し、最初に仿製されたのは三角縁神獸鏡であると指摘した。三角縁神獸鏡は鏡径もほぼ同じで、細部に時代を異にする手法を混用していないのに対し、方格規矩鏡や内行花文鏡は、細部において自由に他の鏡式の手法を混用し、鏡径も大小任意につくられることを根拠として、仿製鏡において、仿製三角縁神獸鏡が最も古いと考えた。また、仿製鏡の製作地に関しては、仿製三角縁神獸鏡の分布が近畿地方に集中することから、製作地を近畿地方と考えた。仿製三角縁神獸鏡を、政治の中心地で製作し、そして、さらに全国に配布したと考えた(小林1961)。小林の論文は仿製鏡に意

義を与えた画期的な論文であり、仿製鏡と中心権力との関係を論じた点が評価できる。

その後、仿製鏡を総合的に論じたものには、樋口隆康の研究がある。この中で、樋口は小林行雄と同じように、古墳時代仿製鏡の製作された順序に関しては、最初に仿製三角縁神獸鏡が出現し、4世紀後半には、内行花文鏡、方格規矩鏡、龍鏡、画象鏡、獸形鏡などが出現し、5世紀になって、神獸鏡、捩文鏡、珠文鏡、乳文鏡、鈴鏡が出現したと考えた。仿製鏡の年代は三角縁神獸鏡の仿製が最も早く行われ、次に大型の仿製鏡が製作されたとの考えが定着していった。小型仿製鏡に関しては、文様が簡素なことから、文様が簡略化された新しい時期の仿製鏡であると考えられていた（樋口1979）。

その一方で、小型仿製鏡の見直しも行われ、その製作年代は従来想定された年代よりも古い時期から製作されていたという意見もみられるようになる。森浩一は、小型内行花文鏡の出土例の検討から、生産の主要な時期は古墳時代前期と推定した（森1970）。小林三郎は、重圈文鏡と珠文鏡の出土例から考えると、珠文鏡A類の年代に関しては、4世紀末に遡ると述べた（小林1979）。

1980年代になると、仿製鏡の製作年代に関して新たな意見が述べられるようになった。田中琢は、仿製の三角縁神獸鏡・方格規矩鏡・内行花文鏡などの鏡の詳細な観察を行い、文様の欠落や簡略化から鏡の変遷をとらえた。内行花文鏡に関しては、小型の六弧文のものは、大型のものより新しい時期のものであると考え、文様の省略と面径の小型化を時代による変化をとらえた。その一方で、「単頭双胴怪獸倭鏡」を小面積に収めたものが捩文鏡であると考えた。小型鏡には、時代によって小型となったものと、面径の制約によって小型となったものがあることを指摘した。さらに仿製鏡と中国鏡を比較して、仿製鏡の方が面径にばらつきが大きいことを指摘し、日常用の鏡ではないことを指摘した。（田中1979・1981）。三角縁神獸鏡の仿製の契機については舶載三角縁鏡の不足を補うためであると推測している（田中1981）。

小林三郎は仿製鏡全体の検討を行っており、中国鏡を忠実に模倣した一群と、中国鏡の模倣から脱して仿製鏡独自の鏡式を構成するものに分ける。前者のうち、三角縁神獸鏡を除いた仿製鏡をあげると、1. 方格規矩鏡類 2. 内行花文鏡類 3. 画文帯神獸鏡類 4. 平縁神獸鏡類 5. 画像鏡類 6. 獸帯鏡類 7. 龍虎鏡類 8. 獸形文鏡類をあげた。その一方で原型を求めがた

い一群として、1. 振文鏡類 2. 乳文鏡類 3. 珠文鏡類 4. 重圏文鏡類
5. 変形文鏡類 6. 鈴鏡類などをあげている（小林 1982・2010）。

森下章司は、外区文様が時間の指標として有効であると考え、仿製鏡の編年を行った。また、各時期の仿製鏡の考察を行い、4世紀の仿製鏡は、重圏文鏡が最も早く出現し、その後に、単頭双胴神獸鏡・方格規矩鏡・外区素文の内行花文鏡・三角縁神獸鏡が出現し、さらに、単頭双胴神獸鏡の一部を利用した振文鏡や、六花文や七花文の内行花文鏡・珠文鏡が出現したと考えた（森下 1991・1993）。その後、森下は重圏文鏡と珠文鏡は、弥生時代の仿製鏡である「+」字文鏡と関連して生まれた可能性があるとして指摘し、珠文鏡の出現を古くみなした（森下 2002）。

1990年代以降は、発掘の増加によって鏡の出土が増加し、個々の鏡式ごとの研究が進み、従来の製作年代の見直しが行われた。雪野山古墳の報告書において、岸本直文は仿製三角縁神獸鏡の製作は内行花文鏡・方格規矩鏡・鼉龍鏡に遅れ、近畿地方においては前期中葉の新山古墳段階から生産が始まると述べた。桜井茶臼山古墳・下池山古墳・雪野山古墳から出土した内行花文鏡・方格規矩鏡・鼉龍鏡例は、仿製三角縁神獸鏡に先行して列島で製作されたことを示した（岸本 1996）。

清水康二は、古墳時代前期前葉において、内行花文鏡といった小型仿製鏡の製作は、大型の内行花文鏡にみられる単位文様と共通することから、古墳時代初頭より小型内行花文鏡の製作が行われていた可能性があるとして指摘した（清水 1994）。

仿製鏡の意義に関しては、福永伸哉は、4世紀になって舶載三角縁鏡の流入が途絶えるということがおこり、これに対応する形で仿製の三角縁神獸鏡の製作がなされたとして指摘した（福永 1994・2005）。

内行花文鏡の分析を行った今井堯や清水康二は、内行花文鏡の面径と墳丘規模には相関があると指摘した（今井 1992・清水 1994）。

鼉龍鏡の研究を行った車崎正彦は、鼉龍鏡と振文鏡の関係を、時間の経過による退化ではなく、面径の小型化による省略と捉えた。仿製鏡の大小は意図的に作りわけがなされたということを述べ、畿内政権の下で、鏡が作られていたと指摘し、鏡の大小がもつ意味について考えた（車崎 1993）。

福永伸哉は、古墳出土鏡の面径別組成を行い、畿内からの距離の遠さと面径

の小型化が必ずしも一致しないことを指摘し、畿内からの複雑な儀礼管理が行われていたと述べた（福永 1999）。

小型鏡については、今井堯は、重圏文鏡・珠文鏡の出現時期に関しては今井による古墳時代の編年⁽²⁾の前I期に始まるとし、珠文鏡に関しては従来よりもさらに古い段階より小型鏡が存在していたことを示した（今井 1991）。

2000年以降は、林正憲や下垣仁志の研究によって、複数鏡式で共通する文様から仿製鏡の編年がなされ、仿製鏡の全体的な動向が分かるようになってきた。

林正憲は、内行花文鏡・方格規矩鏡・鼉龍鏡の検討を行い、それぞれの鏡式ごとの系列を導き出し、他鏡式との関係を論じた。前方後円墳集成（広瀬 1992）⁽³⁾の3期から仿製鏡の製作が盛んになり、さらに、前方後円墳集成の4期以降はこの3種の鏡が小型化すると指摘した（林 2000）。

下垣仁志は、素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡を除いた古墳時代仿製鏡の検討を行い、古墳時代前期中葉以降、面径の大小によって階層的格差を示すようになると指摘した。また仿製鏡の生産に関しては、それまでは中国鏡の不足によって出現するという指摘が主であったが、下垣は日本列島内での需要の高まりによるものと指摘している。鏡の面径と、古墳の規模と、畿内からの距離によって、鏡の配布が行われたと指摘している（下垣 2003・2011b）。

仿製鏡を全体で論じる際には、大型から中型のものを中心に論じられていることが分かる。

第2節 仿製鏡の生産に関する研究

次に仿製鏡の生産について論じた研究を紹介したい。

近藤喬一は、仿製鏡の製作を三段階でとらえた。まず、第一次仿製鏡を三角縁神獣鏡と考え、第二次仿製鏡は外区に菱形文をもつ方格規矩鏡・鼉龍鏡・四獣鏡・二神四獣鏡・獣帯鏡・家屋文鏡のグループと、内行花文鏡と考えた。第三次仿製鏡は小型鏡である珠文鏡・捩文鏡であるとし、これらの鏡は5世紀代に大型鏡の入手の困難な地域にみられると指摘した。また、5世紀後半から6世紀に鈴鏡が出土すると述べた。製作地に関しては、第一次・第二次仿製鏡が近畿地方で製作されるのに対し、鏡背面の文様から、第三次仿製鏡は、各地で

製作されたと指摘した（近藤 1975）。

小型内行花文鏡について森浩一は、小型内行花文鏡の工人は、弥生時代の鏡作り工人集団であると推測し、工人集団は、必ずしも一地域に集中して居住しておらず、ときにはいくつかの地域に分在し、移住さえも行ったと考えた（森 1970）。

重圏文鏡について藤岡孝司は、重圏文鏡は分布からみると、畿内には少ないが、この点に関しては重圏文鏡を畿内から地方へ流通する目的で作られた鏡ととらえ、製作地に関しては、畿内による製作と指摘している（藤岡 1991）

今井堯は、素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡の分析より小型仿製鏡の分配の中枢は大型・中型仿製鏡と同様であろうと述べている（今井 1991）。

清水康二は、仿製内行花文鏡の詳細な検討から、大型鏡と小型鏡に共通する単位文様の存在を見出した。単位文様が共通する理由として、仿製鏡製作が畿内政権の強い掌握のもとで行われていた結果であると推測した（清水 1994）。

名木二六雄は、小型仿製鏡のうち捩文鏡に関しては、出土地の散在した在り方や背面文様の不統一さから、弥生時代の伝統をもつ工人の手によって作られたと述べた。しかし、内行花文鏡に関してはヤマト政権下における工房があった可能性を認めることははやぶさかではないと述べている（名本 2002）。

近年の論文としては、林正憲の論文があげられる。林は3つの地域における小型仿製鏡における製作技法を比較した結果、小型仿製鏡の製作工人は一つの大きな集団に属していないと指摘し、小型仿製鏡は各地域で独自に活動を行っていたと予測している（林 2005）。

仿製鏡の生産地については、銅鏡の生産工房址や鋳型がまだ出土していないため、未だに研究は進んでいないものの、大型仿製鏡が畿内地域から多く出土することから、畿内地域で生産されたという意見が多い。その一方で素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡などの小型仿製鏡は、地方での出土が多く、文様が簡易であることから、畿内を中心として生産されたのか、地方にて生産されたのか決着がつかない状況である。

第3節 小型仿製鏡の意義に関する研究

次に本論文の中心となる小型仿製鏡の意義について論じた研究について紹

介していく。まずは内行花文鏡について論じているものから紹介したい。原田大六は、内行花文鏡と珠文鏡が出土した月の輪古墳の考察の中で、大型鏡は祭祀において賢木にとりつけられていたのに対し、小型鏡は、司祭者が手にして祭る道具であると推定した。大型鏡には司祭者の権威を誇示するシンボルとなったのに対し、小型鏡は単に祈祷のための道具となったと推定した（原田1960）。

森浩一は、小型内行花文鏡は、弥生時代小型仿製鏡から変遷したと考えた。さらに、小型内行花文鏡を製作する工人が地方にいた可能性をあげ、小型内行花文鏡は各地域における政治的な意味合いでの配布が行われたと推定した。小型内行花文鏡は、中型・大型とは異なる見方が必要とした（森1970）。

田中琢は、4世紀に仿製鏡の製作が突発的に行われ、超大型鏡や大型鏡とともに、中型鏡や直径10cm以下の小型鏡も同時に使用されたと考えた。しかし、5世紀になると、超大型鏡や大型鏡の製作は衰退すると指摘した。一方で、中型鏡や小型鏡は継続して製作され、特に、小型鏡が相対的に増加したと指摘し、仿製鏡のおおまかな変遷を示した（田中1979）。また、こうしたことから仿製鏡の性格について中国鏡と比較し、中国鏡は大型である程度のまとまった大きさをもつことから、化粧具として生活の中で使用されたものであると考えた。仿製鏡に関しては、奈良県柳本大塚古墳出土の内行花文鏡は39.7cm、和歌山県大谷古墳出土の素文鏡は2.6cmと最小のグループに属しており、このあまりに違った大きさの2面が同じ実用の機能を発揮したとは考えられないとした。仿製鏡の面径が極端にまで大きくばらついている事実は、用途が大きさを規定するような日々の生活の中で実用された用具ではなかったと推測した（田中1981）。

小林三郎は、仿製鏡の小型化を政治的意義の欠落であると捉え、大型鏡のもつ政治的意義は小型鏡にはないと考えた。また、重圏文鏡に関しては古墳出土のものとは集落出土のものでは、異なる性格をもつと推測している（小林1982）。

今井堯は、素文鏡・櫛歯文鏡・重圏文鏡・珠文鏡の性格に関しては、鏡の副葬状態が頭位横や頭位周辺、胸部周辺に多く、中・大型鏡と共通していると述べ、小型仿製鏡にも大型仿製鏡と同じ権威のシンボルという役割があったと指摘した。また同時に、月の輪古墳の出土例から、面径によって優劣があること

を示した（今井 1991）。さらに、内行花文鏡の分析を行い、生産の初期段階では、小型の内行花文鏡は、円墳または方墳に副葬され、前方後円墳や前方後方墳には副葬されないことを指摘し、古墳の墳丘と面径には相関があるということを示した（今井 1992）。

清水康二は、仿製内行花文鏡の分類を行い、大型内行花文鏡と小型内行花文鏡とが、同一の古墳で副葬される例が少ないことから、大型鏡をもちうる被葬者と、小型鏡をもちうる被葬者とでは、古墳時代の社会において地位に格段の差があったと考えた。小型鏡を製作することによって、階級の格差を広げることによって使用したとも推測した。そのため積極的に地域生産を示す根拠はないと指摘している（清水 1994）。

小林三郎は、鏡の性格は二つあり、一つは副葬品としての性格、もう一つは集落遺跡あるいは祭祀遺跡における祭器としての性格をもつと述べた。後者は小型で文様を欠く場合が多いので、古墳の副葬鏡とは基本的に異なると想定した（小林 1982）。同様に、高倉洋彰は素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡において 6 cm 以下の小型仿製鏡に関しては、祭祀遺跡からの出土が多くみられることから、古墳副葬以外に、祭祀具としての役割が定着したと推定している（高倉 1995）。

名本二六雄は、小型仿製内行花文鏡は、古くから生産がヤマト政権の元で行われていたと推定した。しかし、その用途に関しては鏡種によって機能差があると述べている。三角縁神獣鏡には、亡き首長を神仙世界へ送り込むための祭祀用の鏡で、内行花文鏡は太陽崇拝の思想をもつ、弥生時代以来の部族・村落にとって不可欠な鏡と指摘し、鏡の機能差について言及した（名本 2002）。

車崎正彦は、古墳と鏡の関係について、古墳の規模と副葬された鏡の大小は必ずしも相関しないという点から、鏡の大小は倭政権と在地首長の関係によって決められていたと述べた。仿製鏡は倭王権によって集中生産され、大小の鏡の作りわけによって在地首長の秩序的な位置づけを明示したと指摘した（車崎 2000）。

林正憲は、小型仿製鏡である素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡の意義を考察した。古墳から出土する珠文鏡が最も大型であり、集落・祭祀遺跡から出土する重圏文鏡と素文鏡がより小型を示すと指摘した。さらに、小型であることについても言及し、小型仿製鏡が地域で個別的に生産されていたために、政治的な規制

が希薄となり、大型化が求められなかったと述べている（林 2005）。

小型仿製鏡がどの程度の政治性をもつのかについては、決着がついていない。

（註）

(1) 「仿製鏡」という用語は、今回取り扱った論文からみると、富岡謙蔵は「仿製古鏡」、小林三郎は「倣製鏡」、今井堯・田中琢・林正憲は「倣鏡」、岸本直文・下垣仁志は「倣製鏡」を用いる。

田尻義了によると、「仿」という文字は現在は常用漢字ではなくなり、現在は「倣」に含まれているが、1955年の『大漢和辞典』（諸橋 1955）に、「仿」という漢字には類似しているという形態的特徴を示しており、「倣」という漢字には似せるという意味をもつとする（田尻 2012）。筆者も古墳時代の仿製鏡は、中国鏡を真似たものだけではなく、新たな文様の導入がなされており真似るという意味合いの強い「倣製鏡」という字はふさわしくないと考える。また「倣製鏡」や「倣鏡」には、中国鏡と類似するという意味を含まないことから、本論文では「仿製鏡」という用語を用いることとした。

(2) 今井 堯 1978 「古墳の様相とその変遷」『日本考古学を学ぶ』Ⅰ、有斐閣、258 - 294 頁。

(3) 広瀬和雄 1992 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』中国四国編、山川出版社、24 - 26 頁。

（引用文献）

今井 堯 1991 「中・四国地方古墳出土素文・重圈文・珠文鏡—小形倣鏡の再検討Ⅰ—」『古代吉備』第13集、古代吉備研究会、1 - 26 頁。

今井 堯 1992 「小形倣鏡の再検討Ⅱ」『古代吉備』第14集 古代吉備研究会、121 - 154 頁。

岸本直文 1996 「雪野山古墳副葬鏡群の諸問題」『雪野山古墳の研究 考察篇』八日市市教育委員会、83 - 106 頁。

車崎正彦 1993 「龍鏡考」『翔古論聚—久保哲三先生追悼論文集』久保哲三先生追悼論文集刊行会、130 - 163 頁。

車崎正彦 2000 「古墳祭祀と祖霊観念」『考古学研究』第47巻第2号 考古学研究会、29 - 48 頁。

後藤守一 1926 『漢式鏡』雄山閣。

小林三郎 1979 「古墳時代初期倣製鏡の一側面—重圈文鏡と珠文鏡—」『駿台史学』46 明治大学史学地理学会、78 - 96 頁。

- 小林三郎 1982 「古墳時代倣製鏡の鏡式について」『明治大学人文科学研究所紀要』第21冊
明治大学、89 - 166 頁。
- 小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。
- 小林行雄 1961 『古墳時代の研究』、青木書店。
- 近藤喬一 1975 「鏡」『古代史発掘』第6巻、講談社、72 - 77 頁。
- 清水康二 1994 「倣製内行花文鏡類の編年—倣製鏡の基礎的研究 I —」『橿原考古学研究所論
集』第11、吉川弘文館、447 - 503 頁。
- 下垣仁志 2003 「古墳時代前期倣製鏡の流通」『古文化談叢』第50集(上)、九州古文化研究会、
7 - 35 頁。
- 下垣仁志 2011a 『倣製鏡一覽』立命館大学考古学資料集第4冊、立命館大学考古学論集刊行会。
- 下垣仁志 2011b 『古墳時代の王権構造』吉川弘文館。
- 高倉洋彰 1995 「弥生時代小型倣製鏡の儀鏡化について」『居石遺跡』高松市教育委員会、
1995、147 - 163 頁。
- 高橋健自 1908 「本邦鏡鑑沿革考」『考古界』7編第1号、6 - 18 頁。
- 田中 琢 1979 『日本の原始美術』8、講談社。
- 田中 琢 1981 『日本の美術3 - No. 178 古鏡』至文堂。
- 富岡健蔵 1920 『古鏡の研究』丸善株式会社。
- 名本二六雄 2002 「宇和・長作森古墳の小型倣製内行花文鏡の意義」『犬飼徹夫先生古稀記念
論集 四国とその周辺の考古学』犬飼徹夫先生古稀記念論集刊行会、499 - 511 頁。
- 原田大六 1960 「鏡について」『月の輪古墳』月の輪古墳刊行会・柵原町教育委員会、310 -
326 頁。
- 林 正憲 2000 「古墳時代前期における倣鏡の製作」『考古学雑誌』85 - 4、日本考古学会、
76 - 102 頁。
- 林 正憲 2005 「小形倣鏡の系譜と社会的意義」『待兼山考古学論集—都出比呂志先生退官記
念—』大阪大学考古学研究室、267 - 290 頁。
- 樋口隆康 1979 『古鏡』新潮社。
- 広瀬和夫 1992 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』近畿編、山川出版社。
- 福永伸哉 1994 「倣製三角縁神獸鏡の編年と製作背景」『考古学雑誌』78 - 1、日本考古学会、
47 - 72 頁。
- 福永伸哉 1999 「古墳の出現と中央政権の儀礼管理」『考古学研究』46 - 2、考古学研究会。
- 福永伸哉 2005 『三角縁神獸鏡の研究』大阪大学出版会。

- 藤岡孝司 1991 「重圏文鏡（仿製）鏡小考－3～4世紀における－小形仿製鏡の様相－」『君津郡市文化財センター研究紀要V－設立10年記念論集－』財団法人君津郡市文化財センター、57－75頁。
- 三宅米吉 1894 「古鏡」『考古学会雑誌』第5号、考古学会、216－223頁。
- 森 浩一 1970 「古墳出土の内行花文鏡の再吟味」『日本古文化論攻』吉川弘文館、259－284頁。
- 森下章司 1991 「古墳時代仿製鏡の変遷のその特質」『史林』第74巻第6号、史学研究会、1－43頁。
- 森下章司 1993 「仿製鏡の変遷」『季刊考古学』43、雄山閣出版、64－67頁。
- 森下章司 2002 「古墳時代倭鏡」『考古資料大観』第5巻、弥生・古墳時代 鏡、小学館、305－316頁。
- 諸橋轍次 1955 『大漢和辞典』大修館書店。

第2章 素文鏡の研究

はじめに

素文鏡はその名称が示すように鏡背面に文様のない鏡であり、本研究では弥生時代後期後半から古墳時代出土のものを対象とした。これまで素文鏡は非常に小型であり粗雑な作りをするものが多いことから、素文鏡のみで研究されることは少なかった。本研究では実見・観察を多く行うことにより、さらに詳細に素文鏡の分類を行うことができると考える。また出土遺構を検討することで、素文鏡の性格についても論じたい。

第1節 素文鏡の研究史

素文鏡の研究をみると、祖形と分類の検討が行われている。それぞれの研究について整理する。

(1) 祖形に関する研究

高倉洋彰は6 cm以下の素文鏡・櫛歯文鏡・重圏文鏡・珠文鏡を検討対象とし、小型仿製鏡の儀鏡化について論じている。弥生時代小型仿製鏡である幅広の平縁の内側に直行櫛歯文・円圏・文様帯（珠の文+「十」字形に変化した擬銘帯）を配する重圏文日光鏡系仿製鏡第Ⅲ型b類から重圏文鏡・珠文鏡が派生し、さらに文様の簡略化が進み、櫛歯文鏡や無文となった素文鏡が出現すると指摘した（高倉 1995・1999）。

林正憲は京都府木津城山遺跡出土素文鏡（伊野・戸原・伊賀・筒井編 2003）の年代を弥生時代後期前葉とし、素文鏡は重圏文鏡・珠文鏡よりも早く出現することを指摘している⁽¹⁾。製作地については石川県出土重圏文鏡2面、兵庫県藤江別所遺跡出土素文鏡・櫛歯文鏡・重圏文鏡・珠文鏡、鳥取県長瀬高浜遺跡出土素文鏡を取り上げ、製作方法がそれぞれの地域で異なる特徴をもつことから、各地域において製作されたと指摘する（林 2005）。

(2) 素文鏡の分類に関する研究

古墳時代の素文鏡の分類を行った研究は非常に少ない。今平利幸の研究、今井堯の研究のみである。今平は栃木県茂原古墳群の報告で素文鏡を検討した。素文鏡の鈕を「A類 太い鈕、B類 扁平な鈕」と細分し、縁を「I類 三角縁もしくはそれに近いもの、II類 平縁もしくはそれに近いもの」と細分し、さらに鈕と縁を組み合わせて素文鏡の分類をしている。扁平な鈕を有する素文鏡については古墳時代前期～中期の鳥取県長瀬高浜遺跡出土鏡が最も古い例と指摘している。その後、扁平な鈕をもつものが増加し、奈良時代の段階で太い鈕で三角縁もしくはそれに近いものとなる「唐式鏡」が出現すると述べている（今平 1990）。今井堯は中・四国地方の小型仿製鏡の研究を行い、その中で素文鏡の分類を行っている。完全に無文のものを素文鏡1類、内区無文のものを素文鏡2類とした（今井 1991）。

小野本敦は古代の素文鏡を中心に考察している。鈕孔を錐状の工具であけるものをA類、鑄型に中子を設置するものをB類としている。A類は鈕や鏡面の形状に基づいてA1式～A4式に細分している。A1式・A2式は鈕と鏡体を一体で製作し、A3式・A4式は鈕と鏡体を別々に製作し、A3式は接着、A4式は挿しこみで接合させると述べる。古墳時代の素文鏡には、古代の素文鏡とは製作方法が異なることから、直接的な繋がりがないと推測している（小野本 2013）。しかしながら、小野本は古墳時代の素文鏡についての分類はしておらず、詳細な検討が必要と考える。

（3）素文鏡の意義に関する研究

素文鏡の意義については、近藤滋・高倉洋彰・林正憲・今井堯・小野本敦の研究がある。

近藤滋は、鳥取県長瀬高浜遺跡の報告で素文鏡の検討を行い、素文鏡のみで出土する事例には祭祀遺跡からの出土が多いと指摘する。さらに奈良時代の石川県寺家遺跡や福井県松浜客館跡遺跡からも素文鏡および小型鉄鏡が出土することから、素文鏡を使った祭祀形態が古墳時代のものを引き継ぐ可能性を指摘する。また、この2遺跡は日本海沿岸の砂丘部に遺跡が立地する共通点から海への祭祀の可能性を指摘する（近藤 1980）。高倉洋彰は弥生時代小型仿製鏡がこれらの小型仿製鏡へと変化する過程について論じた。大阪以東に分布する弥生時代小型仿製鏡の多くは包含層もしくは住居跡からの出土で墳墓に副葬さ

れないという共通項をもつことから、素文鏡・櫛歯文鏡・重圏文鏡・珠文鏡といった儀鏡の性格は弥生時代から引き継がれるとし、古墳時代に入ると古墳副葬鏡とは別の祭祀具としての性格をもつ鏡として定着したと指摘している（高倉 1995）。林正憲は素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡の検討を行い、これらは各地域にて生産されたことを想定し、政治的要素が極めて低い青銅鏡であると述べている（林 2005）。

今井堯は、素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡の副葬位置をみると頭位横をはじめとして、頭位周辺ないし胸部周辺が圧倒的多数であると指摘し、これは中国鏡や大型・中型仿製鏡とも同様の傾向であることから、小型仿製鏡の中の極小鏡もランクの低さは別として、権威のシンボルとして副葬されたものであると指摘している（今井 1991）。

以上をまとめると、素文鏡の大部分は集落・祭祀遺跡で出土することから、大型鏡と比べ政治的役割は低かったという指摘（林 2005）や、古墳副葬鏡とは別の祭祀具としての役割をもつという見方もある（高倉 1995）。古墳からの出土から、権威のシンボルであったとも述べられており（今井 1991）、素文鏡の意義については様々な意見がある。本稿では分類ごとの出土遺跡の傾向などについて具体的に検討することが重要と考える。

小野本敦は古墳時代の素文鏡の特質について論じており、前期は集落内からの出土例が多く、中期以降になると集落から離れた祭祀遺跡からの出土割合が増加すると述べた。さらに中期の遺跡には福岡県沖ノ島遺跡もていみられると述べる。中期になると素文鏡の出土する場所に変化があり、時期差による遺跡の違いがあるのではないかと指摘する（小野本 2013）。

第2節 素文鏡の分類と編年

（1）分類方法（第1図）

素文鏡と報告されているものの中には、内区の鋳あがりが悪く文様が認識できないものも含まれている。今回、素文鏡として含めていない事例の一つとして宮崎県蓮ヶ池 52 号横穴墓例（宮崎県総合博物館編 1987）をあげることができる。この鏡は内区の幅が広いことを考慮すると、本来は何らかの文様が内区にあったと推測できる。本例のように、特に内区の広いものについては、内区

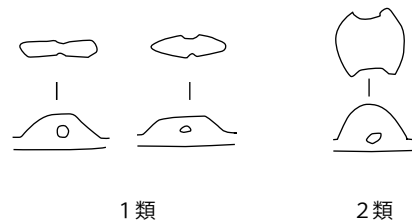
に文様があった可能性が考えられるため、今回は分析対象に含めていない。形状を確認できた64面について検討を行うものとする⁽²⁾（第3表参照）。

本章では、鈕の形状、縁の形状、外区の有無から分類を行った(第1図)。鈕は、鼻鈕と円鈕に分かれる。鼻鈕(第1図1類)は断面が台形を呈し、横幅は狭い。円鈕(第1図2類)は断面が半円球であり、平面形態は円形である。縁と外区の形態をみると、外区はなく平縁のもの(第1図A類)、外区があり平縁のもの(第1図B類)、外区はなく、縁は蒲鉾状や三角縁状に突出するもの(第1図C類)がある。

鈕の形状

1類 鼻鈕

2類 円鈕

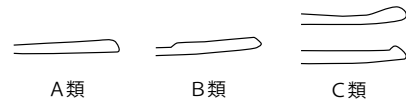


外区と縁

A類 外区はなく、平縁のもの

B類 外区があり、平縁のもの

C類 外区はなく、縁は蒲鉾状や三角縁状に突出するもの



第1図 分類の基準

鈕の形状と外区と縁の分類の組み合わせを第1表に示している。組み合わせで確認できたものは1 A類・1 C類・2 A類・2 B類の4類である。

第1表 分類の対応関係

鈕の形状 外区の縁	1類	2類
A類	21	15
B類	0	3
C類	6	0

(2) 素文鏡の資料紹介

1 福岡県宗像市沖ノ島21号遺跡

沖ノ島21号遺跡は沖ノ島で行われた岩上祭祀であり、舶載獣帯鏡1・鼉龍鏡1・重圈文鏡1・格子目文鏡2・素文鏡1以外に、硬玉製勾玉・琥珀製勾玉・碧玉製勾玉・滑石製勾玉・硬玉製管玉・碧玉製管玉・滑石製管玉・ガラス製小玉・滑石製白玉多数・滑石製棗玉・滑石製子持勾玉・銅釧・鉄釧・鉄劍・鉄刀・石突・鉄鏃・蕨手刀子・鉄製刀子・鉄鎌・鉄鉈・鉄斧・鉄鋌・衝角付冑・雛形鉄刀・雛形鑿形品・雛形斧・鉄製有孔円板・鉄環・滑石製有孔円板・土師器が出土する。中I期である。素文鏡の面径は3.0cmであり、分類は1 A類である。

2 福岡県宗像市沖ノ島16号遺跡

沖ノ島 16 号遺跡は沖ノ島の祭祀遺跡であり、多くの祭祀遺物が出土している。岩上祭祀であり、鉄剣・鉄刀・雛形鉄刀・鉄斧・鍬板・鞍・雲珠・轡・香炉状品・織機・滑石製白玉・滑石製大型平玉・滑石製無孔平玉・滑石製大円孔平玉・滑石製子持勾玉・滑石製人形・滑石製馬形・滑石製船形・銅盤・壺・土器が出土しており、時期は前Ⅳ期～中Ⅰ期である。素文鏡は面径 3.0 cm である。分類は 1 A 類である。

3 愛媛県今治市高橋仏師 2 号墳（第 2 図 6、第 11 図①）

高橋仏師 2 号墳は、径 9.5 × 8.0 m の円墳で、横穴式石室内から素文鏡が 1 面が出土した。そのほかの副葬品には須恵器・鉄刀子・鉄鏃・馬具・瑪瑙製勾玉・水晶製勾玉・碧玉製管玉・水晶製丸玉・滑石製白玉・ガラス丸玉・ガラス小玉がある。時期は須恵器から判断すると後Ⅱ期～後Ⅲ期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は全体的に淡緑色である。面径 2.7 cm、重量 5 g、縁厚 0.10 ～ 0.14 cm、鈕孔約 0.15 mm である。反りは弱い。鈕の位置や鈕孔は中心よりも上部に位置しており、垂下を想定して、鈕の位置をずらしている可能性も考えられる。分類は 1 A 類である。

4 香川県高松市居石遺跡（第 4 図 12、第 11 図②）

居石遺跡は高松平野に位置する。珠文鏡 1 面・重圏文鏡 1 面・素文鏡 1 面が、幅 25 m、深さ 2 m の規模をもつ自然河川の川底より検出された。北から、珠文鏡・重圏文鏡・素文鏡の順に 0.5 m ほどの間隔で配置されており、水に関する祭祀に用いられたと考えられている。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

素文鏡の実見・観察を行った。全体的に褐色で、面径 2.8 cm、重量 4 g、縁厚 0.9 ～ 1.1 cm、鈕孔幅 0.2 cm である。分類は 2 A 類である。

5 鳥取県米子市博労町遺跡（第 4 図 14、第 11 図③）

博労町遺跡は集落遺跡であり、包含層からの出土であるため、時期は判断できない。

素文鏡の実見・観察を行った。全体的に緑色を呈する。面径 3.2 cm、重量 8 g、縁厚は 0.2 cm、鈕幅 0.9 cm、鈕高 0.5 cm、鈕孔幅 0.2 cm、鈕孔高 0.1 cm である。鈕の位置は第 4 図 14 をみると、やや下に位置している。鏡面は反りがみられる。分類は 2 A 類である。

6 鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡 4 区 1 層

青谷上寺地遺跡は勝部川から伸びる三角州の先端部に位置する弥生時代中期

から古墳時代の遺跡である。素文鏡は包含層からの出土であり、詳細な時期は判断できない。素文鏡は面径 2.3 cm である。分類は 2 A 類である。

7 鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡 6 区 1 層 (第 4 図 15、第 11 図④)

青谷上寺地遺跡は勝部川から伸びる三角州の先端部に位置する弥生時代前期から古墳時代前期の集落遺跡である。素文鏡は包含層からの出土である。弥生時代後期後半と報告されている。

素文鏡の実見・観察を行った。面径 3.4 cm、重量 5 g、縁厚は 0.1 cm、鈕幅 0.7 cm、鈕高 0.4 cm、鈕孔幅 0.2 cm、鈕孔高 1.5 cm である。鈕の位置はほぼ中央である。鏡背面には鈕から放射状に研磨の痕跡もみられる。鏡面は反りがみられる。分類は 2 A 類である。

8 鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡 (第 2 図 12、第 11 図⑤)

青谷上寺地遺跡は勝部川から伸びる三角州の先端部に位置する弥生時代前期から古墳時代前期の集落遺跡である。中国鏡は星雲文鏡 1・八禽鏡 2、仿製鏡は内行花文鏡 1・仿製鏡 1・素文鏡 3・重圈文鏡 1⁽¹⁾ の計 9 面出土している。扁平な鈕をもつ素文鏡は多量の土器・石器・鉄器・青銅器・木器などを出土した溝 S D 38-2 から出土した。時期は、弥生時代後期初頭～後葉である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡全体的に銅質は良く白銅色を呈する。面径は 4.9 cm、重量 19 g、縁厚 0.25 cm、鈕孔幅 0.25 cm、鈕孔高 0.20 cm である。全体的に銅質は良く白銅色を呈する。鏡背面の研磨はあまり行われておらず、鑄肌の状況が観察できる。鑄造時の鑄型に設置する中子の痕跡がみられる。分類は 1 A 類である。

9 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡 10-I 地区 (第 2 図 2、第 12 図⑤)

長瀬高浜遺跡からは 8 面の素文鏡が出土している。3 面は扁平な鼻鈕であり、分類は 1 A 類である。残りの 5 面は円鈕であり、2 A 類である。10-I 地区出土の素文鏡は、表面採集であり、時期は不明である。

素文鏡の実見・観察を行った。面径 2.2 cm、重量 2 g、縁幅 0.15 cm、鈕幅 0.6 cm、鈕高 0.4 cm、鈕孔幅 0.1 cm、鈕孔高 0.1 cm である。比較的銅質がよく、錆のない部分は、白銀色を呈する。分類は 2 A 類である。

10 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡 13 E・II d 地区 (第 2 図 1、第 12 図⑥)

長瀬高浜遺跡は集落遺跡であり、グリッドの掘り下げ中に素文鏡が出土している。時期は不明である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は不整円形を呈し、色調は黒色である。面径 1.9 cm、重さ 2 g、縁厚 0.15 cm、鈕幅 0.5 cm、鈕孔幅 0.1 cm である。全体的に研磨されているものの、粗い研磨である。鈕の上下のみに明瞭な研磨痕が確認できる。なお、鈕は欠損している。分類は 1 A 類である。

11 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡 S I 100 (第 2 図 3、第 12 図④)

長瀬高浜遺跡は集落遺跡であり、素文鏡・勾玉・管玉・ガラス小玉・釣針・鉄鏃・砥石・磨石・敲石・土師器・板状鉄製品・棒状鉄製品・舌状鉄製品・軽石・線刻石が出土している。時期は前 V 期～前 VII 期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は黒色を呈する。面径 2.6 cm、重量 2 g、縁厚 0.15 cm、鈕幅 0.7 cm、鈕孔幅 0.1 cm である。鈕は欠損している。鏡背面には研磨がみられない。分類は 1 A 類である。

12 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡 S I 138 (第 4 図 4、第 12 図①)

長瀬高浜遺跡は集落遺跡であり、素文鏡が出土している。ほかには鉄鉈・刀子・鉄鏃・土師器・土玉・板状鉄製品・針状鉄製品が出土している。土師器の年代から、時期は前 I 期～前 II 期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は一部褐色である。面径 3.2 cm、重量 8 g、縁厚 0.16～0.24 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.2 cm である。面径に対して鏡体に厚みがある。鈕沿いに、欠損もしくは、鑄造時の湯廻り不良による 0.2 cm 程度の孔がある。分類は 2 A 類である。

13 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡 16 L S K 01 (第 12 図②)

長瀬高浜遺跡は集落遺跡である。素文鏡 1・鉄剣・土師器が出土している。時期は前 V 期～前 VI 期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は正円に近く、白銅質を呈する。素文鏡の面径は 3.0 cm、重量 5 g、縁厚 0.12～0.16 cm である。分類は 2 A 類である。

14 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡 15 I S P 01 (第 4 図 1・第 11 図⑥)

長瀬高浜遺跡は祭祀遺跡の建物跡から素文鏡 1 が出土している。時期は前 I 期～前 II 期である。ほかにはガラス小玉・剣先形鉄製品・小銅鐸・銅剣・石製模造品(鏡・有孔円板)・土師器・土鈴が出土している。櫛歯文鏡・仿製内行花文鏡が共伴する。

素文鏡の実見・観察を行った。面径は 2.4 cm、重量 4 g、縁厚 0.11～0.18 cm、鈕孔径約 0.1 cm である。縁に研磨痕がみられる。鏡背面に明瞭な研磨痕は

みられない。素文鏡は2 A類である。

15 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡 15 I S P 01 (第4図2、第12図③)

長瀬高浜遺跡は祭祀遺構の建物跡から素文鏡1が出土している。時期は前I期～前II期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は面径2.6 cm、重量4 g、縁厚0.13～0.16 cm、鈕孔径0.1 cmであり、鈕は垂下状況での中央より上に位置している。分類は2 A類である。

16 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡 15 I S P 01 (第4図3、第11図⑦)

長瀬高浜遺跡では祭祀遺構の建物跡から素文鏡1が出土している。時期は前I期～前II期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は白銅質で、正円を呈する。面径2.7 cm、重量5 g、縁厚0.12～0.17 cm、鈕孔径約0.1 cmである。縁には明瞭な研磨痕がみられる。分類は2 A類である。

17 広島県福山市石鎚権現7号墳 (第4図10、第12図⑦)

石鎚権現7号墳は辺長7 mの方墳であり、土坑内より素文鏡1が出土した。時期は前V期～中I期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は褐色の錆に覆われており、銅質はやや悪い。面径2.6 cm、重量3 g、縁厚0.11～0.13 cm、鈕孔径0.15 mm程度である。分類は2 A類である。

18 岡山県真庭市下湯原B遺跡 (第3図4・第12図⑧)

下湯原B遺跡は集落遺跡の竪穴住居跡から、素文鏡1・土製模造鏡・須恵器・土師器が出土している。須恵器から判断すると、時期は後III期～後IV期に相当する。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡の鏡体は一部は欠損しており、鏡背面に研磨はみられない。面径4.2 cm、現重量9 g、縁厚は0.24～0.28 cm、鈕孔径は0.1 cm程度である。縁は蒲鉾状であり、分類は1 C類である。

19 岡山県岡山市百間川沢田遺跡

百間川沢田遺跡は集落遺跡であり、竪穴住居から、素文鏡1・土師器・滑石製白玉が出土している。前I期～前II期である。分類は2 A類であり、面径は3.0 cmである。

20 兵庫県明石市藤江別所遺跡 (第5図3、第13図①)

藤江別所遺跡は祭祀を行った井戸から素文鏡2が出土している。井戸からは、ほかにも車輪石・滑石製勾玉・土師器・櫛歯文鏡3・重圏文鏡1・珠文鏡2が出土している。時期は前Ⅱ期～前Ⅳ期である。

素文鏡の実見・観察を行った。面径3.8～4.0 cm、重量14 g、縁厚0.12～0.17 cm、素縁幅1.1 cm、鈕孔幅0.2 cmである。外区が作られており、分類は2 B類である。

21 兵庫県明石市藤江別所遺跡（第4図9、第12図⑨）

藤江別所遺跡は祭祀を行った井戸から素文鏡2が出土している。井戸からは、ほかにも車輪石・滑石製勾玉・土師器・櫛歯文鏡3・重圏文鏡1・珠文鏡2が出土している。時期は前Ⅱ期～前Ⅳ期である。

素文鏡の実見・観察を行った。面径2.5～2.6 cm、重量6 g、縁厚0.10～0.15 cm、鈕孔径0.1 cmである。分類は2 A類である。

22 兵庫県あわじ市木戸原遺跡（第2図4、第13図②）

木戸原遺跡は集落遺跡であり、総柱建物の柵列に関する遺構から素文鏡1が出土した。総柱建物に伴うものには白玉がある。時期は中Ⅰ期である。

素文鏡の実見・観察を行った。鏡体は不整な円形を呈し、銅質はあまり良くない。鏡面はわずかに反りがみられる。面径2.2～2.3 cm、重量2 g、縁厚0.1 cm以下である。鈕の上面は欠損している。分類は1 A類である。

23 兵庫県豊岡市太田谷遺跡

太田谷遺跡は古墳と考えられており、素文鏡・珠文鏡・水晶製切子玉がみられる。時期は後期である。素文鏡は面径3.2 cmであり、分類は2 A類である。

24 兵庫県姫路市長越遺跡

長越遺跡は集落における大溝の祭祀遺跡と考えられている。時期は前Ⅴ期～中Ⅱ期である。銅鏃・滑石製有孔円板・滑石製剣形品・滑石製勾玉・滑石製管玉・滑石製小玉が出土している。素文鏡は面径3.7 cmであり、分類1 A類である。

25 兵庫県神埼郡香町柏尾古墳

柏尾古墳の規模は13 mと報告される。珠文鏡1・鉄刀・鉄鏃・仿製内行花文鏡1面が出土している。時期は前期～中期である。

素文鏡は面径3.4 cmである。分類は2 A類である。

26 大阪府八尾市久宝寺遺跡（第4図8、第13図③）

久宝寺遺跡は集落遺跡の竪穴住居から素文鏡1が出土している。当遺跡の隣

の竪穴住居からは重圈文鏡1面が出土している。詳細な時期の判断はできないが、前期に収まるものと考えられる。

素文鏡の実見・観察を行った。色調は黒褐色を呈し、面径2.5 cm、重量4 g、縁厚0.08 cm～0.1 cm、鈕孔幅約0.15 cm、鈕孔高0.1 cmである。分類は2 A類である。

27 大阪府東大阪市西ノ辻遺跡（第2図5）

西ノ辻遺跡は弥生時代から室町時代にわたる複合遺跡であり、素文鏡は谷筋を利用した水利施設より出土している。素文鏡の出土した層内からは須恵器・土師器が出土しており、時期は前V期～中II期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は面径2.5 cm、重量4 g、縁厚0.11～0.12 cmである。鈕孔は0.1 cm以下であり極小である。素文鏡は不整円形を呈しており、鏡面と鏡背面や、鈕の側面ともに粗い研磨が認められる。鈕孔付近の鏡背面には中子を設置した痕跡が認められる。分類は1 A類である。

28 和歌山県和歌山市大谷古墳（報告書番号Mc 35、第3図3、第13図④）

大谷古墳は墳長70 mの前方後円墳であり、石棺内から素文鏡8～9面と素文の鈴鏡5面が出土しており、合計13～14面の鏡が存在していたと報告されている。ほかにも衝角付冑・短甲・桂甲小札・鉄刀・鉄剣・鉄鋒・鉄鏃・鉄鋤・鉄鎌・鉄手鎌・鉄鉈・鉄刀子・鉄鑿・ガラス勾玉・碧玉管玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・ガラス棗玉・滑石玉・滑石有孔方板・垂飾付耳飾・四葉形飾金具・金銅板金具破片・銅鈴・馬冑・馬甲・金銅製鞍・鞍・輪鐙・壺鐙・鏡板付轡・鈴付杏葉・雲珠・辻金具・鉸具・馬鈴・面繫付金具・木箱・須恵器片・埴輪などが出土している。時期は後I期であり、当遺跡の直下には楠見遺跡があり、陶質土器も出土しており、朝鮮半島との関係の窺われる地域である。素文鏡のうち7面の観察を行った。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は面径3.4 cm、重量4 g、縁厚0.2 cm、鈕孔約0.1 cm、反りは0.1 cmである。鈕の上方に鑄張りがみられる。縁はわずかに突出しており、分類は1 C類である。

29 和歌山県和歌山市大谷古墳（報告書番号Mc 4、第3図2、第13図⑤）

大谷古墳は石棺内から素文鏡8～9面と素文鈴鏡5面が出土している。素文鏡のうち実見・観察を行った7面中の1面について紹介する。

素文鏡の面径は約3.1 cm、重量4 g、反りは0.2 cm、縁厚は0.15～0.23

cmである。縁はわずかに突出している。鈕孔は約0.1 cmである。縁はわずかに突出しており、分類は1 C類である。

30 和歌山県和歌山市大谷古墳（報告書番号なし、第3図1、第13図⑦）

大谷古墳は石棺内から素文鏡8～9面と素文鈴鏡5面が出土している。素文鏡のうち実見・観察を行った7面中の1面について紹介する。

素文鏡の鏡体は4分の1ほど欠損しており、鈕にも欠損が及ぶ。素文鏡は面径2.9～3.0 cm、重量4 g、縁厚0.12 cm、反りは0.15 cmである。鏡面は丁寧な研磨がなされている。分類は1 C類である。

31 和歌山県和歌山市大谷古墳（報告書番号Mc2、第2図9、第13図⑥）

大谷古墳は石棺内から素文鏡8～9面と素文鈴鏡5面が出土している。素文鏡のうち実見・観察を行った7面中の1面について紹介する。

素文鏡の鈕の上面は欠損する。鏡体も一部欠損する。面径3.0～3.1 cm、重量3 g、縁厚0.15 cmである。分類は1 A類である。

32 和歌山県和歌山市大谷古墳（報告書番号Mc1、第2図7、第13図⑧）

大谷古墳は石棺内から素文鏡8～9面と素文鈴鏡5面が出土している。素文鏡のうち実見・観察を行った7面中の1面について紹介する。

素文鏡は面径2.6 cm、重量3 g、縁厚0.09～0.12 cm、鈕孔0.1 cm弱、反り0.1 cm強である。鈕の上面は研磨痕がみられるという特徴がある。分類は1 A類である。

33 和歌山県和歌山市大谷古墳（報告書番号なし、第2図8、第13図⑨）

大谷古墳は石棺内から素文鏡8～9面と素文鈴鏡5面が出土している。素文鏡のうち実見・観察を行った7面中の1面について紹介する。

素文鏡は面径2.6 cm、重量1 g、縁厚0.09～0.1 cm、反りは0.1 cm、鈕孔約0.1 cmである。分類は1 A類である。

34 和歌山県和歌山市大谷古墳（報告書番号なし）。

大谷古墳は石棺内から素文鏡8～9面と素文鈴鏡5面が出土している。素文鏡のうち実見・観察を行った7面中の1面について紹介する。

素文鏡は破片のため、分類はできない。

35・36・37 奈良県橿原市曾我遺跡

曾我遺跡は集落遺跡内にある沼状遺構から素文鏡3面が出土している。ほかにも玉作りに関する遺物が大量に出土している。時期は中Ⅱ期～中Ⅲ期である。

3面の素文鏡は面径1.2～2.6cmと報告されている。分類は全て1A類である。

38・39 奈良県桜井市山ノ神遺跡

山ノ神遺跡は奈良県三輪山の岩場で行われた祭祀であり、子持勾玉・石製模造品・土製模造品・土師器・須恵器・素文鏡2が出土している。時期は前V期～中IV期である。

素文鏡は共に面径3cm内外であると報告されている。分類はいずれも1A類である。

40 滋賀県草津市北萱遺跡（第4図6）

北萱遺跡は集落の包含層から素文鏡が出土している。詳細は不明である。素文鏡の面径は2.4cmであり、分類は2A類である。

41 滋賀県米原市高溝遺跡

高溝遺跡は集落の大溝から素文鏡が出土している。その他には重圏文鏡1・銅鏃・土師器・ミニチュア土器が出土しており、大溝で祭祀行為が行われたと考えられる。時期は土師器から前III期～前IV期と判断している。素文鏡は面径3.3cmであり、分類は2A類である。

42 滋賀県守山市下長遺跡SD-5（第5図1、第14図②）

下長遺跡は集落遺跡の溝から素文鏡が出土している。他にも珠文鏡・須恵器・土師器・木器が出土している。須恵器・土師器から中II期～中IV期と判断した。

素文鏡の実見・観察を行った。面径は3.7cm、重量12g、縁厚0.15～0.18cm、鈕孔幅約0.2cm・鈕孔高0.15cm、縁幅0.3cmである。鍔がいちじるしい。鏡は一部金銅色を呈している。外区をもっており、分類は2B類である。

43 滋賀県守山市下長遺跡土坑SK-1（第4図11、第14図①）

下長遺跡は祭祀遺跡であり土坑から素文鏡・土師器が出土している。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡の面径2.6cm、重量4g、鈕孔径約0.1cmである。鍔と砂が付着している。分類は2A類である。

44 滋賀県守山市伊勢（大洲）遺跡

伊勢遺跡は祭祀遺跡であり10×13cmの土坑から素文鏡1・勾玉・管玉・ガラス小玉・鈎針・鉄鏃・砥石・磨石が出土している。

素文鏡の実見・観察を行った。面径3.0cmである。分類2A類である。鏡は破砕された状況で出土したと報告される。鏡は破砕された状態であり、実測不

可能であった。

45 静岡県下田市洗田遺跡

洗田遺跡は、三倉山の山麓に位置する祭祀遺跡である。石製模造品の有孔円板・勾玉・剣形・白玉・管玉、土製模造鏡・勾玉・丸玉・管玉・円板・手捏ね土器・須恵器・土師器・鉄器片・珠文鏡1・素文鏡1が出土している。時期は中期～後期である。

素文鏡の面径は4.3 cmである。縁は突出しており、分類は1 C類である。

46～50 静岡県熱海市宮脇遺跡

宮脇遺跡は多賀神社に位置する祭祀遺跡である。その本殿の背後からは多くの祭祀遺物が出土している。巨石の下からは土師器や変形六獣鏡・素文鏡などが出土している。また、ご神木の根株の間からも素文鏡や鉄製鋏破片・手捏ね土器などを出土し、滑石製の有孔円板や須恵器も採集されている。遺跡の北側に神奈備型の向山があり、祭祀の対象と考えられている。素文鏡5・変形六獣鏡1・石製模造品・土馬・土製模造品・手捏ね土器が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅳ期である。

素文鏡は面径はそれぞれ3.3 cm・3.5 cm・4.3 cm・4.5 cm・5.0 cmである。縁は突出しており、分類はすべて1 C類となる。

51 福井県敦賀市立洞2号墳

立洞2号墳は墳長20 mの帆立貝形古墳で、素文鏡1・竹櫛・石釧・凝灰岩質頁岩製管玉・ガラス小玉・鉄剣・鉄斧が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

素文鏡は面径4.2 cmである。外区をもっており、分類は2 B類である。

52 東京都足立区伊興遺跡（第4図5、第14図③）

伊興遺跡は集落内の住居から素文鏡1・白玉12・土師器が出土している。土師器から判断すると、年代は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は面径2.1 cm、重量3 g、縁厚0.06～0.11 cm、鈕孔径0.2 cmである。銅質は良好である。分類は2 A類である。

53 千葉県市原市草刈遺跡六之台遺跡（第14図⑤）

草刈遺跡六之台遺跡は集落遺跡であり、住居から素文鏡1・土師器が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

素文鏡の実見・実測を行った。素文鏡は面径2.8 cm、重量6 gである。銅質

はやや悪く、色調は緑褐色である。分類は2 A類である。

54 千葉県市原市草刈遺跡 L 区 037 号住居 (第 14 図④)

草刈遺跡は集落の堅穴住居から素文鏡 1・土師器が出土している。時期は前 V 期～前 VI 期である。

素文鏡の実見・観察を行った。素文鏡は面径 1.9 cm、重量 3 g である。鏡背面には赤色顔料の付着がみられる。分類は 2 A 類である。

55 千葉県市原市辺田 1 号墳 (根田 6 号墳) (第 4 図 13、第 14 図⑥)

辺田 1 号墳は径 31 m の円墳で第 2 主体部から素文鏡 1 が出土している。ほかには管玉・鉄鉈・素環頭大刀・大刀・鉄短剣・鉄槍が出土している。時期は前 III 期～前 V 期である。

素文鏡の実見・実測を行った。素文鏡は面径 2.9 cm～3.0 cm、重量 5 g、縁厚 0.12～0.14 cm、鈕孔径 0.1 cm 弱である。緑錆に覆われている。分類は 2 A 類である。

56 群馬県富岡市久保遺跡 (第 2 図 14、第 15 図①)

久保遺跡では径約 12 m、高さ 1 m の土壇の表面上に礫を葺いた施設が検出された。素文鏡 2・子持勾玉・石製模造品 (有孔円板・玉・白玉・剣・鉄刀子・鏃・甲冑)・水晶製切子玉・泥岩製管玉・硬玉製平玉・ガラス小玉・須恵器・土師器・手捏ね土器がある。時期は中 IV 期～後 III 期である。

素文鏡は大小 2 面ある。実見・実測を行った。小型の素文鏡は面径 2.2 cm で、重量 4 g である。縁には刻みのようなものが 5ヶ所にみられる。鈕孔径 0.1 cm である。分類は 1 A 類である。

57 群馬県富岡市久保遺跡 (第 2 図 13、第 15 図②)

久保遺跡では径約 12 m、高さ 1 m の土壇の表面上に礫を葺いた施設が検出された。素文鏡 2・子持勾玉・石製模造品 (有孔円板・玉・白玉・剣・鉄刀子・鏃・甲冑)・水晶製切子玉・泥岩製管玉・硬玉製平玉・ガラス小玉・須恵器・土師器・手捏ね土器がある。時期は中 IV 期～後 III 期である。

素文鏡の実見・実測を行った。大型のものは面径 5.0 cm、重量 20 g、縁厚 0.20～0.27 cm、鈕孔径 0.15 cm であり、素文鏡の中で最も大型である。鏡背面は丁寧な研磨がなされていない。分類は 1 A 類である。

58 栃木県宇都宮市中島笹塚 10 号墳 (第 5 図 2)

中島笹塚 10 号墳は径 14 m の円墳であり、素文鏡 1・土師器・須恵器が出土

している。須恵器から判断すると、時期は中Ⅲ期である。

素文鏡は攪乱土中から出土しているため、出土位置は不明である。素文鏡は面径 4.4 cm である。外区があり、分類は 2 B 類である。

59 栃木県宇都宮市茂原古墳群大日塚古墳（第 4 図 7、第 15 図③）

大日塚古墳は墳長 36 m の前方後方墳で、素文鏡は墓壙内から出土している。棺内の赤色顔料の近くから出土していることから、頭部付近に置かれたと考えられる。時期は前Ⅱ期～前Ⅲ期である。

素文鏡の実見・実測を行った。素文鏡は面径 2.6 cm、重量 4 g、縁厚 0.16 cm、鈕孔径 0.1 cm である。鏡面は一部錆に覆われているものの錆上りは良好であることを確認した。一部に赤色顔料の付着が残存している。縁に段差があり、段差をなくすような研磨は行われていない。鈕の位置はやや上方であり、垂下を目的したものといえそうだ。分類は 2 A 類である。

60 茨城県竜ヶ崎市南三島遺跡

南三島遺跡は竪穴住居の溝から素文鏡 1 が出土している。時期は判断できない。面径は 2.9 cm で、分類は 2 A 類である。

61 茨城県那珂郡東海村釜付祭祀遺跡（第 2 図 10、第 15 図⑤）

釜付祭祀遺跡からは墳丘東側の溝状遺構上面より、素文鏡 2・土師器・手捏ね土器・鉄刀・鉄器残片・石製剣形模造品・石製有孔円板・滑石製勾玉・滑石製白玉が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

素文鏡の実見・観察を行った。鈕の上部と鏡体の一部に欠損がある。面径 3.3 cm、重量 10 g、縁厚 0.23 cm である。鈕の上部は欠損している。鈕孔は残存部から円形と考えられる。鏡背面は鈕の方向 2 ヶ所に研磨痕がみられ、段が生じている。この鏡の特徴は、鳥取県長瀬高浜遺跡のものと類似している。分類は 1 A 類である。

62 茨城県那珂郡東海村釜付祭祀遺跡（第 2 図 11、第 15 図④）

釜付祭祀遺跡は墳丘東側の溝状遺構上面より、素文鏡 2・土師器・手捏ね土器・鉄刀・鉄器残片・石製剣形模造品・石製有孔円板・滑石製勾玉・滑石製白玉が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

素文鏡の実見・観察を行った。面径 3.2 cm であり、重量 8 g、縁厚 0.17～0.18 cm、鈕孔 0.1 cm である。鈕孔は外から内側に向かって狭くなっている。鏡背面は段差もなく、鑄造時の痕跡は認められない。分類は 1 A 類である。

(3) 分類ごとの概要 (第2・3図)

分類ごとに出土遺跡の特徴、年代について説明していく。

1 A類 鼻鈕で、外区がなく平縁のもの。

素文鏡のなかでは、1 A類の出土数が最も多く計21面である。福岡県沖ノ島16号遺跡例、福岡県沖ノ島21号遺跡例、愛媛県高橋仏師2号墳例(第2図6)、鳥取県青谷上寺地遺跡例(第2図12)、鳥取県長瀬高浜遺跡例3面(第2図1～3)、兵庫県木戸原遺跡例(第2図4)、兵庫県長越遺跡、大阪府西ノ辻遺跡例(第2図5)、和歌山県大谷古墳例3面(第2図7～9)⁽³⁾、奈良県山ノ神遺跡例、奈良県曾我遺跡例3面、群馬県久保遺跡例2面(第2図10・11)、茨城県釜付遺跡例2面(第2図10・11)が確認できる。面径は1.9～4.9cmである。実見による確認で、鳥取県長瀬高浜遺跡例3面(第2図1～3)、茨城県釜付遺跡例2面(第2図10・11)は鏡背面の鈕の長軸方向から延長する方向に研磨の痕跡が明瞭に認められる。また、長瀬高浜遺跡例や久保遺跡例(第2図13・14)には製作時につけられたと思われる粗い研磨痕も実見によって確認している。

鳥取県青谷上寺地遺跡例、愛媛県高橋仏師2号墳例、兵庫県木戸原遺跡例、和歌山県大谷古墳例3面は鏡背面に研磨痕はない。青谷上寺地遺跡例は大型であり、鈕孔をつくるために鋳型に設置された中子の痕跡を確認することができる。

群馬県久保遺跡例2面のうちの小型の素文鏡(第2図14)は、側面に6箇所刻み目が施されるなど特異な事例といえる。

鳥取県長瀬高浜遺跡例3面、茨城県釜付遺跡例2面のように複数の素文鏡が出土する場合、遺跡ごとに素文鏡は類似していることから、それぞれ一括で製作されていたと考える。

1 A類のうち、出土遺跡の時期が最も古いものは鳥取県青谷上寺地遺跡(第2図12)であり、時期は弥生時代後期後半である。古墳時代で最も年代の遡るものは、鳥取県長瀬高浜遺跡S I -100例(第2図3)であり、前V期～前VI期となる。最も新しいものは愛媛県高橋仏師2号墳例(第2図6)であり、後II期～後III期である。1 A類の素文鏡は鏡面の反らないものが多い。例をあげると鳥取県長瀬高浜遺跡例、大阪府西ノ辻遺跡例、愛媛県高橋仏師2号墳例、

茨城県釜付遺跡例である。

1 C類 鼻鈕で、外区はなく縁が突出のもの。

外区はなく、縁がやや盛り上がり、三角状や蒲鉾状のものをここに含めている。縁部分は粗雑であり、部分的に縁が明瞭さに欠けるものもある。面径は3.1～5.0 cmであり、計6面である。岡山県下湯原遺跡例（第3図4）、和歌山県大谷古墳例3面（第3図1～3）、静岡県宮脇遺跡例、静岡県洗田遺跡例が相当する。

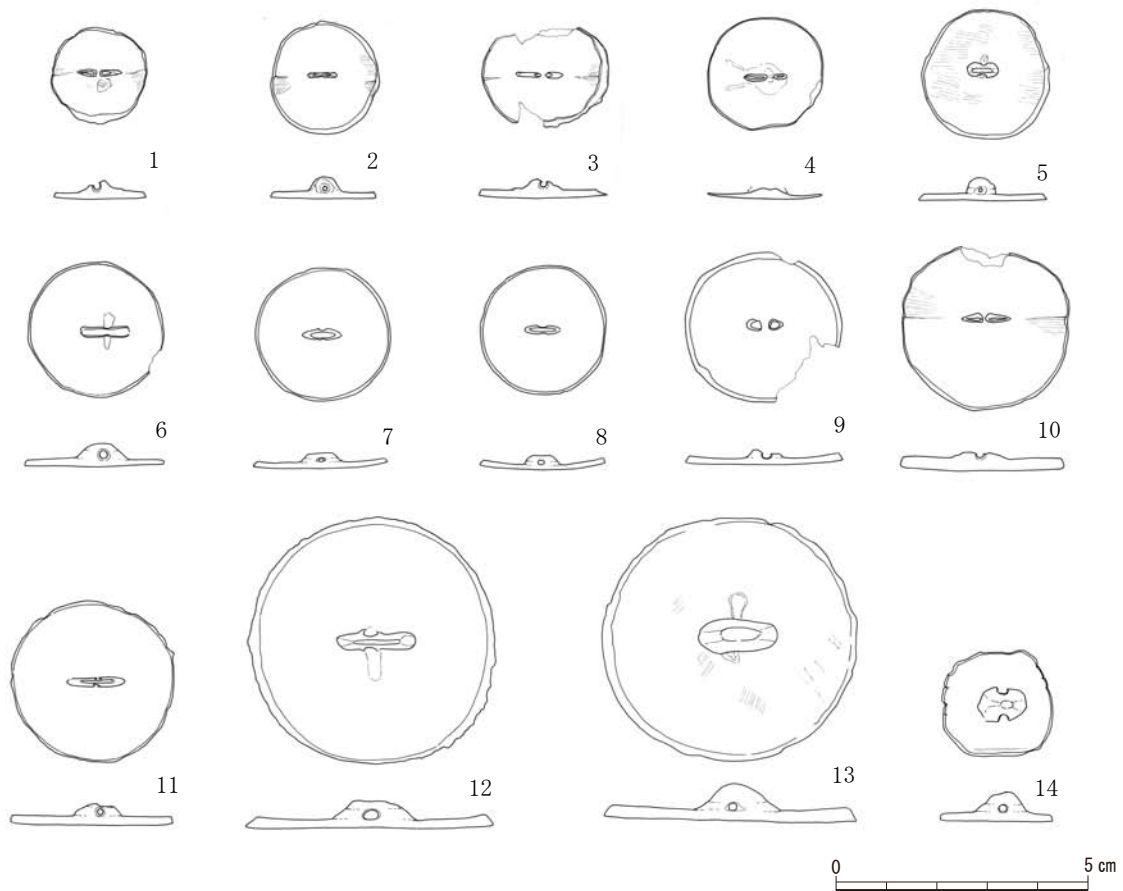
各鏡の特徴を述べる。岡山県下湯原遺跡例では縁の幅はやや広く、縁幅は0.1～0.3 cmである。鏡背面は非常に粗く、形状はいびつな円形を呈するなど、丁寧に製作されていない。大谷古墳例は素文鏡のうち7面の観察を行っており、このうちの3面で縁が0.1 cm程度の三角縁状に盛りあがる形状のものがみられた。実見により、3面のうち2面の鈕の上面に研磨の痕跡が確認できた。ほかの1面は鈕の上方に鑄張のようなものがみられる。大谷古墳例は3面ともに鏡面に反りがみられる。岡山県下湯原遺跡例に比べると、研磨がなされ丁寧な作りである。

2 A類 円鈕で、外区がなく平縁のもの。

円鈕は2 A類に含まれるものが最も多い。計15面である鳥取県青谷上寺地遺跡例2面（第4図15）、鳥取県長瀬高浜遺跡例4面（第4図1～4）、鳥取県博労町遺跡例（第4図14）、香川県居石遺跡例（第4図12）、兵庫県藤江別所遺跡例（第4図9）、大阪府久宝寺遺跡例（第4図8）、滋賀県伊勢（大洲）遺跡例、滋賀県下長遺跡土坑SK-1例（第4図11）、千葉県草刈六之台遺跡例、千葉県草刈遺跡例L区037号住居、千葉県辺田1号墳（根田6号墳）例（第4図13）、栃木県茂原古墳群大日塚古墳例（第4図7）がある。面径は1.9～4.8 cmである。

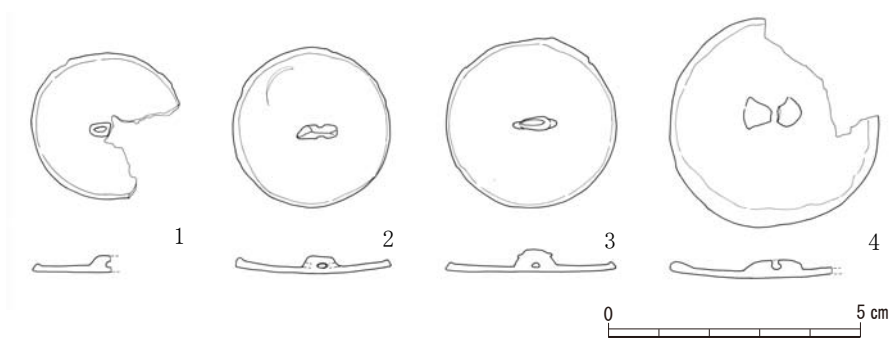
鈕の位置は、鏡背面の中央からややずれるものもみられる。例をあげると鳥取県長瀬高浜遺跡例3面、鳥取県博労町遺跡例、栃木県茂原古墳群大日塚古墳例などがそれに相当する。

鏡背面に粗い研磨のあるものは鳥取県青谷上寺地遺跡例があげられる。鏡背面に研磨の粗雑なもの、もしくは研磨のなされていないものには鳥取県長瀬高浜遺跡例3面、鳥取県博労町遺跡例、香川県居石遺跡例、兵庫県藤江別所遺跡例、大阪府久宝寺遺跡例、千葉県草刈六之台遺跡例、千葉県草刈遺跡L区



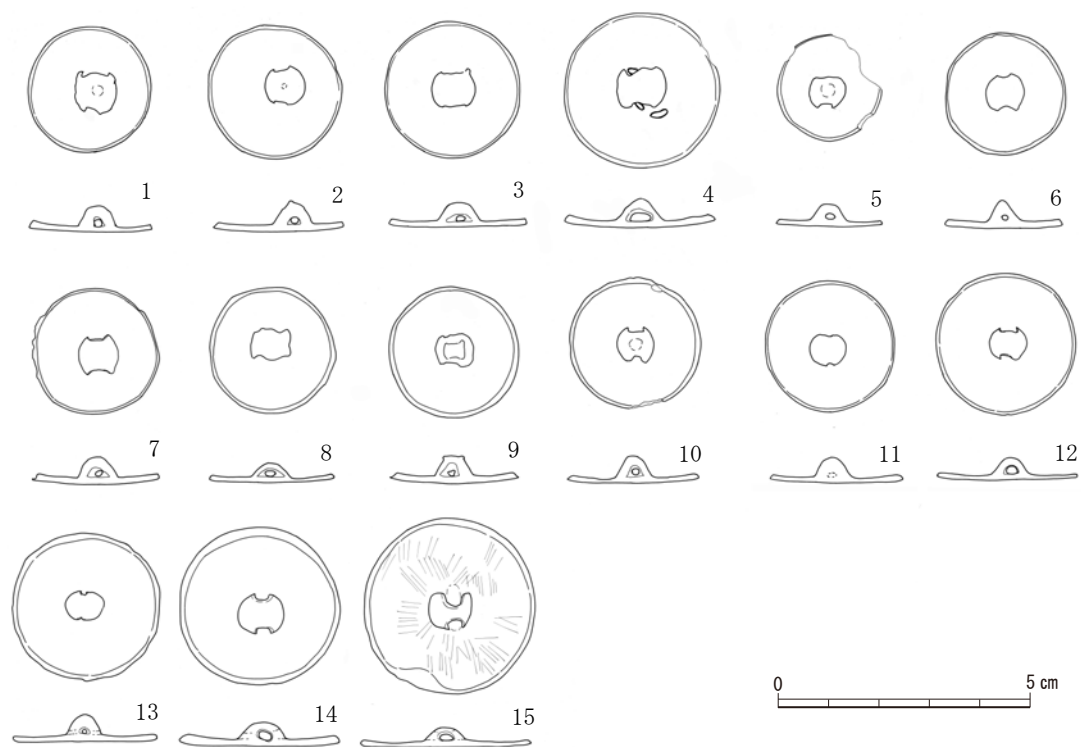
1. 鳥取県長瀬高浜遺跡 13E・II d 地区 2. 鳥取県長瀬高浜遺跡 10-I 地区 3. 鳥取県長瀬高浜遺跡 SI-100
 4. 兵庫県木戸原遺跡 5. 大阪府西ノ辻遺跡 6. 愛媛県高橋仏師2号墳 7. 和歌山県大谷古墳M c 1
 8. 大谷古墳 9. 大谷古墳M c 2 10～11. 茨城県釜付祭祀遺跡 12. 鳥取県青谷上寺地遺跡
 13～14. 群馬県久保遺跡

第2図 1A類の諸例



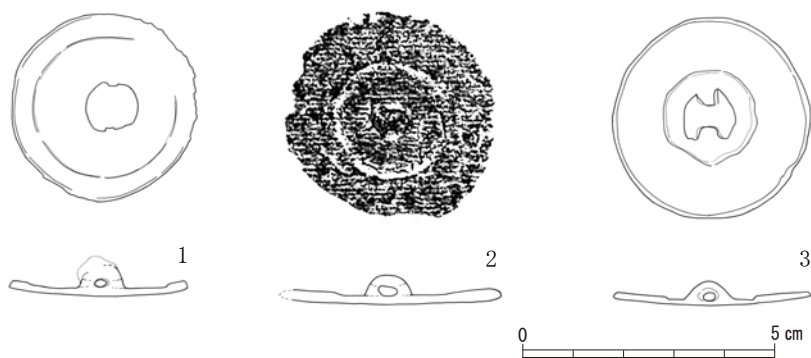
1. 和歌山県大谷古墳 2. 和歌山県大谷古墳M c 4 3. 和歌山県大谷古墳M c 35 4. 岡山県下湯原遺跡

第3図 1C類の諸例



- 1～3. 鳥取県長瀬高浜遺跡 15ISP01 4. 鳥取県長瀬高浜遺跡 SI-138 5. 東京都伊興遺跡 6. 滋賀県北萱遺跡
 7. 栃木県茂原古墳群大日塚古墳 8. 大阪府久宝寺遺跡 9. 兵庫県藤江別所遺跡 10. 広島県石鎚権現7号墳
 11. 滋賀県下長遺跡土坑SK-1 12. 香川県居石遺跡 13. 千葉県辺田1号墳(根田6号墳)
 14. 鳥取県博労町遺跡 15. 鳥取県青谷上寺地遺跡 6区1層

第4図 2A類の諸例



1. 滋賀県下長遺跡SD-5 2. 栃木県中島笹塚10号墳 3. 兵庫県藤江別所遺跡

第5図 2B類の諸例

037号住居例、千葉県辺田1号墳（根田6号墳）例がある。

2B類 円鈕で、外区があり平縁のもの。

出土例は非常に少ない。計3面である。滋賀県下長遺跡SD-5例（第5図1）、兵庫県藤江別所遺跡例（第5図3）、栃木県中島笹塚10号墳例（第5図2）が相当する。面径は2.6～4.4cmとなっており、1A類と比べ大型化している。

滋賀県下長遺跡では2面の素文鏡が出土しており、そのうちの大型の例が2A類で、幅4mmの平縁がある。兵庫県藤江別所遺跡例で外区幅は11mmとなる。鏡背面に研磨のないものは、兵庫県藤江別所遺跡例がある。滋賀県下長遺跡例は砂の錆着が著しく研磨の痕跡を判断できない。

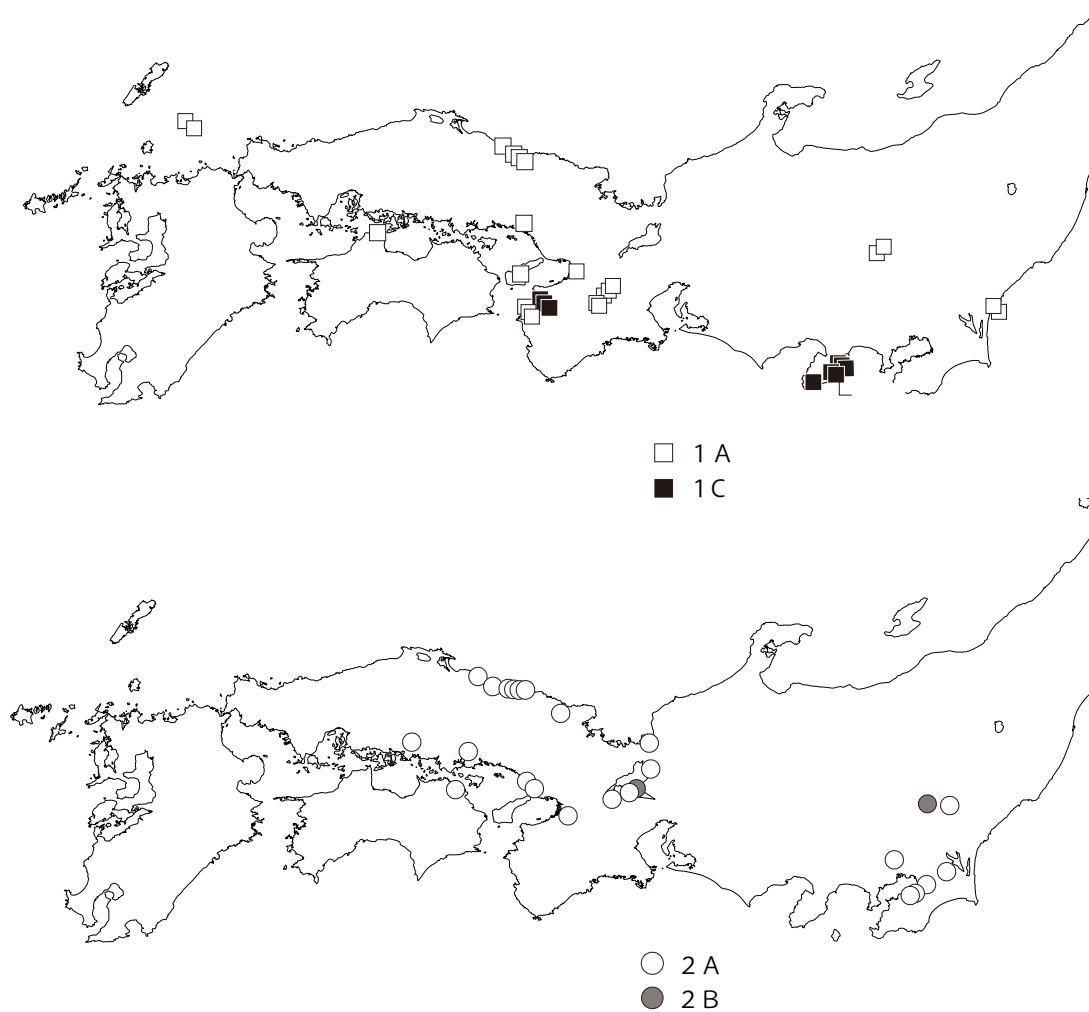
（4）分布

1A類は近畿地方を中心に分布し、南は福岡県沖ノ島16号遺跡例・福岡県沖ノ島21号遺跡例があり北は茨城県釜付遺跡例がある。そのほかには近畿地方と中国地方北部に位置する鳥取県や関東地方で分布する。遺跡の立地状況を見ると、多くが沿岸部に近い場所で出土することから、航海の安全を祈願した祭祀が行われたと考えられる。近藤滋は鼻鈕の素文鏡の意義については、日本海での航海安全を想定している（近藤1980）が、太平洋側である茨城県釜付遺跡まで分布が確認できることから、筆者は日本列島の広範囲において鼻鈕の素文鏡を用いた海の祭祀が執り行われていたと考えたい。1C類は出土例が少ないのだが、1A類と同様に共に鼻鈕であり、沿岸部に近い場所からの出土例が多く、1A類と同様に海に関する祭祀で用いられたといえよう。

2A類・2B類は中国地方から近畿地方、中部地方から関東地方の出土が多くみられる。中国地方の鳥取県、関東地方の千葉県で数多く出土する点は、後に述べる古墳時代前期の重圏文鏡や珠文鏡の分布に酷似しているため、素文鏡は重圏文鏡や珠文鏡の流通経路と同じであったことが分かる。

（5）素文鏡の変遷

素文鏡の中で最も早く出現するのは1A類の鳥取県青谷上寺地遺跡例（第2図12）である。この鏡は、面径4.85cmと素文鏡の中では大型なものである。素文鏡の鼻鈕は、弥生時代小型仿製鏡の細い鈕がさらに簡略化することによって出現したと想定している。素文鏡に類似する例としては鳥取県博老町遺跡の



第6図 素文鏡出土遺跡の分布図

弥生時代小型仿製鏡があり、面径 3.4 cm で、鼻鈕となる。ほかの 1 A 類は、前 V 期～前 VI 期の鳥取県長瀬高浜遺跡例 3 面（第 2 図 1～3）を確認できるが、これらの鏡は面径 2 cm 前後であり、非常に小型となる。鳥取県青谷上寺地遺跡例と鳥取県長瀬高浜遺跡例は、鈕の製作方法が異なっている。青谷上寺地遺跡例には鑄造時の中子を設置した痕跡がある。一方で長瀬高浜遺跡例は鏡面より上に鈕孔が開けられ、1 mm 程度の正円の鈕孔をもつことから、鈕の製作方法に明らかな違いがある。鳥取県青谷上寺地遺跡例は弥生時代後期後半であり、鳥取県長瀬高浜遺跡例が前 V 期～前 VI 期であることを加味すると、両者の流れに直接的な関係を求めることは難しい。

1 C 類は縁がわずかに三角縁・斜縁・蒲鉾状縁を呈するものである。1 A 類

の鈕と同じ鼻鈕であり、1 A類よりも後出することから、1 A類から派生したと考えられる。

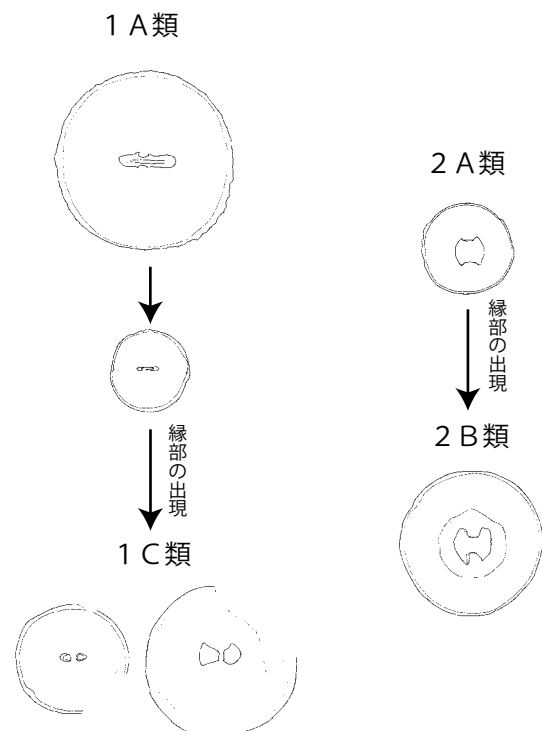
なお、重圏文鏡や櫛歯文鏡にも鼻鈕の類例があり、重圏文鏡の兵庫県吉田南遺跡例（第22図8）・三重県土山遺跡（第22図9）、櫛歯文鏡の愛媛県大木遺跡（第31図4）がある。

2 A類で最も古いものは前Ⅰ期～前Ⅱ期にみられるものである。例えば、鳥取県長瀬高浜遺跡SⅠ-138例（第4図4）・鳥取県長瀬高浜遺跡15ⅠSP01例（第4図1～3）・岡山県百間川沢田遺跡竪穴住居21例がある。2 A類・2 B類の鈕の形状は、弥生時代後期末から古墳時代に確認できる重圏文鏡の鈕の形状と酷似する。特に、外区をもたず、圏線のみが巡る重圏文鏡に類似する。例をあげると福岡県稲光遺跡例（第22図6）、香川県居石遺跡例（第22図5）、岡山県百間川沢田遺跡例（第22図2）、兵庫県藤江別所遺跡例（第22図4）、大阪府溝咋遺跡例（第22図3）、滋賀県高溝遺跡例（第22図7）、新潟県西川内南遺跡例（第22図1）がある。このような重圏文鏡の影響をうけ、円鈕である2 A類の素文鏡が出現したものと考える。

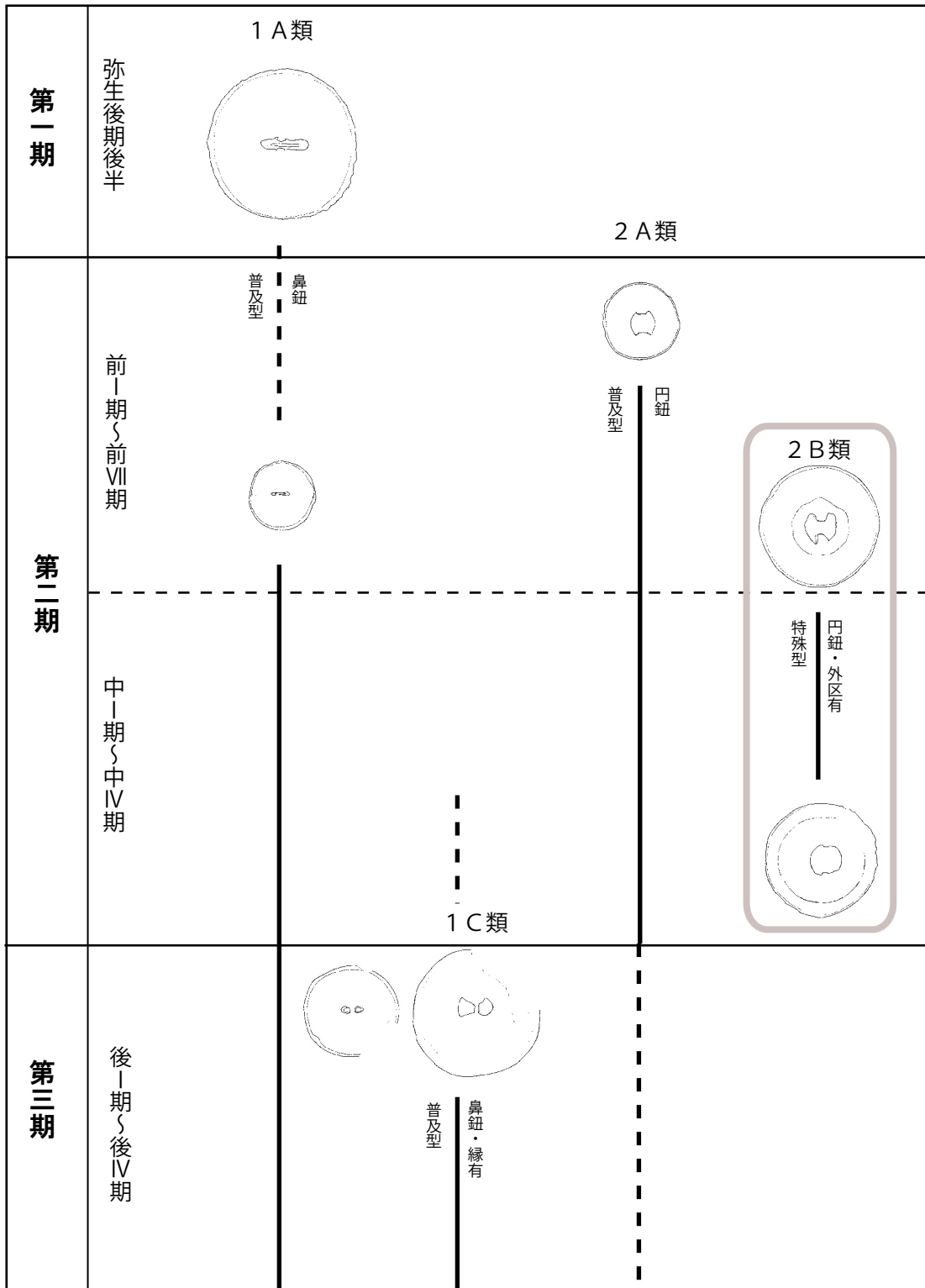
2 B類の最も古い例は、前Ⅱ期～前Ⅲ期にみられ、2 A類からわずかに遅れて出現していることから、2 B類は、2 A類の影響をうけ外区をもつものが派生したと推測する。

（6）素文鏡の画期

これまでの検討から素文鏡の画期を設定する。第一期は、弥生時代後期後半である。鼻鈕の1 A類1面のみが確認できる。鳥取県青谷上寺地遺跡では集落跡から出土している。第二期は円鈕の2 A・2 B類が出現する。古墳と集落に関わる住居・井戸・河川・溝で使用されている。2 A



第7図 素文鏡の関係図



第8図 素文鏡の画期

類は2 B類に比べ多く生産され普及するものである。1 A類はこの時期に普及し、出土遺跡は集落内の溝・水利施設に加え、集落外の岩上祭祀や岩盤の祭祀で使用されている。

第三期は円鈕の2 A・2 B類がほぼ消滅し、鼻鈕の1 C類が出現する。1 A類も引き続き使用され、素文鏡は鼻鈕のみとなる段階である。1 C類は古墳・海や山の祭祀で使用されている。鼻鈕の素文鏡は古代にも引き継がれ、1 A類は沼と岩上祭祀で使用されている。

第3節 素文鏡の特質

素文鏡の性格を考えるために、遺跡の種類や祖形について論じる。

(1) 古墳出土の素文鏡の検討 (第5図)

ここでは古墳からの出土状況の分かるものについて説明することとする。

1 A類 この類が古墳で出土することは少なく、和歌山県大谷古墳と愛媛県高橋仏師2号墳の2遺跡のみである。1遺跡は全長70mの前方後円墳である和歌山県大谷古墳である。家形石棺内から8面から9面の素文鏡が出土したと報告されている。1 A類は3面で、面径は実見・観察では、面径2.6cm(第2図7)・2.6cm(第2図8)・3.0～3.1cm(第2図9)であり、すべて小型と確認した。いずれも正円に近く丁寧な作りであり、反りもみられる。大谷古墳の鏡3面は銅質・反りが非常に酷似することから、同時期に製作された可能性が高い。時期は後I期である。

愛媛県高橋仏師2号墳は、径9.5×8mの円墳で、横穴式石室内から素文鏡が1面(第2図6)出土した。実見・観察では、面径は2.7cmで反りは弱く、大谷古墳例とはやや異なる。鈕の位置、および鈕孔も中心よりも上部に位置する。垂下を想定して、鈕の位置をずらしている可能性も考えられる。そのほかの副葬品には須恵器・鉄刀子6・鉄鏃2・馬具・瑪瑙製勾玉1・水晶製勾玉1・碧玉製管玉11・水晶製丸玉2・滑石製白玉3・ガラス丸玉4・ガラス小玉13がある。時期は須恵器からみると後II期～後III期である。

和歌山県大谷古墳と愛媛県高橋仏師2号墳は、古墳出土の1 A類で面径が3cm以下という点で共通性はある。しかし、銅質の鈕の位置はやや異なっている。

1 C類 この類を確認できたのは、1 A類の出土が確認された和歌山県大谷古墳（樋口・西谷・小野山編 1985）のみである。1 C類は3面で、実見・実測により面径は2.9～3.0 cm（第3図1）・3.1 cm（第3図2）・3.4 cm（第3図3）であった。大谷古墳では1 A類も出土しており、1 C類は1 A類よりも0.3 cm程度大型のものがみられる点で異なっている。しかし、銅質や反りは類似しており、大谷古墳から出土した1 C類と1 A類は同時期に生産が行われたと考える。

2 A類 この類は5面あり、広島県石鎚権現7号墳（第4図10）・千葉県辺田1号墳（根田6号墳）・栃木県茂原古墳群大日塚古墳（第4図7）である。ほかには兵庫県太田谷遺跡・兵庫県柏尾古墳がある。古墳の時期の古いものから述べることとする。

栃木県茂原古墳群大日塚古墳は、全長35.8 mの前方後方墳で、素文鏡は墓壙内から出土した。時期は前Ⅱ期～前Ⅲ期である。素文鏡の面径は実測で2.6 cm、重量4 gである。鏡面は一部錆に覆われているものの錆上りは良好であることを確認した。一部に赤色顔料の付着が残存している。縁には鑄造時に生じた段差がみられ、段差をなくすような研磨は行われていない。鈕の位置はやや上方であり、垂下を目的したものといえそうだ。

広島県石鎚権現7号墳は辺長7 mの方墳であり、面径2.6 cmの素文鏡は土壙内より出土した。褐色の錆に覆われており、やや銅質は悪いようである。重量3 g、縁厚は0.11～0.13 cmである。鈕孔は0.15 mm程度と小さい。時期は前Ⅴ期～中Ⅰ期である。

千葉県辺田1号墳（根田6号墳）は径31 mの円墳で、第2主体部の組合式木棺内より管玉・鉞・素環頭大刀・大刀・短剣・槍先が出土した。頭部と推定される場所から素文鏡が出土した。実見・実測によると全体的に緑錆に覆われており、錆膨れも著しい。面径は2.91×2.98 cmで、重量5 gである。鈕孔は0.1 cm程度で非常に小さい。縁厚は0.12 cm～0.14 cmである。時期は前Ⅲ期～前Ⅴ期である。

3基の古墳出土の素文鏡の面径は全て3 cm以下であり、重量も5 g以下と小型で共通性がある。鈕孔も0.1 cm程度であり似通っている

2 B類 計2面確認できる。福井県立洞2号墳と栃木県中島笹塚10号墳（第5図2）である。

福井県立洞2号墳は全長19.5mの帆立貝形古墳で、時期は前Ⅶ期である。棺内より面径4.2cmの素文鏡が出土している。竹櫛2・石釧3・凝灰岩質頁岩製管玉6・ガラス小玉25・鉄剣1・鉄斧1が出土している。

もう一面は栃木県中島笹塚10号墳で、径14mの円墳である。面径4.4cmの素文鏡は墳頂部の攪乱土中より出土した。土師器・須恵器が出土しており、須恵器から時期は中Ⅲ期とした。

以上をまとめると、古墳から出土する素文鏡のうち最も古い例は、栃木県茂原古墳群大日塚古墳の2A類である。これは前Ⅱ期～前Ⅲ期に相当する。2B類は前Ⅶ期の立洞遺跡例が最も古い。円鈕の2A類や2B類については前期に古墳への副葬が始まることを確認した。一方で、鼻鈕1A類や1C類が古墳の副葬品になる事例は極めて少なく、わずかに和歌山県大谷古墳例と愛媛県高橋仏師2号墳の2遺跡のみであった。2A類・2C類において、最も古い例は和歌山県大谷古墳例（第2図7～9、第3図1～3）であり、時期は後Ⅰ期である。愛媛県高橋仏師2号墳は後Ⅱ期～後Ⅲ期である。このことから、鼻鈕の1A類・1C類は、円鈕の1A類・1C類が前Ⅱ期に古墳の副葬品となった状況とは異なっており、中Ⅳ期まで鼻鈕の1A類・1C類は祭祀・集落遺跡での使用を目的としていたことが分かる。

(2) 集落・祭祀遺跡出土の素文鏡の検討（第3表）

第2表 古墳出土素文鏡の一覧

都道府県	古墳名	分類	面数	面径	墳形	規模	出土位置	遺跡年代／大賀編年
愛媛	高橋仏師2号墳	1A	1	2.7	円墳	9.5×8	石室内、赤色顔料、布に包まれる。	後Ⅱ期～後Ⅲ期
和歌山	大谷古墳	1A	3	2.6～3.1	前方後円墳	70	棺内	後Ⅰ期
和歌山	大谷古墳	1C	3	3.1～3.4	前方後円墳	70	棺内	後Ⅰ期
香川	東畑古墳	2A	1					
広島	石鎚権現7号墳	2A	1	2.6	方墳	7	棺外。木棺直上。	前Ⅴ期～中Ⅰ期
兵庫	太田谷遺跡	2A	1	3.2				後Ⅱ期～後Ⅳ期
兵庫	柏尾古墳	2A	1	3.4		13		
千葉	辺田1号墳第2主体部	2A	1	2.98×2.91	円墳	31	棺内、頭部と想定。	前Ⅲ期～前Ⅴ期
栃木	茂原古墳群大日塚古墳	2A	1	2.6	前方後方墳	35.8	棺内、赤色顔料の近くなので頭部か？	前Ⅱ期～前Ⅲ期
福井	立洞2号墳	2B	1	4.2	帆立貝形古墳	19.5	石釧・鉄剣とともに東部より上方にまとめておかれている。	前Ⅴ期～前Ⅶ期
栃木	中島笹塚10号墳	2B	1	4.4	円墳	14	攪乱から出土、詳細不明。	中Ⅲ期

1 A類 計 12 遺跡である。福岡県沖ノ島 16 号遺跡・福岡県沖ノ島 21 号遺跡・鳥取県青谷上寺地遺跡 4 区 1 層・鳥取県青谷上寺地遺跡 6 区 1 層（第 2 図 12）・鳥取県長瀬高浜遺跡 SI-100・兵庫県長越遺跡・兵庫県木戸原遺跡（第 2 図 4）・奈良県曾我遺跡・大阪府西ノ辻遺跡（第 2 図 5）・奈良県山ノ神遺跡・群馬県久保遺跡（第 2 図 10・11）出土例がある。それぞれの説明を行う。

福岡県沖ノ島 16 号遺跡例は面径 3.0 cm である。16 号遺跡は沖ノ島祭祀遺跡のうち、最も古く遡る。巨岩の間より、仿製の三角縁神獸鏡・素文鏡・方格規矩鏡・内行花文鏡が出土するほか、滑石製有孔円板・滑石製雛形品・鉄製雛形品・鉄剣・鉄刀・鉄鏃・鍛造鉄斧・鑄造鉄斧・蕨手形刀子・鉄鉈・釧などが出土している。時期は前Ⅶ期～中Ⅰ期である。

福岡県沖ノ島 21 号遺跡は、巨岩上のほぼ中央上に存在する長方形祭壇である。舶載獸帯鏡 1・鼉龍鏡 1・重圈文鏡？ 1・格子目文鏡 2・素文鏡 1・硬玉製勾玉 4・琥珀製勾玉 3・碧玉製勾玉 5・滑石製勾玉 22・硬玉性管玉 8・碧玉製管玉 7・滑石製管玉 26・ガラス製小玉 303・滑石製白玉多数・滑石製棗玉 1・滑石製子持勾玉 1・銅釧 1・鉄釧 1・鉄剣 10 以上・鉄刀 18 以上・石突 1・鉄鏃 20 以上・蕨手刀子 7・鉄製刀子 9・鉄鎌 2・鉄鉈 3・鉄斧 9・鉄鋌 4・衝角付冑・雛形鉄刀 14 以上・雛形鑿形品 1・雛形斧 9・鉄製有孔円板 1・鉄環 2・滑石製有孔円板 13・土師器が出土している。素文鏡は約 3 cm である。時期は中期に相当する。

鳥取県青谷上寺地遺跡は弥生時代後期初頭～後葉の SD38-2 より素文鏡が 1 面出土している。実見・実測による面径は 4.9 cm であり、素文鏡の中では大型である。群馬県久保遺跡の 5.0 cm に次いで 2 番目に大きな面径となる。鏡背面は研磨が行われておらず、鑄型の地肌の痕跡をみることができる。鑄型に中子を設置した際の痕跡も確認できる。鈕孔径は 0.2 cm である。重量は 19 g と素文鏡の中では重い。なお久保遺跡出土鏡は重量 20 g である。この 2 遺跡の鏡は面径・重量・鈕の形状が共に似通っている。

鳥取県長瀬高浜遺跡 SI-100 は竪穴住居跡で、床面の長辺 5.9 m、短辺 3.9 m で中型の住居と報告される。多量の土師器・鉄製釣針・勾玉・管玉・小玉・敲石・砥石・磨石が出土している。前Ⅴ期～前Ⅵ期に相当する。長瀬高浜遺跡では SI-100 例以外に 1 A類が 2 面出土しているが、包含層であり時期は不明である。実見・実測によると素文鏡は一部が欠損し、面径 2.6 cm でやや楕円形

を呈する。現存の重量は2 gである。鑄上がりは悪く、鏡背面の研磨はみられない。

兵庫県長越遺跡は大溝から素文鏡・銅鏃・滑石製有孔円板・滑石製剣形品・滑石製勾玉・滑石製管玉・滑石製小玉が出土している。面径は3.7 cmである。鏡背面側の縁端部には製作時の痕跡のような一条の圏線状のものがみられるが、文様ではないと判断する。時期は前V期～中II期である。

兵庫県木戸原遺跡は淡路島に所在する遺跡であり、総柱建物から素文鏡が出土した。時期は中I期である。実見・実測では素文鏡はいびつな円形を呈し、銅質はあまり良くない。面径は2.2 cmで、重量2 gである。わずかに反りがみられ、縁は薄く0.1 cm以下である。

奈良県曾我遺跡ではSG-01の沼状遺構の包含層から3面の素文鏡が出土している。中III期～後III期とされる。

奈良県山ノ神遺跡は三輪山において行われた祭祀と考えられており、大石の付近から素文鏡が出土している。ほかには石製品の子持勾玉・勾玉・白玉・管玉、土製品の手捏土器・豎臼・匙形・円形板状・案状土製品、土師器・須恵器・鉄片が出土する。時期は前V期～中IV期に相当する。

大阪府西ノ辻遺跡の素文鏡は、石組・溝による水利施設を覆う土から出土している。時期は前V期～中II期である。実見・実測では、素文鏡の面径は4.5 cm、重量4 gである。いびつな円形であり、鏡面・鏡背面ともに研磨痕が観察できる。

群馬県久保遺跡では、盛り土をした祭祀場より、子持勾玉・石製品（有孔円板・玉・白玉・剣・刀子・鏃・冑）が出土する。ほかにも水晶製切子玉10・泥岩製管玉1・硬玉製平玉2・ガラス小玉2・須恵器・土師器・手捏ね土器が出土している。時期は中IV期～後III期に相当する。素文鏡は大小2面あり、大型のものは面径5.0 cm、重量20 gであり、素文鏡の中で最も大型である。実見・実測を行った結果、鏡背面は研磨痕があるが、表面には鑄型のざらつきがみられる。鈕孔は0.15 cmである。小型のものは面径2.2 cmで、重量4 gである。縁には刻みのようなものが5カ所にみられる。鈕孔は0.1 cmである。

茨城県釜付遺跡は、祭祀場より鉄製直刀・剣形模造品197・有孔円板126・勾玉4・白玉2・手捏ね土器・鉄器破片が出土している。中III期～後I期に相当する。素文鏡は2面が出土しており、1面（第2図10）は3.3 cmで10 g、もう1面（第2図11）は面径3.2 cmで、重量は8 gである。第2図10をみると、鏡背面の鈕の縦軸に沿って段差があり、製作時の痕跡と判断できる。両面共に

やや楕円形を呈している。この2面は銅質や断面形態が酷似するため、同時期に製作されたと考えられる。

1 C類 計4遺跡のうち3遺跡は集落・祭祀遺跡である。静岡県洗田遺跡・静岡県宮脇遺跡・岡山県下湯原遺跡出土例がある。

岡山県下湯原遺跡は竪穴住居跡から土製模造鏡・須恵器・土師器が出土している。須恵器からみると後Ⅲ期～後Ⅳ期に相当する。素文鏡は一部は欠損しており、鏡背面の研磨はみられない。面径4.2 cmで、現重量は9 gである。鈕孔は0.1 cm程度である。縁厚は0.24～0.28 cmである。

静岡県洗田遺跡は祭祀遺跡であり、素文鏡は1面出土した。ほかにも、珠文鏡1面、石製品は有孔円板・勾玉・白玉・管玉、土製模造品には鏡・円盤・丸玉、手捏ね土器が出土している。時期は中期～後期とする。

静岡県宮脇遺跡は素文鏡が5面出土しており、面径は3.3～5.0 cmである。振文鏡1面・石製模造品・土馬・土製模造品・手捏土器などが出土しており、中Ⅲ期～後Ⅳ期とする。

2 A類 計19遺跡中17遺跡が集落・祭祀遺跡からの出土である。香川県居石遺跡・鳥取県博労町遺跡・鳥取県青谷上寺地遺跡2面・鳥取県長瀬高浜遺跡SI-138・鳥取県長瀬高浜遺跡16LSK01・鳥取県長瀬高浜遺跡15ISP01・岡山県百間川沢田遺跡竪穴住居21・兵庫県藤江別所遺跡・大阪府久宝寺遺跡住居3・滋賀県北萱遺跡・滋賀県高溝遺跡・滋賀県下長遺跡土坑・滋賀県伊勢遺跡・東京都伊興遺跡・千葉県草刈六之台遺跡823号住居・草刈遺跡L区037号住居・茨城県南三島遺跡出土例がある。

このうち時期が判断できるものについて紹介する。香川県居石遺跡は祭祀遺跡であり、素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡は1面ずつSD01の最下層から出土している。前Ⅳ期～前Ⅴ期に相当する。

鳥取県長瀬高浜遺跡SI-138は隅丸方形の竪穴式住居であり、土師器・鉄製品が出土する。前Ⅰ期～前Ⅱ期である。鳥取県長瀬高浜遺跡15ISP01は性格不明の建物跡であり、祭祀遺跡に伴うと考えられている。素文鏡3面・鉄製品・土師器が出土する。前Ⅰ期～前Ⅱ期である。

岡山県百間川沢田遺跡の竪穴住居より素文鏡1面・土師器・敲石1・滑石製白玉1が出土しており、素文鏡の面径は3.0 cmである。前Ⅰ期～前Ⅱ期に相当する。

兵庫県藤江別所遺跡は井戸跡より素文鏡2面・櫛歯文鏡1面・重圏文鏡4面・珠文鏡2面以外にも土師器・石釧が出土している。前Ⅱ期～前Ⅳ期と考えられる。

滋賀県高溝遺跡からも2A類が1面出土している。高溝遺跡は大溝からの出土であり、重圏文鏡も1面出土している。前Ⅲ期～前Ⅵ期とする。

滋賀県下長遺跡では素文鏡が2面出土しており、土坑出土のものは2A類であり、溝出土のものは2B類である。中Ⅱ期～中Ⅳ期である。

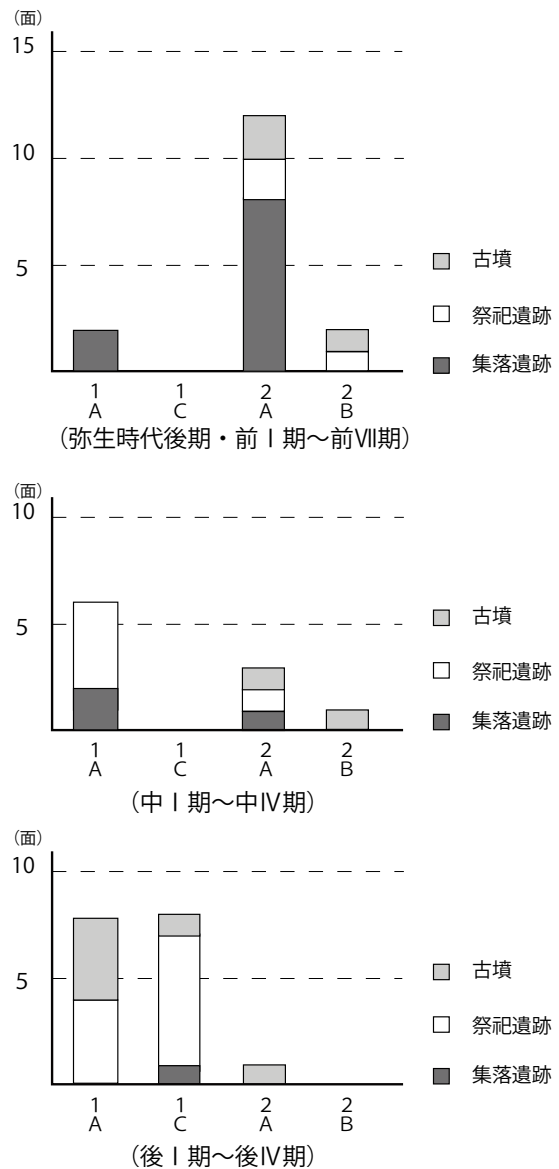
東京都伊興遺跡の土壙からは、土師器・白玉とともに素文鏡1面が出土している。中Ⅱ期～中Ⅳ期である。

千葉県草刈遺跡六之台遺跡823号住居出土の素文鏡は、竪穴住居跡の覆土より出土しているが、822号住居に伴う可能性が高いとされている。822号住居は前Ⅴ期～前Ⅵ期に相当する。千葉県草刈遺跡L区037号住居は、長辺5.9m、短辺5.5mである。土師器が出土している。前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

2A類の出土する遺跡の時期をみると、前Ⅰ期～前Ⅱ期に相当するものから、前Ⅴ期～前Ⅵ期のものが多い。また、最も新しいものは中Ⅱ期～中Ⅳ期であり、それ以降に出土する事例はみられない。

2B類 計2面が集落・祭祀遺跡から出土する。兵庫県藤江別所遺跡・滋賀県下長遺跡出土例がある。

兵庫県藤江別所遺跡は祭祀遺跡であり、2A類だけではなく2B



第9図 時期別の遺跡の種類

第3表 集落・祭祀遺跡出土素文鏡の一覧

都道府県	遺跡名	分類	面数	面径	遺跡種別	遺構	遺跡年代／大賀編年
福岡	沖ノ島21号遺跡	1A	1	約3cm	祭祀	岩上祭祀遺跡	中I期
福岡	沖ノ島16号遺跡	1A	1	3.0	祭祀	岩上祭祀遺跡	前VII期～中I期
鳥取	青谷上寺地遺跡	1A	1	4.9	集落	溝・4区SD38-2	弥生後期後半
鳥取	長瀬高浜遺跡10-Iグリッド	1A	1	2.2	集落		不明
鳥取	長瀬高浜遺跡13E・II d地区	1A	1	1.9	集落		不明
鳥取	長瀬高浜遺跡SI-100	1A	1	2.6	集落		前V期～前VI期
兵庫	木戸原遺跡	1A	1	2.2～2.3	祭祀	柵	中I期
兵庫	長越遺跡	1A	1	3.7	集落	溝	前V期～中II期
大阪	西ノ辻遺跡16次調査	1A	1	2.5	集落	水利施設の包含層	前V期～中II期
奈良	曾我遺跡	1A	3	1.2～2.6	集落	沼状遺構	中III期～後III期
奈良	山ノ神遺跡	1A	1	3.0	祭祀	岩盤	前V期～中IV期
群馬	久保遺跡	1A	2	2.5・4.8	祭祀	祭祀遺跡	中IV期～後III期
茨城	釜付遺跡	1A	2	3.2	祭祀	祭祀	中III期～後I期
岡山	下湯原B遺跡	1C	1	4.2	集落	住居	後III期～後IV期
静岡	洗田遺跡	1C	1	4.3	祭祀		中I期～後IV期
静岡	宮脇遺跡	1C	5	3.3・3.5・ 4.3・4.5・ 5.0	祭祀		中III期～後IV期
香川	居石遺跡	2A	1	2.72～2.78	祭祀	河川	前IV期～前V期
鳥取	博労町遺跡	2A	1	3.4	集落?	2区包含層	不明
鳥取	青谷上寺地遺跡6区1層	2A	1	3.4	集落	6区1層、包含層	弥生中期～奈良
鳥取	長瀬高浜遺跡SI-138	2A	1	3.2	集落		前I期～前II期
鳥取	長瀬高浜遺跡16LSK01	2A	1	3.0	集落		前V期～前VI期
鳥取	長瀬高浜遺跡15ISP01	2A	3	2.4・2.6・ 2.7	集落		前I期～前II期
岡山	百間川沢田遺跡竪穴住居21	2A	1	3.0	集落	住居	前I期～前II期
兵庫	藤江別所遺跡井戸址	2A	1	2.5～2.6	祭祀	井戸	前II期～前IV期
大阪	久宝寺遺跡住居3	2A	1	2.5	集落	住居	前期
滋賀	北萱遺跡	2A	1		集落	包含層	古墳時代
滋賀	高溝遺跡	2A	1	3.3	集落	溝	前III期～前VI期
滋賀	下長遺跡土坑SK-1	2A	1	2.6	祭祀	土坑	中II期～中IV期
滋賀	伊勢遺跡	2A?	1	3.0	集落	土坑	
東京	伊興遺跡	2A	1	2.1	集落	住居	中II期～中IV期
千葉	草刈遺跡六之台遺跡823号	2A	1	2.8	集落	住居	前V期～VI期
千葉	草刈遺跡L区037号住居	2A	1	1.9	集落	住居	前V期～VI期
茨城	南三島遺跡	2A	1	2.9	集落		古墳時代
兵庫	藤江別所遺跡井戸址	2B	1	3.8～4.0	祭祀	井戸	前II期～前IV期
滋賀	下長遺跡SD-5	2B	1	3.7	祭祀	溝	中II期～中IV期

類も1面出土する。素文鏡の面径は3.84 cm～3.96 cmである。前Ⅱ期～前Ⅳ期である。

滋賀県下長遺跡でも2 A類だけではなく2 B類が出土している。素文鏡の面径は3.67 cmである。中Ⅱ期～中Ⅳ期である。

以上を時期ごとの祭祀・集落遺跡の出土数を第8図にまとめている。これを見ると、前期は円鈕の2 A類の出土例が多いが、中期以降鼻鈕の1 A類や1 C類が増加することが判明した。また、円鈕の2 A類は集落遺跡からの出土例が多いのに対して、2 B類は祭祀遺跡からの出土例が多く、使用方法に違いがみられる。

(3) 共伴する青銅鏡の検討

素文鏡の共伴する鏡について説明する。1 A類と共伴するものについて述べる。沖ノ島19号遺跡では1 A類以外に仿製三角縁神獸鏡・仿製方格規矩鏡1・仿製内行花文鏡1が出土している。沖ノ島21号遺跡からは、1 A類の素文鏡1面と共に、舶載獸帯鏡2面、四乳渦文鏡1面、変形鼉龍鏡1面、円圈文鏡1面、変形格子目文鏡2面が出土する。このうち獸帯鏡2面は中国鏡で復元径約17.6 cmとやや大型である。獸帯鏡以外はすべて仿製鏡である。和歌山県大谷古墳は1 A類と1 C類の素文鏡以外に、素文の鈴鏡5面が出土する。

1 C類と共伴するものについて述べる。静岡県宮脇遺跡からは1 C類5面以外に、獸形鏡1面が出土している。静岡県洗田遺跡からは1 C類1面以外に珠文鏡1面が出土している。兵庫県太田谷からは2 A類の素文鏡1面と珠文鏡1面が出土する。兵庫県藤江別所遺跡からは、2 A類と2 B類が1面ずつ、櫛齒文鏡1面・重圈文鏡4面・珠文鏡2面が出土する。鳥取県長瀬高浜遺跡15I-SP01からは2 A類3面、重圈文鏡1面・珠文鏡1面が出土する。

素文鏡と共伴する青銅鏡は沖ノ島21号遺跡の舶載獸帯鏡2面を除いてすべて仿製鏡である。

(4) 鼻鈕の素文鏡の意義

素文鏡は鈕からみると鼻鈕の1類と円鈕の2類とに大別できる。具体的な遺跡をあげながら、各素文鏡の意義について指摘したい。

鼻鈕の素文鏡は弥生時代後期から古墳時代の後Ⅳ期まで確認できる。また、

古墳出土の2遺跡7面を除き、その大部分は集落・祭祀遺跡から出土する。

鼻鈕をもつ素文鏡は福岡県沖ノ島遺跡や奈良県山ノ神遺跡などがあり、古墳時代を代表するような遺跡の出土例が多い。山ノ神遺跡は奈良県桜井市の三輪山で祭祀が行われたとされる。祭祀の場は把握されているだけで23地点であり、祭祀遺構や祭祀遺物の発見は偶然の発見による場合が多く、不明な点が多いとある（寺沢1988）。沖ノ島遺跡は畿内政権が朝鮮半島へ向かう際に航海安全を行った遺跡と考えられている。ほかの遺跡を紹介すると、兵庫県木戸原遺跡は淡路島に位置している。遺跡自体は海に面していないものの、大陸への経由航路である瀬戸内海において、畿内の玄関口に位置する淡路島は、大和王権にとって非常に重要であったと指摘されている。木戸原遺跡は、大陸への海上路に伴った拠点祭祀の可能性があると指摘する（定松・的崎2009）。和歌山県大谷古墳は瀬戸内海の東に位置し、紀ノ川河口の遺跡である。紀ノ川は和歌山県から奈良県につながる水運を担う場所に位置する。東日本では、静岡県洗田遺跡、茨城県釜付遺跡がある。これらの遺跡も海に面した場所にあり、鼻鈕の鏡が出土する遺跡は、大和王権によって、瀬戸内海を通過して朝鮮半島へ向かう際の航海安全や、関東地方へ向かう際の安全祈願をした際の祭祀跡ではないかと推測する。なお、前期においては、日本海側に位置する鳥取県からの出土例が多いことから、日本海ルートも想定できる。

（5）円鈕の素文鏡の意義

円鈕の素文鏡は古墳時代から製作されていると考えられる。古墳から出土するものは4面のみであり、基本的に集落・祭祀遺跡で用いられる鏡であったと思われる。出土遺跡の分布をみると九州地方からの出土はみられず、中国地方・四国地方から関東地方にかけて分布する。前I期～前IV期に多い重圏文鏡、前III期～前IV期に多い珠文鏡の分布と類似している。

出土する遺跡の時期は、多くは古墳時代前期である。集落・祭祀遺跡の出土遺構を詳しくみると、住居跡や溝・河川・井戸から出土する。兵庫県藤江別所遺跡の井戸跡からは素文鏡・櫛歯文鏡・重圏文鏡・珠文鏡、碧玉製腕輪・土師器が出土する。香川県居石遺跡の河川跡からは素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡が1面ずつ出土する。滋賀県高溝遺跡では素文鏡1面と重圏文鏡1面が出土する。このように、2類の素文鏡は、ほかの小型仿製鏡と共に使用されることが多い

ようである。円鈕の素文鏡は、水や河川に関する遺構から出土することが多く、時期は前I期～前VI期のものが多い。前I期～前VII期を中心に使用された重圏文鏡も、集落遺跡・祭祀遺跡から出土している。円鈕の素文鏡と重圏文鏡は共通する使用方法であったと考える。

(6) 素文鏡の祖形に関する検討

鳥取県青谷上寺地遺跡では、弥生時代後期初頭から後葉のSD38-2より出土した素文鏡がある。鼻鈕で、やや大型である。これは最も古い素文鏡といえよう。鼻鈕の祖形と想定できるものには弥生時代小型仿製鏡をあげたい。鼻鈕の素文鏡は弥生時代後期後半の弥生時代小型仿製鏡の文様が脱落することによって出現したと考える。

円鈕については、別の祖形を想定している。高倉洋彰によると素文鏡の祖形は古墳時代小型仿製鏡の珠文鏡・重圏文鏡であるとする（高倉1995・1999）。筆者は素文鏡2A類の祖形は、後述するように重圏文鏡の中でも外区をもたず、一・二重の重圏をもつ重圏文鏡6類（第22図1～7）と想定する。素文鏡2A類と重圏文鏡6類の断面形態が類似しており、両者の共通性は高いと考える。

第4節 小結

素文鏡は弥生時代後期に出現し、古墳時代後期まで確認でき、分類は円鈕の1A類・1C類、鼻鈕の2A類・2B類に分類できる。面径は3～5cmのものが多く、製作する際には面径に規制があったと思われる。素文鏡は生活上の実用的な使用よりも、祭祀を行う際に用いることに意義があったと考えられる。

また、1類の鼻鈕と2類の円鈕とでは盛行する時期や出土する遺跡に違いがあることから、素文鏡でも鈕の形状によって使用方法や目的の違いがあると指摘できる。

(註)

(1) 本論文では、京都府木津城山遺跡出土例については縁の近くに圏線状の文様をフリーハンドで描くものがみられることから、筆者はこの青銅鏡を素文鏡には含めることはできないと考えている。また、中小田古墳は素文鏡と報告されているが、内区外周には櫛歯文帯があることを確認しているため、これも素文鏡ではないと判断する。

(2) 静岡県井戸川遺跡素文鏡は面径 2.9 cm であり、素文鏡に含まれると思うが、図面で確認しておらず検討に入れていない。

(3) 大谷古墳出土素文鏡は合計で 9 面であり、『大谷古墳とその遺物』掲載されている素文鏡 7 面の観察を行った (和歌山市立博物館 2000)

(引用文献一覧)

今井 堯 1991 「中・四国地方古墳出土素文・重圏文・珠文鏡—小形倭鏡の再検討 I—」『古代吉備』第 13 集、古代吉備研究会、1—26 頁。

今平利幸 1990 「大日塚古墳出土の小型仿製鏡について」『下野茂原古墳群』宇都宮市教育委員会、177—187 頁。

伊野近富・戸原和人・伊賀高弘・筒井崇史編 2003 『木津城山遺跡』京都府遺跡調査報告書第 32 冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター。

岡村秀典 2011 「青谷上寺地遺跡出土の漢鏡」『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告 6 金属器』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告 36、鳥取県埋蔵文化財センター、77—88 頁。

小野本 敦 2013 「素文鏡考—二宮神社境内出土鏡をめぐって—」『技術と交流の考古学』(株)同成社、223—234 頁。

近藤 滋 1980 「長瀬高浜遺跡出土の小形素文鏡」『長瀬高浜遺跡 III』財団法人鳥取県教育文化財団、24—26 頁。

定松佳重・的崎 薫 2010 「木戸原遺—4・5 次調査—」『南あわじ市埋蔵文化財調査年報 III 2006 年度埋蔵文化財調査』南あわじ市文化財調査報告書第 3 集、南あわじ市教育委員会、4—16 頁。

高倉洋彰 1995 「弥生時代小型仿製鏡の儀鏡化について」『居石遺跡』高松市教育委員会、1995、147—163 頁。

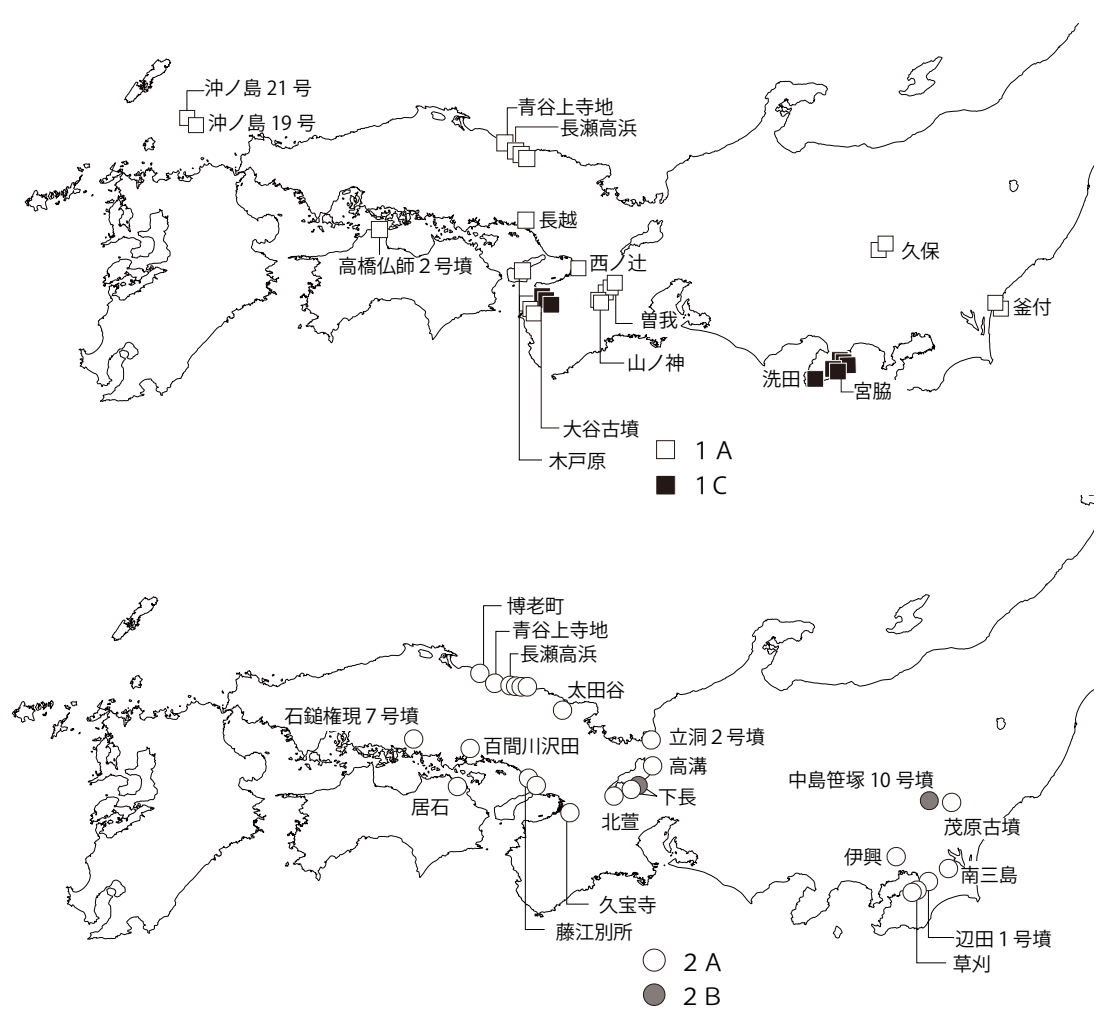
高倉洋彰 1999 「儀鏡の誕生」『考古学ジャーナル』No. 446、ニュー・サイエンス社、33—36 頁。

寺沢 薫 1988 「三輪山の祭祀遺跡とそのマツリ」『大神と石上』筑摩書房、37—76 頁。

林 正憲 2005 「小形倭鏡の系譜と社会的意義」『待兼山考古学論集—都出比呂志先生退官記

念一』大阪大学考古学研究室、267 - 290 頁。

宮崎県総合博物館 1987 『埋蔵文化財調査研究報告 I』宮崎県総合博物館。



第 10 図 素文鏡出土の遺跡名



①愛媛県高橋仏師2号墳
出土素文鏡



②香川県居石遺跡出土
素文鏡



③鳥取県博労町遺跡出土
素文鏡



④鳥取県青谷上寺地遺跡6区1層
出土素文鏡



⑤鳥取県青谷上寺地遺跡出土素文鏡



⑥鳥取県長瀬高浜遺跡 15ISP01
出土素文鏡



⑦鳥取県長瀬高浜遺跡 15ISP01
出土素文鏡

第11図 素文鏡の諸例



①鳥取県長瀬高浜遺跡
SI138 出土素文鏡



②鳥取県長瀬高浜遺跡
16LSK01 出土素文鏡



③鳥取県長瀬高浜遺跡
15ISP01 出土素文鏡



④鳥取県長瀬高浜遺跡 SI100
出土素文鏡



⑤鳥取県長瀬高浜遺跡 10 - I 地区出土素文鏡



⑥鳥取県長瀬高浜遺跡
3E・II d 地区出土素文鏡



⑦広島県石鎚権現7号墳
出土素文鏡



⑧岡山県下湯原 B 遺跡
出土素文鏡



⑨岡山県藤江別所遺跡
出土素文鏡

第 12 図 素文鏡の諸例



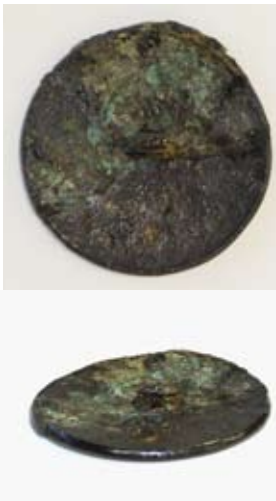
①兵庫県藤江別所遺跡
出土素文鏡



②兵庫県木戸原遺跡
出土素文鏡



③大阪府久宝寺遺跡
出土素文鏡



④和歌山県大谷古墳出土素文鏡
(報告書番号 Mc35)



⑤和歌山県大谷古墳出土素文鏡
(Mc4)



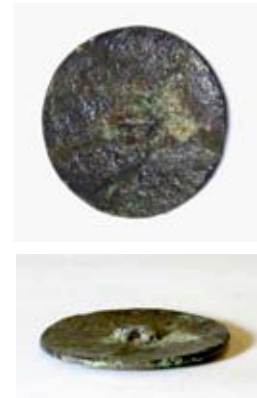
⑥和歌山県大谷古墳出土素文鏡
(Mc2)



⑦和歌山県大谷古墳出土素文鏡



⑧和歌山県大谷古墳出土素文鏡 (Mc1)



⑨和歌山県大谷古墳出土素文鏡

第13図 素文鏡の諸例



①滋賀県下長遺跡土坑SK-1
出土素文鏡



②滋賀県下長遺跡SD-5
出土素文鏡



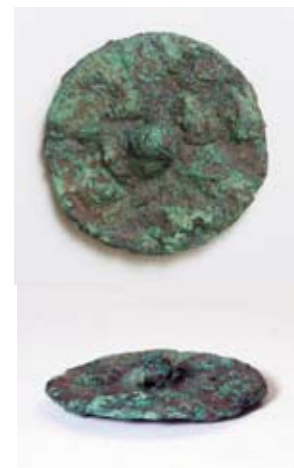
③東京都伊興遺跡
出土素文鏡



④千葉県草刈遺跡L区037号
住居出土素文鏡



⑤千葉県草刈六之台遺跡
出土素文鏡



⑥千葉県辺田1号墳
(根田6号墳) 出土素文鏡

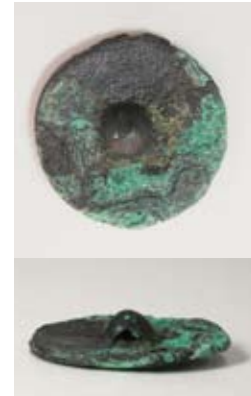
第14図 素文鏡の諸例



①群馬県久保遺跡
出土素文鏡



②群馬県久保遺跡出土素文鏡



③栃木県茂原古墳群大日塚古墳
出土素文鏡



④茨城県釜付遺跡出土素文鏡



⑤茨城県釜付遺跡出土素文鏡



⑥大阪県西ノ辻遺跡出土素文鏡

第15図 素文鏡の諸例

4表 素文鏡の出土遺跡一覧

所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代/大賀編年	分類	面径 (cm)	副葬品/ 共伴する遺物	共伴鏡
1 福岡県宗像市	沖ノ島21号遺跡	祭祀	岩上祭祀遺跡		中I期	1A	約3.0	硬玉製勾玉4・琥珀製勾玉3・碧玉製勾玉5・滑石製管玉22・硬玉性管玉8・碧玉製管玉7・滑石製管玉26・ガラス製小玉303・滑石製臼玉多数・滑石製玉1・滑石製子持刀18以上・銅釦1・鉄釦10以上・鉄刀7・鉄製刀子9・鉄鏃2・鉄鏃3・鉄斧9・鉄てい4・衝角付甕・雑形鉄刀14以上・雑形鋳形品1・雑形斧9・鉄製有孔円板1・鉄環2・滑石製有孔円板13・土師器	船載獸帯鏡1・重圓鏡1・重圓鏡?1・格子素文鏡1
2 福岡県宗像市	〃16号遺跡	祭祀	岩上祭祀遺跡		前Ⅷ期~中I期	1A	3.0	剣10・刀6・鐙4・鉄鏃21・槍2・雑形刀1・刀子17・鉄斧5・硬玉勾玉3・碧玉勾玉2・碧玉管玉93・ガラス小玉287・碧玉石釦2・鉄釦6・銅釦1・霰珠1・鉄板2・金銅方形板2・小鉄環3・滑石勾玉22・滑石管玉135・滑石小玉220・滑石霰玉23・滑石石釦5・滑石臼玉38・滑石大型臼玉2	仿製三角縁神獸鏡・仿製方格規矩鏡1・仿製内行花文鏡1
3 愛媛県今治市	高橋仏師2号墳	古墳	円墳	9.5×8	後Ⅱ期~後Ⅲ期	1A	2.7	須惠器・鉄刀子6・鉄鏃2・馬具・瑪瑙製勾玉1・水晶製勾玉1・碧玉製管玉11・水晶製丸玉2・滑石製臼玉3・ガラス丸玉4・ガラス小玉13	
4 香川県高松市	居石遺跡	祭祀	河川		前Ⅲ期~前Ⅳ期	2A	2.8	土師器	珠文鏡・重圓文鏡
5 香川県高松市	東畑古墳	古墳				2A		土製模造品?	
6 鳥取県米子市	博労町遺跡2区	集落?	包含層		不明	2A	3.4		
7 鳥取県鳥取市	青谷上寺地遺跡6区1層	集落	包含層		弥生時代後期後半	2A	3.4		
8 鳥取県鳥取市	青谷上寺地遺跡4区SD38-2	集落	溝		弥生時代後期後半	1A	4.9		
9 鳥取県湯梨浜市	長瀬高浜遺跡10-I地区	集落			不明	1A	2.2		
10 鳥取県湯梨浜市	長瀬高浜遺跡13E・II地区	集落			不明	1A	1.9		
11 鳥取県湯梨浜市	長瀬高浜遺跡S I-100	集落			前V期~前VI期	1A	2.6	勾玉・管玉・ガラス小玉・釣針・鉄鏃・砥石・磨石・土師器・板状鉄製品・棒状鉄製品・舌状鉄製品・軽石・線刻石	
12 鳥取県湯梨浜市	長瀬高浜遺跡S I-138	集落			前I期~前II期	2A	3.2	鈿・刀子・鉄鏃・土師器・土玉・板状鉄製品・針状鉄製品	

第4表 素文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代/大買編年	分類	直径(cm)	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
13	鳥取県湯梨浜市	長瀬高浜遺跡16 L S K01	集落			前V期~前VI期	2 A	3.0	鉄剣・土師器	
14	鳥取県湯梨浜市	長瀬高浜遺跡15 I S P01	集落			前I期~前II期	2 A	2.4	ガラス小玉・剣先形鉄製品・小銅鐸・銅剣金銅製模造品・石製模造品(鏡・有孔円板)・土師器・土鈴	櫛歯文鏡・仿製内行花文鏡
15	鳥取県湯梨浜市	"	集落			前I期~前II期	2 A	2.6	"	"
16	鳥取県湯梨浜市	"	集落			前I期~前II期	2 A	2.7	"	"
17	広島県福山市	石鏡権現7号墳	古墳	方墳	7	前V期~中I期	2 A	2.6		
18	岡山県真庭市	下湯原B遺跡	集落	住居		後III期~後IV期	1 C	4.2	須惠器・土師器・刀子	
19	岡山県岡山市	百間川沢田遺跡竪穴住居21	集落	住居		前I期~前II期	2 A	3.0	土師器・鼓石1・滑石製白玉1	
20	兵庫県明石市	藤江別所遺跡井戸址	祭祀	井戸		前II期~前IV期	2 B	3.8~4.0	車輪石1・滑石製勾玉1・土師器	櫛歯文鏡3・珠文鏡2・素文鏡2・重圍文鏡1
21	兵庫県明石市	"	祭祀	井戸		前II期~前IV期	2 A	2.5~2.6	"	"
22	兵庫県南あわじ市	木戸原遺跡	集落	総住建物		中I期	1 A	2.2~2.3	白玉9	
23	兵庫県豊岡市	太田谷遺跡	古墳?	不明		後II期~後IV期	2 A	3.2	水晶製切小玉5	珠文鏡3
24	兵庫県姫路市	長越遺跡	集落	溝		前V期~中II期	1 A	3.7	銅鍍2・滑石製有孔円板9・滑石製剣形品1・滑石製勾玉6・滑石製管玉3・滑石製小玉5	
25	兵庫県神崎郡香町	柏尾古墳	古墳		13		2 A	3.4	刀・鍔	仿製内行花文鏡1
26	大阪府八尾市	久宝寺遺跡住居3	集落	住居		前期	2 A	2.5		
27	大阪府東大阪市	西ノ辻遺跡16次調査	集落	水利施設の包含層		前V期~中II期	1 A	2.5		

第4表 素文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代/大賀編年	分類	面径 (cm)	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
28	和歌山県和歌山市	大谷古墳 (Mc35)	古墳	前方後円墳	70	後I期	1C	3.4	衝角付冑1・短甲1・桂甲小孔多数・鉄刀6・鉄剣2・鉄鏃5・鉄鏃多数・鉄鏃8・鉄鏃10・鉄手鐮15・鉄鏃10・刀子5・脇18・方ラス勾玉21・碧玉管玉18・ガラス丸玉221・ガラス小玉10192・ガラス管玉1・滑石玉230・滑石有孔方板1・垂飾付耳飾5・四葉形飾金具50余・金銅板金具破片・銅飾3・馬冑1・馬甲1・金銅製鞍・鞍2・輪鍔1・巻鍔1・鍔板付物1・飾付杏葉3・雲珠2・辻金具4・鈿具3・馬鈴4・面繫付金具12・木箱1・須惠器片1・埴輪	素文鏡8~9・素文飾鏡4~5
29	和歌山県和歌山市	" (Mc4)	古墳	前方後円墳	70	後I期	1C	3.1	"	"
30	和歌山県和歌山市	"	古墳	前方後円墳	70	後I期	1C	2.9~3.0	"	"
31	和歌山県和歌山市	" (Mc2)	古墳	前方後円墳	70	後I期	1A	3.0~3.1	"	"
32	和歌山県和歌山市	" (Mc1)	古墳	前方後円墳	70	後I期	1A	2.6	"	"
33	和歌山県和歌山市	"	古墳	前方後円墳	70	後I期	1A	2.6	"	"
34	和歌山県和歌山市	"	古墳	前方後円墳	70	後I期		欠損	"	"
35~37	奈良県桜井市	曾我遺跡	集落	沼状遺構		中皿期~後皿期	1A	1.2~2.6		
38~39	奈良県桜井市	山ノ神遺跡	祭祀	岩盤		前V期~中IV期	1A	3.0	子持ち勾玉・石製模造品・土製模造品・土師器・須惠器	
40	滋賀県草津市	北萱遺跡	集落	包含層		不明	2A	2.4		
41	滋賀県米原市	高津遺跡	集落	溝		前皿期~前VI期	2A	3.3	銅鏡1	重圓文鏡1
42	滋賀県守山市	下長遺跡SD-5	祭祀	溝		中皿期~中IV期	2B	3.7	須惠器・土師器・木器	
43	滋賀県守山市	"土坑SK-1	祭祀	土坑		中皿期~中IV期	2A	2.6	土師器	
44	滋賀県守山市	伊勢(大洲)遺跡	祭祀	10×13cmの土坑から出土		前期	2A	3.0	勾玉・管玉・ガラス小玉・釣針・鉄鏃・砥石・磨石	
45	静岡県下田市	洗田遺跡	祭祀			中I期~後IV期	1C	4.3	石製模造品(有孔円板・勾玉・白玉・管玉)・土製模造品(鏡・円盤・丸玉)・手裡土器	珠文鏡1
46	静岡県熱海市	宮庭遺跡	祭祀			中皿期~後IV期	1C	3.3	石製模造品・土馬・土製模造品・手裡土器	菱形六款鏡1
47	静岡県熱海市	"	祭祀			中皿期~後IV期	1C	3.5	"	"

第4表 素文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代/大買編年	分類	直径(cm)	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
48	静岡県熱海市	"	祭祀			中二期～後四期	1C	4.3	"	"
49	静岡県熱海市	"	祭祀			中二期～後四期	1C	4.5	"	"
50	静岡県熱海市	"	祭祀			中二期～後四期	1C	5.0	"	"
51	福井県敦賀市	立洞2号墳	古墳	帆立貝形古墳	20	前V期～前VI期	2B	4.2	竹櫛2・石剣3・凝灰岩質頁岩製管玉6・ガラス小玉25・鉄剣1・鉄斧1	
52	東京都足立区	伊興遺跡	集落	住居		前V期～前VI期	2A	2.1	土師器・白玉12	
53	千葉県市原市	葛刈遺跡六之台遺跡823号	集落	住居		前V期～前VI期	2A	2.8	土師器	
54	千葉県市原市	草刈遺跡L区037号住居	集落	住居		前V期～前VI期	2A	1.9	土師器	
55	千葉県市原市	辺田1号墳第2主体部(根田6号墳)	古墳	円墳	31	前III期～前V期	2A	2.9~3.0	管玉・飾・素環頭大刀・大刀・短剣・櫛先	
56	群馬県富岡市	久保遺跡	祭祀	祭祀遺跡		中IV期～後III期	1A	2.2	子持ち勾玉・石製模造品(有孔円板・玉・白玉・剣・刀子・鍬・甲冑)・水晶製切小玉10・泥岩製管玉1・硬玉製平玉2・ガラス小玉2・須恵器・土師器・手捏土器	
57	群馬県富岡市	"	祭祀	祭祀遺跡		中IV期～後III期	1A	5.0	"	
58	栃木県宇都宮市	中島笹塚10号墳	古墳	円墳	14	中二期	2B	4.4	土師器・須恵器	
59	栃木県宇都宮市	茂原古墳群大日塚古墳	古墳	前方後方墳	36	前II期～前III期	2A	2.6	墳丘・周溝：土師器	
60	茨城県竜ヶ崎市	南三島遺跡	集落	竪穴式住居の溝		不明	2A	2.9	土師器	
61	茨城県那珂市	釜付遺跡	祭祀	祭祀		中III期～後I期	1A	3.3	直刀・剣形模造品197・有孔円板126・勾玉4・白玉2・手捏土器・鉄器破片・土師器	
62	茨城県那珂市	"	祭祀	祭祀		中III期～後I期	1A	3.2	"	

素文鏡出土遺跡参考文献

◀ 1. 福岡県沖ノ島 16 号遺跡 ▶

鏡山 猛・原田大六・坂本経暁・渡辺正気・嶺 正男・仙波喜美雄編 1958 『沖ノ島』宗像大社復興会期成会。

鏡山 猛・乙益重隆・賀川光夫・原田大六編 1961 『続沖ノ島』宗像大社復興会期成会。

西田正夫編 1979 『宗像沖ノ島 I』吉川弘文館。

佐田 茂 1999 「福岡県大島村沖ノ島遺跡の祭祀遺構と儀鏡」『考古ジャーナル』No. 446、ニューサイエンス社、29 - 32 頁。

水野敏典研究代表 2010 「Ⅱ. 宗像大社所蔵鏡の調査」『考古資料における三次元デジタルアーカイブの活用と展開』（平成 18 年度～平成 21 年科学研究費補助金基盤研究（A）研究成果報告書）奈良県立橿原考古学研究所。

◀ 2. 福岡県沖ノ島 21 号遺跡 ▶

鏡山 猛・原田大六・坂本経暁・渡辺正気・嶺 正男・仙波喜美雄編 1958 『沖ノ島』宗像大社復興会期成会。

鏡山 猛・乙益重隆・賀川光夫・原田大六編 1961 『続沖ノ島』宗像大社復興会期成会。

西田正夫編 1979 『宗像沖ノ島 I』吉川弘文館。

佐田 茂 1999 「福岡県大島村沖ノ島遺跡の祭祀遺構と儀鏡」『考古ジャーナル』No. 446、ニューサイエンス社、29 - 32 頁。

水野敏典研究代表 2010 「Ⅱ. 宗像大社所蔵鏡の調査」『考古資料における三次元デジタルアーカイブの活用と展開』（平成 18 年度～平成 21 年科学研究費補助金基盤研究（A）研究成果報告書）奈良県立橿原考古学研究所。

◀ 3. 愛媛県高橋仏師 2 号墳 ▶

山内英樹編 2008 『別名一本松古墳・矢田長尾 1 号墳・矢田長尾 I 遺跡・高橋佐夜ノ谷遺跡・高橋向谷 2 号墳・高橋仏師 1～4 号墳』今治新都市開発に伴う埋蔵文化財調査報告書第 5 集、埋蔵文化財発掘調査報告書第 146 集、財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター。

◀ 4. 香川県居石遺跡 ▶

山元敏裕編 1995 『居石遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 30 集、高松市教育委員会。

《 5. 鳥取県博労町遺跡 》

濱野浩美編 2011 『博老町遺跡』(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書 64、財団法人米子市教育文化事業団。

《 6～8. 鳥取県青谷上寺地遺跡 》

北浦弘人編 2001 『青谷上寺地 3 (本文編 1)』鳥取県教育文化財団調査報告書 72、財団法人鳥取県教育文化財団。

湯村 功編 2002 『青谷上寺地 4 (本文編 1)』鳥取県教育文化財団調査報告書 74、財団法人鳥取県教育文化財団。

加藤裕一・坂本嘉和・野田真弓編 2004 『青谷上寺地遺跡 7』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告 7、財団法人鳥取県埋蔵文化財センター。

《 9～16. 長瀬高浜遺跡 》

清水真一ほか 1981 『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅲ』鳥取県教育文化財団報告書 8、財団法人鳥取県教育文化財団。

財団法人鳥取県教育委員会文化財団編 1982 『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅳ』鳥取県教育文化財団報告書 11、財団法人鳥取県教育委員会文化財団。

田中精夫・影山和雅・久保穰二郎・西村彰滋・中村 徹 1983 『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』鳥取県教育文化財団報告書 12、財団法人鳥取県教育文化財団。

西村彰滋・笹尾千恵子・大賀靖浩・福嶋慶純・賀須井 智・野島珠美・河田浩介・国田修二郎・名越智津子編 1983 『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅵ』鳥取県教育文化財団報告 14、財団法人鳥取県教育文化財団。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

清水真一 1999 「鳥取県羽合町・長瀬高浜遺跡の祭祀遺構と儀鏡」『考古ジャーナル』No. 446、ニューサイエンス社、21 - 24 頁。

《 17. 広島県石鎚権現第 7 号古墳 》

新谷武夫編 1981 『石鎚権現古墳群発掘調査報告—第 6・7・8 号古墳—』広島県教育委員会。

《 18. 岡山県下湯原B遺跡 》

内藤善史編 2002 『下湯原B遺跡・藪途山城跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告166、岡山県古代吉備文化財センター。

《 19. 岡山県百間川沢田遺跡 》

二宮治夫編 1985 『百間川沢田遺跡2 百間川長谷遺跡2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告59、岡山県教育委員会。

《 20・21. 兵庫県藤江別所遺跡 》

稲原昭嘉編 1996 『藤江別所遺跡』明石市文化財調査報告第2冊、明石市教育委員会。

稲原昭嘉 1999 「藤江別所遺跡の祭祀井戸と儀鏡」『考古ジャーナル』No.446、ニューサイエンス社、17－20頁。

《 22. 兵庫県木戸原遺跡 》

定松佳重・的崎 薫 2009 「木戸原遺跡第1次調査」『南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅱ 2005年度埋蔵文化財調査』南あわじ市文化財調査報告書第2集、南あわじ市教育委員会、4－22頁。

定松佳重・的崎 薫 2010 「木戸原遺跡－4・5次調査－」『南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅲ 2006年度埋蔵文化財調査』南あわじ市文化財調査報告書第3集、南あわじ市教育委員会、4－16頁。

《 23. 兵庫県太田谷出土 》

小野山 節・都出比呂志・黒河富美子編 1968 『京都大学文学部博物館考古学資料目録第2部日本歴史時代』京都大学文学部。

《 24. 兵庫県長越遺跡 》

松下 勝編 1978 『播磨・長越遺跡(本文編)』兵庫県文化財調査報告書第12冊、兵庫県教育委員会。

櫃本誠一 2002 「長越遺跡」『兵庫県の出土古鏡』学生社、165－166頁。

《 25. 兵庫県柏尾古墳 》

和田千吉 1899 「播磨国神崎郡香呂村の古墳」『考古学会雑誌』第2巻第11号、考古学会、377－380頁。

櫃本誠一 2002 「柏尾古墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、146－147頁。

《 26. 大阪府久宝寺遺跡 》

八尾市文化財調査研究会 1992 「久宝寺遺跡第8次調査(KH 91 - 8)」『平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』財団法人八尾市文化財調査研究会、22 - 24 頁。

大阪府立弥生文化博物館編 1999 『卑弥呼誕生一畿内の弥生社会～ヤマト政権へ』大阪府立弥生文化博物館。

(財)八尾市文化財調査研究会 2006 『久宝寺遺跡－竜華操車場跡地における調査成果－』(財)八尾市文化財調査研究会。

《 27. 大阪府西ノ辻遺跡 》

吉村博恵 1989 「海獣葡萄鏡の一例(上)」『東大阪市文化財協会ニュース』Vol. 4、No 2、財団法人東大阪市文化財協会、8 - 12 頁。

《 28 ~ 34. 和歌山県大谷古墳 》

樋口隆康・西谷真治・小野山 節編 1985 『増補大谷古墳』同朋社出版。

大野左千夫編 2000 『大谷古墳とその遺物』和歌山市立博物館。

《 35 ~ 37. 奈良県曾我遺跡 》

関川尚功ほか 1984 『奈良県遺跡調査概報告(第1分冊)1983年度』奈良県立橿原考古学研究所。

《 38・39. 奈良県山ノ神遺跡 》

樋口清之 1928 「奈良県三輪町山ノ神遺跡研究」『考古学雑誌』第18巻第18号、日本考古学会、49 - 59 頁。

樋口清之 1928 「奈良県三輪町山ノ神遺跡研究」『考古学雑誌』第18巻第20号、日本考古学会、33 - 49 頁。

寺沢 薫 1988 「三輪山の祭祀祭祀遺跡とそのマツリ」『大神と石上』筑摩書房、37 - 75 頁。

石野博信 2003 「三輪と宗像」『三輪山の考古学』学生社、94 - 119 頁。

菅谷文則 2003 「神話成立を考古学から考える－三輪山伝承を中心として－」『三輪山の考古学』学生社、5 - 38 頁。

《 40. 滋賀県北萱遺跡 》

三宅 弘編 1994 『北萱遺跡発掘調査報告書－草津川改修事業に伴う発掘調査報告書－』滋賀県教育委員会、(財)滋賀県文化財保護協会。

《 41. 滋賀県高溝遺跡 》

宮崎幹也編 1990 『高溝遺跡』近江町文化財調査報告書第4集、近江町教育委員会。

宮崎幹也 1999 「滋賀県近江町高溝遺跡の儀鏡と祭祀遺構」『考古ジャーナル』No. 446、
ニューサイエンス社、14 - 16 頁。

◀ 42・43. 滋賀県下長遺跡 ▶

内海 晃 1966 「7 東海」『日本の考古学』IV古墳時代（上）、河出書房新社、353 - 407 頁。

岩崎 茂・山崎秀二編 1985 『下長遺跡発掘調査報告 岡遺跡発掘調査報告』守山市文化財調査報告書第19冊、守山市教育委員会。

静岡県編 1992 『静岡県史』資料編3考古3、静岡県。

◀ 44. 滋賀県伊勢遺跡 ▶

守山市教育委員会 1995 『伊勢・大洲遺跡辺地説明会資料』守山市教育委員会。

滋賀県埋蔵文化財センター編 1995 「玉類と破砕鏡が出土 守山市伊勢・大洲遺跡」『滋賀県埋文ニュース』第184号、滋賀県埋蔵文化財センター、1 - 2 頁。

滋賀県文化財保護協会 1996 「弥生時代後期の集落守山市伊勢・大洲遺跡」『滋賀文化財だより』No. 218、財団法人滋賀県文化財保護協会、5 頁。

◀ 45. 静岡県洗田遺跡 ▶

大場磐雄 1938 「南豆洗田の祭祀遺跡」『考古学雑誌』第28巻第3号、日本考古学会、43 - 211 頁。

堀田美桜男・川合治栄 1950 『加茂郡朝日村吉佐美小字溝の上（洗田）原史時代祭祀遺蹟』静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告第13集、静岡県。

静岡県編 1990 『静岡県史 資料編2 考古2』静岡県。

◀ 46 ~ 50. 静岡県宮脇遺跡 ▶

熱海市史編纂委員会編 1967 『熱海市史』上巻 熱海市史。

外岡龍二 1974 「伊豆の祭祀遺跡」『駿豆考古』第20・21合併号、駿豆考古会、32 - 50 頁。

小野真一 1990 「静岡県熱海市宮脇遺跡の祭祀遺構と儀鏡」『考古ジャーナル』No. 446、
ニューサイエンス社、10 - 13 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀 - 祭祀関係の遺跡と遺物◀第I分冊 - 東日本編I - 東北・東海地方・中部・北陸▶』東日本埋蔵文化財研究会。

《 51. 福井県立洞 2 号墳 》

中司照世・山口 充編 1977 『立洞 2 号墳 山の上 1 号墳』北陸自動車道関係遺跡調査報告書第 13 集、福井県教育委員会。

《 52. 東京都伊興遺跡 》

中山俊之・喜多裕明・猪股佳二・寺里和久編 1990 『伊興遺跡 平成元年度－伊興遺跡公園予定地調査概報－』足立区伊興遺跡公園調査会・足立区教育委員会。

実川順一・小田静夫・小林重義編 1992 『伊興遺跡』足立区伊興遺跡公園調査会・足立区教育委員会。

《 53. 千葉県草刈遺跡六之台遺跡 823 号 》

白井久美子・島立 桂ほか 1994 『千原台ニュータウンVI－草刈六之台遺跡－（第 2 分冊）』千葉県文化財センター調査報告第 241 集、財団法人千葉県文化財センター。

《 54. 千葉県草刈遺跡 L 区 037 号住居 》

小林清隆・酒井 宏・山口典子編 2010 『千原台ニュータウン 市原市草刈遺跡（L 区）』千葉県教育振興財団調査報告第 646 集、財団法人千葉県教育振興財団文化財センター。

《 55. 千葉県辺田 1 号墳 》

木對和紀編 2004 『市原市辺田古墳群・御林跡遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告 X II、財団法人市原市文化財センター。

《 56・57. 群馬県久保遺跡 》

田島桂男編 1984 『日本の古代遺跡 17 群馬西部』保育者。

外山和夫 1987 『富岡市史』自然編原始・古代・中世編、富岡市市史編さん委員会。

《 58. 栃木県中島笹塚 10 号墳 》

内山敏行・志賀智史編 2008 『東谷・中島地区遺跡群 9 中島笹塚古墳群・中島笹塚遺跡（1～8 区）』栃木県埋蔵文化財調査報告第 311 集、栃木県教育委員会・財団法人とちぎ生涯学習文化財団。

《 59. 栃木県茂原古墳群大日塚古墳 》

久保哲三編 1990 『茂原古墳群』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 28 集、宇都宮市教育委員会。

《 60. 茨城県南三島遺跡 》

小山映一編 1989 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 18 南三島遺跡 3・4 区

(Ⅱ)』茨城県教育財団文化財調査報告第49集、財団法人茨城県教育財団。

《61・62. 茨城県釜付遺跡》

井上義安・千種重樹編 1986 『常陸釜付祭祀遺跡』東海村釜付遺跡調査会。

瓦吹 堅 1992 「第3章古墳時代」『東海村史 通史編』東海村史編さん委員会、55－82頁。

第3章 重圏文鏡の研究

はじめに

重圏文鏡は弥生時代後期末から古墳時代前期にみられる青銅製の小型仿製鏡であり、特に古墳時代初頭を中心に展開する鏡式である。弥生時代後期末から古墳時代にかけての小型仿製鏡を考える上で欠かすことのできない鏡である。ただし小型であることから、この鏡には政治的な意味合いがどの程度のものであったのかという点については研究者によって意見が分かれている。

本研究では重圏文鏡の編年、出土遺跡の検討、類似する古墳時代仿製鏡との関係について論じ、重圏文鏡の出現した背景や役割について述べたい。

第1節 重圏文鏡の研究史

重圏文鏡に関してこれまでにいくつかの分類や系譜に関する研究がある。ここでは研究史を概観し、これまでの研究とその問題点を整理する。

(1) 分類に関する研究

分類に関して、林原利明・藤岡孝司・今井堯・松本佳子らの研究がある。林原利明は、重圏文鏡は弥生時代仿製鏡の系譜を引くものと考え、舶載鏡と区別するために「小形重圏文仿製鏡」という名称を使用した。そして、円圏の圏数および外区の櫛歯文帯を基準として7つに大別した。特筆すべきことは、神奈川県駒形遺跡例のX線写真から「円圏に認められる文様状のもの」があることを指摘し、円圏にみられる文様状のものと珠文鏡の珠文との類似を指摘している点である（林原 1990）。分類は以下の通りである。

A類：二重の円圏をもつもの。外区の有無により、以下のように細分できる。

I：外区をもたないもの。（下坂部鏡）

II：外区をもつもの。（朝田鏡、見田・大沢鏡、伊興鏡）

B類：三重の円圏をもつもの。外区の有無により、以下のように細分できる。

I：外区をもたないもの。（小深田鏡）

II：外区をもつもの。さらに外区・内区の文様構成により細分できる。

1 : 外区は櫛歯文帯、内区は円圏のみで飾られるもの。(北田井鏡、梶山鏡)

2 : 外区・内区に1以外の文様をもつもの。(唐子台鏡、亀甲山鏡)

C類 : 四重の円圏をもつもの。(駒形鏡、戸張鏡、西念・南新保鏡、勅使塚鏡、鬼の首鏡、新谷鏡)

D類 : 五重の円圏をもつもの。(小深田西鏡、忠明鏡)

E類 : 六重の円圏をもつもの。(田中A鏡、二又堀鏡)

F類 : 円圏が無文帯あるいは文様帯による2分割されているもの。外区の有無により、以下のように細分できる。

I : 外区をもたないもの。(御旅山鏡)

II : 外区をもつもの。さらに円圏を分割する空間の違いにより細分できる。

1 : 櫛歯文帯により円圏を2分割するもの。(鷹塚山鏡、向山鏡)

2 : 無文帯により円圏を2分割するもの。(老司鏡)

藤岡孝司は、重圏文鏡は弥生時代小型仿製鏡の影響を受けて出現すると考えた。重圏文鏡の内区文様と外区文様に着目して、「5形式8類」に分類を行った。分類は以下の通りである(藤岡1991)。

I型 櫛歯文帯－円圏

II型 円圏のみ

III型 櫛歯文帯①－円圏－櫛歯文帯②－円圏

a類 櫛歯文帯①が斜行するもの

b類 櫛歯文帯②が斜行するもの

c類 櫛歯文帯はすべて放射状に配されるもの

IV型 鋸歯文帯－櫛歯文帯－円圏

V型 櫛歯文帯－(円圏)－珠文状結線文－(円圏)

a類 円圏＋珠文状結線文のもの

b類 a類＋鋸歯文帯のもの

今井堯は重圏文鏡は大型・中型仿製鏡にみられる外区文様によって構成されることから、文様の省略によって出現したと述べ、重圏文鏡は仿製三角縁神獸鏡・獸形鏡・獸帯鏡などと別系統にはならないことを指摘した。重圏文鏡を2分類し、重圏文鏡1類は典型的な重圏文鏡、重圏文鏡2類は、粗く幅広い櫛歯文が内区部位に一部はいりこんだ重圏櫛歯文鏡とする(今井1991)。

松本佳子は弥生時代小型仿製鏡の検討を行い、「重圏文日光鏡系小形仿製鏡」

の中で偽銘帯のないものを「う類」とし、さらに櫛歯文の向きに着目して細分した（松本 2008）。う類の分類を以下に示す。

う-1類 櫛歯文のみで単独の圏線はもたず、櫛歯文の向きは同じ。（（伝）熊本・菊池郡・阿蘇郡）

う-2a類 櫛歯文のみで単独の圏線はもたず、向きの異なる斜行櫛歯文。（山口・土井ヶ浜）

う-2b類 鈕のすぐ外側と縁のすぐ内側の2か所に櫛歯文をもち、間に単独の圏線をもち、外側の櫛歯は斜行櫛歯文（大阪・鷹塚山）

う-3b類 鈕のすぐ外側と縁のすぐ内側の2か所に櫛歯文をもち、間に単独の圏線をもち、外側の櫛歯は直行櫛歯文（岡山・津寺）

う-4b類 櫛歯文は縁の内側に一条のみで、単独の圏線は二条以下しかもない。珠文を配するものもある。（香川・居石）

（2）「珠文状結線文」をもつ重圏文鏡の研究

最初に圏線上にみられる文様を「円圏に認められる文様状のもの」と指摘したのは林原利明である。茨城県勅使塚古墳例、千葉県駒形遺跡例、同県二又堀遺跡例、石川県西念・南神保遺跡例、岡山県忠明古墳例の5例を指摘し、京都府志高遺跡例はこれに類似するものと述べた（林原 1990）。その後、藤岡孝司はこの文様を「珠文状結線文と仮称する」とし、10例を紹介した。さらにa類として円圏+珠文状結線文のもの、b類としてa類+鋸歯文帯のものと細分した。さらに、時期を3段階に設定しており、Ⅰ期は弥生時代終末から古墳時代初頭で、西念・南新保遺跡例、唐子台遺跡例、Ⅱ期は古墳時代前期で駒形遺跡例、勅使塚古墳例、Ⅲ期は5世紀代で寺林1号墳例、龍門寺14号墳として、Ⅰ期からⅢ期に向かって珠文状結線文上の文様（珠文状・鋸歯文）が明瞭化する傾向が窺われ、珠文鏡に連続する様相があると指摘した（藤岡 1991）。

（3）重圏文鏡の祖形・意義に関する研究

後藤守一は重圏文鏡を「圏を重ねたもの」と定義し、重圏文鏡の祖形を前漢式鏡であるとみなしており（後藤 1926）、仿製鏡であると考えていなかった。

小林三郎は、重圏文鏡の母型に関しては、前漢代の「日光鏡」や「明光鏡」や「四蛇鏡」であると推定し、弥生時代の小型仿製鏡と同じ母型であると述べた。ま

た、方格規矩鏡や三角縁神獸鏡などとは系譜が異なると指摘し、古墳時代の初期仿製鏡には二大源流があると指摘する（小林 1979）。

高倉洋彰は弥生時代小型仿製鏡の検討を行い、その中で重圏文鏡についても論じ、弥生時代後期末の大阪府鷹塚山遺跡例が最も古いと述べた。重圏文鏡は、弥生時代小型仿製鏡である重圏文日光鏡系仿製鏡第Ⅲ型b類が面径の縮小にともない、文様帯部分が2～4重の円圏のみとなったものと指摘する（高倉 1972・1985・1991）。

森岡秀人は弥生時代小型仿製鏡の検討を行い、弥生時代の重圏文鏡系の鏡が、古墳時代小型仿製鏡である重圏文鏡・珠文鏡に連なると指摘した（森岡 1989）。

松本佳子は弥生時代小型仿製鏡の（伝）菊池郡・阿蘇郡例が重圏文鏡に係する鏡であると示している（松本 2008）。

このように祖形については、高倉・森岡・松本の弥生時代小型仿製鏡に連なるといふ研究や、後藤や小林の舶載鏡を模倣するものという見解がみられる。

重圏文鏡の意義について論じたものには今井堯、林正憲の研究がある。今井は素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡の検討を行い、これらは、中・大型仿製鏡と同じ出土状況であること、重圏文鏡は近畿地方にもある程度分布することから、ランクは低いとしても、権威のシンボルであったと指摘している（今井 1991）。一方で林は、素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡は地域ごとの生産地があったと指摘し、これらの小型仿製鏡は、弥生時代後期以降基本的なデザインに変化がなく、大型化を志向しないことから、政治的要素が極めて希薄であったと考える（林 2005）。このように重圏文鏡はその祖形を何に求めるのか、政治的役割がどの程度であったのかという点については、研究者間で意見が異なっている。

第2節 重圏文鏡の分類と編年

（1）分類

分類方法は、鏡背面の文様が最も重要な要素であると考えられる。林原利明の分類を参考にし、重圏文鏡の内区外周・外区、さらに、圏線状の珠文状結線文に着目し。分類1類から7類に大別した。

圏線の説明を行う際には、一重の圏線は「圏線1」、二重の圏線は「圏線2」

と表す。分類は以下の通りとする。

- 1 類 一重の斜行櫛歯文帯と一重の直行櫛歯文帯をもつもの
- 2 類 二重以上の櫛歯文帯をもつもの。
- 3 類 櫛歯文帯と鋸歯文帯をもつもの。
- 4 類 一重の櫛歯文帯をもつもの。
- 5 類 圏線のみであり、外区をもつもの
- 6 類 圏線のみであり、外区をもたないもの。
- 7 類 珠文状結線文をもつもの。

(2) 重圏文鏡の資料紹介

1 宮崎県西ノ別府遺跡（第20図9、第37図①）

西ノ別府遺跡は集落遺跡であり、重圏文鏡は住居から出土している。ほかには土師器と石製品が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅵ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は緑色を呈し、鑄上がりは良い。面径は7.1 cm、重量39 g、縁幅1.0 cm、縁厚0.3 cm、鈕幅1.5 cm、鈕高0.9 cm、鈕孔幅0.6 cm、鈕孔高0.3 cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、4圏線－櫛歯文となる。鏡背面の文様間に赤色顔料がみられる。分類は4a類である。

2 熊本県山鹿市舞野2号石棺（第22図6、第37図②）

舞野2号石棺は墳丘がなく、石棺内から重圏文鏡1・土師器・鉄刀子が出土している。石棺内からは壮年の女性の骨が確認され、重圏文鏡は頭部の右側で、鏡面を外に向けた状態で出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径4.2 cm、重量8 g、縁幅0.7 cm、縁厚0.14～0.18 cm、鈕幅0.3 cm、鈕高0.2 cm、鈕孔幅0.3 cm、鈕孔高0.2 cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は4圏線のみで、外区は無文である。分類は5類である。

3 大分県大分市亀甲山古墳（第18図5）

亀甲山古墳は円墳であり、重圏文鏡1・碧玉製管玉・ガラス小玉・鉄刀片・三神三獣鏡が出土している。時期は不明である。

重圏文鏡は面径5.8 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線？－櫛歯文帯－鋸歯文帯である。分類は3b類である。

4 佐賀県唐津市佐志中通遺跡（第24図1、第37図④）

佐志中通遺跡は集落遺跡であり、時期は不明である。重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は緑黒色で、おおよそ半分を欠損している。復元面径5.0cm、縁幅0.8cm、縁厚0.2cm、鈕幅1.4cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.6cm、鈕孔高0.3cmである。鈕の形状は半円球状に近い。

文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－櫛歯文帯となる。2・3圏線目は珠文状結線文がみられるが、明瞭ではない。分類は7i類である。

5 佐賀県鳥栖市永田遺跡（第19図12、第37図③）

永田遺跡は前期古墳の可能性があるが、攪乱を受けており、詳細な時期は不明である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は淡緑色で完形である。面径は6.5cm、重量56g、縁幅0.8cm、縁厚0.4cm、鈕幅1.8cm、鈕高1.2cm、鈕孔幅0.7cm、鈕孔高0.3cmである。本鏡は鈕が大型で、鈕孔は方形である。

文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

6 佐賀県基山町中隈山5号墳（第25図6、第37図⑤）

中隈山5号墳は丘陵上に位置する古墳である。前Ⅲ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は約2分の1を欠損している。黒色である。復元面径7.1cm、重量19g、縁厚0.3cm、鈕孔幅0.7cm、縁幅0.5cmである。鈕孔形態は半円形状である。

文様構成は鈕から外に向かって、4円圏－櫛歯文帯－1円圏－鋸歯文帯となる。3円圏には珠文状結線文である。分類は7v類である。破面への研磨は確認できない。鈕孔の形状は半円球状に近く、群馬県神保下條遺跡出土重圏文鏡（第18図1、第45図④）の形状と類似する。

7 福岡県朝倉市立野遺跡（第18図4）

立野遺跡は古墳であり、箱式石棺である。石棺からは刀子・鉄鉈が出土する。

重圏文鏡は面径5.3cmである。4分の3が欠損している。時期は前Ⅲ期～前Ⅴ期である。残存部分の文様構成は内側から2圏線－櫛歯文帯－鋸歯文帯である。鋸歯文帯は外区である。分類は3類である。

8 福岡県糸島市荻浦A-20-a地点（第17図6）

荻浦遺跡は祭祀遺跡であり重圏文鏡1・馬具・須恵器が出土している。後Ⅱ

期である。面径は5.6 cmである。文様構成は、鈕から外に向かって、1 圏線－2 重の櫛歯文帯となる。分類は2類である。

9 福岡県粕屋郡粕屋町鬼首古墳

鬼首古墳は円墳である。箱式石棺から重圏文鏡が出土している。時期は判断できない。重圏文鏡は面径7.6 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線－櫛歯文帯となる。分類は4類である。

10 福岡県苅田町稲光遺跡（第23 図6）

稲光遺跡は集落遺跡であり、包含層から重圏文鏡1・弥生土器・土師器が出土している。時期は弥生時代終末～古墳時代前期である。

重圏文鏡は面径3.4～3.5 cmであり、文様構成は1 圏線のみであり、外区はなく、平縁となる。分類は6類である。

11 福岡県北九州市谷遺跡

谷遺跡は集落遺跡であり、竪穴住居から重圏文鏡1・土師器が出土している。時期は前Ⅰ期～前Ⅱ期である。

重圏文鏡は面径4.3 cmで、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－櫛歯文帯である。分類は4類である。

12 山口県山口市朝田墳墓群8号墳（第19 図2・第37 図⑥）

朝田墳墓群は丘陵上に位置し、8号墳は辺長9.0×12.7 mの方墳である。箱式石棺の棺内から、重圏文鏡1・鉄鉈が出土し、周溝から土師器が出土している。重圏文鏡は頭部の右側より出土した。時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は淡灰色であり、面径4.2cm、重量11 g、縁厚0.14 cm、縁幅0.8 cm、鈕幅10.5 cm、鈕高0.6 cm、鈕孔幅0.35 cm、鈕孔高0.2 cmである。鈕孔形態は楕円形である。文様構成は、鈕から外に向かって、1 圏線－櫛歯文帯である。分類は4 b類である。

13 島根県邑智郡邑南町大峠山古墳群

大峠山古墳群から重圏文鏡1が出土している。時期は中Ⅰ期である。重圏文鏡の面径は不明で、文様構成は櫛歯文帯文が確認できる。分類は4類である。

14 島根県雲南市三刀屋熊谷2号墳第1主体部

三刀屋2号墳の溝から重圏文鏡1が出土している。古墳の規模は不明である。ほかには刀子・瑪瑙製勾玉・鉄鎌が出土している。時期は前Ⅶ期～中Ⅱ期である。重圏文鏡は面径は5.5 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線

一櫛歯文帯である。

15 鳥取県米子市博労町遺跡（第38図②）

博労町遺跡は集落遺跡であり、遺物包含層からの出土である。年代は不明である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。破鏡であり、全体の5分4ほどを欠損している。2カ所に分割のための穿孔がみられる。文様構成は鈕から外に向かって、4圏線一櫛歯文帯である。分類は4b類である。

16 鳥取県東伯郡羽合町長瀬高浜遺跡

長瀬高浜遺跡は10m以上も堆積した白砂の下層にある厚さ1～2mの黒砂層の中から弥生時代から中世の遺物や遺構が発見されている。竪穴住居SI249から土師器が出土している。時期は前IV期～前VI期である。

重圏文鏡の面径は4.3cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、3圏線一櫛歯文帯である。分類は5類である。

17 鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡（第17図5、第38図①）

青谷上寺地遺跡は勝部川から伸びる三角州の先端部に位置する弥生時前期から古墳時代前期の集落遺跡である。古墳時代から奈良時代の1区1層から重圏文鏡1が出土している。時期は前I期～前II期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は約3分の2を欠損している。破鏡であり、3つの穿孔と2つの補修痕がみられる。黒色を呈し、鋳あがりが良い。復元面径9.1cm、現存重量36g、縁幅0.38cm、鈕幅1.3cmである。文様構成は、櫛歯文帯一5圏線一櫛歯文帯である。分類は2類である。重圏文鏡の中では最も大型である。

18 鳥取県鳥取市古郡家1号墳北棺

古郡家1号墳は墳長92.5mの前方後円墳であり、箱式石棺から重圏文鏡1・長方板革綴短甲・鉄剣・鉄鏃・鉄鉈・鉄刀子・竪櫛・土師器が出土している。時期は中1期である。

重圏文鏡は面径8.7cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、6圏線一櫛歯文帯である。1圏線は珠文状結線文である。分類は7i類である。

19 広島県広島市毘沙門台遺跡（第25図2）

毘沙門台遺跡は集落遺跡の住居から出土している。時期は前I期～前III期である。

重圏文鏡は面径 6.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線一櫛歯文帯である。3 圏線目に珠文状結線文が巡る。分類は 7 ii 類である。

20 広島県三次市下山手 4 号墳（第 24 図 2、第 38 図③）

下山手 4 号墳は辺長 14 m の方墳であり、重圏文鏡は周溝から 1 面出土している。他には土師器が出土している。時期は前 VI 期～前 VII 期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 5.3 cm、重量 12 g、縁幅 0.9 cm、鈕幅 1.3 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.4 cm である。鈕孔形態は楕円形である。文様構成は 3 圏線一櫛歯文帯である。1・2 圏線に珠文状結線文がある。分類は 7 i 類である。

21 広島県府中市山ノ神 1 号墳第 2 号箱式石棺（第 20 図 7、第 38 図④）

山ノ神 1 号墳は径 12 m の円墳であり、箱式石棺には 2 体の人骨が埋葬されていた。34～35 才の成人男性と、成人女性である。重圏文鏡は、鏡面を上にして、女性の頭部の下からの出土しているため、女性に伴うものと判断している。他には水晶製勾玉・ガラス製小玉・刀子・針・鼓形器台が出土している。時期は前 III 期～前 VII 期である。重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 6.4 cm、重量 42 g、縁厚 0.20～0.25 cm、縁幅 1.0 cm、鈕幅 1.3 cm、鈕高 0.6 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.3 cm であり、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は、鈕から外へ向かって 4 圏線一櫛歯文帯であり、分類は 4 b 類である。

22 岡山県岡山市一宮天神山 2 号墳（第 19 図 10・第 38 図⑤）

一宮天神山 2 号墳は墳長 60 m 以上の前方後円墳であり、竪穴式石棺の棺内より珠文鏡 1・捩文鏡・硬玉製勾玉・碧玉製管玉・鉄鎌・鉄斧・鉄鉞・鉄槍・刀子、棺外より鉄剣・鉄斧・銅鏃が出土した。頭部と思われる場所から仿製鏡 2 面が出土している。時期は前 V 期～前 VII 期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 6.1 cm、重量 21 g、縁幅 1.1 cm、縁厚 0.18～0.20 cm、鈕幅 1.2 cm、鈕高 0.8 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.2 cm である。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線一櫛歯文帯である。分類は 4 b 類である。

23 岡山県岡山市津寺遺跡土坑（第 24 図 9、第 39 図②）

津寺遺跡は径約 0.4 m の土壇内から重圏文鏡 1 面と土師器が出土している。時期は前 III 期～前 VI 期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 6.6 cm、重量 41 g、縁幅 0.8

cm、鈕幅 1.2 cm、鈕高 0.9 cm、鈕孔幅 0.7 cm、鈕孔高 0.4 cm であり、鈕孔形態は、鈕孔部分に土が詰まっているため判断できない。文様構成は 5 圏線一櫛歯文帯である。1 圏線に珠文状結線文が巡る。分類 7 i 類である。

24 岡山県岡山市津寺遺跡（第 24 図 3、第 39 図①）

津寺遺跡は集落遺跡の 4.61 × 3.76 m の住居跡から重圏文鏡 1・土師器・土錘が出土している。時期は前Ⅱ期～前Ⅳ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 6.0 cm、重量 38 g、縁幅 1.0 cm、縁厚 0.28 ～ 0.35 cm、鈕幅 1.4 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.2 cm である。鈕孔形態は方形である。文様構成は 3 圏線一櫛歯文帯である。1・2 圏線に珠文状結線文が巡る。分類は 7 i 類である。

25 岡山県岡山市百間川沢田遺跡（第 23 図 2、第 38 図⑥）

百間川沢田遺跡は集落遺跡であり、時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 2.8 cm、重量 3 g、鈕幅 0.8 cm、鈕高 0.5 cm、鈕孔幅 0.2 cm、鈕孔高 0.2 cm である。鈕孔形態は円形である。

文様構成は 1 圏線のみであり、外区はなく平縁となる。分類は 6 類である。

26 岡山県岡山市備前高島遺跡岩盤山山頂

高島遺跡は祭祀であり、石群内から重圏文鏡 1 が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。重圏文鏡の詳細は不明である。

27 愛媛県松山市一助山古墳

一助山古墳遺跡は、箱式石棺から重圏文鏡が出土したと伝えられる。年代は不明である。重圏文鏡は面径 6.6 cm であり、分類は不明である。

28 愛媛県今治市唐子台第 5 丘 7 号墓（第 24 図 5、第 39 図③）

唐子台遺跡は唐子台の最高所に位置し、第 4 丘から第 6 丘は少し高くなった尾根上にまとまる。第 5 丘は自然丘の頂部から稜線状に位置し、11 基の主体部がある。7 号墓は、1.58 × 3.22m の土壇墓であり、重圏文鏡 1 面が出土している。他には、鉄器柄部片・碧玉製管玉・蛇紋岩製勾玉・ガラス小玉が出土している。重圏文鏡は被葬者の頭部右側から出土している。時期は前Ⅰ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 6.2 cm、重量 36 g、縁幅 0.9 cm、鈕幅 1.3 cm、縁厚 0.26 ～ 0.34 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.6 cm、鈕孔高 0.2 cm である。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線一

櫛歯文帯である。2 圏線に珠文状結線文が巡る。分類は7 i 類である。

29 愛媛県今治市松木広田遺跡

松木広田遺跡は祭祀遺跡であり、土坑S K 18からの出土である。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。鉄剣・袋状鉄斧・鉄刀子・碧玉製管玉・管玉・ガラス小玉・土師器多数が出土している。

重圏文鏡は破片であり、復元径5.1 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－櫛歯文帯である。分類は4 b 類である。

30 愛媛県今治市雉之尾1号墳

雉之尾1号墳は墳長30.5mの前方後円墳であり、木棺から、珠文鏡1・鉄刀・鉄剣・鉄斧・鉄鍬・針状鉄器・鉄鉈・土師器が出土している。時期は前Ⅲ期である。

重圏文鏡は面径5.7 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、円圏－櫛歯文帯と記述されている。分類は4 類である。

31 愛媛県今治市新谷（第17図7）

新谷は鷹取山西方丘陵に位置し、重圏文鏡1が採集されている。時期は不明である。重圏文鏡の面径6.0 cm、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－2 重の櫛歯文帯となる。分類は2 類である。

32 愛媛県今治市火内遺跡（第20図2、第39図④）

火内遺跡は海の祭祀であり、重圏文鏡のほかには土師器・須恵器・製塩土器・鉄製品が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡の面径6.0 cm、重量2 g、縁幅0.8 cm、縁厚0.19～0.23 cm、鈕幅1.0 cm、鈕高0.7 cm、鈕孔幅0.3 cm、鈕孔高0.3 cmである。鈕孔形態は不整円形である。文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線－櫛歯文帯である。分類は4 b 類である。

33 香川県鉢伏山1号墳（第19図5、第39図⑤）

鉢伏山1号墳は土器川・金倉川に挟まれた与北山に位置する径15mの円墳であり、竪穴式石室から重圏文鏡1面が出土した。時期は前期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径5.3～5.4 cm、重量21 g、縁幅0.9 cm、縁厚0.22 cm、鈕幅1.0 cm、鈕高0.5 cm、鈕孔幅0.3 cm、鈕孔高0.3 cmである。鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－櫛歯文帯となる。分類は4 類である。

34 香川県坂出市歩渡島1号墳（第24図8、第39図⑥）

歩渡島1号墳は、箱式石棺から重圏文鏡1・鉄刀子が出土した。時期は前期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。鏡は面径7.1cm、重量73g、縁幅1.0cm、縁厚0.35～0.38cm、鈕幅1.9cm、鈕高0.9cm、鈕孔幅0.6cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は、鈕から外に向かって、4圏線一櫛歯文帯となる。2圏線には珠文状結線文がみられる。分類は7i類である

35 香川県高松市居石遺跡（第23図5、第40図①）

居石遺跡は幅25m・深さ2mの規模をもつ自然河川の川底より計3面の銅鏡が出土している。北から、珠文鏡1・重圏文鏡1・素文鏡1の順に50cmほどの間隔で置かれており、水に関する祭祀を執り行う際に用いられたと考えられる。ほかには土師器が出土している。時期は前IV期～前V期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径3.51～3.60cm、重量11g、鈕幅0.95cm、縁厚0.18～0.20cm、鈕高0.6cm、鈕孔幅0.3cm、鈕孔高0.2cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は1圏線のみであり、外区はなく平縁となる。分類は6類である。

36 徳島県徳島市宮谷古墳（第25図4、第40図②）

宮谷古墳は墳長37.5mの前方後円墳である。竪穴式石室の棺内から重圏文鏡1・鉄鉏・鉄鍬・鉄斧・鉄鑿・碧玉製管玉・ガラス小玉が出土している。重圏文鏡以外に、後方部トレンチより三角縁銘帯六神四獣鏡片・三角縁銘帯四神四獣鏡片・三角縁唐草文帯二神二獣鏡片が出土している。これらは墳丘の裾より出土したが、本来は、後円部の埋葬施設に納められたと推測されている。重圏文鏡は、主体部からの出土であり鏡背を上にして出土しているが、出土位置に関しては、記述がなく不明である。時期は前I期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径7.3cm、重量88g、縁幅1.3cm、縁厚0.28～0.44cm、鈕幅2.0cm、鈕高0.9cm、鈕孔幅0.7cm、鈕孔高0.5cmである。鈕孔形態は円形に近い。

37 兵庫県赤穂郡上郡町井の端7号墳（第21図4、第21図④）

井の端7号墳は辺長10×16mの方墳であり、木棺から重圏文鏡1・鉄器小片が出土している。重圏文鏡は頭部からの出土である。時期は前I期～前II期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径 7.9 cm、重量 42 g、縁厚 0.22 ~ 0.25 cm、鈕幅 1.7 cm、鈕高 0.8 cm、鈕孔幅 0.6 cm、鈕孔高 0.4 cm、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は 6 圏線一櫛歯文帯である。分類は 4 類である。

38 兵庫県明石市藤江別所遺跡（第 22 図 1、第 40 図⑥）

藤江別所遺跡は沖積地上に立地し海岸までの距離は 300 m である。祭祀遺構とされる井泉遺構より鏡 9・車輪石・玉類・土器が出土した。鏡は、珠文鏡 2・櫛歯文鏡 1・重圏文鏡 4・素文鏡 2 がある。時期は前 II 期～前 IV 期である。重圏文鏡は 4 面出土した。珠文鏡・櫛歯文鏡も小型である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 3.3 ~ 3.4 cm、重量 9 g、縁幅 0.7 cm、鈕幅 0.8 cm、鈕高 0.4 cm、鈕孔約 0.15 cm である。鈕孔形態は不整円形である。文様構成は、鈕から外に向かって、2 圏線のみで、外区は無文であり、平縁となる。分類は 5 類である。

39 兵庫県明石市藤江別所遺跡（第 19 図 1、第 40 図⑤）

藤江別所遺跡は沖積地上に立地し海岸までの距離は 300 m である。祭祀遺構とされる井泉遺構より鏡 9・車輪石・玉類・土器が出土した。鏡は、珠文鏡 2・櫛歯文鏡 1・重圏文鏡 4・素文鏡 2 である。時期は前 II 期～前 IV 期である。重圏文鏡は 4 面出土した。珠文鏡・櫛歯文鏡も小型である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 3.8 ~ 3.9 cm、重量 11 g、縁幅 0.6 cm、鈕幅 0.9 cm、鈕高 0.6 cm、鈕孔幅 0.2 cm、鈕孔高 0.3 cm である。鈕孔形態は方形である。文様構成は、鈕から外に向かって、1 圏線一櫛歯文帯である。分類は 4 b 類である。

40 兵庫県明石市藤江別所遺跡（第 19 図 2、第 40 図④）

藤江別所遺跡は沖積地上に立地し海岸までの距離は 300 m である。祭祀遺構とされる井泉遺構より鏡 9・車輪石・玉類・土器が出土した。鏡は、珠文鏡 2・櫛歯文鏡 1・重圏文鏡 4・素文鏡 2 である。時期は前 II 期～前 IV 期である。重圏文鏡は 4 面出土した。珠文鏡・櫛歯文鏡も小型である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 4.0 cm、重量 15 g、縁幅 0.8 cm、鈕幅 0.9 cm、鈕高 0.5 cm、鈕孔幅 0.15 cm、鈕孔高 0.15 cm である。鈕孔形態は不整円形である。文様構成は、鈕から外に向かって、1 圏線一櫛歯文帯である。分類は 4 b 類である。

41 兵庫県明石市藤江別所遺跡（第 23 図 4、第 40 図⑦）

当遺跡は沖積地上に立地し海岸までの距離は300mである。祭祀遺構とされる井泉遺構より鏡9・車輪石・玉類・土器が出土した。鏡は、珠文鏡2・櫛歯文鏡1・重圏文鏡4・素文鏡2である。時期は前Ⅱ期～前Ⅳ期である。重圏文鏡は4面出土した。珠文鏡・櫛歯文鏡も小型である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径3.0cm、重量6g、鈕幅0.7cm、鈕高0.4cm、鈕孔幅0.15cm、鈕孔高0.15cmである。鈕孔形態は楕円形である。文様構成は、鈕から外に向かって、1圏線のみで、外区はなく、平縁となる。分類は6類である。

42 兵庫県神戸市松本遺跡（第20図6、第41図①）

松本遺跡は包含層から重圏文鏡1が出土している。ほかには土師器が出土している。詳細な時期は判断できない。重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径6.8～6.9cm、重量37g、縁幅0.6cm、鈕幅1.5cm、鈕高0.8cm、鈕孔幅0.7cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔形態は方形である。

文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

43 兵庫県神戸市吉田南遺跡（第23図8・第41図⑤）

吉田南遺跡は集落遺跡であり、溝から重圏文鏡1が出土している。そのほかには、中国製内行花文鏡の破片1・有孔円板・勾玉・白玉も出土している。時期は前期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径2.8cmである。文様構成は1圏線のみであり、外区はなく、平縁となる。鼻鈕であり、素文鏡の1A類と類似する。分類は6類である。

44 兵庫県尼崎市下坂部遺跡（第22図2）

下坂部遺跡は集落遺跡であり、埋戻しにより出土している。時期は前期～中期である、重圏文鏡は面径3.7cm、重量7.8gであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線のみであり、外区は無文である。分類は5類である。

45 兵庫県多紀郡丹南町大滝2号墳（第18図2）

大滝2号墳は墳長20mの前方後円墳であり、木棺内より重圏文鏡1・鉄刀・鉄剣・刀子・鉄鏃・勾玉・ガラス小玉・鉄斧・鉄鎌・紡錘車が出土している。時期は中Ⅳ期である。棺外からは土師器・馬具・須恵器が出土している。重圏文鏡の副葬位置は胸部附近であり、鏡面が上方向である。

重圏文鏡の面径は5.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－
 櫛歯文帯－鋸歯文帯である。分類は3類である。

46 大阪府茨城市溝咋遺跡（第23図3、第41図②）

溝咋遺跡は集落遺跡であり、土坑から重圏文鏡が出土している。そのほか
 に土師器が出土している。時期は前期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径3.0cm、重量9g、鈕幅0.9
 cm、鈕高0.6cm、鈕孔幅0.2cm、鈕孔高0.15cmである。鈕孔形態は円形である。
 文様構成は1圏線のみであり、外区はなく平縁となる。分類は6類である。

47 大阪府枚方市鷹塚山遺跡（第17図1、第41図③）

鷹塚山遺跡は集落遺跡であり、包含層から重圏文鏡が出土している。そのほ
 かには青銅鏃片・鉄器片・石鏃・砥石が出土している。時期は弥生時代後期後
 半である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径約7.0cm、重量35.7g、
 縁幅0.7cm、鈕幅1.4cm、鈕高1.0cm、鈕孔幅0.7cm、鈕孔高0.6cmである。
 鈕孔形態は円形である。文様構成は鈕から直行櫛歯文－2圏線－斜行櫛歯文で
 ある。分類は1類である。

48 大阪府八尾市久宝寺遺跡（第21図2、第41図④）

久宝寺遺跡は集落遺跡であり、住居から重圏文鏡が出土している。そのほか
 にも土師器が出土する。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径6.74～6.85cm、重量65g、
 縁幅0.9cm、鈕幅1.7cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cmである。
 鈕孔形態は方形である。文様構成は5圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類で
 ある。

49 大阪府八尾市小倉東遺跡E地区箱式石棺（第24図6、第42図①）

小倉東遺跡からは箱式石棺が検出され、重圏文鏡1・鉄斧が出土した。時期
 は中Ⅱ期～中Ⅲ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径6.1cm、重量32g、縁幅
 0.5cm、鈕幅1.3cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔0.2cmである。鈕孔形
 態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、4圏線－櫛歯文である。2
 圏線は珠文状結線文が巡る。分類は7ii類である。

50 大阪府富田林市板持3号墳

板持3号墳は墳長40mの前方後円墳であり、木棺墓で鉄剣・鉄斧・銅鏃・鉄鏃が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。重圏文鏡の面径は8.0cmで、文様構成は鈕から外に向かって、構成は4圏線－櫛歯文帯である。分類は7類である。

51 和歌山県和歌山市北田井遺跡（第19図7、第42図②）

北田井遺跡は集落遺跡であり、竪穴住居より重圏文鏡1が出土している。時期は前期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径4.5cm、重量3g、縁幅0.8cm、鈕幅1.2cm、鈕高0.8cm、鈕孔幅0.2cm、鈕孔高0.2cmである。鈕孔形態は円形である。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

52（伝）和歌山県

遺跡の詳細は不明である。重圏文鏡は面径6.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－櫛歯文帯である。分類は4類である。

53 奈良県榛原町大王山遺跡

大王山遺跡の径15mの円墳から重圏文鏡のほか、碧玉製勾玉・碧玉製管玉・ガラス小玉・鉄刀・鉄鏃・鉄刀子が出土している。時期は中Ⅲ期である。重圏文鏡と報告されている。面径6.6cmである。

54 奈良県宇陀郡菟田野郡見田・大沢2号墳

見田・大沢2号墳は辺長14mの方墳であり、木棺からは重圏文鏡1・琥珀勾玉・緑色凝灰岩管玉・ガラス小玉・土師器が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

重圏文鏡は、面径4.2cm、縁厚0.15cm、鈕幅0.55cm、鈕高0.3cmである。頭部から重圏文鏡が出土している。文様構成は鈕から外に向かって、構成は1圏線－櫛歯文帯である。分類は4類である。

55 三重県名張市土山遺跡（第23図9、第42図③）

土山遺跡は名張盆地東南部に張り出す前山丘陵に位置する。弥生時代・古墳時代・鎌倉時代の遺跡であり、古墳時代の竪穴住居5棟と岩盤露頭の周辺から3カ所の祭祀遺物の集積遺構が確認されている。土師器を中心に集積され、最下部に滑石製品が散在し、その上に土師器編と滑石剣形品が堆積し、最上部に銅鏡と鑄造鉄斧・鉄刀子が置かれていた。出土遺物は重圏文鏡1・四獣鏡・滑

石製勾玉・滑石製品・弭金具管玉・滑石製有孔円板・滑石製剣形品・緑泥片岩製剣形品・滑石製不明品・鉄剣・鉄鉤・鉄刀子・鑄造鉄斧・弭金具・土師器がある。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 3.3 cm である。文様構成は 2 圏線のみであり、外区はなく平縁となる。鼻鈕であり、分類は 6 類である。

56 三重県一志郡嬉野町向山古墳 (第 16 図 2)

向山古墳は墳長 72 m の前方後円墳である。重圏文鏡 1・石釧・筒形石製品が出土している。共伴鏡は、仿製内行花文鏡 1・仿製獣形鏡 2 が出土している。出土状況には、北側頭部に大型鏡が置かれ、棺の南端と中央部に小型鏡が置かれたと記載される。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

重圏文鏡の面径は 5.9 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－斜行櫛歯文帯－1 圏線－直行櫛歯文帯である。分類は 1 類である。

57 三重県久居市善応寺山古墳群

重圏文鏡は善応山古墳群からの出土と伝えられるが、詳細な遺跡の内容や時期については不明である。

重圏文鏡は面径 6.0 cm であり、全体的に文様が不鮮明である。文様構成は 4 圏線のみは確認できるため、分類 5 の可能性がある。

58 京都府竹野郡周防町離湖古墳第 2 主体部 (第 16 図 8)

離湖古墳は離山に立地する辺長 34 × 43.4 m の方墳である。木棺から重圏文鏡 1・銅釧・石釧・緑色凝灰岩勾玉・緑色凝灰岩管玉・堅櫛・ガラス小玉・鉄剣・鉄刀・鉄鉞・鉄鏃が出土している。時期は中Ⅱ期である。

重圏文鏡は 7.5 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線－3 重の櫛歯文帯である。分類は 2 類である。

59 京都府京丹後市菩提東古墳

菩提東古墳は辺長 16 × 20 m の方墳である。時期は前期である。重圏文鏡は面径 4.6 cm で、鋸歯文帯も確認できる。今回は鋸歯文のみのものを分類していないため、櫛歯文帯と鋸歯文帯をもつ 3 類の亜種としておく。

60 京都府宮津市東善寺 1 号墳第 3 主体

東善寺 1 号墳は径 14 × 21 m の円墳であり、1 号主体上面より土師器が出土する。時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

重圏文鏡は面径 3.6 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－櫛歯文

帯である。分類は4類である。

61 京都府舞鶴市志高遺跡（第25図5、第42図④）

志高遺跡は由良川沿いに位置する縄文時代から平安時代の集落遺跡であり、重圏文鏡は包含層から出土している。時期は前V期～前VI期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径6.1cm、重量24g、縁幅0.8cm、鈕幅1.6cm、鈕孔幅0.5cmである。鈕孔は欠損しているため、形態は不明である。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－鋸歯文帯－1圏線櫛歯文帯である。1圏線目上には明瞭な珠文状の文様が巡る。分類は7iv類である。

62 滋賀県守山市下長遺跡（第19図6、第42図⑤）

下長遺跡は境川左岸沖積地の微高地に立地する縄文時代から平安時代の集落遺跡であり、重圏文鏡は溝から出土している。ほかにも土器・木製品・石釧・銅鐸耳・刀剣柄頭・琴・舟形木製品・翳形木製品・準構造船の破片が出土している。時期は前期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径4.2cm、重量9g、縁幅0.6cm、鈕幅1.3cm、鈕高0.8cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－櫛歯文帯となる。分類は4a類である。

63 滋賀県粟東市下味古墳（第24図7、第42図⑥）

下味遺跡は径35mの円墳である。粘土槨より重圏文鏡1・鉄剣・鉄刀・鉄刀子・鉄鉈・鉄斧・櫛・石釧・硬玉勾玉・水晶勾玉・碧玉勾玉・滑石製勾玉・碧玉製管玉・ガラス小玉・瑪瑙棗玉・琥珀小玉が出土している。時期は前V期～前VII期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径6.9cm、重量30g、縁幅0.8cm、縁厚0.27～0.31cm、鈕幅1.8cm、鈕高0.75cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、4圏線－櫛歯文帯である。2圏線には珠文状結線文が巡る。分類は7i類である。

64 滋賀県彦根市松原内湖遺跡

松原内湖遺跡は集落遺跡であり、包含層から重圏文鏡が出土している。時期は不明である。面径3.2cmであり、未報告である。

65 滋賀県米原市高溝遺跡（第23図7）

高溝遺跡は集落遺跡で、大溝より重圏文鏡1・素文鏡1が出土している。土

師器・ミニチュア土器・銅鏃が出土しており、大溝で祭祀行為が行われたと考えられる。時期は土師器から前Ⅲ期～前Ⅳ期と判断している。

面径は3.6 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線となり、外区は無文となる。分類は6類である。

66 岐阜県岐阜市龍門寺14号墳（第25図1、第43図①）

龍門寺14号墳は径18 mの円墳であり、割竹形木棺から、刀子・鉄鉋・重圏文鏡1が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径5.3 cm、重量30 g、縁幅0.8 cm、鈕幅1.2 cm、鈕高0.8 cm、鈕孔幅0.7 cm、鈕孔高0.3 cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、3圏線一櫛歯文帯である。2圏線目に珠文状結線文が巡る。分類は7 ii類である。

67 愛知県名古屋寺林1号墳

寺林1号墳は家屋の増築で破壊され、径20 mの円墳と伝えられる。重圏文鏡1・埴輪が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

重圏文鏡は面径5.3 cmで、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線一櫛歯文帯である。1・2圏線目に珠文状結線文が巡る。分類は7 ii類である。

68 (伝) 静岡県磐田市鎌田

遺跡の詳細および文様構成は不明である。

重圏文鏡は7.3 cmである。

69 静岡県袋井市愛野向山Ⅱ遺跡12号墳1号主体（第19図11）

愛野向山Ⅱ遺跡12号墳は円墳であり、重圏文鏡1・乳文鏡1・鉄鏃・馬具・管玉が出土している。時期は中Ⅳ期である。

重圏文鏡は面径約6.0 cmであり、文様構成は、鈕から外に向かって、2圏線一櫛歯文帯である。分類は4 b類である。

70 静岡県焼津市小深田遺跡第7地点（第22図3、第43図④）

小深田遺跡は集落遺跡であり、住居から重圏文鏡が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

重圏文鏡の面径は3.7 cm、重量9 g、縁幅0.6 cm、縁厚0.09～0.11 cm、鈕幅0.8 cm、鈕高0.5 cm、鈕孔幅0.4 cm、鈕孔高0.2 cm、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって2圏線である。外区の文様はない。分類は5類である。

71 静岡県焼津市小深田西1号墳第1主体部（第20図8、第43図⑤）

当遺跡は辺長10×11mの方墳であり、木棺内から、重圏文鏡1・勾玉・管玉・ガラス玉が出土した。時期は前V期～前VI期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径6.5cm、重量49g、縁厚0.25～0.31cm、鈕幅1.3cm、鈕高0.9cm、鈕孔幅0.6cm、鈕孔高0.3cm、鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、4圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

72 静岡県静岡市元宮川神明原遺跡（第22図5、第43図③）

元宮川神明原遺跡は祭祀遺跡であり、表土除去中に重圏文鏡が出土している。ほかには土師器・素文鏡1・仿製鏡片1が出土している。時期は前V期～前VI期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径4.4cm、重量14g、縁幅0.8cm、鈕幅1.0cm、鈕高0.6cm、鈕孔幅0.3cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔は方形である。文様構成は3圏線のみで、外区は無文である。分類は5類である。

73 静岡県静岡市長崎遺跡S×510（第17図4、第43図②）

長崎遺跡は台状遺構から重圏文鏡1・土師器が出土している。時期は前I期～前II期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径7.2cm、重量74g、縁幅0.9cm、鈕幅1.5cm、鈕高0.8cm、鈕孔幅0.8cm、鈕孔高0.4cmである。鈕孔は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、直行櫛歯文帯－1圏線－直行櫛歯文帯である。分類は2類である。

74 山梨県東山梨郡春日居町平林2号墳（第24図4、第43図⑥）

平林2号墳は径15mの円墳であり、横穴式石室から重圏文鏡1・珠文鏡1・直刀・鞘尻・把頭・金具・足金具・鉄鏃・甲冑・小札・轡・兵庫鎖・辻金具・鞍・鉸具・管玉・棗玉・勾玉・切子玉・トンボ玉・丸玉・小玉・金環・帯金具・飾金具・須恵器・土師器が出土している。時期は後IV期である。時期は後IV期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は6.0cm、重量39g、縁厚0.26～0.28cm、縁幅1.0cm、鈕幅1.3cm、鈕高0.9cm、鈕孔幅0.6cm、鈕孔高0.3cm、鈕孔形態は方形である。鈕孔は摩滅している。文様構成は3圏線－櫛歯文帯である。2・3圏線に珠文状結線文が巡る。分類は7i類である。

75 長野県諏訪市片山古墳

片山古墳は辺長 14 m の方墳である。粘土槨から重圏文鏡 1・瑪瑙勾玉・硬玉勾玉・碧玉管玉・ガラス小玉・直刀・鉄剣・鉄鏃が出土する。時期は中Ⅱ期～中Ⅲ期である。重圏文鏡は面径 6.3 cm である。文様構成は鈕から外側に向かって 2 圏線であり、外区は無文である。分類は 5 類である。

76 (伝) 長野県松本市天王山

遺跡の詳細は不明である。重圏文鏡は面径 5.5 cm である。

77 長野県長野市篠ノ井遺跡 (第 22 図 4、第 44 図①)

篠ノ井遺跡は集落遺跡であり、住居内から重圏文鏡 1・土師器が出土している。住居の規模は 4.80 × 5.46 m である。時期は前Ⅲ期から前Ⅴ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 3.3 cm、重量 3 g、縁厚 0.12～0.16 cm、鈕幅 0.8 cm、鈕高 0.5 cm、鈕孔幅 0.2 cm、鈕孔高 0.1 cm、鈕孔形態は方形である。文様構成は 3 圏線であり、外区は無文である。分類は 5 類である。

78 長野県長野市川柳將軍塚古墳 (第 18 図 3)

將軍塚古墳は標高 480 m の湯ノ入山頂先端に築かれており、眼下には集落と水田が広がっている。当遺跡は墳長 93 m の前方後円墳である。竪穴式石室からは異形石製品・勾玉・管玉・切小玉・小玉が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

重圏文鏡は 7.3 cm である。内行花文鏡 3 面、四獣鏡 1 面、珠文鏡 4 面、乳文鏡 1 面が出土しているが、発掘による出土ではないため、出土状況は不明である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線一櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は 3 類である。

79 長野県長野市飯綱社古墳

飯綱社古墳から、重圏文鏡・勾玉・管玉・小玉・鉄鏃・鉄剣・鉄刀・馬具・蛇行状鉄器が出土している。時期は中Ⅲ期から中Ⅳ期である。重圏文鏡と報告されている。面径は 8.8 cm である。

80 福井県福井市漆谷遺跡

漆谷遺跡は集落の包含層から重圏文鏡 1 が出土している。年代は不明である。面径は不明である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線一櫛歯文帯である。2 圏目は珠文状結線文である。分類は 7 類である。

81 石川県金沢市西念・南新保遺跡（第20図4、第44図③）

当遺跡は集落遺跡であり、溝跡から重圏文鏡が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径6.4cm、重量51g、縁厚0.3cm、鈕幅1.6cm、鈕高1.0cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cm、鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

82 石川県金沢市田中A遺跡（第21図1、第44図②）

田中A遺跡は集落遺跡であり、包含層から重圏文鏡・土師器が出土している。時期は前Ⅰ期～前Ⅲ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径6.8cm、重量35g、縁厚0.21～0.25cm、鈕幅1.8cm、鈕高1.0cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.5cm、鈕孔形態はいびつな円形であり、鈕孔は摩滅している。文様構成は5圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

83 新潟県北蒲原郡中条町西川内南遺跡（第23図1）

西川内南遺跡は包含層から重圏文鏡1が出土している。時期は前Ⅱ期～前Ⅲ期である。重圏文鏡は2.8cmで、文様構成は1圏線のみであり、外区はなく平縁となる。分類は6類である。

84 神奈川県小田原市永塚下り畑遺跡

永塚下り畑遺跡は千代台地の北隣にある集落遺跡であり、住居から重圏文鏡1が出土している。ほかには土師器が出土している。時期は前Ⅰ期～前Ⅱ期である。

重圏文鏡は面径7.8cm、重量96.9gである。文様構成は鈕から外に向かって、4圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

85 神奈川県平塚市万田熊ノ台遺跡

万田熊ノ台遺跡は方墳であり、周溝内主体部より重圏文鏡が出土している。時期は前期である。

重圏文鏡は面径3.3cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1円圏となり、外区は無文である。分類は6類である。

86 神奈川県横浜市軽井沢横穴

軽井沢横穴から重圏文鏡が出土したと伝えられているが、遺跡の詳細は不明

である。時期は後期である。

87 神奈川県横浜市梶山遺跡第2トレンチ (第19図9、第44図④)

梶山遺跡の立地は矢上川が鶴見川に合流する地点から南東約1.2kmの台地上に位置する。標高約40mである、沖積地との比高は約20mである。集落遺跡で、試掘トレンチから重圏文鏡1面が出土している。時期は前I期～前II期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は緑色を呈し、縁は欠損部分が多い。面径5.5cm、重量18g、縁厚0.2g、鈕幅1.3cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は、鈕から外に向かって、2圏線一櫛歯文帯となる。分類は4a類である。

88 神奈川県川崎市宮前小台遺跡

宮前小台遺跡は集落遺跡であり、住居から重圏文鏡1が出土している。時期は前期である。重圏文鏡は面径6.3cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線一櫛歯文帯である。鏡背面に赤色顔料が付着している。分類は4類である。

89 東京都足立区伊興遺跡谷下地区 (第19図4、第44図⑤)

伊興遺跡は祭祀遺跡であり、この遺跡からは、重圏文鏡1・捩文鏡1・素文鏡2・珠文鏡1・石製模造品(臼玉・平玉・勾玉・管玉・丸玉・子持勾玉・有孔円板・剣形品)紡錘車・土製模造品が出土している。時期は前期～中期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径5.2cm、重量9g、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって1圏線一櫛歯文帯となる。分類は4b類である。

90 千葉県流山市西初石五丁目遺跡

西初石五丁目遺跡は集落遺跡であり、住居から重圏文鏡1・土師器・手捏ね土器が出土している。時期は前IV期～前V期である。

重圏文鏡の面径は4.1cm、文様構成は鈕から外に向かって1圏線で、外区は無文である。分類は5類である。

91 千葉県柏市戸張一番割遺跡30号住居 (第20図5、第45図①)

戸張一番割遺跡は集落遺跡であり、3.6×4.26mの竪穴式住居から重圏文鏡・土師器が出土している。時期は前IV期～前V期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径は6.3cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、3圏線一櫛歯文帯である。分類は4a類である。

92 千葉県南房総市駒形遺跡第1住居跡南円形土壇

駒形遺跡は集落遺跡であり、 3.6×4.26 mの竪穴式住居から重圏文鏡・土師器が出土している。時期は前Ⅳ期～前Ⅴ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径は6.3cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

93 千葉県君津郡郡袖ヶ浦町大竹遺跡群二又堀遺跡S I 105住居跡（第21図2、第45図②）

大竹遺跡群二又堀遺跡の竪穴式住居から重圏文鏡1・土師器が出土している。住居の規模は 4.0×4.4 mである。時期は前Ⅰ期～前Ⅱ期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡の面径は7.3cm、重量70g、縁幅0.3cm、鈕幅1.7cm、鈕高1.0cm、鈕孔幅0.7cm、鈕孔高0.5cmである。鈕孔は楕円形に近いが、摩耗を受けた可能性がある。文様構成は5圏線－櫛歯文帯である。分類は4a類である。

94 千葉県佐倉市太田・大篠塚遺跡48号住居

太田・大篠塚遺跡は集落遺跡であり、竪穴式住居より重圏文鏡1が出土している。ほかには土師器が出土している。未報告であり、詳細は不明である。

重圏文鏡は面径11.2cmである。

95 千葉県山武市北野遺跡5号墳（第17図3、第44図⑥）

北野遺跡は、作田川谷系の旧成東川中流域の右岸台地上に立地し、現在の谷面との比高は25m前後である。5号墳は辺長 13.05×13.75 mの方墳である。埋葬施設は削平のため確認できないが、墳丘上より重圏文鏡1が出土している。硬玉製勾玉2・水晶製有稜棗玉1・緑色凝灰岩製管玉8・ガラス小玉58が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。重圏文鏡は鏡面を上にして出土していた。鏡背面には腕の骨が付着していたため、腕の辺りに副葬されたと考えられている。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径6.2cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－直行櫛歯文帯－1圏線－直行櫛歯文帯である。鈕孔形態は方形である。分類は2類である。

96 千葉県香取郡多古町多古台遺跡No.4地点1号墳

多古台遺跡は円墳であり、木棺から重圏文鏡1が出土している。ほかにはガラス玉・勾玉・管玉・石釧が出土している。時期は中期である。未報告である。

ため、詳細は不明である。重圏文鏡は面径 5.0cm である。

97 千葉県香取市片野向遺跡

当遺跡は集落遺跡で、竪穴住居から重圏文鏡 1 が出土している。時期は後期である。未報告であるため、詳細は不明である。重圏文鏡は面径 3.8cm である。

98 群馬県多野郡吉井町神保下條遺跡 1号住居 (第 18 図 1、第 45 図④)

下條遺跡は集落遺跡であり、5.86 × 5.88 m の竪穴住居から重圏文鏡 1 が出土している。時期は前 V 期～前 VII 期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。面径は 6.1cm、重量 28 g、縁厚 0.28 ～ 0.29 cm、鈕幅 1.4 cm、鈕高 0.8 cm、鈕孔幅 0.6 cm、鈕孔高 0.4 cm、鈕孔形態は半円形状である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線—直行櫛歯文帯—1 圏線—鋸歯文帯である。鋸歯文帯が内区外周に配される。分類は 3 a 類である。

99 群馬県伊勢崎市淵名 1号墳

淵名 1号墳は径 30 m の円墳であり、横穴式石室から重圏文鏡 1・鉄刀 5・瑪瑙製勾玉 1・滑石製丸玉 1・銅環 4・鉄環 3・鉄族 60・馬具・喰・引手・鏡板・辻金具・鉄刀子・土師器 3 が出土している。面径は 6.6cm である。時期は中 III 期～後 II 期である。

重圏文鏡は展示にて観察している。色調は淡緑色であり、鋳上がりは良い。面径 6.6 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、4 圏線—櫛歯文帯である。鏡体に厚みがあり、1・2 圏線目は珠文状結線文が巡る。鈕孔形態は方形である。分類は 7 i 類である。

100 群馬県伊勢崎市舞台遺跡 146号住居 (第 20 図 1、第 46 図①)

舞台遺跡は集落遺跡であり、6.3 × 6.7 m の竪穴住居より重圏文鏡 1・土師器出土した。時期は前 IV 期～前 V 期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は全体的に鋳上がりがよく、褐色を呈する。鏡背面には赤色顔料が付着している。面径 6.8 cm、重量 68 g、縁幅 0.35 cm、鈕幅 1.7 cm、鈕高 1.0 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.3 cm である。鈕孔は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線—櫛歯文帯であり、分類は 4 a 類である。

101 群馬県太田市成塚向山 1号墳 2主体部 (第 20 図 3、第 45 図③)

成塚向山 1号墳は辺長 21 m の方墳であり、重圏文鏡 1・ガラス玉・滑石管玉が出土している。時期は前 V 期～前 VI 期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 6.3 cm、重量 51 g、縁厚 0.30～0.35 cm、鈕幅 1.5 cm、鈕高 0.8 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.3 cm、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線一櫛歯文帯である。分類は 4 a 類である。

102 群馬県太田市新田東部遺跡

新田東部遺跡は包含層から重圏文鏡 1 が出土している。時期は前期である。重圏文鏡の面径は 4.0 cm であるが、未報告のため詳細不明である。

103 栃木県足利市藤本所在古墳

当遺跡は詳細不明である。重圏文鏡は面径 7.3 cm である。文様も不明である。

104 茨城県行方市勅使塚古墳後方部木棺（第 25 図 3、第 46 図②）

勅使塚古墳は玉造古墳群の一基であり、墳長 64 m の前方後方墳の後方部より出土した。粘土槨の木棺内より、重圏文鏡 1・蛇文岩製管玉・ガラス小玉・剣破片が出土している。重圏文鏡は頭部からの出土である。時期は前 V 期～前 VII 期である。

重圏文鏡の実見・観察を行った。重圏文鏡は面径 7.8 cm、重量 47 g、縁厚 0.27～0.31 cm、鈕幅 1.6 cm、鈕高 0.9 cm、鈕孔幅 0.8 cm、鈕孔高 0.5 cm、鈕孔形態は方形であり、鈕孔は摩擦している。文様構成は、鈕から外に向かって 3 圏線一櫛歯文帯である。3 圏線すべてに珠文状結線文が巡る。分類は 7 ii 類である。

(3) 分類ごとの説明

次に分類ごとに、遺跡名、圏線数、面径について述べる。重圏文鏡は、現状で 104 面あり、文様が明らかなものは 86 面⁽¹⁾ある。

1 類 一重の斜行櫛歯文帯と一重の直行櫛歯文帯をもつもの。

2 面のみである。大阪府鷹塚山遺跡例（第 17 図 1）、三重県向山古墳例（第 17 図 2）がみられる。鷹塚山遺跡例は、鈕の周囲に直行櫛歯文帯一圏線 2 一斜行櫛歯文帯を配する。斜行櫛歯文は左上から右下方向に描かれる。向山古墳例は、鈕の周囲に圏線 1 一斜行櫛歯文帯一圏線 1 一直行櫛歯文帯を配する。斜行櫛歯文は左上から右下、右上から左下に描かれるものがみられる。斜行櫛歯文は弥生時代小型仿製鏡に継続するもので、古い様相を示しているといえよう。

2 類 二重以上の櫛歯文帯をもつもの。

6面を確認できる。福岡県荻浦遺跡例（第17図6）、鳥取県青谷上寺地遺跡例（第17図5）⁽²⁾、愛媛県新谷出土例（第17図7）、京都府離湖古墳例（第17図8）、静岡県長崎遺跡例（第17図4）、千葉県北野5号墳例（第17図3）である。2類は2つに細分でき、2a類は櫛歯文帯が連続しないもの、2b類は櫛歯文帯同士が連続するものとする。

2a類は青谷上寺地遺跡例、長崎遺跡例、北野5号墳例がある。長崎遺跡例は、鈕から外に向かって、櫛歯文帯－圏線1－櫛歯文帯となる。北野5号墳例は、鈕から外に向かって、圏線1－櫛歯文帯－圏線1－櫛歯文帯となる。青谷上寺地遺跡例⁽¹⁾は破鏡であり、櫛歯文帯－圏線5－櫛歯文帯となる。

2b類は荻浦遺跡例、新谷出土例、離湖古墳例があり、荻浦遺跡例と新谷出土例は、圏線1で連続する二重の櫛歯文帯をもつ。離湖古墳例は、圏線3で連続する三重の櫛歯文帯である。2a類は1類の斜行櫛歯文をもつ文様構成に類似する文様配置であることから、2b類より古いと考える。

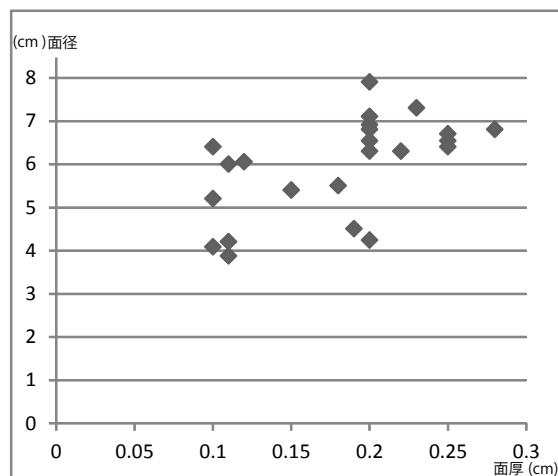
3類 櫛歯文帯と鋸歯文帯をももの。

6面を確認している。大分県亀の甲山古墳例（第18図5）、福岡県鬼首古墳、福岡県立野遺跡例（第18図4）、兵庫県大滝2号例（第18図2）、群馬県神保下條遺跡例（第18図1）、（伝）長野県川柳將軍塚古墳（第18図3）がみられる。3類にみられる鋸歯文帯は、弥生時代小型仿製鏡にはみられないことから、3類は重圏文鏡の中で最も新しく出現したものであるとして位置付けることができる。3類は櫛歯文帯と鋸歯文帯の配置から2つに細分できる。3a類は、櫛歯文帯の周囲に圏線、鋸歯文帯を配するもので、櫛歯文帯と鋸歯文帯が接していないものとする。3b類は、内区外周に櫛歯文帯、外区に鋸

第5表 4類の櫛歯文の本数

分類 \ 櫛歯文本数	4	5	6	7	8	9	10	11
4a	1		4	4	3	1		
4b					2	3	1	1

※1cmにおける櫛歯文の数。



第16図 4類の面径と鏡体の厚みの関係

歯文帯が配され、櫛歯文帯と鋸歯文帯が接するものである。

3 a 類は神保下條遺跡例のみであり、鈕から外にむかって、圏線 2 - 櫛歯文帯 - 圏線 1 - 鋸歯文帯となる。面径は 6.1 cm である。鋸歯文帯は外区ではなく、内区外周に配されている。鋸歯文帯が外区に配されていない点において 3 b 類より古い様相を示す。1 類の大阪府鷹塚山遺跡例の櫛歯文帯が二重に配されることと類似している。

3 b 類は内区外周に櫛歯文帯、外区に鋸歯文帯が配され、櫛歯文帯と鋸歯文帯が接しているものである。亀甲山古墳例、鬼首古墳例、立野遺跡例、大滝 2 号墳例、(伝)川柳將軍塚古墳例がある。すべて圏線 2 である。面径は 5.0 ~ 7.6 cm である。

4 類 一重の櫛歯文帯をもつもの。

31 面を確認できる。一重の櫛歯文帯をもつものは重圏文鏡の中で最も多く認められ、その出土地域も広い。宮崎県西ノ別府遺跡例 (第 20 図 9)、佐賀県永田遺跡例 (第 19 図 12)、福岡県谷遺跡、山口県朝田墳墓群 8 号墳例 (第 19 図 3)、島根県大峠山古墳群、鳥取県博労町遺跡例、広島県山ノ神 1 号墳例 (第 20 図 7)、岡山県一宮天神山 2 号墳例 (第 19 図 10)、愛媛県松木広田遺跡、愛媛県火内遺跡例 (第 20 図 2)、香川県鉢伏山 1 号墳 (第 19 図 5)、兵庫県井の端 7 号墳例 (第 21 図 4)、兵庫県藤江別所遺跡例 2 面 (第 19 図 1・2)、兵庫県松本遺跡例 (第 20 図 6)、大阪府久宝寺遺跡例 (第 21 図 2)、(伝)和歌山県例、和歌山県北田井遺跡例 (第 19 図 7)、滋賀県下長遺跡例 (第 19 図 6)、静岡県愛野向山 II 遺跡 12 号墳例 (第 19 図 11)、静岡県小深田西 1 号墳例 (第 20 図 8)、石川県西念・南新保遺跡例 (第 20 図 4)、石川県田中 A 遺跡例 (第 21 図 1)、神奈川県宮前小台遺跡、神奈川県永塚下り畑遺跡例、神奈川県梶山遺跡例 (第 19 図 9)、東京都伊興遺跡例 (第 19 図 4)、千葉県戸張一番割遺跡例 (第 20 図 5)、千葉県大竹遺跡例 (第 21 図 3)、群馬県成塚向山 1 号墳例 (第 20 図 3)、群馬県舞台遺跡例 (第 20 図 1) がある。

圏線 1 は、福岡県谷遺跡例、山口県朝田墳墓群 8 号墳例、兵庫県藤江別所遺跡例 2 面、東京都伊興遺跡例の 4 面である。面径 3.8 ~ 5.2 cm である。

圏線 2 は佐賀県永田遺跡例、愛媛県松木広田遺跡例、香川県鉢伏山 1 号墳例、島根県大峠山古墳群、岡山県一宮天神山 2 号墳例、(伝)和歌山県例、和歌山県北田井遺跡例、滋賀県下長遺跡例、静岡県愛野向山 II 遺跡 12 号墳例、神奈

川県梶山遺跡例、神奈川県宮前小台遺跡例、群馬県舞台遺跡例の12面である。面径は4.2～6.8 cmである。

圏線3は愛媛県火内遺跡例、兵庫県松本遺跡例、石川県西念・南新保遺跡例、千葉県戸張一番割遺跡例、千葉県成塚向山1号墳例の5面である。面径は6.0～6.9 cmである。

圏線4は宮崎県西ノ別府遺跡例、広島県山ノ神1号墳例、鳥取県博労町遺跡例、静岡県小深田西1号墳例、神奈川県永塚下り畑遺跡例の5面であり、面径は6.4～7.8 cmである。

圏線5は、久宝寺遺跡例、田中A遺跡例、大竹遺跡例の3面であり、面径は6.7～7.3 cmである。

圏線6は、井の端7号墳例であり、面径は7.9 cmである。

4類の鏡体厚を観察すると2 mm前後の厚いものと1 mm前後の薄いものに分けることができる。それぞれ厚いものを4a類、薄いものを4b類とする。4a類では舞台遺跡例、西念・南新保遺跡例、永田遺跡例などによって代表とされる。4b類には居石遺跡例、一宮天神山2号墳例、藤江別所遺跡例、伊興遺跡例などがある。

第16図は、4a類と4b類の面径と鏡体厚の関係を示したものである。これを見ると4a類は面径が7 cmを越すような大型のものもみられるが、4～6 cmのものも一定数みられ、下長遺跡例（第19図6）のように面径4.2 cmと小型のものもある。4b類は4a類と比べ面径の小型のものが多く、面径7 cm以上のものはみられない。重圏文鏡1類の鷹塚山遺跡例は、鏡体厚が2 mmと厚いことから、鏡体厚は厚いものから薄いものへと変化すると考えられる。

4a類と4b類の違いは、櫛歯文の間隔にもみられる。第5表は、1 cmにおける櫛歯文の本数を計測したものである。この表をみると、4a類は櫛歯文を1 cmに6～8本を配するものが多いのに対し、4b類では9本以上のものが多くなる。なお、重圏文鏡の中でも斜行櫛歯文をもつ鷹塚山遺跡例は1 cmの幅に5本の櫛歯文が施されていることから、櫛歯文の間隔は広いものから狭いものに変化すると考えられる。

5類 内区外周に文様のないもの。

9面を確認できる。熊本県舞野2号石棺例（第22図6）、鳥取県長瀬高浜遺跡、兵庫県下坂部遺跡例（第22図2）、兵庫県藤江別所遺跡例（第22図1）、

静岡県元宮川神明原遺跡例（第22図5）、静岡県小深田西遺跡例（第22図3）、長野県大熊片山古墳例、長野県篠ノ井遺跡例（第22図4）、千葉県西初石五丁目遺跡がある。

圏線1は西初石五丁目遺跡である。面径は4.1cmである。

圏線2は下坂部遺跡例、藤江別所遺跡、元宮川神明原遺跡例、小深田西遺跡例がある。面径は3.7～6.3cmである。

圏線3は長瀬高浜遺跡例、大熊片山古墳例、篠ノ井遺跡例となっている。面径は3.2～4.3cmである。

圏線4は舞野2号石棺例である。面径は4.3cmである。

6類 外区をもたないもの。

外区をもたず、圏線のみが巡る。計9面確認できる。福岡県稲光遺跡例（第23図6）、香川県居石遺跡例（第23図5）、岡山県百間川沢田遺跡例（第23図2）、兵庫県藤江別所遺跡例（第23図4）、兵庫県吉田南遺跡例（第23図8）、大阪府溝咋遺跡例（第23図3）、滋賀県高溝遺跡例（第23図7）、三重県土山遺跡例（第23図9）、新潟県西川内南遺跡例（第23図1）がある。

圏線1は稲光遺跡例、居石遺跡例、百間川沢田遺跡例、藤江別所遺跡例、吉田南遺跡例、溝咋遺跡例、西川内南遺跡例がある。面径は2.8～3.6cmである。

圏線2は高溝遺跡例、土山遺跡例である。面径は3.3～3.6cmである。

6類には鼻鈕もあり、吉田南遺跡例と土山遺跡例がある。鼻鈕は素文鏡に多くみられるものであり、鼻鈕の素文鏡と重圏文鏡には密接な関係を想定できそうである。

7類 珠文状結線文をもつもの。

「珠文状結線文」とは、圏線の上に珠文、鋸歯文、櫛歯文をもつものとしている。新井悟は茨城県勅使塚古墳例を取り上げ、圏線上の珠文状の文様は意図されて彫り込まれたのではなく、鑄造時に生じた現象ではないかと推測している（新井2009）。藤岡孝司も范抜けの状態あるいは遺存状態などで不明瞭なものもあり、今後はX線写真で確認していく必要があると指摘している（藤岡1991）。筆者は珠文状結線文と思われるものはすべて抽出している。今回含めているが、津寺遺跡例（第24図3、第26図4）などは珠文状結線文か判断し難い資料である。

全部で21面ある。佐賀県佐志中通遺跡例（第24図1）、佐賀県中隈山4号

墳例（第25図6）、広島県毘沙門台遺跡例、広島県下山手4号墳例（第24図2）、鳥取県古郡家1号墳例、岡山県津寺遺跡例2面（第24図3・第24図9）、愛媛県唐子台第5丘7号墓例（第24図5）、香川県歩渡島1号墳例（第24図8）、徳島県宮谷古墳例（第25図4）、大阪府板持3号墳例、同府小倉東遺跡E地区箱式石棺例（第24図6）、京都府志高遺跡例（第25図5）、滋賀県下味遺跡例（第24図7）、福井県漆谷遺跡例、愛知県寺林1号墳例、山梨県平林2号墳例（第24図4）、岐阜県龍門寺14号墳例（第25図1）、千葉県駒形遺跡、群馬県淵名1号墳、茨城県勅使塚古墳例（第25図3）がある。

珠文状結線文の間隔、圏線以外の櫛歯文帯や鋸歯文帯などの文様に着目して、文様の明らかなものを7 i～7 v類に細分した。

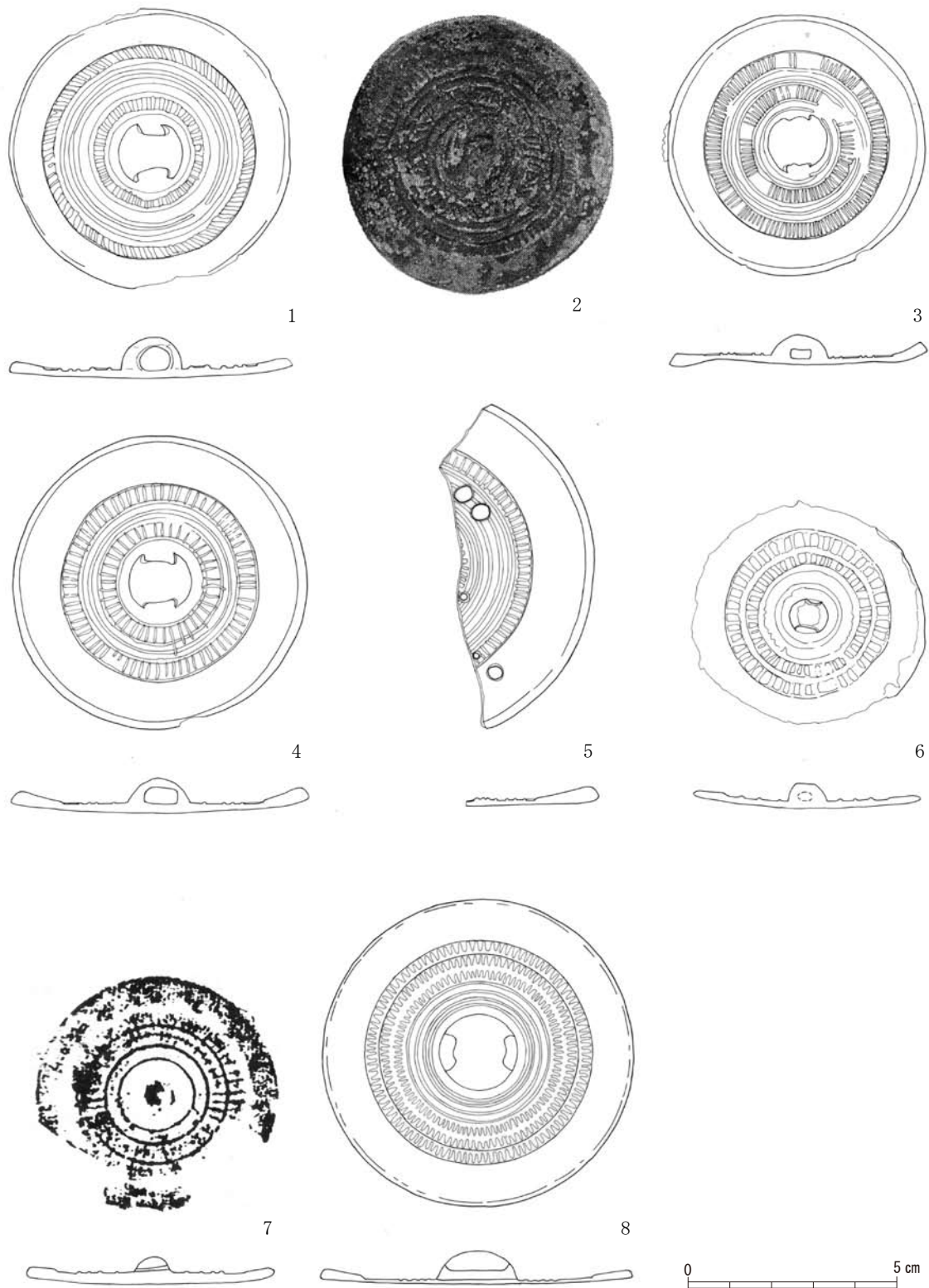
7 i 類 内区外周に櫛歯文帯をもち、圏線上の文様はやや曖昧である。佐志中通遺跡、下山手4号墳例、古郡家1号墳例、津寺遺跡土坑例（第26図3）、津寺遺跡例（第26図4）、歩渡島遺跡例、唐子台第5丘7号墳例、下味遺跡例、平林2号墳例、淵名1号墳例、駒形遺跡例がみられる。面径は5.0cm～7.0cmである。

7 ii 類 内区外周に櫛歯文帯をもち、圏線上の文様は明瞭である。毘沙門台遺跡例、小倉東遺跡例（第26図5）、寺林1号墳例、龍門寺14号墳例（第26図6）、勅使塚古墳例がみられる。面径は5.3cm～7.8cmである。

7 iii 類 内区外周に櫛歯文帯をもち、圏線上に線状の文様をもつもの。宮谷古墳例（第26図2）がみられる。面径は7.4cmである。

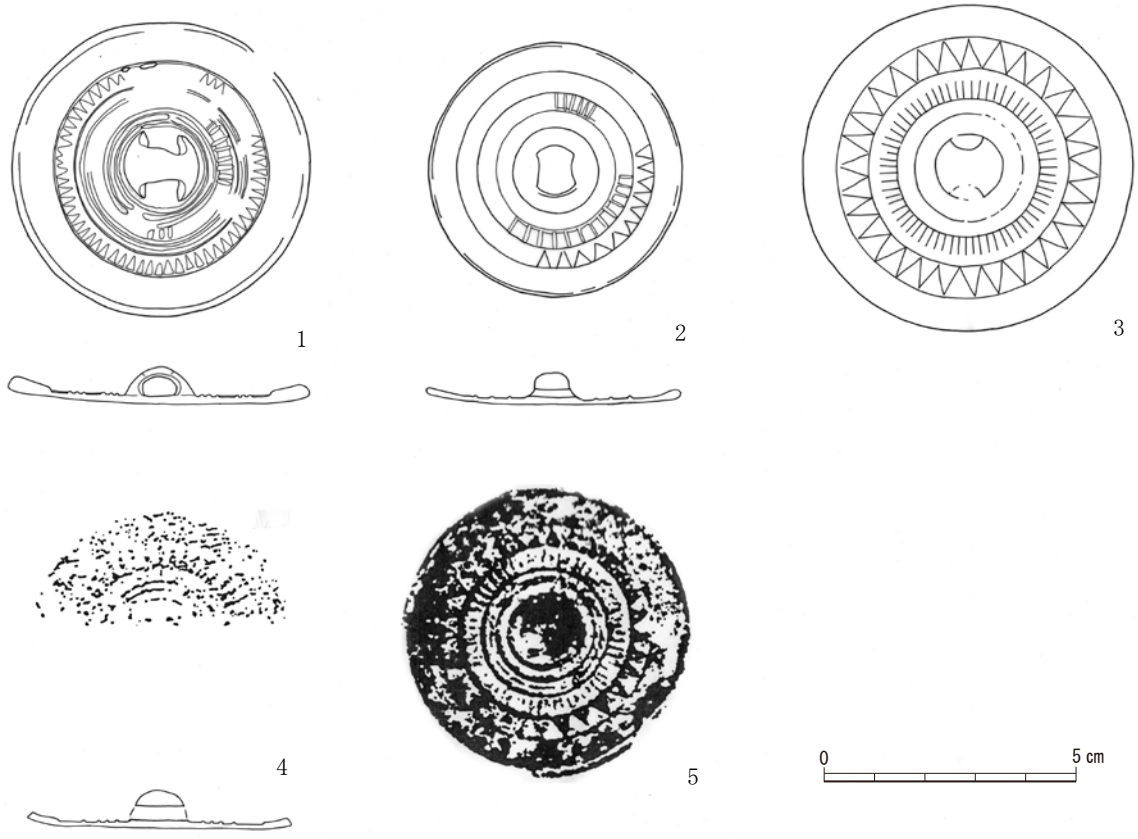
7 iv 類 内区の圏線間に櫛歯文帯、内区外周に鋸歯文帯をもつもの。志高遺跡例（第26図7）がみられる。面径は6.1cmである。

7 v 類 内区の圏線に櫛歯文帯をもち、外区に鋸歯文帯をもつもの。中隈山4号墳例（第26図8）がみられる。面径は7.1cmである。



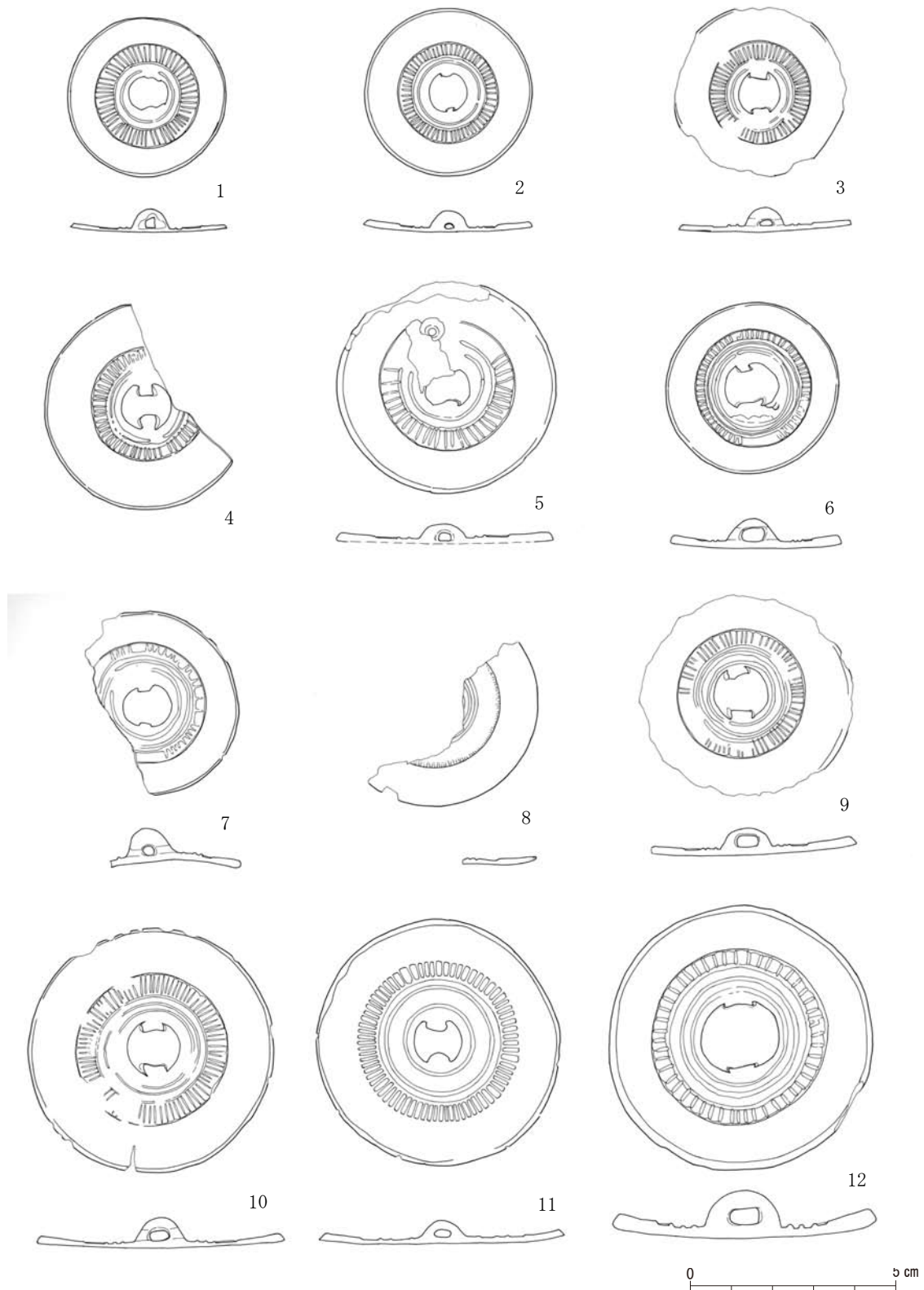
1. 大阪府鷹塚山遺跡 2. 三重県向山古墳 3. 千葉県北野遺跡5号墳 4. 静岡県長崎遺跡
5. 鳥取県青谷上寺地遺跡 6. 福岡県荻浦遺跡 7. 愛媛県新谷出土 8. 京都府離湖古墳

第17図 1・2類の諸例



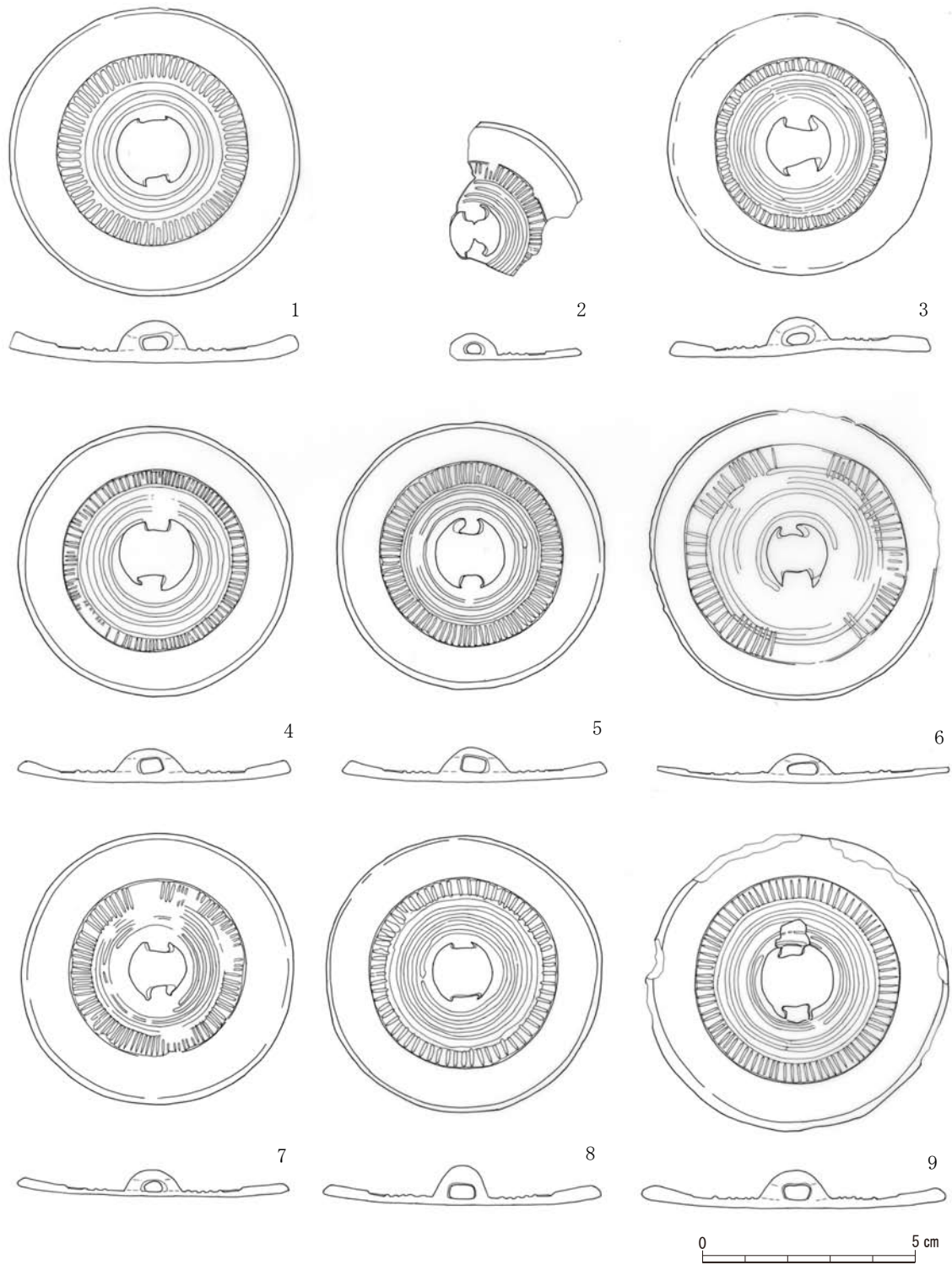
1. 群馬県神保下條遺跡 2. 兵庫県大滝2号墳 3. (伝)長野県川柳將軍塚古墳
4. 福岡県立野遺跡 5. 大分県亀の甲古墳

第18図 3類の諸例



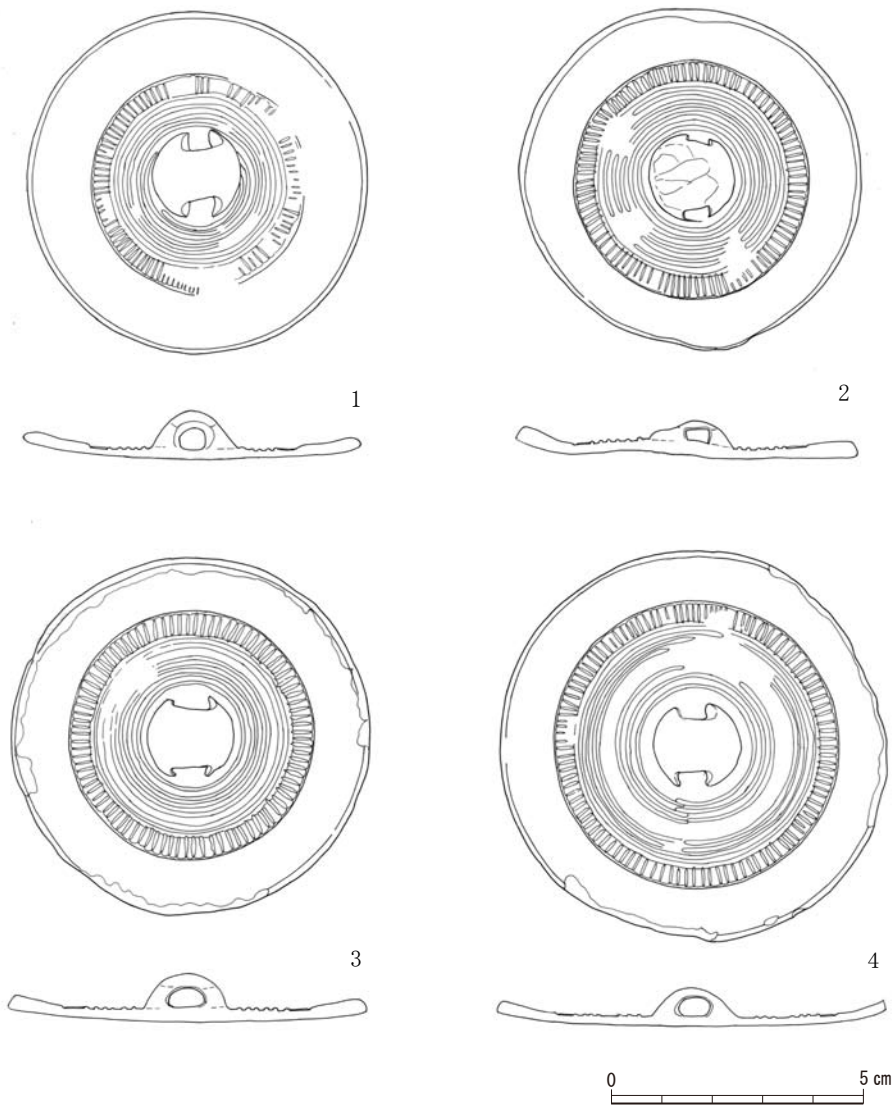
1・2. 兵庫県藤江別所遺跡 3. 山口県朝田墳墓群8号墓 4. 東京都伊興遺跡 5. 香川県鉢伏山1号墳
 6. 滋賀県下長遺跡 7. 和歌山県北田井遺跡 8. 愛媛県火内遺跡 9. 神奈川県梶山遺跡
 10. 岡山県一宮天神山2号墳 11. 静岡県愛野向山Ⅱ遺跡 12号墳 12. 佐賀県永田遺跡

第19図 4類の諸例



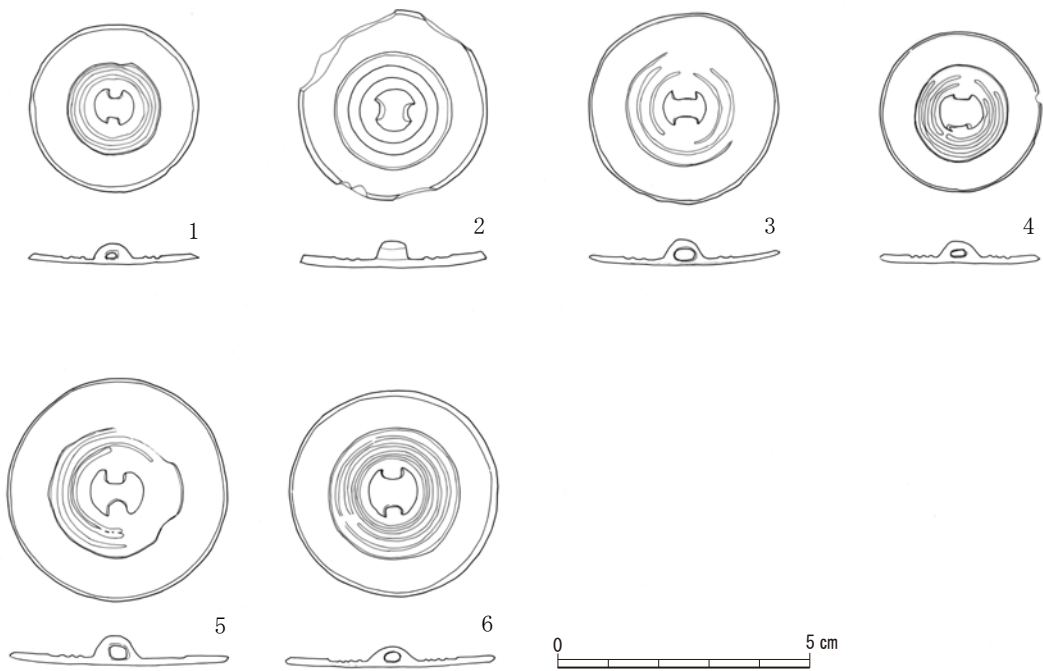
1. 群馬県舞台遺跡 2. 愛媛県火内遺跡 3. 群馬県成塚向山1号墳
 4. 石川県西念・南新保遺跡 5. 千葉県戸張一番割遺跡 6. 兵庫県松本遺跡
 7. 広島県山ノ神1号墳 8. 静岡県小深田西1号墳 9. 宮崎県西ノ別府遺跡

第20図 4類の諸例



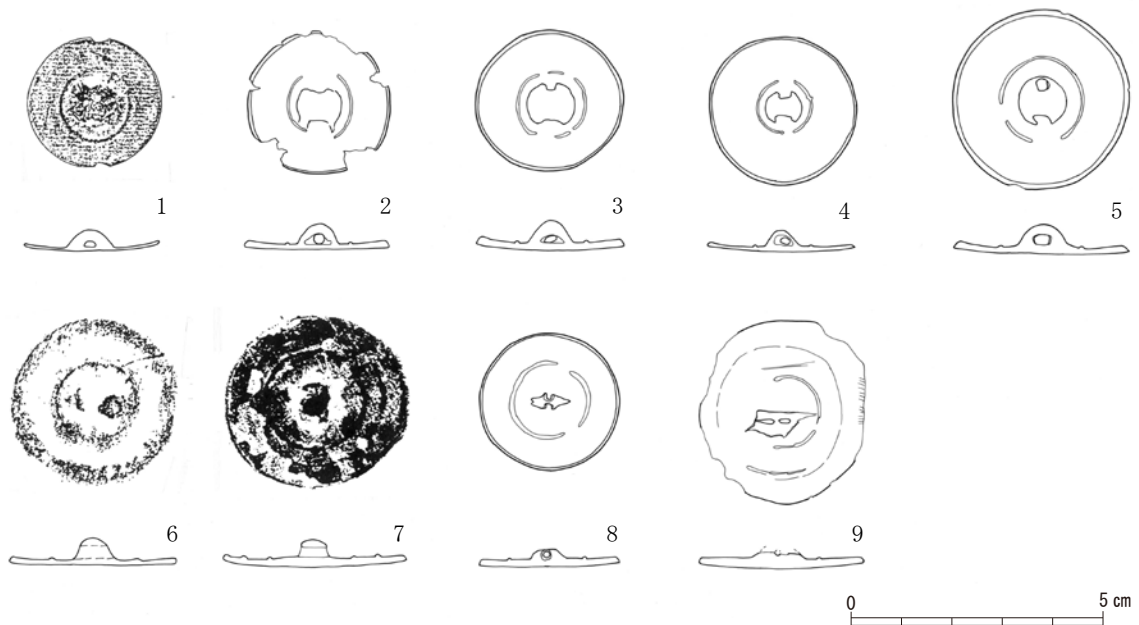
1. 石川県田中 A 遺跡 2. 大阪府久宝寺遺跡 3. 千葉県大竹遺跡 4. 兵庫県井の端 7 号墳

第 21 図 4 類の諸例



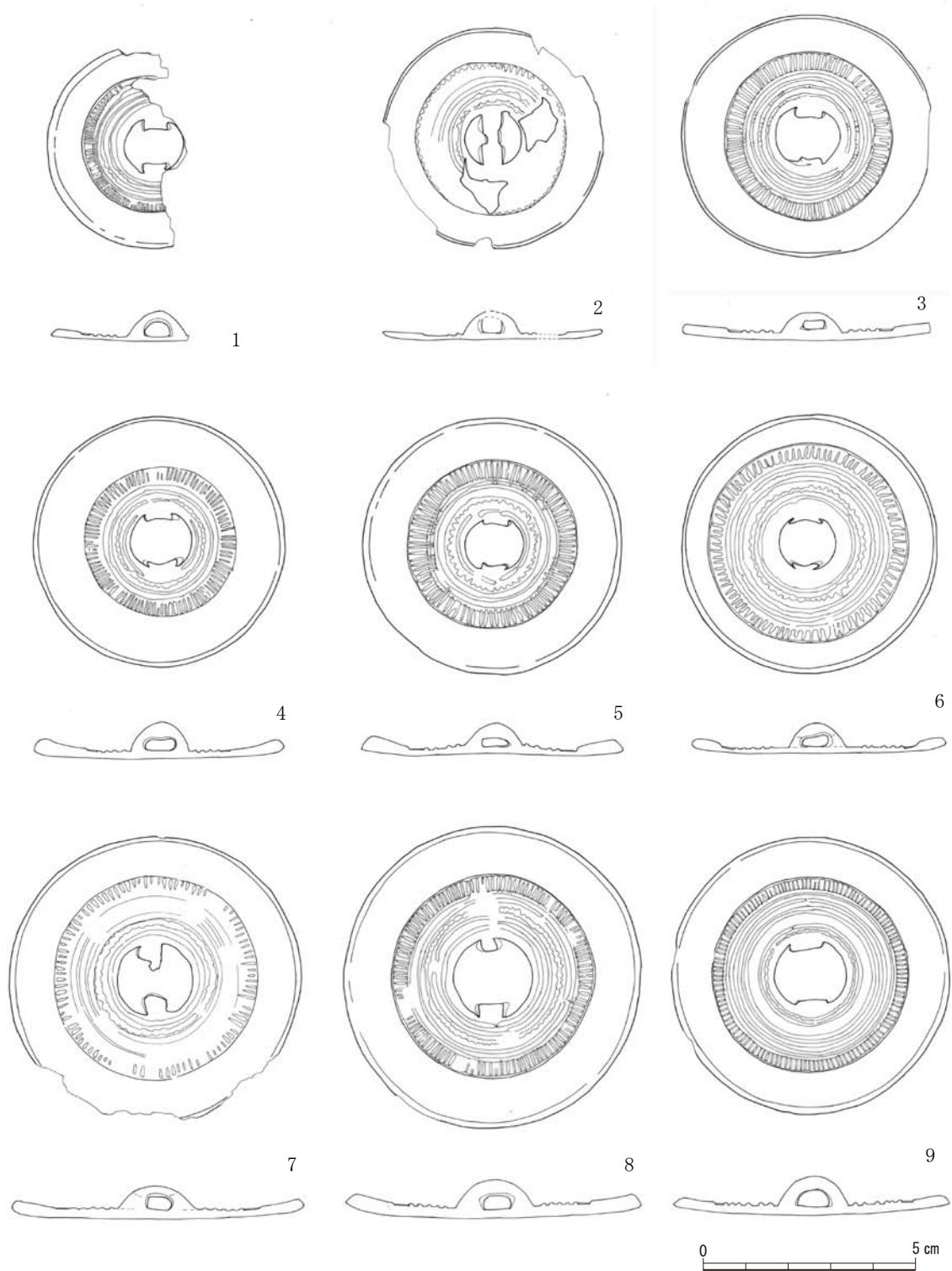
1. 兵庫県藤江別所遺跡 2. 兵庫県下坂部遺跡 3. 静岡県小深田西遺跡 4. 長野県篠ノ井遺跡
5. 静岡県元宮川神明原遺跡 6. 熊本県舞野2号石棺

第22図 5類の諸例



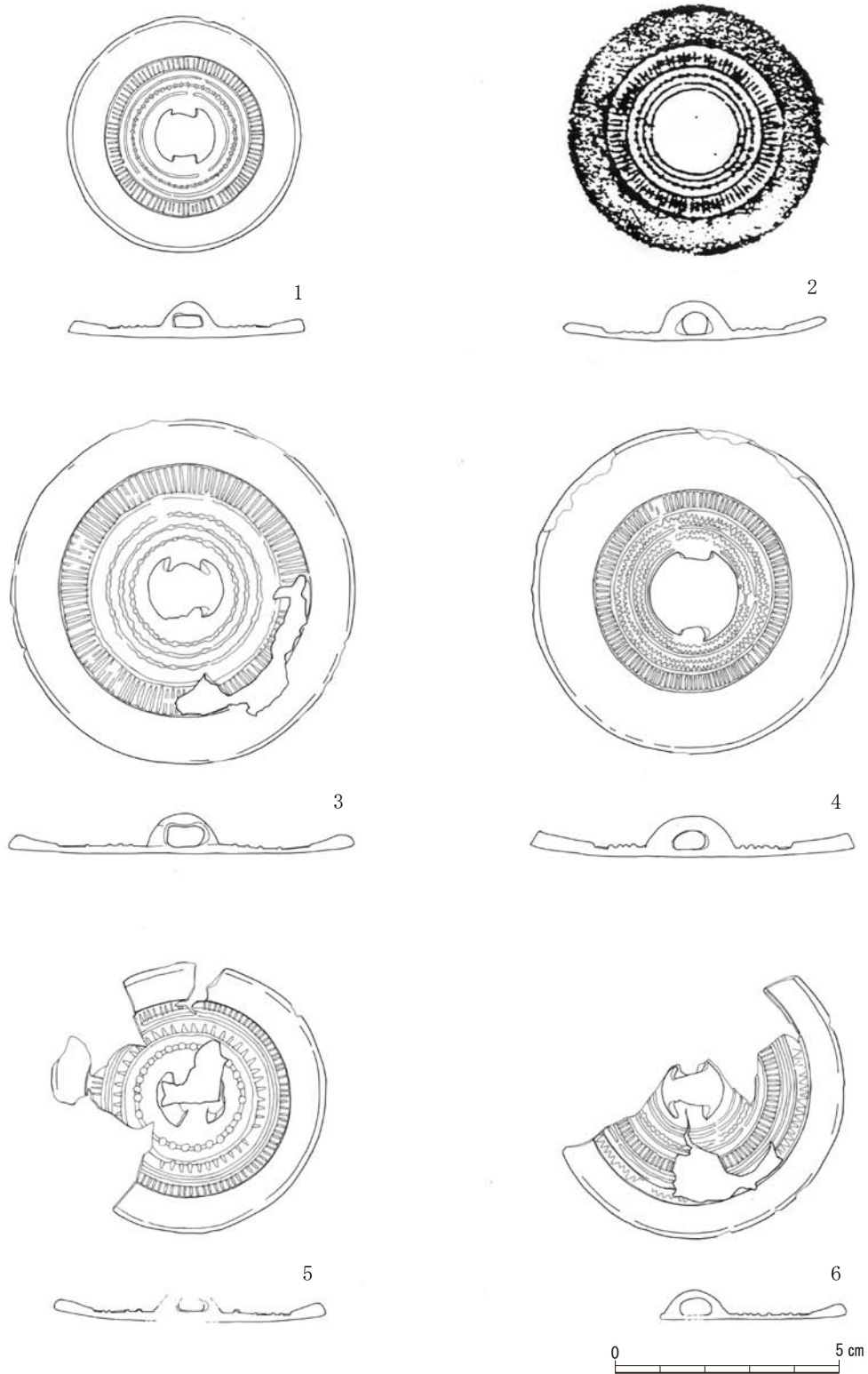
1. 新潟県西川内南遺跡 2. 岡山県百間川沢田遺跡 3. 大阪府溝咋遺跡 4. 兵庫県藤江別所遺跡
5. 香川県居石遺跡 6. 福岡県稲光遺跡 7. 滋賀県高溝遺跡 8. 兵庫県吉田南遺跡 9. 三重県土山遺跡

第23図 5類の諸例



1. 佐賀県佐志中通遺跡 2. 広島県下山手4号墳 3. 岡山県津寺遺跡 4. 山梨県平林2号墳
 5. 愛媛県唐子台第5丘7号墓 6. 大阪府小倉東遺跡E地区箱式石棺 7. 滋賀県下味遺跡
 8. 香川県歩波島1号墳 9. 岡山県津寺遺跡土坑

第24図 7類の諸例

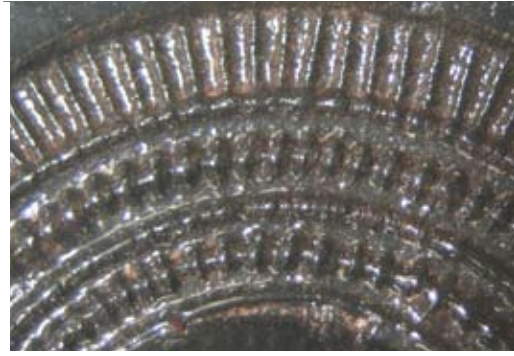


1. 岐阜県龍門寺14号墳 2. 広島県毘沙門台遺跡 3. 茨城県勅使塚古墳 4. 徳島県宮谷古墳
5. 京都府志高遺跡 6. 佐賀県中隈山4号墳第3主体部

第25図 5類の諸例



1. 大阪府利倉南遺跡



2 徳島県宮谷古墳 (7 iii類)



3 岡山県津寺遺跡 (7 i類)



4 岡山県津寺遺跡土坑 (7 i類)



5 大阪府小倉東遺跡 (7 ii類)



6 岐阜県龍門寺古墳 (7 ii類)



7 京都府志高遺跡 (7 iv類)



8 佐賀県中隈山4号墳 (7 v類)

第 26 図 珠文状結線文の形状 (縮尺不同)

(4) 重圏文鏡の編年

1類から7類のなかで最も形態的に古い特徴をもつものは1類の大阪府鷹塚山遺跡例である。鷹塚山遺跡例は圏線の外側に斜行櫛歯文帯、内側に直行櫛歯文帯をもつものである。この鏡は鏡体厚があり、鈕孔の形状は丸い。斜行櫛歯文帯は弥生時代小型仿製鏡に頻繁にみられる文様である。この文様をもつ九州地方の弥生時代小型仿製鏡は、(伝)熊本県菊池郡・阿蘇郡例(第27図1)、佐賀県牟田寄遺跡例(第27図2)、岡山県山屋敷遺跡例(第27図3)などに求めることができる。(伝)菊池郡・阿蘇郡例は二重の斜行櫛歯文帯がみられ、連弧文銘帯鏡の連弧文帯が脱落したもので、牟田寄遺跡例や山屋敷遺跡例は、(伝)菊池郡・阿蘇郡例の内側の斜行櫛歯文帯がさらに脱落した文様構成である。これらの鏡は鷹塚山遺跡例と比較すると縁の幅が狭く、鏡の反りもないため、鷹塚山遺跡例とは製作方法では直接の関係にあるとは考えがたいが、文様には影響を与えていると考えられる。新たな技術と九州地方の弥生時代小型仿製鏡の文様から、近畿地方において古墳時代の重圏文鏡が出現したと判断できる。

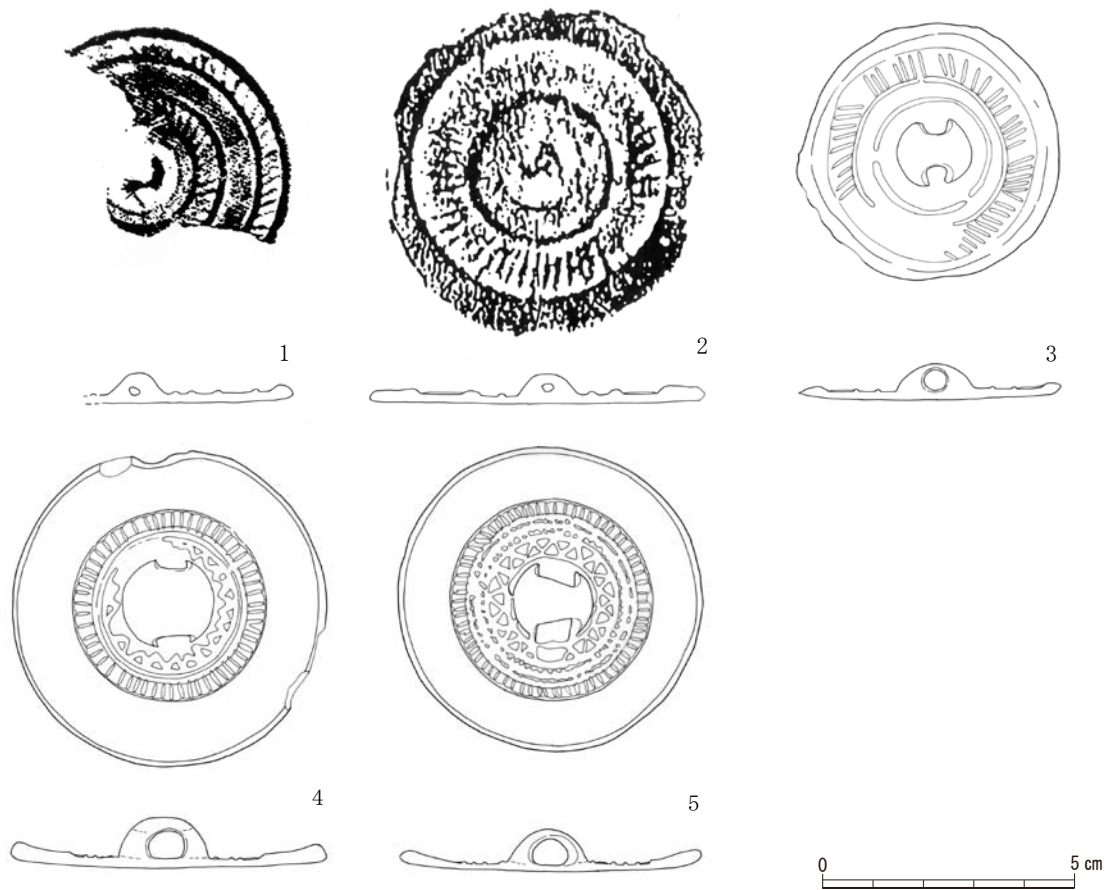
第28図で示しているように、1類の影響を受けて出現したものは、2類である。2類は二重以上の櫛歯文帯をもつものであり、1類の櫛歯文帯と斜行櫛歯文帯を一重ずつ配するものから、二重以上の直行櫛歯文帯を配するものへと変化したと考える。さらに2類からは3・4a類が出現した。4a類は2類の二重の櫛歯文帯が一重になったものであり、3類は2類の外側の櫛歯文帯が鋸歯文帯へと変化したものと判断する。さらに4b類からは外区と圏線を有する5類が派生し、5類から外区はなく圏線のみで文様構成は鈕から外に向かって、構成である6類が派生したと考えられる。

7i～7v類の中でどの分類が最も古いかを検討するために、珠文状結線文の祖形について考える。これまで珠文状結線文は重圏文鏡から出現すると考えられており、特に珠文状結線文そのものについて論じられることはなかった。弥生時代後期の小型仿製鏡のなかで珠文状結線文をもつものは、大阪府利倉南遺跡出土鋸歯文鏡(第26図1)や兵庫県竜山9号墳例(第90図2)をあげることができる。利倉南遺跡例をみると、単線の鋸歯文帯と櫛歯文帯の間には、珠文状結線文をもつ圏線が一条配されている。この珠文状の文様は、珠文というよりは太い櫛歯文状を呈し、文様の間隔が非常に狭いという特徴がみられる。

この櫛歯文状の文様が7類の珠文状結線文の祖形になるのではないかと考えている。利倉南遺跡例に類似するものは、7 iii類の宮谷古墳例（第26図2）をあげることができる。圏線状の文様の間隔が非常に狭く、櫛歯文状の文様を施す点も共通する。また宮谷古墳例は、鈕に高さがあり、鈕孔の形状は大きく丸い。弥生時代後期末とされる鷹塚山遺跡例の鈕や鈕孔の形状に類似することから、珠文状結線文をもつ重圏文鏡の中で、最も古い形態と考えられる。

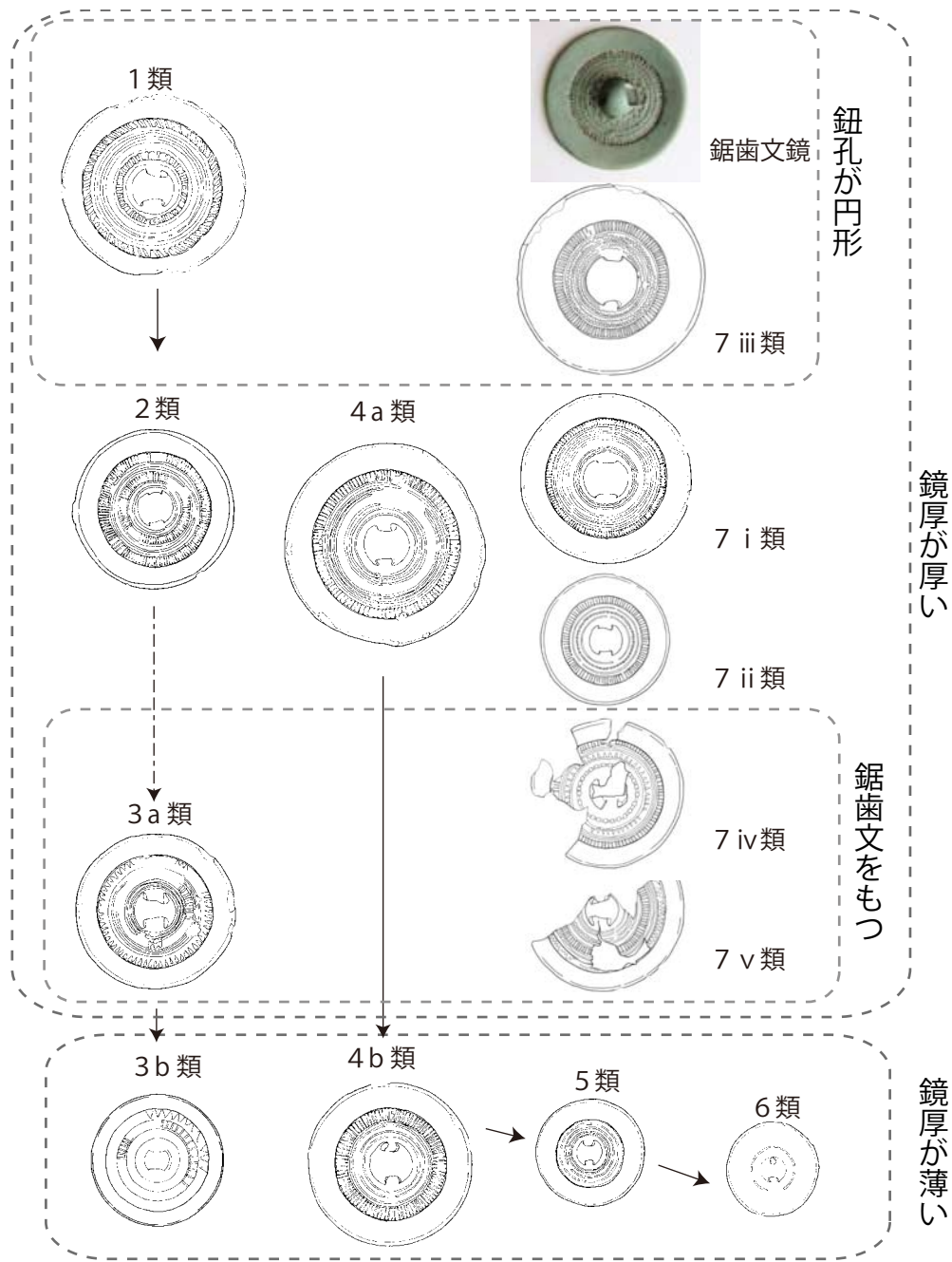
7 iii類の次に、珠文状の文様の間隔が狭い7 i類が出現すると考える。引き続いて7 i類の文様の間隔が広がる7 ii類が出現し、次に鋸歯文帯をもつ7 v類が出現する。

面径をみると4類・5類・6類は5 cm以下のものもあるが、7類の珠文状結

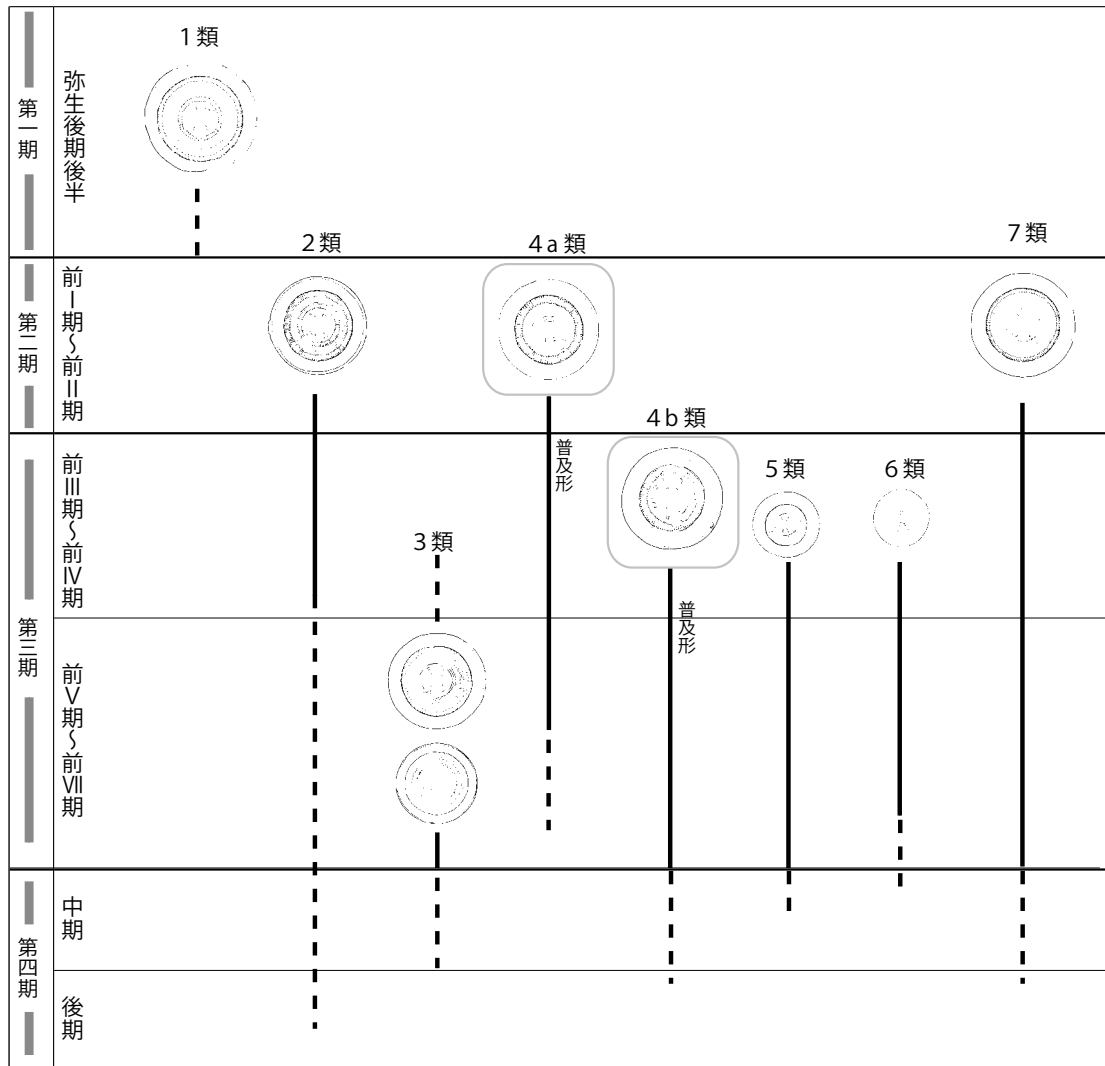


1. (伝) 熊本県菊池郡・阿蘇郡 2. 佐賀県牟田寄遺跡 3. 岡山県山屋敷遺跡
4. 兵庫県長田神社境内遺跡 5. 大阪府利倉南遺跡

第27図 弥生時代小型仿製鏡の諸例



第28図 重圏文鏡の関係図



第 29 図 重圏文鏡の面期

線文をもつ重圏文鏡は 5 cm 以下のものは出土していない。したがって、重圏文鏡が小型化する時期には、珠文状結線文をもつ 7 類は製作されなくなったと考えられる。

重圏文鏡の遺跡の年代で最も遡るものを述べると、1 類の鷹塚山遺跡は弥生時代後期末の包含層出土と報告される。2 類の青谷上寺地遺跡例は前 I 期～前 II 期である。2 類の北野遺跡 5 号墳は前 III 期～前 IV 期である。3 類の立野遺跡は前 III 期～前 V 期である。4 a 類の井の端 7 号墳、永塚下り畑遺跡、大竹遺跡は前 I 期～前 II 期である。4 b 類は藤江別所遺跡は前 II 期～前 III 期である。5

類の舞野2号石棺、藤江別所遺跡は前Ⅱ期～前Ⅲ期である。6類の居石遺跡、藤江別所遺跡、西川内南遺跡は前Ⅱ期～前Ⅲ期である。7 iii類の宮谷古墳例は前Ⅰ期である。7 i期の津寺遺跡は前Ⅰ期～前Ⅱ期、7 ii類の毘沙門台遺跡は前Ⅰ期～前Ⅳ期、7 v類は前Ⅲ期であり、いずれも前期には出現していることが判明した。

(5) 重圏文鏡の画期

重圏文鏡の段階を設定する。第一期は、鈕孔が円形であり、鏡体が厚いものがみられる。弥生時代後期後半である。第二期は鈕孔が方形のものが増え、鏡体が厚いものが多い。時期は前Ⅰ期～前Ⅱ期である。第三期は、鏡体が薄くなり、小型化が進む段階である。重圏文鏡4 a類・5・6類が出現する。さらに鋸歯文帯をもつ3類も加わる。時期は前Ⅲ期～前Ⅶ期である。第4期は重圏文鏡の衰退期である。鼻鈕をもつ重圏文鏡などが新たに製作される。それ以外は前Ⅶ期までに製作されたものが伝世したと考える。時期は中期～後期である。

第3節 重圏文鏡の特質

(1) 重圏文鏡の流通と消費

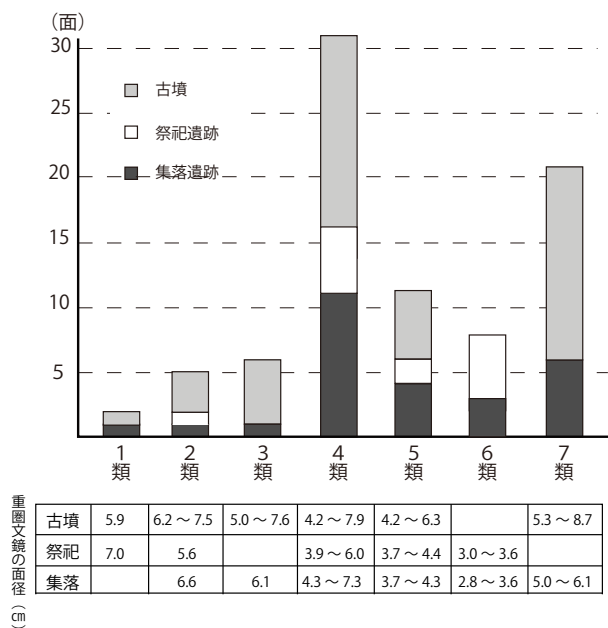
次に重圏文鏡の流通と消費状況を探るために、時期ごとの分布、出土遺跡について検討を行う。ここでは出土地と文様が明らかなもののみを対象とした。

まず出土遺跡の種類について論じる。古墳出土の事例、集落・祭祀遺跡の事例の順番で述べる。分類ごとに古墳と集落・祭祀遺跡から出土する割合を述べると、104面のうち43面が古墳からの出土であり、59面が集落・祭祀遺跡出土である。そのほかは出土遺跡不明となっている。

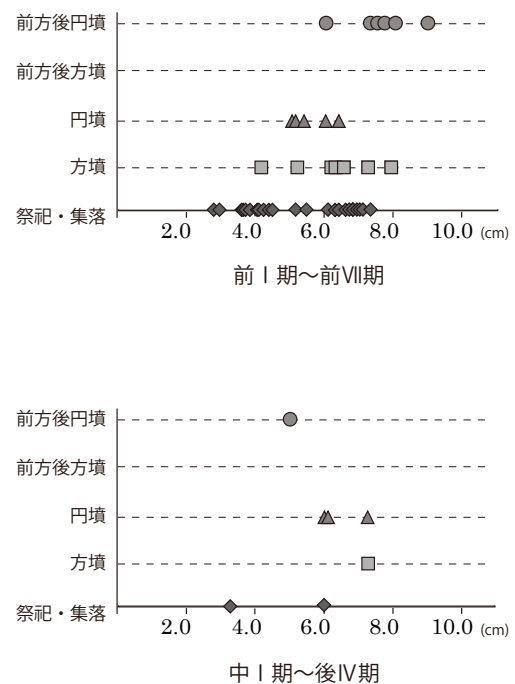
①古墳出土の事例

古墳出土の出土数を述べると、1類は1面、2類は3面、3類は5面、4類は10面、5類は3面、7類は15面となる。なお、6類は1面も古墳から出土していない。1・2・3類は古墳から出土する割合が約50%である。4類・5類は約3分の1が古墳から出土する。6類は非常に小型のためか、古墳の出土例はない。7類は約3分の2が古墳から出土し、古墳への副葬が重圏文鏡で最も多い。

1類が出土した古墳のうち墳丘形状の判明するものは、三重県向山古墳がある。全長73mの前方後円墳である。時期は判断できない。2類は3例で、墳丘の形状は方墳2例と墳形不明1例である。方墳の規模は、辺長13.05×13.75m、辺長32×35mである。3類は5例のうち2例は墳長20mと93mの前方後円墳で、前V期～前VII期、中IV期である。ほかの2基は墳形不明である。4類は10例あり、墳丘の形状をみると、方墳4例、円墳3例、前方後円墳1例、墳形不明2例となる。方墳の規模は2例判明しており、辺長10×11mのものと21mのものがある。円墳は直径12～15m、前方後円墳は墳長60m以上である。5類は3例あり、方墳は1例で辺長14mである。墳形が不明のものは2例ある。墳丘の形状は、方墳が最も多く、規模は小型のものが多い。7類は21例のうち15例は古墳からの出土で、前方後円墳3例、前方後方墳1例、円墳5例、方墳1例である。7類はほかの分類よりも古墳から出土する割合が高い。墳丘規模は30m以上の古墳は6基あり、ほかの分類と比べると規模が大きい。



第30図 分類ごとの遺跡の種類



第31図 遺跡の種類と面径の関係

第6表 古墳出土の重圏文鏡一覧

都道府県	遺跡名	分類	面径(cm)	墳形	規模	棺の種類	大賀編年
三重	向山古墳	1	5.9	古墳			不明
京都	離湖古墳第2主体部	2	7.5	方墳	32×35	木棺	中Ⅱ期
静岡	長崎遺跡SX510	2	7.25	方墳?			前Ⅰ期～前Ⅱ期
千葉	北野遺跡5号墳	2	6.2	方墳	13.05× 13.75		前Ⅲ期～前Ⅳ期
大分	亀甲山古墳	3	5.8	円墳			不明
福岡	鬼首古墳	3	7.6	円墳		箱式石棺	判断できない
福岡	立野遺跡	3	5.3	古墳		箱式石棺	前Ⅲ期～前Ⅴ期
兵庫	大滝2号墳第1主体部	3	5	前方後円墳	20	木棺	中Ⅳ期
長野	川柳將軍塚古墳	3	7.3	前方後円墳	93	竪穴式石槨	前Ⅴ期～前Ⅵ期
島根	大坪山古墳群	4	不明	古墳		箱式石棺	中Ⅰ期
佐賀	永田遺跡	4a	6.54	古墳			不明
香川	鉢伏山1号墳	4a	5.4	円墳	15	竪穴式石槨	前Ⅰ期～前Ⅶ期
兵庫	井の端7号墓箱式石棺	4a	7.9	方形周溝墓	10×16	木棺	前Ⅰ期～前Ⅱ期
静岡	小深田西1号墳第1主体部	4a	6.54	方形周溝墓	10×11	木棺	前Ⅴ期～前Ⅵ期
群馬	成塚向山1号古墳第2主体部	4a	6.3	方墳	21	木棺	前Ⅴ期～前Ⅵ期
山口	朝田墳墓群8号方形台状墓	4b	4.2	方墳	9.0×12.7	箱式石棺	前Ⅴ期～前Ⅵ期
広島	山ノ神1号古墳第2号箱式石棺	4b	6.4	円墳	12	箱式石棺	前Ⅲ期～前Ⅶ期
岡山	一宮天神山2号墳B主体部	4b	6.05	前方後円墳	60以上	竪穴式石槨	前Ⅴ期～前Ⅶ期
奈良	見田・大沢2号墳	4b	4.2	方墳	14	木棺	前Ⅲ期～前Ⅳ期
静岡	愛野向山Ⅱ遺跡12号墳1号主体	4b	約6.0	円墳	記述なし、 図あり	竪穴式石槨	中Ⅳ期
熊本	舞野2号石棺	5	4.16	古墳	不明	箱式石棺	前Ⅲ期～前Ⅳ期
長野	片山古墳	5	6.3	方墳	14	粘土槨	中Ⅱ期～中Ⅲ期
三重	善応寺山古墳群	5?	6	古墳			不明
鳥取	古郡家1号墳北棺	7 i	8.7	前方後円墳	92.5	箱式石棺	中Ⅰ期
広島	下山手第4号古墳周溝	7 i	5.3	方墳	14	溝	前Ⅵ期～前Ⅶ期
岡山	津寺遺跡土坑	7 i	6.63	古墳	0.4	土壙墓	前Ⅲ期～前Ⅵ期
愛媛	唐子台第5丘7号墓	7 i	6.18	古墳		土壙墓	前Ⅰ期
香川	歩渡島1号墳	7 i	7.05	古墳・墳丘なし		箱式石棺	前Ⅰ期～前Ⅶ期
滋賀	下味古墳第2主体	7 i	6.91	円墳	35	粘土槨	前Ⅴ期～前Ⅶ期
山梨	平林2号墳	7 i	6.03	円墳	15	横穴式石室	後Ⅳ期
群馬	淵名1号墳	7 i	6.6	円墳	30	横穴式石室	中Ⅲ期～後Ⅱ期
大阪	小倉東遺跡E地区箱式石棺	7 ii	6.09	古墳		箱式石棺	中Ⅱ期～中Ⅲ期
岐阜	龍門寺14号墳	7 ii	5.33	円墳	18	割竹形木棺	前Ⅴ期～前Ⅵ期
愛知	寺林1号墳	7 ii	5.3	円墳?	3		前Ⅴ期～前Ⅶ期
茨城	勅使塚古墳後方木棺	7 ii	7.8	前方後方墳	64	粘土床・木棺	前Ⅴ期～前Ⅶ期
徳島	宮谷古墳	7 iii	7.36	前方後円墳	37.5	竪穴式石槨	前Ⅰ期
佐賀	中隈山4号墳第3主体部	7 v	7.1	古墳			前Ⅲ期
大阪	板持第3号墳	7	8	前方後円墳	40	木棺	前Ⅲ期～前Ⅳ期

②集落・祭祀遺跡出土の事例

集落・祭祀遺跡の種類を分類ごとに述べる。104面中59面が集落・祭祀遺跡出土である。

1類は鷹塚山遺跡例の1面がある。集落内のもっとも高所から出土している。2類は1面で、包含層からの出土である。3類は1面で、住居跡からの出土である。4類は住居から8面、井戸・溝など水に関するものは4面、海に関するものは1面、祭祀に関する土坑1面、包含層や採集品は5面である。5類は住居3面、井戸1面、包含層など出土状況が不明なものが2面となる。6類は河川・溝・井戸など水に関するものは4面、集落内の土坑2面、山に関するものは1面、包含層2面となる。7類は集落遺跡が6面となる。

古墳出土のものと、集落・祭祀遺跡出土のものを比べると（第30図）、2重の櫛歯文帯をもつ2類、櫛歯文帯と鋸歯文帯をもつ3類、珠文状結線文をもつ7類は、古墳からの出土の割合が高くなる。一方で圏線と外区をもつ5類と圏線のみ6類は集落・祭祀遺跡から出土する割合が高く、古墳の副葬品としての役割はなくなると考えられる。櫛歯文帯をもつ4類は約40%が古墳から出土し、60%が祭祀・集落遺跡から出土することから、特に使用方法は決まっていなかったと思われる。このことから、文様が複雑であり、面径の大きな2・3・7類が古墳から出土するのに対して、文様が単純であり、面径の小さな5・6類は祭祀・集落遺跡から出土すると判明した。重圏文鏡は文様の分類ごとにその役割は異なっていたと思われる。

遺跡の種類と面径の関係については第31図に示している。前期は、墳丘規模が円墳や方墳と比べ大型である前方後円墳からは、面径6cm以下の重圏文鏡は少なく、7cm代のものが多い。重圏文鏡の中では大型のものが前方後円墳の副葬品となっていたようである。方墳や円墳からは7cm以上のものは少ない傾向がみられる。さらに、集落・祭祀遺跡出土の重圏文鏡は、方墳出土の重圏文鏡の面径とはあまり相違がないものの、方墳出土のものとは比べると面径4cm前後のものが多いという傾向があり、集落・祭祀遺跡は小型のものが使用されたとわかる。中期から後期は重圏文鏡の数量が少ないため、これだけで傾向を論じることは難しい。

また、集落の住居内で青銅鏡を最終的に廃棄するという祭祀は前期までは盛んであるが、それ以降はあまり行われないと判明した。中期以降は、集落・祭

第7表 集落・祭祀遺跡出土の重圏文鏡一覧

所在地	遺跡名	分類	面径(cm)	遺跡種別	遺構詳細	大賀編年
大阪	鷹塚山遺跡	1	7.0	集落	包含層	弥生時代後期後半
福岡	荻浦A-20-a地点	2	5.6	祭祀		後Ⅱ期
鳥取	青谷上寺地遺跡	2	6.6	集落	1区1層	前Ⅰ期～前Ⅱ期
群馬	神保下條遺跡1号住居	3	6.1	集落・住居	住居	前Ⅴ期～前Ⅶ期
宮崎	西ノ別府遺跡	4a	7.1	集落・住居	住居	前Ⅲ期～前Ⅵ期
兵庫	松本遺跡遺物包含層	4a	6.9	集落	包含層	前期
大阪	久宝寺遺跡住居3	4a	6.7	集落・住居	住居	前Ⅲ期～前Ⅵ期
和歌山	北田井遺跡	4a	4.5	集落・住居	住居	前期
滋賀	下長遺跡	4a	4.2	集落・水	集落・水	前期
石川	西念・南新保遺跡	4a	6.4	集落・溝	溝	前Ⅲ期～前Ⅴ期
石川	田中A遺跡	4a	6.8	集落	遺物包含層	前Ⅰ期～前Ⅲ期
神奈川	永塚下り畑遺跡	4a	7.8	集落・住居	住居	前Ⅰ期～前Ⅱ期
神奈川	梶山遺跡第Ⅱトレンチ	4a	5.5	集落	トレンチ内	前Ⅰ期～前Ⅱ期
千葉	戸張一番割遺跡30号住居跡	4a	6.3	集落・住居	住居	前Ⅳ期～前Ⅴ期
千葉	大竹遺跡群二又堀遺跡SI105住居	4a	7.3	集落・住居	住居	前Ⅰ期～前Ⅱ期
群馬	舞台遺跡146号住居	4a	6.8	集落・住居	住居	前Ⅳ期～前Ⅴ期
鳥取	博労町遺跡	4b	不明	集落	不明	不明
愛媛	松木広田遺跡	4b	復元5.1	祭祀	SK18	前Ⅲ期～前Ⅳ期
愛媛	火内遺跡	4b	6.0	祭祀?・海の祭祀?	海の祭祀か?	中Ⅲ期～後Ⅰ期
兵庫	藤江別所遺跡井戸址	4b	3.9	祭祀・井戸の祭祀	井戸の祭祀	前Ⅲ期～前Ⅳ期
兵庫	藤江別所遺跡井戸址	4b	4.1	祭祀・井戸の祭祀	井戸の祭祀	前Ⅲ期～前Ⅳ期
東京	伊興遺跡谷下地区	4b	5.2	祭祀	表採	前期～中期
福岡	谷遺跡	4	4.3	集落・住居	竪穴住居	前Ⅰ期～前Ⅱ期
神奈川	宮前小台遺跡	4	6.3	集落・住居	住居	前期
鳥取	長瀬高浜遺跡	5	4.3	集落	SI249	前Ⅳ期～前Ⅵ期
兵庫	藤江別所遺跡井戸址	5	3.7	祭祀・井戸の祭祀	井戸の祭祀	前Ⅲ期～前Ⅳ期
兵庫	下坂部遺跡	5	3.7	集落	埋め戻して出土。	前期～中期
静岡	元宮川神明原遺跡	5	4.4	祭祀	表土除去中に出土	前Ⅴ期～前Ⅵ期
静岡	小深田遺跡第7地点D-23住居	5	3.7	集落・住居	住居	前Ⅴ期～前Ⅶ期
長野	篠ノ井遺跡	5	3.3	集落・住居	住居	前Ⅲ期～前Ⅴ期
千葉	西初石五丁目遺跡	5	4.1	集落・住居	住居	前Ⅳ期～前Ⅴ期
岡山	百間川沢田遺跡	6		集落		前Ⅴ期～前Ⅵ期
香川	居石遺跡	6	3.6	祭祀・河川跡	河川跡	前Ⅲ期～前Ⅳ期
兵庫	藤江別所遺跡井戸址	6	3.0	祭祀・井戸の祭祀	井戸の祭祀	前Ⅲ期～前Ⅳ期
兵庫	吉田南遺跡	6	2.8	集落	溝	前期
大阪	溝咋遺跡	6	3.0	集落	穴	前期
三重	土山遺跡	6	3.3	祭祀・岩盤路頭部	岩盤露頭部	中Ⅲ期～後Ⅰ期
滋賀	高溝遺跡大溝	6	3.6	集落・溝	溝	前期
新潟	西川内南遺跡	6	2.8	包含層	包含層	前Ⅱ期～前Ⅲ期
福井	漆谷遺跡	7		集落	包含層	不明
佐賀	佐志中通遺跡	7 i	5.0	集落	集落	不明
岡山	津寺遺跡	7 i	6.0	集落・住居	住居	前Ⅱ期～前Ⅳ期
千葉	駒形遺跡第1住居跡南円形土壇	7 i	記述なし	集落・土坑	土坑	前Ⅰ期～前Ⅶ期
広島	毘沙門台遺跡	7 ii	6.0	集落・住居	住居	前Ⅰ期～前Ⅲ期
京都	志高遺跡	7 iv	6.1	集落	遺物包含層	前Ⅴ期～前Ⅵ期

祀遺跡以外に、海や山などの集落外の祭祀にて用いられたと思われる。出土数をみると、前期に多く、中期から後期は激減している。この要因としては前期段階で重圏文鏡の生産が終了することによると考えられる。

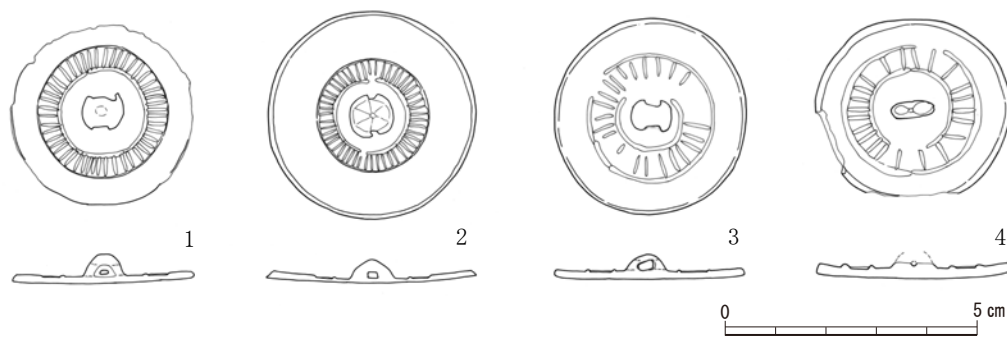
(2) 共伴する鏡について

重圏文鏡とほかの青銅鏡が共伴する遺跡は9例あり、古墳は4例、集落・祭祀遺跡は5例であった。まず古墳の事例を説明すると、大分県亀甲山古墳では3類の重圏文鏡と三角縁複波文帯三神三獣鏡1面、宮谷古墳は7 iii類の重圏文鏡と三角縁銘帯六神四獣鏡・三角縁銘帯四神四獣鏡・三角縁唐草文帯二神二獣鏡片⁽³⁾、平林2号墳は7 ii類の重圏文鏡と珠文鏡1面、川柳將軍塚古墳例は3類の重圏文鏡と仿製内行花文鏡・四獣鏡・珠文鏡・乳文鏡、一宮天神山2号墳B主体部例は4類の重圏文鏡と捩文鏡が共伴する。

集落・祭祀遺跡のうち重圏文鏡と他鏡式のものが共伴する遺跡は5例ある。香川県居石遺跡、兵庫県藤江別所遺跡、滋賀県高溝遺跡、静岡県元宮川神明原遺跡、東京都伊興遺跡がある。このうち同じ遺構から出土したものには藤江別所遺跡例と居石遺跡例がある。藤江別所遺跡では4・5・6類の重圏文鏡が確認でき、共伴するものには素文鏡・櫛歯文鏡・珠文鏡がある。居石遺跡には6類の重圏文鏡があり、素文鏡・珠文鏡が同じ遺構から出土している。また、同じ遺跡内から出土したものとして伊興遺跡例がある。伊興遺跡からは重圏文鏡4類と珠文鏡が出土している。元宮川神明原遺跡例は重圏文鏡5類で、素文鏡・仿製鏡片も出土している。高溝遺跡は重圏文鏡6類と素文鏡が出土している。祭祀・集落遺跡では舶載鏡と共伴するものがみられなかったことから、重圏文鏡を祭祀・集落遺跡で出土する場合には、仿製鏡とセットになるものと考えられる。

(3) 櫛歯文鏡の検討

重圏文鏡と類似する櫛歯文鏡について紹介したい。高倉洋彰によって櫛歯文鏡は重圏文鏡の圏線が脱落したことで出現したものとされた(高倉1995)。櫛歯文鏡は現在8面を確認している⁽⁴⁾。愛媛県大木遺跡例(第32図4)、鳥取県長瀬高浜遺跡S B 40例(第32図1)、兵庫県藤江別所遺跡例(第32図2)、兵庫県藤江別所遺跡、兵庫県宿山1号墳、滋賀県蛭谷遺跡例(第32図3)、大



1. 鳥取県長瀬高浜遺跡 2. 兵庫県藤江別所遺跡 3. 滋賀県蚩谷遺跡 4. 愛媛県大木遺跡

第32図 橢歯文鏡の諸例

阪府池福島・福万寺遺跡・長野県地獄沢古墳・長野県飯綱社古墳である。これらは、橢歯文帯を構成するための圏線以外はすべて脱落していることから、面径は3.6～5.6 cmと小型になる。また鏡の厚みも薄くなっていることから、重圏文鏡4 b類・5類・6類と共通する要素が多い。

時代の判明するものを述べると、長瀬高浜遺跡例は前Ⅱ期～前Ⅲ期、藤江別所遺跡例は前Ⅲ期～前Ⅳ期、大木遺跡は中Ⅲ期、宿山1号墳は中期、飯綱社古墳は中Ⅲ期～中Ⅳ期となる。橢歯文鏡は前Ⅰ期～前Ⅱ期のものがみられないことから、重圏文鏡よりやや遅れて出現していることが分かる。高倉が指摘するように重圏文鏡の面径の縮小によって圏線が脱落したと考えられる。

(4) 重圏文鏡の製作

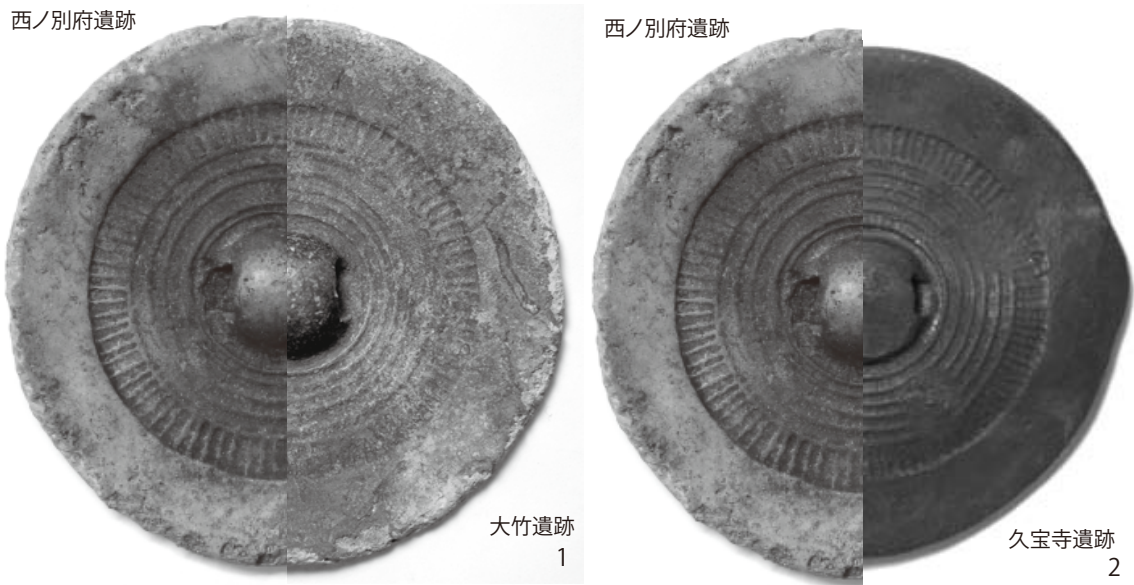
重圏文鏡の製作について踏み込んでいるものには林正憲の研究がある。石川県西念・南新保遺跡、田中A遺跡の2面は圏線が鈕と重なっていることから、鈕が中心に位置していないという特徴があり、これは挽型を引いた後に鈕を削り出す方法を用いているとし、中・大型仿製鏡にはみられない技法であることから、各地域における小規模な仿製鏡生産の可能性を想定している（林2005）。ただし、この2面の鏡は共に流通によって別の地方からもたらされたという想定もでき、製作を石川県で行ったと断定することは難しいと思われる。

ここでは、最も南から出土している宮崎県西ノ別府遺跡例と類似する鏡がどこから出土するのかを検討し、重圏文鏡の製作地について推測する。

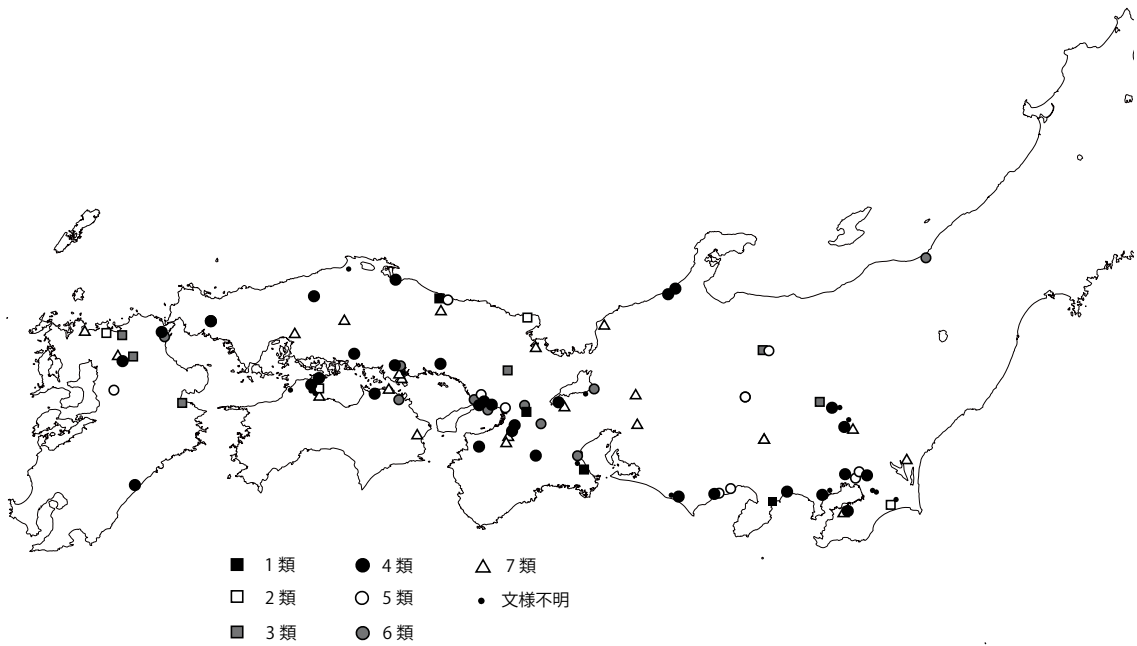


1. 宮崎県西ノ別府遺跡 2. 大阪府久宝寺遺跡 3. 千葉県大竹遺跡

第 33 図 西ノ別府遺跡例と類似する諸例（実物大）



第34図 西ノ別府遺跡例との比較（実物大）



第35図 重圈文鏡の分布

まず、西ノ別府遺跡（第33図1）の所在する九州地方から出土している重圏文鏡について紹介する。合計7面あり、1類は佐賀県牟田寄遺跡例、2類は福岡県荻浦遺跡例、3類は大分県亀甲山古墳例、4類は佐賀県永田遺跡例・宮崎県西ノ別府遺跡例、5類は大分県舞野2号石棺例、6類は福岡県稲光遺跡例である。西ノ別府遺跡例は4類で面径7.2cmである。圏線4であり、鏡体厚0.3cm・重さ40gである。永田遺跡例も4類であるが、鈕が非常に高く、幅広い点などから、西ノ別府遺跡の特徴と異なっており、九州地方では今のところ類例は見当たらない。

九州地方以外から類例を探すと、最も類似するものとして、千葉県大竹遺跡例（第33図3）をあげることができる。大竹遺跡例は圏線5で面径7.3cm、鏡体厚0.31cmである。大竹遺跡例と西ノ別府遺跡例は鏡体厚のほか、縁や鈕孔の大きさまで類似しており、共通性が高い。鏡背面に赤色顔料を塗りこむという点でも共通している。大竹遺跡の鈕孔は摩耗のため形状は楕円となる。大阪府久宝寺遺跡例（第33図2）も西ノ別府遺跡例と類似している。面径は西ノ別府遺跡に比べ6.7cmと小さいが、鏡体厚、鈕孔が方形であること、面径にしめる鈕の大きさが類似している。

重圏文鏡は、遠距離の地域で類似する資料が出土することが判明した。さらに、4類のなかで鏡体の厚みのある4b類をみると、長方形の鈕をもつものが大部分であり、この鈕孔の形状には地域性を見出すことができないと考えられる。したがって、筆者は近畿地方を中心とした地域で製作された重圏文鏡が、各地に流通していると考えている。

それ以前の弥生時代の小型仿製鏡は、各地域で製作遺跡がみつかることから、各地域で生産・消費していたことが確実に把握できる。弥生時代小型仿製鏡の文様についても、各地域によって異なる状況がある。重圏文鏡は広い範囲で共通する文様をもつことから、弥生時代小型仿製鏡とは異なる生産体制の中で出現し流通していたと考えたい。

第4節 小結

重圏文鏡は弥生時代後期末から出土している。中国鏡に直接その祖形を見出すことができない鏡であり、弥生時代小型仿製鏡にその祖形を求めた。古墳時代の重圏文鏡は弥生時代小型仿製鏡である九州地方において生産された牟田寄遺跡例や山屋敷遺跡例と比べると、鈕が大きく、反りが強い。弥生時代小型仿製鏡の文様は、重圏文鏡の初期の例である鷹塚山遺跡例と類似することから、文様の創出に影響を与えていると思われる。また、重圏文鏡と近畿地方の弥生時代小型仿製鏡との関係については、断面形態が類似することから、近畿地方における銅鏡製作の技術を受け継いでいると思われる。各地の弥生時代仿製鏡の影響を受け、新たに作り出された仿製鏡と考えられる。

重圏文鏡は全国から104面出土しており、分布状況をみると4類は宮崎県から栃木県までの非常に広範囲にみられる(第35図)。特に前I期～前IV期になると、4類が九州北部、瀬戸内海、近畿地方、関東地方を中心に出土している。この状況をみると、重圏文鏡は、各地で生産され、異なる文様の鏡を出現した弥生時代小型仿製鏡とは全く異なる流通システムがあったと推測する。

重圏文鏡が出土した遺構の時期をみると、前II期～前IV期の出土が多いことから、おそらくその多くは前I期～前II期に製作されていたと考えられる。重圏文鏡は中期～後期の出土数が18面と少ないことから、中期以降は普及せずに重圏文鏡は役割を終えたと考えられる。

重圏文鏡は、文様の分類によって、古墳と集落・祭祀遺跡で出土する割合が異なっている。特に文様が複雑であり、面径の大きな7類の珠文状結線文をもつものや、3類の櫛歯文帯と鋸歯文帯ともつものは古墳からの出土の割合が高く、文様が複雑ではなく、文様の小型となる5類や6類は集落・祭祀遺跡からの出土が多くなる。分類や面径によって最終的に廃棄される場所が異なっていたことが明らかとなった。

(註)

(1) 兵庫県川西市西畦野下ノ段・井戸遺跡から重圏文鏡と思われる鏡が2013年9月に出土していることを記しておく。

(2) 青谷上寺地遺跡出土重圏文鏡については、面径がほかの重圏文鏡よりも大きな点、銅質の良さなどから中国鏡という意見もあるが(岡村2011)、鑄上がりのよい例としては徳島県宮谷遺跡例や鳥取県博労町遺跡例などを指摘できる。面径については青谷上寺地遺跡出土例は復元径9.1cmと重圏文鏡では最も大きい、次に大きなものとして鳥取県古郡1号墳例は面径8.7cmであり、近い面径のものも存在する。さらに、鳥取県博労町遺跡例(第38図②)は青谷上寺地遺跡と同様に破鏡で、穿孔の痕跡がみられる。以上の理由から青谷上寺地遺跡例は中国鏡というよりは、仿製鏡の可能性が高いと考え、本論では仿製鏡に含めて検討した。

(3) 三角縁神獸鏡の名称は樋口隆康による名称を使用した(樋口2000)。

(4) 論文提出直前に神奈川県勝坂祭祀遺跡の報告書(加藤 修・篠原祐一・梶山林繼 2010『勝坂有鹿谷祭祀遺跡資料報告書』相模原市)を入手した。この報告では、青銅鏡は珠文鏡5面、櫛歯文鏡1面、変形六獣鏡1面の合計7面があり、全て湧水地から出土したとされる。櫛歯文鏡は面径3.55cmで二重の櫛歯文をもち、櫛歯文の中で類例のないものである。

(引用文献一覧)

新井 悟 2009 「古墳時代小形倣製鏡と製作技術の検討 重圏紋鏡と珠紋鏡」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』3号、アジア鑄造技術史学会、16 - 19頁。

今井 堯 1991 「中・四国地方古墳出土素文・重圏文・珠文鏡—小形倣鏡の再検討I—」『古代吉備』第13集、古代吉備研究会、1 - 26頁。

岡村秀典 2011 「青谷上寺地遺跡出土の漢鏡」『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告6 金属器』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告36、鳥取県埋蔵文化財センター、77 - 88頁。

後藤守一 1926 「仿製鏡に就いて」『漢式鏡』雄山閣、877 - 897頁。

小林三郎 1979 「古墳時代初期倣製鏡の一側面—重圏文鏡と珠文鏡—」『駿台史学』46 明治大学史学地理学会、78 - 96頁。

高倉洋彰 1972 「弥生時代小形倣製鏡について」『考古学雑誌』第58巻第3号、日本考古学会、1 - 30頁。

高倉洋彰 1985 「弥生時代小形倣製鏡について(承前)」『考古学雑誌』第70巻第3号、日本考古学会、94 - 121頁。

高倉洋彰 1995 「弥生時代小形倣製鏡の儀鏡化について」『居石遺跡』高松市教育委員会、

147 - 163 頁。

林 正憲 2005 「小形倭鏡の系譜と社会的意義」『待兼山考古学論集—都出比呂志先生退官記念—』大阪大学考古学研究室、267 - 290 頁。

林原利明 1990 「弥生時代終末～古墳時代前期の小形仿製鏡について」『東国史論』第5巻、群馬考古学研究会、49 - 64 頁。

藤岡孝司 1991 「重圏文鏡（仿製）鏡小考—3～4世紀における—小形仿製鏡の様相—」『君津郡市文化財センター研究紀要V—設立10年記念論集—』財団法人君津郡市文化財センター、57 - 75 頁。

松本佳子 2008 「瀬戸内海における弥生時代小形仿製鏡の研究」『地域・文化の考古学—下條信行先生退官記念論文集—』愛媛大学法文学部考古学研究室、273 - 302 頁。

森岡秀人 1989 「鏡」『季刊考古学』第27号、雄山閣出版、47 - 52 頁。



①宮崎県西ノ別府遺跡出土重圏文鏡



②熊本県舞野2号石棺出土重圏文鏡



③佐賀県永田遺跡出土重圏文鏡



④佐賀県佐志中通遺跡出土重圏文鏡



⑤佐賀県中隈山5号墳出土重圏文鏡



⑥山口県朝田墳墓群8号墳出土重圏文鏡

第37図 重圏文鏡の諸例



①鳥取県青谷上寺地遺跡出土重圏文鏡



②鳥取県博労町遺跡出土重圏文鏡



③広島県下山手4号墳出土重圏文鏡



④広島県山ノ神1号墳出土重圏文鏡



⑤岡山県一宮天神山2号墳出土重圏文鏡



⑥岡山県百間川沢田遺跡出土重圏文鏡

第 38 図 重圏文鏡の諸例



①岡山県津寺遺跡出土重圈文鏡



②岡山県津寺遺跡土坑出土重圈文鏡



③愛媛県唐子台5丘7号墓



④愛媛県火内遺跡出土重圈文鏡



⑤香川県鉢伏山1号墳出土重圈文鏡



⑥香川県歩波島1号墳遺出土重圈文鏡

第39図 重圈文鏡の諸例



①香川県居石遺跡出土重圏文鏡



②徳島県宮谷古墳出土重圏文鏡



③兵庫県井の端7号墳出土重圏文鏡



④兵庫県藤江別所遺跡出土重圏文鏡



⑤兵庫県藤江別所遺跡出土重圏文鏡



⑥兵庫県藤江別所遺跡出土重圏文鏡



⑦兵庫県藤江別所遺跡出土重圏文鏡

第40図 重圏文鏡の諸例



①兵庫県松本遺跡出土重圏文鏡



⑤兵庫県吉田南遺跡出土重圏文鏡



②大阪府溝咋遺跡出土重圏文鏡



③大阪府鷹塚山遺跡出土重圏文鏡

④大阪府久宝寺遺跡出土重圏文鏡

第41図 重圏文鏡の諸例



①大阪府小倉東遺跡E地区箱式石棺出土重圈文鏡



②和歌山県北田井遺跡出土重圈文鏡



③三重県土山遺跡出土重圈文鏡



④京都府志高遺跡出土重圈文鏡



⑤滋賀県下長遺跡出土重圈文鏡



⑥滋賀県下味遺跡出土重圈文鏡

第 42 図 重圈文鏡の諸例



① 岐阜県龍門寺14号墳出土重圏文鏡



② 静岡県長崎遺跡出土重圏文鏡



③ 静岡県元宮川神明原遺跡出土重圏文鏡



④ 静岡県小深田遺跡出土重圏文鏡



⑤ 静岡県小深田西1号墳出土重圏文鏡



⑥ 山梨県内平林2号墳出土重圏文鏡

第43図 重圏文鏡の諸例



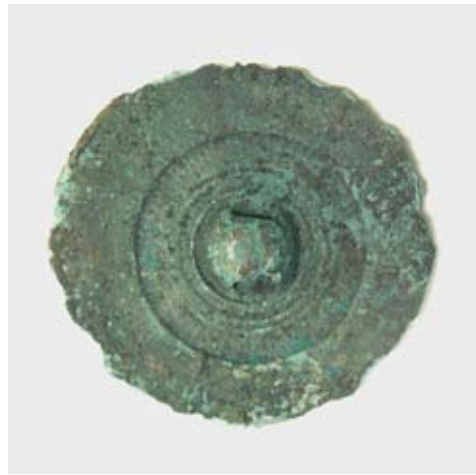
①長野県篠ノ井遺跡出土重圏文鏡



②石川県田中A遺跡出土重圏文鏡



③石川県西念・南新保遺跡出土重圏文鏡



④神奈川県梶山遺跡出土重圏文鏡



⑤東京都伊興遺跡出土重圏文鏡



⑥千葉県北野遺跡5号墳出土重圏文鏡

第44図 重圏文鏡の諸例



①千葉県戸張一番割遺跡出土重圈文鏡

②千葉県大竹遺跡出土重圈文鏡



③群馬県成塚向山1号墳出土重圈文鏡



④群馬県神保下條遺跡出土重圈文鏡

第45図 重圈文鏡の諸例



①群馬県舞台遺跡出土重圏文鏡



②茨城県勅使塚古墳出土重圏文鏡

第 46 図 重圏文鏡の諸例

第8表 重圈文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	出土遺構	古墳・住居の規模	遺跡年代/大買編年	直径 (cm)	分類	文様構成	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡/同遺跡での共伴鏡
1	宮崎県児湯郡川南町	西ノ別府遺跡	集落	住居		前Ⅲ期～前Ⅵ期	7.1	4a	4円圏一楕	土師器・石製品19	
2	熊本県山鹿市	舞野2号石棺	古墳	箱式石棺		前Ⅲ期～前Ⅳ期	4.2	5	4円圏-外区無文	土師器・刀子	
3	大分県大分市	龜甲山古墳	円墳	円墳		不明	5.8		2円圏? - 楕一楕	碧玉製管玉1・ガラス小玉15・刀破片14	三神三獣鏡1
4	佐賀県唐津市	佐志中通遺跡	集落	集落		不明	5.0	7i	3円圏(2・3円圏目は含珠文状結線文) - 楕一楕	土師器	
5	佐賀県鳥栖市	永田遺跡	古墳	前期古墳の擾乱か?		不明	6.5	4a	2円圏一楕		
6	佐賀県三養基郡基山町	中腰山4号墳第3主体部	古墳	古墳		前Ⅲ期	破片・復元径7.1	7v	4円圏(3円圏目は含珠文状結線文) - 楕一楕 1円圏一楕		
7	福岡県朝倉市	立野遺跡	古墳	箱式石棺		前Ⅲ期～前Ⅴ期	復元径5.3	3	2円圏一楕一楕	刀子1・鉄鏡1、周溝内: 鍔1・刀子1・土師器	
8	福岡県糸島市	荻浦A-20-a地点	祭祀			後Ⅱ期	5.6	2	1円圏一楕一楕	馬具・須恵器	
9	福岡県糟屋郡粕屋町	鬼首古墳	円墳	箱式石棺		前期	7.6	4	5円圏一楕一楕		
10	福岡県苅田町	稲光遺跡	集落	包含層		弥生時代終末～古墳前期	3.4~3.5	6	1円圏-外区なし	土師器	
11	福岡県北九州市	谷遺跡	集落・住居	竪穴住居		前Ⅰ期～前Ⅱ期	4.3	4	1円圏一楕	土師器	
12	山口県山口市	朝田墳墓群8号方形台状墓	方墳	箱式石棺	9.0x12.7	前Ⅴ期～前Ⅵ期	4.2	4b	1円圏一楕	鉄鏡1・土師器	
13	鳥取県邑智郡邑南町	大峰山古墳群	古墳	箱式石棺		中Ⅰ期		4	不鮮明一楕		
14	鳥取県雲南市	三刀屋熊谷2号墳第1主体部	古墳・溝で区画	木棺直葬		前Ⅳ期～中Ⅱ期	5.5			刀子1・瑪瑙製勾玉1・鉄鏡1	
15	鳥取県米子市	博勞町遺跡	集落	不明		不明	破鏡	4b	4円圏一楕		
16	鳥取県東伯郡羽合町	長瀬高浜遺跡	集落	住居S1 249		前Ⅳ期～前Ⅵ期	4.3	5	3円圏線-外区無文	土師器280以上	
17	鳥取県鳥取市青谷町	青谷上寺地遺跡	集落	1区1層		前Ⅰ期～前Ⅱ期	破鏡・復元径9.1	2	楕一5円圏一楕		

第8表 重圓文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	出土遺構	古墳・住居の規模	遺跡年代/大貫編年	直径 (cm)	分類	文様構成	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡/同遺跡での共伴鏡
18	鳥取県鳥取市	古郡家1号墳北棺	前方後円墳	箱式石棺	92.5	中I期	8.7	7 i	6円圏 (1円圏目は含珠文状結線) 一揃	長方板葺短甲1・鉄剣5・鉄鏡24・鉄鏡2・蓋1・刀子3・堅櫛4・土師器	
19	広島県広島市	毘沙門台遺跡	集落	住居		前I期~前III期	6.0	7 ii	3円圏 (3円圏目は含珠文状結線) 一揃		
20	広島県三次市	下山手4号墳周溝	方墳	周溝より出土	14	前VI期~前VII期	5.3	7 i	3円圏 (1・2円圏目は含珠文状結線) 一揃	土師器	
21	広島県府中市	山ノ神1号古墳第2号箱式石棺	円墳	箱式石棺	12	前III期~前VII期	6.4	4b	4円圏一揃	水晶製勾玉1・ガラス製小玉1・刀子2・針1・鼓形器台	
22	岡山県岡山市	一宮天神山2号墳B主体部	前方後円墳	竪穴式石室	60以上	前V期~前VII期	6.1	4b	2円圏一揃	(棺外) 鉄剣・鉄斧・銅鏡 (棺内) 硬玉製勾玉・硬玉製管玉・鉄鏡・鉄斧・鉄鏡・鉄槌・刀子	(棺内) 振文鏡1
23	岡山県岡山市	津寺遺跡土坑	古墳	土墳	0.4	前III期~前VI期	6.6	7 i	5円圏 (1円圏目は含珠文状結線) 一揃	土師器	
24	岡山県岡山市	津寺遺跡	集落・住居	住居	4.61×3.76	前II期~前IV期	6.0	7 i	3円圏 (1・2円圏目ともに含珠文状結線) 一揃	土師器・土鏡	
25	岡山県岡山市	百間川沢田遺跡	集落		2.8	前V期~前VI期		6	1円圏-外区なし		
26	岡山県岡山市南区	横前高島遺跡岩盤山山頂	祭祀	石群内		中Ⅱ~後I期		4?	不明		
27	愛媛県松山市	一助山古墳	古墳	箱式石棺?		不明	6.6				
28	愛媛県今治市	唐子台第5丘7号墓	古墳	土墳墓	1.58×3.22	前I期	6.2	7 i	3円圏 (2円圏目は含珠文状結線) 一揃	鉄器柄部片2・碧玉製管玉・蛇紋岩製勾玉2・ガラス小玉7	
29	愛媛県今治市	松木広田遺跡	祭祀	土坑SK18	1.75×1.95	前III期~前IV期	破片・複製元径5.1	4b	2円圏一揃	鉄剣1・袋状鉄斧1・刀子1・碧玉製管玉2・管玉2・ガラス小玉14・土師器多数	
30	愛媛県今治市	雉之尾1号墳	前方後方墳	木棺	30.5	前III期	5.7			鉄刀1・鉄剣2・鉄斧1・鉄鏡13・針状鉄器3・鉄鏡1・土師器	

第8表 重圏文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	出土遺構	古墳・住居の規模	遺跡年代/大買纏年	直径(cm)	分類	文様構成	副葬品/共存する遺物	共伴鏡/同遺跡での共伴鏡
31	愛媛県今治市	新谷出土	採集			不明	6.0	2	1円圏一楕一楕		
32	愛媛県今治市	火内遺跡	祭祀(海)	采堤		中Ⅲ期～後Ⅰ期	6.0	4b	3円圏一楕	土師器・須恵器・甌壇 土器・鉄製品	
33	香川県善通寺市	鉢伏山1号墳	円墳	竪穴式石室	15	前Ⅰ期～前Ⅳ期	5.4	4	1円圏一楕	鉄弁・ガラス小玉	
34	香川県坂出市	歩波島1号墳	古墳	箱式石棺		前Ⅰ期～前Ⅳ期	7.1	7 i	4円圏(3円圏目は含 珠文状結線文)	刀子1	
35	香川県高松市	居石遺跡	祭祀	河川跡		前Ⅲ期～前Ⅳ期	3.6	6	1円圏一外区なし	土師器	珠文鏡1・ 素文鏡1 三角縁銘帯 六神四獸鏡 片・三角縁 銘帯四神四 獸鏡片・三 角縁唐草文 帯二神二獸 鏡片
36	徳島県徳島市	宮谷古墳	前方後円墳	竪穴式石室	37.5	前Ⅰ期	7.3	7 iii	4円圏(2・4円圏は 含珠文状結線文)一楕	(棺外)鉄剣1以上・ 土師器(棺内)鉄鏡6 以上・鉄鏡1・鉄弁 1・鉄釧1・碧玉製管 玉1・ガラス小玉11	
37	兵庫県赤穂郡上郡 町	井の端7号墓	方墳	木棺蓋	10×16	前Ⅰ期～前Ⅱ期	7.9	4 a	6円圏一楕	鉄器小片	
38	兵庫県明石市	藤江別所遺跡井戸址	祭祀(井 戸)	井戸		前Ⅲ期～前Ⅳ期	3.7	5	2円圏一外区無文	車輪石1・滑石鏡勾玉 1・土師器	珠文鏡2・ 素文鏡3・ 重圏文鏡4
39	兵庫県明石市	"	祭祀(井 戸)	井戸		前Ⅲ期～前Ⅳ期	3.8~ 3.9	4b	1円圏一楕	"	"
40	兵庫県明石市	"	祭祀(井 戸)	井戸		前Ⅲ期～前Ⅳ期	4.0	4b	1円圏一楕	"	"
41	兵庫県明石市	"	祭祀(井 戸)	井戸		前Ⅲ期～前Ⅳ期	3.0	6	1円圏一外区なし	"	"
42	兵庫県神戸市	松本遺跡遺物包含層	集落	包含層		前期	6.8~ 6.91	4 a	3円圏一楕	土師器	
43	兵庫県神戸市	吉田南遺跡	集落	溝		前期	2.8	6	1円圏一外区なし	石製模造品(有孔円 板・勾玉・白玉)	中国製内行 花文鏡片
44	兵庫県尼崎市	下坂部遺跡	集落	埋め戻しで 出土		前期～中期	3.7	5	2円圏一外区無文		

第8表 重圓文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	出土遺構	古墳・住居の規模	遺跡年代/大買編年	直径 (cm)	分類	文様構成	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡/同遺跡での共伴鏡
45	兵庫県篠山市	大滝2号墳第1主体部	前方後円墳	木棺直葬	20	中Ⅳ期	5.0	3	2円圏一櫛一鋸	鉄刀2・鉄剣1・刀子1・鉄鏃10?・勾玉1・ガラス小玉91・鉄斧2・鉄鏃2・紡錘車(棺外)土師器・馬具・須恵器	
46	大阪府茨木市	清咋遺跡	集落	土坑		前期	3.0	6	1円圏一外区なし	土師器	
47	大阪府枚方市	鷹塚山遺跡	集落	包含層		弥生時代後期後半	7.0	1	櫛-2円圏-斜行櫛(左上→右下)	青銅鏡片1・鉄器片1・石鏃1・磁石数点	
48	大阪府八尾市	久宝寺遺跡住居3	集落	住居		前Ⅲ期~前Ⅵ期	6.7	4a	5円圏一櫛	土師器	
49	大阪府八尾市	小倉東遺跡E地区箱式石棺	古墳	箱式石棺		中Ⅱ期~中Ⅲ期	6.1	7ii	4円圏(2圏目は含珠文状結線文)一櫛	鉄斧1	
50	大阪府富田林市	板持3号墳	前方後円墳	木棺	40	前Ⅲ期~前Ⅳ期	8.0	7	4円圏(4円圏ともに含珠文状結線文)一櫛	鉄剣3・鉄斧1・銅鏃10数本・鉄鏃10数本	
51	和歌山県和歌山市	北田井遺跡	集落	住居		前期	4.5	4a	2円圏一櫛		
52	和歌山県	不明	不明	不明		不明	6.0	4	2円圏一櫛		
53	奈良県榛原町	大王山遺跡	円墳		15	中Ⅲ期	6.6	重圓文鏡?	円圏?一櫛一櫛	碧玉製勾玉2・碧玉製管玉2・ガラス小玉7・鉄刀1・鉄鏃14以上・刀子1	
54	奈良県宇陀郡菟田野町	見田・大沢二号墳	方墳	木棺	14	前Ⅲ期~前Ⅳ期	4.2	重圓文鏡?	1円圏一櫛	棺内:琥珀勾玉1・綠色凝灰岩管玉7・ガラス小玉2・土師器	
55	三重県名張市	土山遺跡	祭祀	岩盤露頭部		中Ⅲ期~後Ⅰ期	3.3	6	2円圏一外区なし	滑石製勾玉3・滑石製管玉1・滑石製有孔円板4・滑石製刺形品4・埴泥片岩製刺形品3・滑石製不明品1・刺2・鉄鏃1・刀子4・銚造鉄斧1・須金具1・土師器	仿製四獣鏡1
56	三重県一志郡樟野町	向山古墳	前方後円墳	粘土櫛	72	前Ⅴ期~前Ⅶ期	5.9	1	1円圏-斜行櫛-1円圏-直行櫛	石鎖1・筒形石製品2	仿製内行花纹鏡1・仿製刺形鏡2
57	三重県久居市	善応寺山古墳群	古墳			不明	6.0	5?	4円圏?		

第8表 重圏文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	出土遺構	古墳・住居の規模	遺跡年代/大賀編年	直径 (cm)	分類	文様構成	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡/同遺跡での共伴鏡
58	京都府京丹後市網野町	離湖古墳第2主体部	方墳	木棺	35×32	中二期	7.5	2	3円圏一柵一柵一柵	銅鍔2・石鍔1・緑色凝灰岩勾玉8・緑色凝灰岩管玉19・堅柵1・ガラス小玉29・鉄剣1・鉄刀1・鉄銚1・鉄鏃3	
59	京都府京丹後市弥栄町吉沢菩提	菩提東古墳	方墳		16×20	前期	4.6	重圏文鏡?			
60	京都府宮津市	真善寺1号墳第3主体	円墳	包含層	14×21	前V期~前VI期	3.6	4	1円圏一柵	1号主体上面より土師器	
61	京都府舞鶴市	志高遺跡	集落	包含層		前V期~前VI期	6.1	7 iv	1円圏 (1円圏目は含珠文状結線文) 一柵一柵		
62	滋賀県守山市	下長遺跡	集落	溝		前期	4.2	4 a	2円圏一柵	土器・木製品・石鍔1・銅鐸耳1・徳世の刀剣柄頭・琴・舟形木製品・扇形木製品・準構造船の破片	
63	滋賀県栗東市	下味古墳第2主体	円墳	粘土柵	35	前V期~前VII期	6.9	7 i	4円圏 (2円圏目は含珠文状結線文)	剣1・刀1・刀子1・鉄鍔1・鉄斧1・柵1・石鍔1・硬玉勾玉1・水晶勾玉1・碧玉勾玉1・滑石製勾玉1・碧玉製管玉63・ガラス小玉109・瑪瑙聚玉1・琥珀小玉1	
64	滋賀県彦根市	松原内湖遺跡	集落	包含層		不明	3.2	未報告			素文鏡1
65	滋賀県米原市	高溝遺跡大溝	集落	溝		前III期~前IV期	3.6	6	2円圏一外区なし		
66	岐阜県岐阜市	龍門寺14号墳	円墳		18	前V期~前VI期	5.3	7 ii	3円圏 (2円圏目は含珠文状結線文) 一柵	刀子1・鉄鍔1	
67	愛知県名古屋市中区	寺林1号墳	円墳?		20	前V期~前VII期	5.3	7 ii	2円圏 (2円圏目は含珠文状結線文) 一柵	埴輪	
68	静岡県磐田市	(伝) 鎌田	不明			不明	7.3				

第8表 重圓文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	出土遺構	古墳・住居の規模	遺跡年代/大賀編年	面径 (cm)	分類	文様構成	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡/同遺跡での共伴鏡
69	静岡県袋井市	愛野向山Ⅱ遺跡12号墳1号主体	円墳	竪穴式石室		中Ⅳ期	6.0	4b	2円圏一柵	鉄鏃・馬具・管玉	乳文鏡1
70	静岡県焼津市	小深田遺跡第7地点D-23住居	集落・住居	住居		前Ⅴ期～前Ⅵ期	3.7	5	2円圏一外区無文		
71	静岡県焼津市	小深田西1号墳第1号主体部	方形周溝墓	木棺直葬	10×11	前Ⅴ期～前Ⅵ期	6.5	4a	4円圏一柵	勾玉・管玉・ガラス玉	
72	静岡県静岡市駿河区	元宮川神明原遺跡	祭祀	表土		前Ⅴ期～前Ⅵ期	4.4	5	3円圏一外区無文	土師器	(同遺跡) 素文鏡1・仿製鏡片1
73	静岡県静岡市清水区	長崎遺跡S X 510	祭祀	台状遺構		前Ⅰ期～前Ⅱ期	7.2	2	柵一1円圏一柵	土師器	
74	山梨県東山梨郡春日居町	平林2号墳	円墳	横穴式石室	15	後Ⅳ期	6.0	7i	3円圏(2・3圏目は合珠文状結線文)一柵	直刀1・鞘尻1・把頭1・鍔金具2・足金具1・鉄鏃24・甲冑・小札50以上・櫛8・兵庫釧2・辻金具2・鞍帯玉1・管玉1・切子玉1・トンボ玉3・丸玉121・小玉200・金環12・帯金具・飾金具7・須恵器・土師器	珠文鏡1
75	長野県諏訪市	片山古墳	方墳	粘土柵	14	中Ⅱ期～中Ⅲ期	6.3	5	2円圏一外区無文	瑪瑙勾玉1・硬玉勾玉1・碧玉管玉2・ガラス小玉1・直刀・鉄剣・鉄鏃	
76	長野県松本市	(伝)天王山					5.5	重圓文鏡?			
77	長野県長野市	篠ノ井遺跡	集落	住居	4.80×5.46	前Ⅲ期～前Ⅴ期	3.3	5	3円圏一外区無文	土師器	
78	長野県長野市	川柳將軍塚古墳	前方後円墳	竪穴式石室	93	前Ⅴ期～前Ⅵ期	7.3	3	1円圏一柵一線		内行花文鏡3・四獸鏡1・珠文鏡4・乳文鏡1

第8表 重圈文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	出土遺構	古墳・住居の規模	遺跡年代／大賀編年	面径 (cm)	分類	文様構成	副葬品／共存する遺物	共伴鏡／同遺跡での共伴鏡
79	長野県長野市	飯綱社古墳	古墳		不明	中Ⅲ期～中Ⅳ期	8.8	重圈文鏡？		勾玉・管玉・小玉・鉄鍬・鉄剣・鉄刀・馬具・蛇行状鉄器	
80	福井県福井市	漆谷遺跡	集落	包含層		不明		7	2円圏(2円目は含珠文状結線文)一楯		
81	石川県金沢市	西念・南新保遺跡	集落	溝		前Ⅲ期～前Ⅴ期	6.4	4a	3円圏一楯		
82	石川県金沢市	田中A遺跡	集落	包含層		前Ⅰ期～前Ⅲ期	6.8	4a	5円圏一楯	土師器	
83	新潟県北蒲原郡中条町	西川内南遺跡	集落	包含層		前Ⅱ期～前Ⅲ期	2.8	6	1円圏一外区なし		
84	神奈川県小田原市	永塚下り畑遺跡	集落	住居		前Ⅰ期～前Ⅱ期	7.8	4a	4円圏一楯	土師器	
85	神奈川県平塚市	万田熊ノ台遺跡	方墳	周溝内主体部		前期	3.3	6	1円圏一外区なし		
86	神奈川県横浜浜市	軽井沢横穴	古墳	横穴		後期		現物無			
87	神奈川県横浜浜市	梶山遺跡第Ⅱトレンチ	集落	トレンチ内		前Ⅰ期～前Ⅱ期	5.5	4a	2円圏一楯		
88	神奈川県川崎市	宮前小台遺跡	集落	住居		前期	6.3	4	2円圏一楯		
89	東京都足立区東伊興町	伊興遺跡谷下地区	祭祀	表塚		前期～中期	5.2	4b	1円圏一楯	石製模造品・白玉・平玉・勾玉・管玉・丸玉・子持勾玉・有孔円板・剣形品・紡錘車・土製模造品・丸玉・切小玉・管玉	倭文鏡1・素文鏡2・珠文鏡1
90	千葉県流山市	西初石五丁目遺跡	集落	住居		前Ⅳ期～前Ⅴ期	4.1	5	1円圏一外区無文	土師器・手捏土器	
91	千葉県柏市	戸張一番割遺跡30号住居跡	集落	住居	3.6×4.26	前Ⅳ期～前Ⅴ期	6.3	4a	3円圏一楯	土師器	
92	千葉県南房総市	駒形遺跡第1住居跡南円形土壇	集落	土坑		前Ⅰ期～前Ⅳ期	記述無	7i	3円圏(3円圏ともに含珠文状結線文)一楯		
93	千葉県袖ヶ浦市	大竹遺跡群二又堀遺跡S1105住居跡	集落	住居	4.0×4.4	前Ⅰ期～前Ⅱ期	7.3	4a	5円圏一楯	土師器149	
94	千葉県佐倉市	太田・大篠塚遺跡48号住居	集落	住居		不明	11.2	未報告	鋸一波一楯	土師器	

第8表 重岡文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	出土遺構	古墳・住居の規模	遺跡年代/大買編年	面径 (cm)	分類	文様構成	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡/同遺跡での共伴鏡
95	千葉県山武市	北野遺跡5号墳	方墳	埋葬施設	13.05× 13.75	前Ⅲ期～前Ⅳ期	6.2	2	1円圏一構—1円圏一構	器台脚部3・琺瑯製勾玉2・水晶製有稜環玉1・緑色凝灰岩製管玉8・ガラス小玉58	
96	千葉県香取郡多古町	多古台遺跡No.4地点1号墳	円墳	木棺		中Ⅰ期～中Ⅳ期	5.0	未報告		ガラス玉・勾玉・管玉・石鏡	
97	千葉県香取市	片野向遺跡	集落	住居		後期	3.8	未報告		土師器	
98	群馬県多野郡吉井町	神保下條遺跡1号住居	集落	竪穴式住居	5.86× 5.88	前Ⅴ期～前Ⅶ期	6.1	3a	2円圏一構—1円圏一鑑	鉄斧1・管玉12・ガラス製小玉2・磁石2・土師器	
99	群馬県伊勢崎市	瀧名1号墳	円墳	横穴式石室	30	中Ⅲ期～後Ⅱ期	6.6	7 i	4円圏 (含珠文状結線文) 一構	鉄刀5・瑪瑙製勾玉1・滑石製丸玉1・銅環4・鉄環3・鉄板60・馬具・鍬・引手・鍬板・辻金具・刀子・土師器3・埴輪	
100	群馬県伊勢崎市	舞台遺跡146号住居	集落	住居	6.3× 6.7	前Ⅳ期～前Ⅴ期	6.8	4a	2円圏一構	土師器10	
101	群馬県太田市	成塚向山1号古墳2主体部	方墳	木棺	21	前Ⅴ期～前Ⅵ期	6.3	4a	3円圏一構	ガラス玉27・滑石管玉1	
102	群馬県太田市	新田東部遺跡	集落	包含層		前Ⅰ期～前Ⅳ期	4.0	未報告		土師器	
103	栃木県足利市	藤本所在古墳	不明			不明	7.3	不明			
104	茨城県行方市	勅使塚古墳後方部木棺	前方後方墳	粘土槨・木棺	64	前Ⅴ期～前Ⅶ期	7.8	7 ii	3円圏 (3円圏ともに含珠文状結線文) 一構	蛇文岩製管玉10・ガラス小玉40・刺破片	

第9表 櫛齒文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代/大賀編年	分類	面径 (cm)	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
1	鳥取県東伯郡羽合町	長瀬高浜遺跡S B40	集落・住居状	竪穴住居状の遺物		前Ⅱ期～前Ⅲ期	櫛	3.6		
2	愛媛県越智郡魚島村	大木遺跡	祭祀	海の祭祀		中Ⅲ期	櫛	4.0	粗製小型土器20以上・粗製手捏土器1・有孔円盤26・臼玉約40・鉄器片24	
3	兵庫県明石市	藤江別所遺跡井戸址	祭祀	井戸の祭祀		前Ⅲ期～前Ⅳ期	櫛	3.0	車輪石1・滑石製勾玉1・土師器	珠文鏡2・素文鏡3・重圈文鏡4
4	兵庫県篠山市	宿山1号墳	円墳	粘土櫛?	12	中期?	櫛	5.6	刀1・刀子2・須恵器	
5	滋賀県大津市	蛭谷遺跡	集落?	包含層		不明	櫛	3.9		
6	大阪府東大阪市	池島・福万寺遺跡	集落	包含層、第10層		不明	櫛	3.6		
7	長野県小県郡東部町	地獄沢古墳	古墳			後期	櫛	3.4	銀環・刀子・鉄鏃・杏葉・轡・鉄鈴	
8	長野県長野市	飯綱社古墳	古墳			中Ⅲ期～中Ⅳ期	櫛?	4.5	勾玉・管玉・小玉・鉄鏃・鉄剣・鉄刀・馬具・蛇行状鉄器	

重圈文鏡出土遺跡参考文献

《 1. 宮崎県西ノ別府遺跡 》

三品典生編 2006 『西の別府遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第124集、
宮崎県埋蔵文化財センター。

《 2. 熊本県舞野2号石棺 》

中村幸史朗編 1989 『錢亀塚古墳』山鹿市博物館調査報告第9集、山鹿市教育委員会。

《 3. 大分県亀甲山古墳 》

日名子軸軒 1911 「大分市三芳の古墳発見」『考古学雑誌』第1巻第9号、考古學會、59頁。

小林三郎 1979 「古墳時代初期倣製鏡の一側面—重圈文鏡と珠文鏡—」『駿台史学』46、
明治大学史学地理学会、78—96頁。

甲斐忠彦・真野和夫・小柳和宏編 1989 『古墳文化の世界—豊の国の支配者たち—』大分
県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館。

《 4. 佐賀県佐志中通遺跡 》

岩尾峯希編 1997 『佐志中通遺跡』唐津市文化財調査報告書第78集、唐津市教育委員会。

《 5. 佐賀県永田遺跡編 》

徳永貞紹・白木原 宜・渋谷 格・吉田恵美・内野武史・島 孝寿編 2002 『柚比遺跡群2』
佐賀県文化財調査報告書第150集、佐賀県教育委員会。

白木原 宜編 2003 『柚比遺跡群4』佐賀県文化財調査報告書第158集、佐賀県教育委員
会。

《 6. 佐賀県中隈山4号墳第3主体部 》

山田 正・田中正弘編 1990 『中隈山遺跡概報』基山町教育委員会。

《 7. 福岡県立野古墳 》

児玉真一編 1984 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告—5—』福岡県教育委員会。

《 8. 福岡県荻浦遺跡 》

岡部裕俊編 2008 『荻浦』前原市文化財調査報告書第100集、前原市教育委員会。

《 9. 福岡県鬼首古墳 》

後藤守一 1926 『漢式鏡』雄山閣。

佐賀県立博物館編 1979 『古代九州の遺宝 鏡・玉・剣』佐賀県立博物館。

◀ 10. 福岡県稲光遺跡 ▶

内本重一・長嶺正秀編 1998 『稲光遺跡Ⅰ・Ⅱ地区発掘調査概報』苅田町文化財調査報告書第30集、苅田町教育委員会。

◀ 11. 福岡県谷遺跡 ▶

長嶺正秀編 1990 『谷遺跡調査報告書』苅田町文化調査報告書第11集、苅田町教育委員会。

◀ 12. 山口県朝田墳墓群8号方形台状墓 ▶

山本明彦・前田耕次・山本源太郎・大坪憲一・中村徹也編 1983 『朝田墳墓群Ⅵ』山口県埋蔵文化財調査報告第69集、山口県教育委員会。

九州・山口古墳時代研究会実行委員会編 2002 『山口の古墳』第28回九州・山口古墳時代研究会実行委員会。

◀ 13. 島根県大峠山古墳群 ▶

門脇俊彦・吉川 正 1972 「大峠山古墳群」『島根県邑智郡石見町誌』上巻、石見町、267-269頁。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回山陰考古学研究集会事務局。

◀ 14. 鳥取県三刀屋熊谷2号墳 ▶

林 健亮・仁木 聡編 2001 『熊谷遺跡・要害遺跡』島根県教育庁埋蔵文化財調査センター。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回山陰考古学研究集会事務局。

◀ 15. 鳥取県博労町遺跡 ▶

濱野浩美編 2011 『博労町遺跡』(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書64、財団法人米子市教育文化事業団。

◀ 16. 鳥取県長瀬高浜遺跡 ▶

牧本哲雄・井上達也・岩崎康子・岡野雅則編 1999 『長瀬高浜遺跡Ⅷ 園第6遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書61、財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター。

◀ 17. 鳥取県青谷上寺地遺跡 ▶

北浦弘人編 2001 『青谷上寺地3』鳥取県教育文化財団調査報告書72、財団法人鳥取県教育文化財団。

木村直人・君嶋俊行・野島 永・岡村秀典・廣川 守編 2011 『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告6 金属器』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告39、鳥取県埋蔵文化財セン

ター。

《 18. 鳥取県古郡家 1 号墳北棺 》

鳥取市編 1983 『新修鳥取市史』第 1 巻、鳥取市。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第 37 回山陰考古学研究集会事務局。

高田健一・東方仁史編 2013 『古郡家 1 号墳・六部山 3 号墳の研究』鳥取県立公文書館県史編さん室。

《 19. 広島県毘沙門台遺跡 》

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

善入義信編 2012 『毘沙門台遺跡発掘調査報告』広島市文化財資料 1、毘沙門台発掘調査団。

《 20. 広島県下山手 4 号墳 》

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

落田正弘編 1994 『下山手第 4・5 号古墳』三次市教育委員会。

《 21. 広島県山ノ神 1 号墳 》

脇坂光彦編 1983 『府中・山ノ神 1 号古墳発掘調査報告』府中市教育委員会。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

《 22. 岡山県一宮天神山 2 号墳 》

鎌木義昌・亀田修一 1986 「一宮天神山古墳群」『岡山県史 考古資料』第 18 巻、岡山県、249 - 253 頁。

《 23. 岡山県津寺遺跡土坑 》

高畑知功・中野雅美編 1998 『津寺遺跡 5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 127、岡山県文化財保護協会。

《 24. 岡山県津寺遺跡 》

亀山行雄・井上 弘・大橋雅也・金田善敬・久保恵里子・小林関士・澤山孝之・島崎 東・高畑知功・中野雅美・長谷川澄博編 1996 『津寺遺跡 3』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 104、岡山県教育委員会。

《 25. 岡山県百間川沢田遺跡 》

平井 勝編 1993 『百間川沢田遺跡 3』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 84、岡山県教育委員会。

《 26. 岡山県備前高島遺跡 》

鎌木義昌 1968 「備前高島遺跡について—第一次調査概報—」『サヌカイト』1号、岡山理科大学考古学部、1—8頁。

神戸市立博物館編 2000 『特別展 海の考古学』神戸市立博物館。

《 27. 愛媛県一助山古墳 》

岡崎 敬 1981 「四国における「古鏡」発見地名表」『史淵』第118号、九州大学文学部、195—225頁。

《 28. 愛媛県唐子台第5丘7号墓 》

芝田幸光・守田五男ほか 1974 『唐子台遺跡群』今治市教育委員会。

正岡睦夫 1985 「今治平野周辺出土の銅鏡」『遺跡』第27号、遺跡発行会、53—60頁。

小笠原善治編 2002 『平成13年度伊豫の鏡』松山市考古館。

《 29. 愛媛県松木広田遺跡 》

白石 聡編 2002 『松木広田遺跡(松木遺跡群)Ⅰ』今治市埋蔵文化財調査報告書第66集、今治市教育委員会。

小笠原善治編 2002 『平成13年度伊豫の鏡』松山市考古館。

《 30. 愛媛県雉之尾1号墳 》

岡野 保・西田 栄 1970 「今治市古国分「雉の尾粘土槨方墳」について」『西四国』第3号、西四国郷土研究会、2—9頁。

正岡睦夫 1985 「今治平野周辺の銅鏡」『遺跡』第27号、遺跡発行会、53—60頁。

愛媛県史編さん委員会編 1986 『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会。

《 31. 愛媛県新谷出土 》

正岡睦夫 1985 「今治平野周辺出土の銅鏡」『遺跡』第27号、遺跡発行会、53—60頁。

愛媛県史編さん委員会編 1986 『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会。

《 32. 愛媛県火内遺跡 》

阿部勝行・真鍋昭文編 1998 『火内遺跡・臥間遺跡』愛媛県埋蔵文化財調査センター。

小笠原善治編 2002 『平成13年度伊豫の鏡』松山市考古館。

《 33. 香川県鉢伏山1号墳 》

香川県教育委員会編 1983 「鉢伏山古墳」『新編香川叢書 考古編』新編香川叢書刊行企画委員会、575—577頁。

松本敏三・岩橋 孝編 1983 『讃岐青銅器』瀬戸内海歴史民俗資料館。

◀ 34. 香川県歩渡島1号墳 ▶

山田義範編 1974 『櫃石歩渡島石棺群』山田義範。

松本敏三・岩崎 孝編 1983 『讃岐青銅器図録』瀬戸内歴史民俗資料館。

林 正弘・藤好史郎編 1983 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報VI』本州四国連絡橋公団・香川県教育委員会。

◀ 35. 香川県居石遺跡 ▶

山元敏裕編 1995 『居石遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第30集、高松市教育委員会。

◀ 36. 徳島県宮谷古墳 ▶

徳山市教育委員会編 1990 『徳山市文化財だより』No.23・24、徳山市教育委員会。

徳山市教育委員会編 1990 「宮谷古墳」『第11回埋蔵文化財資料展 阿波を掘る』徳山市教育委員会、6－7頁。

徳山市教育委員会編 1991 『徳山市文化財だより』No.25・26、徳山市教育委員会。

徳山市教育委員会編 1991 「宮谷古墳」『第12回埋蔵文化財資料展 阿波を掘る』徳山市教育委員会、6－13頁。

◀ 37. 兵庫県井の端7号墳 ▶

荻 能幸編 1996 『井の端墳墓群』上郡町教育委員会。

櫃本誠一 2002 「井の端7号墓」『兵庫県の出土古鏡』学生社、201－202頁。

島田 拓編 2009 『井の端古墳群（調査編）』上郡町埋蔵文化財発掘調査報告1、上郡町教育委員会。

◀ 38－41. 兵庫県藤江別所遺跡 ▶

稲原昭嘉編 1996 『藤江別所遺跡』明石市教育委員会。

◀ 42. 兵庫県松本遺跡 ▶

菅本宏明・佐伯二郎編 1998 『平成7年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会。

櫃本誠一 2002 「松本遺跡」『兵庫県の出土古鏡』学生社、104頁。

◀ 43. 兵庫県吉田南遺跡 ▶

櫃本誠一 2002 「吉田南遺跡」『兵庫県の出土古鏡』学生社、108－109頁。

◀ 44. 兵庫県下坂部遺跡 ▶

岡田 務編 1981 『尼崎市下坂部遺跡（第4次調査報告）』尼崎市文化財調査報告第13集、

尼崎市教育委員会。

櫃本誠一 2002 「下坂部遺跡」『兵庫県の出土古鏡』学生社、72頁。

≪ 45. 兵庫県大滝2号墳 ≫

富田好久・亥野 彊・勇 正広・大路 靖編 1981 『大滝2号墳』多紀郡西紀・丹南町文化財調査報告第2集、西紀・丹南町教育委員会。

櫃本誠一 2002 「大滝2号墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、224 - 225頁。

≪ 46. 大阪府溝咋遺跡 ≫

合田幸美編 2000 『溝咋遺跡』(財)大阪府文化財査研究センター調査報告書第49集、(財)大阪府文化財調査研究センター。

≪ 47. 大阪府鷹塚山遺跡 ≫

瀬川芳則 1968 「畿内弥生遺跡出土の仿製鏡—大阪府鷹塚山遺跡を中心に—」『古代学研究』53号、古代学研究会、7 - 10頁。

瀬川芳則編 1968 『大阪府枚方市鷹塚山弥生遺跡調査概要報告』鷹塚山遺跡発掘調査団。

大阪府立弥生文化博物館編 1999 『卑弥呼誕生—畿内の弥生社会—ヤマト政権へ』大阪府立弥生文化博物館。

≪ 48. 大阪府久宝寺遺跡 ≫

八尾市文化財調査研究会 1992 「12. 久宝寺遺跡第8次調査 (KH91-8)」『平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』財団法人八尾市文化財調査研究会、22 - 24頁。

大阪府立弥生文化博物館編 1999 『卑弥呼誕生—畿内の弥生社会—ヤマト政権へ』大阪府立弥生文化博物館。

(財)八尾市文化財調査研究会 2006 『久宝寺遺跡—竜華操車場跡地における調査成果—』(財)八尾市文化財調査研究会。

≪ 49. 大阪府小倉東遺跡E地区箱式石棺 ≫

西田敏秀編 2006 『小倉東遺跡Ⅱ』枚方市文化財調査報告第48集、財団法人枚方市文化財研究調査会。

≪ 50. 大阪府板持3号墳 ≫

中村 浩・中西靖人編 1967 『富田林市板持古墳群調査概報』富田林市教育委員会。

富田林市史編集委員会編 1985 「板持2・3号墳」『富田林市史』第一巻、本文編I、富田林市、394 - 401頁。

◀ 51. 和歌山県北田井遺跡 ▶

前田敏郎編 1971 『和歌山市北田井遺跡発掘調査概報』Ⅱ、和歌山県教育委員会。

◀ 52. 和歌山県熊野那智大社奉納鏡 ▶

前田博雄 1982 「熊野那智大社奉納鏡類」『和歌山県の文化財』第3巻、清文堂、314 - 321 頁。

◀ 53. 奈良県篠楽向山古墳 ▶

楠元哲夫編 1997 『大王山遺跡』榛原町教育委員会。

◀ 54. 奈良県見田・大沢2号墳 ▶

亀田 博編 1982 『見田・大沢古墳群』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第44冊、奈良県立橿原考古学研究所。

千賀 久編 1992 『大和の古墳の鏡』橿原考古学研究所附属博物館考古資料集第1冊、橿原考古学研究所附属博物館。

◀ 55. 三重県土山遺跡 ▶

水口昌也・門田良三編 1978 『名張市遺跡調査紀要』名張市教育委員会・名張市遺跡調査会。

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『第10回三重県埋蔵文化財展 三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

◀ 56. 三重県向山古墳 ▶

後藤守一 1912 「伊勢一志郡豊地村の二古式墳」『考古学雑誌』第14巻第3号、日本考古学会、159 - 171 頁。

小林三郎 1979 「古墳時代初期倣製鏡の一側面—重圈文鏡と珠文鏡—」『駿台史学』46、78 - 96 頁。

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『第10回三重県埋蔵文化財展 三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

三重県編 2005 『三重県史資料編考古1』三重県。

◀ 57. 三重県善応寺山古墳群 ▶

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『第10回三重県埋蔵文化財展 三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

◀ 58. 京都府離湖古墳 ▶

浪江庸二・藤原 巧・三浦到・加藤晴彦・林 和広 1993 『離山古墳・離湖古墳発掘調査

概要』京都府網野町文化財調査報告第7集、網野町教育委員会。

京都府立丹後郷土資料館編 1999 『丹後発掘』京都府立丹後郷土資料館。

京丹後市史編さん委員会編 2010 『京丹後市資料編 京丹後市の考古資料』京丹後市史編さん委員会。

◀ 59. 京都府菩提東古墳 ▶

京都府立丹後郷土資料館編 1999 『丹後発掘』京都府立丹後郷土資料館。

(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター編 2001 『20年のあゆみ 1981 - 2001』(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター。

◀ 60. 京都府東禅寺1号墳 ▶

(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター編 2001 『20年のあゆみ 1981 - 2001』(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター。

田代 弘 2002 「東禅寺古墳群」『京都府遺跡調査概報』第104冊、京都府埋蔵文化財調査研究センター、34 - 42頁。

◀ 61. 京都府志高遺跡 ▶

山下 正・肥後弘幸 1986 「昭和60年度志高遺跡の発掘調査」『京都府埋蔵文化財情報』第19号、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、1 - 8頁。

肥後弘幸編 1989 『京都府遺跡調査報告書』第12冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター。

樋口隆康 1991 「京都府下近年出土の古鏡に就いて(2)」『京都府埋蔵文化財論集』第2集、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、327 - 334頁。

舞鶴市史編さん委員会編 1993 『舞鶴市史・通史編(上)』舞鶴市史編さん委員会。

京都府立丹後郷土資料館編 1999 『丹後発掘』京都府立丹後郷土資料館。

(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター編 2001 『20年のあゆみ 1981 - 2001』(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター。

◀ 62. 滋賀県下長遺跡 ▶

文化庁編 1999 「下長遺跡」『発掘された日本列島'95 - '99』朝日新聞社、36頁。

◀ 63. 滋賀県下味古墳 ▶

鈴木博司・樋口隆康・西谷真治・西田 弘・近江昌司 1961 「下味古墳」『滋賀県史蹟名勝調査報告』第12冊、滋賀県教育委員会、23 - 33頁。

◀ 64. 滋賀県松原内湖遺跡 ▶

田中勝弘 1999 「滋賀県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、220 - 235頁。

◀ 65. 滋賀県高溝遺跡 ▶

宮崎幹也編 1990 『高溝遺跡』近江町文化財調査報告書第4集、近江町教育委員会。

◀ 66. 岐阜県龍門寺14号墳 ▶

檜崎彰一 1962 『岐阜市長良龍門寺古墳』岐阜市文化財調査報告書第1輯、岐阜市教育委員会。

檜崎彰一 1969 『龍門寺古墳群調査報告』岐阜市文化財調査報告書第2輯、岐阜市教育委員会。

岐阜市編 1979 『岐阜市史 史料編 考古・文化財』岐阜市。

◀ 67. 愛知県寺林1号墳 ▶

名古屋市博物館編 1984 『守山の遺跡と遺物』名古屋市博物館。

◀ 68. (伝) 静岡県鎌田 ▶

岡崎 敬 1978 『日本における古鏡発見地名表 東海地方』岡崎 敬。

◀ 69. 静岡県愛野向山Ⅱ遺跡 ▶

松井一明編 2004 『愛野向山Ⅱ遺跡－愛野向山Ⅱ遺跡・愛野向山B古墳群発掘調査報告書－』袋井市教育委員会。

◀ 70. 静岡県小深田遺跡 ▶

山口和夫 1982 『焼津市埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅱ、焼津市教育委員会。

山口和夫 1984 「各調査の地区の概要 1 小深田西遺跡」『焼津市埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅲ、焼津市教育委員会、6 - 17頁。

静岡県編 1990 『静岡県史』資料編2 考古2、静岡県。

焼津市史編纂委員会編 2004 『焼津市史』通史編 上巻、焼津市史編纂委員会。

滝沢 誠 2004 「小深田遺跡」『焼津市史』資料編一 考古、焼津市史編纂委員会、165 - 173頁。

◀ 71. 静岡県小深田西1号墳第1主体部 ▶

山口和夫 1984 「各調査の地区の概要 1 小深田西遺跡」『焼津市埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅲ、焼津市教育委員会、6 - 17頁。

焼津市歴史民俗資料館編 1986 『開館記念特別展古代静岡考古遺宝展』焼津市歴史民俗資

料館。

静岡県編 1990 『静岡県史』資料編2 考古2、静岡県

滝沢 誠 2004 「小深田遺跡」『焼津市史』資料編一 考古、焼津市史編纂委員会、157
- 161 頁。

◀ 72. 静岡県元宮川神明原遺跡 ▶

佐藤達雄編 1989 『大谷川Ⅳ（遺物・考察編）』本文編・図版編、静岡県埋蔵文化財調査
研究所調査報告第20集、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所。

◀ 73. 静岡県長崎遺跡 ▶

中野 宥編 1990 『特別展静岡・清水平野の古墳時代』静岡市立登呂博物館。

佐藤達雄編 1992 『長崎遺跡Ⅱ』（遺構編）、本文編・図版編、静岡県埋蔵文化財調査研究所。

足立順司・落合高志編 1995 『長崎遺跡Ⅳ』（遺構編・考察編）、静岡県埋蔵文化財調査研
究所調査報告第59集、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所。

◀ 74. 山梨県平林2号墳 ▶

吉岡弘樹・深沢容子編 2000 『平林2号墳』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第
175集、山梨県埋蔵文化財センター。

◀ 75. 長野県大熊片山古墳 ▶

藤森栄一・中村龍雄・後藤・宮坂光昭 1969 「諏訪市大熊片山古墳」『長野県考古学会誌』
第7号、長野県考古学会、11 - 19 頁。

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全1巻（4）、長野県史刊行会。

◀ 76. （伝）長野県天王山 ▶

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全1巻（4）、長野県史刊行会。

◀ 77. 長野県篠ノ井遺跡 ▶

西山克己編 1997 『中央自動車道長野線埋蔵文化財調査報告書16 篠ノ井遺跡群』（財）
長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書22、財団法人長野県埋蔵文化財センター。

◀ 78. 長野県川柳将軍塚古墳 ▶

森本六爾編 1929 『川柳村将軍塚の研究』岡書院。

◀ 79. 長野県飯綱社古墳 ▶

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全1巻（4）、長野県史刊行会。

◀ 80. 福井県漆谷遺跡 ▶

鈴木篤英編 2008 『漆谷遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第31集、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター。

◀ 81. 石川県西念・南新保遺跡 ▶

鈴木三男・能城修一・光谷拓実・肥塚隆保・楠 正勝編 1998 『西念・南新保遺跡Ⅳ』金沢市文化財紀要119、金沢市教育委員会。

◀ 82. 石川県田中A遺跡 ▶

橋本澄夫・高瀬 澄編 1971 『金沢市田中A・B遺跡』石川県教育委員会。

◀ 83. 新潟県西川内南遺跡 ▶

野永晃子編 2005 『西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。

◀ 84. 神奈川県永塚下り畑遺跡 ▶

田尾誠敏編 2002 『下曾我遺跡・永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点』鎌倉遺跡調査会・下曾我遺跡発掘調査団。

◀ 85. 神奈川県万田熊之台遺跡 ▶

平塚市博物館編 1982 『夏期特別展掘り起こされた平塚』平塚市博物館。

◀ 86. 神奈川県軽井沢横穴 ▶

西川修一 1994 「神奈川県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、98－103頁。

◀ 87. 神奈川県梶山遺跡 ▶

金澤勇一・川口徳治郎 1977 『梶山遺跡（4）上台遺跡（予報）』神奈川県立博物館発掘調査報告書第10号、神奈川県立博物館。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 88. 神奈川県宮前小台遺跡 ▶

林原利明 2002 「永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点K6号住居址出土の銅鏡」『下曾我遺跡・永塚下り畑遺跡第Ⅳ地点』鎌倉遺跡調査会・下曾我遺跡発掘調査団、333－340頁。

◀ 89. 東京都伊興遺跡 ▶

大場磐男編 1975 『武蔵伊興遺跡』伊興遺跡調査団。

中山俊之・喜多裕明・猪股佳二・寺里和久編 1990 『伊興遺跡』足立区伊興遺跡公園調査会・

足立区教育委員会。

実川順一・小田静夫・小林重義編 1992 『伊興遺跡』足立区伊興遺跡公園調査会・足立区教育委員会。

佐々木 彰・大崎美鈴・小鍛治茂子編 1997 『東京都足立区伊興遺跡』足立区伊興遺跡調査会。

佐々木 彰・水山明宏・三ヶ島誠次男・佐々木美穂子編 1999 『東京都足立区伊興遺跡Ⅱ』足立区伊興遺跡調査会。

佐々木 彰・三ヶ島誠次男・小鍛治茂子編 1999 『毛長川流域の考古学的調査』足立区伊興遺跡調査会。

佐々木 彰 2004 「古代毛長川の変遷と遺跡の動態」『葛飾区郷土と天文の博物館紀要』第10号、24－29頁。

◀ 90. 千葉県西初石五丁目遺跡 ▶

栗田則久・木島桂子編 2008 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書2』千葉県教育振興財団調査報告第596集、財団法人千葉県教育振興財団。

◀ 91. 千葉県戸張一番割遺跡 ▶

平岡和夫編 1985 『戸張一番割遺跡』柏市教育委員会。

柏市史編さん委員会編 1997 『柏市史 原始・古代・中世編』柏市教育委員会。

◀ 92. 千葉県駒形遺跡 ▶

小金井 靖・山上英誉・前地ひろみ編 1982 『千倉町埋蔵文化財調査報告書Ⅵ－駒形遺跡－』朝夷地区教育委員会。

林原利明 1990 「弥生時代終末～古墳時代前期の小形仿製鏡について」『東国史論』第5巻、群馬考古学研究会、49－64頁。

◀ 93. 千葉県大竹遺跡 ▶

田形孝一・稲葉昭智編 1993 『大竹遺跡群発掘調査報告書Ⅱ－二又堀遺跡・大竹古墳群（第1分冊）』財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第83集、財団法人君都郡市文化財センター。

◀ 94. 千葉県太田・大篠塚遺跡48号住居 ▶

白井久美子 1994 「千葉県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、82－95頁。

◀ 95. 千葉県北野遺跡5号墳 ▶

- 平山誠一編 1997 『森台遺跡群（北野支群）』財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書第40集、出光興産株式会社・財団法人山武郡市文化財センター。
- ≪ 96. 千葉県多古台遺跡 No. 4 地点1号墳 ≫
- 白井久美子 1994 「千葉県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、82 - 95頁。
- ≪ 97. 千葉県片野向遺跡 ≫
- 白井久美子 1994 「千葉県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、82 - 95頁。
- ≪ 98. 群馬県神保下條遺跡 ≫
- 右島和夫編 1992 『神保下條遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第137集、群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- ≪ 99. 群馬県淵名1号墳 ≫
- 永峰光一・亀井正道・塚越甲子郎・金子重量 1948 「群馬県佐波郡采女村上淵名二子山西古墳群発掘報告」『上代文化』第18輯、國學院大学考古学会、25 - 30頁。
- 群馬県立歴史博物館 1980 『企画展群馬の古鏡』群馬県立歴史博物館。
- 前沢輝政 1982 『毛野国の研究 - 古墳時代の解明 - 』上、現代思想社。
- ≪ 100. 群馬県舞台遺跡 ≫
- 綿貫邦男編 2004 『舞台遺跡（2）（古墳時代編）』日本道路公団、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- ≪ 101. 群馬県成塚向山1号墳 ≫
- 深澤敦仁編 2008 『成塚向山古墳群』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第426集、東日本高速道路株式会社・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- ≪ 102. 群馬県新田東部遺跡 ≫
- 右島和夫 1994 「群馬県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、34 - 65頁。
- ≪ 103. 栃木県藤本所在古墳 ≫
- 前沢輝政 1982 『毛野国の研究』上、現代思潮社。
- ≪ 104. 茨城県勅使塚古墳 ≫
- 大塚初重・小林三郎 1964 「茨城県勅使塚古墳の研究」『考古学集刊』2巻3号、東京考古学会、103 - 122頁。
- 大塚初重 1966 「茨城県勅使塚古墳」『日本考古学年報』14号、日本考古学年報、141頁。
- 明治大学考古学博物館編 1987 『明治大学考古学博物館蔵品図録』明治大学考古学博物

館。

明治大学考古学博物館編 1988 『明治大学考古学博物館藏品図録1 鏡』 明治大学考古学博物館。

櫛齒文鏡出土遺跡参考文献

《 1. 鳥取県長瀬高浜遺跡 》

西松彰滋・笹尾千恵子・大賀靖浩・福嶋慶純・賀須井 智・野島珠美・河田浩介・国田修二郎・名越智津子 1983 『鳥取県羽合町長瀬高浜遺跡発掘調査報告書』VI（本文編）、財団法人鳥取県教育文化財団。

《 2. 愛媛県大木遺跡 》

長井数秋 1974 「愛媛県魚島の遺跡・遺物について」『ソーシャル・リサーチ』第4号、ソーシャルリサーチ研究会、24 - 35 頁。

森 光晴 1986 「甲賀原古墳群」『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会、401 頁。

村上和馬編 1994 『魚島村史』自然・歴史編、魚島村。

《 3. 兵庫県藤江別所遺跡 》

稲原昭嘉編 1996 『藤江別所遺跡』明石文化財調査報告第2冊、明石市教育委員会。

稲原昭嘉 1999 「藤江別所遺跡の祭祀井戸と儀鏡」『考古ジャーナル』No. 446、ニューサイエンス社、17 - 20 頁。

櫃本誠一 2002 「藤江別所遺跡」『兵庫県の出土古鏡』学生社、112 - 114 頁。

《 4. 兵庫県宿山1号墳 》

櫃本誠一 2002 『兵庫県の出土古鏡』学生社、223 - 224 頁。

《 5. 滋賀県蛭谷遺跡 》

西田 弘 1990 「近江の古鏡Ⅳ」『文化財教室シリーズ』111、財団法人滋賀県文化財保護協会。

《 6. 大阪府池島・福万寺遺跡 》

廣瀬時習・飯田浩光編 2009 『池島・福万寺遺跡9』（財）大阪府文化財センター調査報告書第196集、（財）大阪府文化財センター。

《 7. 長野県地獄沢古墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全1巻（4）、長野県史刊行会。

《 8. 長野県飯綱社古墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全1巻（4）、長野県史刊行会。

弥生時代小型仿製鏡の参考報告書

《（伝）熊本県菊池郡・阿蘇郡》

野田拓治 1983 「重圈文鏡」『肥後考古』第3号、肥後考古会、25 - 26 頁。

《佐賀県牟田寄遺跡B地区》

福田義彦編 1990 『牟田寄遺跡』佐賀市文化財調査報告書第31集、佐賀市教育委員会。

《岡山県山屋敷遺跡》

前角和夫 1994 「前川地区ほ場整備に伴う発掘調査」『総社市埋蔵文化財調査年報』4、
総社市教育委員会、42 - 46 頁。

《兵庫県長田神社境内遺跡》

内藤俊哉編 2000 『平成9年度神戸市埋蔵文化財年報』神戸市教育委員会、

《大阪府利倉南遺跡》

清家 章「利倉南遺跡第3次（TKM-3）」1999 『大阪府埋蔵文化財年報』Vol. 9、豊
中市教育委員会、40 頁。

《同府田井中遺跡》

本間元樹編 1997 『田井中遺跡（1～3次）・志紀遺跡（防1次）』（財）大阪府文化財調
査研究センター調査報告書第23集、財団法人大阪府埋蔵文化財調査研究センター。

《石川県四柳白山下遺跡》

社団法人石川県埋蔵文化財保存協会 1998 『社団法人石川県埋蔵文化財保存協会社団年
報』9、平成9年度、社団法人社団法人石川県埋蔵文化財保存協会。

第4章 珠文鏡の研究

はじめに

珠文鏡は古墳時代初頭から製作された小型の仿製鏡である。この鏡式は後藤守一が『漢式鏡』において珠文鏡と定義したことからはじまる（後藤 1926）。小型であり文様が複雑ではないことから、大型仿製鏡の文様が退化して出現したのものとして捉えられたが、古墳時代初頭の遺跡から出土する事例が確認されるようになり、古墳時代仿製鏡の中では、最も古い段階から製作された鏡の一つとして認識されるようになった。珠文鏡は弥生時代仿製鏡との関係を検討するうえでも重要な鏡である。本論では珠文鏡の分類と編年を行い、祖形についても論じたい。さらに、出土した遺跡を検討することによりこの鏡の性格について考える。

第1節 珠文鏡の研究史

珠文鏡に関してはこれまでにいくつかの分類や系譜に関する研究がある。ここではそれらについて概観し、これまでの研究とその問題点を整理することとする。

(1) 分類に関する研究

珠文鏡の分類は、内区文様によって分類を行った小林三郎（小林 1979・1982・2010）、樋口隆康（樋口 1979）、今井堯（今井 1991）、中山清隆・林原利明（中山・林原 1994）の研究と、内区と外区の文様の組み合わせによって分類を行った森下章司（森下 1991）の研究、文様ごとにまとまりを設定した岩本崇（岩本 2012）の研究がある。

小林三郎は大別して二種類のもものが存在するとし、「その一は、珠文が内区文様帯の中で、整然と一列、あるいは二列に並べられ、それぞれ円圏で区分された状態のもので、その二は、珠文が内区文様帯の中に、雑然と配されたものである。前者をA型と呼び、後者をB型と呼んでおく」と述べている（1979・

1982)。樋口隆康は、珠文一列のものをⅠ類、珠文二列のものをⅡ類、珠文三列以上のものをⅢ類、珠文帯の中を乳で分画したものをⅣ類、珠文帯を放射状に分画するものをⅤ類、珠文が勾玉状をなすものをⅥ類とした。今井堯は、中国・四国地方の小型仿製鏡の検討を行い、その中で珠文鏡について次のように分類した。内区珠文一列のものを珠文鏡Ⅰ類、内区珠文二列のものを珠文鏡Ⅱ類、内区珠文三列のものと多珠文鏡を珠文鏡Ⅲ類、内区の珠文列を分割するものを珠文鏡Ⅳ類とした（今井 1991）。珠文鏡の集成を行った中山清隆・林原利明は、樋口隆康のⅥ類の勾玉状文様をもつもの以外を珠文鏡とした。分類は樋口分類を用いることでⅠ類からⅤ類としている（中山・林原 1994）。

森下章司は仿製鏡全体の研究の中で珠文鏡についても検討を行い、内区と外区の文様の組み合わせからⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳa、Ⅳb類と分類している。Ⅰ類は一列の珠文を不均衡に巡らせたもので、外区は文様のない素文。Ⅱ類は一列の珠文を整然と巡らせたもので、外区は素文、鋸歯文。Ⅲ類は二列の珠文を巡らせたもので、外区文様は素文、鋸歯文、鋸歯文－波文－鋸歯文。Ⅳa類は三列以上の珠文が乱雑に埋められるもので、外区文様は内側から鋸歯文－波文－鋸歯文、突帯－鋸歯文－鋸歯文、櫛歯文－波文。Ⅳb類は二列程度の珠文をまばらに埋めるもので、外区文様は内側から鋸歯文－波文、櫛歯文－櫛歯文、櫛歯文－波文としている。編年的には内区は一列のものから二列以上のものへ、外区は複雑になると指摘した（森下 1991）。また岩本崇は中村1号墳の報告で、この鏡に関連する4つの鏡群を抽出し、菱雲文に由来する文様・波文・櫛歯文をもつ五條猫塚古墳群ほかのまとまりと鋸歯文・波文・櫛歯文をもつ月岡古墳鏡ほかのまとまり→鋸歯文・波文をもつ和田山5号墳鏡ほかのまとまり→櫛歯文・波文をもつ中村1号墳鏡ほかのまとまりという順で推移すると指摘している（岩本 2012）。

珠文鏡の研究は内区の文様が珠文のみであるため、その主文様の変化で編年することは難しく、珠文以外の文様に着目した森下や岩本の研究が、現在のところ、最も有効な手法であると考えられる。

（2）珠文鏡の系譜に関する研究

小林三郎は、珠文鏡は重圏文鏡の重圏の間に何らかの文様を付加させたものであるとする。さらに一列の珠文を配する珠文鏡A類は重圏文鏡に最も近い文

様構成であると指摘し、この二つの鏡式は直接的に関係があるという可能性を示した（小林 1979）。

藤岡孝司は重圏文鏡にみられる珠文状の文様を「珠文状結線文」と仮称し、これをV型とした。V型は文様構成からみて珠文鏡との連続性が考えられると述べる（藤岡 1991）。中山清隆・林原利明によると珠文鏡は弥生時代の小型仿製鏡に直接その系譜を求めることは難しく、珠文鏡と弥生時代小型仿製鏡には大きな隔たりがあると指摘する。重圏文鏡のうち珠文状の文様がみとめられるものについては、珠文鏡の「祖形グループ」であるとし、珠文鏡と重圏文鏡は同一系譜上にあると指摘している（中山・林原 1994）。林正憲も京都府志高遺跡例にみられる珠文状結線文は珠文鏡の範疇に含まれると判断している。志高遺跡例は文様構成が重圏文鏡と同じであることから、当初から重圏文鏡を基本としながら、新たな文様を付加させることで出現したとしている。ただし珠文鏡と重圏文鏡との関係は密接ではなく、志高遺跡例のみを介在した極めて限定的なものであったと指摘する。また、弥生時代小型仿製鏡とは系譜が異なると述べている（林 2005）。

森下章司は重圏文鏡と珠文鏡は九州以東から関東地方に広く分布する「十」字文鏡と関連して生まれた可能性があるという点を指摘している。「十」字文鏡は幅広の縁で外区は無文であるという点が九州地方の弥生時代仿製鏡と異なっており、重圏文鏡・珠文鏡と類似すると指摘する（森下 2002）。弥生時代仿製鏡の検討を行った田尻義了は、近畿産小型仿製鏡の乳状突起で構成された田井中遺跡例と四柳白山下遺跡例は、古墳時代の珠文鏡との関係を考慮する必要があると述べている（田尻 2005・2012）。

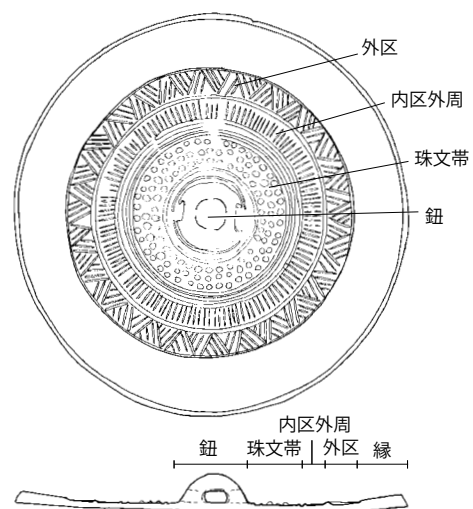
第2節 珠文鏡の分類と編年

(1) 分類方法 (第47図・第10表)

先述したように、珠文鏡全体の分類を行った研究の中では、森下章司の研究が最も有効な手法であると考えられる。しかし、森下が外区を無文(素文)と分類するものの内区外周(外区と内区珠文の間)の文様には櫛歯文、複合鋸歯文や無文のものがある。例示すると、内区外周に櫛歯文をもつものには兵庫県藤江別所遺跡例、香川県居石遺跡例などがある。複合鋸歯文をもつものは広島県山の神3号墳例、石川県下安原遺跡例がある。また無文のものは大阪府千手寺山遺跡例、山梨県平林2号墳例がある。これらを一括して外区無文としてまとめている点には問題があり、内区外周による細分が必要である。これはほかの外区文様をもつものも同様である。内区外周に施される文様と外区文様に着目して分類を行う。今回珠文鏡は279面、放射状区画をもつ珠文鏡は14面を確認している。

なお、本研究では小さな玉状の文様である珠文のみを主文様として配するものを珠文鏡とし、乳文が主文様となるものは含めていない。内区が区画されているものについては放射状区画をもつ珠文鏡として分類し、後の項目で述べている。

外区文様と内区外周の文様に関しては、鋸歯文「A」、櫛歯文「B」、複線波文「C」、無文「D」とし、鋸歯文が二重に施される場合を「A2」、複合鋸歯文「A3」、櫛歯文が二重に施されるものを「B2」などと称する。内区について述べる際は、主文様である珠文の列数で分類し、一列のものを「珠文1」、二列のものを「珠文2」、三列以上のものを「珠文3」として表すこととする。分類は以下の通りである⁽¹⁾。



第47図 珠文鏡の部分名称図

第10表 珠文鏡の分類

A-A3類	外区: 鋸齒文	内区外周: 複合鋸齒文
A-B類	外区: 鋸齒文	内区外周: 櫛齒文
A-BA3類	外区: 鋸齒文	内区外周: 櫛齒文-複合鋸齒文
A-D類	外区: 鋸齒文	内区外周: 無文
A2-B類	外区: 鋸齒文-鋸齒文	内区外周: 櫛齒文
A2-D類	外区: 鋸齒文-鋸齒文	内区外周: 無文
A3-B類	外区: 複合鋸齒文	内区外周: 櫛齒文
AC-B類	外区: 鋸齒文-複線波文	内区外周: 櫛齒文
AC-D類	外区: 鋸齒文-複線波文	内区外周: 無文
ACA-D類	外区: 鋸齒文-複線波文-鋸齒文	内区外周: 無文
B-A類	外区: 櫛齒文	内区外周: 鋸齒文
BC-B類	外区: 櫛齒文-複線波文	内区外周: 櫛齒文
BC-D類	外区: 櫛齒文-複線波文	内区外周: 無文
D-A3類	外区: 無文	内区外周: 複合鋸齒文
D-B類	外区: 無文	内区外周: 櫛齒文
D-B2類	外区: 無文	内区外周: 櫛齒文-櫛齒文
D-D類	外区: 無文	内区外周: 無文

(2) 珠文鏡の資料紹介

本章では、珠文鏡の遺跡・出土遺構・副葬品・時期・分類を記述している。珠文鏡の観察を行ったものに関してはできうる限り詳細に記すこととする。全国の珠文鏡279面の資料を集めた。なお、実見や報告書で資料を確認した結果、今までは珠文鏡と報告されているものの中でも、珠文鏡ではない重圏文鏡・乳文鏡・振文鏡などが多くあり、これらは除外している。

1 宮崎県小林市東二原地下式横穴2号 (第72図②)

東二原地下式横穴2号の墳丘は確認されていない。地下式横穴から珠文鏡1・鉄鏃・鉄刀子が出土している。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は全体的に黒色を呈し、銅質は良い。



第48図 文様の説明

面径 5.0 cm、重量 22 g、縁厚 0.2 cm、縁幅 0.7 cm、鈕幅 1.1 cm、鈕高 0.5 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.3 cm である。鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列－鋸歯文帯となる。鋸歯文が細く描かれている点に特徴がある。分類は D－A 類である。

2 宮崎県東諸県郡国富町六野原地下式横穴 8 号

六野原地下式横穴は三名から八代にまたがる台地上に位置し、27 基の地下式横穴と 10 基の円墳が発掘された。8 号の副葬品には珠文鏡 1・硬玉勾玉・小型管玉・三叉鍬・鉄斧・鉄刀・素環頭直刀・鉄剣・鉄鉾・鉄鏃・三角板革綴衝角付冑・頸甲・毛抜状鉄器が出土している。時期は後 I 期である。珠文鏡は面径 7.0 cm である。文様は確認できず、分類は不明である。

3 宮崎県宮崎市五反畑遺跡 B 地区 1 号木棺墓（第 72 図①）

五反畑遺跡からは木棺墓が検出され、棺内からは珠文鏡 1・鉄剣 1・刀子 2・ガラス製小玉・滑石製白玉、棺外から鉄刀・鉄斧が出土している。時期は後期である。珠文鏡の実見・観察を行った。

珠文鏡は全体的に緑色を呈し、赤色顔料が付着している。文様は明瞭に確認できない。面径 7.7 cm、重量 52.9 g、縁厚 0.25 cm、縁幅 0.5 cm、鈕幅 1.5 cm、鈕高 0.8 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.3 cm である。鈕孔形態は楕円形に近い。鈕孔の中には紐が残存する。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 3 列－1 圏線－珠文 1 列－櫛歯文帯－2 条の複線波文帯－鋸歯文帯となる。珠文は雑然と配置される。分類は AC－B 類である。

4 宮崎県西都市西都原 169 号（旧 110 墳）（飯盛塚）

西都原古墳群は西都原台地に分布している。169 号は円墳で粘土槨から珠文鏡が出土したと考えられている。櫛・銅釧・鉄刀子・鉄斧・鉄鏃・直刀が出土している。時期は中 IV 期である。珠文鏡は面径 6.9 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－3 列の珠文－櫛歯文帯、外区に鋸歯文帯となる。分類は A－B 類である。

5 宮崎県西都市西都原地下式横穴 4 号（第 72 図③）

西都原古墳群は一ツ瀬川の右岸、標高 60～70 m の西都原台地を中心に、南北 4.2 km、東西 2.6 km に渡って分布する。前方後円墳 31 基・円墳 279 基・方墳 1 基・地下式横穴・横穴墓が存在している。地下式横穴 4 号の墳丘は確認されていない。地下式横穴からの出土遺物は、管玉・硬玉製勾玉・直刀・丸玉・

小玉・滑石製管玉・鉄鏃・短甲である。時期は中Ⅳ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は数ヶ所にひび割れがあり、白銅質で鑄上がりが良い。赤色顔料が外区に付着している。面径 8.9 cm、重量 102 g、縁幅 1.1 cm、鈕幅 1.9 cm、鈕高 0.8 cm、鈕孔幅 0.6 cm、鈕孔高 0.4 cm である。鈕孔形態は方形を呈する。珠文径 0.15 ~ 0.20 cm であり、三角形状を呈する。なお、珠文には回転によって珠文を製作されたと思われる痕跡が確認できる。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線—珠文 2 列—3 重の複線波文帯となる。外区は鋸歯文帯である。内区には雑然とした珠文が 2 重に施されており、複線波文は途切れた短い線を用いて表現される。分類は AC—D 類である。

6 大分県日田市有田古墳

有田古墳は横穴式石室から、珠文鏡 1・碧玉製勾玉・碧玉製管玉・ガラス製丸玉・須恵器・土師器・仿製四獣鏡 1 が出土している。時期は後Ⅰ期である。珠文鏡は面径 8.3 cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1—珠文 2 ~ 3 列—櫛歯文帯、外区は複線波文帯—鋸歯文帯である。珠文は雑然と配されている。分類は AC—B 類である。

7 熊本県八代市用七遺跡

用七遺跡は包含層から珠文鏡 1 が出土しているが、時期は判断できない。珠文鏡は面径 5.8 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1—珠文 1 列—圏線 1—珠文 1 列—櫛歯文帯である。分類は D—B 類である。

8 熊本県宇土市古保里 2 号石棺

古保里 2 号石棺から珠文鏡 1・勾玉・管玉・小玉・鉄鉈・鉄剣が出土している。時期は判断できない。面径は 6.3 cm である。文様構成は珠文 1 列と櫛歯文帯が確認できるのみである。分類は D—B 類である。

9 熊本県阿蘇郡一の宮町鞍掛塚古墳

鞍掛塚古墳の箱式石棺内から珠文鏡 2・勾玉・管玉・小玉・鉈・鉄剣が出土している。時期や文様は判断できない。珠文鏡 1・乳文鏡 1 (20.5 cm)・仿製四獣形鏡 1 (14.8 cm) も出土している。珠文鏡の面径は 6.4 cm である。詳細は不明である。

10 熊本県阿蘇郡一の宮町鞍掛塚古墳

鞍掛塚古墳の箱式石棺から珠文鏡 2・勾玉・管玉・小玉・鉄鉈・鉄剣が出土している。珠文鏡は面径 5.3 cm、圏線 1—珠文 1 列—櫛歯文帯、鋸歯文帯であ

る。分類はAC-D類である。

11 熊本県熊本市竹ノ上石棺

竹ノ上石棺の箱式石棺内から珠文鏡1・鉄鉈・鉄刀子・鍬先・直刀が出土している。時期は不明である。珠文鏡は面径7.1cm、文様構成は鈕から外に向かって、珠文1-櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA-B類である。

12 熊本県鹿本郡鹿央町久保原石棺（第73図①）

久保原石棺は、箱式石棺のみであり墳丘は確認されていない。珠文鏡1・鉄鉈・刀子・鍬先・直刀が出土している。珠文鏡は頭部の右側より出土した。時期は前VII期である。珠文鏡は全体的に赤色を帯びている。文様の鑄上りはやや悪い。珠文鏡の面径は6.2cm、重量8g、縁幅1.1cm、縁厚0.15cm、鈕幅1.3cm、鈕高0.6cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cm、珠文径0.1cm、鈕孔の形状は方形である。鈕は鏡面に対して平行に設置されておらず、傾いており、懸垂する際の上下を意識した可能性が考えられる。縁は丸みを帯びている。文様構成は鈕から外に向かって、圏線1-珠文2列-櫛歯文帯である。分類はD-B類である。

13 長崎県長崎市宮田古墳群1号石棺

宮田古墳群1号石棺は箱式石棺であり、珠文鏡1・石枕・刀子が出土している。時期は中期である。珠文鏡は面径6.8cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文1列-櫛歯文帯である。分類はD-B類である。

14 長崎県下県郡美津島町赤崎遺跡2号石棺

赤崎遺跡からは、2号石棺内より珠文鏡1・ガラス小玉・陶質土器などが出土している。時期は中期である。面径7.7cmで、文様構成は鈕から外に向かって、珠文状結線文-珠文2列-櫛歯文帯-無文帯となり、外区は複線波文帯-鋸歯文帯である。内区には珠文が二重に整然配される。分類はAC-B類である。

15 佐賀県唐津市追頭11号墳主体部

追頭11号墳は円墳で横穴式石室から珠文鏡1・鉄刀・滑石製白玉・ガラス玉が出土した。時期は中期である。珠文鏡は面径不明である。

16 佐賀県唐津市追頭13号墳主体部

追頭13号墳は土壙墓で、珠文鏡1・硬玉管玉・碧玉管玉が出土した。時期は中期である。珠文鏡は面径不明である。

17 佐賀県唐津市金谷古墳主体部

当遺跡は横口式石室から珠文1・銅製耳環1・碧玉製管玉・ガラス小玉・鉄刀2・須恵器・変形文鏡1が出土した。時期は後I期～後II期である。珠文鏡は面径不明で、文様構成は鈕から外に向かって、珠文2列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA－B類である。

18 佐賀県小城郡小城町

遺跡の詳細は不明である。

19 佐賀県佐賀市関行丸古墳第2主体（第73図②）

関行丸遺跡は扇状地形に位置する墳長55mの前方後円墳である。横穴式石室内の第2・第3主体の副葬品は、珠文鏡を含む多くの遺物が出土した。第2主体からは、金銅製冠帽・貝輪・鹿角装刀子・鹿角柄尖頭工具が出土している。時期は後I期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は全体的に黒色を呈し、緑錆に覆われる。面径7.2cm、重量58g、縁厚0.2cm、縁幅1.2cm、鈕幅1.3cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.35cm、珠文径0.25cm、鈕孔形態は方形であり、辺長には摩滅がみられる。本鏡の珠文は大型である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2－珠文1列－圏線1－櫛歯文帯となる。櫛歯文は細かく施されている。内区には整然とした珠文が1重に配され、外区文様帯には櫛歯文帯が施されている。分類はD－B類である。

20 佐賀県佐賀市関行丸古墳第3主体（第49図2・第73図③）

関行丸古墳は扇状地形に位置する墳長55mの前方後円墳である。横穴式石室内の第2・第3主体の副葬品は、珠文鏡を含む多くの遺物が出土している。第3主体からは珠文鏡1・変形文鏡1が出土している。後I期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は面径8.7cm、重量59g、縁厚0.25～0.35cm、縁幅0.9cm、鈕幅1.3cm、鈕高0.9cm、鈕孔幅0.7cm、鈕孔高0.3cm、珠文径0.20～0.25cmである。全体的に緑錆に覆われ、一部に欠損がある。文様の鋳上がりは悪く、文様を判別できない部分もある。文様構成は鈕から外に向かって、珠文3列－圏線1－複合鋸歯文帯－鋸歯文帯となる。珠文は雑然と配置されており、各珠文の大きさは一定ではない。複合鋸歯文は丁寧に描かれていない。鋸歯文は幅が狭い。分類はA－A3類である。

21 佐賀県佐賀市

当遺跡の詳細は不明である。

珠文鏡の面径は9.0 cmである。分類は不明である。

22 佐賀県鳥栖市旭町出土（第50図4）

古墳からの出土と伝えられ、時期は不明である。珠文鏡は面径9.0 cmで、内区には一重の珠文が整然と施されている。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2—珠文2列—櫛歯文帯—無文帯、外区は鋸歯文帯—鋸歯文帯である。分類はA2—B類である。

23 佐賀県三養基郡基山町中隈山5号墳第1主体部（第52図5・第74図①）

中隈山5号墳の墳丘規模は不明であり、第1主体部の割竹形木棺から、鉄鉈・鉄刀子・勾玉・管玉が出土している。時期は前IV期～前V期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は全体的に緑色を呈し、文様間には赤色顔料の付着がみられる。面径5.7 cm、重量24 g、縁厚0.17～0.19 cm、縁幅1.3 cm、鈕幅1.2 cm、鈕高0.6 cm、鈕孔幅0.4 cm、鈕孔高0.2 cmである。鈕孔形態は方形で、鈕孔の位置に偏りがみられる。文様構成は鈕から外に向かって、圏線1—珠文1列—櫛歯文帯となる。珠文は整然と配される。櫛歯文も整然と配される。面径に対して縁幅が1.3 cmと広い。類例に兵庫県藤江別所遺跡例がある。分類はD—B類である。

24 福岡県みやま市名木野11号墳

名木野11号墳は径11 mの円墳である。横穴式石室内より、珠文鏡2・管玉・ガラス玉・銅釧・鉄刀子・鹿角装刀子・鉄鏃・鏡板・引手金具・銜・須恵器が出土した。時期は後II期である。

珠文鏡は面径7.2 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって。珠文3列—二重の斜行櫛歯文となり、外区に鋸歯文帯である。分類は行っていない。

25 福岡県みやま市名木野11号墳

名木野11号墳は径11 mの円墳である。珠文鏡は面径7.8 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、圏線1—珠文3列、外区には鋸歯文帯が配置される。分類はA—D類である。

26 福岡県八女市立山山25号墳

立山山25号墳は径9.5 mの円墳であり、竪穴系横口式石室より、珠文鏡1・鉄刀子・鉄鏃・鉄剣・大刀が出土する。時期は中IV期である。

素文鏡は面径5.9 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文2列—櫛歯文、外区は鋸歯文である。分類はA—B類である。

27 福岡県八女市立山山 23 号墳（第 51 図 5）

立山山 23 号墳は径 13 m の円墳である。竪穴系横口式石室である。出土遺物には、勾玉・鉛玉・ガラス玉・白玉・鉄刀子・鉄鏃・鉄剣・弓付属金具・銜・鏡・鞍・須恵器がある。時期は中Ⅱ期である。

面径は 7.5 cm である。被葬者の右手辺りで、鏡背面を上にして出土した。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 列—珠文 1 列—複線波文帯、外区は鋸歯文帯である。鈕孔形態は方形となる。分類は A C—D 類である。

28 福岡県浮羽郡吉井町塚堂古墳 1 号石室

塚堂古墳は墳長 91 m の前方後円墳である。1 号石室の横穴式石室の出土遺物は、珠文鏡 1・鈴・硬玉製勾玉・ガラス製勾玉・ガラス製管玉・ガラス製小玉・ガラス製小玉・ガラス製白玉・ガラス製粟玉・珪岩製玉・滑石製扁平勾玉・滑石製白玉・挂甲小札・鉄刀・鉄剣破片・鉄鏃多数・胡籙金具・金銅製鞍金具・鉄地金銅張 f 字形鏡板・木心鉄板被輪鏡・三鈴付環鈴・鉄具・金銅製鋌留金具・金銅製円盤・金銅製鏡形品・滑石製有孔円板がある。時期は中Ⅲ期である。珠文鏡以外に、面径 7.6 cm の変形文鏡 1 が出土している。

珠文鏡は復元面径 6.5 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列—櫛歯文帯—複線葉文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A C—B 類である。

29 福岡県八女市月の岡古墳

当遺跡は河岸段丘上に位置する墳長 91 m の前方後円墳である。横穴式石室の出土遺物には、白玉・帯金具・勾玉・管玉・丸玉・砥石・鉄斧・鉄剣・鉄鏃多数・冑・鍔小札・金具・馬具がある。時期は中Ⅲ期である。珠文鏡以外に 16.3 cm の斜縁二神二獣鏡が 1 面、11.9 cm の六獣鏡が 1 面、面径 9.5 cm の獣形鏡が 1 面出土している。

珠文鏡の面径は 6.9 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列—櫛歯文帯—複線波文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。分類は A C—B 類である。

30 福岡県小郡市三国の鼻 1 号墳北くびれ部（第 50 図 1・第 75 図③）

三国の鼻 1 号墳は丘陵尾根上に位置する墳長 66 m の前方後円墳である。珠文鏡はくびれ部から出土しているが、本来は埋葬施設に伴うものであったと報告されている。二重口縁壺が墳丘上に並べられており、土師器からみると、古墳の時期は前Ⅲ期から前Ⅳ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡はおおよそ3分の2程度の欠損があり、銅質は良好である。緑錆に覆われているが、文様は明瞭に確認することができた。面径は復元径約6.4cmである。文様構成は鈕から外に向かって、珠文2列、複合鋸歯文帯、櫛歯文帯となり、外区は鋸歯文帯を配する。1列目の珠文は、圏線上に配されている。複合鋸歯文帯のうち、縁側に位置する鋸歯文は、右から左下に向かって細線が施されている。分類はA-B A3類である。

31 福岡県太宰府市宮ノ本遺跡宮ノ本5号墳第1主体

宮ノ本遺跡は丘陵の尾根に位置し、5号墳は辺長8×9mの方墳である。第1主体部の棺外から、珠文鏡は木棺の上に置かれていた。時期は前Ⅲ期である。5号墳の溝より器台・壺が出土した。

珠文鏡は面径4.8cmで、文様構成は鈕から外に向かって、圏線1-珠文1列である。分類はD-B類である。

32 福岡県太宰府市成屋形遺跡C号石棺（第75図①）

成屋形遺跡C号石棺の墳丘は確認されていないが、竪穴式石室からの出土である。時期は判断できない。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡はおおよそ5分1程度が欠損する。黒色を呈し、銅質や鋳上がりは良い。面径7.1cm、重量35g、縁厚0.25～0.37cm、鈕幅1.5cm、鈕高0.6cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cm、珠文径0.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線-珠文2列-圏線1-櫛歯文帯である。分類はD-B類である。類似する例としては、兵庫県居石遺跡出土例を挙げることができる。

33 福岡県福岡市恵子若山古墳

恵子若山古墳は径18mの円墳である。粘土槨の出土遺物には、ガラス小玉・土師器がある。珠文鏡は頭部付近に副葬されている。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡の面径は7.2cm、縁厚約0.15cm、鈕幅1.1cm、鈕高0.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、3圏線-珠文1列-櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA-B類である。

34 福岡県福岡市藤崎遺跡第7号方形周溝墓

藤崎遺跡は早良平野の西北端近くに位置する。7号方形周溝は辺長14.2×14.7mである。珠文鏡は、東辺の周溝内より土師器と共に出土した。周溝か

ら出土した土師器は、外来系の土師器が多く、土器の時期は、布留1式併行と考えられている。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。面径7.0 cmであり、文様構成は圏線2－珠文2列－圏線1列－櫛歯文帯である。福岡県成屋形遺跡出土の珠文鏡と、圏線の数まで全く同じであるが同範鏡ではない。分類D－B類である。

35 (伝) 福岡県福岡市野方塚原遺跡

野方塚原遺跡は後期古墳の可能性が高いとされている。面径6.1 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2－珠文1列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA－B類である。

36 福岡県福岡市鋤崎古墳第1号埋葬施設 (第74図②)

鋤崎古墳は墳長58 mの前方後円墳で、横穴式石室内の第1号埋葬施設からの出土遺物は、珠文鏡1・仿製四獣鏡1・蕨手刀子・鉄針・鉄刀子・鉄鉈・直刀・鉄剣・鉄鉾がみられる。副葬品を納める副室から珠文鏡は出土している。珠文鏡は鏡面を下にし、仿製四獣鏡は鏡面を上にした状態で出土している。前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は暗緑色を呈し、緑錆に覆われており、文様は不鮮明な部分が多い。所々に赤色顔料の付着がみられる。面径9.2 cm、縁幅2.0 cm、鈕幅1.55 cmである。珠文径0.32～0.38 cmと大型である。鈕孔形態は方形に近い。文様構成は鈕から外に向かって、圏線3－珠文1列－圏線1－櫛歯文帯となる。分類はD－B類である。

37 福岡県糟屋郡須恵町乙植木3号墳 (第51図6・第75図②)

乙植木3号墳は円墳であるが、墳丘規模は不明である。横穴式石室内から、珠文鏡1・変形文鏡1・ガラス粟玉・ガラス小玉・ガラス丸玉・銅釧・鉄刀子・手斧・鉄鋏・鉄釘・鉄鏃・鉄剣・短刀・須恵器・土師器・鑿子・不明鉄器が出土している。珠文鏡は被葬者の頭部右側付近からの出土である。時期は後Ⅰ期である。

珠文鏡は白銅質の部分があり、銅質は良く、鋳上がりも良い。特に縁部分は緑錆に覆われる。赤色顔料が一面に施されている。割れが一ヶ所にみられる。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は面径8.2 cm、重量78 g、縁厚0.36～0.38 cm、縁幅0.8 cm、鈕幅1.5 cm、鈕高0.8 cm、鈕孔幅0.5 cm、鈕孔高0.25 cm、珠文径0.1～0.2 cmである。鈕孔形態は方形である。縁部の角は全く丸みを帯びず角がある。文様構成は鈕から外に向かって、圏線1－珠文2列－2条

の複線波文—無文帯—鋸歯文帯となる。珠文間の幅が0.3～0.4 cmと広い。分類はA C—D類である。

38 (伝) 福岡県粕屋郡須恵町字仙道

遺跡の詳細は不明である。

39 (伝) 福岡県粕屋郡粕屋町大字大隈・大間

遺跡の詳細は不明である。

40 福岡県宗像市沖ノ島7号遺跡(第52図4)

沖ノ島遺跡は、玄海灘の真っ只中に位置する小島の祭祀遺跡である。7号遺跡は島の高所に位置する巨石の岩陰を利用した祭祀遺跡である。遺物は岩陰全体に散らばっているが、いくつかのまとまりがみられる。硬玉勾玉・碧玉管玉・滑石勾玉・滑石管玉・滑石棗玉・滑石小玉・ガラス小玉・車輪石・石釧・鉄釧・蕨手刀子・鉄剣・有樋鉄剣・鉄刀が出土した。東側には、甲、盾、鉄銚・鉄剣・三輪玉などの武器類が出土した。中央部からは、珠文鏡とともに切子玉・ガラス製小玉・滑石製小玉などの玉類が集中している。西側には金銅製杏葉、金銅製雲珠、鞍金具、帯金具など朝鮮半島や新羅の古墳出土品と同じ馬具が出土した。数回にわたる祭祀の可能性がある。後期の祭祀遺跡であろう。大和王権による航海安全を祈る祭祀であると考えられている。

珠文鏡は面径9.2cm、文様構成は鈕から外に向かって、珠文3列、外区に複波文—櫛歯文となる。分類はB C—D類である。

41 福岡県宗像市沖ノ島23号遺跡

23号遺跡は、沖ノ島の沖津宮周辺の祭祀遺跡の中で最も高所に位置する18号遺跡(I号巨岩上)の直下に位置する。本格的な調査は行われていない。手さぐりで若干の遺物が採集されている。遺物は、頁岩管玉・ガラス小玉・滑石白玉・金銅刀装具・鉄刀・鉄鏃・滑石製有孔円板・貝製品・鉄環・雛形鉄剣・金製指輪・金製釧・銀製釧・馬具・鉄剣・鉄刀・鉄斧・鉄銚・小札が出土している。時期は後期である。

珠文鏡は面径6.0cmで、文様構成は鈕から外に向かって、圏線1—珠文1列—圏線1—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA—B類である。

42 福岡県宗像市手光長畑遺跡古墳主体部

手光長畑遺跡は、径6～18mの円墳である。珠文鏡1のみの出土であり、時期は判断できない。

珠文鏡は面径 6.4 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列 - 1 圏線 - 珠文 1 列 - 1 圏線 - 櫛歯文帯となる。分類は D - B 類である。

43 福岡県宗像市津屋崎 41 号墳

津屋崎 41 号墳は墳長 97 m の前方後円墳であり、横穴式石室より珠文鏡 1・銅釧・ガラス丸玉・ガラス小玉・琥珀棗玉・琥珀勾玉・碧玉管玉・翡翠勾玉・ガラス管玉・媛珞・鹿角製刀装具付刀子・鉄刀子・鹿角製刀装具付大刀・鹿角製装身具付剣・素環頭大刀・銀製鞘尻金具・鉄鏃・短甲・須恵器が出土している。共伴鏡には、神獸鏡様式 1（破片）・不明 1（破片）・画文帯神獸鏡 1（破片）・内行花文鏡 1（破片）・方格規矩鏡 1（破片）がある。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期がある。珠文鏡の記載はないため、詳細は不明である。

44 福岡県若宮市小倉古墳

小倉古墳は径 18 m の円墳である。横穴式石室から珠文鏡 1・鉄鏃・鉄釧・銅釧・翡翠勾玉・耳環・ガラス小玉・硬玉管玉・碧玉管玉・鉄刀・土師器・須恵器が出土している。時期は後Ⅰ期である。珠文鏡は鏡面を上にして出土した。被葬者との位置関係は不明である。

珠文鏡の面径は 8.5 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列 - 鋸歯文帯、外区は櫛歯文帯である。分類は B - A 類である。

45 福岡県飯塚市小正西古墳第 2 石室

小正西古墳は径 28.5 m の円墳であり、第 2 石室の横穴式石室内より珠文鏡 1・須恵器・鉄刀・鉄鏃・鉄鋸・鉄刀子・鉄鉈・鑷状鉄製品・イモガイ製貝輪・銀環・瑪瑙製勾玉・水晶製勾玉・ガラス製管玉・碧玉製管玉・琥珀製棗玉・瑪瑙製丸玉・石炭製算盤玉・瑪瑙製算盤玉・水晶製丸玉・銀製空玉・ガラス製丸玉・土玉・ガラス製小玉・滑石製玉が出土している。時期は中Ⅳ期である。

珠文鏡の面径は 7.0 cm、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線 - 珠文 2 - 櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A - B 類である。

46 福岡県田川市セストノ古墳

セストノ古墳は径 36 m の円墳である。出土遺物には珠文鏡 1・金冠片・金銅製装飾付耳飾り・耳環・硬玉勾玉・ガラス丸玉・琥珀丸玉・棗玉・滑石白玉・櫛・鉄剣・大刀・鉄鉾・槍先・石突・鉄鏃・鹿角製刀装具・横矧板鋌留短甲・陶質土器・滑石製有孔円板がみられる。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

珠文鏡の出土位置は、頭部で、鏡背面を上にして出土した。珠文鏡の面径は

6.9cm で、分類は不明である。

47 福岡県北九州市平石棺墓

平石棺墓は方墳の可能性があると指摘される。箱式石棺から珠文鏡1・鉄製利器が出土している。時期は前期である。

珠文鏡は面径7.8cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線2－珠文2列－圏線1－櫛歯文帯となる。分類はD－B類である。

48 愛媛県西予市宇和町粟尻1号墳

粟尻1号墳は比高150mの丘陵尾根上に立地し、宇和町では最も高所に位置する古墳である。径16m・高さ4mの円墳である。横穴式石室内から珠文鏡1・金環・銀環・ガラス製勾玉・管玉・小玉・直刀・須恵器が出土する。時期は後期である。

珠文鏡は面径7.0cm、文様構成は鈕から外に向かって、珠文3列－圏線1－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA－B類である。

49 愛媛県松山市土壇原5号墳

土壇原5号墳は中位の河岸段丘に立地しており、前期～後期の30基以上の古墳がある。辺長20mの方墳である。1号竪穴式石室内より珠文鏡1・鉄剣・鉄刀・須恵器・土師器が出土した。埴輪が出土している。古墳群で唯一鏡を副葬する古墳である。時期は中I期～中II期である。

珠文鏡の面径は10.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2－珠文3列－櫛歯文帯、外区は複線波文帯帯－鋸歯文帯である。分類はAC－B類である。

50 (伝) 愛媛県西条市

遺跡の詳細は不明である。

51 愛媛県西条市甲賀原古墳群

甲賀原古墳群の円墳からの出土と伝えられるが、詳細な内容は不明である。時期は判断できない。

珠文鏡は面径6.0cm、文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－珠文1列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA－B類である。

52 愛媛県西条市円満寺古墳(第49図3・第76図①)

円満寺古墳の墳丘は確認されていない。箱式石棺から珠文鏡1が出土している。時期は判断できない。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈し、緑錆に覆われている。面径 7.0 cm、重量 58 g、縁厚 0.19～0.24 cm、縁幅 0.6 cm、鈕幅 1.3 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.15 cm である。鈕孔形態は方形である。鈕孔の位置に偏りがみられる。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2—珠文 1 列—櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。鋸歯文は幅広である。分類は A—B 類である。

53 徳島県名西郡石井町曾我氏神社 1 号墳第 2 主体部

曾我氏神社 1 号墳は径 11 m の円墳である。第 2 主体部は竪穴式石室で、出土遺物には珠文鏡 1・石釧・硬玉製勾玉・瑪瑙製管玉・管玉・ガラス小玉がある。時期は前 V 期～前 VII 期である。珠文鏡は被葬者の頭部付近からの出土である。

珠文鏡の面径は 4.0 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A—B 類である。

54 徳島県徳島市西名東町出土

採集品であり年代は不明である。

珠文鏡は面径 6.2 cm である。珠文 2 列と報告される。分類は不明である。

55 徳島県徳島市恵解山 9 号墳南棺

恵下山 9 号墳は径 14 × 9.5 m の円墳である。出土遺物には勾玉・鉄刀・鉄鏃・鉄刀子・鉄鉈・鉄鎌がある。時期は判断できない。

珠文鏡の面径は 8.6 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列—無文帯—櫛歯文帯、外区は複線波文帯—鋸歯文帯である。分類は AC—B 類である。

56 徳島県鳴門市谷口山上古墳

当遺跡は箱式石棺から、珠文鏡 1・勾玉・管玉・小玉・白玉・柄頭・琴字形石製品が出土した。時期は前 V 期～前 VII 期である。

珠文鏡は面径 7.4 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列—圏線 1—珠文 1 列—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A—B 類である。

57 香川県丸亀市快天山古墳前方部箱式石棺のいずれか

当遺跡は前方後円墳であり、古墳の規模は 100 m である。埴輪が出土する。箱式石棺から珠文鏡 1 が出土する。時期は前 IV 期である。

珠文鏡は面径 4.5 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列?—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A—B 類である。

58 香川県丸亀市やくし古墳

やくし古墳は墳長 35 m の前方後円墳である。時期は判断できない。箱式石棺内から珠文鏡 1 が出土している。

珠文鏡の面径は 7.1 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2 - 珠文 1 列 - 圏線 2 - 櫛歯文帯である。分類は D - B 類である。

59 香川県坂出市雄山 6 号墳

雄山 6 号墳は径 12 m の円墳である。横穴式石室から、珠文鏡・鉄鏃・鉄刀子・鉄鎌・鉄鉈・碧玉製管玉・緑色凝灰岩製管玉・ガラス製小玉・練玉・須恵器が出土している。後 II 期である。

珠文鏡は面径 5.6 cm、珠文 3・4 列 - 櫛歯文帯と報告されていることから、分類 D - B 類とする。

60 香川県高松市居石遺跡（第 76 図②）

居石遺跡では幅 25 m・深さ 2 m の規模をもつ自然河川の川底より計 3 面の銅鏡が出土している。北から、珠文鏡 1・重圏文鏡 1・素文鏡 1 の順に 50 cm ほどの間隔で置かれており、水に関する祭祀を執り行う際に用いられたと考えられる。時期は前 IV 期～前 V 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は褐色を呈し、鑄上がりは良い。面径 5.4 cm、重量 23 g、縁幅 1.0 cm、縁厚 0.17～0.20 cm、鈕幅 1.0 cm、鈕高 0.6 cm、鈕孔幅 0.3 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.1 cm である。鈕孔形態は隅丸方形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 - 珠文 1 列 - 櫛歯文帯となる。分類は D - B 類である。

61 香川県さぬき市野牛古墳（第 76 図③）

野牛遺跡は尾根上に築かれた古墳である。箱式石棺内からは珠文鏡 1・瑪瑙製勾玉・翡翠製勾玉・碧玉製管玉・緑色凝灰岩製管玉・ガラス小玉・滑石製白玉・ヤス状鉄器・針状鉄器・不定形垂飾具が出土している。時期は前 VI 期～前 VII 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は鑄上がりが悪く、鏡背面は緑錆に覆われている。珠文鏡は面径 9.6 cm、重量 114 g、縁厚 0.22～0.35 cm、縁幅 1.0 cm、鈕幅 1.2 cm、鈕高 1.05 cm、鈕孔幅 0.3 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.1 cm 前後である。鏡の面径に対して鈕幅は 1.2 cm と小さく製作されており、珠文も幅 0.1 cm 前後と小さい。鈕孔形態は楕円形である。

文様構成は鈕から外に向かって、圏線3－珠文1列－櫛歯文帯－無文帯となる。分類はD－B類としているが、無文帯が含まれていることからD－B類の亜種に相当する。珠文鏡の中では面径が大きく、櫛歯文帯の外周に無文帯をもつという点で類例のない文様構成である。

62 広島県広島市山武士塚2号墳（第77図②）

山武士塚2号墳は円墳で、竪穴式石室内の出土遺物は珠文鏡1・小形鉄斧・鉄剣・鉄鏃・鉄刀子・鉄斧・鉄鑿である。時期は中期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は白銅色を呈し、鑄上がりが良い。おおよそ3分の2程度が緑錆に覆われている。面径6.6cm、重量42g、縁厚0.22～0.31cm、縁幅0.9cm、鈕幅1.5cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.2cm、珠文径0.14～0.18cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線1－珠文1列－圏線2－櫛歯文帯となる。分類はD－B類である。

63 広島県広島市宇那木山2号墳（第51図1・第77図③）

宇那木山2号墳は丘陵上に位置する墳長約40mの前方後円墳である。竪穴式石室内の出土遺物は珠文鏡1・鉄剣・鉄槍・鉄鉈・鉄斧である。珠文鏡は頭部にあり、鏡面を上にした状態で出土している。時期は前Ⅱ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は白銅質であり鑄上がりがよく、文様も明瞭に確認できた。珠文鏡は4片に割れた状態で出土した。珠文鏡は面径10.1cm、縁厚0.3cm、縁幅1.1cm、鈕幅1.73cm、鈕高0.94cm、鈕孔幅0.55cm、鈕孔高0.3cm、珠文径0.15cm、鈕孔形態は隅丸方形である。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－珠文3列－2圏線－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯である。複合鋸歯文の文様の外側に位置する鋸歯文は、左から右下に向かって細線が施されている。分類はA3－B類である。この珠文鏡は複合鋸歯文をもつという点で、ほかに類例のない特殊なものといえる。珠文鏡の中では大型である。

64 広島県東広島市三ツ城古墳（第50図6・第77図①）

三ツ城古墳は丘陵上に位置する墳長92mの前方後円墳である。第1主体の箱式石棺からは、珠文鏡1・管玉・鉄刀が出土した。時期は中Ⅱ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈し、3分の1程度は鑄上がりが悪い。全く文様の確認できない部分がある。

珠文鏡は面径 6.7 cm、重量 59 g、縁厚 0.32 ~ 0.36 cm、縁幅 0.5 cm、鈕幅 1.4 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.3 cm、鈕孔高 0.3 cm である。珠文径は 0.2 cm と大きい。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 - 珠文 2 列であり、外区は鋸歯文帯 - 鋸歯文帯である。鋸歯文は非常に幅が狭い。分類は A 2 - D 類である。文様構成は 2 重の鋸歯文を外区に配置するという点に特徴があり、斜縁であることも、珠文鏡の中では特殊といえる。鈕も分厚くほかの珠文鏡とは異なっている。

65 広島県三次市不明

箱式石棺から珠文鏡 1 が出土したと伝えられるが、詳細は不明である。時期は不明である。

面径 8.2 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列、櫛歯文帯 - 鋸歯文帯 - 鋸歯文帯である。2 列目の珠文は圏線の上に配されている。分類は A 2 - B 類である。

66 広島県三次市牛淵トンネル上古墳

古墳の可能性があると報告されているが、詳細は不明である。珠文鏡の面径および文様も不明である。

67 広島県三次市善法寺 9 号墳前方部 C 主体部 (第 78 図①)

善法寺 9 号墳は墳長 35 m の前方後円墳で、C 主体部の竪穴式石室内から珠文鏡 1・鉄鋤先・鉄鉈が出土している。時期は中期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は淡緑色を呈し、銅質が悪く、文様も不鮮明な部分が多い。珠文鏡は縁に割れがあり、状況は悪い。面径 6.4 cm、重量 11 g、縁幅 0.6 cm、縁厚 0.22 ~ 0.26 cm、鈕幅 1.1 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.3 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.15 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2 - 珠文 1 列 - 櫛歯文帯 - 鋸歯文帯となる。分類は A - B 類である。

68 広島県三次市四拾貫小原 1 号墳 A 主体 (第 78 図②)

四拾貫小原 1 号墳は径 26 m の円墳である。A 主体の木棺内からは、珠文鏡 1・鉄斧・鉄鋤先・土師器・須恵器が出土している。珠文鏡は頭部付近から出土した。時期は中 III 期 ~ 中 IV 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈し、全体的に文様があいまいである。縁部には緑錆が多くみられる。珠文鏡の面径は 6.8 cm。鈕幅 1.8

cm、鈕高 0.7 cm、珠文径 0.25 cm である。鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 1 列－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

69 広島県庄原市川手町所在の古墳

当遺跡は古墳の可能性があると報告されているが、詳細は不明である。

珠文鏡の面径は 8.4 cm、珠文 1 である。鏡の図面は報告されておらず、詳細は不明である。

70 広島県福山市松本古墳（第 78 図③）

松本古墳は松本湾の中央部を南に見下ろす標高 15 m の眺望のよい丘陵南斜面を利用して作られている。径 40 m の円墳である。竪穴式石室からの出土遺物は、珠文鏡 1・鉄刀・砥石である。時期は中Ⅱ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は緑色を呈し、鋳上がりは悪い。緑錆に覆われており、文様は不明瞭である。おおよそ 3 分の 1 程度が破損している。復元面径 6.2 cm、現重量 15 g、縁厚 0.2 cm、縁幅 0.6 cm、鈕幅 1.0 cm、鈕高 0.7 cm、珠文径 0.1 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2－珠文 2 列－櫛歯文帯－無文帯となり、外区は鋸歯文帯となる。分類は A－B 類である。

71 広島県福山市今岡古墳（第 49 図 4・第 78 図④）

今岡古墳の出土遺物は珠文鏡のみであるため、時期は判断できない。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は全体的に緑色を呈する。縁部分が一部欠損している。鋸歯文帯の鋳上がりが悪い。面径 7.3 cm、重量、縁厚 0.16～0.18 cm、縁幅 0.5 cm、鈕幅 1.3 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.25 cm、珠文径 0.1 cm 程度、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 1 列－圏線 1－珠文 1 列－圏線 1－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯となる。鋸歯文帯の幅は短く、縁の反りが強い。分類は A－B 類である。

72 広島県福山市今岡小池所在古墳

当遺跡は今岡小池に所在する古墳と伝えられるが、詳細は不明である。時期は不明である。

珠文鏡は面径 5.4 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 1 列－圏線 1－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

73 広島県福山市汐首 3 地区 C 遺跡 SK-5（第 79 図①）

汐首 3 地区 C 遺跡 SK-5 は、尾根上に位置する土壌を主体部とする。溝に

よって区切られた円墳であり、尾根と墳丘を区切る溝は幅約7mである。溝の第2層目からは畿内系の土師器が出土している。主体部の土壌は長さ3.47m・幅0.94mの土壌の中に長さ2.2m・幅1.8m木棺を埋葬している。土壌上面から深さ1.0mのところ木棺の痕跡と赤色顔料が検出され、小型の珠文鏡と鉄刀・鉄刀子・鉄斧・鉄鉈・鉄鎌などの鉄製品や人骨が出土した。時期は前期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は面径4.7cm、重量17g、縁厚0.14～0.2cm、縁幅0.4cm、鈕幅0.9cm、鈕高0.5cm、鈕孔幅0.2cm、鈕孔高0.2cm、珠文径0.1cm弱である。鈕孔形態はいびつな方形である全体的に淡緑色を呈し、鑄上がりは良い。文様構成は鈕から外に向かって、圏線1—珠文1列—櫛歯文帯で、外区は鋸歯文帯である。分類はA—B類である。広島県山の神2号墳出土珠文鏡（第79図②）に類似する。

74 広島県福山市山の神3号墳第1主体部（第53図5・第79図③）

山の神3号墳は尾根上に位置する径20mの円墳である。第1主体部の箱式石棺内からは珠文鏡1・管玉・ガラス小玉が出土している。珠文鏡は頭部付近からの出土である。時期は前VI期～前VII期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は銅質が良好で白銅色を呈する。鏡背面が緑錆に覆われている。鈕孔の中には紐が残存する。

面径5.1cm、重量24g、縁厚0.20～0.25cm、縁幅0.8cm、鈕幅1.2cm、鈕高0.55cm、鈕孔幅0.3cm、鈕孔高0.2cm、珠文径0.1cm程度、鈕孔形態は隅丸方形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線1—珠文1列—圏線1—複合鋸歯文帯となる。複合鋸歯文は、外側の鋸歯文の左上から右下に向かって細線が描かれている。分類はD—A3類である。整然とした複合鋸歯文帯をもつ珠文鏡は珍しい。

75 広島県福山市山の神2号墳（第79図②）

山の神2号墳は尾根上に位置する円墳であり、箱式石棺内からは珠文鏡1・管玉・鉄刀子・鉄鉈・土師器が出土している。珠文鏡は頭部付近からの出土である。時期は前VI期～前VII期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は銅質が良好であり、白銅色を呈する。文様は明瞭に確認できた。面径4.2cm、重量17g、縁厚0.22～0.27cm、縁幅0.4cm、鈕幅0.8cm、鈕高0.4cm、鈕孔幅0.2cm、鈕孔高0.2cm、珠文

径 0.1 cm 弱、鈕孔形態は半円球状に近い。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列—圏線 1—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯となる。分類は A—B 類である。広島県汐首 3 地区 C 遺跡（第 79 図①）に類似する。

76 広島県福山市国成古墳（第 79 図④）

国成古墳は神辺平野の独立丘陵に位置する径 20 m の円墳である。粘土槨内の出土遺物は須恵器・双孔円板・硬玉製勾玉・碧玉製管玉・ガラス製丸玉・ガラス製小玉・滑石製白玉・鉄鎌・鉄刀子・鉄刀である。墳丘からは埴輪が出土している。時期は中Ⅱ期～中Ⅲ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈し、おおよそ 2 分の 1 が緑錆に覆われる。文様は不鮮明である。面径 5.9 cm、重量 16 g、縁厚 0.12 cm、縁幅 0.9 cm、鈕幅 1.2 cm、鈕高 0.6 cm、鈕孔幅 0.25 cm、鈕孔高 0.25 cm、珠文径 0.15 cm 強、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1—珠文 1 列—櫛歯文帯となる。分類は D—B 類である。

77 広島県府中市寺山 1 号墳（第 79 図⑤）

寺山 1 号墳は径 13 m の円墳である。箱式石棺内からは、珠文鏡 1・鉄刀・鉄鏃・鉄鉈・鉄鑿が出土している。珠文鏡は 31～35 才の男性頭骨の右側から出土した。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は緑色を呈する。一部鑄上がりが悪い部分がみられる。面径 6.5 cm、重量 42 g、縁厚 0.19～0.21 cm、縁幅 1.1 cm、鈕幅 1.6 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.1 cm 程度である。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1—珠文 1 列—圏線 1—櫛歯文帯となる。分類は D—B 類である。

78 広島県府中市平井古墳

平井古墳は円墳であり、横穴式石室から珠文鏡 1・直刀・鉄刀子・鉄鏃・鉄器片・指環・青銅装飾品・鏡・鏡板・水晶切子玉・切子玉・管玉・吹玉・棗玉・土師器・須恵器が出土している。後期である。詳細な時期は不明である。珠文鏡の詳細は不明である。

79 岡山県

遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は面径 8.0 cm である。

80 岡山県

遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は面径 9.0 cm である。

81 岡山県新見市横田遺跡4区丘陵南端の表土中（第79図⑥）

横田遺跡4区の表土から珠文鏡1が出土している。時期は不明である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は全体的に緑色を呈する。面径6.0cm、縁幅0.3cm、鈕幅1.2cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.4cm、鈕孔高0.2cm、珠文径0.15cm、鈕孔形態は方形を呈する。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2—珠文2列—単線鋸歯文帯—櫛歯文帯—鋸歯文帯となる。珠文鏡の中で本鏡のように単線鋸歯文をもつものはほかに類例がない。特殊な文様であり、分類は行っていない。

82 岡山県新見市光坊寺1号墳第V主体部（第49図5・第80図①）

光坊寺1号墳は尾根上に位置する径13.6×14.4mの円墳である。第V主体部である木棺の出土遺物は、珠文鏡1・ガラス小玉である。珠文鏡は頭部付近から出土した。第I主体部より土師器が出土しており、時期は前VI期～前VII期と判断する。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は全体的に淡緑色を呈し、鑄上がりが良い。鏡背面は全体的に緑錆に覆われ、赤色顔料が残存する。面径約7.8cm、重量39g、縁厚0.31～0.37cm、鈕幅1.2cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.4cm、鈕孔高0.3cm、珠文径0.12cmである。文様構成は、鈕から外に向かって、圏線1—珠文2列—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯となる。分類はA—B類である。

83 岡山県小田郡矢掛町長谷古墳（第50図3）

長谷古墳は箱式石棺から珠文鏡1出土したと伝えられている。時期は不明である。

84 岡山県吉備郡真備町上二万古墳

上二万古墳は箱式石棺から珠文鏡1・武器が出土したと報告されている。年代は不明である。珠文鏡の面径は7.4cmであり、分類は不明である。

85 岡山県吉備郡真備町

当遺跡は古墳であり、箱式石棺から珠文鏡1が出土したと伝えられる。詳細な時期は不明である。珠文鏡も詳細は不明である。

86 岡山県総社市福砂古墳主体部

福砂古墳は円墳であり、主体部より珠文鏡1・切子玉・管玉・勾玉・ガラス丸玉・ガラス小玉・鉄斧・須恵器が出土している。詳細な年代は不明である。珠文鏡は、面径10.0cmであり、分類は不明である。

87 岡山県総社市殿山10号墳第1主体部

殿山10号墳は辺長13×15mの方墳である。第1主体部の木棺から、珠文鏡1・鉄鉏・鉄剣・管玉・小玉が出土した。珠文鏡は頭部に副葬されており、時期は前Ⅲ期である。

珠文鏡の面径は5.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2—珠文1列—櫛歯文帯である。分類はD—B類である。

88 岡山県岡山市向山1号墳主体部

向山1号墳は円墳で、主体部の箱式石棺より珠文鏡1・内行花文鏡1・ガラス小玉・ガラス丸玉・硬玉勾玉・管玉・鉄刀子・鉄鏃が出土している。詳細な年代は不明である。

珠文鏡は面径は8.0cmである。珠文1と報告されているが、分類は不明である。

89 岡山県赤磐市斎富遺跡

斎富遺跡は集落の大形竪穴住居内より珠文鏡1・土師器・陶質土器が出土している。時期は前Ⅵ期～前Ⅶ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡の面径は6.3cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線—珠文1列—櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯である。分類はA—B類である。

90 岡山県久米郡柵原町月の輪古墳

月の輪古墳は吉井川の合流点を上から見下ろす標高320mの山頂に立地する径61mの円墳である。中棺主体の粘土槨より、珠文鏡1・勾玉・管玉・甲・短剣・鉄刀・鉄剣・銅鏃・鉄鏃・鉄刀子・鉄鉏・鉄鑿・短甲が出土している。珠文鏡は頭部の左側から鏡背面を上にした状態であった。時期は中Ⅰ期である。

珠文鏡の面径は9.8cmである。内区は、珠文をまばらに充填し、文様構成は鈕から外に向かって、珠文3列—櫛歯文帯—珠文帯、外区は鋸歯文帯となる。鋸歯文帯に、あとから櫛歯文を施すなど、珠文鏡の製作過程のわかる資料である。分類はA—B類の亜種に相当する。

91 島根県出雲市山地古墳第2埋葬主体

山地古墳は径24mの円墳であり、礫敷の箱式木棺内から珠文鏡1・筒型銅器が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

珠文鏡は面径8.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線—珠文

1列－1圏線－珠文1列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA－B類である。

92 島根県出雲市中村1号墳

中村1号墳は出雲平野東北部の低丘陵に挟まれた谷の出口にあり、すぐ東に丹掘川が流れている場所に位置している。径30mの円墳であり、未盗掘の横穴式石室で副葬品が多数出土している。主な遺物には耳環・ガラス玉・鈴・装飾大刀・鉄鏃・鉄刀子・馬具・須恵器がある。時期は後Ⅲ期である。

面径は7.6cm、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－2珠文、外区は複線波文－櫛歯文で、分類はBC－D類である。

93 島根県松江市奥才12号墳第3主体

当遺跡は丘陵上に位置する辺長16×18.5mの方墳である。第3主体部の箱式木棺より珠文鏡1・碧玉製管玉3が出土している。珠文鏡の出土位置は頭部である。時期は前Ⅳ期である。

珠文鏡は面径6.7cmで、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文1列－櫛歯文帯である。分類はD－B類である。

94 島根県松江市社日2号墳（第52図6・第80図②）

社日2号墳は辺長11×12mの方墳である。出土遺物は珠文鏡1・管玉である。珠文鏡は頭部付近からの出土と考えられる。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は褐色を呈し、铸上がりは良い。面径6.4cm、重量22g、縁厚0.2cm、鈕幅1.3cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.3m、鈕孔高0.7cm、珠文幅1.2cmである。珠文鏡の文様構成は、鈕から外に向かって、圏線1－珠文1列－圏線1－櫛歯文帯である。分類はD－B類である。

95 島根県松江市御崎山古墳

御崎山古墳は墳長41m以上の前方後円墳で、横穴式石室内より金銅装鈎金具・金銅製菱形金具・土師器・須恵器・金環・銀環・環頭太刀・短剣・鉄鏃・鉄刀子・鈴・雲珠・辻金具・轡・須恵器・土師器が出土している。後Ⅲ期である。

珠文鏡は面径8.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文2列－櫛歯文帯であり、外区は複線波文帯－櫛歯文帯となる。分類はBC－D類である。

96 島根県安来市鷺ノ湯病院跡横穴

鷺ノ湯病院跡横穴は丘陵に位置する遺跡であり、珠文鏡1・金銅製大型中空

耳環・金銅製冠立飾・鍍金環鍍銀環交叉品・鍍銀環・琥珀棗玉・ガラス白玉・金銅空丸玉・針金繫ぎ金銅棗形空丸・単竜環頭大刀・金銅装円頭大刀・銀装大刀残欠・直弧文鹿角装刀子・鉄刀子・轡・鉄地金銅長磯金具・鉄地金銅帳雲珠残欠・鉄地金銅帳辻金具である。時期は後Ⅲ期である。

珠文鏡は7.8 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文3列－二重の櫛歯文帯となる。分類はD－B 2類である。

97 島根県安来市小馬木2号墳

小馬木2号墳は径11 mの円墳であり、遺物は須恵器・土師器・埴輪が出土している。時期は後Ⅰ期である。

珠文鏡は面径7.0 cm、文様構成は鈕から外に向かって、斜行櫛歯文帯－珠文2列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA－B類である。

98 島根県隠岐郡隠岐山南古墳

山南古墳は径15 mの円墳であり、箱式石棺より珠文鏡1が出土している。詳細な時期は不明である。

面径は10.5 cm。分類は不明である。

99 鳥取県日野郡日南町名土古墳

名土古墳は尾根上に位置し、箱式石棺内から珠文鏡1・ガラス玉・切子玉・鉄刀が出土している。時期は古墳時代で詳細な時期は不明である。

珠文鏡は面径8.8 cm、文様構成は鈕から外に向かって、珠文2列－圏線1－櫛歯文帯、外区は複線波文帯－鋸歯文帯である。分類はAC－B類である。

100 鳥取県米子市新山山田遺跡（溝）

当遺跡は集落遺跡で溝から珠文鏡が出土している。時期は不明である。

面径は欠損のため不明である。櫛歯文帯のみを確認しており、分類はD－B類である。

101 鳥取県米子市新山山田7号墳

新山山田7号墳は標高36 mの尾根上に位置する11 mの古墳である。木棺内より、珠文鏡1・土師器・須恵器が出土している。時期は後Ⅰ期である。

珠文鏡は文様が不鮮明である。面径7.5 cmであり、文様は珠文1列、櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯が確認できるのみである。分類はA－B類である。

102 鳥取県米子市吉谷12号墳

吉谷12号墳は標高71 mの丘陵頂部に位置する径20 mの円墳であり堅穴式

石室からの出土である。副葬品はガラス小玉・勾玉・管玉・土師器直口壺・鉄器が出土している。時期は前VI期である。

珠文鏡は面径 7.8 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 3 列－1 圏線－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

103 (伝) 鳥取県西伯郡淀江町宇田川から百塚原付近

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は面径 4.8 cm であり、珠文 2～3 列である。分類は不明である。

104 鳥取県倉吉市国信 1 号墳

国信 1 号墳は円墳であり、箱式石棺内から珠文鏡 1・勾玉が出土している。時期は不明である。珠文鏡は面径 7.3 cm、外区に鋸歯文帯がある。珠文 1 列である。分類は不明である。

105 (伝) 鳥取県倉吉市上神字猫山

当遺跡の詳細は不明である。

106 鳥取県倉吉市猫山遺跡第 1 号方形周溝墓

猫山遺跡第 1 号方形周溝墓の墳丘規模は不明である。珠文鏡 1・土師器が出土している。時期は中期である。珠文鏡は破片である。文様は不鮮明であるが複線波文と珠文 2 列を確認している。分類は不明である。

107 鳥取県倉吉市向山古墳群宮ノ峰支群 18 号墳 (第 81 図①)

向山宮ノ峰支群は倉吉市の向山に位置する。向山には 4 世紀から 7 世紀にかけての古墳群が 400 基ほど分布しており、宮ノ峰支群は、標高 40 m ほどの丘陵に位置し、3 面の文様が異なる珠文鏡が出土している。

宮ノ峰支群 18 号墳は辺長 16.4 × 17.4 m の方墳であり、木棺内の出土遺物は珠文鏡 1 である。時期は判断できない。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈している。面径 5.9 cm、鈕幅 1.5 cm、珠文径 0.15 cm である文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2－珠文 1 列－櫛歯文、外区は櫛歯文帯となる。分類は A－B 類である。

108 鳥取県倉吉市向山古墳群宮ノ峰支群 14 号墳 (第 80 図③)

向山古墳群宮ノ峰支群 14 号墳は辺長 13 × 15 m の方墳であり、木棺から珠文鏡 1・鉄刀子・管玉・小玉が出土している。時期は前 V 期～前 VII 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡の銅質は良好であり、白銅色を呈する。鏡面に刀子片が銹着する。面径 6.2 cm、縁厚 0.2 cm、縁幅 0.9 cm、鈕幅 1.7 cm、

鈕孔幅 0.5 cm、珠文径 0.15 cm 程度である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 - 珠文 1 列 - 櫛歯文帯となる。珠文は整然と配される。分類は D - B 類である。

109 鳥取県倉吉市向山古墳群宮ノ峰支群 13 号墳 (第 81 図①)

向山古墳群宮ノ峰支群 13 号墳は、辺長 15.6 × 20 m の方墳である。木棺内からは珠文鏡 1 が出土している。前 V 期～前 VII 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈し、文様の鑄上がりは良い。面径 7.2 cm、縁厚 0.25 cm、鈕幅 1.3 cm、縁高 0.8 cm、鈕幅 0.3 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.1 ~ 0.2 cm である。文様構成は、圏線 2 - 珠文 2 列 - 櫛歯文帯 - 無文帯 - 櫛歯文帯となる。分類は D - B 2 類である。

110 鳥取県鳥取市六部山 21 号墳 (第 53 図 3)

六部山古墳群は久末六部山と呼ばれる低い丘陵に位置する。21 号墳は径 10 m の円墳であり、明治 36 年に調査されている。その後、昭和 18 年の聞き取りで、2 面の鏡のうち、1 面は棺内の頭部付近にあり、もう 1 面は蓋石上にあつたとある。どちらの鏡が棺内にあつたのかは不明である。土師器の鼓形器台・壺形土器が出土している。時期は前 III 期～前 IV 期である。

珠文鏡は面径 6.7 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 3 列 - 圏線 1 - 櫛歯文帯である。分類は D - B 類である。

111 鳥取県鳥取市美和 34 号墳

美和 34 号墳は辺長 13 m の方墳である。第 2 主体部の土器棺墓より珠文鏡 1・小玉が出土している。時期は前 III 期～前 IV 期である。

珠文鏡は、面径 7.4 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線 - 珠文 2 列 - 1 圏線 - 櫛歯文帯である。分類は D - B 類である。

112 鳥取県鳥取市広岡 88 号墳

平岡 88 号墳は辺長 8 × 9 m の方墳である。木棺より珠文鏡 1・不明鉄器・土師器が出土している。時期は前期である。珠文鏡は面径 7.5 cm である。文様の詳細は不明である。

113 兵庫県三原郡三原町戒壇寺遺跡

戒壇寺遺跡の珠文鏡は採集品であり、遺跡の詳細は不明である。時期も不明である。

珠文鏡は、面径 8.5 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線 - 珠文 2 列、

外区は鋸齒文帯－複線波文帯－鋸齒文帯である。分類はA C A－D類である。

114 兵庫県佐用郡佐用町円応寺2号墳

円応寺の丘陵上には11基の円応寺古墳群がある。2号墳は径19.4mの円墳であり、箱式石室から珠文鏡1・碧玉製勾玉・滑石製勾玉・ガラス製勾玉・小玉・鉄刀・鉄剣が出土している。時期は不明である。

珠文鏡は面径6.1cm、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文1列－1圏線－櫛齒文帯である。分類はD－B類である。

115 兵庫県揖保郡御津町権現山梶山9号墳

揖保川下流域の後期の古墳群は小規模なものを含めると相当数あり、最も顕著な古墳群としては、御津町と揖保川の境に分布する権現山古墳群である。約160基の古墳が丘陵上にあり、中には前方後円墳や前方後方墳の前期のものも含まれているが、9割以上は横穴式石室を埋葬施設とする。権現山梶山9号墳は辺長9×15mの方墳である。竪穴式石室内から珠文鏡1が出土した。時期は前期である。

珠文鏡は面径5.6cm、文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－珠文1列－櫛齒文帯である。分類はD－B類である。

116 兵庫県姫路市八代山1号墳

八代山1号墳は円墳であり、箱式石棺内から珠文鏡1・鉄斧・鉄剣・鉄鎌・鉄刀子が出土している。時期は中期である。面径は7.5cm、珠文2列である。分類は不明である。

117 兵庫県加西市亀山古墳第2主体部（第52図1）

亀山古墳は標高160mの丘陵上に位置する墳長48mの帆立貝形古墳であり、第2主体部の竪穴式石室から珠文鏡1・短甲・鉄刀・鉄剣・鉄鏃が出土している。時期は中Ⅳ期～後Ⅱ期である。

珠文鏡は面径6.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文3列－鋸齒文帯、外区は櫛齒文帯である。分類はB－A類である。

118 兵庫県小野市敷地大塚古墳

敷地大塚古墳は径47mの円墳であり、粘土槨から鏡・碧玉製管玉・ガラス製小玉・鏡が出土している。鏡は珠文鏡2以外に、面径16.1cmの獣形鏡が1面・面径15.3cm・15.4cmの方格規矩鏡2・面径6.7cmの捩文鏡1・面径15～16cmの内行花文鏡1が出土している。時期は中期である。

珠文鏡の内1面は、面径6.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線—珠文1列—1圏線—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA—B類である。

119 兵庫県小野市敷地大塚古墳

敷地大塚古墳は径47mの円墳であり、粘土槨から碧玉製管玉15・ガラス製小玉5・鏡7が出土している。鏡は珠文鏡2以外に、面径16.1cmの獣形鏡が1面・面径15.3cm、15.4cmの方格規矩鏡が2面が出土している。面径6.7cmの捩文鏡が1面・面径15～16cmの内行花文鏡が1面出土している。時期は中期である。

珠文鏡2面のうちの1面は、面径は6.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線—珠文1列—1圏線—櫛歯文帯である。分類D—B類である。

120 兵庫県明石市藤江別所遺跡（第81図②）

藤江別所遺跡は沖積地上に立地し海岸までの距離は300mである。祭祀遺構とされる井泉遺構より鏡9・車輪石・玉類・土器が出土している。鏡は、珠文鏡2・櫛歯文鏡1・重圏文鏡4・素文鏡2である。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。祭祀遺構から、珠文鏡と共に櫛歯文鏡・素文鏡・重圏文鏡がセットになって出土する点特徴的である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は全体的に黒色を呈し、鋳上がりは良い。珠文鏡は面径5.1cm、重量23g、縁厚0.17～0.20cm、縁幅1.0cm、鈕幅1.0cm、鈕高0.6cm、鈕孔幅0.3cm、鈕孔高0.3cm、珠文径0.10～0.12cmである。文様構成は鈕から外に向かって、圏線1—珠文1列—櫛歯文帯となる。珠文は1列に整然と並ぶ。分類はD—B類である。当鏡の類例に佐賀県中隈山5号墳がある。

121 兵庫県明石市藤江別所遺跡（第53図2・第81図③）

藤江別所遺跡は沖積地上に立地し海岸までの距離は300mである。祭祀遺構とされる井泉遺構より鏡9・車輪石・玉類・土器が出土している。鏡は、珠文鏡2・櫛歯文鏡1・重圏文鏡4・素文鏡2である。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。祭祀遺構から、珠文鏡と共に櫛歯文鏡・素文鏡・重圏文鏡がセットになって出土する点特徴的である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈し、鋳上がりは良い。面径6.5cm、重量44g、縁幅1.1cm、鈕幅1.4cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.5cm、

鈕孔高 0.3 cm、珠文径 0.10 ~ 0.12 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 - 珠文 2 列 - 櫛歯文帯となる。分類は D - B 類である。

122 兵庫県神戸市三番町遺跡

三番町遺跡は集落遺跡であり、溝から珠文鏡 1・土師器・木製品が出土している。年代は不明である。珠文鏡は面径 4.9 cm であり、珠文 1 列と鋸歯文帯が確認できる。分類は A - D 類である。

123 兵庫県篠山市大師山 6 号墳

大師山 6 号墳は径 10 × 15 m の円墳であり、割竹形木棺内から珠文鏡 1・鉄釧・鉄刀・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・鉄鎌・鉄斧・鉄鋌・滑石製勾玉・滑石製管玉・グリーンタフ製管玉・ガラス丸玉・蛇紋岩製小玉が出土している。時期は中 II 期である。

珠文鏡は面径 6.1 cm、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線 - 珠文 2 列 - 櫛歯文帯である。分類は D - B 類である。

124 兵庫県丹波市油利百塚古墳群中

油利百塚古墳群の円墳から珠文鏡 1 が出土したと報告されている。年代は不明である。珠文鏡は面径 7.6 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 - 複線波文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A C - D 類である。

125 兵庫県氷上郡青垣町中佐治 5 号墳

中佐治 5 号墳は径 18 m の円墳であり、竪穴系横口式石室内から珠文鏡 1・鉄剣・鉄斧・鉄鍬先・須恵器・土師器が出土している。時期は中 IV 期である。

珠文鏡は面径 8.8 cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 - 珠文 2 列 - 櫛歯文帯、外区は複線波文帯となる。分類は A C - B 類である。

126 兵庫県美方郡香美町文堂古墳（第 52 図 3）

文堂古墳は径 15 m の円墳である。横穴式石室より珠文鏡 1・鉄鏃・鉄刀子・大刀鞘尻・須恵器・馬具・金銅装頭椎大刀・金銅装環頭大刀・金銅装方頭柄頭・大刀・金環・勾玉・ガラス丸玉・金銅装馬具・土師器・須恵器が出土した。時期は後 IV 期である。

珠文鏡は面径 8.2 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線 - 珠文 2 列 - 1 圏線であり、外区文様帯は複線波文 - 櫛歯文となる。分類は B C - D 類である。

127 兵庫県養父郡八鹿町源氏山 4 号墳第 3 主体部

源氏山4号墳は辺長7×10mの方墳である。第3主体の木棺より鉄鏃・鉄斧・土師器・管玉が出土している。珠文鏡は、枕石の直上から鏡面を上に向けて出土した。時期は中期である。

珠文鏡の面径は5.9cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線―珠文1列―櫛歯文帯である。分類はD―B類である。

128 兵庫県豊岡市法尺谷3号墳第1主体

法尺谷3号墳は径19.5mの円墳であり、第1主体の木棺内から珠文鏡1・水晶製勾玉・白色の勾玉・碧玉製管玉・滑石製棗玉・ガラス製小玉が出土している。時期は前VI～前VII期である。珠文鏡は面径は5.7cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線―珠文1列―1圏線―櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA―B類である。

129 兵庫県城崎郡日高町太田谷

古墳からの出土と伝えられている。珠文鏡1・素文鏡1が出土している。珠文鏡は面径3.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、珠文1列―櫛歯文帯である。分類はD―B類である。

130 兵庫県城崎郡日高町シゲリ谷3号墳

シゲリ谷3号墳は径8mの円墳である。横穴式石室の可能性があり、土師器・管玉・丸玉・長方玉・鉄刀が出土している。時期は不明である。

珠文鏡は復元面径4.8cm、文様は不鮮明であり櫛歯文帯と珠文1列が確認できるが、分類は不明である。

131 兵庫県城崎郡日高町楯縫古墳群

楯縫古墳群は円墳の可能性があり、遺跡の詳細は不明である、珠文鏡1・土師器・装身具・武器が出土した。

珠文鏡は面径3.1cmで、文様構成は鈕から外に向かって、珠文1列―櫛歯文帯である。分類はD―B類である。

132 兵庫県豊岡市長谷・ハナ4号墳第3主体部

当遺跡は辺長7×11m方墳であり、木棺から鉄鉈1・管玉1・ガラス小玉2が出土している。時期は中I期～中II期である。

珠文鏡は面径は5.2cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線―珠文1列―櫛歯文帯である。分類はD―B類である。

133 兵庫県豊岡市カチヤ古墳

カチヤ古墳は径 19 m の円墳である。棺内からは珠文鏡 1・鉄刀子・碧玉製勾玉・碧玉製管玉・滑石製白玉、棺外からは鉄剣・碧玉製勾玉・碧玉製管玉・ガラス小玉・滑石製白玉・針状鉄製品が出土している。珠文鏡は頭部からの出土である。時期は前Ⅲ期～中Ⅰ期である。

珠文鏡は面径 6.4 cm、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 2 列－1 圏線－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A－B 類である。

134 兵庫県出石町田多地引谷 5 号墳

田多地引谷 5 号墳からは、珠文鏡 1・玉類・鉄鉈が出土したと報告される。墳丘規模は不明であり、時期も不明である。

珠文鏡の面径は 7.2 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－珠文 2 列－1 圏線－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

135 兵庫県井石郡出石町鶏塚古墳

鶏塚古墳は径 25 m の円墳である。横穴式石室より珠文鏡 1・雲珠・砥石・切子玉・管玉・鉄剣・鉄斧・鉄刀子・須恵器・鉄鏃・土師器が出土している。時期は後期である。珠文鏡は面径 8.7 cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 2～3 列、外区は複線波文帯、鋸歯文帯である。分類は AC－D 類である。

136 京都府京丹後市谷垣 18 号墳主体部

谷垣古墳群は永留から女布地区への道に面した丘陵上に立地する 19 基からなる古墳群であり、18 号墳は径 30 × 40 m の円墳である。時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。

珠文鏡は箱式木棺内より出土している。珠文鏡 1・放射状区画をもつ珠文鏡 1・勾玉・碧玉製管玉・土玉・ガラス小玉・鉄斧・鉄鉈が出土している。

珠文鏡は、面径 6.8 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－珠文 1 列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A－B 類である。

137 京都府京丹後市奈具岡北 1 号墳

奈具岡北 1 号墳は竹野川右岸の丘陵上に築かれた 7 基の奈具岡北古墳群の最高位に位置する。珠文鏡は 1 号墳の前方後円墳の括れ部の流土から出土している。時期は中Ⅰ期である。

珠文鏡は面径 3.8 cm であり、文様構成は不鮮明であり、珠文 1 列－櫛歯文帯、外区に鋸歯文帯を確認できる。分類は A－B 類である。

138 京都府長岡京市馬場遺跡 S X 17643 (第 81 図④)

馬場遺跡 S X 17643 は長岡京下層より検出された辺長 10 × 10 m の方墳である。主体部から珠文鏡 1 が出土している。周溝からは土師器が出土している。時期は前 I 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は白銅色を呈し、鑄上がりは良い。おおよそ 5 分の 3 程度を欠損する。破面は滑らかであることから、研磨されたと考えられる。面径は 7.0 cm、現重量 25 g、縁厚 0.26 ~ 0.27 cm、縁幅 1.0 cm、鈕幅 1.3 cm、鈕高 0.6 cm、鈕孔幅 0.3 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.2 cm である。文様構成は、鈕から外に向かって、圏線 2 - 珠文 1 列 - 圏線 1 - 櫛歯文帯である。3 個の珠文を一つの単位として配置していると考えられる。珠文の外側の 1 圏線はフリーハンドで描いたように乱れている。分類は D - B 類である。

139 (伝) 京都府山城南部

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は、面径 7.2 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線 - 珠文 3 列 - 1 圏線 - 櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A - B 類である。

140 大阪府高槻市梶原 1 号墳

梶原 1 号墳は径 25 m の円墳であり、横穴式石室内から珠文鏡 1 ・馬具・金環玉・鉄鎌・ガラス丸玉・ガラス小玉・滑石製白玉・須恵器が出土している。時期は後 I 期～後 II 期である。

珠文鏡は面径 9.0 cm、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線 - 珠文 2 列 - 櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯となる。分類は A - B 類である。

141 大阪府高槻市弁天山 B 四号墳

弁天山 B 四号墳は円墳の可能性があると報告されているが、規模は不明である。割竹形木棺内より、珠文鏡 1 ・ガラス小玉・鉄鎌・鉄斧が出土している。珠文鏡は頭部から出土している。時期は前 III 期～中 I 期である。

珠文鏡の面径 6.4 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線 - 珠文 1 列 - 1 圏線 - 櫛歯文帯である。分類は D - B 類である。

142 大阪府東大阪市千手寺山遺跡遺物包含層 (第 53 図 7 ・第 81 図⑤)

千手寺山遺跡は集落遺跡であり、包含層から珠文鏡 2 が出土している。時期は前 V 期～中 I 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒褐色を呈し、面径 4.5 cm、縁厚 0.15

cm、鈕幅 0.7 cm、鈕高 0.55 cm、鈕孔幅 0.2 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.1 cm 弱である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列—圏線 1 である。分類は D—D 類である。当遺跡からはもう一面珠文鏡が出土しており、同範鏡である。

143 大阪府東大阪市千手寺山遺跡遺物包含層（第 81 図⑥）

千手寺山遺跡は集落遺跡であり、包含層からの出土である。時期は前 V 期～中 I 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒褐色を呈する。面径 4.5 cm、縁厚 0.15 cm、鈕幅 0.7 cm、鈕高 0.55 cm、鈕孔幅 0.2 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.1 cm 弱である。分類は D—D 類である。当遺跡は 2 面の珠文鏡が出土している。この 2 面の鏡は面径と文様の位置が完全に一致している。しかし、143 は 142 よりも文様が鮮明ではないことから、142 の鏡を踏み返して 143 の鋳型が製作されたと考えられる。

144 大阪府羽曳野市御旅山古墳

御旅山古墳は墳長 44.5 m の前方後円墳である。一度掘り出されたものを石櫃に再び埋納したため、本来の出土位置などは不明である。主体部は完全に破壊されていたが、石櫃に 22 面の仿製鏡・鉄剣などの鉄製品が納められていた。面径 18.7 cm の八獣形鏡が 1 面、面径 22.1 cm・22.1 cm・21.5 cm・24.5 cm の仿製三角縁三神三獣鏡が 4 面、内行花文鏡が 14 面（9.3 × 3・8.6 × 2・8.4 × 4・8.2 × 2・8.65・6.1・8.1）、6.8 cm の重圏文鏡が 1 面、9.3 cm の変形獣文鏡が 1 面出土している。時期は前 III 期～前 VII 期である

珠文鏡は 6.7 cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1—珠文 1 列—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A—B 類である。

145 大阪府南河内郡河南町寛弘寺 27 号墳

寛弘寺 27 号墳は辺長 15 m の方墳であり、粘土槨より珠文鏡 1・ガラス玉が出土している。時期は中 I 期～中 II 期である。

珠文鏡の面径は 7.6 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線—珠文 2 列—2 圏線—珠文 1 列—1 圏線—櫛歯文帯である。分類は D—B 類である。

146 大阪府南河内郡河南町神山丑神遺跡

神山丑神遺跡の包含層からは珠文鏡 1・埴輪が出土している。時期は不明である。珠文鏡は面径 6.7 cm、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 3 列—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A—B 類である。

147 奈良県葛城郡香芝町長谷山古墳南棺

長谷山古墳は径 10 m の円墳である。南棺は珠文鏡 1・碧玉製管玉・凝灰岩製管玉が出土している。珠文鏡は頭部からの出土と考えられる。時期は前Ⅲ期～前Ⅶ期である。珠文鏡の面径は 7.9 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 2 列－圏線 1－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

148 奈良県橿原市新沢 109 号墳

新沢 109 号墳は橿原市の西南部、貝吹山の西北の山裾に小さな古墳が群集し、新沢千塚と呼ばれている。南北 4 km・東西 1 km の間に 6 百基余りが残っている。109 号墳は墳長 28 m の前方後円墳である。珠文鏡以外に面径 20.9 cm の画文帯神獣鏡 1 と面径 12.1 cm の変形獣文鏡 1 が出土している。画文帯神獣鏡は、胸から肩にかけて副葬された。珠文鏡は遺体から少し東に離れた場所に置かれていた。変形獣文鏡は、棺外副葬であった。このことから、中心の鏡は画文帯神獣鏡ということが分かる。ほかには金銅製垂飾耳飾・ガラス小玉・三環鈴・鉄鉈・鉄刀・鉄剣・鉄槍・鉄鉾・鉄鏃・挂甲・横矧板鋌留短甲・滑石製有孔円板・滑石製白玉・埴輪が出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

珠文鏡は 7.2 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 2 列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A－B 類である。

149 奈良県桜井市池ノ内 5 号墳第 4 棺

池ノ内古墳群は丘陵上に作られた小円墳群で、前期後半から中期はじめに属する。5 号墳は径 15 × 16 m の円墳であり第 4 棺の木棺から珠文鏡 1・鉄剣・鉄刀が出土する。時期は中Ⅰ期である。なお、第 1 棺からは走獣騎獣面鏡 1、第 2 棺からは盤龍鏡 1 が出土している。

珠文鏡は面径 5.6 cm である。文様不鮮明であり、文様構成は珠文 2 列と、外区に鋸歯文帯が確認できるのみである。分類は A－D 類である。

150 奈良県高市郡高取町薩摩 11 号墳

薩摩 11 号墳は墳長 26 m の前方後円墳であり、珠文鏡 1・鉄剣・ガラス製小玉・鉄鋤先が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

面径は 7.0 cm、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 1 列－2 圏線－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A－B 類である。

151 奈良県五條市五條猫塚古墳

五條猫塚古墳は丘陵の谷間に点在する古墳のうちの 1 基であり、辺長 27.4

～30.4 mの方墳である。竪穴式石室内より豊富な副葬品が出土している。珠文鏡1・埴製枕・瑪瑙製小玉・金銅竜文透彫鈎帯金具・金銅三葉形文透彫鈎帯金具・尾錠・鉈尾・金銅金具・環頭劍・鹿角製刀子・鐏・細根鉄鏃・大形平根鉄鏃・平根鉄鏃・冑・短甲片・挂甲・鉄地金銅装頸鏡・籠子・竪形斧頭・横形斧頭・鉄鎌・鉄鑿・大形鑿・小形鑿・鉄鉈・鋤頭・砥石・不明鉄製品・鉄製具が出土している。珠文鏡は、頭部から北に1.3 mの位置に副葬された。時期は中期である。

珠文鏡は面径9.2 cmで、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文2列－櫛歯文帯となり、外区は、複波文帯－菱雲文帯－鋸歯文帯である。文様構成が複雑であり分類していないが、AC－B類の亜種である。

152 奈良県御所市巨勢山境谷2号墳

巨勢山塊は、東西3 km、東西2 kmに総数500基を超える古墳が分布している。我が国最大の群集墳地帯である。巨勢山境谷2号墳は径10×14 mの円墳である。出土遺物には、珠文鏡・勾玉・ソロバン玉・管玉がある。時期は中期である。珠文鏡以外には、面径13.5 cmの仿製斜縁三神二獣鏡が1面出土している。被葬者の頭部から肩部にかけて被葬者の北側に仿製斜縁三神二獣鏡1面、南側に珠文鏡1面が置かれていた。

珠文鏡の面径は6.2 cm、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－珠文2列－1圏線－櫛歯文帯である。分類はD－B類である。

153 奈良県宇陀市下井足1号墳

下井足1号墳は径20 mの円墳である。珠文鏡は面径4.0 cm、分類は不明である。

154 奈良県宇陀市篠楽向山古墳

篠楽向山古墳は径15 mの円墳である。珠文鏡は面径6.6 cmである。分類は不明である。

155 三重県横山14号墳

横山14号墳は径12 mの円墳であり、木棺からは珠文鏡1・勾玉・棗玉・管玉・ガラス小玉・蕨手刀子・鉄刀子・鉄刀が出土している。時期は中期である。珠文鏡は面径9.5 cmである。文様は不鮮明であり、分類できない。

156 三重県上野市高猿1号墳

高猿1号墳は大山田盆地の東南部近くで、服部川支流の中野川が盆地で流れ

る谷筋の斜面に位置する。古代の道路が通る交通の要衝である。中期後半以降、計15基の円墳と方墳が築造され高猿古墳群がある。1号墳は径21mの円墳であり、出土遺物は玉類・須恵器・仿製半円方形帯神獸鏡1(14.7cm)・鼉龍鏡1(11.8cm)が出土している。時期は不明である。

珠文鏡は面径8.3cm、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線—珠文2列—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA—B類である。

157 三重県松坂市大塚山古墳(第50図5)

大塚山古墳は標高2m前後の低地であり、3基の佐久米古墳群である。大塚山古墳は墳長45mの前方後円墳もしくは造り出し付円墳と考えられている。工事の際に出土しているため、内部構造については不明である。珠文鏡1・硬玉勾玉・滑石勾玉・直刀・鉄槍・鉄鏃・鉄地金銅張小札板鉄鉾留眉庇付冑・短甲がある。時期は中Ⅱ期～中Ⅳ期である。珠文鏡以外に変形四獸鏡1(12.8cm)・変形獸帯鏡1(10.5cm)が出土している。

珠文鏡は面径6.5cmの珠文鏡である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文1列、外区は二重の鋸歯文帯である。分類はA2—D類である。

158 (伝) 三重県度会郡大紀町大紀町錦

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は面径7.3cmであり、文様は鈕から外に向かって、1圏線—珠文3列、外区は複線波文帯—鋸歯文帯である。分類はAC—D類である。

159 三重県志摩郡阿児町志島11号墳(おじよか古墳)

志島11号墳は漁村集落の中にあり、志摩地域の初期横穴式石室である。11号墳は志島古墳群の一面に位置しており、志島古墳群はもとは13基以上からなつたといわれている。現在は4基のみである。石室は板状の割り石を積み上げた玄室である。床全面に砂利が10cmほど敷かれ奥壁には朱彩がみとめられる。円墳と推定されている。横穴式石室内から珠文鏡1・勾玉4・管玉17・白玉19・丸玉31・小玉655・櫛7・短甲1・鉄鎌2・鉄斧5・鉄刀子1・鉄鉾1・鉄槍2・鉄劍4・直刀12・鉄鏃多数・埴製枕出土している。時期は後Ⅰ期である。珠文鏡以外に方格規矩鏡1が出土している。

珠文鏡の面径は12.8cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文3列—無文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA—D類である。

160 滋賀県守山市金森西遺跡(第81図①)

金森西遺跡は集落からの出土であり、時期は不明である。珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は緑色を呈する。面径は5.4 cm、重量21 g、縁厚0.18～0.19 cm、鈕径1.1 cm、鈕高0.6 cm、鈕孔0.2 cm、鈕高0.2 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2－珠文1列－圏線1－櫛歯文帯となる。分類はD－B類である。

161 滋賀県犬上郡多賀町木曾遺跡

木曾遺跡は集落遺跡であり、竪穴住居より珠文鏡1・砥石・土師器が出土している。時期は前IV期である。

珠文鏡は、約3分の2が欠損する。面径5.4 cmであり、文様は鈕から外に向かって、2圏線－珠文1列－櫛歯文帯である。分類はD－B類である。鈕孔形態は方形である。

162 福井県遠敷郡上中町向山1号墳

向山1号墳は墳長48.6 mの前方後円墳であり、横穴式石室内より垂飾付耳飾・金銅製三輪玉・仿製内行花文鏡1・珠文鏡1・三角板皮綴式短甲・鉄刀・鉄剣・鉄銚・鉄槍・瑪瑙製勾玉・碧玉製勾玉・管玉・棗玉・ガラス小玉・盾隅金具・鉄鏃・竪櫛が出土している。時期は中II期～中IV期である。

珠文鏡は面径9.2 cmであり、文様は鈕から外に向かって、珠文2列、外区は鋸歯文帯2列である。分類はA2－D類の可能性はある。

163 福井県敦賀市金ヶ崎古墳

金ヶ崎古墳は径19 mの円墳であり、竪穴式石室内から珠文鏡1・鉄刀・鉄塊・銀板が出土している。時期は中II期～中IV期である。

珠文鏡は面径7.8 cmで、文様構成は鈕から外に向かって、珠文3列－櫛歯文帯、外区は複線波文帯－鋸歯文帯である。分類はAC－B類である。

164 福井県今立郡今立町戸板山6号墳（第82図②）

戸板山6号墳は辺長9 mの方墳である。珠文鏡1は墳丘盛土中より出土している。時期は前III期～前IV期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡1は全体的に腐食が著しく、縁の一部に欠損がある。面径8.1 cm、縁幅1.3 cm、鈕幅1.6 cm、鈕高0.8 cm、鈕孔幅0.5 cm、鈕孔高0.3 cm、珠文径0.2 cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2－珠文2－圏線1－櫛歯文帯となる。分類はD－B類である。

165 福井県坂井郡三国町観音洞穴

観音洞穴は墓であり、詳細は不明である。珠文鏡1・貝輪・鹿角釣針・鹿角ヤス・管玉・土師器が出土している。珠文鏡は面径7.3 cmである。報告されておらず、文様の詳細は不明である。

166 石川県能美郡寺井町和田山5号墳B号棺

和田山5号墳は墳長63 mの前方後円墳である。B号棺の粘土槨より珠文鏡1・櫛・鉄刀子・鉄鋤先・鉄斧・鉄槍・鉄刀・鉄剣・鉄鏃・三輪玉・眉庇付冑・短甲・肩甲・甲が出土している。時期は中Ⅳ期である。珠文鏡以外に、乳文鏡(7.6 cm) 1、変形文鏡(8.5 cm) 1が出土している。珠文鏡は8.4 cmである。文様は不明瞭であり分類できない。珠文3列と思われる。

167 石川県能美郡辰口町西山3号墳

西山3号墳からの出土であり、木棺直葬である。珠文鏡1・櫛・鉄剣・鉄刀・鉄鏃・眉庇付冑・頸甲・肩甲・横矧板鋌留式が出土している。時期は中期である。珠文鏡は面径9.0 cm、珠文3列と報告されているが、詳細や分類は不明である。

168 石川県金沢市下安原遺跡(第53図6・第82図③)

下安原遺跡は砂丘の後背地に位置する複合遺跡である。珠文鏡は、古墳時代の集落の溝より出土している。この集落は、布留式土器が定着する前に廃絶しており、珠文鏡もこの段階のものと考えられている。時期は前Ⅱ期～前Ⅲ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡の銅質は良好で、黄褐色を呈している。面径7.7～7.8 cm、重量75 g、縁厚0.15～0.2 cm、縁幅1.15 cm、鈕幅1.5 cm、鈕高0.8 cm、鈕孔幅0.3 cm、鈕孔高0.3 cm、珠文径0.25 cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって圏線2－珠文1列－圏線1－複合鋸歯文帯となる。複合鋸歯文は外側の鋸歯文の右から左下に向かって細線が施されており、1区画のものは細線が逆方向に施されている。分類はD－A3類である。

169 石川県七尾市高井5号墳

高井5号墳は辺長6 mの方墳である。土壙内より、珠文鏡1・石製紡錘車・不明鉄器が出土している。時期は中Ⅳ期である。珠文鏡は頭部から出土している。

珠文鏡は面径7.0 cm、文様は鈕から外に向かって、圏線1－珠文3列－突線

鋸歯文帯、外区は櫛歯文帯である。分類はB—A類である。

170 岐阜県岐阜市明音寺2号墳

明音寺2号墳遺跡は12mの古墳からの出土であり、珠文鏡1のほかには玉類が出土している。時期は後期である。面径は6.3cmである。珠文鏡は図面などが報告されておらず、分類していない。

171 岐阜県加茂郡坂町前山古墳

前山古墳は径20mの円墳である。粘土槨内から仿製鏡4・管玉が出土している。珠文鏡2のほかには、捩文鏡(11.7cm)1、四獣形鏡(9.3cm)1が共存している。

珠文鏡の面径は7.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線—珠文1—1圏線—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA—B類である。

172 岐阜県加茂郡坂町前山古墳

前山古墳は径20mの円墳であり、粘土槨内から仿製鏡4・管玉が出土している。珠文鏡2以外には、捩文鏡(11.7cm)1、四獣形鏡(9.3cm)1が出土している。

珠文鏡の面径は7.8cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線—櫛歯文帯—2圏線—圏帯—櫛歯文帯である。分類はD—B類である、珠文2である。

173 (伝) 岐阜県海津郡南濃町城山

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は面径7.8cmである。図面等は報告されておらず、詳細は不明である。

174 岐阜県可児郡御高町

遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は面径6.8cmである。図面等は報告されておらず、詳細は不明である。

175 (伝) 愛知県西春日井郡味鏡神社

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡1・四獣鏡(16.1cm)・四獣鏡(11.5cm)・捩文鏡(6.5cm)・琴字形石製品・鉄銚・須恵器である。

珠文鏡は面径5.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線—珠文1列であるが、その周囲の文様は不鮮明であり確認できない。分類は不明である。

176 愛知県幡豆郡吉良町岩谷1号墳

岩谷1号墳は径14mの円墳であり、横穴式石室からの珠文鏡1・耳環・鉄刀・鉄鏃・須恵器が出土している。時期は後期である。珠文鏡の図面等は報告されておらず、詳細不明である。

177 愛知県岡崎市亀山2号墳

亀山2号墳は横穴式石室であり、珠文鏡1・画文帯神獣鏡1(20.9cm)・刀子1・鉄刀1・轡金具・砥石1・土師器・須恵器が出土している。時期は後Ⅲ期である。

珠文鏡は面径7.7cmで、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線―珠文3列―櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA―B類である。

178 愛知県豊橋市弁天塚古墳

弁天塚古墳は円墳であり、横穴式石室より珠文鏡1・鉄刀・鉄槍・鉄鏃・轡・丸玉・小玉・須恵器が出土している。時期は後Ⅱ期～後Ⅲ期である。

珠文鏡は面径8.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線―珠文3列―櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA―B類である。

179 静岡県浜松市豊学校内古墳群1号墳

豊学校内古墳群1号墳出土であるが、詳細は不明である。珠文鏡の詳細も不明である。

180 静岡県磐田市大道西C5号墳

大道西C5号墳は径20mの円墳であり、木棺直葬と考えられ、珠文鏡1・装身具・鉄製武器・鉄製工具が出土している。時期は中期である。

珠文鏡は面径6.7cm、文様構成は鈕から外に向かって、珠文1列―複線波文帯となり、外区は鋸歯文帯である。分類はAC―D類である。

181 静岡県小笠郡小笠町玉体3号横穴

玉体3号横穴からの出土である。須恵器・馬具が出土している。時期は判断できない。

珠文鏡は面径10.0cmである。図面等が報告されていないため、詳細は不明である。

182 静岡県天竜市

当遺跡は古墳からの出土と報告されているが、詳細は不明である。

珠文鏡は面径7.0cmである。文様構成は櫛歯文帯、鋸歯文帯が配置されると報告されている。分類はA―B類である。

183 (伝) 静岡県白岩寺

当遺跡の詳細は不明であり、珠文鏡が出土したと報告されている。

184 静岡県藤枝市白砂ヶ谷遺跡E地区1号墳（第86図②）

白砂ヶ谷遺跡には丘陵上に32基の古墳群が確認されている。比較的広い尾根上の平坦部を成したE地区では2基の大型古墳を除いて小規模石室をもつ終末期のものが密集しており、古墳群の構成を捉える上で貴重なものである。E地区1号墳の石室内は攪乱を受けていたが、珠文鏡をもつなど、中心的な古墳である。時期は後IV期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。鏡は全体的に文様が不鮮明である。面径約7.3 cm、縁厚0.21 cm、鈕幅1.5 cm、鈕高0.7 cm、鈕孔幅0.5 cm、鈕孔高0.3 cmである。文様は鈕から外に向かって、珠文2列－1圏線が確認できるのみであり、分類はできない。

185 静岡県藤枝市岩田山21号墳

岩田山21号墳は円墳であり、木棺より珠文鏡1・勾玉・滑石白玉・黒漆塗竹櫛・鉄針・鉄釧・鉄刀子・鉄剣が出土している。時期は中III期～中IV期である。

面径は不明である。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文2列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA－B類である。

186 静岡県藤枝市若王子31号墳（第83図①）

若王子古墳群は瀬戸川を挟んだ平野を見下ろす丘陵上に位置し、小円墳が群集している。31号墳は辺長10 mの方墳である。割竹形木棺の中から鉄鉞・柳葉形銅鏃が出土している。時期は前IV期～前V期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は全体的に腐食が著しく、縁の一部に欠損がある。面径7.8～7.9 cm、現重量55 g、縁幅1.2 cm、鈕幅1.72 cm、鈕高0.8 cm、鈕孔幅0.3 cm、鈕孔高0.3 cm、珠文径0.12 cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線2－珠文2－圏線1－櫛歯文帯となる。分類はD－B類である。

187 静岡県藤枝市南新星A1号墳

南新星A1号墳は径25 mの円墳であり、粘土槨内より珠文鏡1・大刀・玉類が出土している。時期は後III期～後IV期である。珠文鏡の詳細は不明である。

188 静岡県藤枝市女池ヶ谷古墳群25号墳（第51図3・第83図②）

女池ヶ谷古墳群25号墳は径6.6×7.7 mの円墳である。木棺内から瑠璃製勾玉・碧玉製管玉・ガラス丸玉・ガラス小玉が出土している。時期は中I期～

中Ⅱ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は鏡面全体が緑錆に覆われており、赤色顔料が付着する。面径 7.8 cm、重量 33 g、縁厚 0.31 ~ 0.38 cm、縁幅 0.8 cm、鈕幅 1.4 cm、鈕高 0.8 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.3 cm、珠文径 0.15 cm 程度、鈕孔形態は方形である。文様構成は、鈕から外に向かって圏線 1 - 珠文 2 - 櫛歯文帯 - 3 重の複線波文、外区は鋸歯文帯となる。分類は A C - B 類である。

189 静岡県静岡市佐渡山古墳群 2 号墳

佐渡山古墳群 2 号墳は辺長 32 m の方墳である。横穴式石室から大刀・鉄刀子・鉄鏃・鳩目鋌状金具・鏝・辻金具・轡引手金具・金環・須恵器・土師器が出土している。時期は後Ⅱ期である。

珠文鏡は面径 7.0 cm、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列 - 櫛歯文帯となり、外区は鋸歯文帯である。分類は A - B 類である。

190 静岡県静岡市川合遺跡 2 号墓 (第 83 図③)

川合遺跡の 2 号墓から珠文鏡 1・白玉・ガラス小玉・管玉・勾玉が出土している。墳丘は削平を受けており、規模は不明である。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈し、鋳上がりは悪い。全体的に割れがみられる。面径は 5.5 cm、縁幅 0.15 cm、鈕幅 1.1 cm、鈕高 0.6 cm、鈕孔幅 0.2 cm、鈕孔高 0.2 cm、珠文径 0.15 cm である。文様構成は、鈕から外に向かって、圏線 2 - 珠文 1 列 - 圏線 1 - 櫛歯文帯である。分類は D - B 類である。

191 静岡県静岡市三滝ヶ谷古墳群 2 号墳

三滝ヶ谷古墳群 2 号墳は円墳であり、横穴式石室より珠文鏡片 1・耳環・玉類・刀子・鉄鏃・須恵器・土師器が出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。珠文鏡の詳細は不明である。

192 静岡県富士市沖田遺跡第 133 次調査

沖田遺跡は愛鷹山南麓に広がる浮島ヶ原の西北部に位置する海拔 5 m 以下の低湿地である。地表下 4 m より準構造船を転用した棺が出土しており、珠文鏡 1・土師器・勾玉が出土している。時期は前期である。

珠文鏡は面径 6.4 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列 - 櫛歯文帯、外区には鋸歯文帯となる。分類は A - B 類である。

193 静岡県下田市洗田遺跡

洗田遺跡は伊豆半島の突端に近い丘陵上に位置した祭祀遺跡である。珠文鏡 1・素文鏡 1（4.3 cm）土製勾玉・滑石勾玉・滑石白玉・滑石管玉・滑石有孔円板・滑石剣形品・土師器・須恵器が出土している。時期は中Ⅱ期～後Ⅱ期である。

珠文鏡は面径 7.2 cm で、土師器の中に収められていた。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 2 列、外区は鋸歯文帯－複線波文帯－鋸歯文帯である。複合鋸歯文帯は櫛歯文帯に類似する文様も施されている。分類は A C A－D 類である。

194 静岡県賀茂郡河津町姫宮遺跡

姫宮遺跡は祭祀遺跡である。珠文鏡 1・石製模造品（有孔円板・鏡・剣 2・白玉 25・勾玉 1・刀子 1）・土師器が出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

珠文鏡は面径 6.0 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A－B 類である。

195 山梨県甲府市伊勢町遺跡

伊勢町遺跡は荒川などによって形成された沖積地微高地上に立地する。当遺跡は祭祀遺跡である。珠文鏡 1・石製模造品・土師器・須恵器・手捏ね土器が出土している。出土遺構は不明であるが、日常雑器を伴わないことから、祭祀遺跡と判断されている。祭祀遺跡の時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。

珠文鏡の面径は 7.0 cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2－珠文 1 列－圏線 1－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

196 山梨県笛吹市平林 2 号墳（第 84 図①）

平林 2 号墳は径 15 m の円墳である。横穴式石室からの出土遺物は珠文鏡 1・重圏文鏡 1・直刀・鞘尻・把頭・責金具・足金具・鉄鏃・甲冑、小札・轡・兵庫鎖・辻金具・鞍・鉸具・管玉・棗玉・勾玉・切子玉・トンボ玉・丸玉・小玉・金環・帯金具・飾金具・須恵器・土師器である。時期は後Ⅳ期以降である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は白銅色である。鏡背面に錆に覆われ文様は不鮮明である。面径 7.5 cm、重量 34 g、鈕幅 1.5 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.6 cm、鈕孔高 0.3 cm である。文様構成は圏線 1－珠文 2 列－圏線 1 が判断できるのみである。鈕孔は楕円形である。分類は D－D 類である。

197 山梨県甲府市桜井 B 号墳

当遺跡は径 15 m の円墳で、竪穴式石室から、珠文鏡 1・瑪瑙製勾玉 1 が出土している。時期は中 I 期～後 II 期である。

珠文鏡は面径 7.6 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 1 列－圏線 1－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A－B 類である。

198 長野県長野市宮の平 2 号墳

宮の平 2 号墳の詳細は不明である。珠文鏡は、面径 7.7 cm であり、約 4 分の 1 を欠損する。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列－斜行櫛歯文帯－無文帯－複線波文帯、外区は鋸歯文帯である。文様構成が複雑であるため、分類していない

199 長野県飯田市座光寺

遺跡の詳細は不明である。珠文鏡の詳細も不明である。

200 長野県飯田市殿垣外 4 号墳

殿垣外 4 号墳は円墳であり、珠文鏡 1・丸玉・鉄鉾が出土している。時期は後期である。

珠文鏡は面径 6.8 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 2 列、外区は鋸歯文帯となる。分類は不明である。

201 長野県飯田市神送塚古墳

神送塚古墳は円墳であり、横穴式石室より、珠文鏡 1・鉄鎌・鉄剣・鉄槍・鉄刀・鉄鉾・鉄鏃・馬具・短甲・須恵器・埴輪・六鈴鏡 1 が出土している。時期は中 IV 期である。

珠文鏡は面径 7.6 cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 2、外区は鋸歯文帯－複線波文帯－鋸歯文帯である。分類は A C A－D 類である。

202 長野県飯田市新井原 6 号墳

新井原 6 号墳は円墳であり、珠文鏡 1・鉄刀・鉄剣が出土している。時期は中期である。珠文鏡は面径 9.3 cm、不鮮明であり文様は珠文 1 列が確認できるのみである。

203 長野県下伊那郡高森町若宮 2 号墳

若宮 2 号墳は円墳であり横穴式石室より、紡錘車・石突・切羽・鈴・轡・土師器・須恵器が出土している。時期は後期である。珠文鏡は面径 8.4 cm である。不鮮明であり、珠文 1 列を確認できるのみである。

204 長野県更埴市大峡 2 号墳

大峡2号墳は径7mの円墳であり、竪穴式石室と思われる。管玉・刀子・鉄剣・鉄刀・須恵器が出土している。時期は中期である。珠文鏡の詳細は不明である。

205 (伝) 長野県長野市川柳将軍塚古墳

将軍塚古墳は標高480mの湯ノ入山頂先端に築かれており、眼下には集落と水田が広がっている。墳長93mの前方後円墳であり、出土遺物には勾玉・管玉・ガラス小玉・車輪石・鉄槍・銅鏃・金環・銀環がある。珠文鏡4・異帯字銘文鏡1・四獣鏡1・乳文鏡2・重圈文鏡1が出土している。出土状況は不明である。時期は前V期～前VI期である。珠文鏡は面径4.8cmで文様構成は鈕から外に向かって、1圈線―珠文1列―鋸歯文帯である。分類はA―D類である。

206 (伝) 長野県長野市川柳将軍塚古墳

将軍塚古墳は標高480mの湯ノ入山頂先端に築かれており、眼下には集落と水田が広がっている。墳長93mの前方後円墳であり、時期は前V期～前VI期である。

珠文鏡4面が出土しており、このうち1面の説明を行う。

珠文鏡は面径5.1cmで文様構成は鈕から外に向かって、1圈線―珠文1列―櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA―B類である。

207 (伝) 長野県長野市川柳将軍塚古墳

将軍塚古墳は標高480mの湯ノ入山頂先端に築かれており、眼下には集落と水田が広がっている。墳長93mの前方後円墳であり、時期は前V期～前VI期である。

珠文鏡4面が出土しており、このうち1面の説明を行う。

珠文鏡は面径5.1cmで文様構成は鈕から外に向かって、1圈線―珠文1列―櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA―B類である。

208 (伝) 長野県長野市川柳将軍塚古墳

将軍塚古墳は標高480mの湯ノ入山頂先端に築かれており、眼下には集落と水田が広がっている。墳長93mの前方後円墳であり、時期は前V期～前VI期である。

珠文鏡4面が出土しており、このうち1面の説明を行う。

珠文鏡は不明で、文様構成は鈕から外に向かって、1圈線―珠文1列―1圈線―櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA―B類である。

209 長野県長野市篠ノ井遺跡SM7016 (第84図②)

篠ノ井遺跡は弥生時代中期から古代にかけての複合遺跡である。珠文鏡は土壙墓より出土している。時期は前Ⅱ期～前Ⅳ期である。同遺跡の木棺墓からは獣形鏡1面、竪穴住居からは重圏文鏡1面が出土している。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は白銅質で铸上がりが良い。面径4.6cm、重量13g、縁幅0.6cm、鈕幅0.7cm、鈕高0.6cm、鈕孔幅0.2cm、鈕孔高0.1cm、珠文径0.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、圏線1—珠文1列—櫛歯文帯となる。分類はD—B類である。

210 長野県長野市岩屋堂洞窟古墳

岩屋堂洞窟古墳は径30mの円墳であり、竪穴式石室からの出土と思われる。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。珠文鏡は面径6.9cm、文様は鈕から外に向かって、圏線1—珠文1列—鋸歯文帯—無文帯—鋸歯文帯である。分類はA2—D類である。

211 長野県長野市平林

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は面径6.8cm、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線—珠文1列—櫛歯文帯、外区は複線波文帯—鋸歯文帯である。分類はAC—B類である。

212 長野県長野市川田条里遺跡（第84図③）

川田条里遺跡は集落遺跡であり、道路状遺構上面からの出土遺物は珠文鏡1・土師器である。時期は前Ⅵ期～前Ⅶ期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は暗緑色で、铸上がりが良い。珠文鏡は面径5.6cm、重量16g、縁幅0.4cm、鈕幅1.0cm、鈕高0.5cm、鈕孔幅0.3cm、鈕孔高0.3cm、珠文径約0.1cmである。文様構成は圏線2—珠文1—櫛歯文帯で、外区は鋸歯文帯となる。分類はA—B類である。鋸歯文帯の中に鋸歯文が1個が描かれていない部分がある。

213 長野県須坂市本郷大塚古墳

本郷大塚古墳は径14mの円墳であり、横穴式石室から勾玉・鉄刀子・鉄刀・圭頭大刀・鉄鏃・轡・鏡・三輪玉・須恵器が出土している。時期は不明である。

珠文鏡は面径8.1cm、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線—珠文3列—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA—B類である。

214 新潟県南魚沼郡六日町飯綱山10号墳東石室

飯綱山10号墳は径40mの円墳である。東に位置する竪穴式石室内より珠文

鏡 1・環鈴・鈴・勾玉・管玉・滑石製小玉・鉄剣・鉄銚・鉄刀・鉄鏃・短甲が出土している。時期は中期である。西石棺からは仿製方格規矩鏡 1 が出土している。

珠文鏡は、面径 6.1cm で、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1～2 列－擬銘帯－櫛歯文帯となる。擬銘文のある珠文鏡はこの一例だけである。

215 新潟県南魚沼町大和村下山 3 号墳

下山 3 号墳は径 10 m の円墳であり、珠文鏡 1・須恵器・直刀・鉄刀子・土師器が出土している。時期は中期である。

珠文鏡は面径 6.5 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 1 列－銘文帯－鋸歯文帯である。分類は A－B 類である。

216 新潟県新穂町蔵王遺跡

蔵王遺跡は佐渡国仲平野に広がる弥生時代から古墳時代の集落遺跡である。長方形の建物跡より、珠文鏡の破片 1・内行花文鏡 1・銅鏃が出土している。祭祀遺跡である。時期は前期である。

珠文鏡は 5 分の 1 が残存する。面径は不明である。文様構成は、珠文 1 列－櫛歯文帯、外区に鋸歯文帯が確認できるのみである。分類は A－B 類である。

217 神奈川県相模原市勝坂祭祀遺跡

勝坂祭祀遺跡は、相模川の支流である鳩川東岸に位置する。出土地は鳩川により開墾された相模川河岸段丘内の浅い谷の低地部である。上流約 100 m には湧き水地点があり、その脇には有鹿神社の石宮が存在する。遺物は管玉・白玉・小玉・子持勾玉・石製模造品（鏡・剣・刀子・勾玉・土師器が出土している⁽²⁾）。

珠文鏡は面径 3.5 cm であり、鼻鈕である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列となり、外区は単線の鋸歯文帯である。分類は A－D 類である。

218 神奈川県相模原市勝坂祭祀遺跡

勝坂祭祀遺跡は、相模川の支流である鳩川東岸に位置する。出土地は鳩川により開墾された相模川河岸段丘内の浅い谷の低地部である。上流約 100 m には湧水地点があり、その脇には有鹿神社の石宮が存在する。遺物は、管玉 1・白玉 3・小玉 48・子持勾玉・石製模造品（鏡 6・剣 12・刀子 1・勾玉 6）・土師器が出土している。

珠文鏡は面径 6.6 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－珠文 1 列－1 圏線－櫛歯文帯となり、外区は鋸歯文帯である。分類は A－B 類であ

る。

219 神奈川県川崎市白山古墳北粘土槨

白山古墳は丘陵上に位置する墳長 87 m の前方後円墳である。北粘土槨の割竹形木棺内からは、珠文鏡 1・捩文鏡 1・勾玉・管玉・丸玉などが出土している。また、前方部粘土槨からは、櫛歯文鏡が出土し、後円部の木炭槨より三角縁神獸鏡 1・内行花文鏡 1 などが出土している。時期は前Ⅵ期である。

珠文鏡は面径 7.5cm で、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－珠文 2 列－1 圏線－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

220 (伝) 神奈川県横須賀市

当遺跡の詳細は不明である。

221 神奈川県横須賀市鳥ヶ崎横穴群鳥ヶ崎横穴

鳥ヶ崎横穴は自然の洞窟を利用した横穴墓である。出土遺物として、勾玉・白玉・鹿角製刀子柄・鉄鏃・鉄刀などがある。珠文鏡は頭部から出土している。時期は後Ⅰ期～後Ⅱ期である。

珠文鏡は面径 3.8 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

222 千葉県市原市花前Ⅱ－Ⅰ遺跡

花前Ⅱ－Ⅰ遺跡は竪穴住居より珠文鏡 1 が出土した。時期は前Ⅲ期～前Ⅴ期である。出土遺物は管玉・土師器・須恵器である。

珠文鏡は面径 5.3cm で、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 1 列－櫛歯文帯となる。分類は D－B 類である。

223 千葉県市原市新皇塚古墳南槨

新皇塚古墳は村田川沿いの標高 20 m の台地端に位置する。古墳は墳長 60 m の前方後円墳であり、埋葬施設は 2 基の粘土槨で割竹形木棺である。南槨の粘土槨より珠文鏡 1・管玉・ガラス玉・生産用具・鉄製武器などが出土している。北槨からも小型内行花文鏡 1・石釧をはじめ様々な副葬品が出土している。両槨内より小形仿製鏡が出土した点が注目される。時期は前Ⅳ期～前Ⅶ期である。

珠文鏡は、面径 7.3cm で、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 1 列－櫛歯文帯となる。分類は D－B 類である。

224 千葉県市原市小田部新地 44 号墳

小田部新地 44 号墳は木棺直葬であり珠文鏡 1・ガラス玉・須恵器が出土し

ている。時期は後 I 期である。

珠文鏡は面径 7.1 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 - 珠文 2 列となり、外区は複線波文帯 - 外区は鋸歯文帯である。分類は A C - D 類である。

225 千葉県市原市草刈遺跡 L 区 98 号住居

草刈遺跡 L 区は集落跡であり、珠文鏡は住居跡からの出土である。時期は前 V 期～前 VI 期である。

珠文鏡は灰色を呈し、銅質は悪い。面径は 4.5 cm、重量 12 g、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2 - 珠文 1 列 - 圏線 1、外区は鋸歯文帯である。分類は A - D 類である。

226 千葉県市原市草刈遺跡 C 区 039 号住居

草刈遺跡 C 区は集落跡であり、住居からは珠文鏡 1・土師器が出土している。時期は前 IV 期～前 VI 期である。珠文鏡は破片であり、面径は不明である。珠文 3 列が確認できる。

227 千葉県市原市草刈遺跡 C 区 97 号住居 (第 85 図①)

草刈遺跡 C 区は集落遺跡であり、住居からは珠文鏡 1、土師器が出土している。時期は前 V 期～前 VI 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は 4 分の 3 程度の欠損があり、黒色を呈する。珠文鏡の内区には赤色顔料の付着がみられる。鋳上がりは良い。復元面径 6.8 cm、現重量 16 g である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2 - 珠文 2 列 - 櫛歯文帯となる。分類は D - B 類である。

228 千葉県市原市草刈遺跡 C 区 153 号住居 (第 84 図④)

草刈遺跡 C 区は台地上に位置する集落遺跡である。この住居からは土師器が出土している。C 区は竪穴住居跡 3 軒から、1 面ずつ珠文鏡が出土している。時期は前 V 期～前 VI 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は緑色を呈し、文様は不鮮明である。面径 6.4 cm、重量 24 g、鈕孔形態は楕円形である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 - 珠文 1 列 - 櫛歯文帯となり、外区は鋸歯文帯である。分類は A - B 類である。

229 千葉県木更津市請西・大山 31 号墳第 2 主体部

請西・大山 31 号墳は墳径 28 m の円墳である。第 2 主体部の木棺から珠文鏡 1・

銅鈴・大刀・鉄鏃・木箱片が出土している。時期は不明である。珠文鏡は面径 9.0 cm である。文様の詳細は不明である。

230 東京都世田谷区砧中学校 7 号墳

砧中学校古墳群は多摩川の支流の野川と仙川に挟まれた武蔵野台地縁部に位置する。7 号墳は墳長 65 m の前方後円墳であり、大刀・鉄鏃・鉄斧が出土している。周溝からは、壺形土器・鉢形土器・底部穿孔土器・台付鉢形土器が出土している。時期は前VI期～前VII期である。

珠文鏡の面径は 4.8cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 1 列－1 圏線－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A－B 類である。

231 東京都足立区伊興遺跡谷下地区（第 50 図 2・第 85 図②）

伊興遺跡は高台に位置する集落・祭祀遺跡である。珠文鏡はトレンチ下層より出土した。遺物は、土師器・須恵器・土錘・滑石製鉄製品・滑石製白玉がみられる。時期は前期から中期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は淡褐色を呈し、文様は不鮮明である。銅質は悪い。面径 5.6cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列－鋸歯文となる。分類は A－D 類である。本鏡の類例には宮崎県東二原地下式横穴墓群 2 号出土珠文鏡がある。

232 埼玉県坂戸市入西塚古墳

入西塚古墳は墳長 36～40 m の前方後円墳である。木棺内より珠文鏡 1・乳文鏡 1・鉄刀・鉄鏃・鉄剣・大形平根式鉄鏃・尖根式長頸鉄鏃・挂甲・衝角付冑・埴輪が出土している。面径 8.9cm の乳文鏡も 1 面出土している。時期は後 I 期である。

珠文鏡の面径は 7.8cm である。文様構成は珠文 2 列、突線鋸歯文帯－鋸歯文帯である。分類は A 2－B 類である。

233 埼玉県東松山市柏崎古墳群

柏崎古墳群は柏崎と古凍の台地縁辺部に位置し、前方後円墳 2 基・円墳 7 基・方墳 1 基が分布する。古墳群の時期は後期である。古墳群から珠文鏡 1・硬玉製勾玉・瑪瑙製勾玉・碧玉製管玉・ガラス小玉が採集されている。

珠文鏡は面径 6.1 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 円圏－珠文 2 列－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

234 埼玉県児玉郡神川町前組羽根倉第 2 号方形周溝墓

前組羽根倉遺跡は神流川の扇状地と外秩父丘陵の末端丘陵部に位置する。2

号方形周溝墓は、辺長 7.9 m の方墳であり、溝から珠文鏡 1・碧玉製管玉が出土している。時期は中 I 期～中 II 期である。

珠文鏡は面径 6.1 cm であり、文様は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文 1 列－櫛歯文帯である。分類は D－B 類である。

235 埼玉県川越市下小坂 3 号墳（第 53 図 4・第 85 図③）

小坂 3 号墳は径 24 × 30.5 m の円墳である。粘土槨内から、碧玉製管玉・直刀・楕円形鏡板付轡・辻金具・鉸具が出土している。時期は後 I 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は黒色を呈し、鏡背面の文様部分に赤色顔料がみられる。面径は 7.4 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 2－珠文 3 列－2 重の櫛歯文帯である。珠文をまばらに 3 重に施す。鈕孔形態は方形である。分類は D－B 2 類である。

236 埼玉県和光市午王山遺跡

午王山遺跡の採集品であり、時期は判断できない。珠文鏡は面径 5.9 cm 珠文は 1 列である。分類は不明である。

237 群馬県甘楽郡甘楽町大山鬼塚古墳

大山鬼塚古墳の船形石棺内から珠文鏡 1・三環鈴・管玉・小玉・白玉・鉄刀・轡・鈴杏葉・砥石・石製模造品（鏡・刀子・斧）が出土している。時期は後 II 期である。

珠文鏡の文様は不明瞭であり確認できない。面径は 7.6 cm、珠文 2 列である。分類は不明である。

238 群馬県甘楽郡甘楽町天引向原遺跡 20 号住居（第 85 図④）

天引向原遺跡は河岸段丘上に位置し、径約 6 m の竪穴住居跡から珠文鏡 1・ガラス玉・土師器が出土している。時期は前 V 期～前 VI 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は緑色を呈し、内区に赤色顔料が施されている。面径 5.8 cm、重量 19 g、縁幅 0.17 cm、鈕幅 0.9 cm、鈕高 0.5 cm、鈕孔幅 0.15 cm、鈕孔高 0.15 cm、珠文径 0.1 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－珠文 1 列－圏線 1－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯となる。分類は A－B 類である。

239 群馬県甘楽郡妙義町下高田

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡・勾玉・管玉・白玉が採集されている。珠文鏡は面径 7.2 cm である。文様は不鮮明あり、珠文 2 列が確認できるのみで

あり、分類は不明である。

240 群馬県吾妻郡吾妻町大宮巖鼓神社

大宮巖鼓遺跡で珠文鏡が採集されている。面径 6.6 cm である。珠文鏡は 3 列と思われる。

241 群馬県群馬郡箕郷町西谷出土（第 52 図 2）

古墳からの出土と伝えられている。遺物は碧玉勾玉・玉髓勾玉・棗玉・ガラス小玉・鉄刀・馬具・杏葉・鈴・土師器が出土している。時期は後 I 期ある。

珠文鏡の面径は 8.6 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 3 列一櫛歯文一複線波文、外区は櫛歯文帯である。分類は BC-B 類である。

242 群馬県高崎市宮出土

珠文鏡は採集品であり時期は不明である。珠文鏡の面径は 7.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2～3 列一複線波文、外区は鋸歯文帯である。分類は AC-D 類である。

243 群馬県前橋市前二子古墳

前二子古墳は墳長 92 m の前方後円墳であり、横穴式石室から珠文鏡・ガラス小玉・金環・鉄銚・鉄鏃・鏡板・鉄轡・鉄鐙・杏葉・須恵器が出土している。時期は後 II 期である。珠文鏡は面径不明である。文様は不鮮明であり、珠文 1 列のみを確認できる。

244 群馬県伊勢崎市華蔵寺古墳

当遺跡は円墳であり、横穴式石室から珠文鏡 1・ガラス勾玉・小玉・碧玉管玉・硬玉切子玉・棗玉・砥石・辻金具・土器が出土している。時期は後 I 期～後 II 期である。

珠文鏡は面径 9.0 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 4 列以上、外区は複線波文帯び一櫛歯文帯である。分類は BC-D 類である。

245 群馬県佐波郡赤堀町南原古墳

南原古墳から、珠文鏡 1・土師器が出土している。時期は不明である。珠文鏡は面径 5.7 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線一珠文 1 列一櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A-B 類である。

246 栃木県小山市水神塚古墳

水神塚古墳は円墳であり、珠文鏡・耳環・勾玉・鉄鏃・金具が出土している。時期は後期である。珠文鏡の面径は 8.4 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、

珠文3列－櫛歯文帯、外区は、複線波文帯－櫛歯文帯である。分類はAC－B類である。

247 栃木県矢板市幸岡古墳群

幸岡古墳群中から珠文鏡1・直刀が出土している。前方後円墳からの出土と報告されている。時期は不明である。

珠文鏡は面径8.0cmで、圏線1－珠文2列、外区は鋸歯文帯－櫛歯文帯－鋸歯文帯である。雑然とした珠文を二重に施している。内側の鋸歯文帯にはフリーハンドで圏線状の文様が描かれている。1面のため分類は行っていない。

248 栃木県真岡市稻荷山古墳（第51図2）

稻荷山古墳は径17.8mの円墳である。組合式箱式石棺から珠文鏡1・鉄剣が出土している。時期は中期である。

珠文鏡は面径8.4cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文3列となり、外区は鋸歯文帯－複線波文帯－鋸歯文帯である。分類はACA－D類である。

249 栃木県宇都宮市磯岡北3号墳（第49図1）

磯岡北3号墳は径21mの円墳であり、須恵器・土師器・鉄刀・鉄鏃・珠文鏡・ガラス小玉・琥珀片・水晶片が出土している。時期は中IV期～後I期である。珠文鏡の面径は7.3cm、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文1列－複合鋸歯文帯となり、外区は鋸歯文帯である。分類はA－A3類である。

250 栃木県宇都宮市中島笹塚2号墳

中島笹塚2号墳は径24.2×24.8mの円墳であり、土師器・須恵器・珠文鏡1・鉄剣・棒状鉄製品・板状鉄製品・管玉・白玉・ガラス小玉・ガラス丸玉・土製丸玉が出土している。時期は後I期である。珠文鏡は面径6.0cmで文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文1列－1圏線－無文帯となり、外区は鋸歯文帯である。分類はA－D類である。

251 栃木県下都賀郡壬生町塚越1号墳

当遺跡は辺長20mの方墳であり、時期は不明である。珠文鏡の破片が出土している。復元面径8.0cmであり、文様構成は珠文1列－櫛歯文帯となり、外区は鋸歯文帯が確認できるのみである。分類はA－B類である。

252 茨城県東茨城郡中原町論田塚古墳群

当遺跡は円墳であり、箱式石棺から珠文鏡1・直刀・鉄鏃・石枕が出土して

いる。時期は中期である。珠文鏡は面径 8.7 cm である。文様は不明である。

253 茨城県ひたちなか市磯崎東 2 号墳 1 号石室 (第 49 図 6・第 86 図①)

磯崎東古墳群は鹿島灘を眺望できる台地上に位置する 52 基の古墳群である。2 号墳は径 20 m の円墳である。箱式石棺内の出土遺物は、珠文鏡 1・大刀・鉄鏃である。時期は後 I 期である。

珠文鏡の実見・観察を行った。珠文鏡は緑錆に覆われ、文様は不明瞭である。面径 7.3 cm、重量 43 g、縁幅 0.8 cm、鈕幅 1.5 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.25 cm、珠文径 0.1～0.2 cm である。

文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1—珠文 2～3 列—櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯となる。内区には、3 重の珠文を雑然と施している。分類は A—B 類である。

254 茨城県北茨城市尾形山横穴群

珠文鏡は尾形山横穴群中の出土であるが、横穴の特定はできない。時期は後 III 期である。

珠文鏡は、面径 8.6 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線—珠文 3 列—櫛歯文帯、外区は複合鋸歯文帯—鋸歯文帯である。分類は AC—B 類である。

255 福島県白河市建鉾山祭祀遺跡

当遺跡は祭祀遺跡であり、珠文鏡 1 以外に鉄鉾・鉄剣・鉄刀・石製模造品（鏡・釧・斧・鎌・刀子・剣・有孔円板・勾玉・白玉）・土師器が出土している。時期は中 III 期～中 IV 期である。珠文鏡は包含層からの出土である。

珠文鏡は展示にての観察ではあるが、全体的に鋳上がりが悪く、珠文帯が不鮮明な部分がみられる。面径 4.6 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列—櫛歯文帯である。分類は D—B 類である。珠文は乱雑に配される。

256 福島県いわき市中田 1 号横穴

中田 1 号横穴は、岩を削りぬいた横穴より珠文鏡 1・金銅製飾板・瑪瑙製勾玉・硬玉製勾玉・碧玉製勾玉・水晶製勾玉・碧玉製管玉・琥珀製棗玉・ガラス製丸玉・ガラス製小玉・青銅製釧・耳環・鉄製円頭把頭・金銅製鞘尾金具・鉾身・石突・鉄製鉾身・平根式鉄鏃・刀身形鉄鏃・剣形鉄鏃・刀子・馬具・土師器・須恵器・砥石・青銅製容器が出土している。時期は後 III 期である。珠文鏡は面径 6.4 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 1 列、外区は鋸歯文帯となる。

分類はA-D類である。

257 (伝) 福島県河沼郡会津坂下町出土

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は採集されており、時期は不明である。珠文鏡は面径 8.5 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、珠文 3 列- 櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A-B 類である。

258 福島県喜多方市山崎横穴群横穴

当遺跡は横穴であり、装身具・武器・馬具・須恵器が出土している。時期は後IV期である。珠文鏡の詳細は不明である。

259 福島県伊達郡保原町土橋古墳

土橋古墳の墳丘規模は不明である。石室から装身具・武器・馬具・須恵器が出土している。時期は後期である。珠文鏡は面径 7.3 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線- 珠文 3 列- 1 圏線- 櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類は A-B 類である。

260 福島県原町市上渋佐支群 7 号墳 (第 53 図 2)

上渋佐支群 7 号墳は新田川下流の河岸段丘に沿って展開する桜井古墳群中の一基である。辺長 26 m の方墳であり、木棺内より珠文鏡 1・鉄鉈・土師器が出土している。時期は前IV期～前VII期である。珠文鏡は面径 8.7 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線- 珠文 1 列- 1 圏線- 珠文 1 列- 2 圏線- 櫛歯文である。分類は D-B 類である。

261 福島県相馬市表西山横穴群 30 号墓

表西山横穴群 30 号墓は横穴墓であり、珠文鏡 1・勾玉・ガラス玉・硬玉・馬鈴・須恵器・土師器が出土している。時期は後期である。珠文鏡の詳細は不明である。

262 宮城県桃生郡河北町新田東遺跡

新田東遺跡は集落遺跡であり、住居跡から珠文鏡 1・陶質土器・須恵器・大刀・鉄刀子・鉄鏃・轡・鉄鎌・金具・鉄釘が出土している。時期は 8 世紀である。珠文鏡の面径は 7.0 cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1- 珠文 1 列- 圏線 1- 櫛歯文帯となり、外区は鋸歯文帯である。分類は A-B 類である。

263 大韓民国造山古墳韓国全羅南道造山古墳

造山古墳は径 17 m の円墳である。横口式石室であり、百濟土器・鉄地金銅貼劍菱形杏葉・鉄地金銅張 S 字形鏡板付轡・鉄製輪鐙・銅鈴・環頭太刀・鉄鉾・

鉄鏃・鉄斧・勾玉・管玉・切小玉・小玉が出土している。時期は、後Ⅰ期～後Ⅱ期に相当する。珠文鏡は面径7.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、珠文1－複線波文帯、外区は鋸歯文帯となる。複線波文の間には珠文を配する。分類はAC－D亜種である。

264 大韓民国全羅南道潭陽郡齋月里古墳

齋月里古墳は石室墓であり、百濟土器・金銅製指輪・鉄刀・馬銜と鏡からなる鉄製馬具・鉄槍・勾玉・ガラス製小玉が出土している。時期は後Ⅰ期～後Ⅱ期に相当し、日本における珠文鏡よりも遅い時期のものである。変形六獣鏡1が出土している。珠文鏡は面径9.0cmで、文様構成は鈕から外に向かって、圏線1－珠文2列、外区は鋸歯文帯－鋸歯文帯である。分類はAC－D類である。

265 大韓民国全羅南道光州雙岩洞出土

当遺跡は古墳であり、時期は後Ⅰ期に相当する。珠文鏡は面径11.3cm、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文2～3列－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。分類はA－B類である。

266 (伝) 大韓民国慶尚北道慶山市慶山林堂 (第51図4)

当遺跡の詳細は不明である。珠文鏡は面径7.5cm、文様構成は鈕から外に向かって、珠文2列、櫛歯文帯、外区は複線波文帯－鋸歯文帯である。分類はAC－B類である。

267 大韓民国慶尚南道山清郡山清生草9号墳

山清生草9号墳は古墳であり、陶質土器・須恵器・大刀・小刀・鉄鏃・轡・鉄鎌・鉄釘・鉸具・棺釘が出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期に相当する。珠文鏡は面径9.0cm、文様構成は鈕から外に向かって、圏線1－珠文2列－櫛歯文帯、外区は複線波文帯－鋸歯文帯である。分類はAC－B類である。

268 韓国慶尚北道慶州市慶尚北道慶州金鈴塚古墳

金鈴塚古墳は慶州に位置する径13×18mの積石木槨墳であり、木槨墓から黄金製冠・白樺皮製冠帽鏢・白樺皮製冠帽・金銅製冠帽飾・玉飾・各種玉(勾玉・管玉・丸玉・琥珀玉・蜻蛉玉)・瑪瑙玉類・嵌珠金製飾玉・金製嵌珠鈴及び鋒形飾付垂飾・金帽勾玉及び心葉形垂飾付耳飾・金製心葉形垂飾付太環耳飾・銀製心葉形垂飾付金製太環耳飾・金製太環耳飾・金製総状垂飾付耳飾・金環・金銅耳飾様太環・嵌珠飾金鈴・心葉形飾金製垂飾・嵌珠飾金釧・銀釧・嵌珠飾金指輪・銀指輪・金製鈎帶・銀製鈎帶・金銅製心葉形飾環・金製腰佩類・

銀製腰佩鎖・金銅飾履・木櫛・金製小鼓形品・金銅飾様品・珠文鏡・硬質土器・土師器・金銅容器・漆器・ガラス椀・太刀・銀装木刀・刀子・鉄族・鉄槍・石突・鉄鋏・銀針・鉄針数片・馬具が出土している。時期は後Ⅰ期～後Ⅱ期である。

珠文鏡は面径 7.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1 - 珠文 2 列となり、外区は複合鋸歯文帯 - 鋸歯文帯である。分類は A C - D 類である。

269 出土地不明

明治大学所蔵鏡である。珠文鏡は面径 9.1 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線 - 珠文 2 列 - 櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯 - 鋸歯文帯である。分類は A 2 - B 類である。

270 出土地不明

泉屋博古館所蔵鏡である。珠文鏡は面径 5.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文 2 列 - 鋸歯文帯となる。鋸歯文が細く描かれている点に特徴がある。分類は D - A 類である。六野原地下式横穴 2 号例と同範鏡と考えられる。

(3) 分類ごとの出土遺跡とその年代観 (第 11 表)

次に分類の特徴、内区分類との関係および出土遺跡の年代を述べる。珠文鏡は現状で 270 面あり、このうち外区文様が明らかなものは 199 面である。内区について述べる際には珠文の列数が明らかなものを対象としている。また、内区は、珠文の周囲に圏線を配するものから、圏線を配さないものへと変化することを確認しており、複線波文を配する珠文鏡の段階ではほぼ確認できなくなる。珠文の周囲に配される圏線の有無も編年の指標になると思われるが、今回は検討項目に入れていない。

A - A 3 類 2 面と非常に少ない。佐賀県関行丸古墳第 3 主体例 (第 49 図 2)、栃木県磯岡北 3 号墳例 (第 49 図 1) がある。内区外周の複合鋸歯文は整然としていない。面径は 8.8 cm と 7.3 cm であり、やや大きな珠文鏡といえる。

珠文 1 は 1 面。中Ⅳ期～後Ⅰ期である。

珠文 3 は 1 面。後Ⅰ期である。

A - B 類 計 64 面あり、珠文鏡の中では二番目に多い種類である。平縁と斜縁に近いものがあり、面径は 3.8 cm の非常に小型のものから 11.3 cm のものである。出土地域は南は宮崎県、北は宮城県である。代表的な遺跡を述べる。

宮崎県西都原110号墳例⁽²⁾、熊本県竹ノ上石棺例、福岡県立山山25号墳例、佐賀県金谷古墳例、愛媛県円満寺古墳例（第49図3）、香川県快天山古墳例、徳島県谷口山上古墳例、広島県今岡古墳例（第49図4）、岡山県光坊寺1号墳例（第49図5）、島根県山地古墳例、鳥取県新山山田7号墳例、兵庫県御旅山13号墳例、京都府谷垣18号墳例、大阪府梶原1号墳例、奈良県新沢109号墳例、三重県高猿1号墳例、岐阜県前山古墳例、愛知県亀山2号墳例、静岡県姫宮遺跡例、長野県石川条里遺跡例、新潟県蔵王遺跡例、神奈川県勝坂祭祀遺跡例、東京都砧中学校7号墳例、群馬県天引向原遺跡例、茨城県磯崎東2号墳例（第49図6）、福島県土橋古墳例、韓国全羅南道光州雙岩洞出土例がある。

珠文1は34面。表をみると、前V期以降から確認されており、この時期の出土が多い。

珠文2は15面。前V期より確認される。

珠文3は13面。中IV期より確認できる。珠文1・2よりも遅れて出現することが確認できた。

A-B-A3類 1面のみであり、福岡県三国の鼻2号墳例（第50図1）である。非常に珍しい文様構成で、複合鋸歯文は整然とする。平縁である。

珠文2は1面。前III期～前IV期である。

A-D類 計8面あり、内区と外区の段差は不鮮明となるものが多い。面径5.1cmから12.8cmである。宮崎県東二原地下式横穴2号例、福岡県名木野11号墳例、兵庫県三番町遺跡例、奈良県池ノ内5号墳例、三重県志島11号墳例、山梨県桜井B号墳例、神奈川県勝坂祭祀遺跡例、東京都伊興遺跡例（第50図2）がある。

珠文1は6面。中I期～中II期より確認される。

珠文2は1面。中I期より確認される。

珠文3は2面。後I期より確認される。

A-D類については、前期の遺構から出土する事例はない。中期になって出現する文様構成と判断する。

A2-B類 計4面あり、面径7.8cmから9.0cmと大きい。佐賀県旭町出土例（第50図4）、（伝）広島県三次市出土例、岡山県長谷古墳例（第50図3）、埼玉県入西石塚古墳例がある。

珠文1は1面。出土した遺構の時期の分かる資料はない。

珠文2は2面。後I期からみられる。

A2-D類 計3面あり、広島県三ツ城古墳例（第50図6）、三重県大塚山古墳例（第50図5）、長野県岩屋堂洞窟古墳例である。このうち三ツ城古墳例は斜縁で厚みがある。

珠文1は1面。中II期～中IV期のものがみられる。

珠文2は2面。中II期からみられる。

A3-B類 1面で、広島県宇那木山2号墳例（第51図1）である。平縁で、面径10.2cmと珠文鏡の中では大型である。文様は丁寧に描かれ、珠文は整然とする。

珠文3であり、前II期であり、珠文鏡のなかでも古いものになる。

AC-B類 計15面あり、珠文鏡ではやや出土量が多い。宮崎県五反畑遺跡B地区1号木棺例、長崎県赤崎遺跡2号石棺例、大分県有田古墳例、福岡県月岡古墳例、愛媛県土壇原5号墳例、徳島県恵解山9号墳例、鳥取県名土古墳例、兵庫県中佐治5号墳例、福井県金ヶ崎古墳例、静岡県女池ヶ谷25号墳例（第51図3）、（伝）長野県長野市平林出土例、栃木県水神塚古墳例、茨城県尾形山横穴群例、韓国慶尚南道山清生草9号墳例、（伝）韓国慶尚北道慶山林堂例がある。このうち複線波文を連続して描く女池ヶ谷古墳群25号墳例（第51図6）や、複線波文が連続しない（伝）慶山林堂出土例（第51図4）がある。縁の幅が狭いものと広いものがあり、斜縁が多いようである。

珠文1は1面。時期が判明する資料はない。

珠文2は7面。中I期～中II期より確認される。

珠文3は7面。中IV期より確認される

AC-D類 計11面あり、斜縁のものが多い。宮崎県西都原地下式横穴4号例、熊本県鞍掛塚古墳例、福岡県立山山23号墳例（第51図5）、福岡県乙植木3号墳例（第51図6）、兵庫県油利百塚古墳群例、兵庫県県鶏塚古墳例、静岡県大道西C号墳例、千葉県小田部新地44号墳例、（伝）群馬県若宮出土例、韓国慶尚北道慶州金鈴塚古墳例、韓国全羅南道潭陽齊月里古墳例がある。このうち、西都原地下式横穴4号例では複線波文は連続しておらず、線を一本ずつ刻む。珠文の断面は三角形という特徴をもち、乳が小型化したような形状となる。

珠文1は3面。確実な年代がわかるものは中II期である。

珠文2は6面。後I期より確認される。

珠文3は2面。後期である。

A C A - D 類 計4面あり、斜縁が多いようである。兵庫県戒壇寺遺跡例、静岡県洗田遺跡例、長野県神送塚古墳例、栃木県稲荷山古墳例(第51図2)がある。

珠文2は2面。中IV期より確認される。

珠文3は2面。中II期～後II期である。

B - A 類 計3面あり、福岡県小倉古墳例、兵庫県亀山古墳例(第52図1)、石川県高井5号墳例がある。そのうち高井5号墳例は鋸歯文帯部分が盛り上がり、捩文鏡などにみられる特徴を備えている。

珠文1は1面。後I期より確認される。

珠文3は2面。中IV期より確認される。

B C - B 類 1面確認でき、(伝)群馬県西谷出土例(第52図2)のみである。平縁である。

珠文3は1面。後I期である。

B C - D 類 計5面あり、斜縁が多いようである。福岡県沖ノ島7号遺跡例(第52図4)、島根県御崎山古墳例、島根県中村1号墳例、兵庫県文堂古墳例(第52図3)、群馬県華蔵寺古墳例がみられる。

珠文2は2面。後I期～後II期より確認される。

珠文3は3面。後I期～後II期より確認される。

D - A 3 類 計2面あり、ともに平縁である。広島県山の神3号墳例(第52図5)、石川県下安原遺跡例(第53図6)がある。複合鋸歯文は整然とする。

珠文1は2面。前II期～前III期より確認される。

D - B 類 計61面あり、代表的なものには、熊本県久保原石棺例、長崎県宮田古墳群1号石棺例、佐賀県中隈山5号例(第52図5)、福岡県鋤崎古墳例、香川県居石遺跡例、広島県山武士塚2号墳例、岡山県殿山10号墳例、島根県社日2号墳例(第52図6)、鳥取県六部山21号墳例(第53図3)、兵庫県藤江別所遺跡(第53図2)例2面、京都府馬場遺跡SX17643例、大阪府弁天山B四号墳例、奈良県長谷山古墳例、滋賀県金森西遺跡例、福井県戸板山6号墳例、岐阜県前山古墳例、静岡県若王子31号墳例、山梨県伊勢町遺跡例、長野県篠ノ井遺跡例、神奈川県鳥ヶ崎横穴群鳥ヶ崎横穴例、千葉県草刈遺跡例、埼玉県前組羽根倉2号墳例、福島県県上渋佐7号墳例(第53図1)である。珠文鏡の中で出土量が多い。平縁である。このうち鋤崎古墳例や関行丸古墳例

の珠文はやや大きい傾向がある。香川県野牛古墳例は櫛歯文帯の周囲に無文帯があり、文様構成から考えると出現は遅れる。

珠文1は36面。馬場遺跡例は前Ⅰ期である。次に年代の古いものは前Ⅲ期～前Ⅳ期より確認される。

珠文2は21面。前Ⅲ期～前Ⅳ期より確認される。確実な庄内式段階の資料はない。

珠文3は3面。前Ⅲ期～前Ⅳ期より確認される。

前Ⅲ期～前Ⅳ期には珠文一列、二列、三列のものすべてがみられるようになる。

D－B2類 計3面あり、島根県鷺ノ湯病院跡横穴例、鳥取県向山古墳群宮ノ峰支群13号墳例、埼玉県下小坂3号墳例（第53図4）がある。平縁であり、内区と外区は非常に不明瞭である。一重目と二重目の櫛歯文の大部分は同時に線を描く。

珠文2は1面。前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

珠文3は2面。後Ⅲ期がみられる。

D－D類 計3面あり、大阪府千手寺山遺跡例（第53図7）2面と山梨県平林2号墳例がある。千手寺山遺跡例の2面の文様配置は全く同じで、1面はもう1面に比べ文様が不鮮明であることから踏み返されたと考えられる。いずれも平縁である。

珠文1は2面。すべて前Ⅴ期～中Ⅰ期に収まる。

珠文2は1面。後Ⅳ期である。

（4）珠文鏡の変遷（第54図）

珠文鏡の変遷について述べると、最も古いものは現在のところ庄内式終末段階の京都府馬場遺跡例である（第61図・第62図）。しかし年代の決め手となる土師器の出土位置は周溝であり、珠文鏡が副葬された墓壙とは時期差のある可能性も指摘しておく。馬場遺跡例の外区は無文であり、内区外周に櫛歯文帯を配するものでD－B類である。その後、内区外周に複合鋸歯文帯をもつD－A3類が、それに続いて、外区に複合鋸歯文帯をもつA3－B類が出現したと考えられる。外区文様の中では複合鋸歯文が最も古いと判断できる。前Ⅱ期～前Ⅲ期になると、D－B類の無文の外区に鋸歯文帯が施されたA－B類が出現

する。内区については、前I期～前IV期には珠文1のものが最も多いが、前II期のA3-B類は珠文3であることを考慮すると、珠文2・珠文3も前期初頭から出現していると考えられる。珠文の大きさをみると1mm強の小さなものが多い。D-B類の鋤崎古墳例は珠文が大きく3.2～3.8mmもあり、中期の複合鋸歯文帯をもつ珠文鏡の珠文径に類似する。

中I期以降になると、外区に鋸歯文-複線波文を配する珠文鏡が出現する。これは森下が指摘するように斜縁神獸鏡や斜縁仿製鏡を模倣することによって出現したと思われる（森下1991・2002）。前I期には出現しているD-B類は面数が減少するものの依然として出土している。A-B類は前V期より確認されはじめ、前VI期に最も多くみとめられる。中I期～中IV期には、新たな文様が数多く出現する。A-D類、A2-D類、AC-B類、AC-D類、ACA-D類、B-A類、D-D類がみられる。内区については珠文2や珠文3のものが多くなる。中期以降の珠文の大きさをみると、大形化する傾向がみられる。具体的に述べると、A-D類の三ツ城古墳（第77図①）の珠文は約2mm、A-D類の伊興遺跡（第85図②）は2mm弱、AC-D類の西都原4号地下式横穴墓例（第72図③）は2mm弱、A-B類の磯崎東2号墳（第86図①）は2mm弱であり、前期の珠文よりも大きい。前期から引き続きみられる分類に関しては、珠文径の大小によって時期差を判断できる要素となる。

後I期以降に出現する文様は少ない。外区に鋸歯文帯を二重に配し、内区外周に櫛歯文帯を配するA2-B類、外区に櫛歯文-複線波文を配するBC-B類、BC-D類が出現する。これらは出土数も少なく大量に生産された珠文鏡ではないと考える。珠文2や珠文3のものが多く確認できる。

珠文鏡の分類と内区の珠文の列数との関係について整理しておこう。珠文1が多いのはA-B類、A-D類、D-A3類、D-B類、D-D類である。珠文2が多いのはAC-B類、AC-D類、ACA-D類である。珠文3が多いのはA3-B類、B-A類、BC-D類である。次に時期ごとに珠文の列数をみると、前I期～前IV期は珠文1が多く、中I期以降から珠文2や珠文3が増加するようである。ただし珠文1は面径の小さなものに採用される傾向があり、A-D類やD-D類のように後出するものでもみられる。一方で珠文3は面径の大きなものに採用されやすく、前II期にみられるA3-B類にも採用されている。したがって、珠文の列数は鏡の面径に左右されることがあるため、珠文

の列数のみで年代を決めることは難しいといえる。

(5) 珠文鏡の画期 (第 55 図)

これまでの検討から珠文鏡の画期を設定すると、第一期は前 I 期～中 I 期とする。第二期は中 II 期～中 IV 期とする。第三期は後 I 期～後 IV 期である。第一期には、A-B 類・A-B A 3 類・A 3-B 類・D-A 3 類・D-B 類・D-B 2 類・D-D 類がある。第二期は A-A 3 類・A-D 類・A 2-D 類・A C-B 類・A C-D 類・A C A-D 類が新たに出現する。この時期に鋸歯文帯―複線波文帯が配されるものが出現する。第三期は A 2-B 類・B C-B 類・B C-D 類が新たに出現する。この時期に外区文様に櫛歯文帯―複線波文帯が配されるものが出現する。

第 3 節 珠文鏡の特質

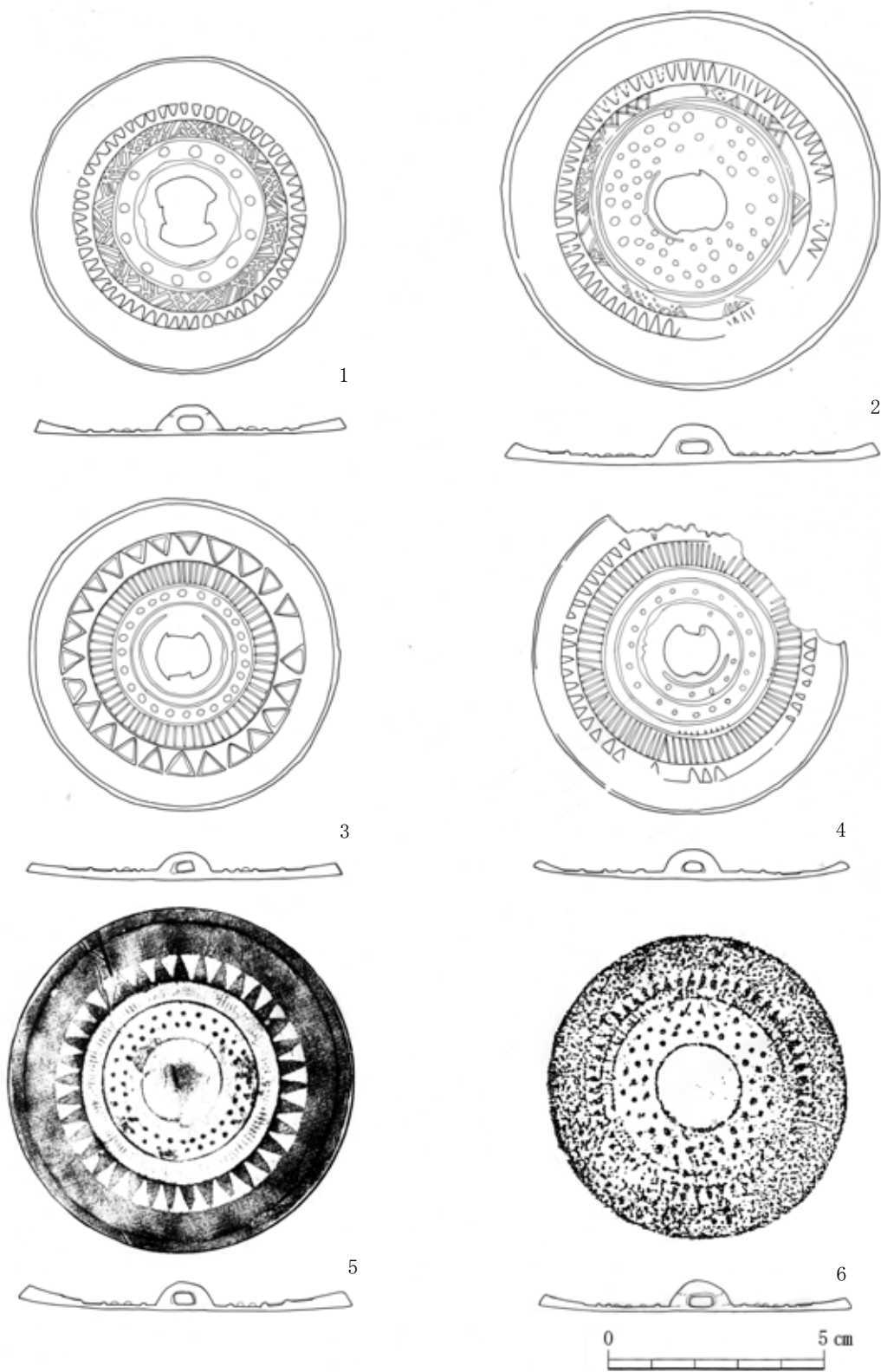
次に珠文鏡の特質を探るために、分布・出土遺跡・共伴関係・系譜などについて検討を行うこととする。ここでは出土地及び文様が明らかなもののみを用いている。

(1) 分布 (第 56 図・第 57 図)

分布については出土量の多い D-B 類、A-B 類、複線波文を有する珠文鏡の傾向について述べることとする。

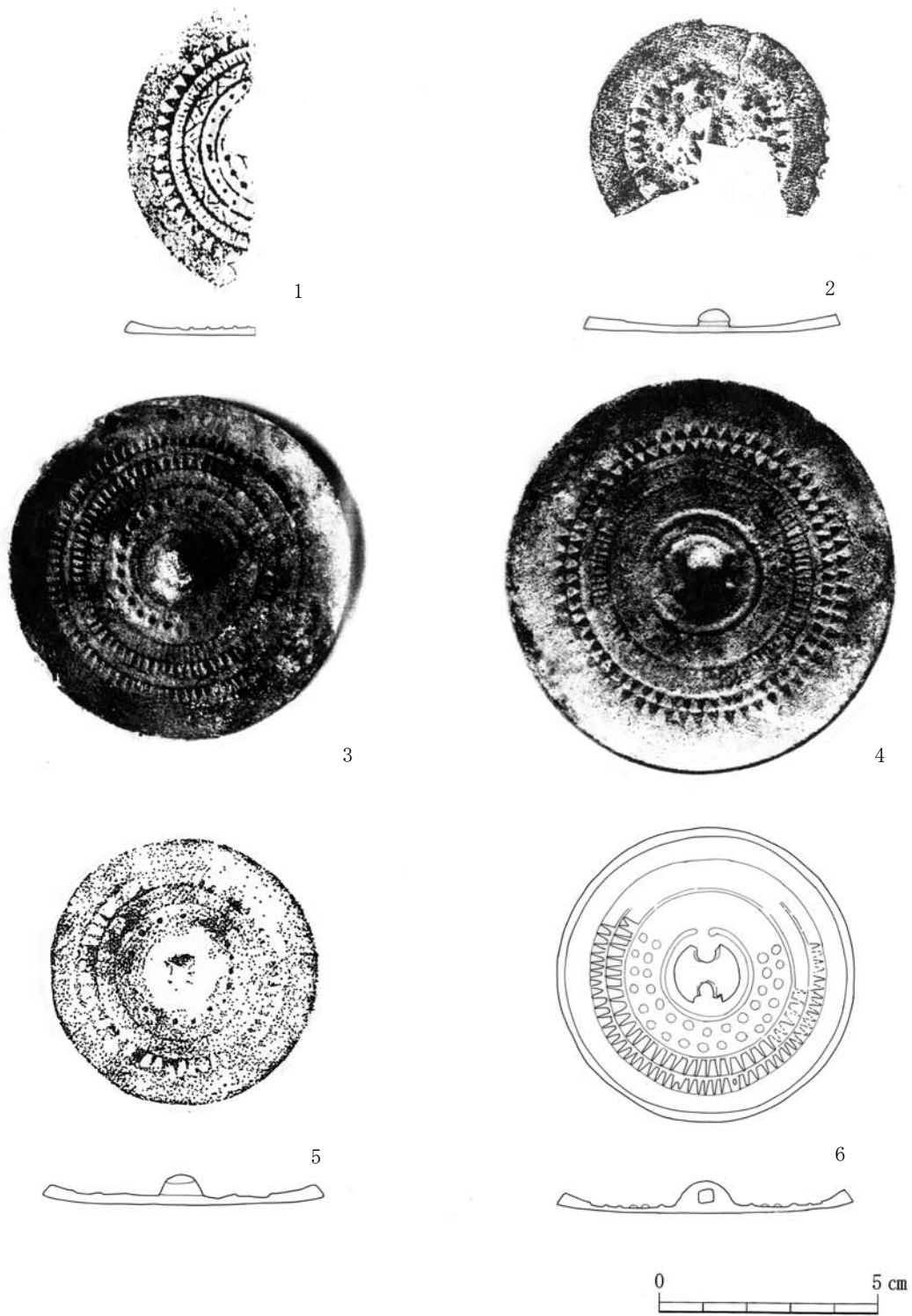
D-B 類の分布状況を第 55 図に示している。これをみると、九州地方北部から東北地方の福島県にまで分布している状況がわかる。珠文 1 と珠文 2 では、あまり分布地域に相違がないことが判明した。珠文 1 と珠文 2 はおそらくほぼ同時期に製作され、流通したためと思われる。3 類については流通範囲がやや狭く、中国地方でみられ出土量も少ない。

A-B 類は珠文 1 と珠文 2、珠文 3 とで分布図を製作している (第 56 図)。この分布をみると、A-B 類の珠文 1・2 は D-B 類戸似通った地域に分布している。ところが珠文 3 になると、今までに目立って出土量の多かった瀬戸内海に面した地域や中国地方、東京湾沿岸からの出土例がなくなる。この珠文 3 は中 I 期からみられるものであり、珠文 1・2 に比べると、平縁だけではなく斜縁のものもみられる。



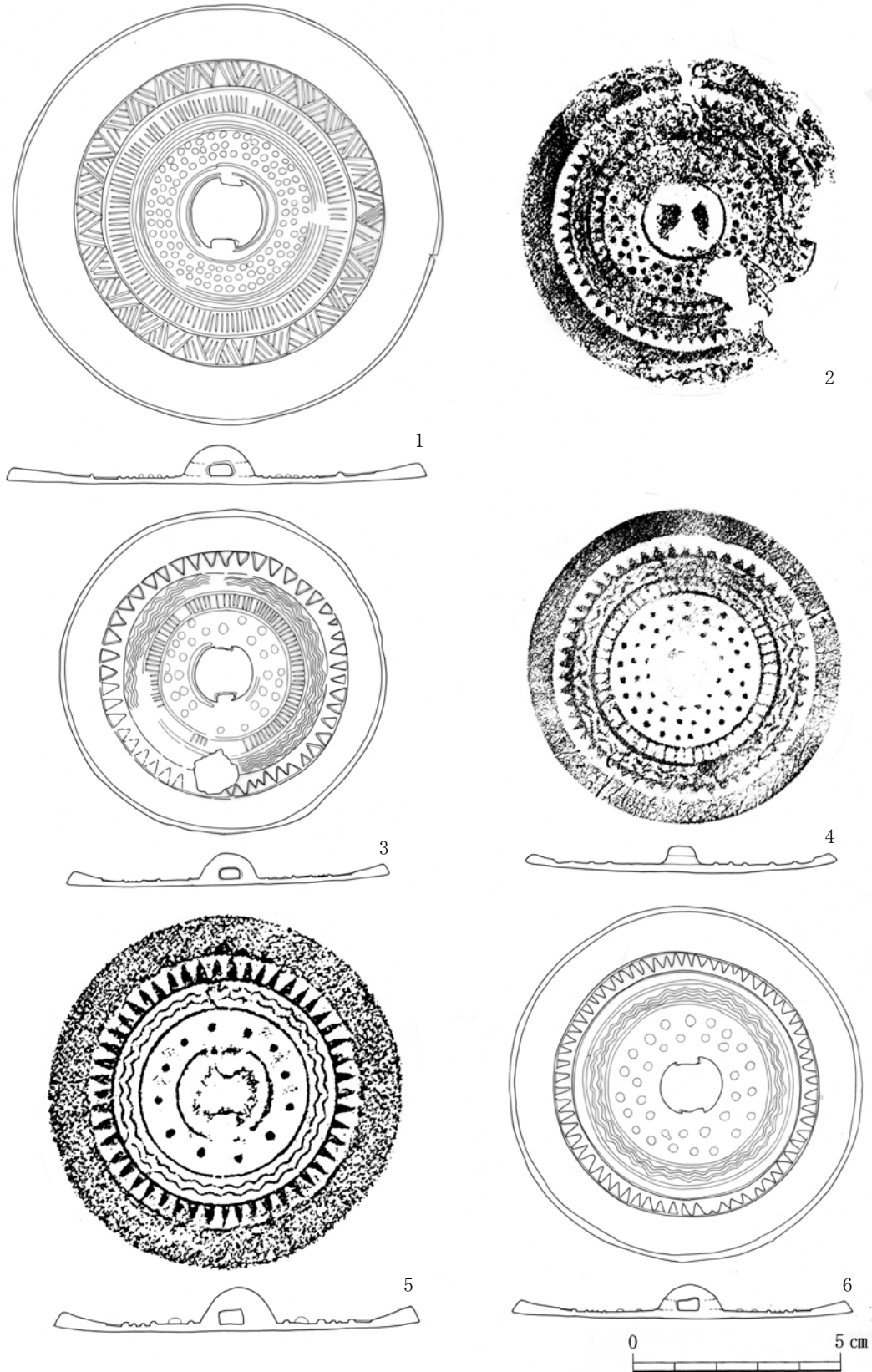
1. 茨城県磯崎北3号墳 2. 佐賀県関行丸古墳第3主体 3. 愛媛県円満寺古墳 4. 広島県今岡古墳
5. 岡山県光坊寺古墳 6. 茨城県磯崎東古墳

第49図 A-A3類・A-B類の諸例



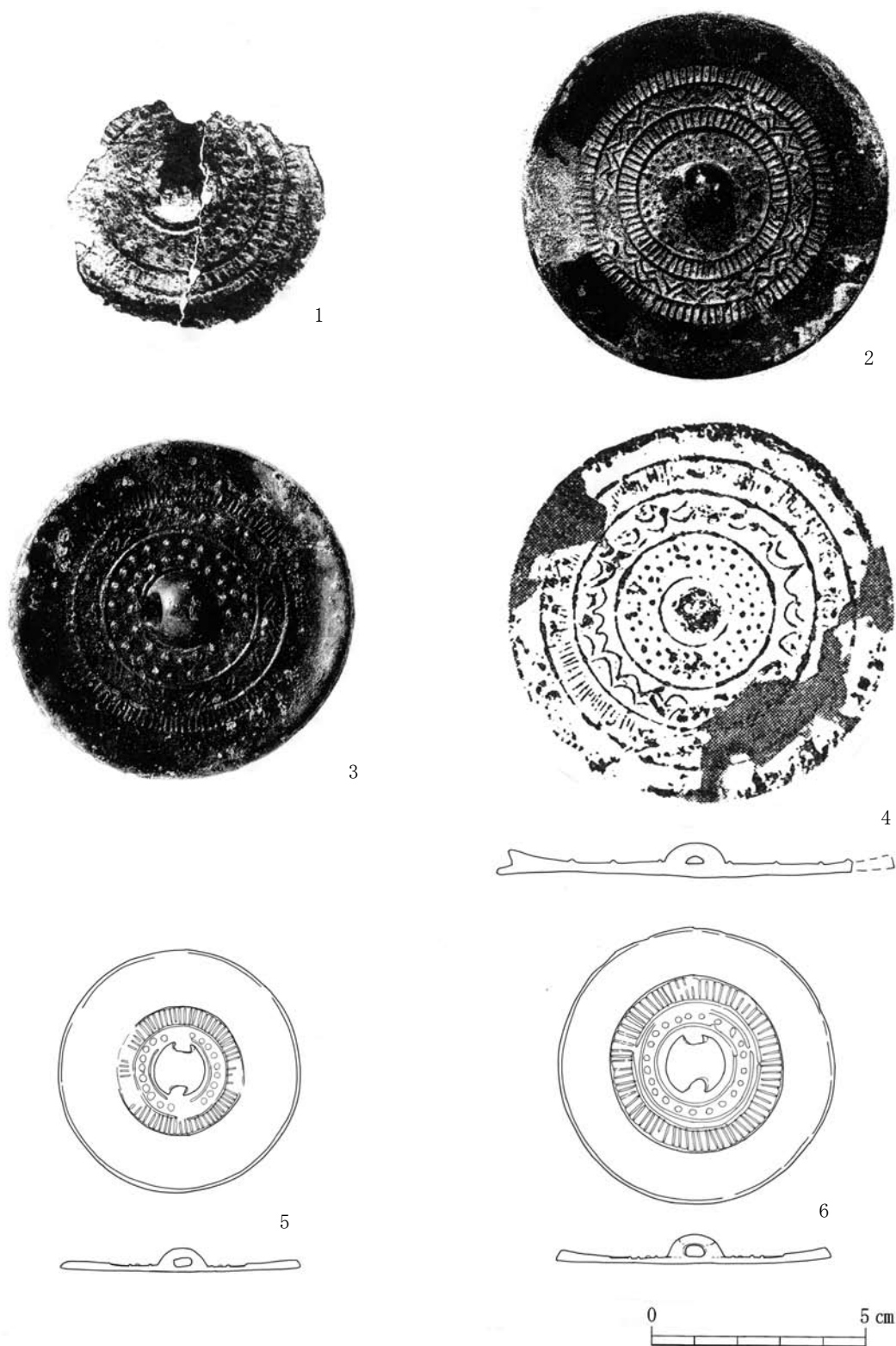
1. 福岡県三国の鼻2号墳 2. 東京都伊興遺跡 3. 岡山県長谷古墳 4. 佐賀県旭町出土
5. 三重県大塚山古墳 6. 広島県三ツ城古墳

第50図 A-B A 3類・A-D類・A 2-B類・A 2-D類の諸例



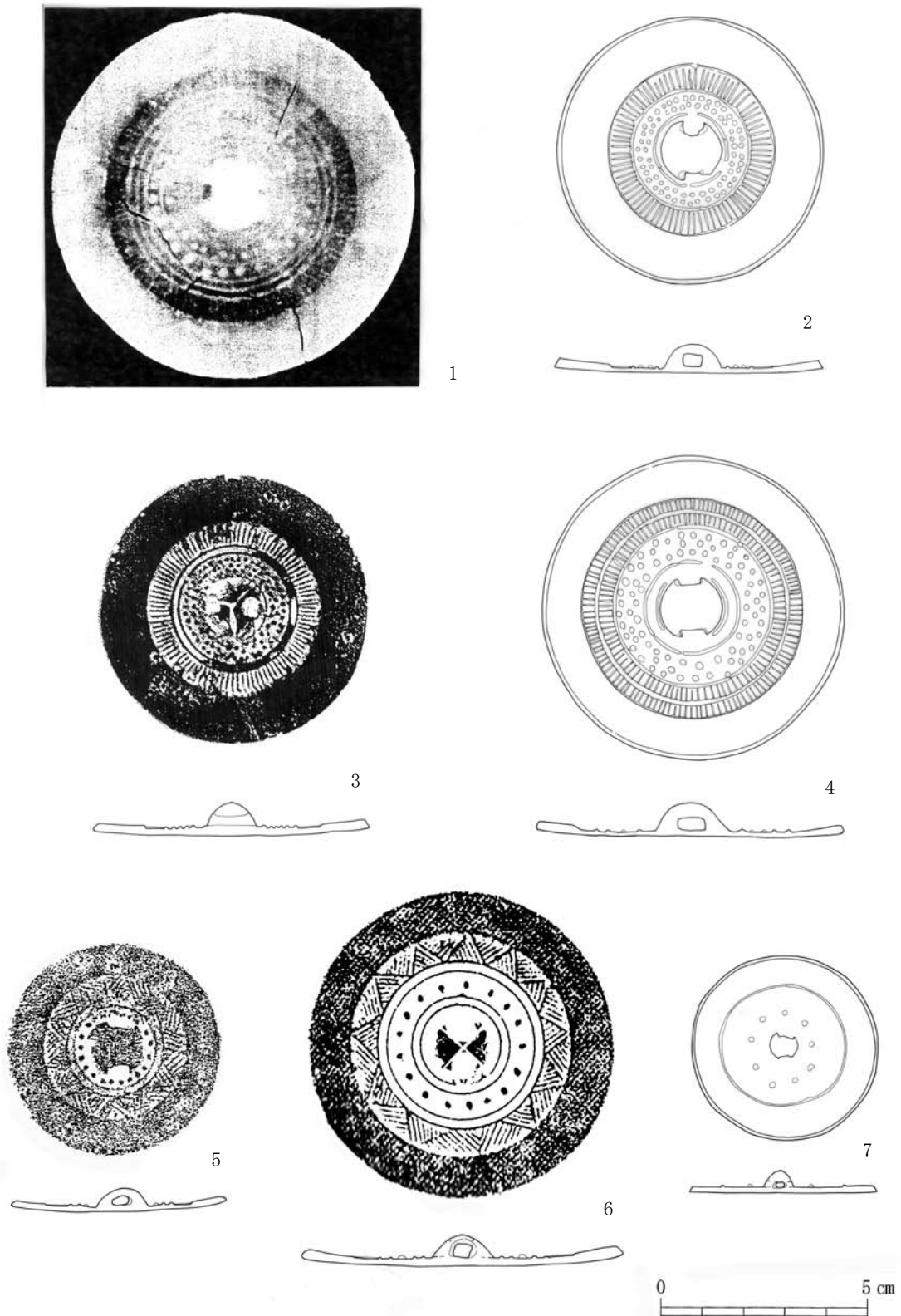
1. 広島県宇那木山2号墳 2. 栃木県稲荷山古墳 3. 静岡県女池ヶ谷25号墳
 4. (伝) 大韓民国慶山林道 5. 福岡県立山山23号墳 6. 福岡県乙植木3号墳

第51図 A3-B類・ACA-D類・AC-B類・AC-Dの諸例



1. 兵庫県亀山古墳 2. 群馬県西谷出土 3. 兵庫県文堂古墳 4. 福岡県沖ノ島7号遺跡
5. 佐賀県中隈山5号墳 6. 島根県社日2号墳

第52図 B-A類・CA-D類・BC-B類・D-B類の諸例

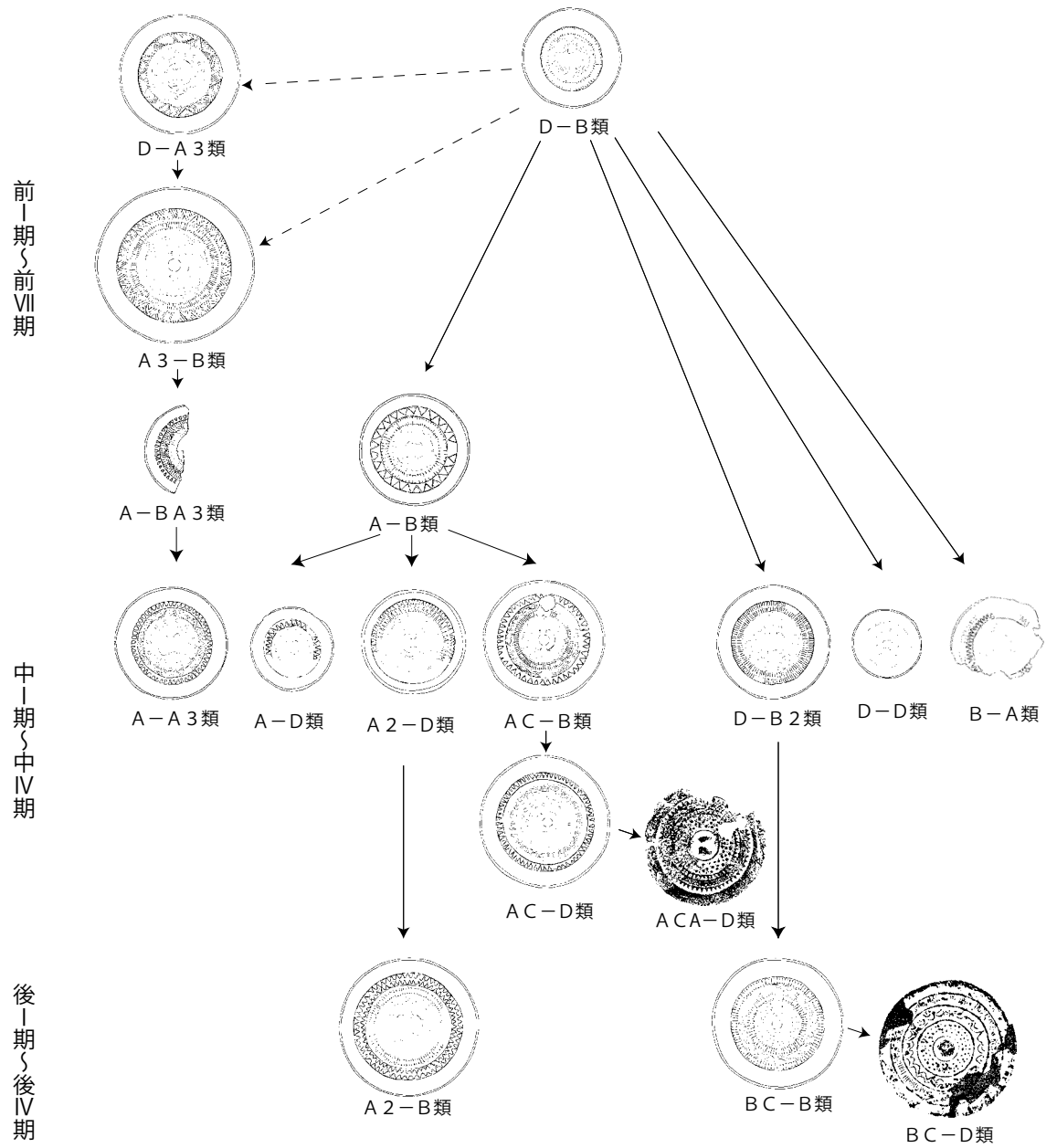


1. 福島県上渋佐7号墳 2. 兵庫県藤江別所遺跡 3. 鳥取県六部山21号墳 4. 埼玉県下小坂3号墳
5. 広島県山の神3号墳 6. 石川県下安原遺跡 7. 大阪府千手寺山遺跡

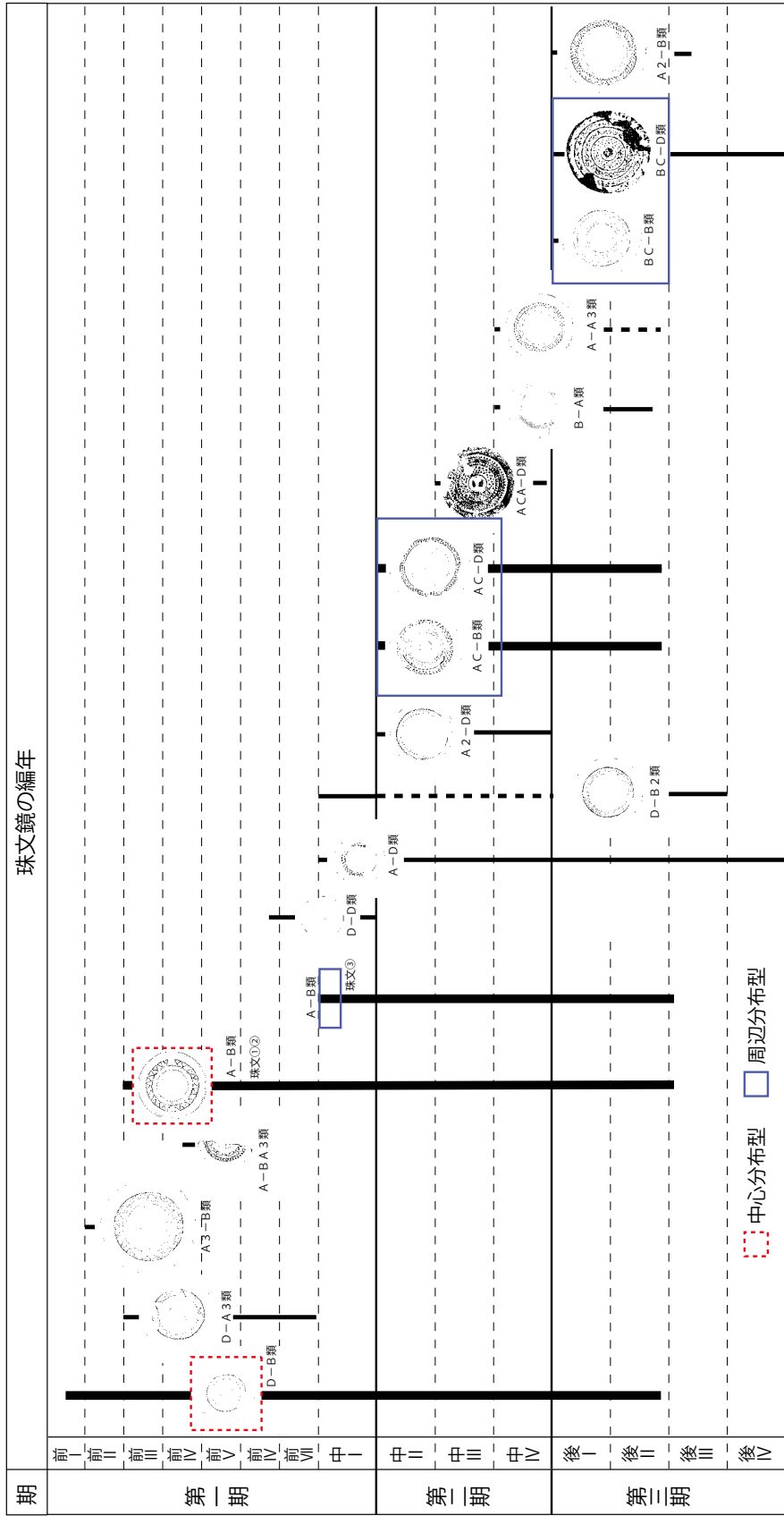
第53図 D-B類・D-B2類・D-A3類・D-D類の諸例

第 11 表 分類と時期

分類	内区	面数	前 I から II 期	前 III から IV 期	前 I から IV 期	前 III から V 期	前 IV から V 期	前 I から VII 期	前 V から VII 期	前 V から中 I 期	中 I から II 期	中 II から III 期	中 I から中 IV 期	中 II から IV 期	中 III から IV 期	中 IV から後 I 期	中 I から後 II 期	中 II から後 II 期	中 IV から後 II 期	後 I から II 期	後 II から III 期	後 I から IV 期	後 III から IV 期	不明
A-A3	① ② ③	0 1 1													1					1				
A-B	① ② ③	34 15 13	1	1			1	13	5	1	3	2		1						1	3		8	3
A-BA3	① ② ③	0 1 0			1																			
A-D	① ② ③	6 1 2									1					1				1		1		2
A2-B	① ② ③	1 3 0																		1				1
A2-D	① ② ③	1 2 0									1		1											
A3-B	① ② ③	0 0 1	1																					
AC-B	① ② ③	1 7 7									1	1		3						1	3	1		1
AC-D	① ② ③	3 6 2									1	1		2						2				1
ACA-D	① ② ③	0 2 2												1				1						1
B-A	① ② ③	1 0 2													1					1				
BC-B	① ② ③	0 0 1																		1				
BC-D	① ② ③	0 3 3																		1		2		
D-A3	① ② ③	2 0 0	1					1																
D-B	① ② ③	36 21 3	1	9		1	1	1	3		3	1	5	2						1				6
D-B2	① ② ③	0 1 2			2		1		4	1	2		1							1				4
D-B2	① ② ③	0 1 2						1																
D-D	① ② ③	2 1 0								2										1				1



第54図 珠文鏡の関係図



第55図 珠文鏡の出土する年代及び画期

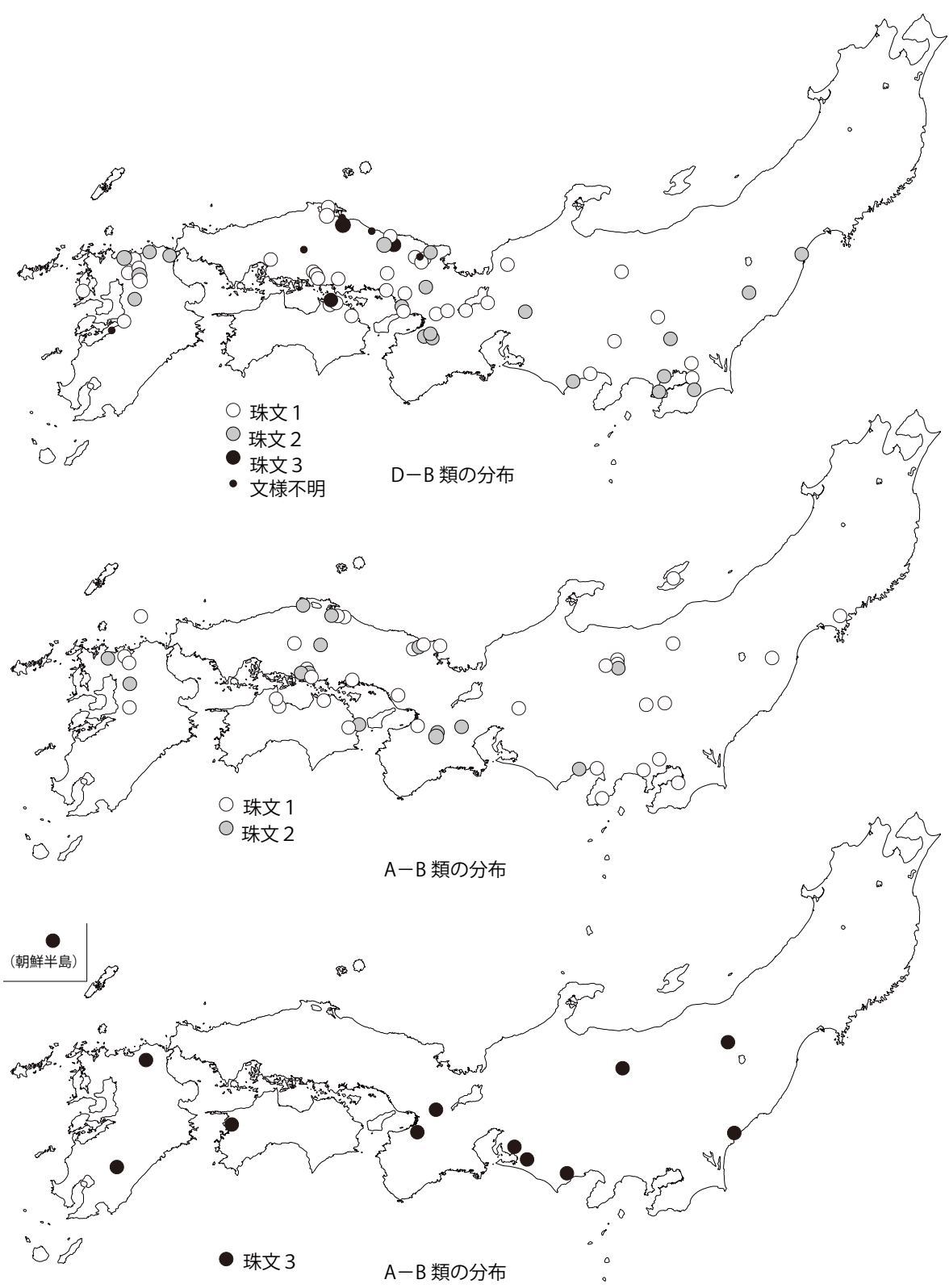
第57図は、複線波文をもつ珠文鏡の分布を示している。これをみると、外区に鋸歯文と複線波文をもつAC-B類、AC-D類、ACA-B類は、九州地方・四国地方・山陰地方・中部地方・関東地方で出土が多く、中国地方や東京湾沿岸からの出土量が少ないことがわかる。このことから、珠文鏡に複線波文が配される中Ⅱ期以降になると、前期までに多くみられたD-B類やA-B類の珠文1・2の出土する地域に違いがみられるようになる。

(2) 出土遺跡の検討 (第12表)

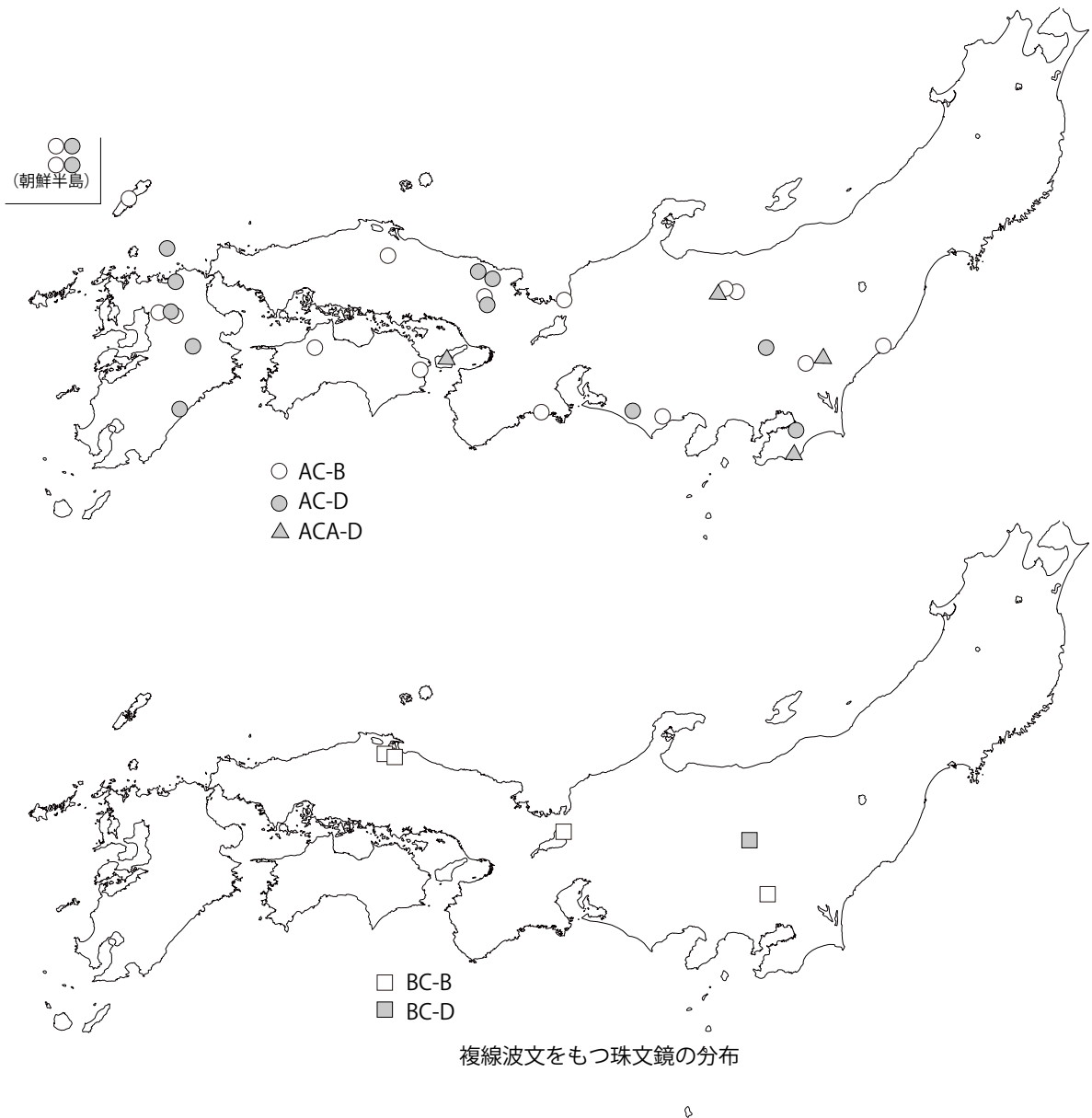
時期ごとに、遺跡の検討を行う。今回は出土遺物などで時期の特定できた資料を用いている⁽²⁾。前期では、古墳出土は48面、集落遺跡は10面、祭祀遺跡4面である。この時期は集落遺跡や祭祀遺跡からの出土が多い。中期は66面である。このうち古墳出土は59面、集落遺跡は2面、祭祀遺跡5面である。後期は59面確認でき、古墳出土は56面、集落遺跡1面、祭祀遺跡は2面である。出土遺跡の傾向についてまとめると、集落遺跡出土は前期からの出土が多く、中期・後期では出土例は減少する。中期以降は集落遺跡にて銅鏡を廃棄する事例が少なくなったためと考えられる。祭祀遺跡では面数に変化はない。祭祀遺跡では引き続き使用されたようである。珠文鏡を用いた祭祀は、中期以降になると、集落内で使用されていたものが、集落の外にて使用され廃棄や埋納されたと考えられる。

次に古墳出土の珠文鏡について述べる(第58・59図)。前Ⅰ期～前Ⅶ期は、径及び辺長20m未満の方墳や円墳からの出土例が17面と際立っている。全長40m以上の前方後円墳からの出土数は12面である。中期は、前期と同様に径及び辺長20m未満の方墳や円墳の出土が最も多い。後期は、20m未満の方墳や円墳からの出土数が9面と最も多い。いずれの時期においても径及び辺長20m未満の方墳や円墳からの出土例が多いことが判明した。

次に遺跡の種類と面径について述べる。第57図でみると、前期の前方後円墳出土例では、全て面径約6cm以上である。円墳・方墳では面径約4～6cmの珠文鏡が使用されている。集落・祭祀遺跡では面径6cm以下の珠文鏡が多く使用されており、小型鏡を使用する傾向が強まる。中期になると墳形による面径の相違はみられなくなる。前方後円墳は面径6cm以下のものを用いることが少ないものの、円墳や方墳出土の珠文鏡と比べても、突出して大型のものを使用



第 56 図 珠文鏡の分布図



第 57 図 珠文鏡の分布図

するわけではない。この原因としては、前方後円墳の副葬鏡は、珠文鏡だけではなく、ほかの珠文鏡よりも大型の青銅鏡と共伴することが多く、珠文鏡は古墳に副葬される中心の鏡ではないことが要因と

第 12 表 時期別の遺跡の種類

編年	古墳	集落遺跡	祭祀遺跡	合計(面)
前期	57	10	4	71
中期	62	2	6	70
後期	59	0	3	62
	178	12	13	203

考えられる。珠文鏡は集落・祭祀遺跡では面径 6.0 ～ 7.0 cm であり、古墳出土と比べ小型の鏡である。後期では遺跡の種類による面径の差はみられない。

集落・祭祀遺跡出土の珠文鏡は、前期は A 3 - B 類・A - B 類・A - B A 3 類・D - A 3 類・D - B 類、中期は A - B 類・D - B 類・D - D 類、後 I 期～後 IV 期は A - D 類・A C A - D 類・B C - D 類がみられる。中 I 期以降に出現をみる複線波文を配する珠文鏡のうち、A C A - D 類 1 面と B C - D 類の 1 面が祭祀遺跡出土である。この 2 面以外はすべて古墳からの出土である。前期から多量に出土する A - B 類や D - B 類と比べると、集落・祭祀遺跡で出土する割合が低いことをみると、複線波文をもつ珠文鏡は、集落・祭祀で埋納・廃棄する性格のものではなかったと考えられる。

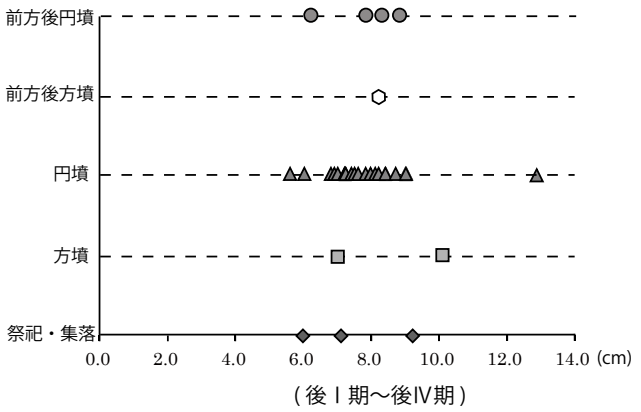
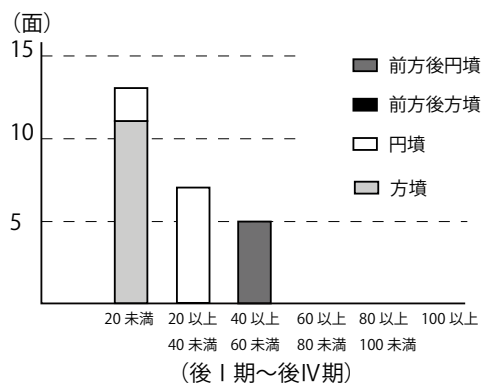
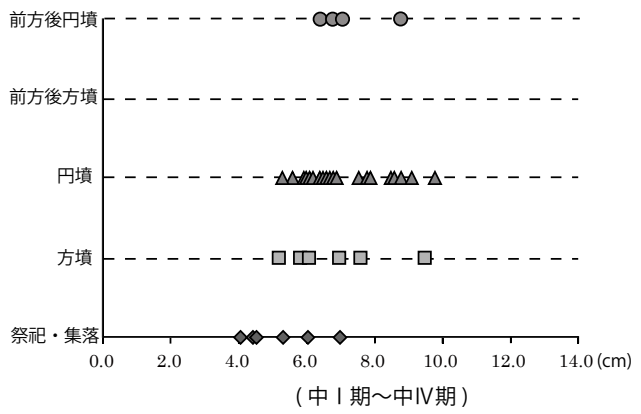
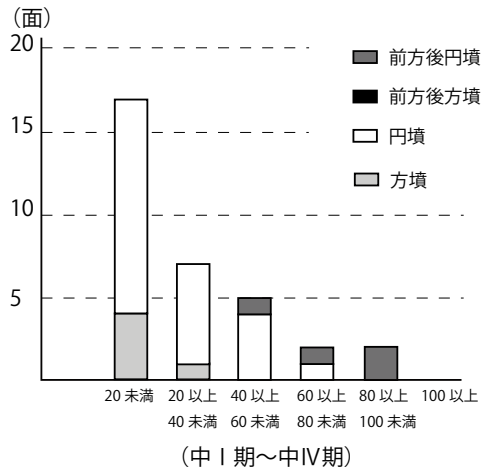
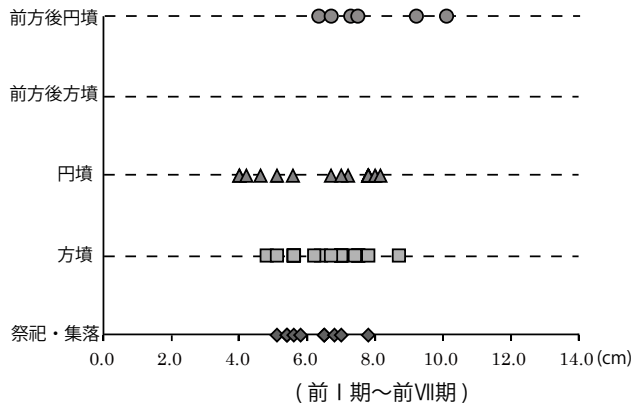
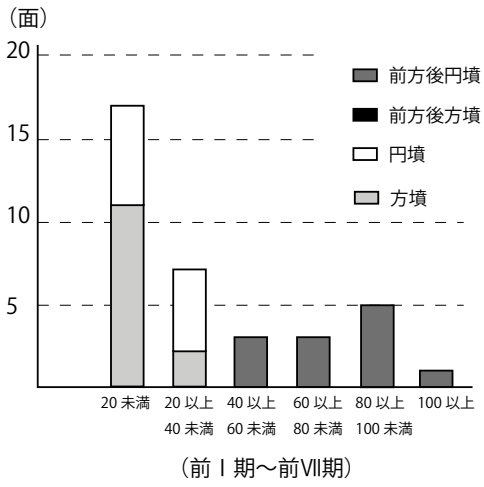
(3) 共伴する鏡の検討 (第 13・14 表)

まず珠文鏡が 2 面以上出土した遺跡の検討を行う。次にほかの鏡式の青銅鏡が出土した遺跡を取り上げ、珠文鏡との関係を検討する。

同遺跡から珠文鏡 2 面の共伴が確認されたのは 6 遺跡ある。岐阜県前山古墳、大阪府千手寺山遺跡、京都府谷垣 18 号墳、兵庫県敷地大塚古墳、兵庫県藤江別所遺跡、福岡県名木野 11 号墳出土例である。

この組み合わせを確認すると、谷垣 18 号墳では A - B 類と放射状区画をもつ D - B 類が共伴する。敷地大塚古墳と前山古墳では共に D - B 類、A - B 類が共伴し、藤江別所遺跡では D - B 類が 2 面、千手寺山遺跡の遺物包含層からは D - D 類が 2 面、名木野 11 号墳では A - B 類と斜行櫛歯文を配する例が 1 面共伴している。珠文鏡が複数面出土する場合は、分類が共通したり、時期が近いものから構成されることが多く、同時期にもたらされた可能性が高い。

次に、珠文鏡とほかの鏡式が共伴する事例について述べる。まず祭祀・集落



第58図 古墳の種類と
墳丘の関係

第59図 古墳の規模と
面径の関係

遺跡出土の珠文鏡と共伴する鏡式について紹介する。兵庫県藤江別所遺跡では井戸跡から珠文鏡・重圏文鏡・櫛歯文鏡・素文鏡の4種類が共伴して出土している。香川県居石遺跡では、河川跡から珠文鏡・重圏文鏡・素文鏡の3種類が組み合わさった状態で出土しており、珠文鏡・重圏文鏡・重圏文鏡の文様が脱落した櫛歯文帯・素文鏡は、使用方法が共通する鏡といえる。福岡県沖ノ島7号遺跡では、珠文鏡とともに面径不明の細片が出土する。

古墳出土の珠文鏡と共伴する舶載鏡をみると、前Ⅰ期～中Ⅱ期はみとめられず、中Ⅲ期の福岡県月岡古墳、奈良県新沢109号墳や後Ⅲ期～後Ⅳ期の愛知県亀山古墳をあげることができる。月岡古墳からは画像鏡が共伴し、新沢109号墳と亀山古墳からは画文帯神獸鏡を伴っている。これは中Ⅲ期以降に多くみられる踏み返しによって製作されたものである。珠文鏡と共伴する仿製鏡は、全時期を通じて獸形鏡や乳文鏡が多いことが判明した。以上をまとめると、珠文鏡が古墳において共伴する場合、前Ⅴ期～前Ⅵ期からみられることがわかった。また、墳丘の規模が20m以下の事例は少なく、大型の古墳になると、珠文鏡同士の共伴よりも大型鏡と共に副葬されることが多くなり、珠文鏡は副葬される中心的な鏡ではなかったことが分かる。前Ⅴ期以前では、珠文鏡が複数で出土する事例が皆無であり、単独で副葬されていたと考えられる。

(4) 朝鮮半島出土の珠文鏡について (第60図)

朝鮮半島の珠文鏡はその類例を含め、計6面が確認され⁽³⁾、出土地域は慶尚南道1面、慶尚北道2面、全羅南道3面である。分類の内訳はA-B類が1面、AC-B類が2面、AC-D類が2面である。

A-B類は全羅南道光州雙岩洞出土例1面で、遺跡の年代は6世紀初頭である。ちなみに日本列島ではA-B類は61面の出土例を確認でき、時期は前Ⅴ期から後Ⅲ期である。光州雙岩洞出土例は、珠文3であり、珠文の列は整然としていないことからA-B類の中でも後出するものと考えられる。

AC-B類は慶尚南道山清生草9号墳例と(伝)慶尚北道慶山林堂例がある。それぞれ珠文2、珠文3で、面径は9.0cmと7.5cmである。日本で出土したAC-B類のうち珠文2は長崎県赤崎遺跡2号石棺例、福岡県月岡古墳例、徳島県恵解山9号墳例、鳥取県名土古墳例、兵庫県中佐治5号墳例、静岡県女池ヶ谷25号墳例の6面がある。珠文3は茨城県尾形山横穴群例、栃木県水神塚古

墳例、福井県金ヶ崎古墳例、愛媛県土壇原5号墳例、宮崎県五反畑遺跡B地区1号木棺墓例があり、日本列島出土のAC-B類の年代は中I期～中II期に遡る。新しい例では後III期となる。山清生草9号墳では須恵器が共伴しており、その年代から6世紀前半で、日本列島での同分類の珠文鏡の出土時期と重なっている。

AC-D類は慶尚北道慶州金鈴塚古墳例、全羅南道潭陽齊月里古墳例があり、いずれも珠文2である。日本列島においてAC-D類は10面あり、このうち珠文2は4面の出土例が確認されている。宮崎県西都原地下式横穴4号墳例、福岡県乙植木3号墳例、兵庫県油利百塚古墳群例、兵庫県文堂古墳例、千葉県小田部新地44号墳例がある。

朝鮮半島で出土した珠文鏡は、すべて6世紀代の副葬品をもち、日本列島において文様を同くする珠文鏡が副葬された年代の中に含まれることから、およそ同時期に朝鮮半島にもたらされたと考えられる。また、この時期に朝鮮半島で出土している珠文鏡はすべて7cm以上のものである。

これらの珠文鏡が朝鮮半島へ流入した背景は多くの研究者によって論じられている。小田富士雄は小型仿製鏡が出土した地域は伽耶と百済の支配下に入っていた地域で、この時期の両地域と倭政権の交流はかなり密接なものであり、私的な交流で搬入されたとする。慶尚北道の金鈴塚古墳は王陵クラスで、慶州地域における仿製鏡は伽耶諸国を仲介とした新羅地域への二次的搬入現象であったと推測する（小田1987）。趙栄済は慶尚南道生草9号墳では珠文鏡とともに6世紀前半の須恵器や鉄製轡も出土していることをうけ、被葬者が倭人の可能性を指摘している（趙2004）。朴天秀は生草9号墳の被葬者の性格について論じており、大伽耶と関連する倭人であろうと指摘している（朴2012）。上野祥史は、朝鮮半島で出土した仿製鏡については、鏡配布主体からの直接的な流入と、鏡配布主体からの配布をうけた倭の勢力を介しての二次的な流入のいずれの可能性も考えられるとしている（上野2004）。下垣仁志は、韓半島南部の倭製鏡出土古墳に畿内中枢の器物が共伴していないことから、近畿中枢からの直接流入の可能性は低いと述べた。また、同時期の鈴鏡がみられないことから、関東・中部地方の関与を否定する。さらに、西方諸地域の出土状況、栄山江流域の前方後円墳に北部九州の影響がみられることから、九州北部地域の有力者からもたらされた可能性が高いと述べる。流入の方法としては、所有者の

第13表 古墳出土の珠文鏡と共伴する鏡の一覧

分類	遺跡名	珠文	船載鏡	仿製鏡	不明	墳形・規模(m)	仿三	仿画	仿内	仿方	仿麗	仿獸	仿振	仿乳	仿重	仿鈴	不明	墳形・規模(m)	大賀編年
A-B	大阪・御旅山古墳	1		21		前方後円・44.6	3	14				2			1			前方後円・44.6	前V～VII
A-B・放射状区画	京都・谷垣18号墳	2				円・30～40												円・30～40	中I～II
A-B	奈良・新沢109号墳	1	1	1		前方後円・28							1					前方後円・28	中III～IV
A-B	愛知・亀山2号墳	1	1																後III
A-B	佐賀・金屋古墳	1		1		円								1				円	後I～II
A-B	三重・高猿1号墳	1		2		前方後円？		1			1							前方後円？	中I～IV
A-B・D-B	岐阜・前山古墳	2		2		円・20						1	1					円・20	後I
A-B・D-B	兵庫・敷地大塚古墳	2		5		円・47			1	2		1	1					円・47	中IV
A2-B	埼玉・入西塚古墳	1		1		前方後円・36～40								1				前方後円・36～40	後I
A2-D	長野・神送塚古墳	1		1		円											1	円	中IV
A2-D	三重・大塚山古墳	1		2		前方後円・45							2					前方後円・45	中II～IV
AC-B	福岡・塚堂古墳1号石室	1			1	前方後円・81											1	前方後円・81	中III
AC-B	福岡・月岡古墳	1	1	2		前方後円・95						2						前方後円・95	中III
AC-D	韓国齊月里古墳	1		1		石室墓？						1						石室墓？	中期
AC-D	熊本・鞍掛塚古墳	1		3		円						1		2				円	中期
AC-D	福岡・乙植木3号墳	1		1		円						1						円	後I
A-D	三重・志島11号墳	1		1		円？				1								円？	後I
A-D・特殊	福岡・名木野11号墳	2				円・11												円・11	後II
B2-D	鳥取・向山古墳群宮ノ峰支群13号墳	1			1	方墳・15～20											1	方墳・15～20	前V～VII期
D-B	神奈川・白山古墳	1		1		前方後円・84							1					前方後円・84	前VI
D-B	福岡・鋤崎古墳	1		1		円・47						1						円・47	前V～前VII
D-B	佐賀・関行丸古墳	1		1		前方後円・55						1						前方後円・55	後I
D-D	山梨・平林2号墳	1		1		円・15												円・15	後IV

- * 珠文鏡より面径の小さなもの。
- * 珠文鏡が複数出土したもの。

第14表 集落・祭祀出土の珠文鏡と共伴する鏡の一覧

分類	遺跡名	珠文	仿素	仿重	不明	大賀編年
BC-D	福岡・沖ノ島第23号遺跡				1	後I～IV
D-B(2面)	兵庫・藤江別所遺跡	2	2	4		前II～IV
D-B	香川・居石遺跡		1	1		前IV～V
D-D(2面)	大阪・千手寺山遺跡	2				前V～中I

- * 珠文鏡が複数出土したもの。
- * 珠文鏡より面径の小さなもの。
- * 仿：仿製、重：重圏文鏡、素：素文鏡。

移動に伴ったものも想定している（下垣 2011b）。

珠文鏡は大和王権からの直接的な流入であったのか、鏡を配布された地域からの二次的な流入であったのかという点においてであるが、筆者は被葬者が倭人である可能性の高い古墳もあり、日本で鏡を配布された有力者により朝鮮半島にもち込まれた可能性も十分に考えられ、朝鮮半島への入手経路は様々であったと考える。また、第3節



1 海南造山古墳 2 光州雙岩洞古墳 3 潭陽齊月里古墳
4 山清生草9号墳 5 (伝) 慶山林堂 6 慶州金鈴塚古墳

第60図 朝鮮半島出土の珠文鏡の分布

(1) の珠文鏡の分布で、朝鮮半島にて出土するA-B類の珠文3、AC-B類、AC-D類の分布と、それ以前に日本列島で出現したD-B類やA-B類の珠文1・2の分布は、前者が「周辺分布型」であり、後者は「中心分布型」と指摘した。朝鮮半島で珠文鏡が出土するこの時期には、日本列島でも周辺地域のみで偏重して出土することから、周辺地域に珠文鏡が必要とされ、大和王権が周辺地域を意識して製作・配布したと考えられる。いずれにしても筆者は珠文鏡は大和王権の配布によりもたらされ、各地域と大和王権とのつながりを示すために使用された威信財と考えている。

(5) 珠文鏡の系譜について(第61・62図)

珠文鏡の系譜に関しては、研究史をみると、重圏文鏡が祖形となるもの（小林 1979 ほか）、弥生時代後期後半の乳状突起をもつものが祖形であるとするもの（田尻 2005・2012）に分かれるようである。筆者は、弥生時代後期後半に近畿地方で生産された乳状突起をもつ仿製鏡にその起源があると考え。田尻義了によって乳状突起をもつ仿製鏡として大阪府田井中遺跡例（第61図2）と石川県四柳白山下遺跡例（第61図1）が指摘されている（田尻 2005・2012）。この2面の特徴を述べると、大阪府田井中遺跡例には乳状突起が8個施されているが、これらは規則正しく配置されていない。四柳白山下遺跡例の

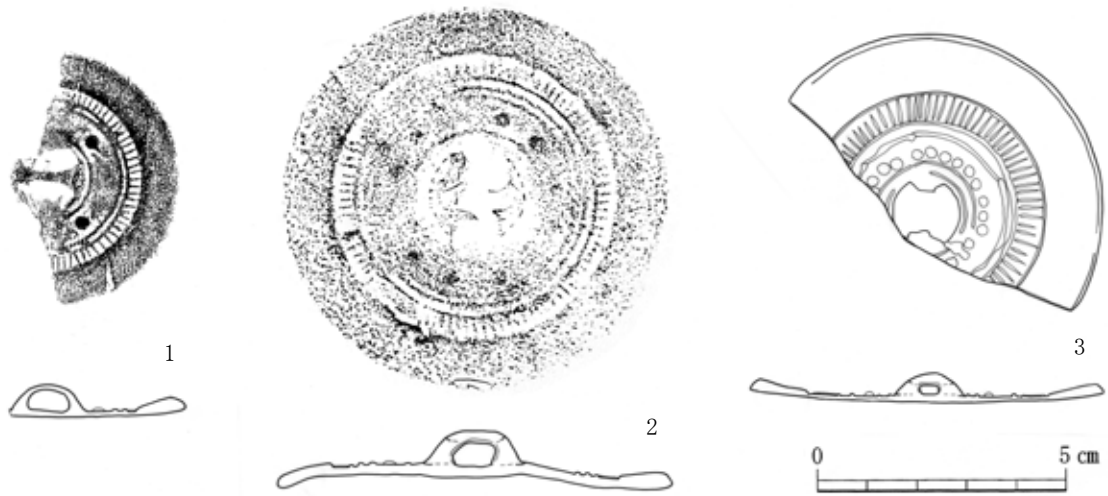
乳状突起は4個と想定できる。このような鏡から8個の乳状突起をもつものが出現したのではないかと考える。

珠文鏡のうち最も古い事例としては、庄内式終末段階である方形周溝墓の主体部から出土した京都府馬場遺跡例（第61図3・第62図）を挙げることができる。周溝からは庄内式終末の土師器が出土している。この珠文鏡の珠文は整然と並んでいない。しかし、珠文について、8組のまとまりという意識をもってこの鏡をみると、珠文3つを一つの単位として認識することができる。鏡のおおよそ半分が欠損しているため5組しか確認できないが、欠損部分にはちょうど3組が収まると想定できる。したがって、馬場遺跡例の珠文は3つずつを8組に配置していると推測できよう。おそらく、乳状突起をもつ田井中遺跡例などの影響を受けたためと考えることができる。こうしたことから、珠文鏡の珠文は、弥生時代後期後半に近畿地方で製作された青銅鏡からそのモチーフを得たものといえる。

したがって、珠文鏡は森下章司（森下1991）が指摘するように、珠文が一行で不均等に巡らされたものから一行で整然としたものへ、最終的には二列程度の珠文をまばらに埋めるものへ、という変化が想定できる。初期の製作と考えられる馬場遺跡出土例は、8つのまとまりを意識して珠文を配置しているがために、珠文は整然としないものとなった。その後、その意識が薄れ珠文を整然と一行に配置するようになったと考える。さらにその後、整然と二・三列へ配置したものが出現し、最終的には珠文の列が再び乱れるようになる。

ここで内区の珠文の変化について説明を行う。四柳白山下遺跡・大阪府田井中遺跡の乳状突起は、珠文よりも大型である。珠文鏡の中で類例は、石川県下安原遺跡と放射状区画をもつ山口県新宮山1号墳にみられる。いずれも大型の珠文であり、珠文と珠文の間隔が広いという特徴をもつ。中期には珠文の大きくなるものが増加する。

ただし、馬場遺跡例は田井中遺跡例と比べ、厚みはなく、櫛歯文帯の幅も広い。さらに、馬場遺跡例の鈕は面径に占める割合が高いという特徴がある。鈕孔の形状も、弥生時代後期後半の田井中遺跡例や四柳白山下遺跡は丸いのに対して、馬場遺跡例は方形である。馬場遺跡の面径に占める鈕の割合や、鈕孔の形状、鏡の厚みが薄いという特徴は、大部分の珠文鏡の特徴でもある。したがって、古墳時代の珠文鏡の製作においては、弥生時代の文様を受け継ぎつつ



1. 石川県四柳白山下遺跡 2. 大阪府田井中遺跡 3. 京都府馬場遺跡

第 61 図 珠文鏡とその祖形

も、新たな技術を用いて製作されたと考えたい。なお、田井中遺跡例と四柳白山下遺跡例には類似する重圏文鏡がある。特に、弥生時代後期後半とされている大阪府鷹塚山遺跡出土重圏文鏡（第 16 図 1）は鈕孔が大きく、円形を呈するといった特徴を共有しており、これらの鏡は同時期に同じ地域で製作されたと考えられる。



第 62 図 京都府馬場遺跡出土珠文鏡

その一方で、馬場遺跡例よりはやや後出するものの、前Ⅱ期～前Ⅲ期の石川県下安原遺跡

例や広島県宇那木山 2 号墳例のように、内区外周や外区文様に複合櫛歯文を配するものがある。これらの鏡にみられる複合鋸歯文は弥生時代の銅剣・銅鐸に用いられ、古墳時代には仿製鏡である鼈龍鏡や捩文鏡、土師器に刻まれる文様である。そのため、珠文鏡の複合鋸歯文は、土師器などにみとめられる複合鋸

歯文を鏡の文様に転用したものと推測する。ただし、宇那木山2号墳例は珠文3である。面径10.2cmと珠文鏡の中では大型である。このような文様構成をもつ珠文鏡はほかにみとめられず、かなり特異な珠文鏡といえる。

(6) 放射状区画をもつ珠文鏡について (第63・64図)

最後に珠文鏡から派生したと考えられる放射状区画をもつ珠文鏡について若干の私見を述べておく。放射状区画をもつ珠文鏡は13面を確認している。福島県森北古墳群の報告の中で放射状区画をもつ珠文・乳文鏡の分類は区画の幅や太さを基準としている(吉田1999)。ここでは、先ほど設定した珠文鏡の分類に沿って検討を行う。

A-B類は大分県灰土山古墳例(第63図1)、岡山県妙見山1号墳例(第63図2)、兵庫県御旅山13号墳例、和歌山県尾ノ崎遺跡15号墳例(第63図3)の4面が確認された。すべて4区画である。珠文2は1面、珠文3は3面である。

A-D類は福井県板屋谷内C6号墳例(第63図4)で、これも4区画である。

A3-B類は千葉県下田遺跡例(第63図5)である。珠文3で4区画である。

D-B類は7面には、静岡県伝明ヶ島1号墳例、石川県神谷内18号墳例(第64図3)、千葉県大竹古墳群K13号墳例(第64図2)は4区画、(伝)奈良県あやめ池付近例(第64図4)、山口県新宮山1号墳例(第64図1)、熊本県経塚古墳例(第64図5)は8区画、京都府谷垣18号墳例(第64図6)は12区画となっている。

D-D類は広島県千人塚古墳例(第63図6)があり、4区画である。

内区外周が櫛歯文のみのD-B類が最も古いと考えられるので、8・12区画のものが次第にほかの分類にもみられる4区画へと統一されていったようである。

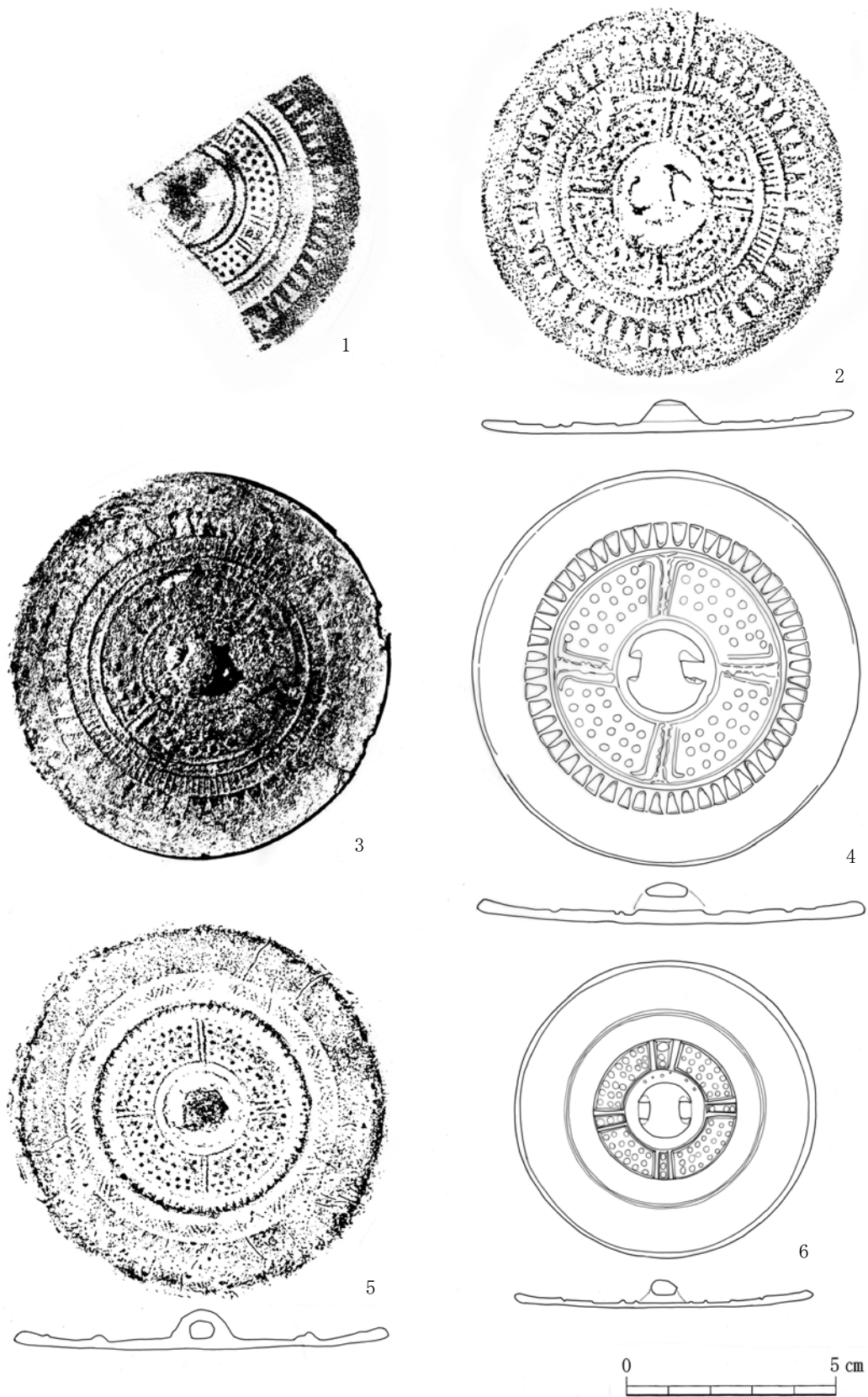
新宮山1号墳例は櫛歯文帯の幅が狭く、重圏文鏡に類似している。留意すべきはこの鏡も8つの珠文を配する点である。これは前項でもふれたように京都府馬場遺跡の珠文鏡と同様8つのグループを意識して配置したためとも考えられる。石野博信は放射状区画文鏡について、青谷上寺地遺跡出土内行花文鏡を取り上げている。この鏡は4花の内行花文を4区画し、8珠文を配しており、列島内の放射状区画珠文鏡の祖形になりうる形状と指摘する(石野2012)。このような8個の珠文をもつものが放射状区画をもつ珠文鏡の中で古手になりそ

うである。

(7) 珠文鏡の生産体制について

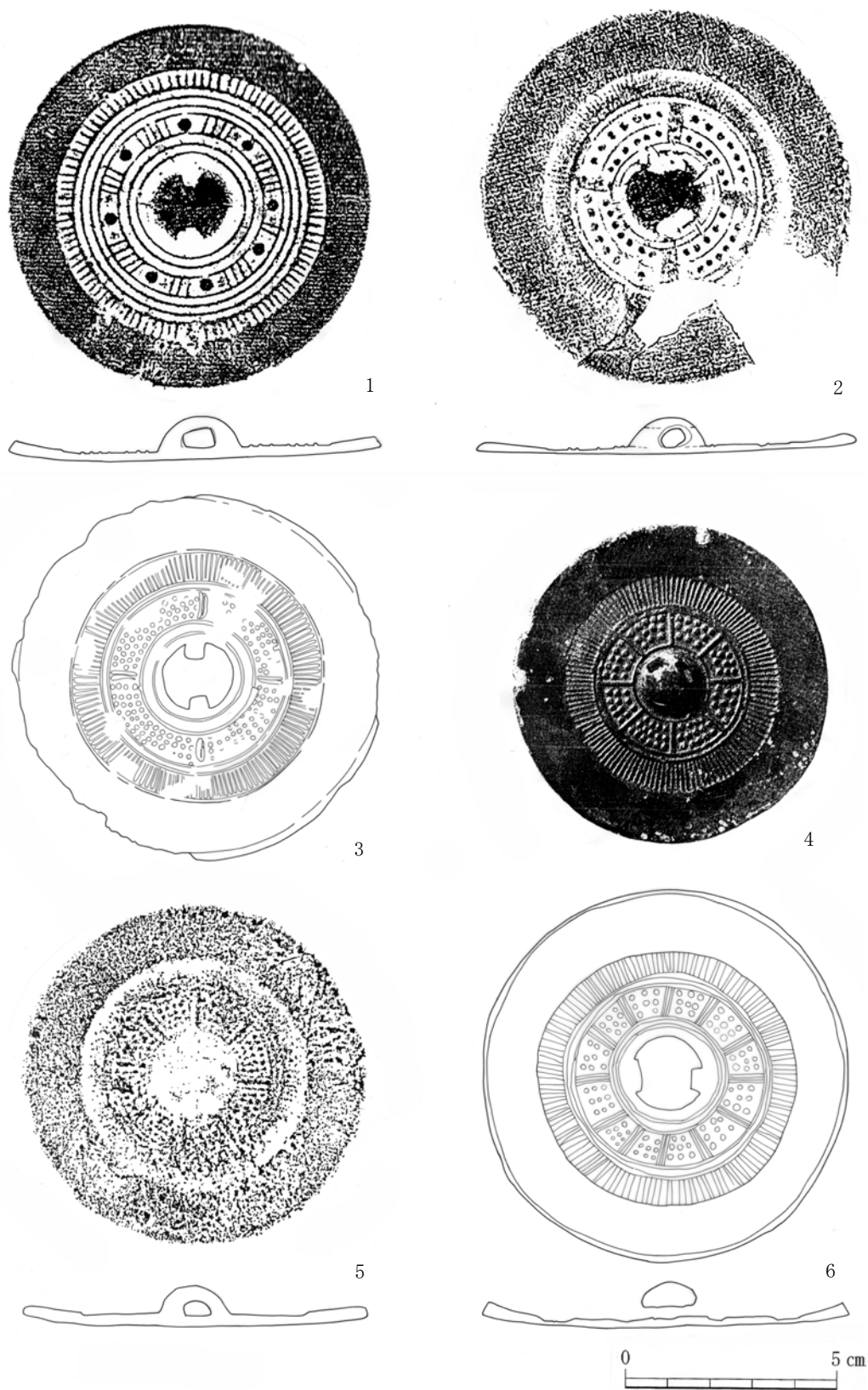
珠文鏡の生産体制について若干述べる。分類ごとの分布および放射状区画をもつ珠文鏡の分布をみると、それぞれの分類が広い範囲で出土していることが分かる。こうした分布状況を考慮すると、珠文鏡の生産は地域ごとになされたのではなく、畿内地方において製作された可能性が高いと考えられる。第65図に遠隔地域間で類似するD-B類の資料を示した。兵庫と佐賀、兵庫と千葉、福岡と静岡の資料を提示しており、これをみると、遠距離の地域間で出土する資料であるにもかかわらず、櫛歯文の間隔や太さ、珠文の大きさ、鈕や縁と面径のバランスなどが非常に類似することが分かる。このように異なる地域で類似する資料が出土することから、珠文鏡は各地域で生産されたとは考え難く、畿内地方で生産されたと推測する。

今回、珠文鏡を観察していくうちに、珠文鏡の生産技術にはいくつかの方法があるのではないかと判断できる資料を見出すことができたので、これについて報告したい。一つは同型品と思われるものを2事例確認している。一つは東大阪市千手字遺跡の2面である。この鏡は一つの遺跡から出土していることから、報告書においても同範であると指摘されていた。第81図⑤に比べ、第81図⑥は鋳上がりが悪い。第80図⑤にみられる文様以外の鋳肌の凹凸まで見えること、さらに第81図⑥のほうが文様が不鮮明であることから、第81図⑤を踏み返していると考えられる。もう一つの事例は泉屋博古館所蔵鏡（第66図1）と宮崎県六野原5号墳（第66図2）の珠文鏡である。分類は鋸歯文帯をもつA-D類である。六野原5号墳は宮崎県小林市に位置する地下式横穴から出土している。時期は後I期である。珠文鏡は共に面径5.0cmである。六野原5号墳例は観察を行っているが、全体的に鋳上がりが悪いため、文様が不明瞭となる部分が多い。一方で泉屋博古館所蔵鏡は図録での観察のみであるが、鋳上がりは良いようである。この2面が直接の踏み返しの関係にあるかは判断できないが、少なくとも泉屋博古館所蔵鏡は文様が明瞭であることから、先に製作されたと判断できる。このような事例はまだほかにもあると思われ、例えば広島県三ツ城古墳出土例は文様の表出が全体的に不鮮明であることから、踏み返しによって生産された可能性が考えられる。泉屋博古館所蔵鏡は出土地や



1. 大分県灰土山古墳 2. 岡山県妙見山1号墳 3. 和歌山県尾ノ崎遺跡15号墳
 4. 富山県板屋谷内C6号墳 5. 千葉県下田遺跡 6. 広島県千人塚古墳

第63図 放射状区画をもつ珠文鏡の諸例



1. 山口県新宮山1号墳 2. 千葉県大竹古墳群K13号墳 3. 石川県神谷内18号墳
4. (伝) 奈良県あやめ池付近 5. 熊本県経塚古墳 6. 京都府谷垣18号墳

第64図 放射状区画をもつ珠文鏡の諸例

年代が不明であるため、遺跡の比較などができない点が残念である。今のところ、珠文鏡では中期以降踏み返しが確認されており、以前は同型鏡や同範鏡のものは確認することができない。

第4節 小結

珠文鏡の外区と内区に施された文様を組み合わせることによって、分類および編年を行った。その結果、珠文鏡は珠文の周囲の内区外周に櫛歯文帯をもつものが最も古く出現することが判明した。その中でも特に京都府馬場遺跡出土鏡は、珠文を8つのグループにしていると考えられ、その祖形を大阪府田井中遺跡例や石川県四柳白山下遺跡例などの弥生時代小型仿製鏡に求めることができると推測した。

なお、先学によって珠文鏡と重圏文鏡は関係が強いとされているが、重圏文鏡についても、珠文鏡と同様に近畿地方の弥生時代小型仿製鏡を祖形にして出現したと考える。

さらに珠文鏡の出土する遺跡の検討では、古墳時代前期の珠文鏡は集落遺跡から出土する割合が高いと述べた。これは弥生時代小型仿製鏡が集落で使用・廃棄される伝統を引き継いでいるためと考える。前期の出土古墳は径及び辺長20 m以下の方墳や円墳が多いことを指摘した。中期以降、集落遺跡出土の鏡は減少する。中期から出現した複線波文をもつ珠文鏡は、福岡県沖ノ島7号遺跡出土例、静岡県洗田遺跡例を除き、すべて古墳からの出土であることを考えると、最終的には副葬品としての在り方が求められていたようである。また、この時期から珠文鏡の分布にも変化がみられ、瀬戸内海や東京湾の出土が減少する。これらの点から、珠文鏡は時期や文様の違いによって性格が異なっていると思われる。

分類ごとの分布および放射状区画をもつ珠文鏡の分布をみると、それぞれの分類が広い範囲で出土していることが分かる。こうした分布状況を考慮すると、珠文鏡の生産は地域ごとになされたのではなく、畿内地方において製作された可能性が高いと考えられる。遠隔地域間で酷似する資料があることを確認しており、珠文鏡は各地域で生産されたとは考え難く、畿内地方で生産されたと考ええる。



第65図 類似する珠文鏡の比較 (S=1:1)



1. 泉屋博古館所蔵鏡 2. 宮崎県六野原5号墳



1. 泉屋博古館所蔵鏡

2. 宮崎県六野原5号墳

第66図 同型の珠文鏡（面径各5.0cm）

(註)

(1) 文様構成の複雑な奈良県五條猫塚古墳例、福岡県名木野古墳出土例などは分類が煩雑になるため、今回の分類には含めていない。

(2) 論文提出直前に神奈川県勝坂祭祀遺跡の報告書(加藤 修・篠原裕医祐一・相山林繼 2010 『勝坂有鹿谷祭祀遺跡資料報告書』相模原市)を入手した。それまでは珠文鏡2面と報告されていたが、当報告では、青銅鏡は7面と報告され、そのうち珠文鏡5面、櫛歯文鏡1面、変形六獣鏡1面が湧水地から出土したとある。

(3) 造山古墳例も珠文鏡として報告されているが、今回は文様が複雑なものとして分類していない。外区に櫛歯文、内外区間は複線波文間に珠文を配置する文様構成で、BC-D類が変形したものであろう。

(引用文献)

石野博信 2012 「放射状区画珠文鏡考」『兵庫県立考古博物館研究紀要』第4号、兵庫県立考古博物館、1-6頁。

今井 堯 1991 「中・四国地方古墳出土素文・重圏文・珠文鏡—小形倭鏡の再検討I—」『古代吉備』第13集、古代吉備研究会、1-26頁。

岩本 崇 2012 「中村1号墳出土珠文鏡と出雲地域の銅鏡出土後期古墳」『中村1号墳』出雲市教育委員会、183-196頁。

上野祥史 2004 「韓半島南部出土鏡について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第110集、国立歴史民俗博物館、403-434頁。

小田富士雄 1987 「韓国古墳出土の倭鏡」『考古学叢考』上巻、吉川弘文館、551-567頁。

後藤守一 1926 「仿製鏡に就いて」『漢式鏡』雄山閣、877-897頁。

小林三郎 1979 「古墳時代初期倭製鏡の一側面—重圏文鏡と珠文鏡—」『駿台史学』46 明治大学史学地理学会、78-96頁。

小林三郎 1982 「古墳時代倭製鏡の鏡式について」『明治大学人文科学研究所紀要』第21冊 明治大学、89-166頁。

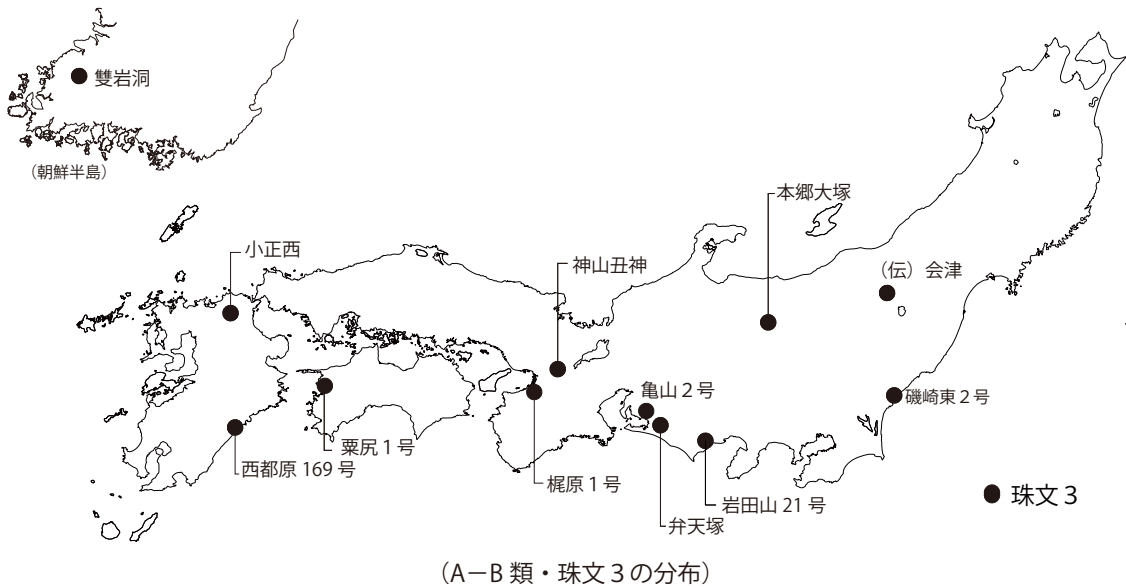
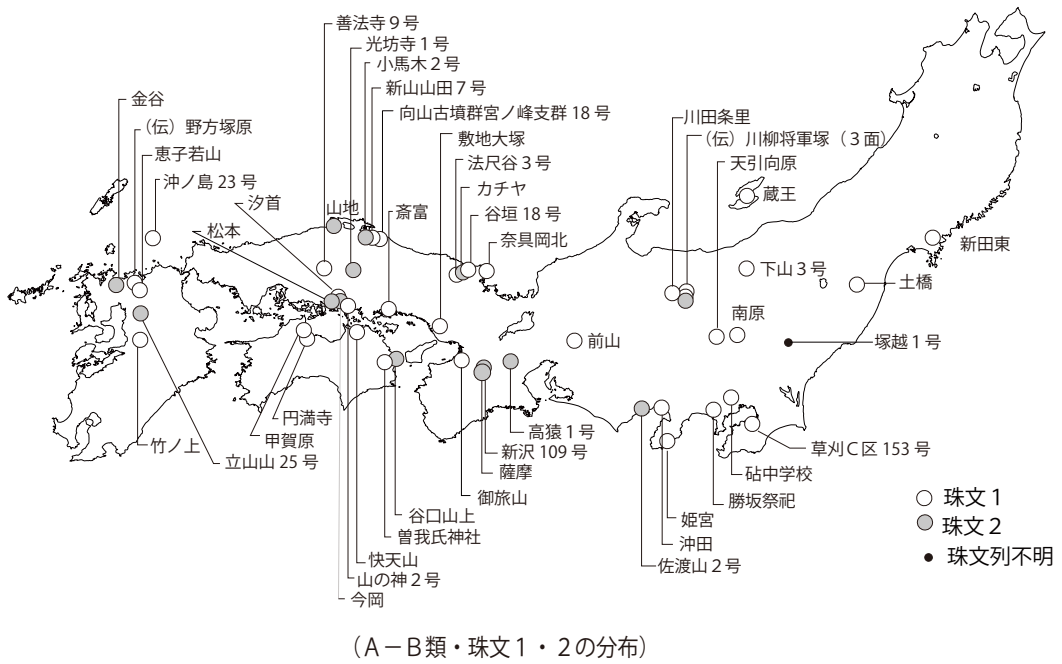
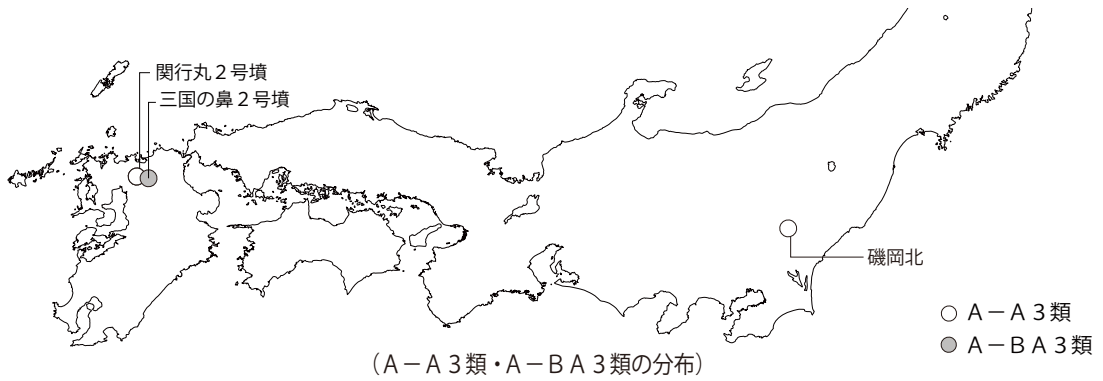
小林三郎 2010 『古墳時代倭製鏡の研究』六一書房。

下垣仁志 2011b 『古墳時代の王権構造』吉川弘文館。

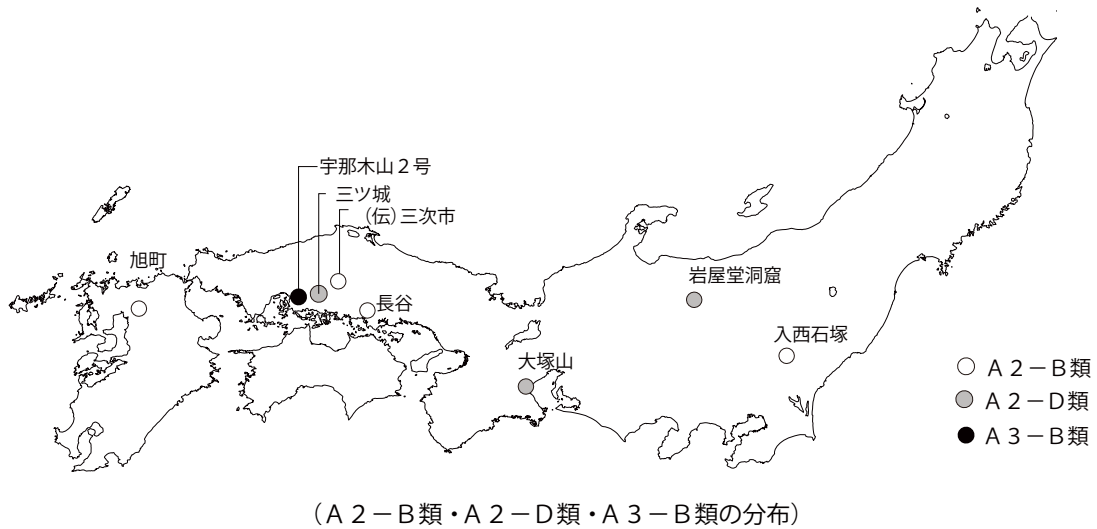
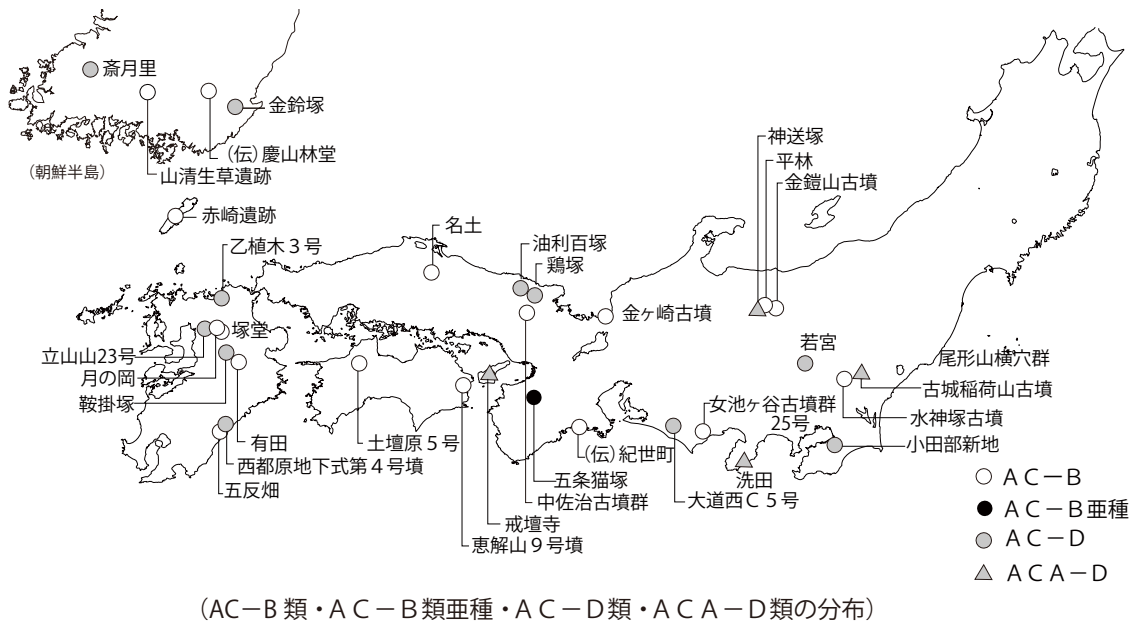
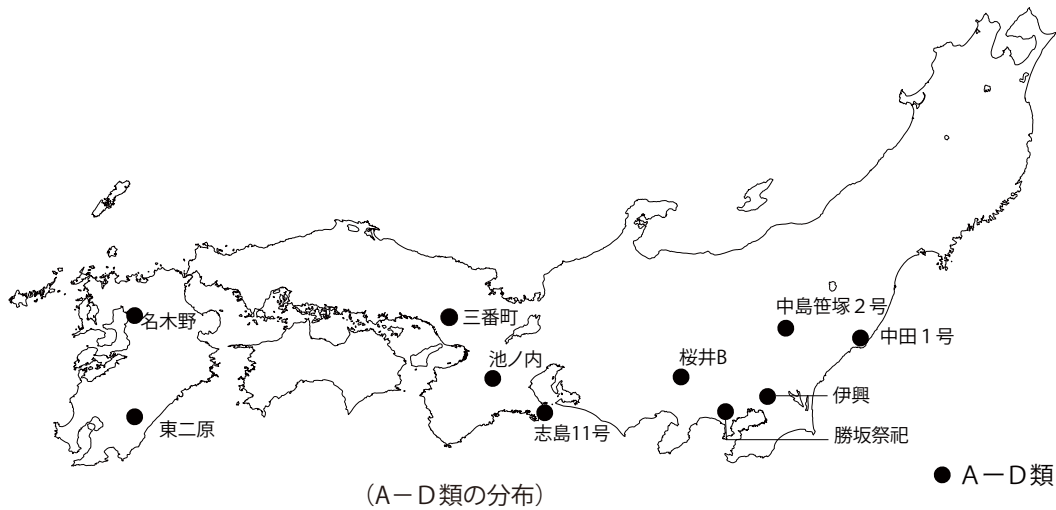
田尻義了 2005 「近畿における弥生時代小形倭製鏡の生産」『東アジアと日本—交流と変容—』第2号、九州大学大学院比較社会文化研究院、29-45頁。

田尻義了 2012 『弥生時代の青銅器生産体制』(株)九州大学出版会。

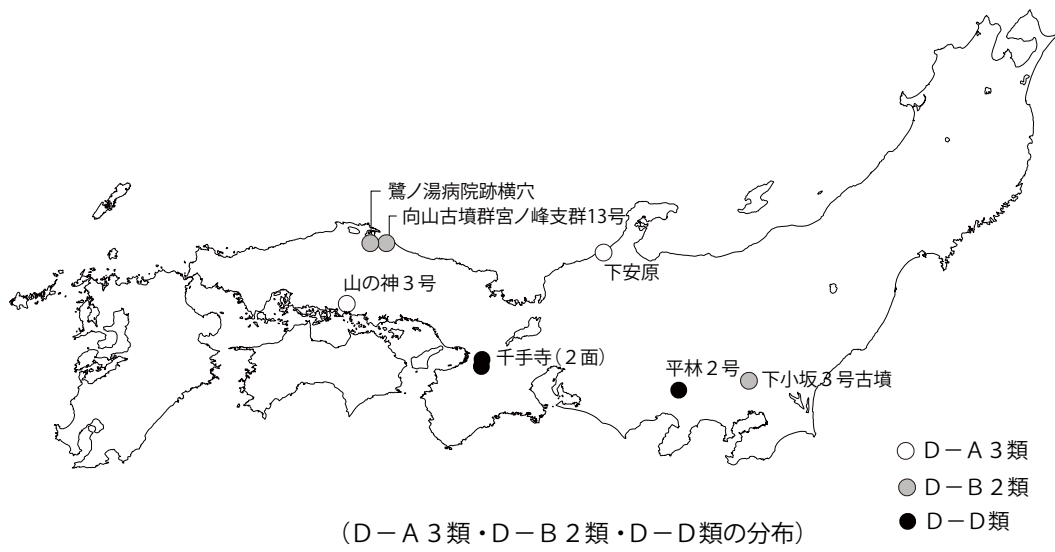
- 趙 栄济 2004 「西部慶南地域伽耶古墳発見の倭系文物について」『福岡大学考古学論集』小田 富士雄先生退職記念事業会、303 - 315 頁。
- 中山清隆・林原利明 1994 「古型倭製鏡の基礎的集成（1）—珠文鏡の集成—」『地域相研究』21、地域相研究会、95 - 125 頁。
- 林 正憲 2005 「小形倭鏡の系譜と社会的意義」『待兼山考古学論集—都出比呂志先生退官記念—』大阪大学考古学研究室、267 - 290 頁。
- 林原利明 1990 「弥生時代終末～古墳時代前期の小形倭製鏡について」『東国史論』第5巻、群馬考古学研究会、49 - 64 頁。
- 樋口隆康 1979 『古鏡』 新潮社。
- 藤岡孝司 1991 「重圈文鏡（倭製）鏡小考—3～4世紀における—小形倭製鏡の様相—」『君津郡市文化財センター研究紀要V—設立10年記念論集—』財団法人君津郡市文化財センター、57 - 75 頁。
- 森下章司 1991 「古墳時代倭製鏡の変遷のその特質」『史林』第74巻第6号、史学研究会、1 - 43 頁。
- 森下章司 2002 「古墳時代倭鏡」『考古資料大観』第5巻、弥生・古墳時代 鏡、小学館、305 - 316 頁。
- 吉田博行 1999 「放射状区画をもつ珠文・乳文鏡について」『森北古墳群』創価大学・会津坂下町教育委員会、139 - 150 頁。
- 脇山佳奈 2013 「珠文鏡の研究」『史学研究』第279号、広島大学史学研究会、2013、1 - 28 頁。



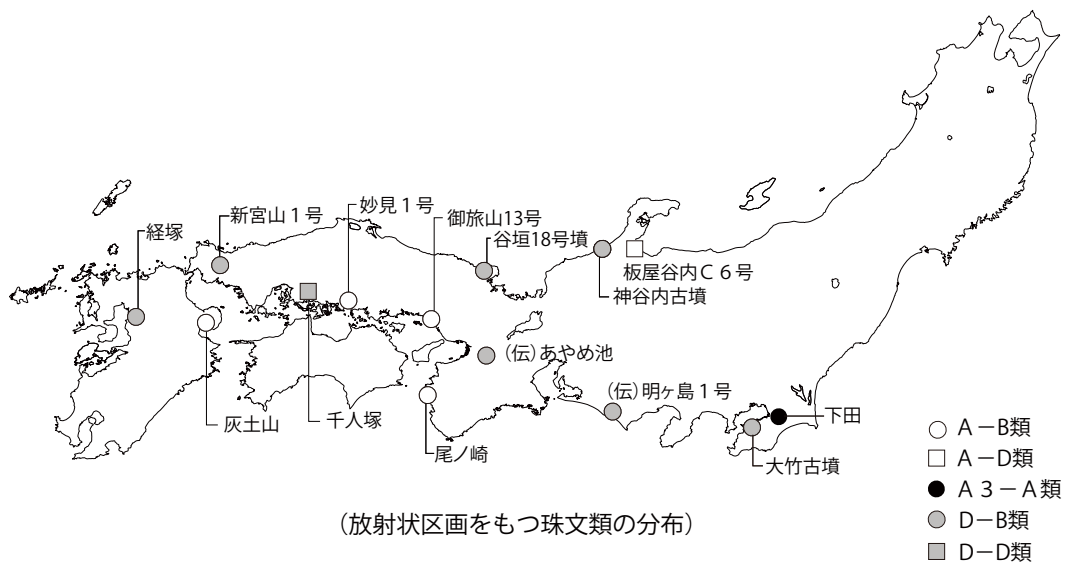
第67図 珠文鏡出土の遺跡名



第 68 図 珠文鏡出土の遺跡名



第70図 珠文鏡出土の遺跡名



第71図 放射状区画をもつ珠文鏡出土の遺跡名



①宮崎県五反畑遺跡1号木棺墓出土珠文鏡



②宮崎県東二原地下式横穴墓群2号
出土珠文鏡



①宮崎県西都原4号地下式横穴墓出土珠文鏡

第72図 珠文鏡の諸例



①熊本県久保原石棺出土珠文鏡



②佐賀県関行丸古墳第2主体出土珠文鏡



③佐賀県関行丸古墳第3主体出土珠文鏡

第 73 図 珠文鏡の諸例



①佐賀県中隈山5号墳出土珠文鏡



②福岡県鋤崎古墳出土珠文鏡

第74図 珠文鏡の諸例



①福岡県成屋形 C 号石棺出土珠文鏡



②福岡県乙植木 3 号墳出土珠文鏡



③福岡県三国の鼻 1 号墳北くびれ部
出土珠文鏡

第 75 図 珠文鏡の諸例



①愛媛県円満寺古墳出土珠文鏡



②香川県居石遺跡出土珠文鏡



③香川県野午古墳出土珠文鏡

第76図 珠文鏡の諸例



①広島県三ツ城古墳出土珠文鏡

②広島県山武士塚2号墳出土珠文鏡



③広島県宇那木山2号墳出土珠文鏡

第 77 図 珠文鏡の諸例



①広島県善法寺9号墳出土珠文鏡



②広島県四拾貫小原1号墳出土珠文鏡



③広島県松本古墳出土珠文鏡



④広島県今岡古墳出土珠文鏡

第78図 珠文鏡の諸例



①広島県汐首3地区C遺跡出土珠文鏡



②広島県山の神2号墳出土珠文鏡



③広島県山の神3号墳出土珠文鏡



④広島県国成古墳出土珠文鏡



⑤広島県寺山1号墳出土珠文鏡



⑥岡山県横田遺跡出土珠文鏡

第79図 珠文鏡の諸例



①岡山県光坊寺1号墳出土珠文鏡



②島根県社日2号墳出土珠文鏡



③鳥取県宮ノ峰支群14号墳出土珠文鏡



④鳥取県宮ノ峰支群13号墳出土珠文鏡

第80図 珠文鏡の諸例



①鳥取県向山古墳群宮ノ前支群 18号墳出土珠文鏡



②兵庫県藤江別所遺跡出土珠文鏡



③兵庫県藤江別所遺跡出土珠文鏡



④京都府馬場遺跡出土珠文鏡



⑤大阪府千手寺遺跡出土珠文鏡



⑥大阪府千手寺遺跡出土珠文鏡

第 81 図 珠文鏡の諸例



①滋賀県金森西遺跡出土珠文鏡



②福井県戸板山6号墳出土珠文鏡



③金沢県下安原遺跡出土珠文鏡

第82図 珠文鏡の諸例



①静岡県若王子 31 号墳出土珠文鏡



②静岡県女池ヶ谷 25 号墳出土珠文鏡



③静岡県川合遺跡出土珠文鏡

第 83 図 珠文鏡の諸例



①山梨県平林2号墳出土珠文鏡



②長野県篠ノ井遺跡出土珠文鏡



③長野県川田条里遺跡出土珠文鏡



④千葉県草刈遺跡C区153号竪穴住居出土珠文鏡

第84図 珠文鏡の諸例



①千葉県草刈遺跡C区097号竪穴住居
出土珠文鏡



②東京都伊興遺跡出土珠文鏡



③埼玉下小坂3号墳出土珠文鏡



④群馬県天引向原遺跡出土珠文鏡

第 85 図 珠文鏡の諸例



①茨城県磯崎東2号墳出土珠文鏡



②静岡県白砂ヶ谷遺跡E地区1号墳

第86図 珠文鏡の諸例

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代／大賀編年	分類	内区分類	面径	副葬品／共伴する遺物	共伴鏡
1	宮崎県小林市	東二原地下式横穴2号	地下式横穴墓			後期	D-A	②	5.0	鉄鏃18・刀子2	
2	宮崎県東諸郡国富町	大野原地下式横穴8号	地下式横穴墓			後I期			7.0	硬玉勾玉2・小型管玉・三叉鏃1・鉄斧1・直刀1・素環頭直刀1・刺3・鉄1・鉄鏃・三角板革線衝角付冑・冑甲1・毛抜状鉄器1	
3	宮崎県宮崎市	五反畑遺跡B地区1号木棺墓	古墳	木棺墓		後期	A-C-B	③	7.7	棺内：鉄剣1・刀子2・ガラス製小玉625・滑石製臼玉668、棺外：鉄刀1・鉄斧1	
4	宮崎県西都市	西都原169号(旧110墳)(飯盛塚)	円墳	粘土棚?		中IV期	A-B	③	6.9	櫛1・銅釧1・刀子2・鉄斧2・鉄鏃・直刀	
5	宮崎県西都市	西都原地下式横穴4号	古墳	地下式横穴墓		中IV期	A-C-D	②	8.9	管玉16・硬玉製勾玉1・直刀5・丸玉105・小玉64・滑石製管玉11・鉄鏃・短甲	
6	大分県日田市	有田古墳	古墳	横穴式石室	不明	後I期	A-C-B	③	8.3	碧玉製勾玉1・碧玉製管玉10・ガラス製丸玉70・須臾器・土師器	仿製四獣鏡1(11.8)
7	熊本県八代市	用七遺跡	包含層			判断不可	D-B	②	5.8		
8	熊本県宇土市	古保里2号石棺	古墳	箱式石棺		判断不可	D-B	①	6.3	勾玉・管玉・小玉・鈿・刺	
9	熊本県阿蘇郡一の宮町	鞍掛塚古墳	円墳	箱式石棺		判断不可			6.4	勾玉・管玉・小玉・銀環・刺	乳文鏡1(20.5)・仿製四獣形鏡1(14.8)・珠文鏡1
10	熊本県阿蘇郡一の宮町	〃	円墳	箱式石棺		判断不可	A-C-D	①	5.3	勾玉・管玉・小玉・銀環・刺	〃
11	熊本県熊本市	竹ノ上石棺	古墳	箱式石棺		判断不可	A-B	①	7.1		
12	熊本県鹿本郡鹿央町	久保原石棺	古墳	箱式石棺	不明	前Ⅷ?	D-B	②	6.2	鈿1・刀子1・鍔先1・直刀1	
13	長崎県長崎市	宮田古墳群1号石棺	古墳	箱式石棺		中I期~中IV期	D-B	①	6.8	石枕1・刀子1	
14	長崎県下県郡美津島町	赤崎遺跡2号石棺	古墳	箱式石棺		中I期~中IV期	A-C-B	②	7.7	ガラス小玉・陶質土器	
15	佐賀県唐津市	追頭11号墳主体部	円墳	横口式石室		中I期~中IV期			不明	鉄刀2・滑石製臼玉・ガラス玉2500	
16	佐賀県唐津市	追頭13号墳主体部	古墳	横口式石室土壌		中I期~中IV期			不明	硬玉管玉5・碧玉管玉10以上	
17	佐賀県唐津市	金谷古墳主体部	円墳	横口式石室		後I期~後II期	A-B	②	不明	銅製耳環1・碧玉製管玉・ガラス小玉・鉄刀2・須臾器	乳文鏡1(欠損)
18	佐賀県小城郡小城町	不明				不明					
19	佐賀県佐賀市	関行丸古墳第2主体	前方後円墳	横穴式石室	55	後I期	D-B	①	7.2	金銅製冠釧1具・貝輪1・鹿角装刀子1・鹿角柄尖頭工具1	
20	佐賀県佐賀市	関行丸古墳第3主体	前方後円墳	横穴式石室	55	後I期	A-A3	③	8.7	勾玉1・水晶環玉1・碧玉管玉12・ガラス管玉1・ガラス小玉800・貝輪1・金銅製細環1・鹿角装刀子7・鉄鏃1・櫛状金具1	変形文鏡1(7.6)

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大賀編年	分類	内区分類	面径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
21	佐賀県佐賀市	不明	古墳			不明	A2-B		9.0		
22	佐賀県鹿嶋市	旭町出土	古墳			不明	A2-B	②	9.0		
23	佐賀県三養基郡基山町	中腰山5号墳第1主体	古墳	粘土帶・割竹形木棺	不明	前IV期~前V期	D-B	①	5.7	鏡・刀子・勾玉・管玉	
24	福岡県みやま市	名木野11号墳	円墳	横穴式石室	11	後II期	斜構一斜構一縦	③	7.2	管玉7・ガラス玉(大)28・ガラス玉(小)25・銅剣2・刀子5・鹿角菱刀子1・鉄鏡2・鏡板2・引手金具1・銜・須恵器	珠文鏡1
25	福岡県みやま市	名木野11号墳	円墳	横穴式石室	11	後II期	A-D	③	7.8	管玉7・ガラス玉(大)28・ガラス玉(小)25・銅剣2・刀子5・鹿角菱刀子1・鉄鏡2・鏡板2・引手金具1・銜・須恵器	珠文鏡1
26	福岡県八女市	立山山25号墳	円墳	竪穴系横口式石室	9.5	中IV期	A-B	②	5.9	刀子1・鉄鏡16以上・鉄剣1・大刀2	
27	福岡県八女市	立山山23号墳	円墳	竪穴系横口式石室	13	中II期	A-C-D	①	7.5	勾玉・鉛玉1・ガラス玉75・臼玉945・刀子4・鉄鏡・鉄剣2・弓付鳳金具・銜・鏡・銜・須恵器	
28	福岡県八女市	塚堂古墳	古墳	横穴式石室		中III期	A-C-B	②?	復元 6.5	鏡4以上・硬玉製勾玉3・ガラス製勾玉1・ガラス製管玉・ガラス製小玉・ガラス製小玉・ガラス製白玉・清石製扁平勾玉3・清石製白玉多数・挂甲小札・鉄刀3・鉄剣破片・鉄鏡多数・胡録金具1・金銅製鍍金具・鉄地金銅張1字形鏡板1・木心鉄板撥備履1対・三輪付環釧1・鉄具・金銅製鍍金具10・金銅製円盤1・金銅製腕形品・清石製有孔円板5	6鏡式の鏡片
29	福岡県八女市	月岡古墳	古墳			中III期	A-C-B	②	6.9	臼玉・帯金具、勾玉、管玉、磁石、磁石、鉄斧、鉄剣、鉄鏡多数、青、鍍小札、金具、馬具	
30	福岡県小郡市	三國の鼻1号墳北くび丸部	前方後円墳	粘土帶	66	前III期~前IV期	A-B A3	②	6.4	土師器	
31	福岡県太宰府市	宮ノ本遺跡宮ノ本5号墳第1主体	方墳	木蓋土壇墓(棺外)	8×9	前III期	D-B	①	4.8	土師器	
32	福岡県太宰府市	成慶形遺跡C号石棺	方墳	竪穴式石室		判断不可	D-B	②	7.1		
33	福岡県福岡市	恵子若山古墳	円墳	粘土帶	18	前V期~前VII期	A-B	①	7.2	ガラス小玉1・土師器	
34	福岡県福岡市	藤崎遺跡第7号方形周溝墓	方墳	周溝	14.2×14.7	前III期~前IV期	D-B	②	約7.0	土師器・管玉4	
35	福岡県福岡市	(伝)野方塚原遺跡	古墳?			後I期~後IV期	A-B	①	6.1		
36	福岡県福岡市	駒崎古墳第1号埋葬施設	前方後円墳	横穴式石室	58	前V期~前VII期	D-B	①	9.2	磨手刀子2・針3・刀子・鏡・直刀2・剣1・鉄	仿製四獣鏡1 (11.8)
37	福岡県粕屋郡須恵町	乙植木3号墳	円墳	横穴式石室		後I期	A-C-D	②	8.2	ガラス粟玉296・ガラス小玉28・ガラス丸玉49・銅劍1・刀子2・手斧鏡2・釘12・鉄鏡1・鉄剣3・短刀2・須恵器・土師器・鏝子1・不明鉄器	変形文鏡1 (11.7)

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代／大冢編年	分類	内区分類	面径	副葬品／共伴する遺物	共伴鏡
38	福岡県粕屋郡須恵町	(伝) 字仙道				不明					
39	福岡県粕屋郡粕屋町	(伝) 大字大隈・大間				不明					
40	福岡県赤松市	沖ノ島7号遺跡中央部	祭祀遺跡			後I期～後IV期	BC-D	③	9.2	硬玉勾玉1・碧玉管玉10・滑石勾玉2・滑石管玉11・滑石珠玉4・滑石小玉298・ガラス小玉75・車輪石2・石鏡1・鉄劍4・藤手刀子3・鉄剣6・有蓋鉄剣1・鉄刀5	細片
41	福岡県赤松市	沖ノ島23号遺跡	祭祀遺跡			後I期～後IV期	A-B	①	6.0	夏岩管玉・ガラス小玉・滑石臼玉・金銅刀装具・鉄刀・鉄鏃・滑石製有孔円板・貝製品・鉄環・雞形鉄剣・金製指輪・金製劍・銀製劍・馬具・鉄剣・鉄刀・鉄斧・鉄矛・小札	
42	福岡県赤松市	手光長畑遺跡古墳主体部	円墳		6～18	古墳時代	D-B	②?	6.4		
43	福岡県赤松市	津屋崎41号墳	前方後円墳	横穴式石室	97	中Ⅲ期～中Ⅳ期	不明	不明	不明	銅劍1・ガラス連玉6・ガラス丸玉8665・ガラス小玉1900・琥珀玉92以上・琥珀勾玉8・碧玉管玉4・翡翠勾玉1・ガラス管玉1・琥珀5・鹿角製刀装具付刀子6・鉄刀子21・鹿角製刀装具付大刀40以上・鹿角製装身具付剣4・素環頭大刀1・鍔製削匠金具1・鉄鏃300以上・短甲・須臾器	神獸鏡様式1(破片)・不明1(破片)・圖文帯神獸鏡1(破片)・内行花文鏡1(破片)・内行花文鏡1(破片)・方格規矩鏡1(破片)
44	福岡県若宮市	小倉古墳	円墳	横穴式石室	18	後I期	B-A	①	8.5	鉄鏃・鉄劍・銅劍・翡翠勾玉2・耳環・ガラス小玉1000以上・硬玉管玉・碧玉管玉あわせて40以上・鉄刀・土師器・須臾器	
45	福岡県飯塚市	小正西古墳第2石室	円墳	横穴式石室	28.5	中Ⅳ期	A-B	③	7.0	須臾器・鉄刀4・鉄鏃50・鉄鏃1・鉄刀子4・鉄鏃3・鐘状鉄製品2・イモガイ製貝輪1・銅環1・瑠璃製勾玉1・水晶製勾玉1・ガラス製管玉7・碧玉製管玉12・琥珀製管玉2・瑠璃製丸玉1・石製製空玉1・ガラス製丸玉67・土玉81・ガラス製小玉74・滑石製玉1	
46	福岡県田川市	セストノ古墳	円墳	横穴式石室	36	中Ⅲ期～中Ⅳ期	不明		6.9	金冠片・金銅製裝飾付耳飾り・耳環・硬玉勾玉・ガラス丸玉・琥珀丸玉・滑石臼玉・桶・鉄剣1・大刀7・鉄矛2・槍先1・石穿3・鉄鏃・鹿角製刀装具・横穴板紙留短甲・陶質土器・滑石製有孔円板	
47	福岡県北九州市	平石棺墓	方墳?	箱式石棺		前期のみ	D-B	②	7.8	鉄製利器	
48	愛媛県東宇和郡宇和町	粟尻1号墳	円墳	横穴式石室	16	後I期～後IV期	A-B	③	7.0	金環1・銅環4・ガラス製勾玉・管玉・小玉・直刀・須臾器	
49	愛媛県松山市	土道原5号墳	方墳	1号竪穴式石室		中I期～中Ⅱ期	AC-B	③	10.0	鉄刀・鉄剣	
50	愛媛県西条市	(伝) 愛媛				不明					
51	愛媛県西条市	甲賀原古墳群	円墳			古墳時代	A-B	①	6.0		
52	愛媛県西条市	円満寺古墳	古墳	箱式石棺		古墳時代	A-B	①	7.0		

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代／大貫編年	分類	内区分類	面積	副葬品／共伴する遺物	共伴鏡
53	徳島県名西郡石井町	曾我氏神社1号墳第2主体部	円墳	竪穴式石室	11	前V期～前IV期	A-B	①	4.0	石剣2・硬玉製勾玉1・瑪瑙製管玉1・管玉16・ガラス小玉7	
54	徳島県徳島市	徳島市西名東町出土	採集品			不明		①	6.2		
55	徳島県徳島市	意保山9号墳南棺	円墳	竪穴式石室	9.5×14	不明	A-C-B	②	8.6	勾玉2・鉄刀5・鉄鏃40・刀子2・鉈4・鉄鏃2	
56	徳島県鳴門市	谷口山上古墳	古墳	箱式石棺		前V期～前IV期	A-B	②?	7.4	勾玉2・管玉2・小玉・臼玉・柄頭・琴字形石製品1	
57	香川県丸亀市	快天山古墳前方部箱式石棺のいすれか	前方後円墳	箱式石棺	100	前IV期	A-B	①?	4.5	埴輪	
58	香川県丸亀市	やくし古墳	前方後円墳	箱式石棺	35	判断でき ない	D-B	①	7.1		
59	香川県坂出市	雄山6号墳	円墳	横穴式石室	12	後II期	D-B	③ (4 列)	5.6	鉄鏃・刀子3・鉄鏃1・鉄鉈1・碧玉製管玉5・緑色凝灰岩製管玉7・ガラス製小玉13・緑玉・須恵器	
60	香川県高松市	居石遺跡	祭祀遺跡	祭祀遺跡		前IV期～前V期	D-B	①	5.4	土師器	素文鏡1 (2.75)・重 面文鏡1 (3.55)
61	香川県さぬき市	野牛古墳	古墳	箱式石棺		前VI期～前IV期	D-B	①	9.6	瑪瑙製勾玉1・翡翠製勾玉1・碧玉製管玉2・緑色凝灰岩製管玉3・ガラス小玉50・滑石製臼玉64・ヤス杖状鉄器3以上・針状鉄器1・不定形垂飾具1	
62	広島県広島市	山武士塚2号墳	円墳	竪穴式石室		中期	D-B	①	6.6	小形鉄斧1・鉄剣1・鉄鏃1・刀子1・鉄斧1・鉄鏃1	
63	広島県広島市	宇那木山2号墳	前方後円墳	竪穴式石室	40	前II期	A3-B	③	10.1	鉄斧1・鉄鉈1・鉄剣1・鉄槍1・土師器	
64	広島県東広島市	三ツ城古墳	前方後円墳	箱式石棺	92	中II期	A2-D	②	6.7	管玉16・鉄刀2・	
65	広島県三次市	不明	古墳	箱式石棺		不明	A2-B	②	8.2		
66	広島県三次市	牛淵トンネル上古墳	古墳?			不明			不明		
67	広島県三次市	善法寺第9号墳前方部C主体部	前方後円墳	竪穴式石室	35	中I期～中IV期	A-B	①	6.4	銅先1・鉈1	
68	広島県三次市	四拾貫小原1号墳A主体	円墳	木棺直葬	26	中II期～中IV期	D-B	①	6.8	鉄斧1・鉄鉈先1・土師器・須恵器	
69	広島県庄原市	川手町所在の古墳	古墳?			不明		①	8.4		
70	広島県福山市	松本古墳	円墳	竪穴式石室	40	中II期	A-B	②	6.2	鉄刀1・磁石	
71	広島県福山市	今岡古墳	古墳			古墳時代	A-B	②	7.3		
72	広島県福山市	今岡小池所在古墳	古墳			古墳時代	D-B	①	5.4		
73	広島県福山市	汐言C遺跡3地区SK-5	円墳	木棺墓		前I期～前IV期	A-B	①	4.7	鉄刀1・刀子1・鉄斧1・鉈1・鉄鏃1	
74	広島県福山市	山の神3号墳第1主体部	円墳	箱式石棺	20	前VI期～前IV期	D-A3	①	5.1	管玉7・ガラス小玉4	
75	広島県福山市	山の神2号墳	円墳	箱式石棺		前VI期～前IV期	A-B	①	4.2	管玉1・刀子1・鉈1・土師器	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	通跡年代 /大貫編 年	分類	内区分類	面径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
76	広島県福山市	国成古墳	円墳	粘土椁	20	中Ⅱ期~ 中Ⅲ期	D-B	①	5.9	埴輪・須恵器・双孔円板9・硬玉製勾玉1・碧玉製管玉2・ガラス製丸玉9・ガラス製小玉13・滑石製臼玉39・鉄鏃1・刀子2・鉄刀5	
77	広島県府中市	寺山1号墳	円墳	箱式石椁	13	中Ⅲ期~ 中Ⅳ期	D-B	①	6.5	鉄刀1・鉄鏃2・鏡1・釧1	
78	広島県府中市	平井古墳	円墳	横穴式石椁		後期		①?	不明	直刀3・刀子3・鉄鏃14・鉄器片49・指環1・青銅接飾品9・釧1対・鏡板・水晶刀子玉7・出雲の刀子玉・管玉7・吹玉2・葉玉1・土師器・須恵器	
79	岡山県	不明				不明			8.0		
80	岡山県	不明				不明			9.0		
81	岡山県新見市	横田遺跡4区丘陵南端 の裏土中	古墳?			不明		②	6.0		
82	岡山県新見市	光坊寺1号墳第V主体 部	円墳	箱式木椁	13.6× 14.4	前Ⅵ期~ 前Ⅳ期	A-B	②	7.8	土師器・ガラス小玉4	
83	岡山県小田郡矢掛 町	長谷古墳	古墳	箱式石椁		古墳時代	A2-B	①	8.0	武器・工具	
84	岡山県吉備郡真備 町	上二万古墳	古墳?	箱式石椁		不明			7.4	武器	
85	岡山県吉備郡真備 町	不明	古墳?	箱式石椁		不明			不明		
86	岡山県総社市	福砂古墳主体部	円墳		不明	不明			10.0	刀子玉4・管玉8・勾玉2・ガラス丸玉17・ガラス小玉2・鉄斧・須恵器	
87	岡山県総社市	殿山10号墳第1主体部	方墳	箱式木椁	13×15	前Ⅲ期	D-B	①	5.1	鏡1・鉄剣1・管玉1・小玉2	
88	岡山県岡山市	向山1号墳主体部	円墳	箱式石椁		不明		①	8.0	ガラス小玉1・ガラス丸玉1・硬玉勾玉1・管玉9・刀子3・鉄鏃1	仿製六弧内行花文鏡1 (10)
89	岡山県赤松市	斎宮遺跡	集落跡	竪穴住居		前Ⅵ期~ 前Ⅳ期	A-B	①	6.3	陶質土器・土師器	
90	岡山県久米郡備原 町	月の輪古墳中央椁	円墳	粘土椁	61	中Ⅰ期	A-B至	③	9.8	勾玉2・管玉16・甲1・短剣13・鉄刀3・鉄剣1・銅鏃63本・鉄鏃2束・刀子4・鏡4・釧8・短甲1	
91	島根県出雲市	山地古墳第2埋葬主体	円墳	磯敷箱式木椁	24	前Ⅴ期~ 前Ⅳ期	A-B	②	8.0	筒型銅器1	
92	島根県出雲市	中村1号墳	円墳	横穴式石室	30	後Ⅲ期	B C-D	②	7.6	耳環・ガラス玉・飾・裝飾大刀・鉄鏃・刀子・馬具・須恵器	
93	島根県松江市	奥才12号墳第3主体	方墳	箱式木椁	18	前Ⅳ期	D-B	①	復元 6.7・ 研磨	碧玉製管玉3	
94	島根県松江市	社日2号墳	方墳		11×12	前Ⅴ期~ 前Ⅳ期	D-B	①	6.4	管玉1	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大冢編年	分類	内区分	面積	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
95	鳥根県松江市	御崎山古墳	前方後方墳	横穴式石室	41以上	後Ⅲ期	B C-D	③	8.2	副葬品/共伴する遺物 金銅製約金具2・金銅製蓋形金具2・埴輪・土師器・須恵器・金環2・銅環1・環頭太刀・短剣1・鉄鏃106・刀子2・鈴4・雲珠1・辻金具2・管1・須恵器・土師器・埴輪	
96	鳥根県安来市	鷲ノ湯病院跡横穴	横穴墓			後Ⅲ期	D-B2	③	7.8	金銅製太型中空互環1対・金銅製立飾1・鍍金環鍍金環文叉品1対・鍍金環2対・琥珀雲玉・方玉ス曰玉68・金銅空丸玉13・針金鍍岩金銅蓋形空丸21・黒竜環頭太刀1・金銅鍍円頭太刀1・鍍金刀残欠1・圓弧文鹿角鍍刀子1・刀子7・管1・鉄地金銅基礎金具1・鉄地金銅鍍雲珠残欠1・鉄地金銅鍍辻金具2	
97	鳥根県安来市	小馬木2号墳	円墳	木棺直葬	11	後Ⅰ期	A-B	②	7.0	須恵器・土師器・埴輪	
98	鳥根県隠岐郡隠岐	向山南古墳	円墳	箱式石棺	15	古墳時代			10.5		
99	鳥取県日野郡日南町	名土古墳	古墳	箱式石棺		古墳時代	A C-B	②	8.8	ガラス玉28・切子玉1・鉄刀2	
100	鳥取県米子市	新山山田遺跡(溝)	集落跡	溝		不明	D-B	不明欠損			
101	鳥取県米子市	新山山田7号墳	古墳	木棺直葬	11	後Ⅰ期	A-B	①	7.5	須恵器・土師器	
102	鳥取県米子市	吉谷12号墳	円墳	竪穴式石室	20	前Ⅵ期	D-B	③	7.8	ガラス小玉151・勾玉3・管玉15・土師器直口壺2・鉄器1	
103	鳥取県西伯郡淀江町	(伝) 淀江町宇田川~百塚原付近				不明		②~③	4.8		
104	鳥取県西伯郡大山町	園檀1号墳	円墳	箱式石棺	小	不明	A-?	①	7.3	勾玉	
105	鳥取県倉吉市	(伝) 倉吉市上神宇猫山				不明					
106	鳥取県倉吉市	猫山遺跡第1号方形周溝墓	方墳		不明	中期	?-C-B	②	破片・不明	土師器	
107	鳥取県倉吉市	向山古墳群宮ノ峰支群18号墳主体部	方墳	木棺	16.4×17.4	判断不可	A-B	①	5.9		
108	鳥取県倉吉市	向山古墳群宮ノ峰支群14号墳主体部	方墳	木棺	13×15	前Ⅴ期~前Ⅳ期	D-B	①	6.2	刀子1・管玉1・小玉1	破片
109	鳥取県倉吉市	向山古墳群宮ノ峰支群13号墳主体部	方墳	木棺	15.6×20	前Ⅴ期~前Ⅳ期	D-B2	②	7.2		
110	鳥取県鳥取市	大部山21号墳	円墳	埋土	10	前Ⅲ期~前Ⅳ期	D-B	③	6.7	土師器(鼓形器台2・壺形土器1)	
111	鳥取県鳥取市	美和34号墳	方墳	土器棺蓋	13	前Ⅲ期~前Ⅳ期	D-B	②	7.4	小玉40・土師器	
112	鳥取県鳥取市	広岡88号墳	方墳	木棺	9×8	前期			7.5	不明鉄器・土師器	
113	兵庫県三原郡三原町	戒壇寺遺跡	探検品			不明	A C-A-D	②	8.5		

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大冢編年	分類	内区分類	面径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
114	兵庫県佐用郡佐用町	円成寺2号墳	円墳	箱式石棺	19.4	不明	D-B	①	6.1	碧玉製勾玉・滑石製勾玉・ガラス製勾玉あわせて40以上・小玉・鉄刀・鉄剣	
115	兵庫県播磨郡御津町	権現山桐山9号墳	方墳	竪穴式石室	9×15	前期	D-B	①	5.6		
116	兵庫県姫路市	八代山1号墳	円墳	箱式石棺		中I期~ 中IV期	不明	②	7.5	鉄斧1・鉄剣1・鉄鏃1・刀子	
117	兵庫県加西市	亀山古墳第2主体部	帆立貝形古墳	竪穴式石室	48	中IV期~ 後II期	B-A	③	6.1	短甲1・鉄刀1・鉄剣3・鉄鏃	
118	兵庫県小野市	敷地大塚古墳	円墳	粘土槨	47	中I期~ 中IV期	A-B	①	6.0	碧玉製管玉15・ガラス製小玉5・鏃7	獸形鏡1(16.1)・方格規矩鏡2(15.3・15.4)・撰文鏡1(6.7)・内行花文鏡1(15~16)
119	兵庫県小野市	"	円墳	粘土槨	47	中I期~ 中IV期	D-B	①	約6.0	碧玉製管玉15・ガラス製小玉5・鏃7	"
120	兵庫県明石市	藤江別所遺跡	祭祀遺跡			前II期~ 前IV期	D-B	①	5.1	車輪石1・滑石製勾玉1・土師器	柳瀬文鏡3(3.87・4.15・6.47)・珠文鏡1・素文鏡2(3.96・2.59)・重圓文鏡1(3.34)
121	兵庫県明石市	藤江別所遺跡	祭祀遺跡			前II期~ 前IV期	D-B	②	6.5	車輪石1・滑石製勾玉1・土師器	"
122	兵庫県神戸市	三番町遺跡	集落跡	溝		不明	A-D	①? 4.9		土師器・木製品・木の葉	
123	兵庫県篠山市	大師山6号墳	円墳	割竹形木棺	10×15	中II期	D-B	②	6.1	上段墓室底:珠文鏡1・鉄削2・鉄刀1・鉄剣1・鉄鏃3・鉄斧2・鉄鏃2・鉄てい11・滑石製勾玉116・滑石製管玉1・グリ-ンタフ製管玉1・ガラス丸玉1・蛇紋岩製小玉10	
124	兵庫県丹波市	油利百塚古墳群中	円墳?			不明	A-C-D	②	7.6		
125	兵庫県水上郡青垣町	中佐治5号墳	円墳	竪穴系横口式石室	18	中IV期	A-C-B	②	8.8	鉄剣1・鉄斧1・鉄鏃先2・須恵器・土師器	
126	兵庫県美方郡香美町	文堂古墳	円墳	横穴式石室	15	後IV期	B-C-D	②	8.2	鉄鏃・刀子・大刀輪尻・須恵器・馬具・金銅装頭椎大刀1・金銅装頭大刀1・金銅装方頭柄頭1・大刀5・金環1・勾玉1・ガラス丸玉3・珠文鏡1・金銅装馬具・土師器・須恵器	
127	兵庫県養父郡八鹿町	源氏山4号墳第3主体部	方墳	木棺直葬	7×10	中期	D-B	①	5.9	鉄鏃・鉄斧1・土師器・管玉2	
128	兵庫県豊岡市	法尺谷3号墳第1主体部	円墳	木棺直葬	19.5	前VI期~ 前IV期	A-B	①	5.7	水島製勾玉1・白色の勾玉1・碧玉製管玉1・滑石製管玉1・ガラス製小玉11	
129	兵庫県城崎郡日高町	太田谷	古墳			不明	D-B	①	3.5		素文鏡(3.2)
130	兵庫県城崎郡日高町	シゲリ谷3号墳	円墳	横穴式石室?	8	不明	?-B	①	復元4.8	土師器・管玉5・丸玉2・長方玉1・鉄刀2	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大真福 年	分類	内区分類	面径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
131	兵庫県城崎郡日高町	福鏡古墳群	円墳?	不明		不明	D-B	①	3.5	土師器・装身具・武器	素文鏡1 (3.1)
132	兵庫県豊岡市	長谷・ハナ4号墳第3主体部	方墳	木棺墓	7×11	中I期~ 中II期	D-B	①	5.2	鏡1・管玉1・ガラス小玉2	
133	兵庫県豊岡市	カチヤ古墳	円墳	組合式石棺	19	前V期~ 中I期	A-B	②	6.4	(棺内) 刀子1・碧玉製勾玉2・碧玉製管玉19・滑石製臼玉239(棺外) 鉄剣1・碧玉製勾玉9・碧玉製管玉2・ガラス子玉5・滑石製臼玉8・針状鉄製品3	
134	兵庫県出石町	田多地引谷5号墳	古墳			前期	D-B	②	7.2	玉類・鏡1	
135	兵庫県出石町	鷲塚古墳	円墳	横穴式石室	25	後期	A-C-D	②~ ③	8.7	雲珠・磁石・切子玉・管玉・鉄剣・鉄斧・刀子・須恵器・鉄鏃・土師器	
136	京都府京丹後市	谷垣18号墳主体部	円墳	木棺直葬	40×30	中I期~ 中II期	A-B	①	6.8	勾玉1・碧玉製管玉18・土玉9・ガラス小玉180・鉄斧1・鏡1・土師器	放射状区画をもつ珠文鏡1
137	京都府京丹後市	奈奥岡北遺跡	前方後円墳 のくひれ部 荒土			中I期	A-B	①	3.8		
138	京都府長岡京市	馬場遺跡S X 17643	方墳	木棺直葬 (溝?)	10×10	前I期	D-B	①	7.0	土師器	
139	京都府	(伝)山城南部				不明	A-B	②	7.2		
140	大阪府高槻市	梶原1号墳	円墳	横穴式石室	25	後I期~ 後II期	A-B	③	9.0	馬具・金環玉・鉄鏃5・ガラス丸玉11・ガラス小玉44・滑石製臼玉6・須恵器	
141	大阪府高槻市	弁天山B四号墳	円墳?	割竹形木棺 直葬	不明	前V期~ 中I期	D-B	①	6.4	ガラス小玉29・鉄鏃1・鉄斧1	
142	大阪府東大阪市	千手寺山遺跡遺物包含層①	集落跡	包含層		前V期~ 中I期	D-D	①	4.5		珠文鏡1 (同范鏡)
143	大阪府東大阪市	千手寺山遺跡遺物包含層②	集落跡	包含層		前V期~ 中I期	D-D	①	4.5		珠文鏡1 (同范鏡)
144	大阪府羽曳野市	御旗山古墳	前方後円墳	石櫃に再埋 納	44.5	前V期~ 前四期	A-B	①	6.7	鉄刀・鉄剣・鉄斧・鉄鏃・銅鏃・埴輪・土師器	八獣形鏡1 (18.7)・ 仿製三角縁三神三獣鏡 4 (22.1・22.1)・ 21.5・24.5)・内行花 文鏡14 (9.3×3・8.6 ×2・8.4×4・8.2× 2・8.65・6.1)・ 8.1)・変獣・重圍文鏡 (6.8)・変形獸文鏡 (9.3)
145	大阪府南河内郡河内町	寛弘寺27号墳	方墳	粘土槨	15	中I期~ 中II期	D-B	②	7.6	ガラス玉	
146	大阪府南河内郡河内町	神山丑神遺跡	包含層			不明	A-B	③?	6.7	埴輪	
147	奈良県葛城郡香芝町	長谷山古墳南棺	円墳	木棺直葬	10	前V期~ 前四期	D-B	②?	7.9	碧玉製管玉1・凝灰岩製管玉1	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大買編 年	分類	内区分	面積	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
148	奈良県橿原市	新沢109号墳	前方後円墳	木棺直葬	28	中Ⅱ期~ 中Ⅳ期	A-B	②	7.2	金銅製垂飾耳飾1対・ガラス小玉300・三環鏡1・飾 1・鉄刀1・鉄剣1・鉄槍1・鉄矛1・鉄鏃・挂 甲1・横切板鉄留短甲1・滑石製穿孔円板1・滑 石製臼玉10・埴輪	圖文帯同向式神獸鏡1 (20・9)・走獸騎獸獸 面鏡(12.1)
149	奈良県桜井市	池ノ内5号墳第4棺	円墳	木棺直葬	15×16	中Ⅰ期	A-D	②	5.6	鉄剣1・鉄刀1	
150	奈良県高市郡高取町	藤原11号墳	前方後円墳	木棺	26	前Ⅳ期~ 前Ⅲ期	A-B	②	7.0	鏡・鉄剣1・ガラス製小玉35・動先2	
151	奈良県五條市	五条御塚古墳	方墳	竪穴式石室	27.4~ 30.4	中期	AC-B の亜種 (AC間 に菱形 文)	②	9.2	埴輪枕1・埴輪製小玉・金銅垂文透彫神帯金具 7・金銅三葉形透彫神帯金具3・尾錠1・蛇尾 2・金銅金具・環頭刺1・鹿角製刀子5・鐙1・ 細柄鉄鏃624・大形平柄鉄鏃7・平柄鉄鏃93・胃 3・短甲片2・挂甲3・鉄地金銅装頭鏡4・籠子 2・菱形斧頭2・鉄鏃1・鉄鑿3・ 大形鑿6・小形鑿・銚4・銅頭1・磁石6・不明 鉄製品1・箱式鉄製具2・埴輪	
152	奈良県御所市	巨勢山境谷2号墳北棺	円墳	木棺直葬	14× 10	中期	D-B	②	6.2	仿製斜縁三神二獸鏡1(13.5)・石製勾玉60・石 製算盤玉30・管玉4	仿製斜縁三神二獸鏡1 (13.5)
153	奈良県宇陀市	下井足1号墳	円墳		20				4.0		
154	奈良県宇陀市	篠菜向山古墳	円墳		15				6.6		
155	三重県名張市	横山14号墳	円墳	木棺直葬	12	中期	不詳		9.5	勾玉20・環玉1・管玉11・ガラス小玉44・藤手刀 子1・鉄刀子2・鉄刀2	
156	三重県上野市	高嶽1号墳	円墳	21		不明	A-B	②	8.3	玉類・須恵器	仿製半円方形帯神獸鏡 1(14.7)・甕龍鏡1 (11.8)
157	三重県松坂市	大塚山古墳	前方後円墳	不明	45	中Ⅱ期~ 中Ⅳ期	A2-D	①	6.5	環玉勾玉1・滑石勾玉2・直刀3・鉄槍1・鉄 鏃・鉄地金銅張小丸板鉄鏃留置底付胃1・短甲	菱形四獸鏡1 (12.8)・菱形獸帯鏡 1(10.5)
158	三重県度会郡大紀町	(伝)大紀町錦				不明	AC-D	③	7.3		
159	三重県志摩郡阿児町	志愚11号墳	円墳?	横穴式石室		後Ⅰ期	A-D	③	12.8	勾玉4・管玉17・臼玉19・丸玉31・小玉655・櫛 7・短甲1・鉄鏃2・鉄斧5・刀子1・鉄鏃1・ 鉄槍2・鉄剣4・直刀12・鉄鏃多数・埴輪枕	仿製方格規矩鏡1 (14.7)
160	滋賀県守山市	金森西遺跡	集落跡			不明	D-B	①	5.4		
161	滋賀県犬上郡多賀町	木曾遺跡SH24	集落跡	竪穴住居		前Ⅳ期	D-B	①	5.4	磁石1・土師器	
162	福井県速岐郡上中町	向山1号墳	前方後円墳		48.6	中Ⅱ期~ 中Ⅳ期	A2-D? D?	②?	9.2	金銅垂飾付耳飾1・金銅製三輪玉1・三角板皮綴 式短甲2・刀子7・剣4・矛3・櫛1・埴輪製勾玉 2・碧玉製勾玉2・管玉・環玉・ガラス小玉・唐 陶金具・鉄鏃約31・埴輪30	仿製内行花文鏡1
163	福井県敦賀市	金ヶ崎古墳	円墳	竪穴式石室	19	中Ⅱ期~ 中Ⅳ期	AC-B	③	7.8	鉄刀2・鉄塊数個・銅板1	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大貫編年	分類	内区分類	面径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
164	福井県今立郡今立町	戸板山6号墳	方墳	木棺直葬	9	前Ⅲ期~ 前Ⅳ期	D-B	①	8.1	土師器	
165	福井県坂井郡三国町	観音洞穴	古墳			不明			7.3	貝輪・鹿角釣針・鹿角ヤス・管玉・土師器	
166	石川県能美郡寺井町	和田山5号墳B号棺	前方後円墳	粘土槨	63	中Ⅳ期		③?	8.4	櫛4・刀子2・銅先1・鉄斧1・鉄槍1・鉄刀1・鉄刺1・鉄葉多敷・三輪玉8・屈庇付冑1・短甲1・冑甲1・甲1	乳文鏡1(7.6)・変形文鏡1(8.5)
167	石川県能美郡辰口町	西山3号墳	古墳	木棺直葬		中期		③?	9.0	櫛3・鉄刺1・鉄刀2・鉄鏃一括・屈庇付冑・冑甲	
168	石川県金沢市	下安原遺跡	集落跡	溝B上層		前Ⅱ期~ 前Ⅲ期	D-A3	①	7.7~ 7.8		
169	石川県七尾市	高井5号墳	方墳	土墳	6	中Ⅳ期	B-A	③	7.0	石製紡錘車・不明鉄器	
170	岐阜県岐阜市	明音寺2号墳	古墳		12	後期			6.3	玉類	
171	岐阜県加茂郡坂祝町	前山古墳	円墳	粘土槨	20	前Ⅴ期~ 前Ⅵ期	A-B	①	7.0	管玉35	張文鏡1(11.7)・四 紋形鏡1(9.3)・珠文 鏡1
172	岐阜県加茂郡坂祝町	"	円墳	粘土槨	20	前Ⅴ期~ 前Ⅵ期	D-B	②	7.8	管玉35	"
173	岐阜県海津郡南濃町	(伝)城山				不明			7.8		
174	岐阜県可児郡御高町	(伝)旧可児郡伏見村				不明			6.8		
175	愛知県西春日井郡	(伝)味鏡神社				不明					
176	愛知県稲垣郡吉良町	岩谷1号墳	円墳	横穴式石室	14	後期				耳環8・鉄刀1・鉄鏃・須惠器	
177	愛知県岡崎市	亀山2号墳	古墳	横穴式石室		後Ⅲ期	A-B	③	7.7	刀子1・鉄刀1響金具・砥石1・土師器・須惠器	面文帯神獸鏡1 (20.9)
178	愛知県豊橋市	弁天塚古墳	円墳	横穴式石室		後Ⅱ期~ 後Ⅲ期	A-B	③	8.0	鉄刀1・鉄槍1・鉄鏃2・管1・丸玉1・小玉2・須惠器	
179	静岡県浜松市	雙学校内古墳群1号墳	古墳			判断不可			不明		
180	静岡県磐田市	大道西C5号墳	円墳	木棺?	20	中Ⅰ期~ 中Ⅳ期	A-C-D	①	6.7	装身具・武器・工具	
181	静岡県小笠郡小笠町	玉体3号横穴	横穴墓	横穴		不明			10.0	須惠器・馬具	
182	静岡県天竜市	不明	古墳			不明	A-B		7.0		
183	静岡県島田市	白岩寺	不明			不明					
184	静岡県藤枝市	日野ヶ谷遺跡E地区1号墳	古墳	横穴式石室		後Ⅳ期	不鮮明	②	7.3		
185	静岡県藤枝市	岩田山21号墳	円墳	木棺		中Ⅲ期~ 中Ⅳ期?	A-B	③	不明	勾玉3・滑石白玉1049・黒漆塗竹櫛11・針1・鉄 製削1・刀子3・鉄刺3	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大賀編 年	分類	内区分類	面径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
186	静岡県藤枝市	若王子31号墳	方墳	割竹形木棺	10	前IV期～ 前V期	D-B	②	7.8～ 7.9	鏡・柳葉形銅鏡	
187	静岡県藤枝市	南新屋A1号墳	円墳	粘土槨	25	後III期～ 後IV期		不明		大刀1・玉類29	
188	静岡県藤枝市	女池ヶ谷古墳群25号墳	円墳	木棺	6.6× 7.7	中I期～ 中II期	A-C-B	②	7.8	瑠璃製勾玉1・碧玉製管玉1・ガラス丸玉26・ガラス小玉46	
189	静岡県静岡市	佐渡山古墳群2号墳	方墳	横穴式石室	20×32	後II期	A-B	②	7.0	大刀1・刀子1・鉄鏡1・埴目板状金具1・鍔1・辻金具1・管引手金具1・金環1・須臾器・土師器	
190	静岡県静岡市	川合遺跡2号墓	埋葬遺構?	埋葬遺構?		中III期～ 中IV期	D-B	①	5.5	臼玉520・ガラス小玉110・管玉7・勾玉2	
191	静岡県静岡市	三滝ヶ谷古墳群2号墳	円墳	横穴式石室		中III期～ 中IV期			破片	耳環・玉類・刀子・鉄鏡・須臾器・土師器	
192	静岡県富士市	沖田遺跡第133次調査	古墳	準構造船の棺		判断不可	A-B	①	6.4	土師器・勾玉1	
193	静岡県下田市	流田遺跡	祭祀遺跡	遺物包含層		中II期～ 後II期	A-C-A-D	③	7.2	土製勾玉・滑石勾玉・滑石臼玉・滑石管玉・滑石有孔円板・滑石削形品・土師器・須臾器	素文鏡1 (4.3)
194	静岡県賀茂郡河津町	姫宮遺跡	祭祀遺跡	祭祀遺跡		中III期～ 中IV期	A-B	①	6.0	石製模造品(有孔円盤3・鏡・剣2・臼玉25・勾玉1・刀子1)・土師器	
195	山梨県甲府市	伊勢町遺跡	祭祀遺跡	祭祀遺跡		中I期～ 中II期	D-B	①	7.0	石製模造品・土師器・須臾器	
196	山梨県笛吹市	平林2号墳	円墳	横穴式石室	15	後IV～	D-D	②	7.5	直刀1・鞘尻1・把頭1・黄金具2・足金具1・鉄鏡24・甲冑・小札50以上・櫛8・兵庫鏡2・辻金具2・鞍8・鞍具4・管玉1・桑玉1・勾玉4・刀子玉1・トンボ玉3・丸玉121・小玉200・金環12・帯金具・飾金具7・須臾器・土師器	重圓文鏡1 (6.11)
197	山梨県甲府市	桜井B号墳	円墳	竪穴式石室	15	中I期～ 後II期	A-D	①	7.6	瑠璃製勾玉1	
198	長野県長野市	宮の平2号墳				不明	?	①	7.7		
199	長野県飯田市	盛光寺				不明			不明		
200	長野県飯田市	殿垣外4号墳	円墳			後期	A-?	②	6.8	丸玉・鉄鉢	
201	長野県飯田市	神送塚古墳	円墳	横穴式石室		中IV期	A-C-A-D	②	7.6	鉄鏡1・鉄剣2・鉄槍1・鉄刀8・鉄鉢1・鉄鍔5・馬具・短甲・須臾器・埴輪	六鈴鏡1 (9.7)
202	長野県飯田市	新井原6号墳	円墳			中期のみ	不詳	①?	9.3	鉄刀・鉄剣	
203	長野県下伊那郡高森町	若宮2号墳	円墳	横穴式石室		後期	不詳	①	8.4	紡錘車・石突・切羽・鈴・管・土師器・須臾器	
204	長野県更埴市	大峽2号墳	円墳	竪穴式石室?	7	中期のみ				管玉・刀子・鉄剣・鉄刀・須臾器	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代／大真鍮年	分類	内区分類	面積	副葬品／共存する遺物	共存鏡
205	長野県長野市	(伝)川柳將軍塚古墳	前方後円墳	竪穴式石室	93	前V期～前VI期	A-D	①	4.8	筒形銅器・ガラス小玉・管玉・勾玉・小玉・白玉・金環・銀環・銅鏃・車輪石・玉杖頭	珠文鏡3・鳳帝字紋文鏡1・四獸鏡1・乳文鏡2・重圍文鏡?1・内行花文鏡2
206	長野県長野市	(伝)川柳將軍塚古墳	前方後円墳	竪穴式石室	93	前V期～前VI期	A-B	①	5.1	"	"
207	長野県長野市	(伝)川柳將軍塚古墳	前方後円墳	竪穴式石室	93	前V期～前VI期	A-B	①	5.1	"	"
208	長野県長野市	(伝)川柳將軍塚古墳	前方後円墳	竪穴式石室	93	前V期～前VI期	A-B	①		"	"
209	長野県長野市	篠ノ井遺跡SM7016	土壇墓	土壇墓		前II期～前IV期	D-B	①	4.6	管玉12・小玉43・琥珀玉50	
210	長野県長野市	岩屋堂洞窟古墳	円墳	竪穴式石室?	30	中III期～中IV期	A2-D	②	6.9		
211	長野県長野市	長野市平林	古墳			不明	AC-B	①	6.8		
212	長野県長野市	川田条里遺跡	集落跡	道路状遺構上面から検出。		前VI期～前VII期	A-B	①	5.6	土師器	
213	長野県須坂市	本郷大塚古墳	円墳	横穴式石室	14	不明	A-B	③	8.1	勾玉・刀子・鉄刀・圭頭大刀・鉄鏃・管・鏝・三輪玉・須臾器	
214	新潟県南魚沼郡六日町	飯綱山10号墳東石室	円墳	竪穴式石室	37	中期	銘文帯一帯	①	6.1	環跡3・鈴3・勾玉3・管玉1・滑石製小玉107・鉄剣1・鉄鏃2・鉄刀2・鉄鏃多数・短甲2	西石棺：仿製方格規矩鏡1(9.0)
215	新潟県南魚沼町大和村	下山3号墳	円墳		10	中期	A-B	①	6.5	須臾器・直刀・刀子・土師器	
216	新潟県佐渡市	蔵王遺跡	祭祀遺跡	掘立柱遺物跡		前期	A-B	①	破片	銅鏃・土師器	内行花文鏡1
217	神奈川県相模原市	勝坂祭祀遺跡	祭祀遺跡	祭祀遺構		中I期～中II期	A-D	①	3.5	管玉1・白玉3・小玉48・子持勾玉・石製模造品(鏡6・剣12・刀子1・勾玉6)・土師器	珠文鏡4・楠瀬文鏡1・変形六獸鏡1
218	神奈川県相模原市	勝坂祭祀遺跡	祭祀遺跡	祭祀遺構		中I期～中II期	A-B	①	6.6	管玉1・白玉3・小玉48・子持勾玉・石製模造品(鏡6・剣12・刀子1・勾玉6)・土師器	珠文鏡4・楠瀬文鏡1・変形六獸鏡1
219	神奈川県川崎市	白山古墳北粘土柳	前方後円墳	粘土柳	87	前VI期	D-B	②	7.5	鉄器片	北柳：張文鏡1(6.5)、木波柳：三角縁神獸鏡
220	神奈川県横須賀市	(伝)横須賀市				不明					
221	神奈川県横須賀市	鳥ヶ崎横穴群鳥ヶ崎横穴	横穴			後I期～後II期	D-B	②	3.8	勾玉・白玉・鹿角製刀子柄・鉄鏃・鉄刀	
222	千葉県柏市	花前II-I遺跡	集落跡	住居跡・包舎層		前III期～前V期	D-B	①	5.3	管玉1・土師器・須臾器	
223	千葉県市原市	新皇塚古墳南柳	前方後円墳	粘土柳	60?	前IV期～前VII期	D-B	①	7.3	管玉5・ガラス玉1・鏡2・鉄斧1・鉄鏃1・刀子1・鏃1・鉄剣先1・大刀1	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の 規模	遺跡年代 ／大夏編 年	分類	内区 分類	面控	副葬品／共伴する遺物	共伴鏡
224	千葉県市原市	小田郡新地44号墳	土壌遺	木棺直葬		後I期	A C-D	②	7.1	ガラス玉115・須磨器	
225	千葉県市原市	草刈遺跡L区98号住居	集落跡	住居跡		前V期～ 前VI期	A-D	①	4.5		
226	千葉県市原市	草刈遺跡C区039号住居	集落跡	住居跡		前IV期～ 前VI期		③	破片	土師器	
227	千葉県市原市	草刈遺跡C区97号住居	集落跡	住居跡		前V期～ 前VI期	D-B	②	6.8	土師器	
228	千葉県市原市	草刈遺跡C区153号住居	集落跡	住居跡		前V期～ 前VI期	A-B	①	6.4	土師器	
229	千葉県木更津市	鶴西・大山第31号墳第 2主体部	円墳	木棺直葬	28	不明			9.0	銅鈴・大刀・鉄鏃・木箱片	
230	東京都世田谷区	砦中学校7号墳	前方後円墳	粘土椁	65	前VI期～ 前IV期	A-B	①	4.8	大刀・鉄鏃・斧・(周溝)蓋形土器・鉢形土器・ 底部穿孔土器・台付鉢形土器	
231	東京都足立区	伊興遺跡谷下地区	祭祀遺跡	Hトレン子 第1層下層		前期～中 期	A-D	①	5.7	須磨器・土師器・土鏃3・滑石製鉄製品1・滑石 製臼玉6	
232	埼玉県坂戸市	入西石塚古墳埋葬施設	前方後円墳	木棺直葬	36～40	後I期	A 2-B	②	7.8	鉄刀1・鉄鏃2・鉄剣2・大形平根式鉄鏃5・尖 根式裏頭鉄鏃20以上・挂甲・衝角付冑1・埴輪	乳文鏡1 (8.9)
233	埼玉県東松山市	柏崎古墳群	採集品			不明	D-B	②	6.1	硬玉製勾玉1・瑪瑙製勾玉1・碧玉製管玉2・方 ラス小玉6	
234	埼玉県児玉郡神川 町	前組羽根倉第2号方形 集溝墓	方墳	周溝	7.9	中I期～ 中II期	D-B	①	6.1	碧玉製管玉2	
235	埼玉県川越市	下小坂3号墳	円墳	粘土椁	24 x 30.5	後I期	D-B 2	③	7.4	碧玉製管玉13・直刀1・楕円形鉄板付管1・辻金 具3・鉄具2	
236	埼玉県和光市	午王山遺跡	採集品			判断不可		①	5.9		
237	群馬県甘楽郡甘楽 町	大山鬼塚古墳	古墳	舟形石椁		後II期		②	7.6	三環輪2・管玉26・小玉2・臼玉58・鉄刀2・管 1・銚岩葉3・磁石2・石製模造品(鏡3・刀子 8・斧3)	
238	群馬県甘楽郡甘楽 町	天引向原遺跡20号住居	集落跡	竪穴住居		前V期～ 前VI期	A-B	①	5.8	ガラス小玉・土師器	
239	群馬県甘楽郡妙義 町	妙義町下高田	採集品			不明	不詳明	②	7.2	勾玉・管玉・臼玉	
240	群馬県吾妻郡吾妻 町	大宮殿神社	採集品			不明		③?	6.6		
241	群馬県群馬郡箕郷 町	西谷出土	古墳			後I期	B C-B	③	8.6	碧玉勾玉1・玉釧勾玉6・葉玉1・ガラス小玉 5・鉄刀1・馬具・香葉3・鈴1・土師器	
242	群馬県高崎市	若宮出土	採集品			不明	A C-D	②~ ③	7.0		
243	群馬県前橋市	前二子古墳	前方後円墳	横穴式石室	92	後II期		①?	不明	ガラス小玉300・金環1・鉄鏃2・鉄鏃多数・鏡板 2・鉄鏃1・鉄燈1・香葉8・須磨器	
244	群馬県伊勢崎市	奉藏寺古墳	円墳	横穴式石室		後I期～ 後II期	B C-D	③	9.0	ガラス勾玉1・小玉1連・管玉1・碧玉管玉1・ 硬玉切子玉4・葉玉4・磁石1・辻金具1・土器	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大冨編年	分類	内区分類	直径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
245	群馬県佐波郡赤堀町	南原古墳	古墳	不明	不明	不明	A-B	①	5.7	土師器	
246	栃木県小山市	水神塚古墳	円墳	不明	不明	後期	A-C-B	③	8.4	耳環4・勾玉1・鉄鏃・金具	
247	栃木県矢板市	幸岡古墳群	前方後円墳			不明		②	8.0	直刀	
248	栃木県真岡市	稻荷山古墳	円墳	組合式箱式石棺	17.8	中期	A-C-A-D	③	8.4	剣	
249	栃木県宇都宮市	磯岡北3号墳	円墳		21	中Ⅳ期~ 後Ⅰ期	A-A3	①	7.3	須恵器・土師器・鉄刀3・鉄鏃18・ガラス小玉69・琥珀片・水晶片	
250	栃木県宇都宮市	中島笹塚2号墳	円墳	確認できない	21.2× 24.8	後Ⅰ期	A-D	①	6.0	土師器・須恵器・鉄剣2・棒状鉄製品1・板状鉄製品2・管玉2・白玉2・ガラス小玉1・ガラス丸玉158・玉製丸玉1	
251	栃木県下都賀郡壬生町	塚越1号墳	方墳		20		A-B	①? 8.0			
252	茨城県東茨城郡中原町	鮎田塚古墳群	円墳	箱式石棺		中期			8.7	直刀・鉄鏃・石枕	
253	茨城県ひたちなか市	磯崎東2号墳1号石室	円墳	箱式石棺	20	後Ⅰ期	A-B	③	7.3	大刀1・鉄鏃6	
254	茨城県北茨城市	尾形山横穴群	横穴墓	横穴		後Ⅲ期	A-C-B	③	8.6	勾玉・金環・土師器	
255	福島県白河市	建鉢山祭祀遺跡遺物包舎層	祭祀遺跡	Aトレンチ北側		中Ⅲ期~ 中Ⅳ期?	D-B	②?	4.6	鉄鏃1・鉄剣3・鉄刀4・石製構造物(鏡27・銅1・弁26・鏃11・刀子29・刺569・有孔円板569・勾玉24・白玉278)・土師器	
256	福島県いわき市	中田1号横穴前底部	横穴墓			後Ⅲ期	A-D	①	6.4	金銅製飾板1・瑠璃製勾玉26・硬玉製勾玉4・碧玉製勾玉1・水晶製勾玉1・碧玉製管玉1・琥珀製管玉10・ガラス製丸玉37・ガラス製小玉・青銅製銅2・耳環3・鉄製円頭把頭2・金銅製鞘尾金具1・鉄身1・石突2・鉄製鉄身1・平指式鉄鏃4・刀身形鉄鏃17・刺形鉄鏃44・刀子14・馬具・土師器・須恵器・磁石・青銅製容器	
257	福島県河沼郡会津坂下町	(伝)会津地方出土	採集品			不明	A-B	③	8.5		
258	福島県喜多方市	山崎横穴群横穴	横穴墓			後Ⅳ期			不明	装身具・武器・馬具・須恵器	
259	福島県伊達郡保原町	土橋古墳	古墳	石室		後Ⅰ期~ 後Ⅳ期	A-B	①	7.3	金環2・須恵器	
260	福島県原町市	上洪佐7号墳	方墳	木棺直葬	26	前Ⅳ期~ 前Ⅵ期	D-B	②	8.7	鉄鈍1・土師器	
261	福島県相馬市	表西山横穴群30号墓	横穴墓			後期			不明	勾玉11・ガラス玉多数・硬玉多数・馬鈴2・須恵器・土師器	
262	宮城県桃生郡河北町	新田東遺跡	集落跡	住居		8世紀	A-B	①	7.0	陶質土器・須恵器・大刀1・刀子1・鉄鏃22・管	
263	韓国全羅南道	逢山古墳	円墳	横口式石室	17	後Ⅰ期~ 後Ⅱ期	B-C-D 亜	②	7.2	百濟土器・鉄地金銅貼刺菱形香葉・鉄地金銅張S字形筒板付替・鉄製輪鍔・銅鈴・環頭太刀・鉄矛・鉄鏃・鉄斧・勾玉・管玉・切小玉・小玉	

第15表 珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	遺跡年代 /大貫編 年	分類	内区分類	直径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
264	韓国全羅南道潭陽郡	齊月里古墳	石室墓?	石室墓?		中期	AC-D	②	9.0	百濟土器・金銅製指輪2・鉄刀2・馬術と鎧からなる鉄製馬具1・鉄槍1・勾玉1・ガラス製小玉3	菱形六獣鏡1 (11.3)
265	韓国全羅南道光州	光州 雙岩洞	古墳			後I期	A-B	②~③	11.3		
266	韓国慶尚北道慶山市	(伝) 慶山林堂				不明	AC-B	③	7.5		
267	韓国慶尚南道山清郡	山清生草9号墳	古墳	竪穴式石槨墓		中Ⅲ期~ 中Ⅳ期	AC-B	②	9.0	陶質土器・須恵器・大刀1・小刀1・鉄鍬22・響釘1	
268	韓国慶尚北道慶州市	慶尚北道慶州金鈴塚古墳	積石木槨墳	木槨墓	13×18	後I期~ 後II期	AC-D? D?	②	7.0	黄金製冠1・白樺皮製冠帽1・白樺皮製冠帽7・金銅製冠帽2・玉飾11条・各種玉(勾玉・管玉・丸玉・琥珀玉・瑪瑙玉)類一括・嵌珠金製飾玉1・金製珠形垂飾付垂飾1対・金製心葉形垂飾付垂飾1対・金製心葉形垂飾付垂飾2対・銀製心葉形垂飾付垂飾1対・金製太環耳飾1対・金製太環耳飾1対・金製心葉形垂飾付垂飾1対・金製心葉形垂飾付垂飾2対・嵌珠金製太環耳飾1対・心葉形垂飾付垂飾2対・嵌珠金製太環耳飾1対・嵌珠金製心葉形垂飾2・金製太環耳飾一括・金銅製心葉形垂飾2・金製腰佩類1具・銀製腰佩類1具・金銅飾履1双・木柵1・環質土器・土師器・金銅容器・漆器・方鏡1・環質土器・土師器・金銅容器・漆器・方鏡2・木刀3・銅鍬木刀1・刀子54以上・鉄鍬28・櫛4・石筭1・鉄鍬2・銀針1・鉄針数片・馬具	
269	出土地不明	明治大学所蔵鏡				不明	A2-D	②			
270	出土地不明	泉屋博古館所蔵鏡				不明	A-D	②	5.0		

第16表 放射状区画をもつ珠文鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	古墳の規模	通説年代 /大貫編年	分類	内区 の区 画数	内区 分類	面径	副葬品/共伴する遺物	共伴鏡
1	大分県杵築市	灰土山古墳	前方後円墳	箱式石棺	80?	中皿期~ 中皿期	A-B	4	③	8.2	刀子1・丸玉1・管玉3	四獻鏡1(9.6)
2	熊本県五名市	経塚古墳	円墳	舟形石棺	45	中I期~ 中II期	D-B	8	④	8.3	短剣1・碧玉管玉3・外装付の短剣1・土師器	
3	山口県山口市	新宮山1号墳	前方後円墳	竪穴式石室	36	中I期~ 中II期	D-B	8	①	8.8	鉄斧1・ガラス小玉124・水晶製勾玉1・水晶製切子玉1・水晶製算盤玉3・ガラス小玉48	
4	広島県東広島市	千人塚古墳	円墳	箱式石棺	24	前V期~ 前IV期	D-D	4	③	7.2	碧玉製勾玉3・碧玉製管玉6・碧玉製石剣1	
5	岡山県倉敷市	妙見1号墳	円墳	箱式石棺	14	中I期~ 中II期	A-B	4	③	9	ガラス小玉・ガラス丸玉	
6	兵庫県姫路市	御旅山13号墳	円墳	粘土槨	150	中皿期~ 中皿期	A-B	4?	②	6.9	碧玉製勾玉1・ガラス小玉266・鉄刀子4・鉄鏡1・須恵器・不明鉄器	変形獻形鏡1(9.3)
7	京都府京丹後市	谷塩18号墳	円墳	木棺直葬	40×30	中I期~ 中II期	D-B	12	③	8.5	勾玉1・碧玉製管玉18・土玉9・ガラス小玉180・鉄斧1・鏡1・土師器	珠文鏡1
8	和歌山県御坊市	尾ノ崎遺跡15号周溝墓	方形周溝墓	竪穴式石室?	5.6	中期	A-B	4	②	9.15	勾玉2・管玉25・ガラス製小玉64・鉄剣1・鏡1	
9	奈良県奈良市	伝 あやめ池付近	探掘品	不明		不明	D-B	8	③	7.6		
10	石川県金沢市	神谷内古墳群	方墳	不明	5.4	前II期~ 前III期	D-B	4	④	8.7	碧玉製管玉1・土師器	
11	富山県高岡市	板屋谷内C6号墳	円墳	不明	16	中I期~ 中II期	A-D	4	③	9.3	鉄剣1・勾玉3・管玉27・葉玉234・丸玉2・ガラス管玉1・ガラス小玉15	仿製内行花文鏡(=)
12	静岡県静岡市	伝 明ヶ島1号墳	古墳	不明		不明	D-B	4	③	不明		
13	千葉県袖ヶ浦市	大竹古墳群K13号墳第2 埋蔵施設	円墳	木棺直葬	18.4× 18.7	中IV期	D-B	4	②	9	須恵器(周溝)	
14	千葉県千葉市	下田遺跡	集落	竪穴住居		古代	A3-A	4	④	9	土師器・須恵器	

珠文鏡出土遺跡参考文献

《 1. 宮崎県東二原地下式横穴 2 号 》

長友郁子編 1993 『東二原地下式横穴墓群 下の平地下式横穴墓群』小林市文化財調査報告書第 6 集、小林市教育委員会。

《 2. 宮崎県六野原地下式横穴 8 号 》

瀬之口傳九郎 1944 「六野原古墳調査報告」『史蹟名勝天然紀念物調査報告』第 13 輯、宮崎県。

《 3. 宮崎県五反畑遺跡 B 地区 1 号木棺 》

今村結記編 2010 『五反畑遺跡 B 地区』清武町埋蔵文化財調査報告書第 30 集、清武町教育委員会。

《 4. 宮崎県西都原 169 号（旧 110 墳）（飯盛塚） 》

後藤守一 1926 『漢式鏡』雄山閣。

関 保之助 1913 「西都原第百十、第百十一号古墳」『考古学雑誌』第 3 卷第 9 号、495 - 505 頁。

《 5. 宮崎県西都原地下式横穴 4 号墳 》

日高正晴 1944 「日向地方の地下式墳」『考古学雑誌』第 43 卷第 4 号、日本考古学会、16 - 33 頁。

《 6. 大分県有田古墳 》

小田富士雄 1970 「古代の日田」『九州文化史研究所紀要』15 号、九州大学、105 - 150 頁。

甲斐忠彦・真野和夫・小柳和宏編 1989 『古墳文化の世界—豊の国の支配者たち—』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館。

《 7. 熊本県用七遺跡 》

西山由美子編 2005 『用七遺跡』八代市文化財調査報告書第 27 集、八代市教育委員会。

《 8. 熊本県古保里 2 号石棺 》

富樫卯三郎 1983 「珠文鏡」『肥後考古』第 3 卷、肥後考古学会、89 - 90 頁。

《 9・10. 熊本県鞍掛塚古墳 》

高木恭二 1983 「珠文鏡」『肥後考古』第 3 卷、肥後考古学会、90 頁。

《 11. 熊本県竹ノ上石棺 》

東 光彦・高木恭二 1983 「珠文鏡」『肥後考古』第3巻、肥後考古学会、90 - 91 頁。

《 12. 熊本県久保原石棺 》

原口長之・高木恭二 1983 「珠文鏡」『肥後考古』第3巻、肥後考古学会、89 頁。

原口長之 1960 「珠文鏡を出した久保原石棺」『石人』第1巻9月号、熊本史談会、19 - 26 頁。

佐賀県立博物館編 1979 『古代九州の遺宝 鏡・玉・剣』佐賀県立博物館。

《 13. 長崎県宮田古墳群1号石棺 》

森内敏和 1997 「宮田石棺群」『原始・古代の長崎県』資料編Ⅱ、長崎県教育委員会、308 - 312 頁。

《 14. 長崎県赤崎遺跡第2号石棺 》

小田富士雄編 1974 『島山赤塚遺跡』対馬長崎県文化財調査報告第17集、長崎県教育委員会。

《 15. 佐賀県追頭11号墳主体部 》

岡崎 敬・松永幸男 1982 「追頭古墳群」『末盧国 [本文編]』唐津市教育委員会、517 - 524 頁。

唐津市史編纂委員会編 1991 『唐津市史』復刻版、唐津市。

《 16. 佐賀県追頭13号墳主体部 》

岡崎 敬・松永幸男 1982 「追頭古墳群」『末盧国 [本文編]』唐津市教育委員会、517 - 524 頁。

唐津市史編纂委員会編 1991 『唐津市史』復刻版、唐津市。

《 17. 佐賀県金屋古墳主体部 》

大園 弘編 1977 『杵島山遺跡調査報告書 付 佐賀県下出土の古鏡 - 弥生・古墳時代 - 』佐賀県立博物館調査研究書第3集、佐賀県立博物館。

《 18. 佐賀県不明 》

蒲浦宏行 1994 「佐賀県」『国立歴史民俗博物館研究報告第56集、国立歴史民俗博物館、656 - 681 頁。

《 19・20. 佐賀県関行丸古墳 》

佐賀県教育庁社会教育課編 1958 『佐賀県文化財調査報告書』第7輯、佐賀県教育委員会。

大園 弘編 1977 『杵島山遺跡調査報告書 付 佐賀県下出土の古鏡－弥生・古墳時代－』
佐賀県立博物館調査研究書第3集、佐賀県立博物館。

佐賀県立博物館編 1993 『佐賀県立博物館所蔵品目録 考古』佐賀県立博物館。

《 21. 佐賀県不明 》

蒲浦宏行 1994 「佐賀県」『国立歴史民俗博物館研究報告第56集、国立歴史民俗博物館、
656－681頁。

《 22. 佐賀県旭町出土 》

大園 弘編 1977 『杵島山遺跡調査報告書 付 佐賀県下出土の古鏡－弥生・古墳時代－』
佐賀県立博物館調査研究書第3集、佐賀県立博物館。

佐賀県立博物館編 1979 『古代九州の遺宝 鏡・玉・剣』佐賀県立博物館。

《 23. 佐賀県中隈山5号墳第1主体部 》

山田 正・田中正弘編 1990 『中隈山遺跡概報』基山町教育委員会。

《 24・25. 福岡県名木野11号墳 》

新原正典・井上裕弘編 1977 『名木野古墳群』瀬高町文化財調査報告書第1集、瀬高町教
育委員会。

《 26・27. 福岡県立山山23号墳・立山山25号墳 》

佐田 茂・伊崎俊秋編 1983 『立山山古墳群』八女市文化財調査報告書第10集、八女市
教育委員会。

《 28. 福岡県塚堂古墳 》

児玉真一編 1990 『若宮古墳群Ⅱ』吉井町文化財調査報告書第6集、吉井町教育委員会。

《 29. 福岡県月岡古墳 》

児玉真一編 1989 『若宮古墳群Ⅰ－月岡古墳・塚堂古墳・日岡古墳－』吉井町文化財調査
報告書第4集、吉井町教育委員会。

児玉真一編 2005 『若宮古墳群Ⅲ－月岡古墳－』吉井町文化財調査報告書第19集、吉井
町教育委員会。

《 30. 福岡県三国の鼻1号墳北くびれ部 》

片岡宏二編 1985 『三国の鼻遺跡Ⅰ』小郡市文化財調査報告書第25集、小郡市教育委員会。

《 31. 福岡県宮ノ本遺跡宮ノ本5号墳第1主体 》

山本信夫編 1980 『宮ノ本遺跡』太宰府町の文化財第3集、太宰府市教育委員会。

◀ 32. 福岡県成屋形遺跡C号石棺 ▶

山本 博・山本嘉蔵 1930 「福岡県成屋形の古墳について」『史淵』第2輯、九大史学会、77 - 87 頁。

佐賀県立博物館編 1979 『古代九州の遺宝 鏡・玉・剣』佐賀県立博物館。

◀ 33. 福岡県恵子若山遺跡・恵子若山古墳 ▶

岩崎二郎 1975 『恵子若山遺跡』恵子若山跡調査会。

◀ 34. 福岡県藤崎遺跡7号方形周溝墓 ▶

浜石哲也編 1982 『藤崎遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第80集、福岡市教育委員会。

◀ 35. 福岡県（伝）野方塚原遺跡 ▶

九州大学考古学研究室編 1968 『有田遺跡』九州大学文学部考古学研究室。

小田富士雄 1970 「古代の日田一日田盆地の考古学」『九州文化史研究所紀要』第15号、九州大学九州文化史研究施設、105 - 150 頁。

◀ 36. 福岡県鋤崎古墳第1号埋葬施設 ▶

柳沢一男・杉山富雄編 2002 『鋤崎古墳 - 1981 ~ 1983 年調査報告 -』福岡市埋蔵文化財調査報告書第730集、福岡市教育委員会。

◀ 37. 福岡県乙植木3号墳 ▶

石川 勲編 1977 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告X』福岡市教育委員会。

◀ 38. （伝）福岡県宇仙道 ▶

高倉洋彰・岡村秀典 1994 「福岡県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、546 - 655 頁。

◀ 39. （伝）福岡県大字大隈・大間 ▶

高倉洋彰・岡村秀典 1994 「福岡県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、546 - 655 頁。

◀ 40. 福岡県沖ノ島7号遺跡 ▶

鏡山 猛 ・原田大六・坂本経堯・渡辺正気・嶺 正男・仙波喜美雄編 1958 『沖ノ島』宗像大社復興会期成会。

◀ 41. 福岡県沖ノ島23号遺跡 ▶

西田正夫編 1979 『宗像沖ノ島I』吉川弘文館。

◀ 42. 福岡県手光長畑遺跡古墳 ▶

浜田信也・飛野博文編 1986 『手光長畑遺跡』福岡町文化財調査報告第2集、福岡町教育委員会。

《 43. 福岡県津屋崎 41 号墳 》

石山 勲・山述昭人編 1977 『新原・双山古墳群』福岡県文化財調査報告書第54集、福岡県教育委員会。

《 44. 福岡県小倉古墳 》

小方良臣・舌間 悟・古野千枝子編 1989 『下遺跡群』若宮町文化財調査報告書第7集、若宮町教育委員会。

《 45. 福岡県小正西古墳 》

毛利哲久 2000 『小正西古墳』穂波町文化財調査報告書第12集、穂波町教育委員会。

《 46. 福岡県セストノ古墳 》

佐田 茂編 1984 『セストノ古墳』田川市教育委員会。

《 47. 福岡県平石棺墓 》

小田富士雄 1956 「珠文鏡を出土せる箱式石棺」『古代学研究』13、古代学研究会、19 - 21 頁。

小田富士雄・藤丸詔八郎・武末純一編 1990 『紫川一弥生・古代時代の風景』北九州市立考古博物館。

《 48. 愛媛県栗尻 1 号墳 》

宇和町調査団 1964 「宇和町の古墳時代の文化」『愛媛考古学』第3巻第2号、愛媛考古学会、41 - 60 頁。

十亀幸雄 1985 「宇和町出土の古鏡」『遺跡』第27号、遺跡発行会、64 - 70 頁。

《 49. 愛媛県土壇原 5 号墳 》

岡田敏彦 1986 「土壇原古墳群」『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会、540 - 542 頁。

《 50. (伝) 愛媛県 》

宮本一夫 1994 「愛媛県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、534 - 543 頁。

《 51. 愛媛県甲賀原古墳群 》

森 光晴 1986 「甲賀原古墳群」『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会、

401 頁。

《 52. 愛媛県円満寺古墳 》

溝渕修三・十亀幸雄 1985 「愛媛古鏡出土地名表」『遺跡』第 27 号、遺跡発行会、89 - 96 頁。

《 53. 徳島県曾我氏神社 1 号墳第 2 主体部 》

天羽利夫・岡山真知子編 1982 『曾我氏神社古墳群調査報告』徳島県博物館紀要第 13 集、
徳島県博物館。

《 54. 徳島県西名東町出土 》

中山清隆・林原利明 1994 「小型倣製鏡の基礎的集成(1) - 珠文鏡の集成 - 」『地域相研究』
第 21 号、地域相研究、95 - 125 頁。

《 55. 徳島県恵解山 9 号墳南棺 》

菅原康夫 1994 「徳島県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 56 集、国立歴史民俗博物館、
512 - 519 頁。

《 56. 徳島県谷口山上古墳 》

後藤守一 1926 『漢式鏡』雄山閣。

鳴門市史編纂委員会編 1976 『鳴門市史』上、鳴門市。

《 57. 香川県快天山古墳前方部箱式石棺のいずれか 》

和田正夫・松浦正一 1951 『香川県史蹟名勝天然紀念物調査報告 - 快天山古墳発掘調査報告書 - 』第 15、香川県教育委員会、1 - 13 頁。

《 58. 香川県やくし古墳 》

松本敏三・岩橋 孝編 1983 「やくし古墳」『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館、
64 頁。

《 59. 香川県雄山 6 号墳 》

松本和彦・宮崎哲治編 2000 『雄山古墳群』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター。

《 60. 香川県居石遺跡 》

山元敏裕編 1995 『居石遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第 30 集、高松市教育委員会。

《 61. 香川県野牛古墳 》

古野徳久・角山幸洋・藁科哲男・前中一晃編 2000 『野牛古墳・末 3 号窯跡』高松東道路
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 8 冊、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター。

《 62. 広島県山武士塚 2 号墳 》

潮見 浩 1991 「第4節 古墳時代」『戸坂村史』広島市、35 - 48 頁。

石井隆博・角田徳幸 1995 「広島市安佐北区所在山武士塚古墳群の測量調査」『芸備』第24集、芸備友の会、1 - 14 頁。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

◀ 63. 広島県宇那木山2号墳 ▶

福谷昭二 1978 「佐東町のあけばの」『佐東町史』広島市、15 - 85 頁。

脇坂光彦・小都 隆編 1991 「宇那木山2号古墳」『探訪・広島古墳』芸備友の会、16 - 17 頁。

広島大学大学院文学研究科考古学研究室編 2003 『地域理解講座安芸の古墳文化探訪』広島大学大学院文学研究科考古学研究室。

◀ 64. 広島県三ツ城古墳 ▶

松崎寿和・豊 元国・木下 忠 1954 『三ツ城古墳』広島県文化財調査報告第1輯、広島県教育委員会。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

石井隆博・三枝健二編 2004 『史跡三ツ城古墳発掘調査報告書』文化財センター調査報告書第42冊、財団法人広島県教育文化振興事業団・文化財センター。

下津間康夫編 2010 『平成22年度春の企画展広島・古代史発掘—安芸・備後の成立へ—』広島県立歴史博物館。

◀ 65. 広島県不明 ▶

古瀬清秀 1994 「広島県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、488 - 501 頁。

◀ 66. 広島県牛淵トンネル上古墳 ▶

古瀬清秀 1994 「広島県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、488 - 501 頁。

◀ 67. 広島県善法寺9号墳前方部C主体部 ▶

潮見 浩 編 1974 「善法寺第9号古墳」『広島県双三郡・三次市史料総覧』第5篇、広島県双三郡三次市史料総覧刊行会、21 頁。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

◀ 68. 広島県四拾貫小原1号墳A主体 ▶

潮見 浩編 1969 『四拾貫小原』四拾貫小原発掘調査団。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

《 69. 広島県川手町所在の古墳 》

古瀬清秀 1994 「広島県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、488 - 501 頁。

《 70. 広島県松本古墳 》

村上正名 1961 「備後芦田川下流域の古墳群（Ⅱ）」『吉備考古』第4集、古代吉備研究会、45 - 55 頁。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

《 71. 広島県今岡古墳 》

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

《 72. 広島県今岡小池所在の古墳 》

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

古瀬清秀 1994 「広島県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、488 - 501 頁。

《 73. 広島県汐首C遺跡3地区SK-5 》

尾多賀晴悟・内田 実・大上雅子・柴田喜太郎・吉岡郁夫・小出龍郎編 1996 『汐首・後池』新市町文化財調査報告第8集、新市町教育委員会・新市町立歴史民俗資料館。

《 74. 広島県山の神3号墳第1主体部 》

小野悟朗編 1998 『山の神遺跡群・池ノ迫遺跡群』広島県埋蔵文化財センター調査報告書第165集、財団法人広島県埋蔵文化財調査センター。

《 75. 広島県山の神2号墳 》

小野悟朗編 1998 『山の神遺跡群・池ノ迫遺跡群』広島県埋蔵文化財センター調査報告書第165集、財団法人広島県埋蔵文化財調査センター。

《 76. 広島県国成古墳 》

村上正名編 1965 『国成古墳』神辺町教育委員会。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

《 77. 広島県寺山1号墳 》

脇坂光彦編 1979 『寺山遺跡発掘調査報告』寺山遺跡発掘調査団。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』 広島県立歴史民俗資料館。

◀ 78. 広島県平井古墳 ▶

西村真次 1929 「古代吉備に於ける古墳の一型式と其残存」『人類学雑誌』44 - 6、日本人類学会、333 - 344 頁。

◀ 79. 岡山県不明 ▶

正岡睦夫 1994 「岡山県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、456 - 487 頁。

◀ 80. 岡山県不明 ▶

正岡睦夫 1994 「岡山県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、456 - 487 頁。

◀ 81. 岡山県横田遺跡4区丘陵南端の表土中 ▶

岡田 博・秀島貞康編 1978 『中国縦貫自動車道県建設に伴う発掘調査13』、岡山県埋蔵文化財発掘調査報告23、岡山県教育委員会。

◀ 82. 岡山県光坊寺1号墳第V主体部 ▶

高畑知功・福田正継編 1977 『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査9』、岡山県埋蔵文化財発掘調査報告15、岡山県教育委員会。

◀ 83. 岡山県長谷古墳 ▶

岡山県立博物館編 1974 『特別展岡山県の原始・古代』岡山県立博物館。

◀ 84. 岡山県上二万古墳 ▶

久永春男 1965 「月の輪古墳の築造年代」『月の輪古墳』月の輪古墳刊行会、346 - 367 頁。

◀ 85. 岡山県不明 ▶

正岡睦夫 1994 「岡山県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、456 - 487 頁。

◀ 86. 岡山県福砂古墳 ▶

正岡睦夫 1994 「岡山県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、456 - 487 頁。

◀ 87. 岡山県殿山10号墳第1主体部 ▶

平井 勝編 1982 『殿山遺跡 殿山古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告47、岡山県

教育委員会。

◀ 88. 岡山県向山1号墳主体部 ▶

正岡睦夫 1994 「岡山県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集、国立歴史民俗博物館、456 - 487頁。

◀ 89. 岡山県斎富遺跡 ▶

下澤公明・大橋雅也・伊藤 晃・井上 弘・岡田 博・平井 勝・二宮治夫・福田正継・高田恭一郎・氏平昭則編 1996 『斎富遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告105、岡山県古代吉備文化財センター。

◀ 90. 岡山県月の輪古墳中央棺 ▶

近藤義郎編 1965 『月の輪古墳』月の輪古墳刊行会。

◀ 91. 島根県山地古墳第2埋葬主体 ▶

川上 稔編 1986 『山地古墳発掘調査報告書』出雲市教育委員会。

◀ 92. 島根県中村1号墳 ▶

岩本 崇 2012 「中村1号墳出土珠文鏡と出雲地域の銅鏡出土後期古墳」『中村1号墳』出雲市の文化財報告15、出雲市教育委員会、183 - 196頁。

坂本豊治編 2012 『中村1号墳』出雲市の文化財報告15、出雲市教育委員会。

◀ 93. 島根県奥才12号墳第3主体 ▶

三宅 博・赤沢秀則・広江耕史編 1985 『奥才古墳群』鹿島町教育委員会。

◀ 94. 島根県社日2号墳 ▶

大庭俊次・原田敏照・西尾克己・伊藤徳広・松山智弘編 2000 『社日古墳』島根県教育委員会。

山陰考古学研究集会 2002 『山陰地方の前期古墳』山陰考古学研究集会。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回 山陰考古学研究集会事務局。

◀ 95. 島根県御崎山古墳 ▶

勝部 昭 1975 『八雲立つ風土記の丘周辺の文化財』島根県教育委員会。

大谷晃二編 1996 『御崎山古墳の研究』八雲立つ風土記の丘研究紀要Ⅲ、島根県教育委員会・島根県立八雲立つ風土記の丘。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回 山陰考古学研究集会事務局。

◀ 96. 島根県鷲ノ湯病院跡横穴 ▶

山本 清 1984 「横穴被葬者の地位をめぐる」『島根考古学会誌』第1集、島根考古学会、

58 - 63 頁。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回山陰考古学研究集会事務局。

◀ 97. 島根県小馬木2号墳 ▶

水口晶郎・山内英樹編 1998 『小馬木古墳群』安来市埋蔵文化財調査報告書第26集、安来市教育委員会。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回山陰考古学研究集会事務局。

◀ 98. 島根県向山南古墳 ▶

今井 堯 1991 「中・四国地方古墳出土素文・重圈文・珠文鏡—小形倭鏡の再検討Ⅰ—」『古代吉備』第13集、古代吉備研究会、1 - 26 頁。

◀ 99. 鳥取県名土古墳 ▶

梅原末治 1923 『因伯二国に於ける古墳の調査』鳥取県史蹟勝地調査報告第2冊、鳥取県。

後藤守一 1926 『漢式鏡』雄山閣。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回山陰考古学研究集会事務局。

◀ 100. 鳥取県新山山田遺跡（溝） ▶

加納真人編 1993 『新山遺跡群・奥陰田遺跡群調査概報』米子市教育文化事業団文化財報告書4、米子市教育文化事業団。

杉原愛象・松本 哲 1994 『菅原・奥陰田Ⅰ』（財）鳥取市教育文化事業団。

◀ 101. 鳥取県新山山田7号墳 ▶

杉原愛象・松本 哲編 1994 『菅原・奥陰田Ⅰ』米子市教育文化事業団文化財報告書7、(財)鳥取市教育文化事業団。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回山陰考古学研究集会事務局。

◀ 102. 鳥取県吉谷12号墳 ▶

濱 隆造・下江健太・大川泰広・浜田真人編 2003 『吉谷遺跡群』鳥取県教育文化財団調査報告書84、財団法人鳥取県教育文化財団・鳥取県埋蔵文化財センター。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第37回山陰考古学研究集会事務局。

◀ 103. 鳥取県（伝）淀江町宇田川～百塚原付近 ▶

梅原末治 1923 『因伯二国に於ける古墳の調査』鳥取県史蹟勝地調査報告第2冊、鳥取県。

◀ 104. 鳥取県国信 1 号墳 ▶

梅原末治 1923 『因伯二国に於ける古墳の調査』鳥取県史蹟勝地調査報告第 2 冊、鳥取県。

◀ 105. 鳥取県（伝）倉吉市上神字猫山 ▶

梅原末治 1923 『因伯二国に於ける古墳の調査』鳥取県史蹟勝地調査報告第 2 冊、鳥取県。

◀ 106. 鳥取県猫山遺跡第 1 号方形周溝墓 ▶

名越 勉ほか 1971 『倉吉市史』倉吉市。

倉吉市教育委員会編 1985 『猫山遺跡—第 3 次発掘調査概報』倉吉市教育委員会。

◀ 107 ~ 109. 鳥取県向山古墳群宮ノ峰支群 13 号墳主体部・14 号墳主体部・18 号墳主体部 ▶

倉吉市教育委員会編 1989 『向山古墳群宮ノ峰支群 E 地区現地説明会資料』倉吉市教育委員会。

真田廣幸 1990 「前期方墳群の調査」『季刊考古学』第 31 号、雄山閣、83 - 84 頁。

梅原末治 1923 『因伯二国に於ける古墳の調査』鳥取県史蹟勝地調査報告第 2 冊、鳥取県。

◀ 110. 鳥取県六部山 21 号墳 ▶

佐々木 謙・亀井照人 1972 『鳥取県史 1 原始古代』1 巻、鳥取県。

久保穰二郎 1989 「六部山 21 号墳出土品」『郷土と博物館』第 35 巻 1 号、鳥取県立博物館、23 頁。

山陰考古学研究集会 2002 『山陰地方の前期古墳』山陰考古学研究集会。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第 37 回山陰考古学研究集会事務局。

高田健一・東方仁史編 2013 『古郡家 1 号墳・六部山 3 号墳の研究』鳥取県立公文書館県史編さん室。

◀ 111. 鳥取県美和 34 号墳 ▶

山田真宏編 1994 『平成 4・5 年度美和古墳群発掘調査報告—美和 31・32・33・34・37・43・44 号墳の調査—』（財）鳥取市教育福祉振興会。

佐伯純也編 2009 『山陰の古墳出土鏡』第 37 回山陰考古学研究集会事務局。

◀ 112. 鳥取県広岡 88 号墳 ▶

鳥取県埋蔵文化財センター 1994 「鳥取県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 56 集、国立歴史民俗博物館、426 - 455 頁。

《 113. 兵庫県戒壇寺遺跡 》

櫃本誠一 2002 「戒壇寺遺跡」『兵庫県の出土古鏡』学生社、212 - 213 頁。

《 114. 兵庫県円応寺 2 号墳 》

山下清広 1975 「古墳時代」『佐用町史』上巻、佐用町史編さん委員会、47 - 69 頁。

《 115. 兵庫県権現山梶山 9 号墳 》

村上紘揚・岡本寛久・山本三郎 1984 「揖保郡御津町権現山 8・9 号墳」『兵庫考古』第 20 号、兵庫考古研究会、1 - 5 頁。

松本正信 1984 「権現山・梶山古墳群」『龍野市史』第 4 巻、龍野市、250 - 257 頁。

櫃本誠一 2002 「権現山 9 号墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、175 - 176 頁。

《 116. 兵庫県八代山 1 号墳 》

増田重信 1951 「姫路市八代山古墳調査概報」『播磨郷土文化』7 号、播磨郷土文化協會、4 - 5 頁。

櫃本誠一 2002 「八代山 1 号墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、166 - 167 頁。

《 117. 兵庫県亀山古墳第 2 主体部 》

櫃本誠一 2002 「亀山古墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、141 - 142 頁。

《 118・119. 兵庫県敷地大塚古墳 》

櫃本誠一 1993 「敷地大塚古墳」『兵庫県史 考古資料編』兵庫県、436 - 437 頁。

櫃本誠一 2002 「敷地大塚古墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、136 - 138 頁。

《 120・121. 兵庫県藤江別所遺跡 》

稲原昭嘉編 1996 『藤江別所遺跡』明石文化財調査報告第 2 冊、明石市教育委員会。

稲原昭嘉 1999 「藤江別所遺跡の祭祀井戸と儀鏡」『考古ジャーナル』No. 446、ニューサイエンス社、17 - 20 頁。

《 122. 兵庫県三番町遺跡 》

櫃本誠一 2002 「三番町遺跡」『兵庫県の出土古鏡』学生社、96 頁。

《 123. 兵庫県大師山 6 号墳 》

西田辰博・芦田茂編 1993 『大師山 6 号墳・宮田 1 号墳発掘調査概要報告書』西紀・丹南町文化財調査報告第 14 集、西紀・丹南町教育委員会。

櫃本誠一 2002 「大師山 6 号墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、227 - 228 頁。

《 124. 兵庫県油利百塚古墳群中 》

櫃本誠一 2002 「油利百塚」『兵庫県の出土古鏡』学生社、234 - 235 頁。

《 125. 兵庫県中佐治 5 号墳 》

兵庫県史編集専門委員会編 1992 『兵庫県史』考古資料編、兵庫県。

別府洋三編 2009 『中佐治古墳群』兵庫県文化財調査報告第 359 冊、兵庫県立考古博物館。

《 126. 兵庫県文堂古墳 》

中村典男 1993 「文堂古墳」『兵庫県史 考古資料編』兵庫県、592 - 594 頁。

櫃本誠一 2002 『兵庫県の出土古鏡』学生社、274 - 275 頁。

《 127. 兵庫県源氏山 4 号墳第 2 主体部 》

櫃本誠一 2002 「源氏山 4 号墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、260 - 261 頁。

《 128. 兵庫県法尺谷 3 号墳第 1 主体 》

加賀美省一編 1988 「法尺谷 3 号墳」『法尺谷古墳群発掘調査概報』日高町文化財調査報告書第 9 集、兵庫县城崎郡日高町教育委員会。

櫃本誠一 2002 『兵庫県の出土古鏡』学生社、258 - 259 頁。

《 129. 兵庫県（伝）太田谷 》

小野山 節・都出比呂志・黒河富美子編 1968 『京都大学文学部博物館考古学資料目録 第 2 部日本歴史時代』京都大学文学部。

《 130. 兵庫県シゲリ谷 3 号墳 》

櫃本誠一 1980 『日高町史資料編』日高町史編集専門委員会議。

櫃本誠一 2002 「シゲリ谷 3 号墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、256 - 257 頁。

《 131. 兵庫県楯縫古墳群 》

櫃本誠一 1980 『日高町史資料編』日高町史編集専門委員会議。

櫃本誠一 2002 「楯縫古墳群」『兵庫県の出土古鏡』学生社、257 - 258 頁。

《 132. 兵庫県長谷・ハナ 4 号墳第 3 主体部 》

瀬戸谷 皓編 1984 『長谷・ハナ古墳群』但馬考古学研究会。

櫃本誠一 2002 「長谷・ハナ 4 号墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、247 - 248 頁。

《 133. 兵庫県カチャ古墳 》

山本三郎・渡辺 昇編 1983 『半坂峠古墳群 辻遺跡』兵庫県文化財調査報告書第 18 冊、兵庫県教育委員会。

櫃本誠一 2002 「半坂峠古墳」『兵庫県の出土古鏡』学生社、245 - 256 頁。

《 134. 兵庫県田多地引谷 5 号墳 》

出石町史編集委員会編 1993 「補 1 田多地引谷墳墓群」『出石町史』第四卷（資料編Ⅱ）、
出石町史編集委員会、2－7 頁。

《 135. 兵庫県鶏塚古墳 》

後藤守一 1926 『漢式鏡』雄山閣。

櫃本誠一 2002 「鶏塚」『兵庫県の出土古鏡』学生社、250 頁。

《 136. 京都府谷垣 18 号墳 》

能勢知生編 1998 『谷垣古墳群』京都府久美浜町文化財調査報告第 20 集、久美浜町教育
委員会。

《 137. 京都府奈具岡北遺跡 》

竹原一彦・野島 永・河野一隆・柴 暁彦・岡崎研一・黒坪一樹・村田和弘編 1997 『京
都府遺跡調査概報』第 76 冊、(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター。

京都府立丹後郷土資料館編 1999 『丹後発掘』京都府立丹後郷土資料館。

京丹後市史編さん委員会編 2010 『京丹後市資料編 京丹後市の考古資料』京丹後市史編
さん委員会。

《 138. 京都府馬場遺跡 SX17643 》

木村泰彦 1986 「左京第 176 次（7 ANLZS 地区）調査概報」『長岡京市埋蔵文化財センター
年報昭和 62 年度』(財) 長岡京市文化財調査研究センター。

高橋美久二 1990 「京都府下出土の古鏡地名表の補遺 1」『京都考古』第 53 号、京都考古
刊行、4－8 頁。

樋口隆康 1991 「京都府下近年出土の古鏡に就いて(2)」『京都府埋蔵文化財論集』第 2 集、
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、327－334 頁。

《 139. (伝) 京都府山城南部 》

京都府立山城郷土資料館編 1987 『鏡と古墳 - 景初四年鏡と芝ヶ原古墳』京都府立山城郷
土資料館・京都府立丹後郷土資料館。

《 140. 大阪府梶原 1 号墳 》

川端博明編 1998 『梶原古墳群発掘調査報告書』名神高速道路内遺跡調査会調査報告書第
4 輯、名神高速道路内遺跡調査会。

《 141. 大阪府弁天山 B 四号墳 》

堅田 直・原口正三・西谷 正・田代克己・北野耕平 1967 『弁天山古墳群の調査』大阪府文化財調査報告第17輯、大阪府教育委員会。

≪ 142・143. 大阪府千手寺山遺跡 ≫

中西克宏・肥塚隆保編 1989 『(財)東大阪市文化財協会概報集1988年度』財団法人東大阪市文化財協会。

吉村博恵 1989 「海獣葡萄鏡の一例(上)」『東大阪市文化財協会ニュース』Vol. 4、No. 2、財団法人東大阪市文化財協会、8－12頁。

≪ 144. 大阪府御旅山古墳 ≫

田代克己 1968 『羽曳野市壺井御旅山前方後円墳発掘調査概報』大阪府教育委員会。

大阪府教育委員会編 1970 『南河内・石川流域における古墳の調査』大阪府教育委員会。

≪ 145. 大阪府寛弘寺27号墳 ≫

大谷孝治編 1986 『寛弘寺遺跡発掘調査IV』大阪府教育委員会。

≪ 146. 大阪府神山丑神遺跡 ≫

大阪府教育委員会編 1992 『神山丑神遺跡発掘調査概報I』大阪府教育委員会。

≪ 147. 奈良県長谷山古墳 ≫

前園実知雄 1976 「長谷山古墳」『馬見丘陵における古墳の調査』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第29冊、奈良県教育委員会、84－87頁。

千賀 久編 1992 『大和の古墳の鏡』橿原考古学研究所附属博物館考古資料集第1冊、橿原考古学研究所附属博物館。

≪ 148. 奈良県新沢109号墳 ≫

伊達宗泰編 1981 『新沢千塚古墳群』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第39冊、奈良県教育委員会。

千賀 久編 1992 『大和の古墳の鏡』橿原考古学研究所附属博物館考古資料集第1冊、橿原考古学研究所附属博物館。

≪ 149. 奈良県池ノ内5号墳第4棺 ≫

泉本 皎編 1973 『盤余・池ノ内古墳群』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第28冊、奈良県教育委員会。

千賀 久編 1992 『大和の古墳の鏡』橿原考古学研究所附属博物館考古資料集第1冊、橿原考古学研究所附属博物館。

《 150. 奈良県薩摩 11 号墳 》

北山峰生編 2012 『薩摩 11 号墳』奈良県文化財調査報告書第 152 集、奈良県立橿原考古学研究所。

《 151. 奈良県五條猫塚古墳 》

網干善教編 1962 『五條猫塚古墳』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第 20 冊、奈良県教育委員会。

《 152. 奈良県巨勢山境谷 2 号墳北棺 》

久野邦雄編 1974 『大和巨勢山古墳群（境谷支群）—昭和 48 年度発掘調査概報—』奈良県教育委員会。

千賀 久編 1992 『大和の古墳の鏡』橿原考古学研究所附属博物館考古資料集第 1 冊、橿原考古学研究所附属博物館。

《 153. 奈良県下井足 1 号墳 》

伊藤雅文編 1987 『下井足遺跡群』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第 52 集、奈良県教育委員会。

千賀 久編 1992 『大和の古墳の鏡』橿原考古学研究所附属博物館考古資料集第 1 冊、橿原考古学研究所附属博物館。

《 154. 奈良県篠楽向山古墳 》

伊藤勇輔編 1977 『大王山遺跡』橿原考古学研究所。

千賀 久編 1992 『大和の古墳の鏡』橿原考古学研究所附属博物館考古資料集第 1 冊、橿原考古学研究所附属博物館。

《 155. 三重県横山 14 号墳 》

門田了三編 1999 『横山古墳群』名張市遺跡調査会。

《 156. 三重県高猿 1 号墳 》

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

《 157. 三重県大塚山古墳 》

松坂市史編さん委員会 1978 『松坂市史 第二巻 資料編考古』松坂市。

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

《 158. 三重県（伝）紀世町錦出土 》

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

《 159. 三重県志島 11 号墳 》

小玉道明・下村登良男・村上喜雄 1981 『志摩・おじよか古墳発掘調査概要』阿児町教育委員会。

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

《 160. 滋賀県金森西遺跡 》

守山市立埋蔵文化財センター編 1983 『乙貞』第 11 号、守山市立埋蔵文化財センター。

西田 弘 1982 「滋賀県下の古墳出土鏡について（補遺）」『滋賀文化財だより』No. 62、財団法人滋賀県文化財保護協会、48 頁。

《 161. 滋賀県木曾遺跡 》

堀 真人・重岡 卓 1999 『木曾遺跡Ⅲ』滋賀県教育委員会。

《 162. 福井県向山 1 号墳 》

福井県遠敷郡上中町教育委員会 1992 『向山 1 号墳』上中町教育委員会。

《 163. 福井県金ヶ崎古墳 》

梅原末治 1916 「続越前敦賀郡の遺物と遺跡」『考古学雑誌』第 7 巻第 1 号、考古学会、48 - 55 頁。

後藤守一 1926 『漢式鏡』雄山閣。

《 164. 福井県戸板山 6 号墳 》

小林博之編 1997 『戸板山古墳群Ⅱ』今立町埋蔵文化財調査報告第 4 集、今立町教育委員会。

《 165. 福井県観音洞穴 》

中司照代 1994 「福井県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 56 集、国立歴史民俗博物館、116 - 125 頁。

《 166. 石川県和田山 5 号墳 B 号棺 》

吉岡康暢編 1978 『能美古墳群調査概要』石川考古学研究会。

《 167. 石川県西山 3 号墳 》

吉岡康暢・田嶋明人・西野秀和 1987 「西山第三号墳」『辰口町史 前近代編』辰口町、167 - 171 頁。

《 168. 石川県下安原遺跡 》

増山 仁編 1990 『金沢市下安原遺跡』金沢市文化財紀要 30、金沢市教育委員会。

《 169. 石川県高井 5 号墳 》

山口幸吉編 1981 『国分高井山遺跡—第 1 次緊急発掘調査概報—』七尾市教育委員会。

《 170. 岐阜県明音寺 2 号墳 》

岐阜市編 1979 『岐阜市史 史料編 考古・文化財』岐阜市。

《 171・172. 岐阜県前山古墳 》

後藤守一 1942 『古鏡聚英』上編、大塚功藝社。

田中 琢 1979 『日本の原始美術』8 古鏡、講談社。

徳田誠志 1992 「古墳時代前期末の二古墳—岐阜県行基寺・前山古墳をめぐって—」『阡陵』
関西大学博物館、59 - 84 頁。

宮内庁書陵部陵墓課編 2005 『宮内庁書陵部所蔵古鏡集成』学生社。

《 173. (伝) 岐阜県城山 》

中井正幸 1997 「岐阜県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 56 集、34 - 65 頁。

《 174. (伝) 岐阜県旧可児郡伏見村 》

中井正幸 1997 「岐阜県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 56 集、34 - 65 頁。

《 175. (伝) 愛知県味鋤神社 》

犬塚康博 1935 「楠村大字味鋤附近の古墳及遺物」『愛知県史蹟名勝天然紀念物調査報告』
第 13、愛知県、43 - 48 頁。

岩野見司編 1976 『愛知の古鏡展』毎日新聞社。

愛知県郷土資料刊行会編 1982 『尾張の遺跡と遺物』中巻、愛知県郷土資料刊行会。

《 176. 愛知県岩谷 1 号墳 》

牧 富也 1961 『吉良町の古墳・遺跡』牧 富也。

《 177. 愛知県亀山 2 号墳 》

梅原末治 1939 「播磨加西郡亀山の古墳と其の遺物」『考古学論叢』第 14 輯、考古学研
究会、25 - 46 頁。

新編岡崎市史編纂委員会編 1989 『新編岡崎市史』16、史料考古、下、新編 岡崎市史
編纂委員会。

櫃本誠一 2002 『兵庫県の出土古鏡』学生社、141 - 142 頁。

《 178. 愛知県弁天塚古墳 》

豊橋市史編纂委員会編 1973 『豊橋市史』第 1 巻、豊橋市。

◀ 179. 静岡県豊学校内古墳群1号墳 ▶

静岡県編 1992 『静岡県史』資料3考古3、静岡県。

◀ 180. 静岡県大道西C号墳 ▶

中島郁夫 1992 「古墳時代」『磐田市史 資料編1 考古・古代・中世』磐田市、143 - 144頁。

静岡県編 1992 『静岡県史』資料編3考古3、静岡県。

◀ 181. 静岡県玉体3号横穴 ▶

静岡県編 1990 『静岡県史』資料編2考古2、静岡県。

◀ 182. (伝) 静岡県 ▶

静岡県編 1992 『静岡県史』資料編3考古3、静岡県。

◀ 183. (伝) 静岡県白岩寺 ▶

静岡県編 1990 『静岡県史』資料編2考古2、静岡県。

◀ 184. 静岡県白砂ヶ谷遺跡E地区1号墳 ▶

八木勝行ほか 1980 『原古墳群白砂ヶ谷支群』藤枝市教育委員会。

◀ 185. 静岡県岩田山21号墳 ▶

藤枝市史編さん委員会編 1970 『藤枝市史』上巻、藤枝市。

◀ 186. 静岡県若王子31号墳 ▶

藤枝市教育委員会編 1983 『若王子・釣瓶落古墳群』藤枝市教育委員会。

焼津市歴史民俗資料館編 1986 『開館記念特別展古代静岡考古遺宝展』焼津市歴史民俗資料館。

静岡県編 1992 『静岡県史』資料編3考古3、静岡県。

◀ 187. 静岡県南新星A1号墳 ▶

藤枝市史編さん委員会編 1970 『藤枝市史』上巻、藤枝市。

◀ 188. 静岡県女池ヶ谷古墳群第25号墳 ▶

鈴木隆夫・椿原靖弘編 1990 『女池ヶ谷古墳群発掘調査報告書(本文編)』藤枝市教育委員会。

鈴木隆夫・椿原靖弘編 1990 『女池ヶ谷古墳群発掘調査報告書(写真図版編)』藤枝市教育委員会。

◀ 189. 静岡県佐渡山古墳群2号墳 ▶

杉山彰梧・長谷川秀厚編 1984 『佐渡山2号墳発掘調査報告書』静岡市教育委員会。

静岡県編 1992 『静岡県史』資料編3 考古3、静岡県。

◀ 190. 静岡県川合遺跡2号墓 ▶

吉田成洋 1985 「IV発掘調査概要」『川合遺跡 静岡バイパス（川合地区）埋蔵文化財発掘調査の概要』（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所。

静岡県埋蔵文化財調査研究所編 1986 『川合遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所。

静岡県埋蔵文化財調査研究所編 1989 『川合遺跡（遺構編）図版編』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第21集、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所。

山田成洋・大石 泉編 1990 『川合遺跡（遺構編）本文編』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第25集、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所。

中野 宥編 1990 『特別展静岡・清水平野の古墳時代』静岡市立登呂博物館。

平野吾郎・山田成洋・伊藤律子編 1991 『川合遺跡 遺物編2』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第32集、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所。

山田成洋・伊藤律子編 1992 『川合遺跡 遺物編2（石製品・金属製品本文編）』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第36集、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所。

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所編 1999 『1999年度出土品図録』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所。

◀ 191. 静岡県三滝ヶ谷古墳群2号墳 ▶

長野 宥編 1990 『特別展 静岡・清水平野の古墳時代—新出土品にみるまつりとくらし—』静岡市立登呂博物館。

◀ 192. 静岡県沖田遺跡第133次調査 ▶

若林美希編 2008 『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』富士市教育委員会。

◀ 193. 静岡県洗田遺跡 ▶

大場磐雄・佐藤民雄・恵藤千万樹 1938 「南伊豆洗田の祭祀遺跡」『考古学雑誌』第28巻第3号、日本考古学会、42—77頁。

堀田美桜男・川合治栄 1950 『加茂郡朝日村吉佐美小字溝の上（洗田）原史時代祭祀遺蹟』静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告第13集、静岡県。

大塚初重・川江秀孝ほか 1990 『静岡県史 資料編2 考古2』静岡県。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係

の遺跡と遺物〈第 I 分冊－東日本編 I－東北・東海地方・中部・北陸〉』東日本埋蔵文化財研究会。

≪ 194. 静岡県姫宮遺跡 ≫

宮本達希編 1983 『姫宮遺跡発掘調査概報Ⅱ（第Ⅴ次－第Ⅶ次調査）』静岡県河津町教育委員会。

≪ 195. 山梨県伊勢町遺跡 ≫

上野晴朗 1959 「山梨県甲府市伊勢町遺跡調査概報」『甲斐史学』11号、甲斐史学会、7－16頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物〈第 I 分冊－東日本編 I－東北・東海地方・中部・北陸〉』東日本埋蔵文化財研究会。

≪ 196. 山梨県平林2号墳 ≫

吉岡弘樹編 2000 『平林2号墳』山梨県教育委員会。

≪ 197. 山梨県桜井B号墳 ≫

飯島 進編 1974 『甲斐の古墳Ⅰ－甲府北東部における積石塚、横穴式古墳の調査－』甲斐古墳調査会。

重菱駿武編 1991 『横根・桜井積石塚古墳群調査報告書－分布調査報告、横根支群39号墳・桜井内山支群9号墳発掘調査報告－』甲府市文化財調査報告6、甲府市教育委員会。

≪ 198. 長野県宮の平2号古墳 ≫

金子拓男・佐藤泰治・家田順一郎編 1977 『南魚沼』新潟県教育委員会。

≪ 199. 長野県座光寺 ≫

長野市立博物館編 1986 『第13回企画展鏡の文化－手鏡から望遠鏡まで－』長野市立博物館。

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全1巻（4）、長野県史刊行会。

≪ 200. 長野県殿垣外4号古墳 ≫

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全1巻（4）、長野県史刊行会。

≪ 201. 長野県神送塚古墳 ≫

佐藤甞信・遮那藤麻呂編 1974 『小池・宮城・神送塚』長野県飯田市教育委員会。

《 202. 長野県新井原 6 号古墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全 1 巻（4）、長野県史刊行会。

《 203. 長野県若宮 2 号古墳 》

長野市立博物館編 1986 『第 13 回企画展鏡の文化－手鏡から望遠鏡まで－』長野市立博物館。

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全 1 巻（4）、長野県史刊行会。

《 204. 長野県大峽 2 号古墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全 1 巻（4）、長野県史刊行会。

宮下健司 1994 「長野県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 56 集、国立歴史民俗博物館、132－145 頁。

《 205～208.（伝）長野県川柳将軍塚古墳 》

森本六爾編 1929 『川柳村将軍塚の研究』岡書院。

宮下健司 1979 「長野県川柳将軍塚古墳をめぐる古文献－史料「万伝書覚張」を中心として－」『信濃』第 31 巻第 9 号、信濃史学会、72－84 頁。

長野市立博物館編 1986 『第 13 回企画展鏡の文化－手鏡から望遠鏡まで－』長野市立博物館。

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全 1 巻（4）、長野県史刊行会。

《 209. 長野県篠ノ井遺跡 SM 7016 》

西山克己編 1997 『中央自動車道長野線埋蔵文化財調査報告書 16 篠ノ井遺跡群』（財）長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 22、財団法人長野県埋蔵文化財センター。

《 210. 長野県岩屋堂洞窟古墳 》

長野市立博物館編 1986 『第 13 回企画展鏡の文化－手鏡から望遠鏡まで－』長野市立博物館。

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全 1 巻（4）、長野県史刊行会。

《 211. 長野県長野市平林出土 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編（遺構・遺物）』全 1 巻（4）、長野県史刊行会。

《 212. 長野県川田条里遺跡 》

白居直之・市川隆之編 1997 『石川条里遺跡』（財）長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 26、長野県教育委員会・（財）長野県埋蔵文化財センター。

《 213. 長野県本郷大塚古墳 》

長野県史刊行会編 1988 『長野県史考古資料編(遺構・遺物)』全1巻(4)、長野県史刊行会。

《 214. 新潟県飯綱山10号墳東石室 》

新潟県考古学会編 1999 『新潟県の考古学』高志書院。

《 215. 新潟県下山3号墳 》

金子拓男・佐藤泰治・家田順一郎編 1977 『南魚沼』新潟県教育委員会。

新潟県考古学会編 1999 『新潟県の考古学』高志書院。

《 216. 新潟県蔵王遺跡 》

新穂村教育委員会編 1988 『新穂村玉作遺跡群村内遺跡発掘調査の概報』新穂村教育委員会。

《 217・218. 神奈川県勝坂祭祀遺跡 》

江藤 昭編 1988 『稲荷山第一号墳遺跡 東国における前期古墳の調査』下依知大久根遺跡調査団。

加藤 修・篠原祐一・梶山林継・山田不二郎編 2010 『勝坂有鹿谷祭祀遺跡資料報告書』相模原市史調査報告書6、相模原市。

《 219. 神奈川県白山古墳北粘土槨 》

柴田常恵・森 貞成編 1953 『日吉加瀬古墳—白山古墳・第六天古墳調査報告—』三田史学会。

《 220. (伝)神奈川県横須賀市 》

後藤守一 1942 『古鏡聚英』上篇、大塚巧藝社。

《 221. 神奈川県鳥ヶ崎横穴群鳥ヶ崎横穴 》

赤星直忠 1925 「相州鴨居の横穴(2)」『考古学雑誌』第15巻第9号、考古学会、59—67頁。

《 222. 千葉県花前Ⅱ-I遺跡 》

清藤一順ほか 1983 『常盤自動車道埋蔵文化財調査報告書I—館林・水砂・花前Ⅱ-1—』

(財) 千葉県文化財センター。

《 223. 千葉県新皇塚古墳南槨 》

種田齊吾・菊池真太郎編 1974 『市原市菊間遺跡』(財)千葉県都市公社。

鈴木仲秋 1980 「房総の古鏡」『房総風土記の丘 展示図録』No. 8、房総風土記の丘友の会。

≪ 224. 千葉県小田部新地 44 号墳 ≫

山口直樹編 1984 『小田部新地遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第 4 集、財団法人市原市文化財センター。

中山清隆・林原利明 1994 「小型倣製鏡の基礎的集成(1)―珠文鏡の集成―」『地域相研究』第 21 号、地域相研究会、95 - 125 頁。

≪ 225. 千葉県草刈遺跡 D 区 039 号住居跡 ≫

大谷弘幸・西野雅人編 2003 『千原台ニュータウン XI 市原市草刈遺跡 (C 区・保存区)』千葉県文化財センター調査報告第 479 集、財団法人千葉県文化財センター。

≪ 226. 千葉県草刈遺跡 C 区 97 号住居跡 ≫

大谷弘幸・西野雅人編 2003 『千原台ニュータウン XI 市原市草刈遺跡 (C 区・保存区)』千葉県文化財センター調査報告第 479 集、財団法人千葉県文化財センター。

≪ 227. 千葉県草刈遺跡 C 区 153 号住居跡 ≫

大谷弘幸・西野雅人編 2003 『千原台ニュータウン XI 市原市草刈遺跡 (C 区・保存区)』千葉県文化財センター調査報告第 479 集、財団法人千葉県文化財センター。

≪ 228. 千葉県草刈遺跡 C 区 098 号住居跡 ≫

大谷弘幸・西野雅人編 2003 『千原台ニュータウン XI 市原市草刈遺跡 (C 区・保存区)』千葉県文化財センター調査報告第 479 集、財団法人千葉県文化財センター。

≪ 229. 千葉県請西・大山第 31 号墳第 2 主体部 ≫

白井久美子 1994 「千葉県」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 56 集、国立歴史民俗博物館、82 - 95 頁。

≪ 230. 東京都砧中学校 7 号墳 ≫

對比地秀行編 1982 『嘉留多遺跡・砧中学校 7 号墳』世田谷区教育委員会。

≪ 231. 東京都伊興遺跡谷下地区 ≫

大場磐男編 1975 『武蔵伊興遺跡』伊興遺跡調査団。

中山清隆・林原利明 1994 「小型倣製鏡の基礎的集成(1)―珠文鏡の集成―」『地域相研究』第 21 号、地域相研究会、95 - 125 頁。

佐々木 彰・三ヶ島誠次郎・小鍛治茂子編 1999 『東京都足立区毛長川流域の考古学的調査』、足立区伊興遺跡調査会。

≪ 232. 埼玉県入西石塚古墳 ≫

今井 堯・橋口尚武 1988 「坂戸市入西石塚と出土遺物の研究」『坂戸市史調査資料坂戸風土記』第14号、坂戸市教育委員会委員会、71 - 92 頁。

《 233. 埼玉県柏崎古墳群 》

村井 雄・亀井正道・本村豪章・望月幹夫 1986 『東京国立博物館図版目録古墳遺物編（関東Ⅲ）』東京国立博物館、30 - 31 頁。

後藤守一 1926 『漢式鏡』雄山閣。

《 234. 埼玉県前組羽根倉第2号墳 》

書上元博・柿沼幹夫・駒宮史朗・坂本和俊・関 義則・利根川章彦編 1986 『前組羽根倉遺跡発掘調査報告』前組遺跡発掘調査団。

《 235. 埼玉県下小坂3号墳 》

甘粕 健・小泉 功・金井塚良一・茂木雅博編 1972 『川越市史』第1巻 原始古代編、川越市。

柳田敏司ほか 1982 『新編 埼玉県史 資料編』2、埼玉県。

塩野 博 2002 「埼玉県出土の銅鏡—古墳時代を中心として—」『埼玉県立博物館紀要』27 埼玉県立博物館、1 - 36 頁。

《 236. 埼玉県午王山遺跡 》

書上元博・柿沼幹夫・駒宮史朗・坂本和俊・関 義則・利根川章彦編 1986 『前組羽根倉遺跡発掘調査報告』前組遺跡発掘調査団。

《 237. 群馬県大山鬼塚古墳 》

東京国立博物館編 1983 『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇（関東Ⅱ）、東京国立博物館、212 - 215 頁。

《 238. 群馬県天引向原遺跡20号住居 》

右島和夫編 1994 『白倉下原・天弘向原遺跡Ⅲ』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第173集、群馬県埋蔵文化財調査団。

《 239. 群馬県妙義町馬の宮所在古墳 》

群馬県立歴史博物館 1980 『企画展群馬の古鏡』群馬県立歴史博物館。

《 240. 群馬県大宮巖鼓神社 》

群馬県立歴史博物館 1980 『企画展群馬の古鏡』群馬県立歴史博物館。

《 241. 群馬県西谷出土 》

東京国立博物館 1983 『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇（関東Ⅱ）、東京国立博物館、222 - 223 頁。

《 242. 群馬県若宮出土》

後藤守一 1980 『古鏡聚英』上編、大塚功藝社、1942。

群馬県立歴史博物館 1980 『企画展群馬の古鏡』群馬県立歴史博物館。

東京国立博物館 1983 『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇（関東Ⅱ）、東京国立博物館、144 頁。

《 243. 群馬県前二子古墳》

石川正之助 1981 「前二子古墳」『群馬県史 資料編3』群馬県史編さん委員会、72 - 84 頁。

《 244. 群馬県華蔵寺古墳》

東京国立博物館 1983 『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇（関東Ⅱ）、東京国立博物館、57 - 58 頁。

《 245. 群馬県南原古墳》

松村一昭 1981 『今井南原遺跡発掘調査概報 南原古墳』赤堀村教育委員会。

《 246. 栃木県水神塚古墳》

岩崎卓也・久保哲三編 1981 『小山市史 資料編・原始古代』小山市史編纂委員会。

《 247. 栃木県幸岡古墳群中の一基》

栃木県史編さん委員会編 1976 『栃木県史』資料編 考古一、栃木県。

矢板市編 1989 『ふるさと矢板の歩み』矢板市。

《 248. 栃木県稲荷山古墳》

栃木県史編さん委員会編 1976 『栃木県』資料編 考古一、栃木県。

《 249. 栃木県磯岡北3号墳》

内山敏行編 2006 『東谷・中島地区遺跡群7 磯岡北古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第299集、財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター。

《 250. 栃木県中島笹塚2号墳》

内山敏行・志賀智史編 2008 『東谷・中島地区遺跡群9 中島笹塚古墳群・中島笹塚遺跡（1～8区）』栃木県埋蔵文化財調査報告第311集、栃木県教育委員会・財団法人とちぎ生涯学習文化財団。

《 251. 栃木県塚越1号墳》

(財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター編 2011 「塚越1号墳」『栃木県埋蔵文化財センター便り』2011年11月号、(財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター。

≪ 252. 栃木県論田塚古墳群 ≫

茨城県史編さん委員会 1974 『茨城県史料 考古資料編古墳時代』茨城県史編さん委員会。

≪ 253. 栃木県磯崎東古墳 ≫

井上義安・小堤静江・鈴木浩子・富岡清子・水谷 正編 1990 『那珂湊市磯崎東古墳群』那珂湊市磯崎東古墳群発掘調査会。

稲田健一 2010 「ひたちなか市域の古墳群」『常陸の古墳群』六一書房、31 - 56 頁。

≪ 254. 栃木県尾形山横穴群 ≫

北茨城市史編さん委員会 1988 『北茨城市史』上巻、北茨城市。

≪ 255. 福島県建鉾山祭祀遺跡遺物包含層 ≫

亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。

國學院大學考古學資料館編 1981 『國學院大學考古學資料館要覧 祭祀遺物』國學院大學考古學資料館。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物≪第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸≫』東日本埋蔵文化財研究会。

≪ 256. 福島県中田1号横穴前底部 ≫

いわき市史編さん委員会編 1971 『いわき市史・別巻』いわき市史編さん委員会。

≪ 257. 福島県(伝)会津地方出土 ≫

中山清隆・林原利明 1994 「小型倣製鏡の基礎的集成(1)－珠文鏡の集成－」『地域相研究』第21号、地域相研究、95 - 125 頁。

≪ 258. 福島県山崎横穴群横穴 ≫

志間泰治 1954 「宮城県伊具郡金山町臺町古墳群調査概報」『歴史』7、東北史学会、43 - 53 頁。

≪ 259. 福島県土橋古墳 ≫

平沢一久・目黒吉明 1964 『福島県史 資料編1』6巻、福島県。

≪ 260. 福島県上渋佐7号墳 ≫

- 鈴木文雄編 2001 『桜井古墳群上洪佐支群7号墳発掘調査報告書』福島県原町市教育委員会。
- ≪ 261. 福島県表西山横穴群30号墓 ≫
- 平沢一久 1964 「表西山横穴古墳群」『福島県史 資料編1』6巻、福島県、49頁。
- ≪ 262. 宮城県新田東遺跡 ≫
- 柳澤和明・茂木好光・西村 力編 2003 『新田東遺跡 - 三陸自動車道建設関連遺跡調査報告書Ⅱ -』宮城県文化財調査報告書第191集、宮城県教育委員会。
- ≪ 263. 大韓民国海南作造山古墳 ≫
- 福泉博物館 2009 『神의 거울 銅鏡』福泉博物館。
- 徐聳聲勳・成洛俊 1984 『海南月松里造山古墳』光州博物館學術叢書第4輯、光州博物館・百濟文化開發研究会。
- ≪ 264. 大韓民国齊月里古墳 ≫
- 金元龍 1964 「潭陽出土三国時代銅鏡二面」『李相佰博士回甲紀念論叢』想白李相佰博士回甲紀念論叢編輯委員會編、99 - 106頁。
- 小田富士雄 1988 「韓国古墳出土の倭鏡」『考古学叢考』上巻、斎藤忠先生頌寿記念論文集刊行会、549 - 567頁。
- 福泉博物館 2009 『神의 거울 銅鏡』福泉博物館。
- ≪ 265. 大韓民国光州雙岩洞 ≫
- 福泉博物館 2009 『神의 거울 銅鏡』福泉博物館。
- ≪ 266. 大韓民国（伝）慶山林堂 ≫
- 福泉博物館 2009 『神의 거울 銅鏡』福泉博物館。
- 李 陽洙 2007 『国立慶州博物館所蔵鏡鑑』国立慶州博物館。
- ≪ 267. 大韓民国山清生草9号墳 ≫
- 趙 榮濟・柳 昌煥・張 相甲・尹 敏根 2006 『山清生草古墳群』慶尚大學校博物館研究叢書第29輯、慶尚大學校博物館・山清郡。
- 福泉博物館 2009 『神의 거울 銅鏡』福泉博物館。
- ≪ 268. 大韓民国慶尚北道慶州金鈴塚古墳 ≫
- 梅原末治 1932 『慶州金鈴塚飾覆塚発掘調査報告 本文』大正十三年度古蹟調査報告第1冊、朝鮮総督府。

小田富士雄 1988 「韓国古墳出土の倭鏡」『考古学叢考』上巻、斎藤忠先生頌寿記念論文集刊行会、549 - 567 頁。

《 269. 明治大学所蔵鏡 》

明治大学考古学博物館編 1988 『明治大学考古学博物館蔵品図録1 鏡』明治大学考古学博物館。

《 270. 泉屋博古館所蔵鏡 》

財団法人泉屋博古館編 2004 『泉屋博古』財団法人泉屋博古館。

放射状区画をもつ珠文鏡の参考文献

《 1. 大分県灰土山古墳 》

河野清實 1915 「豊後西国東郡田原村灰土山の古墳」『考古学雑誌』第5巻第11号、日本考古学会、23 - 31 頁

佐賀県立博物館編 1979 『古代九州の遺宝 鏡・玉・剣』佐賀県立博物館。

甲斐忠彦・真野和夫・小柳和宏編 1989 『古墳文化の世界—豊の国の支配者たち—』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館。

《 2. 熊本県経塚古墳 》

乙益重隆 1983 「珠文鏡」『肥後考古』第3巻、肥後考古学会、88 頁。

《 3. 山口県新宮山1号墳 》

岩崎仁志編 1998 『平成6～9年度 重要遺跡確認緊急調査報告書』山口県埋蔵文化財調査報告第185集、山口県教育委員会。

九州・山口古墳時代研究会実行委員会編 2002 『山口の古墳』第28回 九州・山口古墳時代研究会実行委員会

《 4. 広島県千人塚古墳 》

松崎寿和・潮見 浩 1961 「古墳時代」『新修広島市史』第1巻総説編、広島市役所、136 - 194 頁。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

古瀬清秀編 2010 『広島県東広島市千人塚古墳』東広島市教育委員会・広島大学文学研究科考古学研究室。

《 5. 岡山県妙見1号墳 》

平井 勝 1987 「真備町妙見1号墳出土の珠文鏡」『古代吉備』9、古代吉備研究会、113 - 115 頁。

《 6. 兵庫県御旅山13号墳 》

松本正信・加藤史郎・中村信義・中浜久喜 1995 『御旅山13号墳』姫路市文化財調査報告。

櫃本誠一 2002 『兵庫県の出土古鏡』学生社、158 - 159 頁。

《 7. 京都府谷垣18号墳 》

久美浜町教育委員会 1998 『久美浜町文化財調査報告』第20集、久美浜町教育委員会。

京丹後市史編さん委員会編 2010 『京丹後市資料編 京丹後市の考古資料』京丹後市史編さん委員会。

《 8. 和歌山県尾ノ崎遺跡15号周溝墓》

久見 健編 1981 『尾ノ崎遺跡』御坊市遺跡調査会。

《 9. 奈良県（伝）あやめ池付近》

田中 琢 1979 『日本の原始美術8 古鏡』講談社。

《 10. 石川県神谷内古墳群》

小西昌志編 2004 『神谷内古墳群C支群』金沢市文化財紀要208、金沢市。

《 11. 富山県板屋谷内C6号墳》

杉山大晋 2005 「板屋谷内B・C古墳群の金属製品の一考察」『富山考古学研究』第8号
財団法人富山県文化振興財団・埋蔵文化財調査事務所、94－106頁。

小西昌志編 2004 『板屋谷内C古墳群』金沢市文化財紀要208、金沢市。

金三津道子・新宅 茜編 2008 『板屋谷内B・C古墳群・堂前遺跡発掘調査報告』富山県
文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第38集、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調
査事務所。

《 12. 静岡県（伝）明ヶ島1号墳》

磐田市史編さん委員会編 1992 『磐田市史 資料編1 考古・古代・中世』磐田市。

《 13. 千葉県大竹古墳群K13号墳第2埋葬施設》

田形孝一編 1991 『筑田遺跡・三ツ田台遺跡・大竹古墳群（1）』財団法人君津郡市文化
財センター。

《 14. 同県下田遺跡》

倉田義広編 1998 『下田遺跡』財団法人千葉市文化財調査協会。

第5章 内行花文鏡の研究

はじめに

内行花文鏡は古墳時代を代表とする仿製鏡であり、面径は5.7 cmの小型のものから39.8 cmの大型のものまで幅広く作り分けされていたと考えられている。弥生時代後期において仿製内行花文鏡は北部九州と、中国・四国地方から近畿地方にかけて出土する。弥生時代小型仿製鏡のうち高倉洋彰による内行花文鏡第Ⅲ型b類は、近畿地方において生産されたと指摘されている（高倉1985）。筆者は弥生時代後期末から古墳時代の内行花文鏡を、文様構成と生産技術から分類し、古墳時代内行花文鏡の祖形や、弥生時代の内行花文鏡との関連について検討する。

第1節 内行花文鏡の研究史

（1）分類に関する研究史

森浩一は内区の周囲に配されている外帯部に注目し、古墳時代の小型内行花文鏡の分類を行った（森1970）。森によると、外帯部の文様帯は無作為に組み合わせるのではなく、一定の規則性がある。例えば外から内に向って櫛歯文帯と珠文帯となる組み合わせは確立しているが、その逆はないとしている。外帯部の文様構成のうち櫛歯文をA系とし、さらに斜行をAⅠ、直行を一帶有するものをAⅡとし、後者の内側の一突帯をめぐらす場合をAⅡの亜類、直行櫛歯文を二帶有すればAⅢとしている。櫛歯文帯の内側に珠文帯を伴うものをB系、そのうち斜行をBⅠ、直行をBⅡとする。鋸歯文帯のみはC系とし、鋸歯文帯の内側に櫛歯文帯が配されればCAⅡ、鋸歯文帯の内側に櫛歯文帯・珠文帯が配されればCBⅡと分けている。古墳時代の仿製内行花文鏡は長宜子孫内行花文鏡の影響を受けていないと想定し、弥生時代の小型仿製鏡を仿製内行花文鏡の母鏡と考えている。

小林三郎は花文の数によって分類を行っており、8花文のものが第一次的な仿製鏡であると指摘している。8花文の内行花文鏡に大型のものが多くことから、面径の小型化は大型鏡からの退化であると考えた（小林1982）。

森下章司は内行花文鏡A系・B系・C系1～3類と内行花文鏡髭文系1～3類に分類した。外区文様と、内区の花文数・雲雷文の有無・座から以下のように分類している（森下1991）。

内行花文鏡A系：面径20cmを超える大型品で、9や7などの変則的な花文数のものが多く、外区文様は素文となる。

内行花文鏡B系：面径は10cm以上で、花文間には重弧文や獣文をいれ、雲雷文と花文の位置が逆転した特異な文様構成。外区文様は素文・鋸歯文・突帯—鋸歯文—鋸歯文となる。

内行花文鏡C系：面径が8～20cm前後の中型品で、花文間には結紐文、3つの珠文、珠文充填などがある。外区文様は素文・鋸歯文となる。

1類 8花文で雲雷文と四葉座をもつもの。外区は素文となる。

2類 7、6花文で多くが雲雷文を欠くもの。外区は素文・鋸歯文・突帯—鋸歯文—鋸歯文となる。

3類 5花文で雲雷文、四葉座を欠くもの。外区は素文・鋸歯文となる。

内行花文鏡髭文系：花文間に、髭状の単位文様をいれる。他の内行花文鏡系ではすぐに失われる四葉座を、変形が進んでも保持する。

1類 6花文で雲雷文と四葉座を備えたもので、外区文様は素文となる。

2類 6～5花文で雲雷文の省略されたもので、外区文様は鋸歯文—鋸歯文—波文、鋸歯文—波文、櫛歯文—波文となる。

3類 5～4花文で四葉座が線表現あるいは省略されたもので、外区文様は櫛歯文—波文。

年代は、内行花文鏡A～C系は4世紀、内行花文鏡髭文系は5世紀終わりから6世紀前葉としている（森下1991）。

今井堯は中国地方・四国地方から出土した内行花文鏡の検討を行っている。これによると前方後円墳集成編年2期から内行花文鏡が出土する。この時期には他の内行花文鏡・鼉龍鏡・方格規矩鏡・三角縁神獸鏡などの大型仿製鏡が出

現すると述べた。さらに、小型内行花文鏡は2～9期まで出土するが、3～5期の古墳出土例が大半を占め、4期が最も多いと指摘する（今井1992）。

清水康二は古墳時代の仿製内行花文鏡の分類と編年を行った。その際、仿製鏡の面径の大小が時間差であるのか、もしくは、階級の格差であるのかということを実証することが重要であると考えた。母型は中国製長宜子孫内行花文であると想定し、A～E類に分類した。さらに、鈕座、有節松葉文、花文間単位文様などに着目して細分し、大型鏡と小型鏡に共通する単位文様の存在を見出した。古墳時代前期前葉から、大型鏡とともに小型鏡が製作されていたと述べ、鏡の大小は型式学における退化ではないことを指摘した。古墳時代仿製鏡の製作地については畿内政権の強い掌握のもとで行われていたとの推測がなされている。

清水の分類は以下のとおりである。

倣製内行花文鏡A類：中国製長宜子孫内行花文鏡を模倣の対象として製作されたもの。四葉座、有節松葉文をもつもの。

倣製内行花文鏡B類：中国製長宜子孫内行花文鏡とは直接の関係にないもの。四葉座、有節松葉文をもたないもの。

倣製内行花文鏡C類：中間的な形態のもの。四葉座はないが、有節松葉文をもつもの。

倣製内行花文鏡D類：中間的な形態のもの。四葉座はあるが、有節松葉文のないもの。

倣製内行花文鏡E類：斜面櫛歯文帯、複線波文、崩れた単位文様をもつもの。鈴鏡もここに入る（清水1994）。

その後、清水は、内行花文鏡の内行花文間と四葉座間単位文様、鏡縁上端の形状、鏡背分割技法の検討を行い、いずれの要素においても、奈良県柳本大塚古墳鏡よりも奈良県下池山古墳鏡の方が新しいと指摘する（清水2008）。

名本二六雄は、小型仿製鏡である捩文鏡に関して、出土地が散在した在り方や背面文様の不統一さから、弥生時代の伝統をもつ工人によって作られたと述べている。ただし、内行花文鏡に関しては、清水康二や今井堯による研究を受け、小型内行花文鏡の生産体制については、「ヤマト政権下における工房があっ

たことを認めるにやぶさかでない」と述べる。さらに、小型内行花文鏡は、一部に三角縁神獸鏡とも重なる形でヤマト政権により配布が行われたとしている(名本 2002)。

林正憲は古墳時代の仿製内行花文鏡の検討を行い、6花文以外に限定して内行花文鏡の分類を行った。分類の指標として最も適切なものは、四葉座鈕と単位文様であると指摘した。四葉座の分類は清水康二の分類を用いている。四葉座Ⅰは中国製内行花文鏡にみられるように、葉状部分の最もくびれた部分が互いに接しておらず、四葉座の上に鈕が直接のるものである。四葉座Ⅱは葉状部分のくびれ部が浅くなり、その部分で互いの葉が接するようになるものである。鈕も四葉座との間に段をもつようになるとする。原鏡からの乖離から、四葉座Ⅰ→四葉座Ⅱ→四葉座の消滅という三段階の変遷が想定できると述べた。さらに四葉座間や花文間に配置される単位文様を模倣型、変容型、独自型の3類型に分類する(林 2000)。

下垣仁志は古墳時代仿製鏡の検討を行っている。内行花文鏡のうち、中国鏡及び弥生時代小型仿製鏡と区別し難い資料を除外して検討を行っている。分類は四葉座をもつ鏡群を内行花文鏡A式、四葉座をもたないものを内行花文鏡B式としている。四葉座を基部の削りこみが深くスマートな類(四葉文A類)と、基部の削りこみが浅くずんぐりとした類(四葉文B類)とにし、さらに、四葉文が直接つながるもの(Ⅰ類)、鈕座を介して鈕をのせるもの(Ⅱ類)とに分けた。四葉文はAⅠ類→AⅡ類・BⅠ類→BⅡ類の方向で変化したとする。四葉座のないB式については、下垣の設定した古段階(Ⅰ・Ⅱ段階)に併行する資料を抽出することは不可能であるとし、内行花文鏡A式で四葉座B類のものは、花文間に珠文を配することから、内行花文鏡B式は下垣によるⅢ段階以降に位置付けられるとする。また古段階の内行花文鏡A式はほとんどが面径20cm以上の大型鏡であり、面径14cm未満のものが皆無であるため、古段階には内行花文鏡の小型鏡は存在しないと指摘する。

以上の研究をまとめてみると、内行花文鏡の分類は内行花文帯周囲の文様帯に着目した研究(森 1975)と、内行花文鏡の四葉座の形態を最重視し、分類を行う研究(清水 1994・林 2000・下垣 2011)に大きく分けることが可能である。

森以外の研究は主に大型鏡を中心に分類や研究が行われていることが分かる。

(2) 祖形に関する研究史

古墳時代内行花文鏡についてはその祖形を中国鏡の内行花文鏡か、もしくは弥生時代の仿製内行花文鏡によって意見が分かれているところである。

清水康二は弥生時代小型仿製鏡の内行花文鏡は、花文はフリーハンド⁽¹⁾で描かれているが、古墳時代初頭の仿製内行花文鏡の花文は正確にコンパスで描かれている。鑄造技術においては、弥生時代小型仿製鏡は比較的鑄上がりの悪いものが多いのに対して、古墳時代のものは鑄上がりの良いものが多いと述べ、鑄型に違いがあるのではないかと指摘する。(清水 1994・2008)。

林原利明は東日本から出土する古墳時代の初期銅鏡について検討しており、内行花文鏡の具体例には、内区に6花文をもつ富山県小杉町上野出土鏡、4花文をもつ東京都八王子市館町出土鏡をあげている(林原 1993)。

田尻義了は仿製内行花文鏡の中で弥生時代終末期として報告される資料があることを述べており、兵庫県釧田遺跡出土鏡と富山県上野遺跡出土鏡の事例を挙げている。釧田遺跡出土鏡は、花文間の空間が不均一であり、コンパスで描かれていないことを指摘し、この2面は弥生時代終末期に属する可能性があることに言及し、今後もこのような鏡は増加する可能性があるとしている(田尻 2012)。

(3) 生産地や意義に関する研究史

生産地について述べたものには清水康二の研究(清水 1994)がある。清水は古墳時代の内行花文鏡は、型式学的には地方差を表すような分類はできないと述べている。仿製鏡の製作は、大型鏡と小型鏡に共通の単位文様が用いられるものがあることから、少なくとも大型鏡と小型鏡が同一の生産体制で製作されていたことを示す証拠であると述べた。さらに仿製鏡製作は、畿内政権の強い掌握のもとで行われていたとしている(清水 1994)。

下垣仁志は古墳時代仿製鏡である内行花文鏡の分布について検討しており、大型鏡・中型鏡の大半が畿内に分布し、畿内外縁の東海西部と瀬戸内中・東部

では小型鏡が主体であるものの、一部に中型鏡がみられる。そして、沖ノ島遺跡を除いた九州と東海東部から関東では、ほとんどが小型鏡で占められていることを指摘している。さらに内行花文鏡の面径は、古墳の規模や近畿地方からの距離と関係性があることを詳細に検討している（下垣 2003・2011）。

第2節 内行花文鏡の分類と編年

（1）分類方法

内行花文鏡の小型鏡のみで詳細に分類したものは森浩一の研究がある。内行花文帯の外側に配された文様構成に着目して分類を行っている（森 1970）。小型内行花文鏡の変遷を把握するためには、森の用いた研究手法が最も有効であると考えている。森は小型鏡のみを分類しているが、筆者は大型鏡においてもこの方法を用いて分類することとする。今回は文様と時期が特定確認できた123面を用いて、分類を行なうものとする。

内区外周と外区文様に関しては、鋸歯文帯「A」、櫛歯文帯「B」、複線波文帯「C」、無文帯「D」、珠文帯「S」、有節松葉文帯「Y」とし、鋸歯文帯が2重に配される文様は「A2」、複合鋸歯文は「A3」、斜行櫛歯文帯「B[〓]」、櫛歯文帯を2重に配されるものは「B2」、圏線「K」として表現することとする。内行花文鏡は6類に大別しており、①内区外周に斜行櫛歯文帯を配するもの、②内区外周に櫛歯文帯を配するもの、③内区外周に有節松葉文帯を配するもの、④内区外周に櫛歯文帯・珠文帯を配するもの、⑤外区に鋸歯文帯を配するもの、内区外周に櫛歯文帯・珠文帯を配するもの、⑥外区に鋸歯文帯を配するものとしている。なお、分類は以下の通りである。

（2）外区文様の細分（第87図）

①内区外周に斜行櫛歯文帯を配するもの。

ここに含まれるものは4類ある。

D-B[〓]N類：外区は無文、内区外周は斜行櫛歯文帯・乳文となるもの。

D-B[〓]K類：外区は無文、内区外周は斜行櫛歯文帯・圏線となるもの。

D-B¹KB類：外区は無文、内区外周は斜行櫛歯文帯－圏線－櫛歯文帯となるもの。

②内区外周に櫛歯文帯を配するもの。

ここに含まれるものは5類ある。外区は無文であり、内区は無文帯と櫛歯文帯を配するものを基準としている。

D-B類：外区は無文、内区外周には櫛歯文帯を配するもの。

D-BD類：外区は無文、内区外周は外側から櫛歯文帯－無文帯となるもの。

D-BDB類：外区は無文、内区外周は外側から櫛歯文帯－無文帯－櫛歯文帯となるもの。

D-B2類：外区は無文、内区外周は外側から二重の櫛歯文帯となるもの。

D-BK類：外区は無文、内区外周は外側から櫛歯文帯、圏線となるもの。

③内区外周に有節松葉文帯を配するもの。

ここに含まれるものは3類ある。この分類は有節松葉文帯を持つものを基準としている。

D-BYB類：外区は無文、内区外周は外側から櫛歯文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯となるもの。

D-BYB²類：D-BYB類から文様の脱落したもの、もしくは珠文帯が加わるもの。

D-BYS類：外区は無文、内区外周は外側から櫛歯文帯－有節松葉文帯－珠文帯となるもの。

④内区外周に櫛歯文帯・珠文帯を配するもの。

ここに含まれるものは2類である。

D-B²S類：外区は無文、内区外周は外側から櫛歯文帯－珠文帯となるもの。

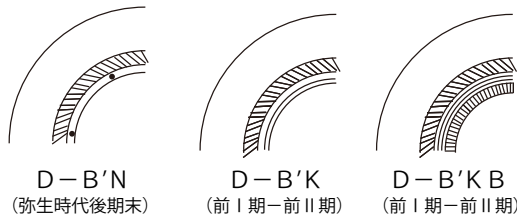
D-B²S²類：D-B²S類から派生したもので、さらに櫛歯文帯もしくは無文帯を加えるもの。

⑤外区に鋸歯文帯をもち、内区外周に櫛歯文帯－珠文帯を配するもの。

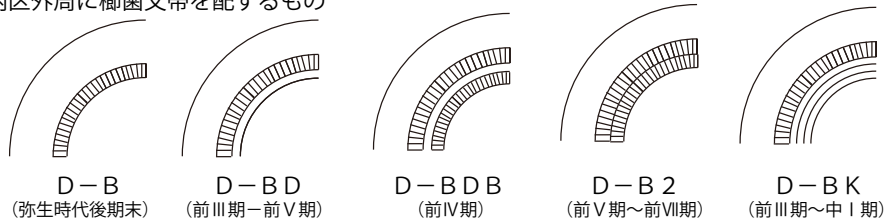
ADA-A3S：外区に鋸歯文帯－無文帯－鋸歯文帯、内区外周は外側から複合鋸歯文帯－珠文帯となるもの。

A-B²S類：外区に鋸歯文帯、内区外周は外側から櫛歯文帯－珠文帯となるもの。

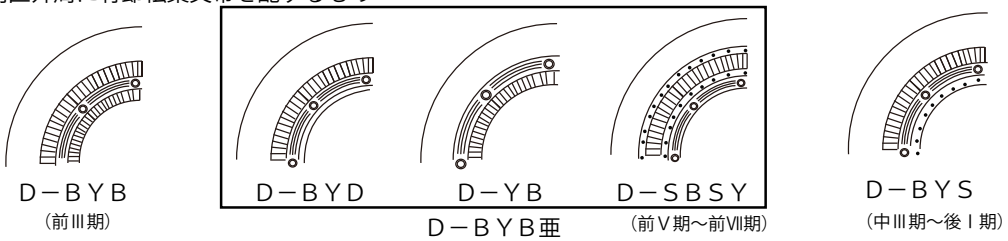
①内区外周に斜行櫛歯文を配するもの



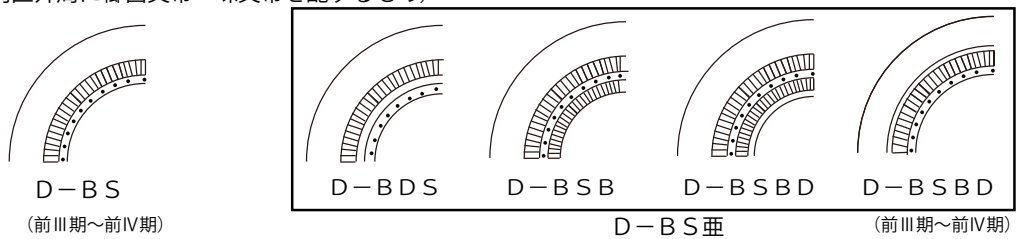
②内区外周に櫛歯文帯を配するもの



③内区外周に有節松葉文帯を配するもの



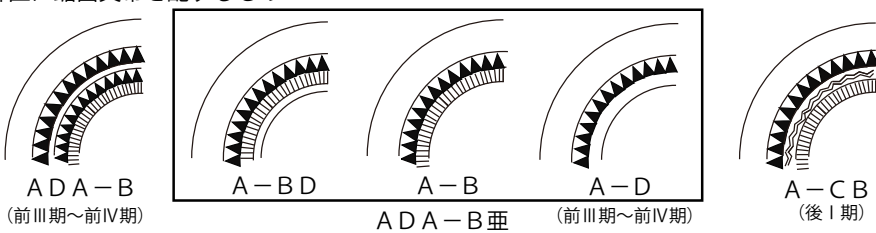
④内区外周に櫛歯文帯・珠文帯を配するもの



⑤外区に鋸歯文帯をもち、内区外周に櫛歯文帯・珠文帯を配するもの



⑥外区に鋸歯文帯を配するもの



第87図 外区文様

の。

A-B S 亜類：A-B S 類に珠文帯や無文帯を加えているもの。

⑥外区に鋸歯文帯を配するもの。

ADA-B 類：外区に鋸歯文帯—無文帯—鋸歯文帯、内区外周に櫛歯文帯となるもの。

ADA-B 亜類：ADA-B 類から櫛歯文帯や鋸歯文帯を省略したもの。



















































A-C A 類：外区に鋸歯文帯、内区外周は外側から複線波文帯—櫛歯文帯となるもの。

(3) 花文間の単位文様の分類 (第 88 図)

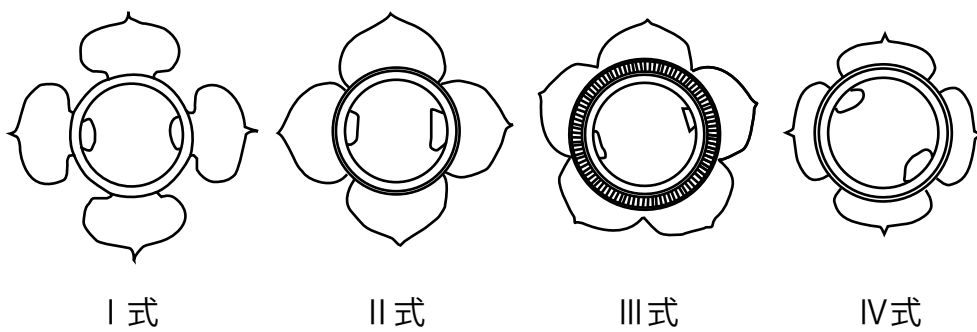
花文間の単位文様は山形文・三角文・半弧文・珠文・曲線文・線文・変形文に大別している。それ以外に無文のものもある。山形文は1重・2重・3重・4重以上・珠文をもつものに5細分している。三角文は1重・2重以上・三角文1重の中に珠文1点・三角文1重の中に珠文と曲線文をもつものに4細分している。半弧文は半弧の上に3本の線文をもつもの・半弧の上に3本以上の線文をもつもの・半弧の上に3本の線文と半弧内に珠文をもつもの・半弧の上に3本以上の線文と半弧の内側に珠文をもつもの・半弧文が変形したものに5細分している。珠文は珠文1点・珠文3点・珠文充填・珠文の大1点と小2点・珠文の大1点と珠文充填・渦巻文1点と珠文充填・乳1点と珠文数点・乳1点と珠文充填・1重の山形文と珠文数点の9つに細分した。曲線文は1～9式に細分した。線文は1～7式に細分した。変形文は1～13式に細分している。

このうち、長宜子孫銘内行花文鏡にみられる花文間の文様には、珠文1点の珠文1式・半弧文1式を確認することができ、無文のものもみられる。弥生時代の内行花文鏡は単位文様のないものが多く、単位文様の種類には乳文・動物文・擬銘文・S字状文・蕨手文・獣形文等がある。仿製内行花文鏡の単位文様のうち無文・珠文1式・半弧文1式は長宜子孫銘内行花文鏡を忠実に模倣した可能性が考えられる。

(4) 四葉座の分類 (第 89 図)

葉 に い は 式 IV に 類	山形文						四 座 つ て I ~ 式 分 す						
	三角文												
	半弧文												
	珠文												
	曲線文												
	線文												
	変形文												

第88図 花文間の単位文様 (下垣 2011 を改変し作成。)



第89図 四葉座

る。Ⅰ式は葉と葉の間隔が広く、基部が鈕に接する部分が最もくびれる。この形状は滋賀県雪野山古墳例のように五葉座のものもある。Ⅱ式は葉と葉の間隔が狭く、基部が鈕に接する部分はいくびれがない。Ⅲ式は五葉座や六葉座があり、鈕の周りに櫛歯文帯を配し、その周囲に葉の基部が接するものである。基部のくびれはない。Ⅳ式は四葉座の幅に対する高さが低くなり、葉部が接するものと葉部が離れるものがある。Ⅰ式からⅣ式の順で出現し、葉文の長さが次第に短くなるという特徴がある。

(5) 内行花文鏡出土の遺跡の紹介

1 鹿児島県曾於郡大崎町神領1号地下式横穴

神領1号地下式横穴は田原川と持留川に挟まれた標高20～25mの台地上に位置する。前方後円墳4基・円墳9基・地下式横穴2基の神領古墳群中の1基である。1号地下式横穴からは、骨製簪・イモガイ製釧・鉄剣が出土している。時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。

内行花文鏡は面径8.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－7花文－櫛歯文帯－圏線－櫛歯文帯であり、花文間は珠文が充填しており、珠文3式である。分類はD－BDB類である。

2 宮崎県国富市六野原5号墳（第129図①）

六野原5号墳は六野原台地に位置する径10mの円墳であり、粘土槨より鉄鋤先・鉄斧・直刀・鉄鏃・鉄剣が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径9.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、圏線－7花文－圏線－櫛歯文帯であり、花文間の文様は珠文1式で、分類はD－BD類である。

3 宮崎県延岡市檜山古墳

檜山古墳は丘陵先端に位置する墳長55mの前方後円墳である。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

内行花文鏡は面径13.3cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－平頂素文帯－8花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－鋸歯文帯となる。花文間には珠文1が配され、珠文1式である。分類はADA－B垂類である。

4 宮崎県宮崎市出土地不明

内行花文鏡は蓮ヶ池横穴からの出土と伝えられている。丘陵の斜面に約80基の横穴がある。時期は後期である。

内行花文鏡の面径は10.8cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－平頂素文帯－櫛歯文帯－無文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文7が配されており、珠文3式である。分類はADA－B亜類である。

5 大分県宇佐市千石古墳

遺跡の詳細は不明である。箱式石棺より内行花文鏡1が出土している。時期は判断できない。

内行花文鏡は面径8.5cmである。文様構成は2圏線－5花文－櫛歯文帯であり、花文間は珠文を充填し、珠文3式である。分類はD－B類である。

6 熊本県阿蘇市番出1号墳

番出1号墳は円墳である。時期は前期から中期と報告されるが、その詳細は不明である。

内行花文鏡は面径10.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－6花文－櫛歯文帯である。花文間の文様は不鮮明であり、確認できない。分類はD－B類である。

7 熊本県阿蘇市長目塚古墳

長目塚古墳は墳長111.5mの前方後円墳である。竪穴式石室より勾玉・管玉・丸玉・小玉・鉄刀子・鉄斧・鉄刀・鉄鏃が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径は8.4cmである。文様は不鮮明であり判断できない。

8 熊本県玉名市立花大塚古墳（第147図①）

立花大塚古墳は径20mの円墳であり、時期は中期である。

内行花文鏡は面径10.9cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－有節松葉文帯であり、内区間は山形文が3重に配され、山形文3式である。分類はD－BYB亜類である。

9・10 熊本県八代市門前1号墳石櫃内（第127図①）

門前1号墳の詳細は不明である。内行花文鏡2面が確認されている。

1面の内行花文鏡は面径10.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、

2 圏線－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、花文間に珠文 1 点の珠文 1 式が配される。分類は D－B S 類である。

もう 1 面の内行花文鏡は 面径 11.8 cm である。文様構成は鈕から外に向かって 6 花文－櫛歯文帯－櫛歯文帯であり、花文間に珠文 1 式が配されている。分類は D－B 2 類である。

11 熊本県上益城郡益城町城の本古墳

城の本古墳は径 11 m の円墳であり、時期は中期である。

内行花文鏡は面径 9.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－平頂素文帯－1 圏線－8 花文－櫛歯文帯であり、花文間には変形文 6 式がみられる。分類は D－B D 類である。

12 熊本県熊本市高橋稲荷石棺群

高橋稲荷石棺群の箱式石棺から内行花文鏡が出土している。石棺を特定できないため時期は判断できない。

内行花文鏡は面径 7.7 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－6 花文－無文－櫛歯文帯であり、花文間の文様は不鮮明となる。分類は D－B D 類である。

13 熊本県合志市ハマヤ 2 号石棺

ハマヤ 2 号石棺は箱式石棺であり、内行花文鏡が出土している。他に遺物がないため時期は判断できない。

内行花文鏡は面径 9.5 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、6 花文－櫛歯文帯－無文－鋸歯文帯であり、花文間には変形文 3 式が配されている。分類は A D A－B 亜類である。

14 熊本県山鹿市辻古墳 1 号石棺 (第 96 図①・(第 123 図①))

辻古墳は径 30 m の円墳であり、1 号石棺の舟形石棺内から内行花文鏡が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。黒色を呈しており銅質は良い。赤い錆が全面にみられる。面径 9.7 cm、重量 122 g、縁厚 0.29～0.37 cm、鈕幅 1.9 cm、鈕高 0.9 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.3 cm、鈕孔形態は方形である。内行花文鏡の文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－5 花文－櫛歯文帯－無文帯－

櫛歯文帯である。花文間には珠文1が配されており、珠文1式である。分類はD-BDB類である。

15 長崎県津島市朝日山4号箱式石棺

舟志湾奥に突き出た小岬上に箱式石棺が4基検出されている。4号箱式石棺からは内行花文鏡が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径11.4cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座-鋸歯文帯-17花文を確認できるが、不鮮明な部分があるため分類は行っていない。花文間の文様も確認できない。

16 佐賀県杵島郡白石町稻佐グラウンド

当遺跡の詳細は不明である。内行花文鏡は面径5.8cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線-6花文-櫛歯文帯であり、花文間には珠文1の珠文1式が配される。分類はD-B類である。

17 佐賀県佐賀市小隈古墳(第126図②)

小隈古墳は径18mの円墳であり、箱式石棺から内行花文鏡が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径10.3cmである。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯-平頂素文帯-7花文-無文帯-櫛歯文帯-無文帯-櫛歯文帯であり、花文間には山形文3式が2カ所、山形文5式が1カ所、珠文3式が4カ所に配される。分類はD-BDB亜類である。

18 佐賀県佐賀市高島古墳

高島古墳は径20mの円墳であり、竪穴式石室内から、内行花文鏡1・管玉・瑪瑙勾玉・水晶勾玉・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・鉄鉈・鉄鎌・櫛が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径10.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、振文帯-平頂素文帯-9花文-櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文1点の珠文1式が配される。分類はADA-B亜類である。

19 佐賀県三養基郡みやき町雄塚古墳(第162図①)

雄塚古墳は径30mの円墳であり、竪穴式石室内から内行花文鏡が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。内行花文鏡は面径 11.0 cm、重量 199 g、縁厚 0.38 ～ 0.42 cm、鈕幅 1.9 cm、鈕高 1.0 cm、鈕孔 0.5 cm、鈕孔高 0.3 cm である。鈕孔形態は方形であり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文を充填する珠文 3 式である。1 重目の圏線の上には珠文が配されている。分類は A－B 類である。

20 佐賀県鳥栖市平原遺跡（第 96 図②）

平原遺跡は祭祀遺構であり、内行花文鏡 1・ガラス小玉・滑石勾玉・滑石小玉・滑石白玉・土師器が出土している。時期は前Ⅶ期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。全体的に褐色を呈し、文様は不明瞭である。おおよそ 3 分の 1 の破片である。破面には研磨の痕跡はみられない。復元径 7.4 cm、現重量 15 g、縁厚 0.21 ～ 0.25 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、6 花文－無文帯－櫛歯文帯－鋸歯文帯であり、花文間の文様は不明である。分類は A－B D 類である。

21 福岡県筑紫野市油田古墳群第 1 号墳

油田古墳群第 1 号墳は径 20 m の円墳である。内行花文鏡は頭部付近で出土した。その他に鉄鏃が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

内行花文鏡は面径 9.0 cm である。文様構成は 7 花文であり、花文間には変形文を配する。詳細な文様が不明であるため分類はできない。

22・23 福岡県福岡市老司古墳 3 号石室

老司古墳は墳長 75 m の前方後円墳である。竪穴系横口式石室であり、3 号石棺からは、仿製内行花文鏡 2 面の他に、三角縁神獸鏡 1・舶載内行花文鏡 1・方格規矩鏡 2・捩文鏡 1・仿製方格規矩鏡 1 が出土している。他には、小玉・棗玉・硬玉勾玉・碧玉管玉・鉄刀・鉄刀子・鉄劍・鉄鏃・鉄斧・鉄鉈・鉄鉾・鉄鎌・鉄鋤・鉄鑿・甲・馬具が出土している。時期は前Ⅶ期である。

内行花文鏡は 2 面出土しており、それぞれの面径は 9.2 cm・9.38 cm である。女性の頭部の左側に 2 面重なるように出土している。9.38 cm の鏡は鏡背面を表にして、9.2 cm の鏡は鏡面を表にして出土している。

面径 9.38 cm である内行花文鏡の文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－

平頂素文帯－7花文－1圏線－櫛歯文帯となり、花文間には山形文4式が配される。分類D－BK類である。

内行花文鏡は面径9.2cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－5花文－櫛歯文帯となり、花文間には珠文を充填する珠文3式である。分類はD－B類である。

24 (伝) 福岡県沖津郡

当遺跡の詳細は不明である。内行花文鏡は面径10.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、5花文－櫛歯文帯－鋸歯文帯である。花文間には珠文1と1重の山形文が配されており、山形文5式である。分類はADA－B亜類である。

25 福岡県宗像市沖ノ島16号遺跡

沖ノ島遺跡は宗像海岸から北西57kmの玄界灘の真っ只中に位置する小島の祭祀遺跡である。内行花文鏡1・滑石棗玉・ガラス小玉・硬玉勾玉・碧玉管玉・碧玉石釧・滑石管玉・滑石勾玉・滑石小玉・滑石白玉・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・鉄斧・鉄鉾が出土している。共伴鏡には三角縁神獣鏡1・素文鏡1・変形方格規矩鏡1がある。時期は中期である。

内行花文鏡は面径6.9cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－6花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文1点が配されており、珠文1式である。分類はD－B類である。

26・27・28 福岡県宗像市沖ノ島17号遺跡 (第148図②)

遺跡の詳細は上記の通りである。17号遺跡は巨岩の岩裾に位置し、変形方格規矩鏡7・変形内行花文鏡2・鼉龍鏡2・変形文鏡1・変形獣帯鏡2・変形画像鏡2・変形三角縁神獣鏡3・変形夔龍文鏡1が出土している。その他に滑石小玉・滑石棗玉・ガラス小玉・硬玉勾玉・石釧・車輪石・滑石管玉・勾玉・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・鉄釧が出土している。内行花文鏡は3面出土している。面径はそれぞれ18.7cm・17.6cm・17.0cmである。仿製方格規矩鏡が7面(27.1cm・26.2cm・22.1cm・21.5cm・18.0cm・17.8cm・16.6cm)・10花文の仿製内行花文鏡が1面(18.7cm)・8花文の仿製内行花文鏡が2面(17.6cm・17.0cm)・鼉龍鏡が2面(23.7cm・12.9cm)・変形文鏡が1面(10.0cm)・七獣文鏡が1面(16.7cm)・六獣文鏡が1面(16.4cm)・仿製画像鏡が2面(22.0cm・

15.0cm)・仿製三角縁唐草文帯三神三獸鏡が2面(21.6cm・20.0cm)・夔鳳鏡が1面(22.1cm)出土している。時期は中期である。

10花文の内行花文鏡(28)は、面径18.7cmである。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯―五葉座―櫛歯文帯―有節松葉文帯―櫛歯文帯―10花文―櫛歯文帯である。分類はD-B類である。有節松葉文帯が花文の内側に配されており、特殊な構成となっている。花文間には6重の山形文が配されており、山形文4式である。五葉座はⅢ式である。

8花文を配する内行花文鏡(26)は面径17.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座―8花文―櫛歯文帯―無文帯―8乳と細線による文様―無文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。特殊な文様をもつため、分類は行っていない。花文間には変形文7・8・9式が配されている。

もう1面の8花文を配する内行花文鏡(27)は、面径17.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯―珠文帯―1圏線―8花文―珠文帯―有節松葉文帯―珠文帯―櫛歯文帯である。分類はD-B Y B 亜類である。花文間には曲線文3式が配されている。花文間には変形文7式が配されている。

29 福岡県宗像市沖ノ島19号遺跡(第145図①・第148図①)

遺跡の詳細は上記の通りであり、19号遺跡は祭祀遺跡であり、巨石の岩陰部からの出土である。内行花文鏡1が出土している。その他には滑石棗玉・ガラス小玉・硬玉勾玉・水晶勾玉・碧玉勾玉・碧玉管玉・滑石石釧・滑石管玉・滑石勾玉・滑石小玉・鉄刀子・鉄剣・鉄鉾・鉄針・鉄釧が出土しており、鋸歯文鏡1が相伴している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径は24.8cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、四葉座(Ⅳ式)―櫛歯文帯―平頂素文帯―櫛歯文帯―珠文帯―8花文―有節松葉文帯―櫛歯文帯である。分類はD-B Y B 類である。花文間には曲線文8式が配されている。

30 福岡県粕屋郡志免町七夕池古墳(第164図②)

七夕池古墳は宇美川右岸の丘陵部に立地する円墳であり、竪穴式石室が検出され木棺直葬と考えられる。径29mであり、被葬者は40～50代の女性である。副葬品には内行花文鏡1・琴柱形石製品・滑石製白玉・管玉・蛇紋岩製勾玉・

銅環・鉄輪・鉄刀・蕨手刀子・櫛・土師器がある。

内行花文鏡は面径 12.2 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－7 花文－櫛歯文帯－複線波文帯であり、外区は鋸歯文帯－鋸歯文帯となり、花文間には変形文 7 式が配される。時期は中 I 期～中 II 期である。分類は A－C B 亜類である。

31 愛媛県西予市長作森古墳（第 119 図②）

長作森古墳は標高 270 m の丘陵上にあり位置し、丘陵上から箱式石棺が検出されている。時期は中期である。内行花文鏡は面径 8.9 cm であり、文様構成は 1 圏線－6 花文－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文 1 の珠文 1 式が配される。分類は D－B D 類である。

32 愛媛県周桑郡小松町大日裏山 1 号墳（第 102 図①・第 153 図①）

大日裏山 1 号墳は道後平野の南端部に所在し、標高 80 m の丘陵上に位置する 12 基の古墳群中の 1 基である。1 号墳は頂上部西側に位置し、墳丘規模 15 m の円墳とされているが、方墳の可能性も指摘されている。主体部は竪穴式石室で内行花文鏡 1・鉄器・土師器が出土している。時期は中 I 期～中 II 期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。全体的に黒色を呈し、文様の鑄上がりは良い。一部緑錆によって文様の不鮮明となる。内行花文鏡は面径 11.1 cm、重量 124 g、縁厚 0.29～0.34 cm、鈕幅 1.5 cm、鈕高 0.9 cm、鈕孔幅 0.6 cm、鈕孔高 0.4 cm である。鈕孔形態は方形を呈する。文様構成は 1 圏線－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。6 花文であり、花文間には珠文を充填しており、珠文 3 式である。分類は A－B S 類である

33 香川県観世音寺市前の原 7 号石棺（第 102 図①・第 133 図①）

前の原 7 号石棺は七宝山塊の南麓に位置する傾斜面に立地しており、開墾中に発見された。箱式石棺からは碧玉管玉・鉄刀子が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。面径 7.5 cm、重量 60 g、縁厚 0.22～0.31 cm、鈕幅 1.0 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.2 cm で、鈕孔形態は隅丸方形である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文 1 点を配し、珠文 1 類である。分類は D－B

S類である。

34 香川県丸亀市快天山古墳第2号石棺（第100図②・第104図②）

快天山古墳は標高80mの丘陵頂上部に位置する墳長100mの前方後円墳である。2号石棺より内行花文鏡1・鉄刀子、棺外から管玉・鉄剣・鉄斧が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。鏡は縁部から内区を含む破片である。全体的に緑色を呈し、復元面径は11.6cm、現重量33g、縁厚0.33～0.37cmある。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には4重の山形文を配する山形文4式である。分類はD－BD類である。

35 香川県丸亀市快天山古墳第3号石棺（第101図①）

遺跡の詳細は上記の通りであり、墳長100mの前方後円墳の埋葬施設である3号石棺より内行花文鏡1面、2号石棺より内行花文鏡1面が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。鏡は全体的に褐色であり、緑錆に覆われている。文様は明瞭に確認できる。鏡は面径9.0cm、重量68g、縁厚0.20～0.26cm、鈕幅1.5cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cm、鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－無文帯－櫛歯文帯となる。花文間には線文4式が配される。分類はD－BD類である。

36 香川県丸亀市津頭東古墳第1主体部（第103図①・第124図①）

津頭東古墳は綾川中流右岸の低台地西縁に築かれた径35mの円墳である。第1主体部より内行花文鏡1・鉄刀・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・鉄鉈・櫛が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。鏡は面径10.6cm、重量136g、縁厚0.27～0.31cm、鈕幅2.0cm、鈕高1.0cm、鈕孔幅0.5cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は1圏線－6花文－櫛歯文帯－無文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文を充填しており、珠文3式である。分類はD－BD類である。

37 香川県坂出市ハカリゴウ古墳（第126図①）

ハカリゴウ古墳は金山東麓の標高120m弱のテラス状台地に築かれてお

り、墳長 49 m の積石塚からなる前方後円墳である。第 2 石棺からは、内行花文鏡 1・鉄鏃が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径 11.6 cm、重量 238.4 g であり、文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－6 花文－櫛歯文帯－無文帯－櫛歯文帯である。花文間には 4 重の山形文を配し、山形文 2 式である。分類は D－B D B 類である。

38 香川県高松市石清尾山摺鉢谷（第 152 図②）

当遺跡は石清尾山にあり、積石塚古墳は山塊中央の摺鉢谷に位置する。そのうちの 1 基から出土したとされるが、詳細は不明である。時期は前期とされる。

内行花文鏡は面径 9.5 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文が 3 点配され、珠文 2 式である。分類は A－B S 類である。

39 香川県さぬき市成山 1 号墳（第 101 図②）

成山 1 号墳は鴨部川下流域右岸の丘陵上に立地する径 14 m の円墳である。同丘陵に位置する同規模の円墳 3 基と共に古墳群を形成する。眼下に鴨部の平野を一望する。1 号墳の埋葬施設は共に南北に主軸をもって並列し、箱式石棺 2 基から内行花文鏡・小玉・管玉・勾玉が出土している。時期は判断できない。

内行花文鏡の実見・観察を行った。内行花文鏡は全体的に緑錆に覆われており、文様の一部は不鮮明である。面径 11.5 cm、重量 191 g、縁厚 0.38～0.44 cm、鈕幅 1.7 cm、鈕高 0.9 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.3 cm である。鈕孔形態は隅丸方形であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、外区は櫛歯文帯となる。花文間には珠文を充填しており、珠文 3 式である。分類は D－B 2 亜類である。

40 香川県さぬき市竜王山古墳

竜王山古墳は岩崎山古墳群から北約 0.5 km、標高 70 m の山腹に立地する。径 23 × 27.8 m の円墳であり、板石を積みあげた竪穴式石室内からは内行花文鏡 1・鉄刀子・鉄鉈・鉄剣・鉄鏃が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は 5 つの破片からなり、おおよそ 3 分の 1 程度が残存している。復元面径 11.5 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－花文－圏線－櫛歯文帯が確認できる。花文間には 3 重の山形文が配され、山形文 3

式である。花文数は不明である。分類はD-B類である。

41 香川県丸亀市岩崎山5号墳（第103図②）

岩崎山5号墳は竜王山から南東に向かって派生する尾根上に位置し、尾根の南には津田川が北流し津田湾に注いでいる。尾根上には5基の古墳からなる岩崎山古墳群がある。5号墳は、墳丘規模が不明であり、箱式石棺より内行花文鏡1・勾玉・ガラス小玉・鉄刀子が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。面径11.2cm、重量118g、縁厚0.3cm、鈕幅1.7cm、鈕高1.0cm、鈕孔幅0.7cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔形態は半円形であり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－櫛歯文帯－花文帯－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間の文様は不明である。分類はD-B S類である。

42 徳島県名西郡神山町長谷古墳

長谷古墳は山頂に立地する径13mの円墳であり、内行花文鏡1・硬玉勾玉・鉄刀子・鉄剣・鉄鏃・鉄鉈・鉄鉾・鉄鎌が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は面径9.2cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－櫛歯文帯－櫛歯文帯である。6花文であり、花文間には珠文を充填しており、珠文3式である。分類はD-B 2類である。

43 徳島県名西郡石井町清成古墳

清成古墳は気延山東北端に最も張り出す尾根上に位置する6基の尼寺古墳群中の1基である。径20mの円墳であり、竪穴式石室と箱式石棺が検出され、箱式石棺から内行花文鏡・鉄製品が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径12.1cmである。文様構成は8花文－櫛歯文帯が確認できる。花文間には珠文が充填されており、珠文3式である。分類はD-B類である。

44 山口県山陽小野田市柳井茶臼山古墳（第151図①）

柳井茶臼山古墳は周防灘を臨む標高約80mの丘陵上に位置する。墳長79.5mの前方後円墳であり、ガラス小玉・鉄剣・銅鏃・鉄鏃・鉄鉾・内行花文鏡1・画文帯神獣鏡1・鼉龍鏡2・不明鏡1が出土している。時期は前VI期である。

内行花文鏡は面径19.7cmで、文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）

—平頂素文帯—櫛歯文帯—8花文—珠文帯—複合鋸歯文帯であり、外区は櫛歯文帯—無文帯—櫛歯文帯となる。分類はADA—A3S類である。内区間には曲線文8式が配される。

45 山口県下関市吉田古墳

吉田古墳は八幡宮裏山の山頂にあり、吉田集落を臨む標高50～60mの山麓地の尾根上に立地する。径約19mの円墳であり、箱式石棺からは内行花文鏡1が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径約9.7cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線—6花文—櫛歯文帯であり、外区は複合鋸歯文帯となる。花文間には2重の山形文と珠文1が配されており、山形文5式である。今回は分類していない。

46 山口県山口市松崎古墳（第99図②・第138図②）

松崎古墳は厚東川河口の東岸、標高約30mの松崎山頂上部に立地する。径20mの円墳である。箱式石棺から管玉・滑石製勾玉・琥珀丸玉・鉄刀・鉄鎌・鉄斧・鉄鎌・鉄鍬が出土している。共伴鏡には仿製三角縁神獣鏡1・仿製四獣鏡1がある。時期は前Ⅶ期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。内行花文鏡は全体的に緑色を呈し、約3分の2の破片である。面径11.7cm、重量82g、縁厚0.31cm、鈕幅1.7cm、鈕高0.9cm、鈕孔幅0.6cm、鈕孔高0.3cmである。鈕孔形態は方形であり、文様構成は鈕から外に向かって、3圏線—6花文—無文帯—櫛歯文帯—珠文帯—櫛歯文帯である。分類はD—BSⅡ類である。6花文であり花文間には珠文を充填しており、珠文3式である。

47・48 山口県山口市赤妻古墳（第122図①）

赤妻古墳は山口盆地の裕山丘陵上に位置する。径40mの円墳であり、舟形石棺1基・箱形石棺1基・組合式箱式石棺1基がある。舟形石棺からは、内行花文鏡2・位至三公鏡1・捩文鏡1・ガラス小玉・硬玉勾玉・瑪瑙勾玉・碧玉管玉・鉄刀・鉄針・櫛が出土している。時期は中Ⅰ期である。

内行花文鏡は2面の出土で、1面は面径7.3cmで、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線—6花文—無文帯—櫛歯文帯である。6花文であり、花文間には1重の山形文と珠文を充填しており、珠文9式である。D—BD類である。

もう1面は面径7.4 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－5花文－櫛歯文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文1点が配され、珠文1式である。分類はD－B2類である。

49 広島県広島市丸古古墳

丸古古墳は径20 mの円墳であり、竪穴式石室からは内行花文鏡1・鉄剣・鉄刀・管玉が出土している。時期は判断できない。面径は9.5 cmである。内行花文鏡の文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－8花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－鋸歯文帯となる。分類はADA－B亜類である。花文間には珠文1が配され、珠文1式である。

鋸歯文帯は幅が狭く、この特徴は、広島県三ツ城古墳出土珠文鏡に類似する。また、縁が反る点も類似している。

50 広島県広島市恵下1号墳（第99図①）

恵下1号墳は太田川支流の鈴張川流域に位置する方墳であり、内行花文鏡1・管玉・ガラス小玉が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。鏡は全体的に布で覆われており、鏡背面の文様は不明瞭である。内行花文鏡の面径は7.8 cm、重量46 g、縁厚0.22～0.29 cm、鈕幅1.4 cm、鈕高0.8 cm、鈕孔幅0.4 cm、鈕孔高0.4 cmである。鈕孔形態は正円である。文様構成は6花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。文様構成は不明瞭であるため、分類は行っていない。

51 広島県山県郡安芸太田町横路小谷1号墳（第97図②・第131図①）

横路小谷1号墳は太田川上流域の支流である筒賀川にそそぐ三谷川に面した標高320 mの丘陵上に立地する。横路小谷古墳群の1基であり、円墳2基・方墳3基からなる。1号墳は径20 mの円墳である。組合式木棺2基・割竹形木棺3基の主体部をもち、中央の第2主体部からは、内行花文鏡1・棗玉・瑪瑙勾玉・碧玉管玉が出土している。鏡・石釧・鉄鋤先は木箱に納められていた。時期は中I期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。内行花文鏡は面径9.6 cm、重量89 g、縁厚0.25 cm、鈕幅1.5 cm、鈕高0.7 cm、鈕孔幅0.5 cm、鈕孔高0.3 cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－珠

文帯—櫛歯文帯である。花文間には曲線文6式が配されている。分類はD—B S類である。

52 広島県三次市畑原開山9号墳（第119図①）

畑原開山9号墳は丘陵尾根上に位置する径10mの円墳であり、棗玉・瑪瑙勾玉・碧玉管玉が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡の面径は8.1cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線—5花文—無文帯—櫛歯文帯である。花文間には珠文3点が配されており、珠文2式である。分類はD—BD類である。

53 広島県三次市善法寺9号墳（第112図②）

善法寺9号墳は墳長35mの前方後円墳であり、4基の埋葬施設をもつ。そのうちの中央の竪穴式石室から、内行花文鏡1・鉄剣・鉄鏃・鉄斧が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。面径8.6cm、重量28g、縁厚0.21～0.31cm、鈕幅1.2cm、鈕高0.6cm、鈕孔幅0.2cm、鈕孔0.2cmである。鈕孔形態は方形である。文様構成はは1圏線—珠文1列—1圏線—6花文—櫛歯文帯である。花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。分類はD—B類である。

54 広島県三原市宮ノ谷8号墳（第128図①）

宮ノ谷8号墳は丘陵上に位置する径10mの円墳であり、棺内からは、管玉・鉄斧・鉄剣・鉄刀・鉄刀子・鉄鉾、棺外からは鉄斧・鉄刀・土師器が出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

内行花文鏡は径11.1cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯—6花文—圏線—櫛歯文帯である。花文間は無文である。分類はD—BK類である。なお、文様構成は広島県汐首C遺跡第3地区に類似している。

55 広島県福山市汐首C遺跡第3地区（第97図①）

汐首C遺跡は古墳時代初期の土壙墓である。内行花文鏡1・ガラス小玉が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。全体的に緑色を呈し、鑄上がりが悪いためか文様は不明瞭である。布の痕跡がみられる。内行花文鏡は面径8.8cm、重量106g、縁厚0.36～0.43cm、鈕幅1.5cm、鈕高0.7cm、鈕孔幅0.6cm、

鈕孔高 0.4 cm である。鈕孔形態は半円形である。内行花文鏡の文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－6 花文－圏線－櫛歯文帯である。花文間の文様は不鮮明である。分類は D－BK 類である。

56 広島県福山市石鎚権現 5 号墳（第 98 図②・第 129 図②）

石鎚権現 5 号墳は芦田川に面する山頂に位置する。墳長 37.5 m の前方後円墳であり、竪穴式石室からは鉄鑿・鉄剣・鉄鏃・鉄鉈が出土している。時期は前 V 期～前 VII 期である。

内行花文鏡は面径 11.4 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－7 花文－2 圏線－櫛歯文帯である。花文間には珠文 1 点が配されており、珠文 1 式である。分類は D－BK 類である。

57 広島県福山市太田古墳（第 160 図①）

太田古墳は標高 55 m の丘陵先端部に位置する径 10 m の円墳であり、内部には箱式石棺があり、朱に染まった人骨頭部と共に碧玉製勾玉・碧玉製棗玉・二種類の碧玉製管玉などの玉類や内行花文鏡が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径 9.5 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 珠文－6 花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文を充填しており、珠文 3 式である。分類は ADA－B 亜類である。

58 広島県福山市山ノ神 1 号墳第 1 号箱式石棺（第 98 図①・第 155 図①）

山ノ神 1 号墳は標高 86 m の丘陵上の先端尾根上に位置する径 12 m の円墳であり、箱式石棺からは管玉・ガラス玉が出土している。時期は前 II 期～前 III 期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。内行花文鏡は全体的に白銅質であり、粗い平織の布目が残存する。面径は 7.1 cm、重量 52 g、縁厚 0.23～0.26 cm、鈕幅 0.8 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.5 cm、鈕孔高 0.3 cm である。鈕孔形態は半円形に近い。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－珠文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文 1 点が配されており、珠文 1 式である。珠文帯の珠文径は 0.1 cm である。分類は A－BS 亜類である。

59 岡山県総社市伊予部山 2 号墳（第 152 図①）

伊予部山 2 号墳は鞍部に位置する辺長 10 × 14 m の方墳である。時期は前 V

期～前Ⅶ期である。

内行花文鏡は面径 9.3 cm、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文 1 点が配されており、珠文 1 式である。分類は A－B S 類である。

60 岡山県総社市江崎古墳

江崎古墳は円墳であり、箱式石棺から内行花文鏡 1・勾玉・管玉が出土している。時期は判断できない。

内行花文鏡は面径 9.3 cm、文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－7 花文であり、外区は鋸歯文帯－鋸歯文帯となる。花文間には珠文 1 が配されており、珠文 1 式である。分類は A D A－B 亜類である。

61 岡山県総社市殿山 9 号墳第 1 主体部（第 122 図②）

殿山古墳群は高梁川に面した丘陵尾根に位置する。9 号墳は辺長 13 m の方墳であり、内行花文鏡 1・小玉・算盤玉・ガラス小玉・鉄刀子・鉄鉈が出土している。内行花文鏡は被葬者の頭部付近に鏡面を上にして置かれ、時期は前Ⅱ期～前Ⅲ期である。

面径 9.0 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－無文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文を充填しており、珠文 3 式である。分類は D－B D 類である。

62 岡山県岡山市浅川 3 号墳

浅川古墳群は吉井川右岸の丘陵上に位置し、箱式石棺を主体とする小古墳群で構成され、3 号墳は辺長 5×6 m の方墳である。箱式石棺からは、筒形銅器 1・内行花文鏡 1 が出土しており、鏡は壮年男性の頭骨横の枕に立てかけられた状態で出土している。時期は前Ⅳ期～前Ⅶ期である。

内行花文鏡は面径 8.3 cm であり、文様構成は不明瞭であるが、7 花文と櫛歯文帯が確認できる。布目の痕跡が残存する。分類は判断できない。

63 岡山県山陽町用木 15 号墳

用木古墳群は用木山の頂部や尾根上にあり、墳長 40 m の前方後円墳や前方後方墳、径 10～15 m の円墳・方墳の計 16 基で構成されていた。丘陵尾根末端の稜線上に近接する古墳群である。15 号墳は径 11.5 m の円墳である。墓壙内上面からは土師器が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径 9.2 cm、縁厚 0.3 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－平頂素文帯－8 花文－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文 1 点が配され、珠文 1 式である。分類は D－B S 類である。

64・65 (伝) 岡山県瀬戸内市

当遺跡の詳細は不明である。内行花文鏡 2 面がみられる。

1 面 (64) は 11.4 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－平頂素文帯－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間には変形文 10 式が配されている。分類は D－B S 類である。

もう一面 (65) は残存径 6.7 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－平頂素文帯－6 花文－櫛歯文帯－無文－櫛歯文帯である。花文間には半弧文 4 式が配されている。分類は D－B D B 類である。

66 岡山県久米郡美咲町月の輪古墳南棺

月の輪古墳は吉井川の合流点を上から見下ろす標高 320 m の山頂に立地する。墳長 61 m の円墳であり、大小 2 基の粘土槨をもち、中央主体部のやや南側の南主体部からは内行花文鏡 1・棗玉・管玉・勾玉・ガラス小玉・石釧・滑石小玉・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・鉄鏃・鉄針・櫛が出土している。内行花文鏡は頭部右側の棺壁に立てかけた状態で発見された。中央棺より珠文鏡 1 面が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

内行花文鏡は緑錆に覆われており、銅質が悪く鑄造は精巧さに欠ける。面径は 9.0 cm である。文様構成は 8 花文が確認できるのみであり、分類は判断できない。

67 岡山県久米郡美咲町奥の前 1 号墳 (第 116 図②)

奥の前 1 号墳は倭文川沿いの南北に連なる標高 223 m の丘陵尾根上に立地する墳長 70 m の前方後円墳であり、石棺内からは内行花文鏡 1・管玉・勾玉・銅鏃・豎矧板皮綴式短甲が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

内行花文鏡は面径 10.1 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線－6 花文－櫛歯文帯である。花文間には半弧文 1 式を配する。分類は D－B 類である。

68 岡山県苫田郡鏡野町竹田 9 号墳 (第 132 図①)

竹田9号墳は香々美川右岸の標高168mの丘陵上に位置する4基からなる竹田古墳群中の一つである。径14.8cmの円墳であり、内行花文鏡1・管玉・鉄刀子・鉄剣・鉄鏃・鉄斧が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

内行花文鏡の面径は7.2cmで、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間には線文3式を配する。分類はD－B S類である。

69・70 岡山県苫田群鏡野町土居妙見山古墳（第114図①）

土居妙見山古墳は香々美川の支流の山人川右岸にあり標高170mの丘陵頂部に位置する墳長25mの前方後円墳である。内行花文鏡2・鉄剣が出土しており、時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

1面の内行花文鏡は面径8.4cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－櫛歯文帯である。6花文であり、花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。分類はD－B類である。

もう1面は面径8.8cmの内行花文鏡であり、櫛歯文帯のみが確認できるが、分類できない。

71 岡山県津山市近長丸山1号墳（第109図①）

近長丸山古墳群は賀茂川左岸の南北に延びる狭小な丘陵上に位置し、円墳と方墳からなる。1号墳は径20mの円墳であり、埋葬施設6基がある。中央部の最も深い位置の木棺内から翡翠勾玉・碧玉管玉・鉄剣が出土している。時期は前Ⅰ期～前Ⅱ期である。内行花文鏡は面径9.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、5花文－圏線－斜行櫛歯文帯である。花文間には綾杉文の変形文11式が配される。分類はD－B K類である。

72・73・74・75・76・77 岡山県備前市鶴山丸山古墳（第113図②）

鶴山丸山古墳は吉井川東岸の低丘陵北のはずれにあり、標高60mの頂に位置する。径55×68mの円墳であり、碧玉勾玉・碧玉管玉・車輪石・碧玉製模造品が出土しており、棺内からは、舶載三角縁神獣鏡1・仿製内行花文鏡1、棺外からは内行花文鏡5・変形画文帯神獣鏡1・変形方格規矩鏡4・変形禽獣文鏡・仿製三角縁神獣鏡2・鼉龍鏡1・変形四禽鏡2・環状乳四神四獣鏡1・変形画文帯神獣鏡1・半円方形帯神獣鏡1・変形三神三獣鏡1・変形五獣鏡1・

変形六獣鏡 1・変形四獣鏡 1 が共伴して出土している。時期は前VI期である。

内行花文鏡 6 面のうち D-B Y B 類は 3 面 (72・73・75) あり、1 面は 26.7cm、残りの 2 面は面径 20.6 cm である。面径 20.6 cm の 2 面の文様構成は共に鈕から外に向かって、四葉座 (IV 式) - 平頂素文帯 - 8 花文 - 櫛歯文帯 - 有節松葉文帯 - 櫛歯文帯である。花文間には珠文から渦巻文様が三方向に延びる文様で、曲線文 5 式である。有節松葉文帯は斜行しており、有節松葉文の間には円文が 8 ヶ所に刻まれている

D-B S 類の内行花文鏡 (74) は面径 17.3 cm である。花文間には曲線文 4 式が配されている。

D-B Y B 亜類の内行花文鏡 (77) は面径 14.8 cm である。花文間には曲線文 1 式が配される。

D-B S の内行花文鏡 (74) は面径 14.8 cm である。

78 島根県松江市石田古墳 (第 137 図①)

石田古墳は標高 30 m の丘陵上に位置する辺長 12 m の方墳である。鉄刀子・勾玉・管玉・ガラス製丸玉・小玉・垂飾石が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は面径 9.8 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線 - 5 花文 - 珠文帯 - 無文帯 - 櫛歯文帯である。花文間には珠文を充填しており、珠文 3 式である。分類は D-B S 亜類である。

79 島根県松江市釜代 1 号墳第 2 主体部 (第 138 図①)

釜代 1 号墳は標高 35 m の丘陵上に位置する径 20 m の円墳であり、第 2 主体部の粘土槨からは碧玉製勾玉・ガラス小玉が出土している。時期は、前V期～前VI期である。

内行花文鏡は面径 11.4 cm で、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線 - 6 花文 - 櫛歯文帯 - 珠文帯 - 斜行櫛歯文帯である。花文間には珠文と細線が配され、変形文 12 式である。分類は D-B S 亜類である。

80 島根県松江市金崎 1 号墳

当遺跡は標高 25 m の丘陵上に位置する金崎古墳群であり、1 号墳は丘陵上に位置する墳長 32 m の前方後方墳で、出雲で最も早い時期に須恵器を副葬し

た古墳である。竪穴式石室と考えられており、内行花文鏡1・鉄刀1・鉄銚1・鉄剣1・鉄鋤先1・鉄刀子1・紡錘車様銅製品・子持勾玉2・碧玉製棗玉2・碧玉製管玉4・碧玉製管玉5・瑪瑙製勾玉6・水晶製勾玉1・水背水晶製垂飾1・ガラス製小玉・滑石製白玉多数・須恵器が出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

内行花文鏡は面径6.8cmで、文様構成は鈕から外に向かって、5花文－櫛歯文帯－複線波文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間に文様はあるが、不鮮明である。分類はA－CB類である。

81 島根県松江市奥才14号墳（第145図②）

奥才14号墳は標高54mの丘陵上に位置する。奥才古墳群46基中の1基である。14号墳は径14mの円墳であり、箱式石棺2基が検出された。第1主体部の箱式石棺内からは内行花文鏡1・仿製方格矩鏡1・紡錘車が出土しており、棺外からは素環頭大刀・鉄剣・鉄槍・鉄鏃・鉄鉈・鉄刀子が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

内行花文鏡は面径17.9cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、四葉座(Ⅳ式)－平頂素文帯－8花文－櫛歯文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯となる。花文間には乳と細線が配されており、曲線文8式である。分類はD－BYB類である。

82 島根県安芸市小谷遺跡第1土壙

小谷遺跡は標高89mの丘陵上に位置する辺長15mの方墳である。第1土壙からは銅鏡・鉄刀子・剣形鉄製品・鉄針・ガラス小玉が出土している。時期は前Ⅰ期～前Ⅱ期である。

内行花文鏡は面径8.2cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、6花文－6乳文－斜行櫛歯文帯である。花文間は無文であり、分類はD－B¹N類である。

83 鳥取県西伯耆郡日南町霞17号墳

霞17号墳は標高328mの尾根上に位置し、墳長19.6mの前方後円墳である。竪穴式石室から、内行花文鏡1・鉄刀・鉄剣・鉄鏃・手捏ね土器・勾玉・土師器が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径 8.5 cm である。7 花文であり、櫛歯文帯が配されている。文様は不鮮明であり分類できない。

84 (伝) 鳥取県米子市出土

当遺跡の詳細は不明である。

内行花文鏡は面径 9.5 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－5 花文－櫛歯文帯である。花文間には珠文を充填し、珠文 3 式である。分類は D－B 類である。

85 鳥取県米子市上の山古墳

上の山古墳は標高 40 m の尾根上に位置する墳長 35 m の帆立貝形古墳である。内行花文鏡 1・管玉・勾玉・瑪瑙勾玉・碧玉管玉・滑石勾玉・滑石小玉・鉄刀が出土している。時期は前Ⅶ期である。

内行花文鏡は面径 8.9 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－8 花文－櫛歯文帯である。花文間には珠文 1 点の珠文 1 式が配される。分類は D－B D 類である。

86 鳥取県米子市青木遺跡

青木遺跡は青木地区と諏訪地区にまたがる標高 41 m の台地上に位置する。古墳は辺長 8 × 10 m の方墳であり、木棺内からは内行花文鏡が 1 面出土しており、周溝からは土師器が出土している。時期は古墳時代前期である。

内行花文鏡は面径 11.3 cm であり、文様構成は 6 花文－無文帯－櫛歯文帯である。花文間は無文である。分類は D－B D 類である。

87・88 鳥取県東伯郡湯梨浜町馬山(橋津) 4号墳(第135図①)

馬山 4 号墳は馬ノ山丘陵上に位置し、北に日本海、西に天神川と羽合平野、南に東郷湖を一望できる地にある。5 基の前方後円墳と 19 基の円墳からなる古墳群に位置する。4 号墳は墳長 110 m の山陰最大規模の前方後円墳である。埋葬施設は 8 基あり、中央部の竪穴式石室からは、内行花文鏡 2 面の他、仿製画文帯神獸鏡 1・舶載三角縁神獸鏡 1・仿製方格規矩鏡 1・変形二獸鏡 1・翡翠勾玉・碧玉管玉・石釧・車輪石・鉄鏃・鉄斧・鉄鉈が出土している。仿製画文帯神獸鏡は面径 19.8 cm である。舶載三角縁神獸鏡は面径 21.6 cm である。仿製方格規矩鏡は面径 15.2 cm である。変形二獸鏡は面径 14.1 cm である。時

期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は12.0 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－7花文－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間は珠文を充填しており、珠文3式である。分類はD－B S類である。

もう一面の内行花文鏡は埴輪円筒棺から出土している。面径11.5 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－6花文－櫛歯文－無文帯－櫛歯文帯である。花文間には2重の山形文であり、山形文2式を配し、分類はD－B D B類である。

89 鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡（第100図①、第107図①・②）

青谷上寺地遺跡は、勝部川から伸びる三角州の先端部に位置する弥生時前期から古墳時代前期の集落遺跡である。鏡は計9面出土している。内行花文鏡は包含層からの出土であり、時期は弥生時代後期から古墳時代前期初頭とされている。

内行花文鏡の実見・観察を行った。褐色を呈し、鋳上がりは良い。面径8.7 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、8乳文－4花文斜行櫛歯文帯であり、花文に沿うように一条の花文が配されている。鈕孔は円形である。反りはやや弱い。分類はD－B 類である。

90 鳥取県鳥取市広岡81号墳

広岡81号墳は、標高60.3 mの丘陵上に位置する径11 mの円墳である。木棺から内行花文鏡が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径9.5 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－6花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3式が配される。分類はD－B S類である。

91 鳥取県鳥取市本高14号墳（第133図②）

本高14号墳は、川内川西岸の丘陵上に位置する20基の古墳群中の1基である。墳長63.7 mの前方後円墳であり、水晶製勾玉・凝灰岩製管玉が出土している。時期は前III期～前IV期である。

内行花文鏡は面径8.0 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－6花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文1点と細線が配され、線文

3式である。分類はD-B S類である。

92 鳥取県鳥取市生山 28 号墳

生山 28 号墳は標高 79 m の丘陵上に位置する。径 16.6 × 19.5 m の円墳であり、第 1 埋葬施設の粘土槨内の割竹形木棺からは、内行花文鏡 1・鉄剣、墳丘上からは土師器が出土している。時期は古墳時代前期である。

内行花文鏡は面径 8.6 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、圏線 1－5 花文－無文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間は半弧文 1 式である。分類は A－B 類である。

93 兵庫県南あわじ市鈿田遺跡（第 121 図②）

鈿田遺跡は標高 4～5 m の山麓台地の末端に位置している。弥生時代の竪穴住居跡 3 棟が検出されている。内行花文鏡は北区北端の溝からの出土であり、周辺からは弥生時代後期末の土器片が散布し状態で出土している。時期は弥生時代後期末とする。

内行花文鏡は面径 8.4 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、花文は接続していない。花文間は無文である。分類は D－B 類である。

94 兵庫県南あわじ市倭文委文古墳

倭文委文古墳からの出土と伝えられるが、出土状況は不明である。内行花文鏡は面径 9.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－平頂素文帯－8 花文－櫛歯文帯であり、花文間には 3 重の山形文を配し、山形文 3 式である。分類は D－B 類である。

95 兵庫県姫路市手柄山南丘

当遺跡は出土状況は工事中の出土であるため、詳細は不明である。時期は不明である。

内行花文鏡は面径 11.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－9 花文－無文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－鋸歯文帯となる。2 圏線目は珠文状結線文を巡らす。花文間には珠文が充填し、珠文 3 式である。分類は A D A－B 亜類である。

96 兵庫県姫路市梶尾古墳（第 125 図①）

梶尾古墳は市川中流域の右岸に所在し、東方に派出土する丘陵突端部に立地している。円墳であるが規模は不明である。木棺直葬とされており、内行花文鏡1・素文鏡1が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は、面径12.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－7花文－櫛歯文帯－無文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文を充填し、珠文3式である。分類はD－BDB類である。

97 兵庫県小野市王子宮山古墳

王子宮山古墳は円墳であり、粘土槨から内行花文鏡1・鉄鏃が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径9.7cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－平頂素文帯－鋸歯文帯－素文鏡帯－鋸歯文帯であり、花文間には珠文を1点を配し、珠文1式である。分類はADA－D類である。

98 兵庫県宍粟市五十波古墳（第113図①）

五十波古墳は揖保川上流域の右岸に位置する古墳であるが、内行花文鏡の出土状況は明らかではない。時期は不明である。

内行花文鏡は面径8.4cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文帯－1圏線－6花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。分類はD－B類である。

99 兵庫県豊岡市田多地引3号墳（第158図②）

田多地引3号墳は六方川の右岸に位置し、尾根上に延びる古墳群中の1基である。辺長30mの方墳であり、1号埋葬施設からは内行花文鏡1が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径6.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－5花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文4点が配され、珠文2式である。分類はADA－B亜類である。

100 兵庫県豊岡市深谷1号墳（第137図②）

深谷1号墳は主尾根から西に派生する支尾根の突端部に位置する。1号墳は一辺19×21mの方墳であり、第4組合式石室から銅鏡1・鉄刀子が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径 9.5 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－5 花文－珠文帯－無文帯－櫛歯文帯である。花文間は珠文を充填しており、珠文 3 式である。分類は D－B S 類である。

101 兵庫県朝来市筒江中山 23 号墳

筒江中山 23 号墳は、竹田盆地の北西部を画する丘陵上に位置する古墳群である。23 号墳は径 27 m の円墳であり、内行花文鏡・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・鉄鉈が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径 11.7 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、分類は D－B 類である。花文間には曲線文 1 式を配する。

102 兵庫県宝塚市安倉高塚古墳（第 116 図①）

安倉高塚古墳は円墳であり、出土遺物は内行花文鏡 1・小玉・管玉・鉄刀・鉄鉈・鉄銚・鉄鍬がある。その他に神獸鏡 1 が共伴している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径 11.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、花文間には半弧文 1 式と線文 6 式を施す。分類は D－B 類である。

103 兵庫県篠山市上板井 2 号墳

上板 2 号墳は、標高 292 m に位置する径 12.6 × 13.8 m の円墳であり、組合式木棺が検出されている。副葬品は鏡 1・勾玉・管玉・ガラス小玉、棺外から鉄刀子 1 が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径 7.6 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－無文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文 6 点が配され、珠文 3 式である。分類は A D A－B 亜類である。

104 兵庫県丹波市丸山 1 号墳

丸山 1 号墳は加古川支流の佐治川と、篠山川が合流する地点を見下ろす独立丘陵上に位置する丸山古墳群中の 1 基である。前方後円墳 1・方墳 1・円墳 4 基からなる。1 号墳は丘陵の最高所に位置し、この古墳群の盟主墳と考えられている。墳長 48 m の前方後円墳で、後円部に 2 基の竪穴式石室、後方部 3 基の埋葬施設がある。後円部の 2 基の石室は、北側の方により新しい要素がある

ことから、南側の方が古いと判断されている。両石室とも控え積みなどの省略がみられる。北石室から内行花文鏡1・車輪石1・ガラス製小玉17が出土している。南石室から舶載鏡1点や鉄製品が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

内行花文鏡は面径10.3cmである。文様構成は2圏線－6花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文1が配され、珠文1式である。分類はD－B類である。

105 兵庫県高砂市竜山5号墳（第109図②）

竜山5号墳は墳長36mの前方後円墳である。竪穴式石室から、内行花文鏡1・鉄剣・鉄刀・鉄槍・鉄鍬・鉄斧・ガラス小玉が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径9.1cm、重量97g、縁厚0.4cm、鈕幅1.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－7花文－圏線－斜行櫛歯文帯であり、花文間には十字文を配する線文1式となる。分類はD－B～Kである。

106 京都府与謝郡与謝野町枝山古墳

枝山古墳は径23mの円墳であり、箱式石棺から内行花文鏡が出土している。時期は中期である。内行花文鏡の面径11.7cmである。文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－6花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。分類はADA－B亜類である。

107 京都府与謝郡加悦町愛宕山3号墳第1主体部（第130図②）

愛宕山古墳群は加悦町東部の丘陵に位置する数十基からなる古墳群であり、3号墳は径27mの円墳であり、箱式石棺からは内行花文鏡1・管玉・勾玉・ガラス小玉・鉄剣・鉄鉈・鉄鎌が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡の面径は7.5cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－8花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯となる。分類はD－BK類である。花文間には細線が施される

108 京都府与謝郡加悦町作山1号墳

作山1号墳は加悦町東部の丘陵に位置する墳長45mの前方後円墳である。内行花文鏡1・管玉・勾玉・石釧が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

内行花文鏡は面径10.4cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6圏線－無文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。分類はD－BK

類である。花文間には珠文3点の珠文2式が配される。

109 京都府綾部市荒神塚古墳

荒神塚古墳は径15mの円墳であり、粘土槨から内行花文鏡1・鉄刀・鉄刀子・鉄鏃・鉄斧・鉄鉈・鉄鎌・鉄鋤・馬具・甲が出土している。時期は後期である。

内行花文鏡は面径9.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－6花文－櫛歯文帯であり、外区文様は鋸歯文帯－無文帯－鋸歯文帯となる。花文間には三角文1式を配する。分類はADA－B類である。

110 京都府亀岡市拝田10号墳

拝田10号墳は径25mの円墳である。木棺からは小玉・ガラス勾玉・滑石白玉・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・鉄鏃が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径8.6cmである。文様は不鮮明であり、分類はできない。

111 (伝) 京都府八幡市大塚古墳 (第141図②)

大塚古墳からの出土と伝えられている。

内行花文鏡は面径10.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－6花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文と細線による文様が施されている。花文間には曲線文1式が配される。分類はD－BS類である。

112 京都府城陽市西山4号墳 (第160図②)

西山4号墳は径25mの円墳であり、西槨からは管玉・鍬形石・石釧・鉄剣・画文帯神獣鏡1・内行花文鏡1が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径8.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－6花文－櫛歯文帯であり、外区文様は鋸歯文帯となる。花文間は珠文6点を充填しており、珠文3式である。分類はADA－B亜類である。

113・114 京都府京田辺市興戸2号墳 (第139図①・第156図①)

興戸2号墳は径28mの円墳であり、粘土槨からは内行花文鏡2・管玉・鍬形石・石釧・鉄剣が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡(113、第149図①)は面径12.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－珠文帯－6花文－珠文帯－櫛歯文帯－無文帯である。分類はD－DBS類である。花文間には曲線文1式が配される。

もう1面の内行花文鏡(114、第155図①)も面径12.2cmである。文様構

成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－珠文帯－7花文－珠文帯－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯－無文帯となる。花文間は曲線文7式が配されている。分類はA－B S 亜類である。

115・116 大阪府高槻市紅茸山C3号墳（第123図②）

紅茸山C3号墳は径18mの円墳であり、内行花文鏡2・勾玉・小玉・管玉・鉄斧が出土している。時期は中期である。

一面（115）は面径9.7cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－平頂素文帯－6花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－鋸歯文帯となる。花文間には半弧文2式が配される。分類はA D A－B 亜類である。

もう一面（116）の面径は9.3cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－5花文－櫛歯文帯－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文1点があり、珠文1式である。分類はD－B D B 類である。

117 大阪府高槻市慈願寺山古墳群（第146図①）

慈願寺古墳群からの出土であるが、詳細は不明である。

内行花文鏡は面径22.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）－平頂素文帯－櫛歯文帯－8花文－櫛歯文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯となる。花文間には曲線文8式を配する。分類はD－B Y B 類である。

118 大阪府高槻市奥坂古墳群

奥坂古墳群からの出土と伝えられるが、詳細は不明である。内行花文鏡は面径8.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－花文－無文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－無文帯－鋸歯文帯となる。花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。分類はA D A－B 亜類である。

119－131 大阪府羽曳野市御旅山古墳（第134図①）

御旅山古墳は墳長50mの前方後円墳であり、内行花文鏡13以外に、獣帯鏡1・三神三獣鏡4・珠文鏡1・重圏文鏡1が出土している。時期は前V期である。内行花文鏡13面中の4面について説明を行う。

D－B S 類計2面あり、共に面径8.2cm（125、127）である。1面の文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文1点が配される珠文1式である。もう1面の文様構成は鈕から外に向

かって、1 圏線－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文 1 点が配され、珠文 1 式である。

D－B 類は計 2 面あり、面径 6.1 cm (129)・8.1 cm (128) である。1 面の文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文と細線が配される。もう 1 面の文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、花文間に珠文 1 式が配される。

132 大阪府枚方市楠葉古墳 (第 104 図①)

楠葉古墳は径 20 m の円墳である。碧玉管玉・滑石小玉が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。面径 7.3 cm、重量 37 g、縁厚 0.18～0.22 cm、鈕幅 1.5 cm、鈕高 0.7 cm、鈕孔幅 0.4 cm、鈕孔高 0.4 cm、鈕孔形態は円形に近い。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－5 花文－櫛歯文帯であり、花文間に珠文 5 が配される。分類は D－B 類である。

133 奈良県奈良市古市方形墳

古市古墳群は岩井川の南側に位置する鹿野園の台地上に位置する。古市方形墳は一辺 23～25 m の方墳であり、粘土槨が 2 基あり、東棺からは、仿製内行花文鏡 1・舶載内行花文鏡 1・二神二獣鏡 1・画文帯神獣鏡 1・盤龍鏡 1 が出土している。その他には小玉・棗玉・管玉・勾玉・滑石製白玉・鉄刀子・鉄剣・鉄斧・鉄鎌・鉄鑿・琴柱形石製品がある。仿製内行花文鏡が頭部におかれて、他の 4 面は棺の南端に鏡背を上にした状態で置かれていた。舶載内行花文鏡は、面径 19.1 cm である。舶載二神二獣鏡は、面径 16.8 cm である。舶載画文帯神獣鏡は、面径 14.3 cm である。仿製盤龍鏡は、面径 18.3 cm である。時期は前 VI 期である。

内行花文鏡は面径 10.2 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－平頂素文帯－1 圏線－7 花文－複合鋸歯文帯であり、1 圏線目は珠文状結線文となる。内区間には山形文 5 式が配される。特殊な文様が配されているため、分類は行っていない。

134・135 奈良県奈良市マエ塚古墳 (第 149 図②)

マエ塚古墳は平城京付近にある佐紀古墳群内の一つである。古墳は径 47

× 48 mの大形の円墳であり、墳丘中央部に粘土槨が確認されている。その他に石釧・滑石製模造品・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・鉄斧・鉄鎌・鉄鍬が出土している。内行花文鏡2・獣文鏡3・変形鏡1が共伴している。時期は前V期～前VII期である。粘土槨内の別区画より、鏡・合子が出土している。

内行花文鏡の面径は17.2 cm (135) と17.4 cm (134) であり、2面の文様構成は同じである。鈕から外に向かって、珠文帯－櫛歯文帯－珠文帯－7花文－有節松葉文帯－珠文帯－櫛歯文帯－珠文帯であり、花文間には曲線文1式である。分類はD－BYB亜類である。

136－142 奈良県奈良市衛門戸丸塚古墳 (第146図①)

柄門戸丸山古墳は径約50 mの円墳と考えられている。粘土槨より鉄刀・銅鏃・琴柱形石製品が出土する。内行花文鏡7・神獣鏡2・仿製半円方格帯神獣鏡3・仿製四獣鏡2が共伴する。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡7面のうち6面は同範鏡と報告されており、面径は12.0 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－櫛歯文帯－珠文帯－櫛歯文帯－8花文－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間には曲線文2式が配される。分類はD－BS類である。

もう1面は10.1 cmである。2圏線－6花文－櫛歯文帯であり、花文間には変形文3式が配される。分類はD－B類である。

143 奈良県奈良市鶯塚古墳

鶯塚古墳は標高341.8 mの若草山の頂上に築かれた墳長103 mの前方後円墳である。埋葬施設は確認されておらず、前方部の東南隅から内行花文鏡1・滑石製斧が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は面径9.5 cmである。文様構成は2圏線－6花文－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文2式が配される。分類はD－BD類である。

144 奈良県天理市柳本大塚古墳 (第141図①)

柳本大塚古墳は龍王山から西に派生する尾根上に位置する。柳本古墳群のうちの一つであり、墳長97 mの前方後円墳である。竪穴式石室には割竹形木棺が置かれ、他に小石室があり、内行花文鏡1が出土したと伝えられる。時期は前II期～前III期である。

内行花文鏡は面径 39.7 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（Ⅰ式）－1 圏線－櫛歯文帯－平頂素文帯－8 花文－櫛歯文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間や四葉座間には、渦巻文 1 点とその周囲に珠文を充填する珠文 6 式を配する。分類は D－B Y B 類である。

145 奈良県天理市下池山古墳（第 140 図①）

下池山古墳は、奈良盆地東南部に位置する 20 基の大和古墳群に位置する墳長 120 m の前方後円墳であり、竪穴式石室内に割竹形木棺をもち、鉄器と玉類が出土している。内行花文鏡は竪穴式石室の裏込の礫中に板石で 50 cm の空間を作り構築した小石室内から出土したものである。時期は前Ⅲ期である。内行花文鏡は鏡面を上にした状態で、5 重の布からなる鏡袋に収められたと判明している。内行花文鏡は面径は 37.6 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（Ⅰ式）－平頂素文帯－8 花文－櫛歯文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には対称文を配する。分類は D－B Y B 類である。

146・147 奈良県桜井市赤尾熊ヶ谷 2 号墳 1 号棺（第 113 図②）

赤尾熊ヶ谷 2 号墳は辺長 15 × 16 の方墳であり、内行花文鏡が 2 面出土している。他には鉄製武器・玉類が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

大型の内行花文鏡は面径 12.6 cm であり、1 号棺の木棺蓋の上に置かれていたとある。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－6 花文－平頂素文帯－12 花文－櫛歯文帯である。花文間は珠文 3 式が配される。分類は D－B 類である。

小型の内行花文鏡は面径 9.8 cm であり、被葬者の近くに置かれていた。文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線－6 花文－櫛歯文帯である。花文間には珠文が 4 点が配され、珠文 3 式である。分類は D－B 類である。

148 奈良県橿原市新沢 129 号墳（第 165 図①）

新沢 129 号墳は貝吹山の西北の山裾に小さな古墳が群集する新沢千塚に位置する。南北 4 km・東西 1 km の間に 6 百基余りが残っている。129 号墳は径 15 m の円墳である。内行花文鏡 1・小玉・直刀・須恵器が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径 13.2 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（Ⅱ

式)－6花文－櫛歯文帯－突線鋸歯文帯であり、外区は複線波文帯－鋸歯文帯となる。花文間は珠文3式が配される。分類はA－CB亜類とする。

149 奈良県橿原市新沢213号墳(第115図①)

新沢千塚は橿原市の西南部、貝吹山の西北の山裾に位置する。南北4km・東西1kmの間に6百基余りが残っている。その中の213号墳は、墳長25.5mの前方後円墳でありガラス小玉・硬玉管玉・碧玉管玉・石釧・鉄刀・鉄刀子・鉄斧・鉄鎌が出土している。内行花文鏡1・斜縁二神二獣鏡1・獣形鏡1・流雲文鏡1が共伴する。時期は前V期である。内行花文鏡は、面径10.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－6花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文5点の珠文3式を配する。分類はD－B類である。

150 奈良県橿原市新沢500号墳(第143図①)

新沢千塚は橿原市の西南部、貝吹山の西北の山裾に位置する。南北4km・東西1kmの間に6百基余りが残っている。500号墳は墳長62mの前方後円墳であり、埋葬施設は後円部、くびれ部、前方部にそれぞれ粘土槨があり、くびれ部では円筒棺も検出されている。後円部には粘土槨と副葬品のみの副槨があり、銅鏡5・八手手葉形銅製品1・筒形銅器・銅釧・銅鏃などの銅製品・筒形石製品・車輪石・石釧・紡錘車などの石製品・鉄鏃・短甲・鉄刀・鉄剣・鉄槍・鉄刀子・鉄斧・鉄鋏・鉄鉈・鉄鎌・鉄鑿などの鉄製品である。副槨の東側に鏡5面、その上に碧玉製石釧・車輪石が置かれていた。仿製内行花文鏡1面・舶載内行花文鏡1面が出土している。時期は前V期である。

仿製内行花文鏡は面径17.9cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、四葉座(Ⅱ式)－平頂素文帯－8花文－櫛歯文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯である。花文間には線文6式が配される。分類はD－BYB類である。

151 奈良県宇陀市高山1号墳

高山1号墳は辺長23mの方墳であり、木棺内より内行花文鏡1・勾玉・管玉・滑石小石・ガラス玉・鉄刀子・鉄斧・鉄鎌・鉄鉈・鉄鑿・鉄刀・鉄剣・鉄鏃・胡籙金具・三角板革綴短甲・鉄鋌が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径7.0cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－無文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文2式が配される。分類はD

－BD類である。

152 奈良県宇陀市丸尾5号墳

丸尾5号墳は辺長7×9mの方墳である。内行花文鏡1・鉄刀子1・鉄斧1が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径10.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－無文帯－櫛歯文帯－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文を充填する珠文3式を配する。分類はD－BD類である。

153 奈良県宇陀市谷畑古墳（第121図①）

谷畑古墳は西峠キトラ山に続く丘陵の頂上に立地する。古墳は径24×27mの円墳である。出土遺物は、棺内より石釧、棺外より内行花文鏡1・大刀・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・鉄槍・筒型銅器・鉄斧・鉄鎌等が出土している。

内行花文鏡は面径8.9cmである。鏡背面を上にした状態で出土している。時期は前V期～前VII期である。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－6花文－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文が1点であり、珠文1式が配されている。分類はD－BD類である。

154 奈良県宇陀市野山古墳

野山古墳は標高383mの尾根上に位置する径10×12mの円墳で、北棺からは内行花文鏡1・曲刃鎌・鉄刀子・鉄鏃が出土している。時期は後I期である。

内行花文鏡は面径10.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－6花文－珠文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には曲線文3式が配される。分類はA－BS亜類である。

155 奈良県宇陀郡大宇陀町北原西古墳（第161図①）

北原西古墳は標高368.5mに位置し、周囲との比高は45mである。墳長30.6mの前方後円墳であり、甕玉・管玉・勾玉・ガラス小玉・滑石白玉・鉄刀子・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・鉄鉈・鉄鎌・鉄鍬・鉄鑿・鉄針が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径11.4cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－平頂素文帯－7花文－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯である。花文間には半弧文1式が配される。分類はADA－B亜類である。

156－158 奈良県北葛城郡河合町佐味田貝吹山古墳(第155図②・第166図①)

佐味田貝吹山古墳出土と伝えられるが、その詳細は不明である。仿製内行花文鏡3・仿製方格規矩鏡1・仿製三角縁神獸鏡1・仿製獸形鏡2が出土している。時期は中Ⅱ期である。

分類A－B S 亜類の内行花文鏡(158、第154図②)は、面径12.1 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文帯－無文帯－8花文帯－珠文帯－櫛歯文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文7式が配される。

分類A－C B 亜類の内行花文鏡(157)は、面径17.3 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、4花文－珠文帯－圏線－複線波文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－複線波文帯－鋸歯文帯となる。花文間は曲線文9式が配される。

分類D－B類の内行花文鏡(156)は、面径21.4 cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文帯－9花文－櫛歯文帯－無文帯である。花文間には乳と珠文6式が配される。

159－172 奈良県北葛城郡広陵町新山古墳(第149図①)

新山古墳は馬見丘陵に位置する墳長110～137 mの前方後方墳であり、後方部中央の竪穴式石室には、箱式石棺があったとされている。鏡34・碧玉管玉・鍬形石・石釧・車輪石・碧玉製模造品・鉄刀・鉄剣が出土している。内行花文鏡14・三角縁神獸鏡10・直弧文鏡3・鼉龍鏡1・仿製三角縁神獸鏡2・仿製方格規矩鏡4が共伴して出土している。

159の内行花文鏡は面径11.9 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、3圏線－6花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間は珠文を充填しており、珠文3式である。分類はA D A－B 亜類である。

160の内行花文鏡は面径16.5 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座(Ⅳ式)－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯である。花文間の珠文3点が配され、珠文2式であり、四葉座間には珠文が3点が配される。分類はD－B Y B 亜類である。

161の内行花文鏡は面径16.2 cmである。文様構成は鈕から外に向かって、

四葉座（IV式）－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間に珠文3点が配され、珠文2式である。四葉座間には珠文が3点が配される。分類はD－BYB亜類である。

162の内行花文鏡は面径16.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3が配され、珠文2式である。分類はD－BYB亜類である。

163の内行花文鏡は面径16.3cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間に珠文3点が配され、珠文2式である。四葉座間には珠文3点が配される。分類はD－BYB亜類である。

164の内行花文鏡は面径16.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間に珠文3点が配され、珠文2式である。四葉座間には珠文3点が配される。分類はD－BYB亜類である。

165の内行花文鏡は面径16.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間・四葉座間には珠文3が配され、珠文2式である。分類はD－BYB亜類である。

166の内行花文鏡は面径16.2cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。四葉座間には珠文3点が配される。分類はD－BYB亜類である。

167の内行花文鏡は面径16.7cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。四葉座間には珠文3点が配される。分類はD－BYB亜類である。

168の内行花文鏡は面径16.7cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（IV式）－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。四葉座間には珠文1点が配される。

分類はD－BYB亜類である。

169の内行花文鏡は面径17.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座(Ⅳ式)－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3点が配され珠文2式である。四葉座間には珠文1点が配される。分類はD－BYB亜類である。

170の内行花文鏡は面径16.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座(Ⅳ式)－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3点が配され珠文2式である。四葉座間には珠文3点が配される。分類はD－BYB亜類である。

171の内行花文鏡は面径16.7cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座(Ⅳ式)－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。四葉座間には珠文1点が配される。分類はD－BYB亜類である。

172の内行花文鏡は面径16.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座(Ⅳ式)－平頂素文帯－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文3点が配され、珠文2式である。四葉座間には珠文3点が配される。分類はD－BYB亜類である。

173－182 奈良県桜井市桜井茶臼山古墳

桜井茶臼山古墳は鳥見山の山塊に立地する墳長207mの前方後円墳である。内行花文鏡は面径30cm以上とされる。ガラス丸玉・管玉・硬玉勾玉・碧玉管玉・鍬形石・石釧・車輪石・鉄刀子・鉄剣・銅鏃・鉄鏃・鉄鉈などが出土した。以前に出土した53点の破片に加え、その後の調査で銅鏡の破片331点が新たに見つかった。鏡の面数は、三角縁神獣鏡26・仿製内行花文鏡10・舶載内行花文鏡9・舶載神獣鏡17・半肉彫神獣鏡5・環状乳神獣鏡4・鼉龍鏡4・細線獣帯鏡2・方格規矩鏡1・単夔鏡1・盤龍鏡1の計81面となる。攪乱土からの出土であるため、出土状況は不明である。時期は前Ⅲ期である。内行花文鏡は破片のため分類・面径共に不明である。

183 (伝)三重県松阪市

当遺跡の詳細は不明である。内行花文鏡の面径は14.9cmである。文様構成

は鈕から外に向かって、四葉座—平頂素文帯—櫛齒文帯—12花文—無文帯—櫛齒文帯—無文帯である。分類はD—B亜類である。

184 三重県松阪市向山古墳

向山古墳は伊勢平野の雲出川左岸に位置する墳長72mの前方後円墳である。粘土槨内から、石釧・車輪石・筒型石製品が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡の他、大型鏡1・重圏文鏡1・振文鏡1が共伴している。北部の頭部に大型鏡が置かれ、南端と中央部に小型鏡が置かれていたと記述されているが、発掘後の聞き取りであるため鏡の正確な副葬位置については不明である。重圏文鏡と振文鏡の面径は共に面径5.9cmである。内行花文鏡は面径6.9cmであり、文様が不鮮明であり、分類できない。

185 三重県松阪市高田2号墳

高田2号墳は金剛川右岸に展開する丘陵上には、径40～50mの円墳からなる古墳群が展開する。2号墳は径27mの円墳であり、石釧が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡の面径は11.2cmである。文様構成は6花文—珠文帯—櫛齒文帯のみを確認できる。分類はD—BS類である。

186 (伝) 三重県出土地不明

当遺跡の詳細は不明である。内行花文鏡は面径8.6cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線—6花文—櫛齒文である。花文間には珠文1が配され、珠文1式である。分類はD—B類である。

187 滋賀県栗東市下味古墳

下味古墳は径35mの円墳であり、粘土槨から内行花文鏡1・水晶勾玉・硬玉勾玉・碧玉管玉・石釧・鉄刀子・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・鉄鉈が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は面径9.3cmであり、文様構成は鈕から外に向かって1圏線—6花文—無文帯—櫛齒文帯である。花文間には変形文13式が配される。分類はD—BD類である。

188 滋賀県甲賀市泉塚越古墳

泉塚越古墳は辺長 52 m の方墳であり、内行花文鏡 1・勾玉・甲冑・武器類が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径 13.0 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－平頂素文帯－8 花文－櫛歯文帯である。花文間には 3 重の山形文である山形文 4 式が配される。分類は D－B 類である。

189 滋賀県東近江市雪野山古墳（第 142 図①）

雪野山古墳は、標高 309 m の雪野山山頂に位置する墳長 70 m の前方後円墳である。後円部のほぼ中央で東西に並ぶ 2 基の主体部が見つかった。このうち東側の主体部は埋葬時の状態をとどめており、竪穴式石室から、内行花文鏡 1・鼉龍鏡 1、舶載三角縁神獸鏡 3・管玉・ガラス小玉・碧玉鋏形石・碧玉紡錘車・碧玉琴柱石製品・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・鉄槍・銅鏃・鉄鏃・鉄鉈・鉄鎌・鉄鑿・櫛・冑が出土している。

内行花文鏡は頭部に置かれ、頭部北側の仕切りに鼉龍鏡と舶載三角縁神獸鏡が立てかけられていたと考えられている。三角縁神獸鏡 2 面は被葬者の足側におかれていた。鼉龍鏡は面径 26.2 cm である。舶載三角縁神獸鏡は、それぞれ面径 24.2 cm・24.2 cm・25.2 cm である。時期は前Ⅲ期である。

内行花文鏡は面径 23.6 cm である。内行花文鏡の文様構成は鈕から外に向かって、五葉座（Ⅰ式）－櫛歯文帯－平頂素文帯－櫛歯文帯－10 花文－櫛歯文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯となり、花文間には三角文 4 式と珠文 8 式が配される。分類は D－B Y B 類である。

190 滋賀県米原市山津照神社古墳

津照神社古墳は墳長 63 m の前方後円墳であり、横穴式石室から内行花文鏡 1 面・鈴鏡 1 面・変形神獸鏡 1 面・三輪玉・金銅製装具・鉄刀・馬具が出土した。時期は後期である。鈴鏡は面径 8.5 cm であり、変形神獸鏡は、面径 13.2 cm である。内行花文鏡の面径は 13.2 cm であり、6 花文である。不鮮明なため分類できない。

191 福井県今市岩畑遺跡

当遺跡は方墳であり、大きく削平を受けており周溝のみが検出された。埋葬施設から流出したと考えらる鏡玉類が出土している。1・2 号墳脇から出土し

た鏡は直径 7.1 cm の内行花文鏡である。土圧などのため、細かく割れた状態で出土した。他に、水晶製勾玉・緑色凝灰岩製管玉・滑石製白玉が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

内行花文鏡の文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、花文間の珠文は 3 点を配し、珠文 2 式である。分類は D－B 類である。

192 石川県加賀市分校高山古墳

分校高山古墳は江沼盆地の動橋川中流右岸の低台地上に位置する。墳長 36 m の前方後円墳であり、木棺直葬である。棺内より内行花文鏡 1・小玉・勾玉・ガラス小玉・碧玉管玉が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。

内行花文鏡は破片であり、縁部分が約 2 分の 1 残存するのみである。内行花文鏡の復元面径は 12.8 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、6 花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－無文帯－鋸歯文帯となる。分類は A D A－B 類である。

193 石川県金沢市神谷内古墳群 C 支群 12 号墳

神谷内古墳群 C 支群 12 号墳は、墳長 28 m の前方後円墳である。内行花文鏡 1・鉄斧・鉄刀子・管玉が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径 7.6 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、珠文帯－珠文帯－7 花文－圏線－斜行櫛歯文帯である。花文間には変形文 1 式が配される。分類は D－B Ⅰ K B 類である。

194 富山県高岡市板屋谷内 C 6 号墳

板屋谷内 C 6 号墳は二上山の尾根上に位置しており、標高は 48.3 m である。径 16 m の円墳であり、内行花文鏡 1・鉄剣・玉・管玉・棗玉・丸玉・ガラス管玉・ガラス小玉が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

内行花文鏡は面径 6.8 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯となる。花文間は珠文 1 点の珠文 1 式が配される。分類は D－B 類である。

195 富山県射水市小杉上野遺跡（第 121 図①）

小杉上野遺跡は標高 20～30 m の台地上に位置する集落遺跡である。直径 13 m の 2 号住居は当遺跡最大であり、壁に沿った周溝内からは内行花文鏡 1・

高坏・碧玉質や鉄石英による管玉未成品も多く出土しており、玉作りや祭祀と関連する特殊な住居址である。時期は弥生時代後期末である。

内行花文鏡は面径 7.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、6 花文－櫛歯文帯であり、花文間は無文である。分類は D－B 類である。

196 富山県高岡市国分山 A 号墳（第 130 図①）

国分山 A 号墳は径 30 m の円墳であり、粘土槨または木棺直葬の口主体部からは直刀・鉄鏃が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径 10.9 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－2 圏線－櫛歯文帯であり、花文間は無文である。分類は D－B K 類である。

197 岐阜県大垣市長塚古墳第 2 主体部

長塚古墳は墳長 87 m の前方後円墳である。第 2 主体部の出土遺物は、内行花文鏡 1・管玉・勾玉・ガラス小玉・石釧・鉄刀・石製合子である。第 1 主体部から仿製獣形鏡 1・舶載三角縁神獣鏡 2 が共伴している。時期は前 V 期～前 VII 期である。

内行花文鏡は面径が 18.2 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（Ⅱ式）－平頂素文帯－6 花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には乳文と細線からなる曲線文 3 式が配される。分類は D－B Y B 亜類である。

198 岐阜県相模原市野口古墳

野口古墳は径 10 m の円墳である。時期は他の遺物がないため不明である。内行花文鏡は面径 9.5 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－無文帯－櫛歯文帯－鋸歯文帯であり、花文間には半弧文 3 式が配される。分類は A D A－B 類である。

199 岐阜県本巣市舟木山 24 号墳

舟木山 24 号墳は独立丘陵上に位置する径 20 m の円墳であり、前方後円墳の可能性も示唆される。遺物は管玉・ガラス小玉・石釧・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・銅鏃・鉄銚・鉄鎌・鉄鋸・鉄鉞・鉄錐・鉄鑿が出土している。内行花文鏡 1・半肉彫式獣帯鏡 1・仿製半円方形帯神獣鏡 1・三角縁六神鏡 1・六神鏡 1・鼉龍鏡 1 が出土し、時期は前 III 期～前 IV 期である。

内行花文鏡は面径 11.6 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－平頂素文帯－6 花文－櫛歯文帯－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には山形文 5 式が配される。分類は D－B D 類である。

200・201・202 (伝) 岐阜県可児市西宮之洞

当遺跡の詳細は不明である。内行花文鏡は 3 面 (200・201) あり、その内の 2 面は共に面径 8.3 cm である。文様構成も同じであり、鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－無文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文 1 点の珠文 1 式が配される。残りの 1 面は破片 (202) であるが、文様構成は他の 2 面と同様のものと判断できる。分類は全て D－B D 類である。

203 愛知県春日井市白山藪古墳 (第 132 図②)

白山藪古墳は庄内川の支流である矢田川との分岐点に所在し、かつてこの地域には数多くの古墳が点在していた。白山藪古墳は標高約 8 m、東濃山地から西に大きく張り出した段丘性台地に位置する。径 20 m の円墳と考えられており、琥珀棗玉・琥珀丸玉・琥珀勾玉・ガラス小玉・碧玉勾玉・碧玉管玉・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・鉄銚が出土している。内行花文鏡の他に三角縁神獣鏡 1、変形四獣鏡 1 が共伴する。時期は前 VII 期である。

内行花文鏡の面径は 12.4 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－櫛歯文帯－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文 1 点と山形文による三角文 3 式が配される。分類は D－B S 類である。

204 愛知県名古屋市富士ヶ嶺古墳 (第 157 図①)

富士ヶ嶺古墳は前方後円墳である。内行花文鏡の面径は 14.1 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座 (IV 式)－平頂素文帯－8 花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯である。花文間に乳による三角文 4 式に類似するものが配される。分類は D－B Y 類である。

205 愛知県春日井市篠木古墳群 (第 154 図①)

篠木古墳群からの出土と伝えられるが、その詳細は不明である。内行花文鏡は面径 11.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－珠文帯－無文帯－8 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には乳文 1 と珠文が充填される珠文 7 式が配される。分類は A－B S 類である。

206 愛知県小牧市甲屋敷古墳（第128図②）

甲屋敷古墳は河岸段丘上に位置する小木古墳群中の1基であり、水田とは3mの比高差がある。径30～35mの円墳であり、粘土槨から内行花文鏡1・三角縁神獣鏡1が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は面径8.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－6花文－圏線－櫛歯文帯であり、花文間に文様は確認できない。分類はD－BK類である。

207 愛知県安城市北本郷古墳（第112図①）

北本郷古墳からの出土と伝えられるが、詳細は不明であり、鏡は神社に保管されていた。内行花文鏡は面径9.04cm、重量33.3gである。文様構成は鈕から外に向かって、平頂素文帯－6花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文1点の珠文1式が配されている。分類はD－B類である。

208 （伝）愛知県安城市

当遺跡の詳細は不明である。内行花文鏡の面径は10.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間は不鮮明である。分類はD－BYB亜類である。

209 静岡県盤田市松林山古墳（第144図①）

松林山古墳遺跡は天竜川東岸の盤田原台地上に位置し、すぐ東側に太田川が南流する。墳長107mの前方後円墳であり、竪穴式石室からは、仿製内行花文鏡1・三角縁神獣鏡1・舶載内行花文鏡1・変形四獣鏡1・鉄製武器・鉄製工具・銅鏃・巴形銅器・玉類・石製模造品・水字貝製腕輪が出土している。時期は前VII期である。

内行花文鏡は面径28.9cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座（I式）－櫛歯文帯－平頂素文帯－8花文－櫛歯文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯であり、花文間には半弧文3式が配される。分類はD－BYB類である。

210 静岡県浜松市馬場平古墳

馬場平古墳は井伊谷の小盆地を西にのぞむ丘陵端部に位置する。古墳は墳長47.5mの前方後円墳である。約7mの粘土槨から、画文帯神獣鏡1・鉄剣・銅鏃・鉄鏃・管玉・勾玉・ガラス玉・巴形石製品が出土している。内行花文鏡は粘土

櫛とは別の埋葬施設からの出土考えられている。時期は中期である。

内行花文鏡は面径 10.3 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－5 花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文を充填する珠文 3 式を配する。分類は D－B 類である。

211 静岡県浜松市馬場平 3 号墳

馬場平 3 号墳は馬場平古墳と同一丘陵上に位置する径 20 m の円墳であり、埋葬施設より内行花文鏡 1・仿製獣帯鏡 1・銅鏃・勾玉が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡は面径 10.8 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－無文帯－鋸歯文帯となる。花文間は半弧文 3 式が配されている。分類は A D A－B 類である。

212 静岡県藤枝市五鬼免古墳群 1 号墳東棺（第 104 図②・（第 115 図②）

当遺跡は瀬戸川の支流、葉梨川の流域にのぞむ丘陵端部に位置する。古墳は径 20 m の円墳であり、2 基の埋葬施設をもつ。東棺より内行花文鏡 1・鉄剣・鉄鏃・鉄鉞・櫛が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。面径 10.6 cm、重量 121 g、縁厚 0.38～0.41 cm、鈕孔形態は方形である。内行花文鏡の文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－平頂素文帯－6 花文－櫛歯文帯である。花文間には珠文を充填させる珠文 3 式を配する。分類は D－B 類である。

213 静岡県富士市東坂古墳（第 147 図②）

東坂古墳は墳長 60 m の前方後円墳である。蛇紋岩管玉・長石勾玉・蛇紋岩製勾玉・ガラス小玉・石釧・滑石白玉・鹿角装具・鉄刀・鉄剣が出土している。他には内行花文鏡 1 面と面径 9.7 cm の四獣鏡が 1 面出土している。内行花文鏡は面径 17.4 cm である。2 面の鏡は被葬者から離れた場所から鏡面を下にして、2 面重なった状態で出土している。内行花文鏡の上に四獣鏡が置かれていた。時期は前 V 期～前 VII 期である。

内行花文鏡の文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯－7 花文－有節松葉文帯－櫛歯文帯である。花文間には山形文 2 式の山形文 2 式である。分類は D－B Y B 亜類である。

214 静岡県富士市富士岡古墳群 F 49 号墳 (第 159 図①)

富士岡古墳群は標高 70 m の谷地形に位置する。F 49 号墳は横穴式石室であり、須恵器・内行花文鏡 1 が出土している。時期は後期である。

内行花文鏡は面径 12.3 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文を充填する珠文 3 式が配される。分類は A D A－B 亜類である。

215 山梨県西八代郡川三郷町鳥居原狐塚古墳 (第 124 図②)

鳥居原狐塚古墳は曾根丘陵西部の舌状丘陵の突端に位置する。古墳は径 20 m の円墳であり、竪穴式石室内から内行花文鏡 1・滑石白玉・鉄剣・鉄刀が出土している。他にも面径 12.5 cm の神獣鏡が出土している。時期は中期である。

内行花文鏡の面径は 10.2 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文を充填する珠文 3 式を配する。分類は D－B D 類である。

216 (伝) 長野県長野市川柳将軍塚古墳 (第 114 図②)

川柳将軍塚古墳は標高 480 m の湯ノ入山頂先端に築かれており、眼下には集落と水田が広がっている。墳長 93 m の前方後円墳であり、出土遺物には勾玉・管玉・ガラス小玉・車輪石・鉄槍・銅鏃・金環・銀環がある。内行花文鏡は 3 面出土している。面径はそれぞれ 6.5 cm・7.0 cm・7.5 cm である。その他に、珠文鏡 4・異帯字銘文鏡 1・四獣鏡 1・乳文鏡 2・重圏文鏡？ 1 が出土している。出土状況は不明である。時期は前 V 期～前 VI 期である。

内行花文鏡は面径 6.5 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、6 花文間には珠文 3 点の珠文 2 式を配する。分類は D－B 類である。

217 (伝) 長野県長野市川柳将軍塚古墳 (第 118 図①)

当遺跡は標高 480 m の湯ノ入山頂先端に築かれており、眼下には集落と水田が広がっている。墳長 93 m の前方後円墳であり、出土遺物には勾玉・管玉・ガラス小玉・車輪石・鉄槍・銅鏃・金環・銀環がある。内行花文鏡は 3 面出土している。面径はそれぞれ 6.5 cm・7.0 cm・7.5 cm であり、その他に、珠文鏡 4・異帯字銘文鏡 1・四獣鏡 1・乳文鏡 2・重圏文鏡？ 1 が出土している。出土状

況は不明である。時期は前V期～前VI期である。

内行花文鏡は面径 7.3 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文を充填する珠文 3 式を配する。分類は D－B 類である。

218 長野県長野市石川条里遺跡（第 105 図①）

石川条里遺跡は標高 358 m の千曲川左岸の自然堤防に位置する。弥生時代から平安時代の遺跡であり、水田地域には幅 1.3 m、深さ 1.5 m の大溝に囲まれた方形区画があり、大溝からは内行花文鏡 1・各種玉・石釧・車輪石・筒形石製品・紡錘車形石製品・羽口・土師器などが出土している。この方形区画には 400 基の土坑がある。坑中からは多量の炭と共に土師器・勾玉・管玉・小玉が出土している。周溝を含めて出土土器が供献の器形であること、石釧・車輪石・銅鏡・銅鏃があること、炭が多いことから、この方形区画の性格を火を用いた祭祀の場であると考えられている。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。内行花文鏡は縁部分のみの破片であり、鏡背面は黄緑色を呈する。復元径 9.6 cm、現重量 20 g、縁厚 0.33～0.36 cm で、文様は櫛歯文帯が確認できるのみであるため分類できない。破片の研磨は確認できない。

219 長野県長野市松節遺跡 48 号住居

松節遺跡は標高 358 m に位置する。48 号竪穴住居からは、内行花文鏡 1・土師器・炭化米が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は破片であり、復元面径 6.7 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－6 花文－櫛歯文帯であり、花文間には珠文 1 点の珠文 1 式を配する。分類は D－B 類である。

220 長野県飯田市兼清塚古墳

兼清塚古墳は墳長 73 m の前方後円墳であり、竪穴式石室から丸玉・翡翠勾玉・ガラス勾玉・鉄刀・鉄鏃が出土している。時期は中III期～中IV期である。

内行花文鏡は面径 9.1 cm である。文様構成は不明瞭であり判断できない。

221 長野県飯田市塚原 10 号墳

塚原 10 号墳は径 20.1 m の円墳である。時期は判断できない。内行花文鏡

は面径 8.2 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線—珠文—平頂素文帯—8 花文—不明—櫛歯文帯であり、花文間には珠文 1 点の珠文 1 式が配される。文様が不鮮明であるため分類は行っていない。

222 長野県飯田市新道平 1 号墳 (第 163 図①)

新道平 1 号墳は円墳であり、内行花文鏡 1・直刀が出土している。時期は判断できない。

内行花文鏡は面径 10.8 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線—5 花文—櫛歯文帯—複線波文帯であり、外区は鋸歯文帯—鋸歯文帯となる。花文間には細線が配される。花文間には内弧文 5 式が配される。分類は A—C B 亜類である。

223 長野県飯田市金堀塚古墳

金堀塚古墳は円墳であり、横穴式石室から勾玉・鉄刀が出土している。時期は後期である。面径は 13.4 cm である。文様の詳細は不明である。

224 長野県飯田市宮の平 2 号墳

宮の平 2 号墳は円墳であり、勾玉・鉄刀・鉄剣・鉄鏃が出土している。時期は判断できない。内行花文鏡は面径 6.5 cm である。文様構成は不明瞭であるため、分類できない。

225 新潟県佐渡市蔵王遺跡

蔵王遺跡は佐渡国仲平野に広がる弥生時代から古墳時代の集落遺跡である。玉造も行われたと考えられる。神殿と思われる建物跡もあり、ここから内行花文鏡 1・珠文鏡 1・銅鏃が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径 10.8 cm、重量 119.1 g である。文様構成は鈕から外に向かって、櫛歯文帯—平頂素文帯—8 花文—櫛歯文帯であり、花文間には珠文 1 点の珠文 1 式が配される。分類は D—B 類である。

226 東京都八王子市館町 515 号遺跡 (第 105 図③・第 108 図①・②)

館町 515 号遺跡は集落遺跡であり、住居から内行花文鏡が出土している。時期は前期である。内行花文鏡の面径は 7.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、4 花文—4 乳—櫛歯文であり、花文間は無文である。分類は D—B¹ N である。

227 東京都大田区扇塚古墳

扇塚古墳は円墳であり、木棺内から内行花文鏡1が出土している。時期は前期である。

内行花文鏡は面径8.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－5花文－櫛歯文帯となり、花文間には珠文を充填する珠文3式を配する。分類はD－B類である。

228 千葉県市原市御林跡遺跡151号住居（第105図②・第121図②）

御館林遺跡は集落遺跡の151号住居もしくは重複する土坑から内行花文鏡が出土している。

内行花文鏡の実見・観察を行った。時期は前期である。内行花文鏡は暗緑色であり、全体的に鋳上がりが良い。赤色顔料が所々に付着している。内行花文鏡は面径7.1cm、重量46g、縁厚0.16～0.21cm、鈕孔形態は楕円形であり、文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－無文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文1点の珠文1式が配される。分類はD－BD類である。

229 千葉県市原市新皇塚古墳北槨（第120図①）

新皇塚古墳は村田川沿いの標高20mの台地端に位置する。墳長60mの前方後円墳であり、埋葬施設は2基の粘土槨で割竹形木棺である。北槨から内行花文鏡1・管玉・琥珀勾玉・水晶勾玉・石釧、棺外から鉄刀子・鉄剣・鉄槍・鉄鏃・鉄斧・鉄鎌・鉄鍬が出土している。南槨からは珠文鏡1が出土している。墳丘を巡る周溝から多量の土師器が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は面径10.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－無文帯－櫛歯文帯となる。花文間には珠文1点の珠文1式を配する。分類はD－BD類である。

230 千葉県市原市御霊崎古墳

御霊崎古墳は径30mの円墳であり、粘土槨より内行花文鏡1・直刀・鉄鏃が出土している。時期は後期である。

内行花文鏡は面径11.6cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－6花文－櫛歯文帯－突線鋸歯文帯であり、外区は複線波文帯－鋸歯文帯とな

る。花文間の文様は不鮮明である。分類はACA-B類に含めることとする。

231 千葉県山武市島戸境1号墳（第106図①・第158図①）

島戸境1号墳は標高48mの台地上に位置する。古墳は径29.9×33.6mの円墳である。珠文鏡は面径8.0cmである。出土遺物は、棗玉・管玉・ガラス小玉・ガラス勾玉・水晶勾玉・硬玉勾玉が出土している。また、内行花文鏡の他に振文鏡2・乳文鏡1が出土している。盛土は削られていたため、副葬位置に関しては不明である。時期は前VI期である。

内行花文鏡は面径7.5cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－5花文－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には珠文が充填する珠文3式である。分類はADA-B類である。

232 千葉県香取郡神崎町西之城古墳

西之城古墳は前方後円墳であり、木棺から内行花文鏡1・鉄鏃が出土している。時期は判断できない。

内行花文鏡は面径10.15cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線－6花文－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文1点の珠文1式が配される。分類はD-BD類である。

233 群馬県高崎市観音塚古墳（第117図①）

観音塚古墳は利根川の支流烏川とその支流碓氷川が合流する舌状台地の縁辺に位置している。碓氷川流域地方では、各地に十数基ないし数十基からなる古墳群が所在する。この地方最大の前方後円墳は、下流域にある八幡古墳群中の平塚古墳と観音塚古墳である。観音塚古墳は墳長105mの二子山型の前方後円墳で、基壇を設けた上に墳丘を重ねる二段築成である。横穴式石室の規模は石舞台古墳に匹敵する大きさである。横穴式石室内より画文帯神獸鏡1・銅承台付蓋椀2・銅椀2・耳環・銀釧・鉄斧・鉄鉈・鉄鑿・鉄釘・鉄鋌・大刀・鉄銚・弭・鉄鏃・石突・挂甲・轡・鏡板・杏葉・辻金具・雲珠・端金具・鞍・鐙・須恵器が出土している。葺石・埴輪をもち、周溝を巡らす。時期は後IV期で7世紀前半の築造である。

内行花文鏡は面径8.0cmである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－珠文帯－櫛歯文帯－平頂素文帯－7花文－櫛歯文帯であり、花文間には半弧文

1 式が配される。分類はD-B類である。

234 群馬県高崎市長者屋敷天王山古墳

長者屋敷天王山古墳は墳長 71 m の前方後円墳である。時期は前V期～前VII期である。ガラス小玉・水晶算盤玉・碧玉管玉・石釧・滑石斧・滑石勾玉が出土している。内行花文鏡の他に、変形珠文鏡 1 と変形神獣鏡 1 が出土している。

内行花文鏡は面径 8.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線－6 花文－櫛歯文帯である。花文間は珠文を充填する珠文 3 式を配する。分類はD-B類である。

235 群馬県高崎市下佐野遺跡前方後方墳（第 106 図②）

下佐野遺跡は前橋台地の末端に位置しており、I 地区からは 54 軒の竪穴住居が検出されている。墳長 25.9 m の前方後方墳である。周溝中から内行花文鏡 1 ・土師器が出土している。時期は前I期～前II期である。

内行花文鏡の実見・観察を行った。面径は 8 cm である。鏡は全体的に黒色を呈し、文様構成は不明瞭であるが、鈕から外に向かって、2 圏線－8 花文－無文帯－櫛歯文帯であり、花文間は無文である。分類はD-BD類である。

236・237 群馬県須坂市柴崎蟹沢古墳（第 117 図②・第 134 図②）

柴崎蟹沢古墳は烏川と井野川が合流する付近の丘陵に位置する。径 15 ～ 18 m の円墳であり、粘土槨から内行花文鏡が出土している。遺物は勾玉・鉄鏃・三角縁神獣鏡 1 ・内行花文鏡 2 ・鉄刀剣類・鉄斧・鉄鑿が出土しており、他には土師器が出土している。時期は後期である。

内行花文鏡の 1 面（236、第 128 図①）は 10.4 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、2 圏線－平頂素文帯－8 花文－櫛歯文帯であり、花文は珠文 3 点の珠文 2 式が配される。分類はD-B類である。

もう 1 面（237、第 144 図②）は 9.8 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、3 圏線－6 花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、花文間には珠文 3 の珠文 2 式が配される。分類はD-B S類である。

238 群馬県藤岡市白山稻荷山古墳東槨

白山稻荷山古墳群は鎬川と鮎川とが合流する地点の段丘上に位置する。稻荷山支群は十二天古墳と白山稻荷山古墳を中心としており、この地域で最も古い

古墳である。白山稻荷山古墳は墳長 140 m の前方後円墳であり、東西の二槨を納める。東槨は礫槨で、内行花文鏡 1・鉄刀・碧玉製管玉・碧玉製勾玉・ガラス勾玉・切小玉・算盤玉・石製模造品の枕・箕・埴・鉄鎌・案・鉄刀子・鉄剣が出土している。埴輪も出土している。時期は中 I 期である。

内行花文鏡は面径は 9.4 cm である。文様が不鮮明であるため分類できない。

239 群馬県高崎市保渡田薬師塚古墳（第 164 図①）

保渡田薬師塚古墳は井野川上流域の榛名を北に仰ぎ、東に赤城山をみる広大な地に位置する。際立って大きな古墳として二子塚古墳・八万塚古墳・薬師塚古墳がある。これらの古墳は三ツ寺 I 遺跡の豪族居館の近くに位置し、居館に住んだ首長の墓と考えられている。薬師塚古墳は、墳長 105 m の前方後円墳である。石棺からは玉類・鏡板・杏葉・飾金具・辻金具・馬鐸が出土している。時期は後 I 期である。

内行花文鏡は面径 9.0 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、4 花文—櫛歯文帯—複線波文帯であり、外区は鋸歯文帯となる。花文間には変形文 5 式が配される。分類は A—C B 類である。

240 群馬県佐波郡玉村町軍配山古墳

軍配山古墳は前橋台地の旧利根川寄りの地域に分布する。この地域には 130 m 級の前方後円墳と前方後方墳があり、それに付随するように小規模の円墳が分布している。その中の一つに烏川下流左岸の前橋台地南部に位置する軍配山古墳がある。径 40 m の円墳であり、内行花文鏡 2・琥珀勾玉・硬玉勾玉・碧玉管玉・鉄刀・鉄鏃・鉄斧が出土している。墳長からは豪族の居館を模した家形埴輪が出土している。時期は前 III 期～前 IV 期である。

内行花文鏡は面径 13.2 cm である。文様が不鮮明であるため、分類できない。

241 群馬県伊勢崎市赤堀茶臼山古墳 2 号槨（第 120 図②）

当遺跡は赤城山山麓地域に位置する墳長 59 m の帆立貝形古墳であり、木炭槨が 2 基築かれている。2 号槨からは内行花文鏡 1・鉄刀が出土している。時期は中 I 期である。

内行花文鏡は面径 8.1 cm である。文様構成は鈕から外に向かって、1 圏線—6 花文—無文帯—櫛歯文帯であり、花文間には珠文 1 点の珠文 1 式を配する。

分類はD-BD類である。

242 群馬県太田市鍾馗塚古墳

鍾馗塚古墳は宝泉台地の南端の微高地に位置する。円墳であり粘土槨から内行花文鏡1・管玉・勾玉・石釧・鉄刀・鉄剣・鉄鏃が出土している。時期は中I期～中II期である。

内行花文鏡は面径11.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、2圏線-珠文帯-7花文-圏線-鋸歯文帯-複合鋸歯文帯である。この文様をもつものはこの1面のみであるため、今回は分類を行わない。花文間には珠文を充填している珠文3式を配する。

243 群馬県太田市大字新野字越巻

当遺跡の詳細は不明である。

内行花文鏡は面径7.0cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、6花文-無文帯-櫛歯文帯である。花文間に文様はあるが、不明である。分類はD-B類である。

244・245 栃木県足利市助戸十二天古墳（第163図②）

助戸十二天古墳は、渡良瀬川左岸の助戸山と袋川に隣接する微高地上に位置する。墳丘形態は、周溝外縁の調査から帆立貝形古墳と判断されている。主体部は木炭槨であり、内行花文鏡・鈴鏡2・勾玉・管玉・鉄刀・鉄槍・鈴釧1・馬具が出土している。周溝内には朝顔形を含む円筒埴輪が確認された。時期は中III期～後I期である。

内行花文鏡（244、第117図②）は面径14.1cmである。文様構成は鈕から外に向かって、四葉座-5花文-櫛歯文帯となり、外区は複線波文帯-櫛歯文帯を施す。花文間に半弧文を施す。複線波文をもつことから、分類はAC-B亜類とする。

もう一面（245、第161図②）は面径11.2cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、6花文-櫛歯文帯-珠文帯-有節松葉文帯-櫛歯文帯である。花文間の文様は不明である。分類はD-BYS類である。

246 茨城県石岡市常陸丸山1号墳

丸山古墳群は柿岡に位置し、ひときわ高い場所に式内社佐志能神社を中心に

存在する。神社に接するように丸山1号墳が築かれている。墳長55mの前方後方墳であり、粘土槨が検出され、内行花文鏡1・小玉・管玉・勾玉・丸玉・鉄剣・鉄刀・鉄刀子・銅鏃が出土している。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は面径8.2cmであり、文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－平頂素文帯－5花文－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間は珠文1点の珠文1式を配する。分類はD－BS類である。

247 茨城県東茨城郡磯浜町鏡塚古墳

鏡塚古墳は那珂川河口に位置する県北最古の古墳である。標高35mの丘陵上に位置する墳長96.4mの前方後円墳であり、粘土槨からは、内行花文鏡1・仿製獣形鏡1・翡翠勾玉・碧玉管玉・滑石製白玉・滑石石釧・滑石紡錘車・滑石刀子・滑石鉈・鉄槍・鉄刀・鉄鎌・鉄斧・鉄刀子・鉄鉈・櫛などが出土している。墳丘には埴輪が巡っている。獣形鏡は面径13.2cmであり、壮年男子の頭部に副葬されたと思われる。時期は前V期～前VII期である。

内行花文鏡は、鏡面を上にして出土した。面径11.0cmで、文様構成は鈕から外に向かって6花文－珠文帯－櫛歯文帯であり、外区は鋸歯文帯－珠文帯－鋸歯文帯となる。花文間の文様は不明である。分類はA－BS亜類である。

248 埼玉県熊谷市北島遺跡2号墳（第109図③）

北島遺跡の内行花文鏡は、2号墳の周溝陸橋部で周溝外側から流れ込んだ状態で出土している。2号墳は径21×22mの円墳であり、内行花文鏡は古墳の下層遺構に伴う可能性も指摘されている。時期は中IV期～後I期である。

内行花文鏡は面径7.7cm、重量37.3gである。文様構成は鈕から外に向かって、1圏線－6花文－圏線－斜行櫛歯文帯である。分類はD－BK類である。

249・250 福島県会津若松市会津田村山古墳

会津田村山古墳遺跡は墳長24.85mの帆立貝形古墳であり、内行花文鏡2面が出土した。面径はそれぞれ9.5cm・11.2cmである。その他にガラス小玉・鉄刀・鉄刀子・鉄剣・碧玉管玉が出土している。時期は前期である。

面径9.5cm（250）の文様構成は、鈕から外に向かって、1圏線－平頂素文帯－6花文－櫛歯文帯である。花文間には珠文を充填する珠文3式を配する。分類はD－B類である。

面径 11.2cm (249) の文様構成は、鈕から外に向かって、6 花文－珠文帯－鋸歯文帯－珠文帯－鋸歯文帯である。分類はA－B S 亜類である。

251 宮城県伊具郡丸森町台町 20 号墳 (第 150 図②)

台町古墳群は金山の台町丘陵上に位置し、墳長 33 m の前方後円墳の他に、大小 17 基の円墳で構成される主群があり、近くに新町・上片山の支群もある。墳長 33 m の台町 20 号墳は横穴式石室とされ、内行花文鏡 2・小玉・水晶切子玉・碧玉管玉・鉄刀・鈴鏡 1 などが出土している。時期は後Ⅱ期である。

内行花文鏡は面径 11.2cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、6 花文－櫛歯文帯－珠文帯－有節松葉文帯－櫛歯文帯である。花文間の文様は判断できない。分類はD－B Y S 類である。

252 大韓民国慶尚南道昌原市三東洞 18 号甕棺墓

三東洞古墳群は昌原市の丘陵に位置し、2 世紀中頃から 3 世紀中頃の甕棺墓・石棺墓群が検出されている。古墳時代前期に相当する。18 号甕棺墓の南の甕より鏡面を上にした内行花文鏡 1 面が出土している。

内行花文鏡は面径 6.1 cm であり、文様構成は鈕から外に向かって、6 花文－珠文帯－櫛歯文帯である。花文間には珠文が 1 点の珠文 1 式が配される。分類はD－B S 類である。

(6) 外区文様分類と内区の花文数との関係 (第 17 表)

まず、外区文様の分類ごとに内区の花文数について検討する。

①内区外周に斜行櫛歯文帯を配するもの。

D－B ´ N 類

外区は無文、内区外周は斜行櫛歯文帯－乳文となるもの。計 2 面あり、島根県小谷遺跡、東京都館町 515 遺跡出土例である⁽²⁾。この 2 面は斜行及び直行の櫛歯文帯が配され、反りが弱いことから、弥生時代小型仿製鏡に含まれると判断できる。

4 花文は 1 面のみであり、東京都館町 515 号遺跡例がある。面径は 7.0 cm である。6 花文は 1 面のみであり、島根県小谷遺跡例がある。面径は 8.2 cm である。

D－B ´ K 類

外区は無文、内区外周は斜行く櫛歯文帯—圏線となるもの。計3面あり、5・6・7花文が1面ずつある。花文間の単位文様は線文1式2面と変形文11式1面がある。時期は古墳時代初頭と考えられる。

5花文は1面のみであり、岡山県近長丸山1号墳例がある。面径は9.0cmである。6花文は1面のみであり、埼玉県北島2号墳例がある。面径は7.7cmである。7花文は1面のみであり、兵庫県竜山5号墳例がある。面径は9.1cmである。

D-B'KB類

外区は無文、内区外周は斜行く櫛歯文帯—圏線—櫛歯文帯となるもの。7花文は1面のみであり、石川県神谷内古墳群C支群12号墳例である。7花文の花文間には中国製内行花文鏡の単位文様を模倣したと思われる半円と3本の線からなる単位文様が配される。面径は7.6cmである。

第17表 内行花文鏡の分類と花文数の関係

②内区外周に櫛歯文帯を配するもの。

D-B類

外区は無文帯で内区外周に櫛歯文帯となるもの。5～8花文である。計40面みられ、6花文をもつものが25面と最も多い。

5花文は3面であり、大分県千石古墳例、福岡県老司古墳3号石室例、(伝)鳥取県米子市例がある。面径は8.5cm～9.5cmである。6花文は25面であり、熊本県番出古墳例、佐賀県稲佐古墳群例、福岡県沖ノ島16号遺跡例、広島県善法寺9号墳例、岡山県奥の前古墳例、岡山県土

大分類	細分	4	5	6	7	8	9	10
①	D-B'N	1		1				
	D-B'K		1		1			
	D-B'KB				1			
	D-B'				1			
②	D-B		5	21	1	2		
	D-BD		1	10	4	2	1	
	D-BDB		2	6				
	D-B2		2	5				
	D-BK		3	2				
③	D-BYB			1		5		1
	D-BYB垂			3	1	1		
	D-BYS			2				
④	D-BS			14	1	2		
	D-BS垂			4				
⑤	ADA-B'S					1		
	A-BS			3				
	A-BS垂			3				
⑥	ADA-B			2				
	ADA-B垂		2	6	1			
	A-CB	1	1					
合計		2	17	83	11	13	1	1

井妙見山古墳例、兵庫県五十波古墳例、兵庫県筒江中山 23 号墳例、兵庫県安倉高塚古墳例、兵庫県丸山 1 号墳北石室例、大阪府御旅山古墳例 2 面、奈良県衛門戸丸塚古墳例、奈良県新山 213 号墳例、富山県板屋谷内 5 号墳例、愛知県北本郷遺跡例、静岡県馬場平古墳例、静岡県五鬼面古墳群 1 号墳例、(伝)長野県川柳将軍塚古墳例 2 面、長野県松節遺跡例、群馬県長者屋敷天皇山古墳例、群馬県太田市出土例、福島県会津田村山古墳例、大韓民国慶尚南道三東洞 18 号墓例がある。面径は 7.4 cm～12.0 cm である。7 花文は 1 面のみであり、群馬県観音塚古墳出土例がある。面径 9.5 cm である。8 花文は 6 面であり、福岡県沖ノ島 17 号遺跡例、香川県龍王山古墳例、徳島県清成古墳例、滋賀県泉塚越古墳例、兵庫県西尾の山古墳出土例、群馬県柴崎蟹沢古墳例がある。面径は 9.0 cm～18.7 cm である。

D-BD 類

外区は無文、内区外周は外側から櫛歯文帯—無文帯となるもの。計 23 面ある。

5 花文は 1 面のみであり、広島県畑原開原 9 号墳出土例がある。面径 8.1 cm である。6 花文は 16 面であり、熊本県高橋稻荷石棺群例、愛媛県長作森古墳例、香川県快天山古墳 2 号石棺例、香川県快天山古墳 3 号石棺例、山口県赤妻古墳例、岡山県殿山 9 号墳例、鳥取県青木遺跡 F 区 7 号墳第 1 主体例、奈良県鶯塚古墳例、奈良県高山 1 号墳例、奈良県丸尾 5 号墳例、奈良県谷畑古墳例、三重県出土地不明例、滋賀県下味古墳例、山梨県鳥居原狐塚古墳例、千葉県新皇塚古墳例、群馬県赤堀茶臼山古墳 2 号槨例がある。面径は 7.4 cm～12.0 cm である。7 花文は 1 面のみであり、宮崎県六の原古墳例がある。面径は 9.5 cm である。8 花文は 3 面であり、熊本県城の本古墳例、鳥取県上の山古墳例、群馬県下佐野遺跡 I 地区 A 区 4 号前方後方周溝墓例がある。面径は 8.0 cm～9.0 cm である。9 花文は 1 面のみであり、大阪府御旅山古墳例がある。面径は 8.4 cm である。

D-BDB 類

外区は無文、内区外周は外側から櫛歯文帯—無文帯—櫛歯文帯となるもの。計 7 面ある。

5 花文は 1 面のみであり、熊本県辻古墳 1 号石棺例のものがある。面径 9.7 cm である。6 花文は 6 面であり、香川県津頭東古墳例、香川県ハカリゴロ古墳例、

(伝) 岡山県邑久町、鳥取県馬山4号墳例、兵庫県梶尾古墳例、山梨県鳥居原狐塚古墳例がある。面径は10.6 cm～12.6 cmである。

D-B2類

外区は無文、内区外周は二重の櫛歯文帯となるもの。計5面である。

5花文は2面であり、鳥取県倉吉市例、山口県赤妻古墳例がある。面径は7.4 cm～9.6 cmである。6花文は2面であり、熊本県門前1号墳例、徳島県長谷古墳例がある。面径は9.2 cm～10.2 cmである。

D-B2垂類

D-B2類に文様帯を加えているもの。計2面である。

6花文は2面であり、香川県成山1号墳例、三重県小枚町出土例がある。面径は7.1 cm・11.5 cmである。

D-BK類

外区は無文、内区外周は櫛歯文帯一圏線となるもの。計8面である。

6花文は4面であり、広島県宮ノ谷古墳例、広島県汐首C遺跡第3地区SK-2例、富山県国分山A号墳例、愛知県甲屋敷例がある。面径は8.1 cm～11.1 cmである。7花文は2面であり、福岡県老司古墳3号石室例、広島県石鎚権現5号墳例である。面径は9.3 cm～11.4 cmである。

8花文は1面のみであり、京都府愛宕山古墳例がある。面径は7.5 cmである。

③内区外周に有節松葉文帯を配するもの。

内区外周に有節松葉文帯を配するものはあまり多くはない。

D-BYB類

外区は無文、内区外周は櫛歯文帯一有節松葉文帯一櫛歯文帯となるもの。計11面である。

8花文は8面であり、福岡県沖ノ島17号遺跡例、島根県奥才14号墳例、大阪府慈願寺山古墳群例、奈良県柳本大塚古墳例、奈良県下池山古墳例、奈良県新沢500号墳例、滋賀県石淵山古墳例、静岡県松林山古墳例がある。面径は16.2 cm～39.8 cmである。10花文は1面のみあり、滋賀県雪野山古墳例がある。面径は23.6 cmである。

D-BYB垂類

外区は無文で、D-BYB類に無文帯を加えたり、珠文帯を加えたりするもの。計20面である。

6花文は1面のみあり、熊本県立花大塚古墳例がある。面径は10.9cmである。

7花文は3面のみであり、奈良県マエ塚古墳例2面、静岡県東坂古墳例がある。面径は17.2cm～17.4cmである。8花文は14面であり、福岡県沖ノ島17号遺跡例、奈良県新山古墳例13面がある。面径は16.2cm～17.0cmである。12花文は1面のみであり、兵庫県向山2号墳第2主体部例がある。面径は10.0cmである。

D-BYS類

外区は無文で内区外周には櫛歯文帯－有節松葉文帯－珠文帯となる。計1面ある。

6花文は2例あり、栃木県助戸十二天古墳例、宮城県台町20号墳例がある。面径は11.2cmである。

④内区外周に櫛歯文帯・珠文帯を配するもの。

D-B S類

外区は無文で、櫛歯文帯と珠文帯を配するもの。計23面確認できる。

5花文は1面のみあり、兵庫県深谷1号墳第4組合式石棺例がある。面径は9.5cmである。6花文は12面あり、香川県前の原7号石棺例、広島県横路1号墳第2主体部例、岡山県竹田9号墳例、鳥取県広岡81号墳第1主体部例、鳥取県本高14号墳埋葬施設3例、大阪府御旅山古墳例、三重県高田2号墳例、愛知県白山古墳薮古墳例、群馬県柴崎古墳出土例、茨城県丸山1号墳例がある。面径は8.0cm～12.4cmである。

7花文は1面のみであり、鳥取県馬山古墳出土例がある。面径12.0cmである。

8花文は8面あり、香川県岩崎山5号墳例、岡山県用木15号墳第1主体部例、奈良県衛門戸丸塚古墳例6面がある。面径は9.2cm～12.0cmである。

D-B S 亜類

D-B S類から派生したもので、文様帯を加えるもの。計3面である。

5花文は1面のみあり、島根県石田古墳例である。面径は9.8cmである。

6花文は2面あり、山口県松崎古墳例、島根県釜代1号墳例がある。面径は

11.4 cm・11.7 cmである。

⑤外区に鋸齒文帯をもち、内区外周に珠文帯をもつもの

ADA-A3S類

外区に鋸齒文帯—無文帯—鋸齒文帯、内区外周は複合鋸齒文帯—珠文帯となるもの。8花文は1面のみであり、山口県柳井茶臼山古墳出土例がある。面径は19.7 cmである。

A-B S類

外区に鋸齒文帯、内区外周に櫛齒文帯—珠文帯となるもの。計4面である。

6花文は3面あり、愛媛県大日裏山1号墳例、香川県石清尾山摺鉢谷出土例、岡山県伊与部山古墳例がある。面径は9.3 cm～11.1 cmである。8花文は1面のみあり、愛知県篠木古墳群例である。面径は12.1 cmである。

A-B S 亜類

A-B S類に文様帯を加えるもの。計4面である。

5花文は1面であり、京都府興戸2号墳例がある。面径は12.0 cmである。

6花文は1面のみであり、茨城県鏡塚古墳出土例がある。面径は11.0 cmである。

7花文は1面のみであり、京都府興戸古墳出土例である。面径は12.0 cmである。

⑥外区に鋸齒文帯や複合鋸齒文帯をもつもの

ADA-B類

外区に鋸齒文帯—無文帯—鋸齒文帯、内区外周は櫛齒文帯となるもの。

5花文は1面のみであり、千葉県島戸境1号墳例である。面径は7.5 cmである。6花文は4面であり、京都府荒神塚古墳例、大阪府御旅山古墳例、石川県分校高山古墳出土例、静岡県馬場平3号墳例がある。面径は9.2 cm～12.8 cmである。

ADA-B 亜類

ADA-B 亜類から櫛齒文帯や鋸齒文帯を省略したもの。計10面ある。

5花文は2面であり、(伝)福岡県行橋市出土例、兵庫県田多地3号墳第1主体部出土例がある。面径は6.6 cm・10.0 cmである。

6花文は11面であり、宮崎県蓮ヶ池横穴例、熊本県ハヤマ2号石棺例、広島県太田古墳例、兵庫県上板井2号墳例、京都府枝山古墳例、京都府作山1号

墳例、京都府西山4号墳例、大阪府紅茸山C3号墳1号棺例、大阪府奥坂古墳群例、奈良県新山古墳例、静岡県富士岡古墳群F48号墳例がある。面径は7.6cm～11.9cmである。

7花文は2面であり、岡山県江崎古墳例、奈良県北原西古墳例である。面径は9.3cm・11.4cmである。8花文は1面のみであり、広島県丸古古墳例である。面径は9.5cmである。9花文は2面であり、佐賀県高島古墳例、兵庫県手柄山南丘例がある。面径は10.5cm・11.0cmである。

A-CB類

外区に鋸齒文帯、内区外周に複線波文帯一櫛齒文帯となるもの。

4花文は1面のみであり、群馬県保渡田薬師古墳出土例がある。面径は9.0cmである。5花文は1面のみであり、島根県金崎1号墳出土例がある。面径は6.8cmである。

A-CB亜類

A-CB類以外で、複線波文帯をもつもの。

4花文は1面のみであり、奈良県佐味田貝吹山古墳例である。面径は17.3cmである。5花文は2面であり、長野県新道平1号墳例、栃木県助戸十二天古墳例である。面径は10.1cm・14.1cmである。6花文は1面のみであり、奈良県新沢129号墳例である。面径は13.2cmである。

第17表に内行花文鏡の外区文様と花文の関係をまとめている。①の内区外周に斜行櫛齒文帯を配する内行花文鏡には、4～7花文がみられる。弥生時代の小型仿製鏡群は4～11花文がみられることから、①にみられる4～7花文は弥生時代小型仿製鏡の影響によって出現した花文数と考えられる。

②の内区外周に櫛齒文帯を配するものは、5～9花文がみられる。D-B類は、5～8花文がみられ、そのうち6花文が25面と際立って多いことから、6花文を意識して製作されたと考えられる。その後出現するD-BDB類やD-B2類・D-BK類は5・6花文のみであり、7花文以上はみられなくなる。次第に、7花文以上のものは5・6花文へと統一されていくようである。

③の内区外周に有節松葉文帯を配する内行花文鏡のうち、最も中国鏡の内行花文鏡に近い文様構成のD-BYB類は8・10花文がみられ、その中でも8

花文が最も多い。その後出現するD-BYB亜類は6・7・8・12花文がみられ、D-BYS類は6花文のみがみられる。

④の内区外周に櫛歯文帯・珠文帯を配するものは、5～8花文がある。D-B S類は6～8花文、D-B S亜類は6花文となる。

⑤の外区に鋸歯文帯、内区外周に櫛歯文帯・珠文帯を配するもののうち、A-B S類とA-B S亜類は6花文である。ADA-B S類は8花文である。

⑥の外区に鋸歯文帯を配するものは、ADA-B類は6花文であり、ADA-B亜類は5～7花文まであり、6花文を基本とする。その後出現するA-C B類は4・5花文である。複線波文を用いる内行花文鏡は、6花文という制約がなくなり、再び4・5花文を用いるようになったと思われる。

(7) 出土遺跡の時期についての検討 (第90図)

次に、分類ごとに出土遺跡の時期について述べたい。

①内区外周に斜行櫛歯文を配するもの

D-B N類のうち、弥生時代後期末に製作されたと考えられる内行花文鏡は島根県小谷古墳、東京都館町515遺跡で確認されている。時期は前I期～前II期である。

D-B K類のうち、最も時期が古い事例は岡山県近長丸山1号墳例で、前I期～前II期である。

D-B KB類は石川県神谷内古墳群C支群12号墳例で、時期は前I期～前II期である。

②内区外周に櫛歯文帯を配するもの

D-B類は兵庫県鈿田遺跡例と富山県上野遺跡例があり、時期は弥生時代後期末であり、花文間に文様は配されていない。古墳時代に入ると、花文間に文様をいれるものが出現し始める。岡山県奥の前1号墳例などがあり、時期は前III期～前IV期である。最も新しいものは、中II期の群馬県赤堀遺跡である。

D-B D類は、最も古いものは前IV期の快天山古墳である。最も新しいものは前VII期の鳥取県上の山古墳例である。

D-B DB類のうち、最も古いものは鳥取県馬山4号墳で、時期は前IV期で

ある。最も後出するものは鹿児島県神領1号地下式横穴であり、時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。

D-B2類で最も古いものは徳島県長谷古墳であり、時期は前期である。最も新しいものは山口県赤妻古墳であり、時期は中Ⅰ期である。

D-BK類のうち、最も古いものは、広島県石鎚権現5号墳例・愛知県甲屋敷古墳例であり、時期は前Ⅲ期～前Ⅳ期である。最も新しいものは広島県宮ノ谷8号墳例であり、時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

③内区外周に有節松葉文帯を配するもの

D-BYB類のうち、最も古いものは奈良県柳本大塚古墳例であり、時期は前Ⅱ期～前Ⅲ期である。最も新しいものは、静岡県松林山古墳であり、時期は前Ⅶ期である。

大分類	分類	前Ⅰ期	前Ⅱ期	前Ⅲ期	前Ⅳ期	前Ⅴ期	前Ⅵ期	前Ⅶ期	中Ⅰ期	中Ⅱ期	中Ⅲ期	中Ⅳ期	後Ⅰ期	後Ⅱ期	後Ⅲ期	後Ⅳ期
①	D-B'N															
	D-B'K															
	D-B'KB															
②	D-B															
	D-BD															
	D-BDB															
	D-B2															
	D-BK															
③	D-BYB															
	D-BYB垂															
	D-BYS															
④	D-BS															
	D-BS垂															
⑤	ADA-A3S															
	A-BS															
	A-BS垂															
⑥	ADA-B															
	ADA-B垂															
	A-CB															

第90図 内行花文鏡の出土時期

D-B Y B 亜類のうち、最も古いものは岡山県鶴山丸山古墳で、時期は前VI期である。最も新しいものは、熊本県立花大塚古墳であり、時期は中I期～中II期である。

D-B Y S 類のうち、最も古いものは、栃木県助戸十二天古墳であり、時期は中III期～後I期である。最も新しいものは、宮城県台町20号墳であり、時期は後II期である。

④内区外周に珠文帯・櫛歯文帯を配するもの。

D-B S 類のうち、最も古いものは、鳥取県本高13号墳であり、時期は前III期～前IV期である。最も新しいものは、群馬県柴崎蟹沢古墳であり、時期は中I期である。

D-B S 亜類のうち、最も古いものは、島根県石田古墳・島根県釜代1号墳・京都府興戸2号墳であり、時期は前V期～前VII期である。山口県松崎古墳の時期は前VII期である。

⑤外区に鋸歯文帯をもち、内区外周に珠文帯を配するもの。

A D A - A 3 S 類は柳井茶臼山古墳のみであり、時期は前VI期である。

A - B S 類のうち、最も古いものは岡山県伊与部山2号墳であり、時期は前V期～前VII期である。最も新しいものは愛媛県大日裏山1号墳であり、時期は中期である。

A - B S 亜類のうち、最も古いものは京都府興戸古墳、茨城県鏡塚古墳であり、時期は前V期～前VII期である。最も新しいものは奈良県佐味田貝吹山古墳であり、時期は中I期である。

⑥外区に鋸歯文帯を配するもの。

A D A - B 類のうち、最も古いものは石川県分校高山古墳であり、時期は前III期～前IV期である。最も新しいものは静岡県馬場平3号墳であり、時期は中期である。

A D A - B 亜類のうち、最も古いものは奈良県新山古墳の前III期～前IV期である。最も新しいものは宮崎県檜山古墳であり、時期は中III期～中IV期である。

A - C B 類のうち、最も新しいものは島根県金崎1号墳であり、時期は後I期である。最も古いものは島根県金崎1号墳であり、時期は中III期～中IV期である。

以上の結果をみると、①類と②類の内行花文鏡は、古墳時代初頭から出現しており、その後、③は前Ⅱ期から、④・⑥類は前Ⅲ期からみられる。⑤類は最も後出している。

(8) 内行花文鏡の製作技法の画期 (第18表)

花文を製作する際の円の大きさに着目すると、円の大きさが同じものと異なるものがあり、時期差を示す上で重要な視点であり、重要な分類指標になると想定している。なお、外区に有節松葉文帯をもつものは、ここに配される乳もしくは円文を利用して花文を配置したと筆者は考えており、有節松葉文帯をもつものともたないものに分けて検討をする。大型の内行花文鏡の分割方法について検討した研究としては、新井悟(2007)・清水康二(2008)によるものがあるが小型鏡については検討されていない。今回は面径に関わらずすべての鏡を対象として検討を行う。

①有節松葉文帯をもつ内行花文鏡の検討

有節松葉文帯をもつ外区文様は、D-BYB類、D-BYB亜類、D-BYS類がみられる。分類の基準としては、花文を配する際の円の大きさが同じものと異なるもの、有節松葉文帯の乳(円文)の間隔が同じかどうか。花文の大きさが同じかどうか。花文の直径と乳の関係を3つに分けている。花文の大きさが乳(円文)の間隔で決まるものを「A」、花文の大きさが、乳(円文)の間隔によっておおよそ決まるが、一部乱れているものを「B」、花文の大きさが、乳(円文)の間隔によらないものを「C」とする。花文が均等に配置されているかどうかを有節松葉文帯の乳(円文)と花文の描き方の関係をみることで、有節松葉文帯をもつ内行花文鏡は、大きく4つに分けることができる。第18表でまとめているように、第1期は花文を描く際の円と、有節松葉文帯の乳と乳の間隔が同じものであり、乳の間隔によって花文の円を決定するもの。類例として、奈良県下池山古墳・奈良県柳本大塚古墳・滋賀県雪野山古墳・奈良県新沢500号墳の4例がある。第2期は花文を描く円が異なり、各乳の間隔も異なる。乳の間隔により花文の大きさが決定するもの。第2期は第1期とは異なり、有節松葉文帯の各乳が均等に配分されていないものである。具体例とし

て、静岡県松林山古墳例・奈良県新山古墳・岡山県鶴山丸山古墳・福岡県沖ノ島19号墳例・島根県奥才14号墳・大阪府慈願寺古墳出土例の計6例がある。このうち、松林山古墳例は第1期の下池山古墳例や柳本大塚古墳の文様に類似するが、第1期の花文が同円という特徴を備えていない点で第1期には含まれないと判断できる。第3期には乳（円文）の間隔が異なり、乳（円文）の間隔によって花文の大きさが決定しているものである。第2期の内行花文鏡は奈良県マエ塚古墳のように、花文を描く際の円が有節松葉文帯の2つの乳上を必ず通るのであるが、第3期のものは熊本県立花大塚古墳例のように、必ずしも2つの乳上を通さずに花文を描く部分がある。第2期の内行花文鏡よりも文様が丁寧な製作されていないと判断する。第4期は有節松葉文帯に配される乳（円文）の間隔が不均等であり、さらに乳（円文）の間隔と花文を描く円の大きさに関係性が認められないものとした。類例として栃木県助戸十二天古墳例をあげることができる。

②有節松葉文帯のないものの検討（第19表）

第18表 有節松葉文帯をもつ内行花文鏡の分類

画期	花文の直径が同じ／異なる	乳の間隔同じ／異なる	花文の直径と乳の関係	分類	花文間の文様	四葉座の文様	遺跡名
1	同じ	同じ	A	D-BYB	変形文	I式	奈良県下池山古墳
					珠文6	I式	奈良県柳本大塚古墳
					珠文8・三角文3	I式	滋賀県雪野山古墳
					線文	II式	奈良県新沢500号墳
2	異なる	異なる	A	D-BYB	半弧文3	I式	松林山古墳
					曲線文1	IV式	奈良県新山古墳
					曲線文5	IV式	岡山県鶴山丸山古墳
					曲線文8	IV式	福岡県沖ノ島19号遺・島根県奥才14号墳・大阪府慈願寺古墳
3	異なる	異なる	B	D-BYB亜	山形文2	なし	熊本県立花大塚古墳
					不明	なし	静岡県東坂古墳
4	同じ	異なる	C	D-BYS	不明	なし	栃木県助戸十二天古墳・宮城県台町20号墳

次に、有節松葉文帯のない内行花文鏡の花文の製作技法を述べることにする。分類ごとに内行花文鏡の製作方法について紹介する。

D-BN¹類は青谷上寺地遺跡例（第107図）と東京都館町遺跡例（第108図）がある。青谷上寺地遺跡例は縁の端部を支点（A）とし、鏡の面径と同じ円（B）を鏡の外側に向かって描き、その交点を支点（C）として、鏡の内側の4花文を描き出している。花文の右櫛歯文が施されていることに気が付く（第118図）。次に花文の内側にある弧線をフリーハンドで花文に沿って描き、乳を彫り込んでおり、内側の弧の部分はいずれの幅が不統一である。東京都館町遺跡例も4花文であり、外区の内側に支点を置き、円の大きさは統一されている。

D-BK¹類は3面あり、岡山県近長丸山1号墳（第109図①）は5花文、北島遺跡（第109図③）は6花文、兵庫県竜山5号墳（第109図②）は7花文が確認されている。花文の大きさはそれぞれ統一されている。

D-B¹KB類は1面のみであり、石川県神谷内古墳群C支群12号墳（第110図）は8花文であり、その花文を描く円の大きさは統一されている。

D-B類は19面あり、このうち静岡県五鬼免古墳群1号墳東棺1面は、花文を描く円の大きさが異なっている。それ以外は円の大きさは統一されている。

D-BD類は23面あり、花文間の文様は無文・珠文1式・珠文2式・珠文3式・線文2式・線文4式・変形文6式・山形文5式・山形文6式を確認している。このうち千葉県新皇塚古墳例・群馬県赤堀茶臼山古墳例は花文をえがく円の大きさが異なっている。千葉県新皇塚古墳例は6花文であり、花文間の文様は珠文1式である。6花文のうち4花文を描く円の直径は同じであり、残りの2花文は異なる。群馬県赤堀茶臼山古墳例は6花文であり、花文間の文様は珠文1式である。6花文のうち5花文を描く円の直径は統一されており、1花文は異なっている。

D-BDB類は5面の文様を確認している。このうち、兵庫県梶尾古墳例は7花文であり、花文間の単位文様は珠文3である。7花文のうち6花文を描く円の大きさは同じであり、1花文は異なっている。

第19表 有節松葉文帯をもたない内行花文鏡の分類

外区文様および花文間の単位文様																
	D-B'N	D-B'K	D-B'KB	D-BD	D-BDB	D-B2	D-B	D-BK	ADA-B	ADA-B垂	D-B5	A-CB垂	D-B5垂	ADA-A	A-B5垂	A-CB
花文の直径が同じ／異なる	無文	変形文11 線文1	変形文1	珠文1 珠文2 珠文3 線文4	珠文1 珠文3	珠文9	無文 線文6 珠文1 珠文2 珠文3				珠文1 珠文2 珠文3					
							山形文 (四葉座 Ⅲ式)	無文		珠文2	曲線文3	半弧文5				
							不鮮明 (四葉座 Ⅲ式)	珠文1	三角文1	珠文3	曲線文6	曲線文6				
							珠文3	無文	半弧文	珠文3	三角文3	珠文3	珠文3	曲線文8 (四葉座 Ⅳ式)	珠文1	変形文5
花文の直径が同じ								珠文1 線文1			珠文1 曲線文2 曲線文3	変形文9	曲線文1 変形文12		珠文7 曲線文7	
花文の直径が異なる																

D-BK類は6面確認しており、花文を描く円の大きさが統一されているものは、広島県宮の谷8号墳・愛知県甲屋敷古墳・宮崎県六野原5号墳例がある。花文間の文様は珠文1式・無文・不鮮明である。花文を描く円が異なるものは、広島県石鎚権現5号墳例・富山県国分山A号墳・京都府愛宕山3号墳例がある。花文間の文様は珠文1式・線文1式・無文である。

D-B S類は15面確認しており、このうち6面は奈良県衛門戸丸山古墳から出土している同型鏡である。大阪府御旅山古墳（第134図①）・群馬県柴崎蟹沢古墳（第145図②）・香川県前の原7号墳（第133図①）・広島県横路1号墳（第131図①）・伝京都府大塚古墳（第131図②）・岡山県竹田9号墳例（第132図①）は、花文を描く円の大きさが統一されている。

花文を描く円の大きさが異なるものは、鳥取県本高14号墳例（第133図②）・愛知県白山藪古墳例（第132図②）・奈良県衛門戸丸塚古墳例6面（第136図①）・鳥取県馬山4号墳例（第135図①）である。本高14号墳例は珠文1式である。白山藪古墳は三角文3式であり、奈良県衛門戸丸山古墳は曲線文3式である。鳥取県馬山4号墳例は山形文2式である。

D-B S 亜類は3面あり、熊本県門前1号墳・徳島県長谷古墳・山口県赤妻古墳がある。花文の円の大きさが異なっている。

ADA-A3S類は山口県柳井茶白山古墳例（第151図①）は8花文であり、花文の一つは大きさが異なっている。花文間の文様は曲線文8式である。

A-B S類は4面確認している。そのうち3面の愛媛県大日裏山1号墳・岡山県伊与部山2号墳（第152図①）・香川県石清尾山摺鉢谷古墳（第152図②）があり、これらは花文の円の大きさが統一されている。花文間の文様は珠文1式・珠文2式・珠文3式である。愛知県篠木古墳群の1面は花文の円が異なっている。花文間の文様は珠文6式である。

A-B S 亜類は5面確認している。広島県山ノ神1号墳（第155図①）・奈良県佐味田貝吹山古墳・京都府興戸2号墳（第156図①）・愛知県篠木古墳群がある。山ノ神1号墳は花文の周囲に珠文帯、外区は鋸歯文帯である。花文を描く円は大きさが異なっている。花文間の単位文様は珠文1式である。奈良県佐味田貝吹山古墳例（12.2 cm）と愛知県篠木古墳群例（11.0 cm）の文様構成

から、同型鏡と判断できる。花文を描く際の円の大きさは異なっている。花文間の単位文様は珠文4式である。京都府興戸2号墳は、面径12.0cmであり、文様構成は花文の周囲に、珠文帯－櫛歯文帯、外区は鋸歯文帯－無文帯となる。花文間の単位文様は曲線文6式である。

外区に鋸歯文帯をもつもののうち、ADA-B類は2面あり、静岡県馬場平3号墳と京都府荒神塚古墳がある。静岡県馬場平3号墳は花文の大きさが異なる。京都府荒神塚古墳は花文を描く円の大きさは同じである。

ADA-B亜類は、2面の鏡で花文の大きさを確認している。広島県太田古墳(第160図1)を除き、すべて、花文の大きさは統一されている。

A-CB類は、4花文の群馬県保渡田薬師塚古墳例である。花文間の文様は変形文5式である。福岡県七夕池古墳は7花文であり、花文間の文様は曲線文1式である。長野県新道平1号墳は5花文であり、花文間の文様は半弧文5式である。花文はおおよそ統一されている。栃木県助戸十二天古墳例は5花文であり、花文の大きさは異なる。1つの花文は非常に小型である。奈良県佐味田貝吹山古墳は4花文であり、花文は二段にすることで二重の花文を描いている。二重の花文は全て同じ大きさである。奈良県新沢129号墳例は6花文であり、花文の大きさが異なる。

①類の内区外周に斜行櫛歯文帯をもつものは、すべて花文の大きさは統一されることが判明した。②類は櫛歯文帯をもつものであり、D-B類・D-BD類・D-BDB類・D-B2類・D-BK類がある。内区外周に櫛歯文帯をもつD-B類は35面を確認しており、花文間の文様には、珠文1式・珠文2式・珠文3式・曲線文1・半弧文1・線文6式・変形文3式・無文がみられる。このうち珠文3式の静岡県五鬼免古墳群1号墳東棺例は6花文であり、1つの花文の大きさが異なっている。花文間の文様は珠文を充填する珠文3式である。静岡県五鬼免古墳群例以外はすべて花文の大きさは統一されている。

有節松葉文帯をもたないものは大きく2つの画期を設定できる(第18表)。花文を描く円の大きさが統一されているものを第I期とし、不統一なものを第II期としている。第I期の花文の大きさが統一されている段階の外区文様は、D-B'N類・D-B'K類・D-B'KB類・D-BD類・D-BDB類・

D-B 2類である。第Ⅱ期の花文の大きさが統一されていない外区文様は、D-B S Ⅱ類・ADA-A 3 S 類・A-B S Ⅱ類・A-C B 類である。

最後に有節松葉文帯をもつものともたないものの併行関係について論じる。花文間の単位文様を比較すると有節松葉文帯をもつものは、第2期に曲線文1・5・8式がみられる。有節松葉文帯をもたないものは第Ⅱ期に曲線文1・8式がみられる。有節松葉文帯の有無に関わらず、花文を描く円の大きさが異なる第2期と第Ⅱ期から曲線文1・8式が出現しており、第2期と第Ⅱ期は併行関係にあるといえる。有節松葉文帯のある第1期がもたない第Ⅰ期、第2期～第4期が第Ⅱ期に併行すると考えている。

第3節 内行花文鏡の特質

(1) 内行花文鏡の変遷

古墳時代の仿製内行花文鏡の変遷について述べる。森浩一によって古墳時代初頭に弥生時代の流れを組む内行花文鏡がみられることは、早くから指摘されていた。森は古墳出土の小型内行花文鏡は、弥生後期の「小型斜行櫛歯文帯鏡」の後身としており、弥生時代小型内行花文鏡から古墳時代小型内行花文鏡への変遷は一連のものであったと指摘している（森1975）。その後、林原利明（1990）、田尻義了（2012）も古墳時代初頭の事例に弥生時代の特徴をもつ内行花文鏡が存在することを指摘している。

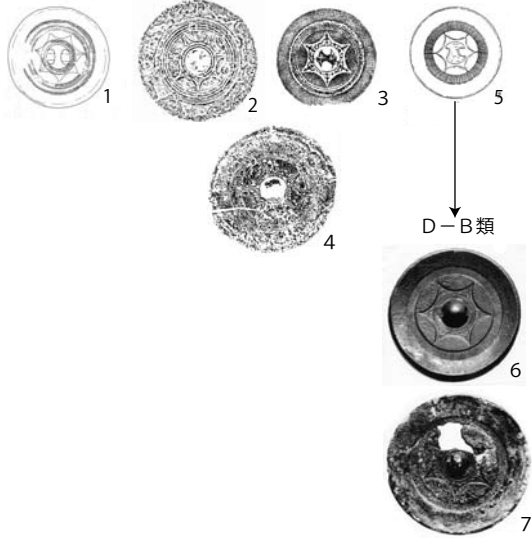
第91図には弥生時代後期終末期から古墳時代前期の内行花文鏡との関係を示している。第91図5は兵庫県鈿田遺跡出土鏡である。内行花文鏡は弥生時代後期から奈良時代前半まで続いた溝から出土しており、鏡の周囲からは弥生時代終末期の土器片が散乱していたと報告される。鈿田遺跡出土鏡は、田尻義了によって古墳時代初頭にみられる内行花文鏡の一つとして紹介されたものである。田尻は兵庫県鈿田遺跡出土鏡と富山県上野遺跡出土鏡の事例をあげ、鈿田遺跡出土鏡を観察した結果、6花文をフリーハンドで描く特徴があることを指摘している（田尻2012）。その他に鈿田遺跡出土鏡の特徴を

あげると、花文間に単位文様のないことを指摘したい。これは弥生時代小型仿製鏡から古墳時代初頭の小型仿製鏡へと移行する段階の鏡であり、中国鏡や弥生時代小型仿製鏡の花文間に単位文様がないものが多いことに共通しており、古い要素の一つになると考えている⁽³⁾。鈿田遺跡出土鏡に類似する資料としては、富山県上野遺跡出土内行花文鏡をあげることができる。この鏡も6花文である点、断面図からみると反りが無い点、花文間に単位文様がみられない点、花文間が離れている点において鈿田遺跡と共通している。中国鏡の内行花文鏡が4区画であるのに対して、弥生時代の仿製内行花文鏡は、4花文から11花文まであり、花文数に決めごとがないことに特徴がある。鈿田遺跡出土鏡と上野遺跡出土鏡は共に6花文を有しており、弥生時代の特徴をもつ小型仿製鏡であると判断できる。ただし、この鏡については実測図でみる限り花文が同じ幅であることから、フリーハンドではないと思われる。弥生時代後期後半の鳥取県青谷上寺地遺跡例や東京都館町515 竪穴住居例はコンパスを用いて製作していると判断しており（第107・108 図）、弥生時代後期にはすでにコンパスを用いて内行花文鏡の花文を描いていたと考えている。ただし、花文を描く円の大きさに違いがあることを考えると、円の中心の位置までは意識していなかったと判断した。

斜行櫛歯文帯をもつ兵庫県竜山5号墳（第91 図2）もコンパス状の道具を使っていると判断できることから、フリーハンドではないと考える。竜山5号墳出土鏡は舶載鏡と報告されているが（山本編1978）、圏線上に珠文状の文様が施される特徴は、同時期に生産の始まる小型仿製鏡の重圏文鏡にもみられる。また、中国製の内行花文鏡は文様の線刻がシャープであることから、筆者は竜山5号墳出土鏡は仿製鏡であると考えている。さらに7花文⁽²⁾は弥生時代小型仿製鏡に頻繁に使用されており、中国鏡にはほとんどみられない花文数である。その一方で、内行花文の周囲に2条の圏線と斜行櫛歯文帯が配置される点は、中国鏡である円座内行花文鏡に類例を認めることができる。円座内行花文鏡の例としては、奈良県池ノ内1号墳鏡をあげることができる。面径は11.9 cmと小型であり、花文の周囲には圏線を3本配置し、その周囲に斜行櫛歯文を巡らせている。兵庫県竜山5号墳と奈良県池ノ内1号墳例は圏線と斜行櫛歯文

花文の弧線から復元される円形が同じ

D-B 〃 K B類 D-B 〃 K類 弥生時代小型内行花文鏡

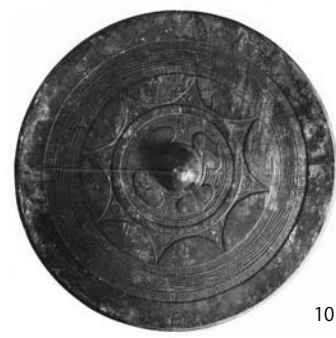


1. 富山県神谷内古墳群C支群12号墳
 2. 兵庫県竜山5号墳
 3. 埼玉県北島遺跡2号墳
 4. 岡山県近長丸山1号墳第1主体
 5. 兵庫県鈿田遺跡
 6. 岡山県奥の前1号墳
 7. 兵庫県安倉高塚古墳
 8. 奈良県下池山古墳
 9. 奈良県新沢500号墳
 10. 静岡県松林山古墳
- (S=1:10)



- D-B K類
 - ADA-B類
 - ADA-B 皿類
 - D-B S類
 - A-C B 皿類
-
- D-B S 皿類
 - ADA-A 3 S類
 - A-B S 皿類
 - A-C B類

花文の弧線から復元される円形が異なる



第 91 図 内行花文鏡の関係

配置する点で類似する。

次に岡山県近長丸山1号墳出土鏡をみると、この鏡も弥生時代仿製鏡に多くみられる5花文を配するものである。この鏡は、花文間が接していない点で、兵庫県竜山5号墳出土鏡（第91図2）と兵庫県鉦田遺跡出土鏡（第91図5）に類似している。花文帯の周囲には複数の圏線を配し、その周囲に斜行櫛歯文帯をもつ点は兵庫県竜山5号墳出土鏡と類似することから、この3面は同時期に生産されたと考えられる。岡山県近長丸山1号墳は内行花文鏡と共に出土する硬玉製勾玉の形状が弥生時代後期から古墳時代初頭にみられるものであると指摘がなされている（小郷編1992）。

続いて、富山県神谷内古墳群C支群12号墳出土鏡（第91図1）について述べたい。この鏡はD-B¹KB類であり、7花文を有する。花文の周囲に斜行櫛歯文帯と複数の圏線からなる文様構成をもつ。この鏡は兵庫県竜山5号墳と類似している。

弥生時代小型仿製鏡と中国鏡の影響を共に受けていると思われる小型の仿製内行花文鏡には、岡山県奥の前1号墳例があり、分類はD-B類である。文様構成は6花文で、その周囲には櫛歯文帯をもつ。弥生時代小型仿製鏡である兵庫県鉦田遺跡出土鏡例の文様構成に類似している。また、花文間の単位文様は半弧文を配しており、これは中国鏡の四葉座内行花文鏡に使用される単位文様（第92図）と酷似していることから、中国鏡の文様を取り入れたと考える。小型の内行花文鏡である岡山県奥の前1号墳と、大型の仿製内行花文鏡である下池山古墳の単位文様とを比較すると、中国鏡の単位文様とより類似するのは、小型の岡山県奥の前1号墳である。同じ単位文様をもつものは、同時期に生産されていた可能性が考えられる。

奥の前1号墳例に後続する鏡としては、兵庫県安倉高塚古墳例をあげることができる。安倉高塚古墳例の単位文様の3カ所は、奥の前1号墳例にみられる中国鏡の文様を配し、残りの3カ所は日本列島独自の文様があることから、中国鏡の単位文様のみをもつ奥の前1号墳より後出すると判断できる。

最も古い大型の内行花文鏡には、奈良県柳本大塚古墳例、奈良県下池山古墳例、奈良県桜井茶臼山古墳例、滋賀県雪野山古墳例などをあげることができる。

この大型鏡の中で最も古い単位文様をもつものは、下池山古墳例である。この鏡は四葉座、8花文、有節松葉文帯、平頂素文帯をもち、中国鏡の四葉座内行花文鏡を模倣して作り出したことは明らかである。雪野山古墳例は、下池山古墳例よりも後出すると考える。林も指摘するように「有節松葉文帯の代わりに平行線文、単位文様の代わりに乳を採用する点で、中国製内行花文鏡の意匠からやや逸脱したもの（林 2000）といえる。

前漢代・後漢代の中国鏡は、多くが4区画を意識した文様構成をもち、内行花文鏡帯を有する中国鏡は、8花・12花文・16花文・20花文があり、多いもので24花文を配するものである。例えば、『中国銅鏡図典』（文物出版社 1992）中に掲載されている鏡でみると、後漢代の四葉座をもつ内行花文鏡は例外的に7花文のものが存在するとあるが、前漢代の異体字銘帯鏡は、内区に2重の内行花文帯を配し、外区にも花文帯を配する。内側から16花文、次に20花文、その次に20花文が配され、これはすべて4で割り切れる花文数となっている。小型の異体字銘帯鏡も8花文の内行花文帯をもつ。

下池山遺跡例は8花文であることから、忠実に中国鏡を模倣した鏡といえる。4区画であり、有節松葉文帯も忠実に描かれている。それに比べると雪野山古墳例の鈕座文様は、4区画を意識した製作がなされておらず、五葉座で10花文である。仿製鏡の生産体制の中で、中国鏡の四区画という意識が薄れ、五葉座となり、花文も10花文へと変化したと思われる。このように雪野山古墳出土鏡は、中国鏡には採用されていない5区画で五葉座や10花文を配置する点からみても、仿製鏡的要素が強い大型の内行花文鏡といえよう。

なお面径11.0 cm未満の小型の内行花文鏡でみると、花文数は91例中、4花文は1面、5花文は8面、6花文は58面、7花文は6面、8花文は9面、9花文は3面、12花文は1面と花文数に非常にばらつきをみせる。これは中国鏡に込められた思想が受け継がれていないことが分かる。特に、小型の内行花文鏡では6花文を配するものが多いが、これは文様を描きやすかったためと考える。

（2）同範（型）鏡について

一つの古墳から出土する内行花文鏡に同範(型)鏡が存在することは、清水康二(1994)や徳田誠二(2005)によって指摘されている。

第20表 同範(型)鏡の事例

古墳名	分類	面径
奈良県新山古墳	A-B	11.9
静岡県富岡古墳群F49号墳	A-B	12
愛知県篠木古墳群	A-BS垂	11
奈良県佐味田貝山古墳群	A-BS垂	12.1
東京都扇塚古墳	D-B	8.5
大分県千石古墳	D-B	8.5

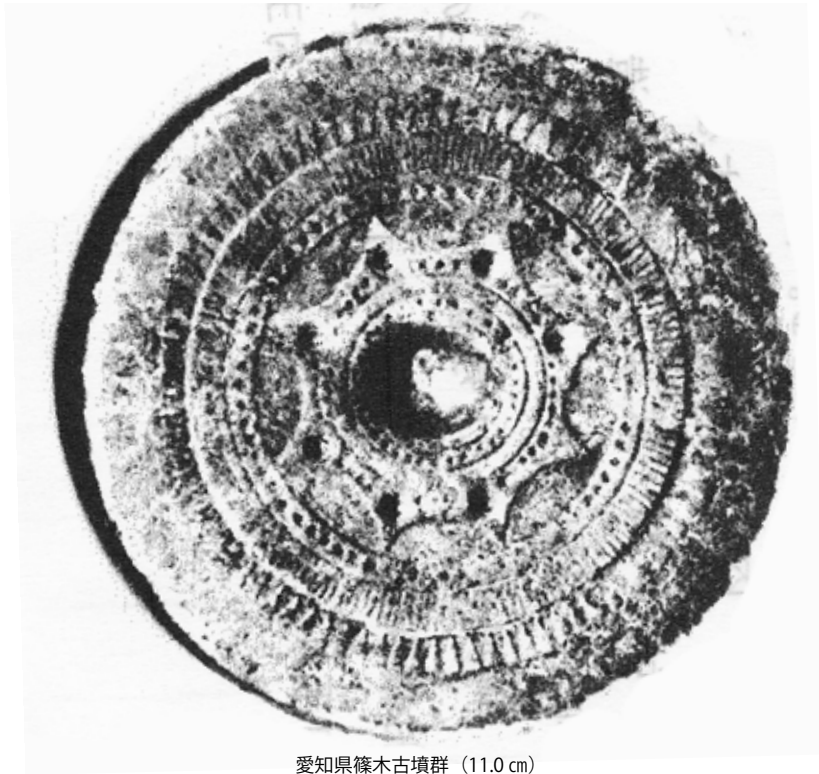
清水は岐阜県西宮ノ洞例1組2面・大阪府御

旅山古墳例4組11面・奈良県衛門戸丸塚古墳例1組2面・奈良県マエ塚古墳1組2面の同範鏡の存在を指摘している。この中で徳田は奈良県衛門戸丸塚古墳出土6面の内行花文鏡の観察を行っており、6面の鏡は、一つの鋳型を繰り返し使用した根拠に乏しいことから、原型から6個の鋳型を作り、それぞれ鋳造する(同型技法)を用いたと推測している。

今回、筆者は他の内行花文鏡においても異なる古墳において3組の同型鏡が存在することを確認した。奈良県新山古墳例(第94図1)と静岡県富岡古墳群F49号墳例(第94図2)は文様の配置が全く同じであることから、同範(型)であることを確認した。鈕孔の位置も類似しており、製作時に意識して鈕孔をそろえていると思われる。新山古墳例は面径11.9cm、富岡古墳群F49号墳例は面径12.0cmと報告され、内行花文鏡の中では小型の部類といえる。この2面の鏡については踏み返し、1個の鋳型から鋳造されたのかという製作方法について今回は論じることはできないが、内行花文鏡には同範(型)によって製作され、異なる古墳で使用された事例が存在することが判明した。

他には奈良県愛知県篠木古墳群(11.0cm・第92図①)・奈良県佐味田貝吹山古墳例(12.1cm・第92図②)である。この2面は面径が1.1cm異なっているものの、文様の配置が共通していることから、おそらく篠木古墳群出土例は何度かの踏み返しによって製作されたと考える。

その他に東京都扇塚古墳例(8.5cm・第93図①)・大分県千石古墳例(8.5cm・第93図②)がある。扇塚古墳例の報告によると、花文間にある三角状を呈する空間に充填される珠文のうち、4ヵ所に珠文4個がT

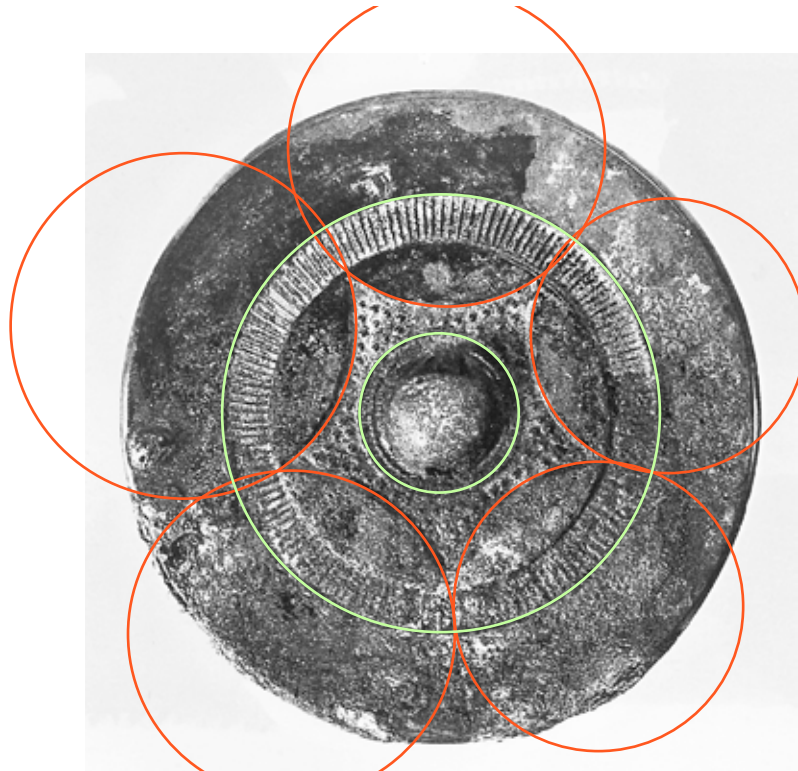


愛知県篠木古墳群 (11.0 cm)

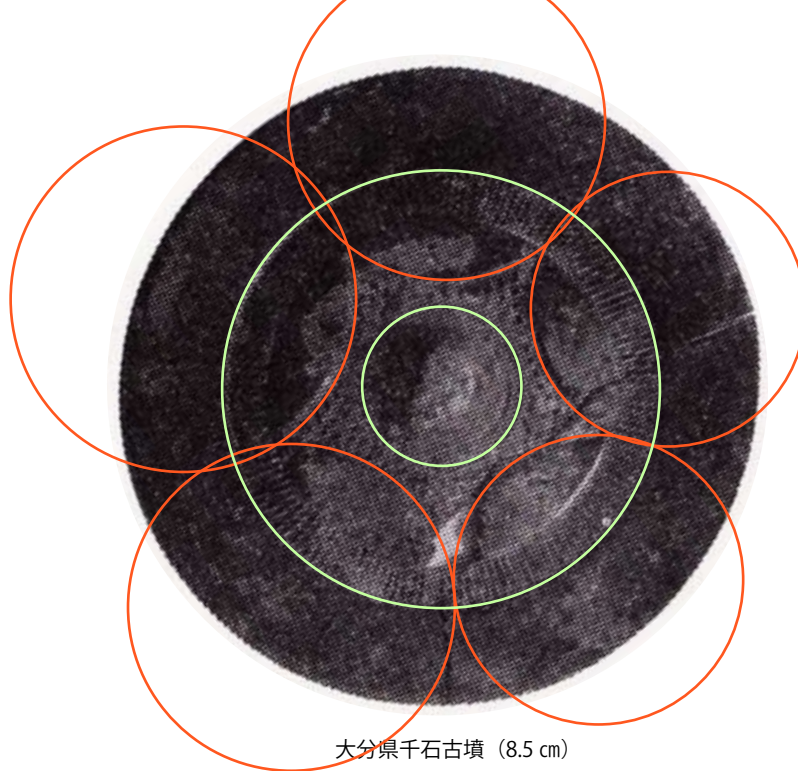


奈良県佐味田貝吹山古墳 (12.2 cm)

第 92 図 同範（同型）鏡の事例



東京都扇塚古墳 (8.5 cm)



大分県千石古墳 (8.5 cm)

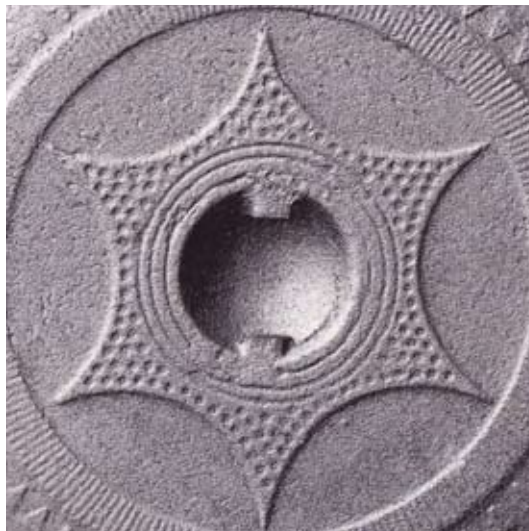
第93図 同範（同型）鏡の事例



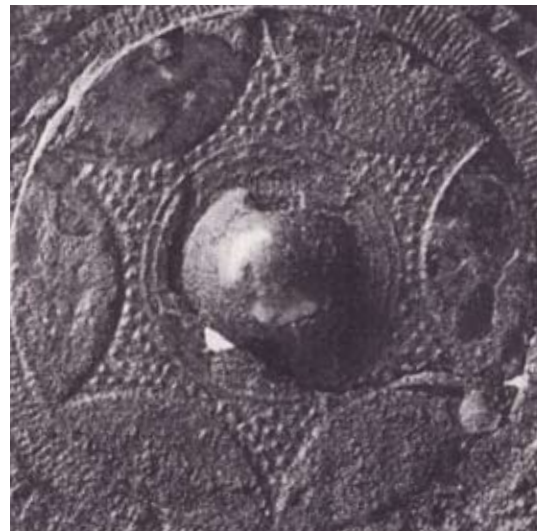
1



2



1

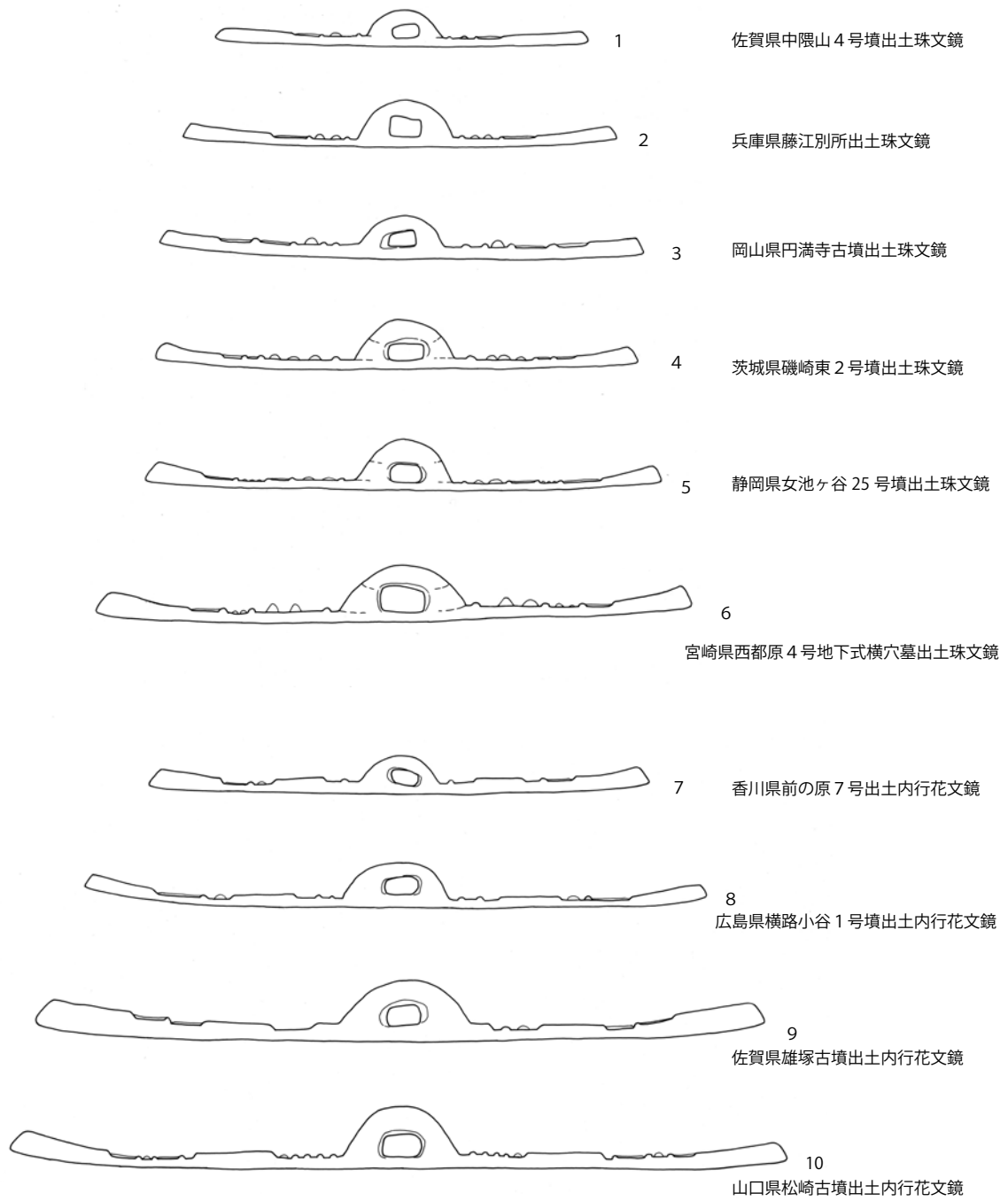


2

第94図 同範（同型）の事例

（1. 奈良県新山古墳 2. 静岡県富士岡古墳群F 49号墳）

字状、1カ所に珠文3個が三角状に配置されていると指摘されている。大分県千石古墳の例にも珠文3個が1カ所に配される。さらに、花文の間隔も扇塚古墳と非常に類似している。面径が共に8.5cmであり、この2面も同範（型）と考えられる。鈕孔をあける位置もほぼ同じであることか



第95図 内行花文鏡と珠文鏡の断面図 (S=1:1)

ら、この2面においても意識して鈕孔をそろえていると思われる。また、東京都扇塚古墳出土鏡は大分県千石古墳出土鏡よりも鑄上がりが良いことから、扇塚古墳出土鏡を踏み返して千石古墳出土鏡を製作されたとも考えられる。内行花文鏡は新たに同型鏡を3組確認できたことは大きな成果といえる。

(3) 内行花文鏡の鈕孔の形態

仿製の大型内行花文鏡の鈕孔形態は円形のものが多いと報告されている。報告書でみる限り、下池山古墳例や雪野山古墳例も円形の鈕孔である。一方で、今回実際に観察した小型や中型の内行花文鏡の中には、方形の鈕孔のものが多く(第95図7～10)、大型鏡との製作場所が異なっていた可能性がある。内行花文鏡の鈕孔の形態は珠文鏡(第95図1～6)と類似していることから、内行花文鏡はより小型の仿製鏡である珠文鏡と同じ地域で製作されていたと推測する。断面形態が類似する点からも、製作方法を共有している可能性が高い。詳細な鈕孔との形態と分類との関係については今後の課題である。

(4) 古墳出土の内行花文鏡

次に分類ごとに、出土する古墳の内容や規模について論じたい。

前期

前期の遺跡の種類は、前方後円墳28基47面、前方後方墳6基28面、円墳36基48面、方墳7基7面、祭祀・集落遺跡7面、その他8遺跡9面である。古墳の種類と規模についてみる。

ここでは小型①を面径6cm未満、小型②を面径6cm以上8cm未満、小型③を面径8cm以上11cm未満、中型①を面径11cm以上14cm未満、中型②を面径14cm以上20cm未満、大型を面径20cm以上としている。第22表をみると、中型②から大型は40m未満の古墳から出土しておらず、大型の内行花文鏡をもつ古墳である。小型②は2遺跡4面を除き、8遺跡8面は40m未満の古墳からのみの出土である。

前方後円墳である香川県快天山古墳では墳丘規模100mであるにもかかわらず、面径9.0cmと12.0cmの小型の内行花文鏡2面が出土しており、この例

のように大型の墳丘規模をもつ古墳であるが、大型の内行花文鏡は出土していない事例もあり、古墳の規模と鏡の面径に係性が無い事例もみられ

第21表 内行花文鏡の出土遺跡

	前期	中期	後期
前方後円墳	28(46)	6	1
前方後方墳	6(28)	2	
円墳	36(48)	26(28)	3
方墳	7	3	
祭祀・集落遺跡	7	2(4)	
その他	8(9)	4(6)	4(5)

る。祭祀遺跡出土のものは、祭祀遺跡2面、集落遺跡6面であり、全て小型②である。

中期

この時期は43遺跡49面あり、前期に比べると出土遺跡数が減少している。出土遺跡の内訳は前方後円墳6遺跡、前方後方墳2遺跡、円墳26遺跡28面、方墳3遺跡、祭祀・集落遺跡2遺跡4面、その他4遺跡6面である。第21・22表をみると、中期には前期と比べて、前方後円（方）墳からの出土が減少しておりことが明確である。

第22表 古墳の種類と鏡の面径

前I期～前VI期

面径の分類	小型①				小型②				小型③				中型①				中型②				大型			
	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●
20m未満					1				10				3											
20m以上40m未満					4	1	1	1	2	3		3	2(3)		2									
40m以上60m未満								1			1	16(4)			2	1(3)					1(3)			
60m以上80m未満								1				1(2)							4(3)					1
80m以上100m未満								1(3)				1			1(2)				1					1
100m以上												1			1	1								5
					5	1	1	4	12	3	1	22	5	1	6	1			5	1				7

中I期～中IV期

面径の分類	小型①				小型②				小型③				中型①				中型②				大型			
	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●
20m未満					1				4(5)				2											
20m以上40m未満					2				4		1	1	3		1	2								
40m以上60m未満					2(1)					1		1												
60m以上80m未満									1			1												
80m以上100m未満																								
100m以上												2												
					4				9	1		5	5	1	2									

後I期～後IV期

面径の分類	小型①				小型②				小型③				中型①				中型②				大型			
	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●	□	○	■	●
20m未満					1				3															
20m以上40m未満								1								1								
40m以上60m未満																								
60m以上80m未満																2(3)								
80m以上100m未満																								
100m以上												2												
					1			1	3			2				3								

□は円墳、○は方墳、■は前方後方墳、●は前方後円墳を示す。

前期に製作された大型鏡は中期にはみられない。内行花文鏡の面径と古墳の墳丘規模の関係を第 22 表で見る限り、相関関係はなくなる。

後期

この時期は 8 遺跡 9 面があり、出土数は中期に比べ激減している。出土遺跡はすべて古墳であり、前方後円墳 1 遺跡 1 面、円墳 3 遺跡 3 面となる。後期は中期と同様に、内行花文鏡の面径と墳丘規模や古墳の形状には、特に相関関係はみられないことが分かる。内行花文鏡は前期には前方後円墳を志向する鏡であるが、中期には円墳を中心に出土し、後期にはほぼ使用されなくなる鏡であるといえる。

第 4 節 小結

古墳時代内行花文鏡の発生についてまとめると、弥生時代の仿製鏡の影響から出現するもの、弥生時代小型仿製鏡と中国鏡の内行花文鏡の影響を受けて出現するものがみられると指摘した。前Ⅲ期以降に増加する小型の内行花文鏡については 6 花文が多い。初期の小型内行花文鏡である岡山県奥の前 1 号墳出土鏡は、弥生時代小型仿製鏡の 6 花文を受けつぎ、花文間の単位文様は中国鏡の四葉座内行花文鏡の半弧文 1 式をもつ。大型仿製鏡である下池山古墳は中国鏡に近い特徴をもつものであるが、花文帯の単位文様は中国鏡にはなく、日本独特の文様へと変化している。このことから、奥の前 1 号墳などの小型の内行花文鏡は大型内行花文鏡に先行して生産されていたと判断する。

前期の内行花文鏡は、小型、大型に関わらず前方後円墳から数多く出土することを考慮すると、小型であっても、政治的な意味合いをもち、階層の上位に位置づけられる鏡であったと結論づける。鏡の文様は大和王権の階層づけや祭祀具としての意味が込められており、それぞれの役割を表すものであった。日本列島において小型仿製鏡の文様に統一性があることもこれを証明するものである。

(註)

(1) フリーハンドの定義は、小学館のデジタル大辞典によるとされ「定規・コンパスなどを用いずに図を描くこと」とあり、本論文ではこの意味で用いている。

(2) 今回文様が不鮮明なため取り扱っていないが、香川県寺田・産宮通遺跡（西村編 2003）から面径7cmであり、東京都館町515号住居例と類似する鏡が出土していることを記しておく。

(3) 弥生時代の小型内行花文鏡のうち、花文間の単位文様のないものは、田尻義了第2型C類、第3型a類、第3型b類（田尻 2012）にみられる。弥生時代小型仿製鏡を検討した田尻義了によると、内行花文鏡系小型仿製鏡第3型は規格性が強く、花文数は5～9であり、そのうち6・7に内行花文数がまとまるとする（田尻 2012）。古墳時代初頭は弥生時代の影響も受け、花文数に6・7が多くなると思われる。

(引用・参考文献)

新井 悟 2007 「倣製鏡の紋様割付—同心円分割の復元」『アジア鑄造技術史学会 2007 研究発表概要集』アジア鑄造技術史学会、3—4頁。

今井 堯 1992 「小形倣鏡の再検討Ⅱ」『古代吉備』第14集 古代吉備研究会、121—154頁。

小林三郎 1982 「古墳時代倣製鏡の鏡式について」『明治大学人文科学研究所紀要』第21冊 明治大学、89—166頁。

清水康二 1990 「鏡」『考古学ジャーナル』No.321、ニューサイエンス社、2—8頁。

清水康二 1994 「倣製内行花文鏡類の編年—倣製鏡の基礎的研究Ⅰ—」『橿原考古学研究所論集』第11、吉川弘文館、447—503頁。

清水康二 2008 「下池山古墳出土内区花文鏡の編年的位置づけ」『下池山古墳の研究』柏原考古学研究所研究成果第9冊、奈良県橿原考古学研究所、227—234頁。

田尻義了 2005 「近畿における弥生時代小形仿製鏡の生産」『東アジアと日本—交流と変容—』第2号、九州大学大学院比較社会文化研究院、29—45頁。

田尻義了 2012 『弥生時代の青銅器生産体制』（株）九州大学出版会。

小郷利幸編 1992 『近長丸山古墳群』津山市埋蔵文化財発掘調査報告41、津山市教育委員会。

中村清隆・林原利明 1994 「小型倣製鏡の基礎的集成（1）—珠文鏡の集成—」『地域相研究』21、地域相研究会、95—125頁。

名本二六雄 2002 「宇和・長作森古墳の小型倣製内行花文鏡の意義」『犬飼徹夫先生古稀記念

- 論集 四国とその周辺の考古学』犬飼徹夫先生古稀記念論集刊行会、499 - 511 頁。
- 西村尋文編 2003 『寺田・産宮通遺跡・南天枝遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター。
- 林 正憲 2000 「古墳時代前期における倭鏡の製作」『考古学雑誌』85 - 4、日本考古学会、76 - 102 頁。
- 林原利明 1990 「弥生時代終末～古墳時代前期の小形仿製鏡について」『東国史論』第5巻、群馬考古学研究会、49 - 64 頁。
- 林原利明 1993 「東日本の初期銅鏡」『季刊考古学』第43号、雄山閣出版、26 - 29 頁。
- 樋口隆康 1979 『古鏡』新潮社。
- 文物出版社 1992 『中国銅鏡図典』文物出版社。
- 湊 哲夫 1999 『美作の鏡と古墳』津山郷土博物館。
- 森 浩一 1970 「古墳出土の内行花文鏡の再吟味」『日本古文化論巧』吉川弘文館、259 - 284 頁。
- 森下章司 1991 「古墳時代仿製鏡の変遷のその特質」『史林』第74巻第6号、史学研究会、1 - 43 頁。
- 山本三郎編 1978 『播磨・竜山5号墳発掘調査報告』竜山号墳発掘調査団・高砂市教育委員会。



①熊本県辻古墳出土内行花文鏡



②佐賀県平原遺跡出土内行花文鏡

第96図 内行花文鏡の諸例



①広島県汐首遺跡出土内行花文鏡



②広島県横路小谷1号墳出土内行花文鏡

第 97 図 内行花文鏡の諸例



①広島県山の神第1号墳出土内行花文鏡



②広島県石鎚権現5号墳出土内行花文鏡

第98図 内行花文鏡の諸例



①広島県恵下1号墳出土内行花文鏡



②山口県松崎古墳出土内行花文鏡

第 99 図 内行花文鏡の諸例



①鳥取県青谷上寺地遺跡出土内行花文鏡



②香川県快天山古墳第3号石棺出土内行花文鏡

第100図 内行花文鏡の諸例



①香川県快天山古墳第2号石棺出土内行花文鏡



②香川県成山1号石棺出土内行花文鏡

第101図 内行花文鏡の諸例



①香川県大日裏山1号墳出土内行花文鏡

第102図 内行花文鏡の諸例



①香川県津頭東古墳出土内行花文鏡



②香川県岩崎山5号墳出土内行花文鏡

第 103 図 内行花文鏡の諸例



①大阪府楠葉古墳出土内行花文鏡



②静岡県五鬼面古墳出土内行花文鏡

第104図 内行花文鏡の諸例



①長野県石川条里遺跡出土内行花文鏡



②千葉県御林跡遺跡出土内行花文鏡



③東京都館町515号遺跡出土内行花文鏡

第 105 図 内行花文鏡の諸例



①千葉県島戸境1号墳出土内行花文鏡

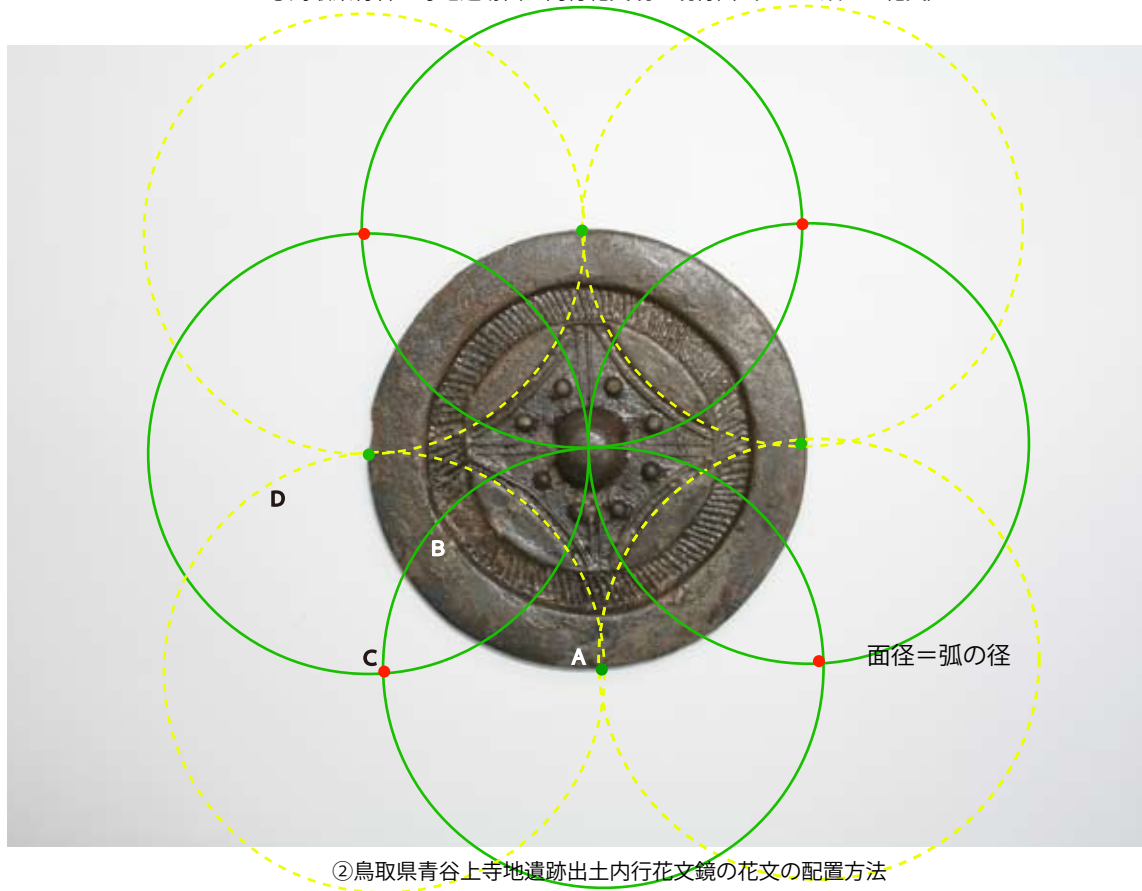


②群馬県下佐野遺跡出土内行花文鏡

第106図 内行花文鏡の諸例



①鳥取県青谷上寺地遺跡出土内行花文鏡の鏡背面（D-B´類・4花文）

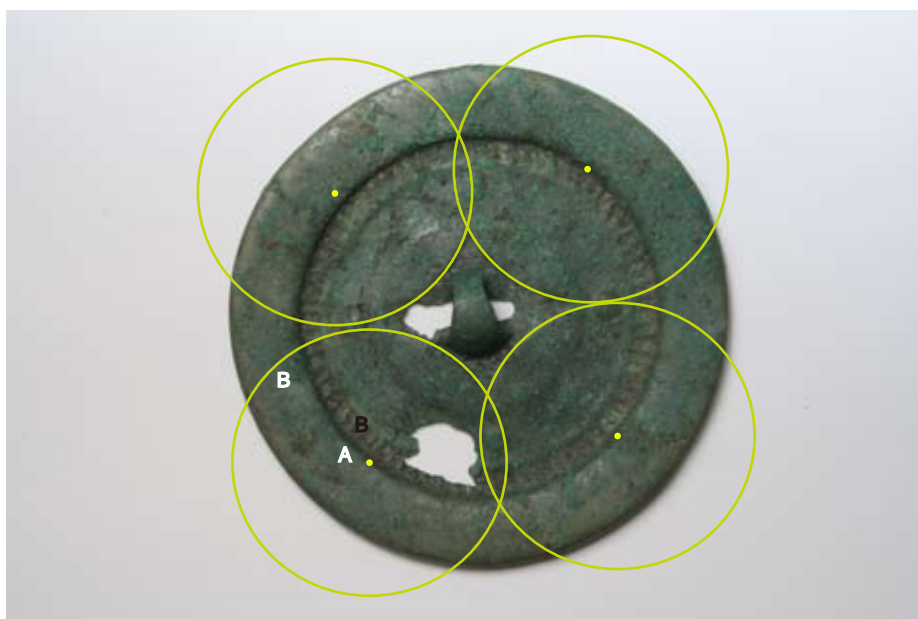


②鳥取県青谷上寺地遺跡出土内行花文鏡の花文の配置方法

第 107 図 花文の検討

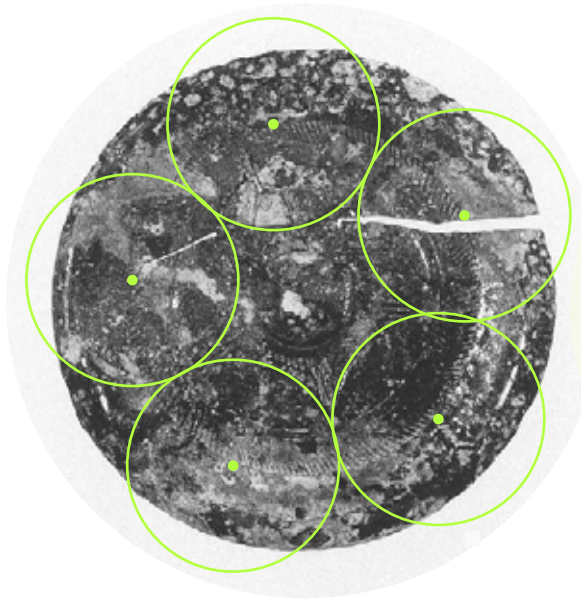


①東京都館町 515 号遺跡 (D-B Ⅰ N類・4花文・無文)

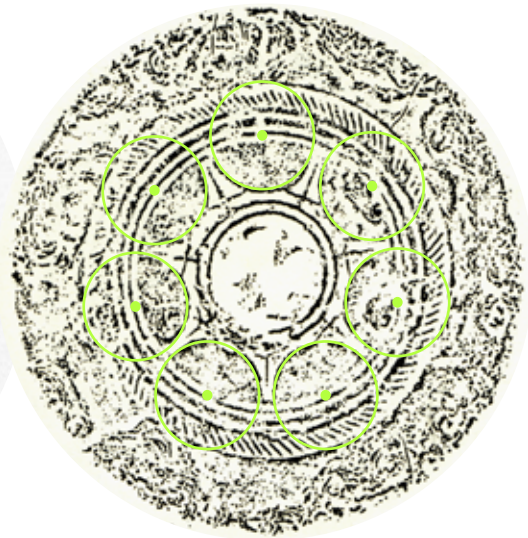


②東京都館町 515 号遺跡出土鏡の花文の配置方法

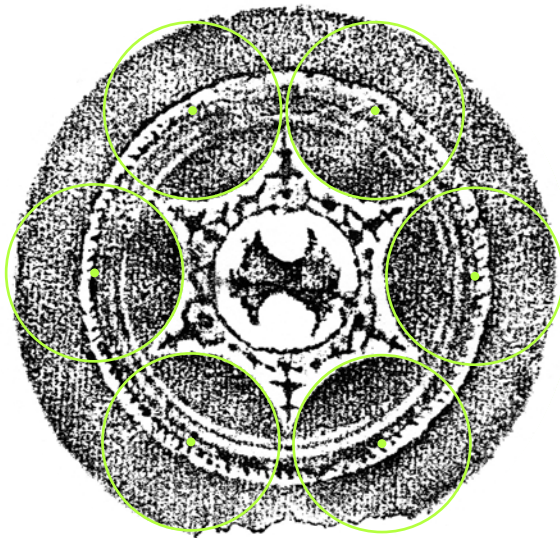
第 108 図 花文の検討



①岡山県近長丸山1号墳 (D-B'K類・5花文
・変形文11式・9.0cm)

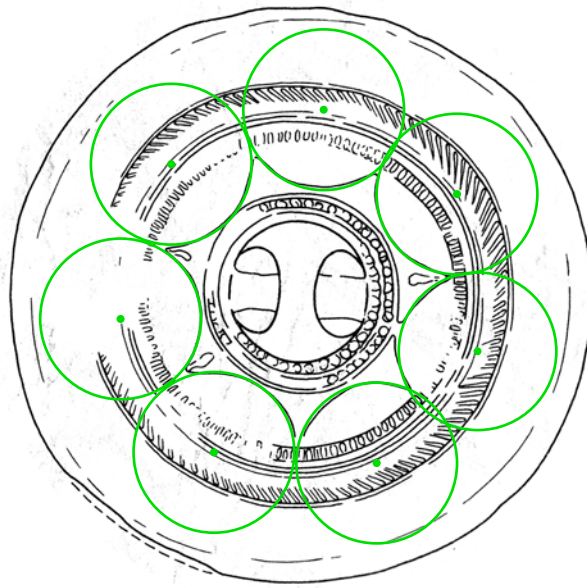


②兵庫県竜山5号墳 (D-B'K類・7花文
・線文1式・9.1cm)



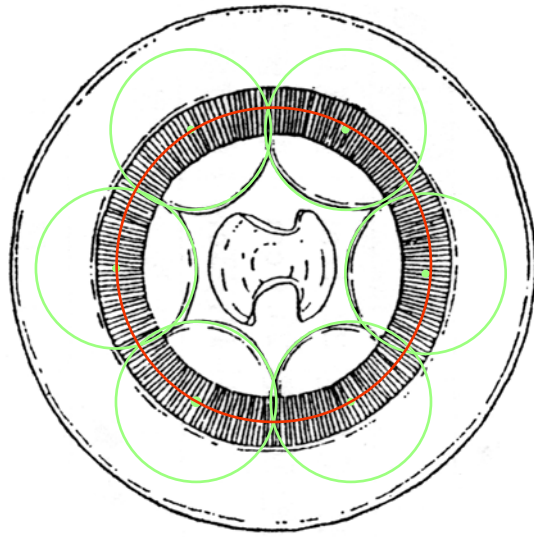
③埼玉県北島遺跡 (D-B'K類・6花文
・線文1式・7.7cm)

第109図 花文の検討



①神谷内古墳群C支群12号墳(D-B'KB類・7花文
・変形文・7.6cm)

第110図 花文の検討

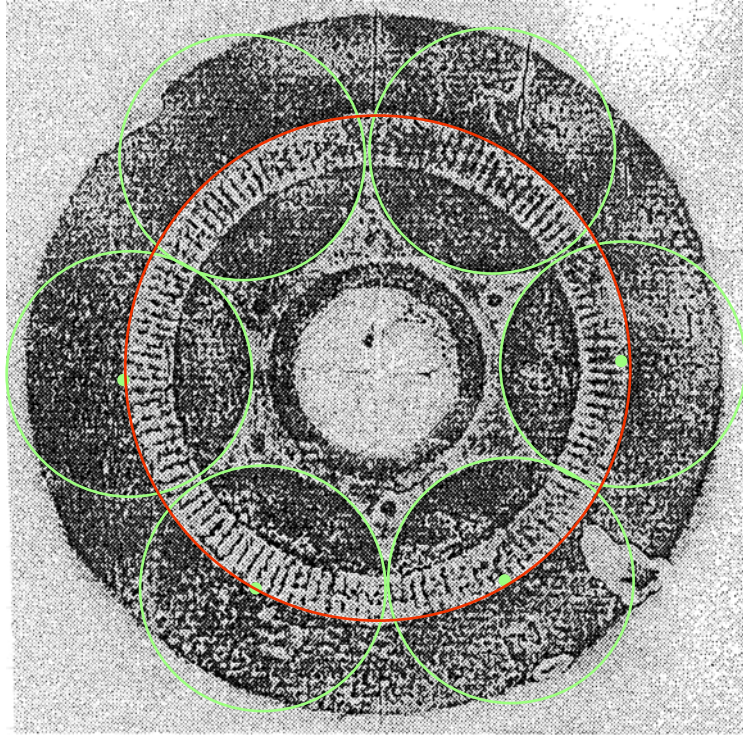


①富山県小杉上野遺跡 (D-B・6花文・無文)

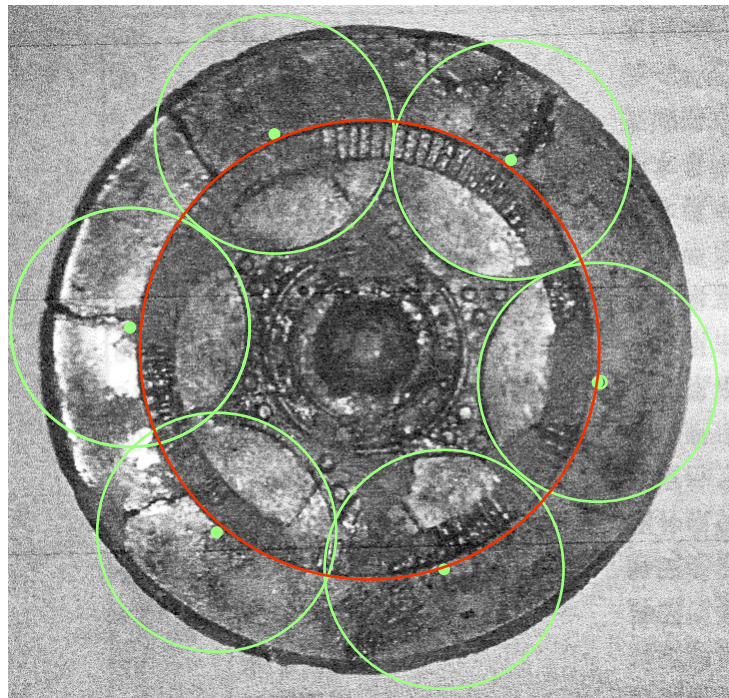


②兵庫県鉦田古墳 (D-B・6花文・無文)

第 111 図 花文の検討

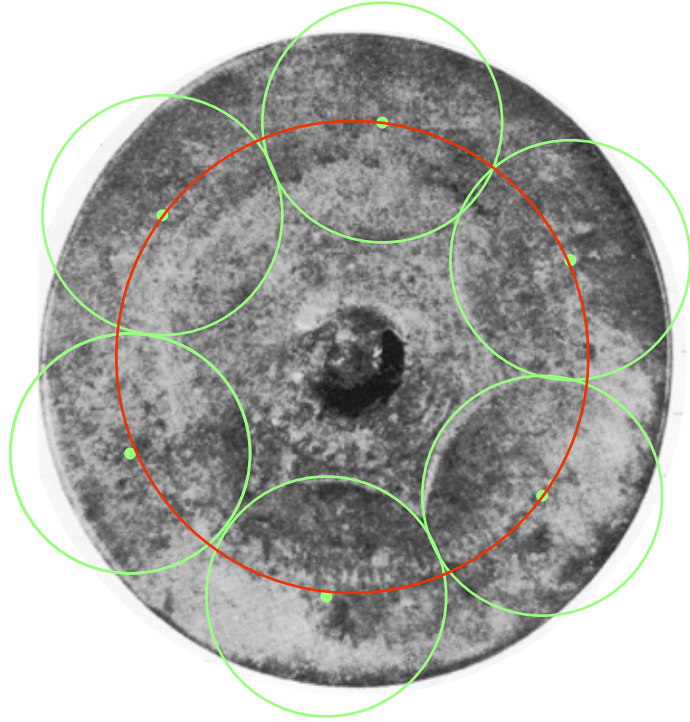


①愛知県北本郷古墳 (D-B・6花文・珠文1式)

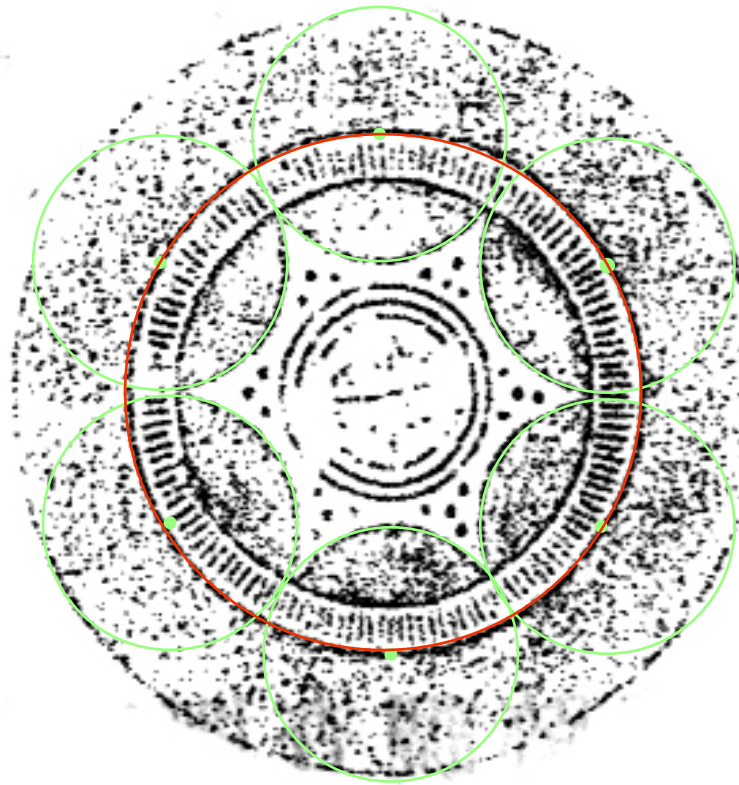


②広島県善法寺9号墳 (D-B・6花文・珠文2式)

第112図 花文の検討

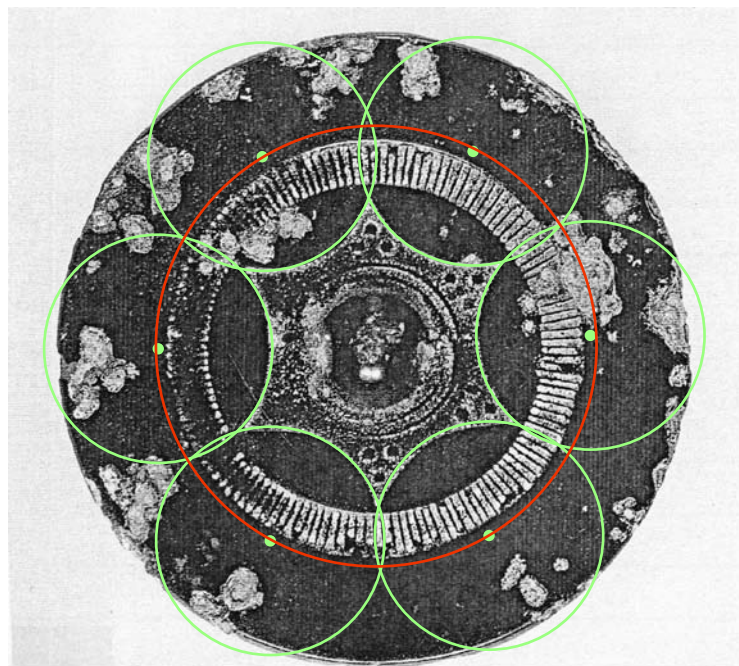


①兵庫県五十波古墳群 (D-B・6花文・珠文2式)

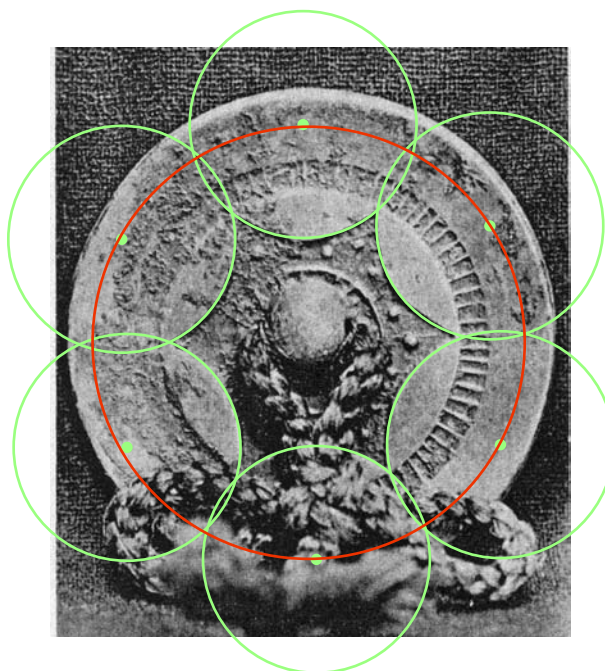


②奈良県赤尾熊ヶ谷2号墳 (D-B・6花文・珠文2式)

第113図 花文の検討

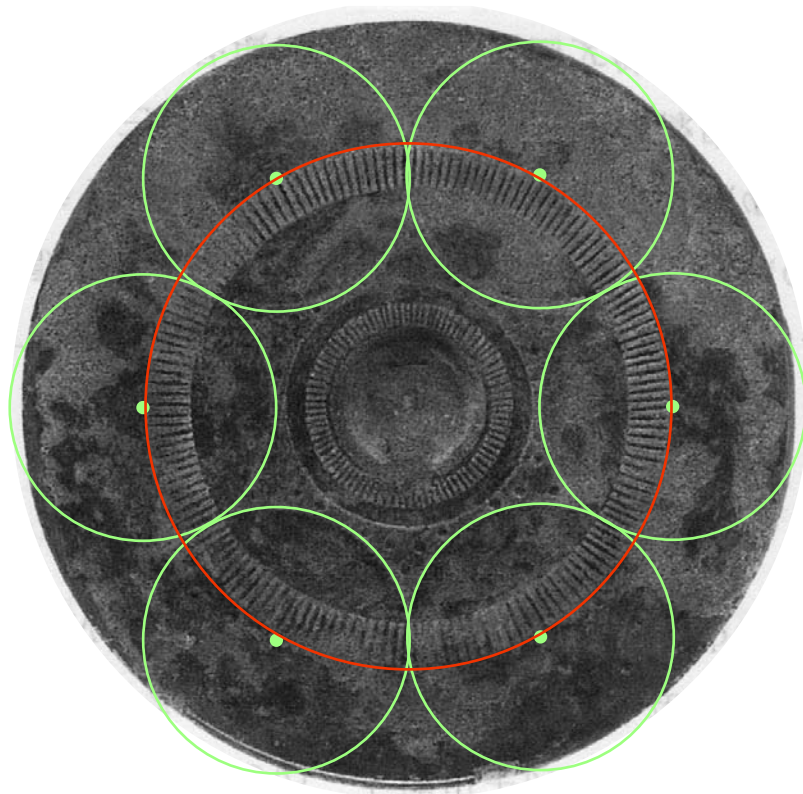


①岡山県妙見山古墳 (D-B・6花文・珠文2式)



②長野県川柳將軍塚古墳 (D-B・6花文・珠文2式)

第114図 花文の検討

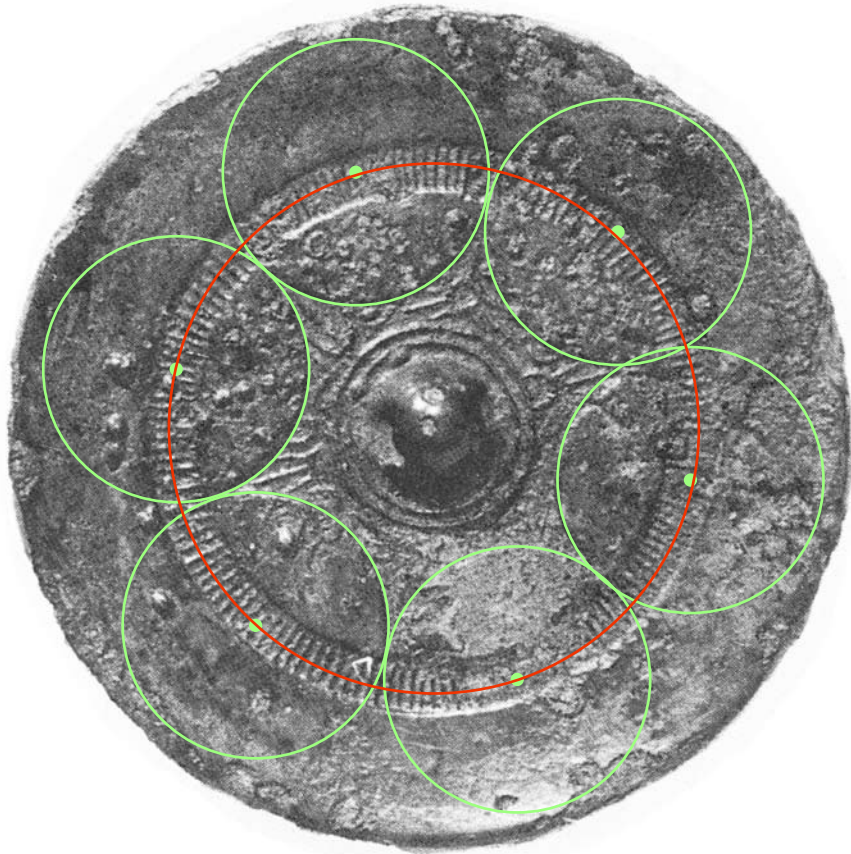


奈良県新沢 213 号墳 (D-B・6 花文・珠文 3 式)

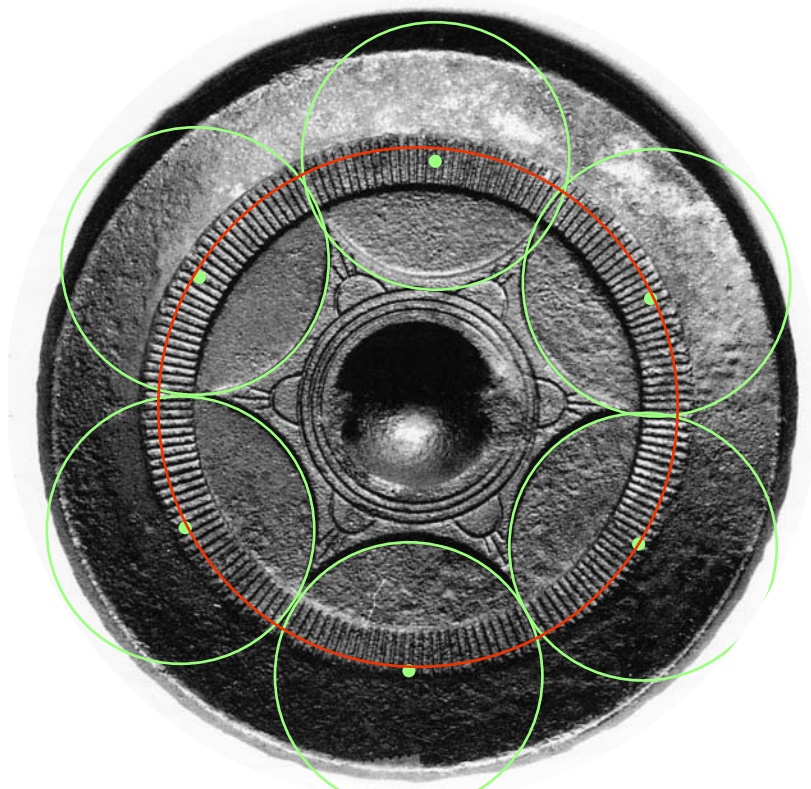


静岡県五鬼免古墳群 1 号墳 (D-B・6 花文・珠文 3 式)

第 115 図 花文の検討

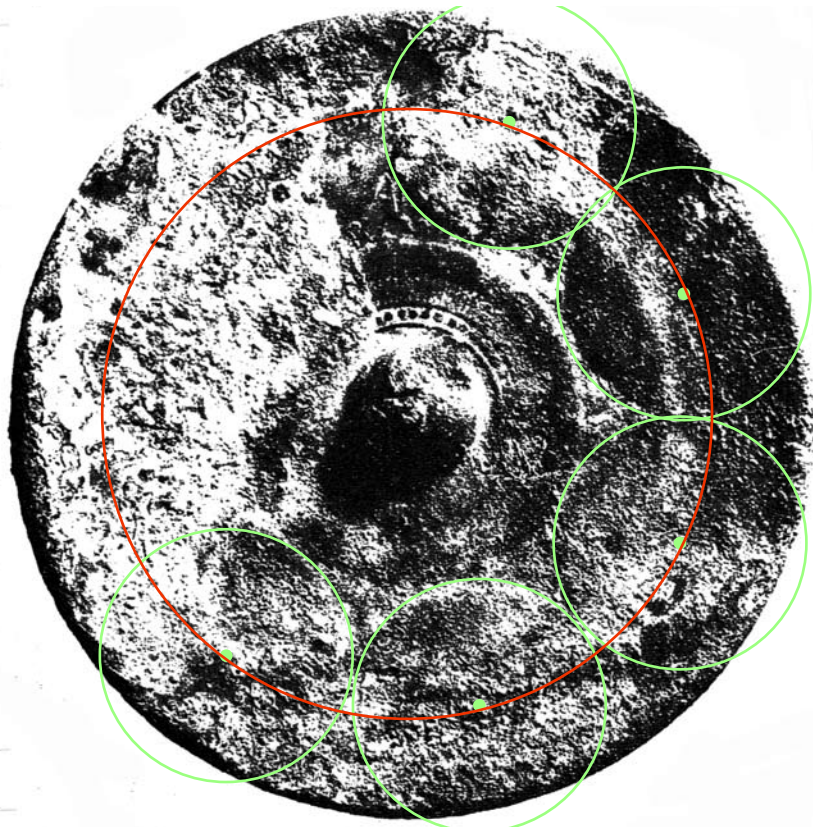


①兵庫県安倉高塚古墳 (D-B・6花文・半弧文2式)

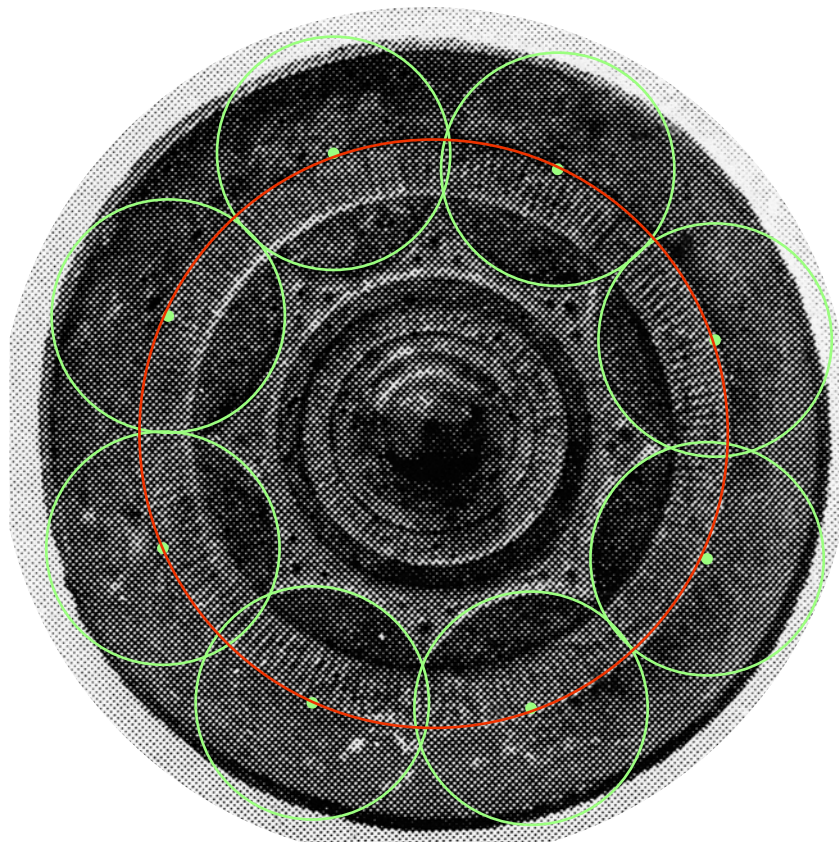


②岡山県奥の前1号墳D-B・6花文・半弧文1式)

第116図 花文の検討

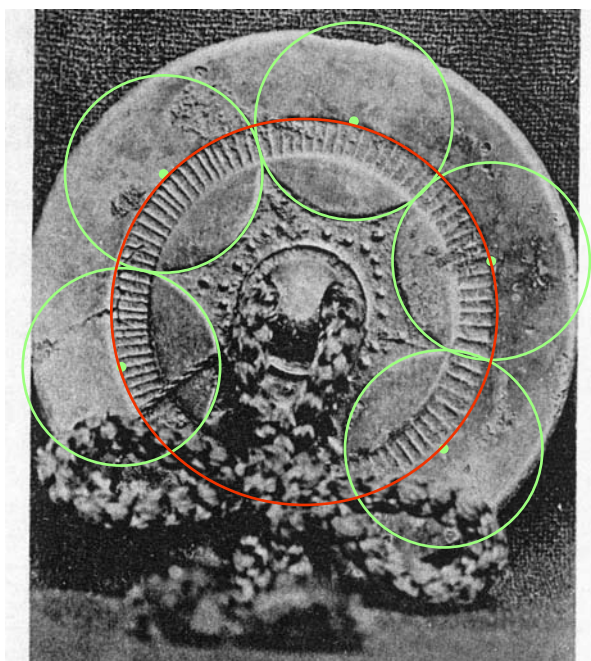


①群馬県観音塚古墳 (D-B・7花文・半弧文1式)



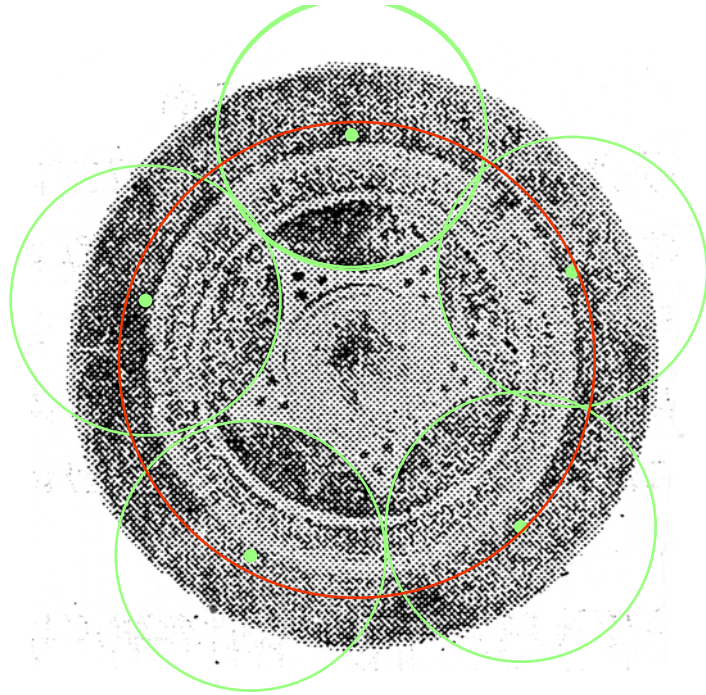
②群馬県柴崎蟹沢古墳 (D-B・8花文・珠文2式)

第117図 花文の検討

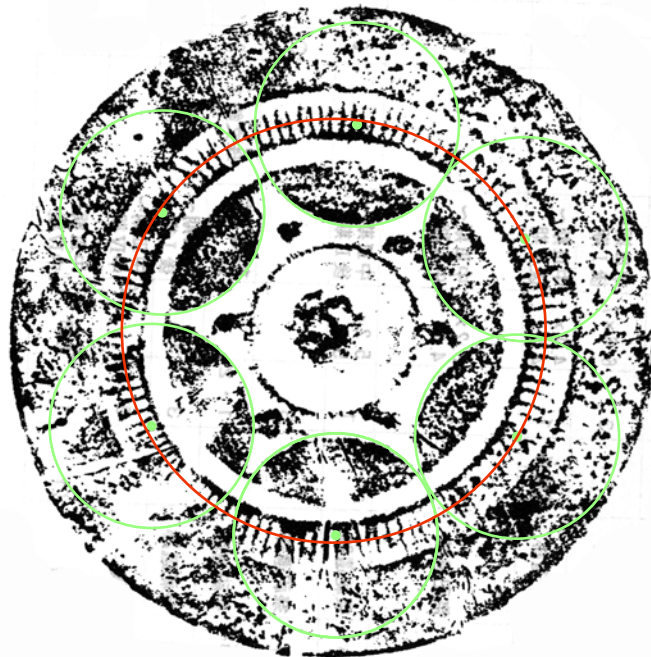


①長野県川柳將軍塚古墳 (D-B・6花文・珠文3式)

第118図 花文の検討

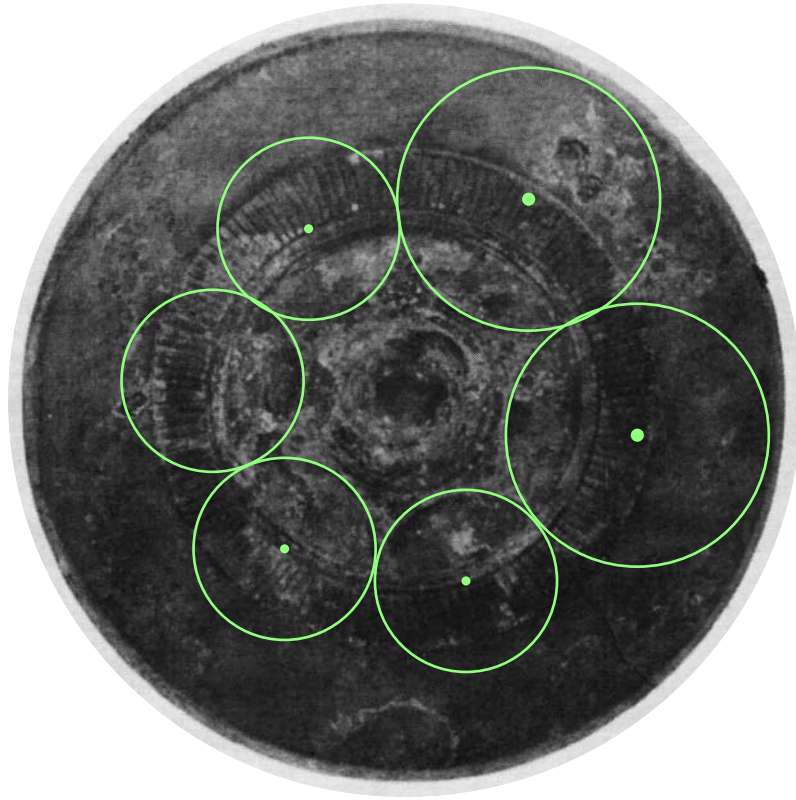


①広島県畑原開山9号墳D-BD・5花文・珠文2式)

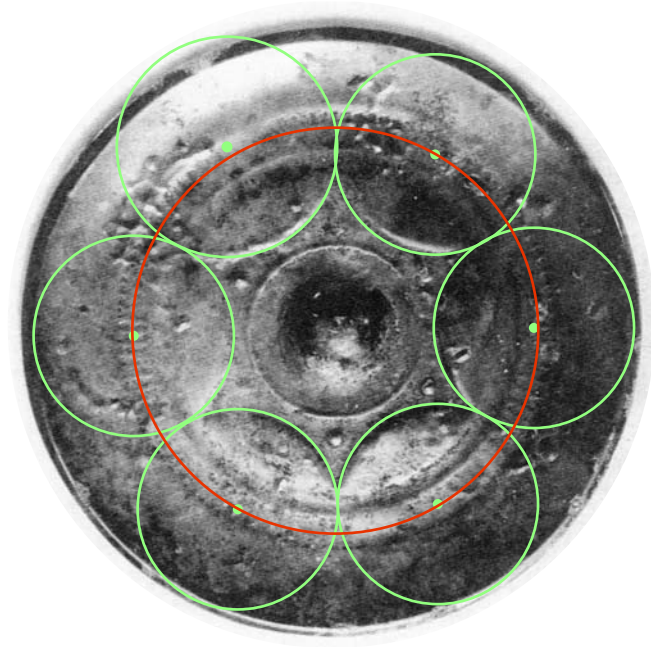


②愛媛県長作森古墳 (D-BD・6花文・珠文1式)

第 119 図 花文の検討

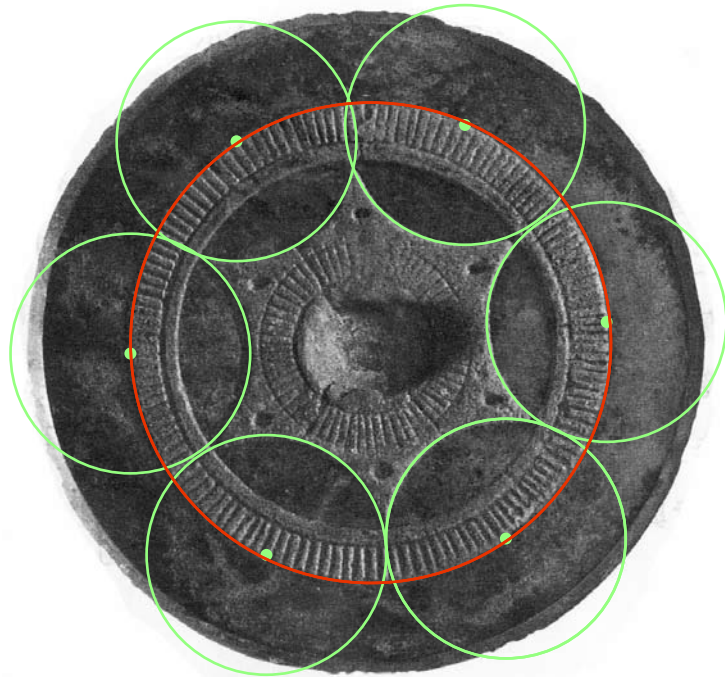


①千葉県新皇塚古墳(D-BD類・6花文・珠文1式)

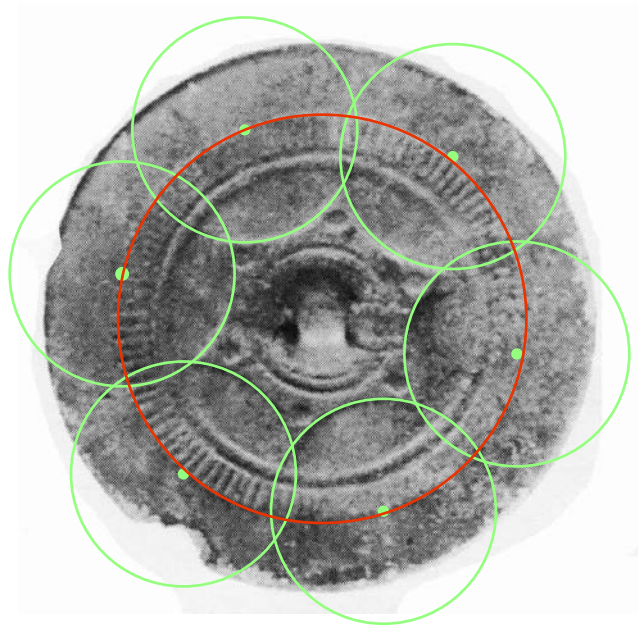


②群馬県赤堀茶白山古墳(D-BD類・6花文・珠文1式)

第120図 花文の検討

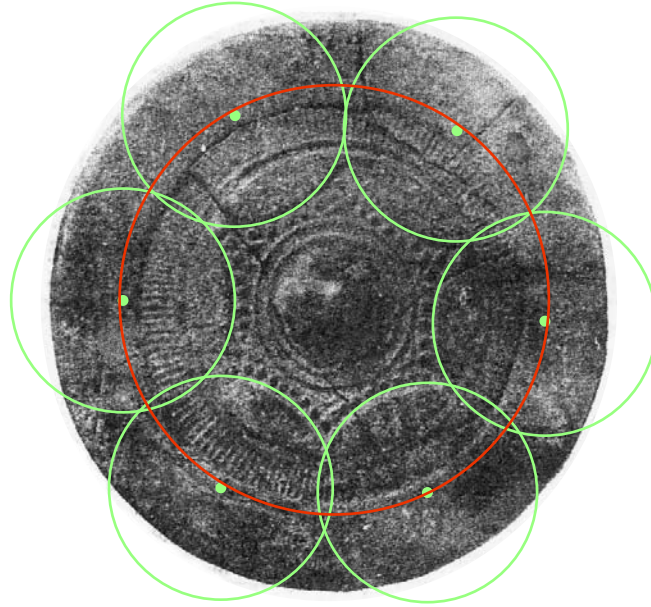


①奈良県谷畑古墳(D-BD類・6花文・珠文1式)

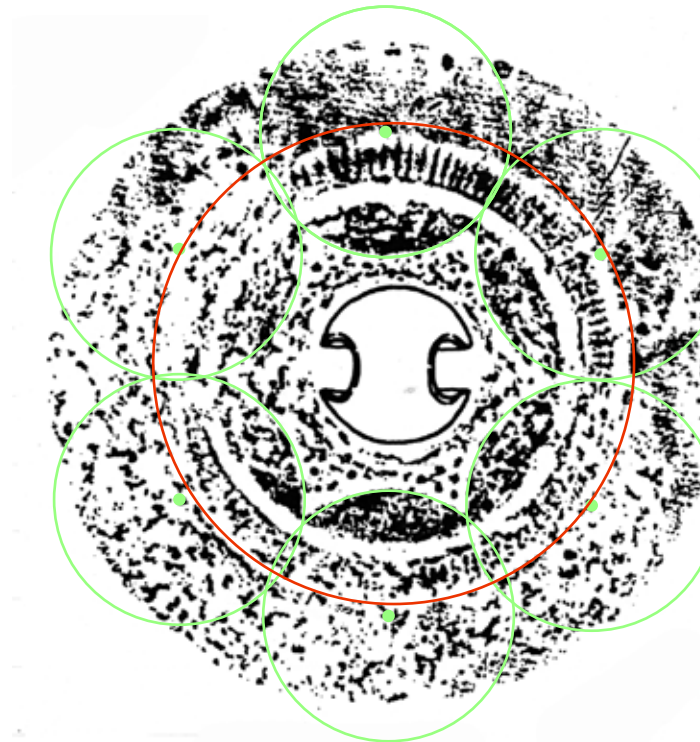


②千葉県御林遺跡(D-BD類・6花文・珠文1式)

第 121 図 花文の検討

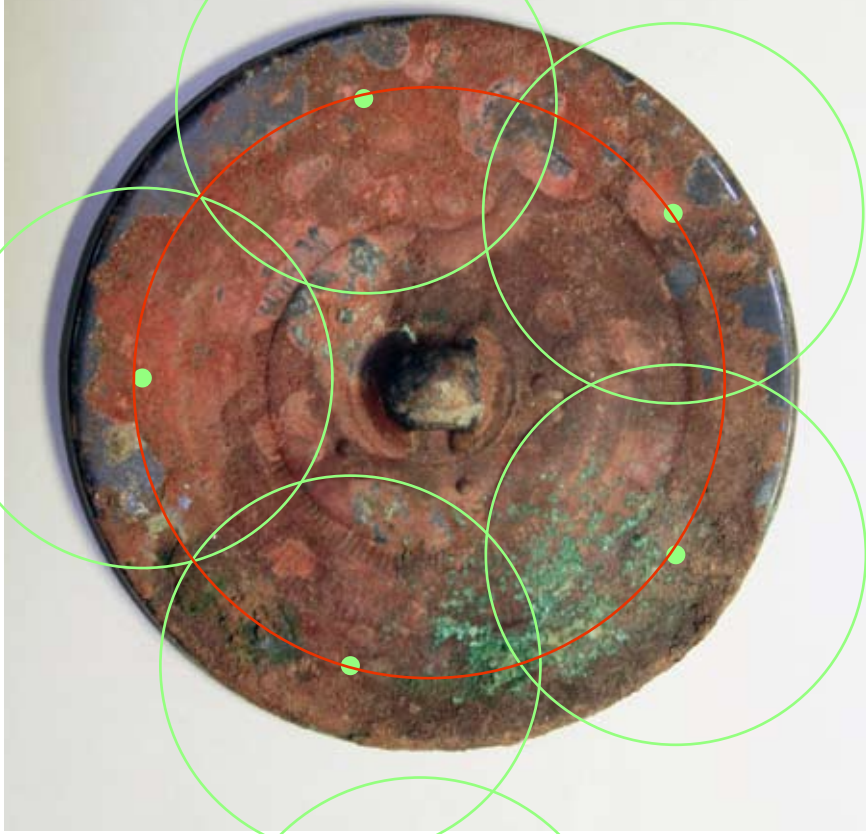


①山口県赤妻古墳(D-BD類・6花文・珠文3式)

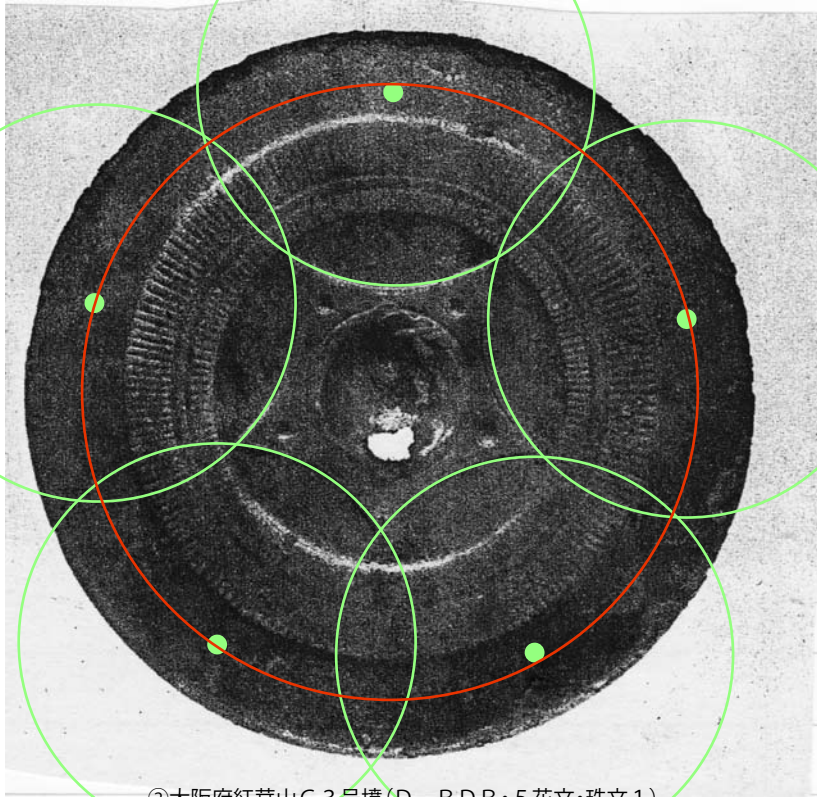


②岡山県殿山9号墳(D-BD類・6花文・珠文3式)

第122図 花文の検討



①熊本県辻古墳(D-BDB・5花文・珠文1)

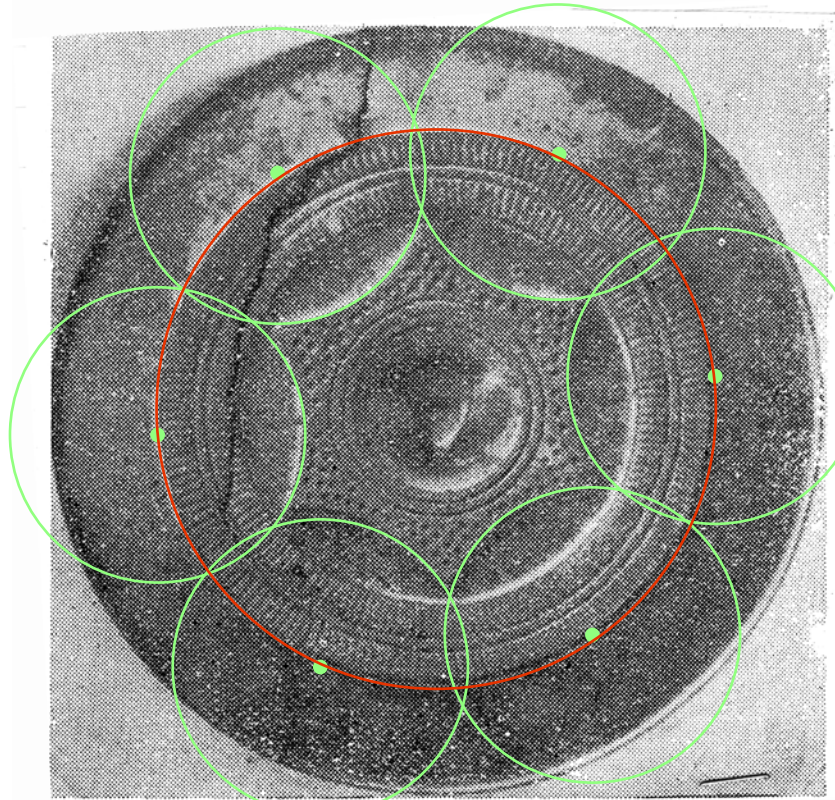


②大阪府紅苺山C3号墳(D-BDB・5花文・珠文1)

第 123 図 花文の検討

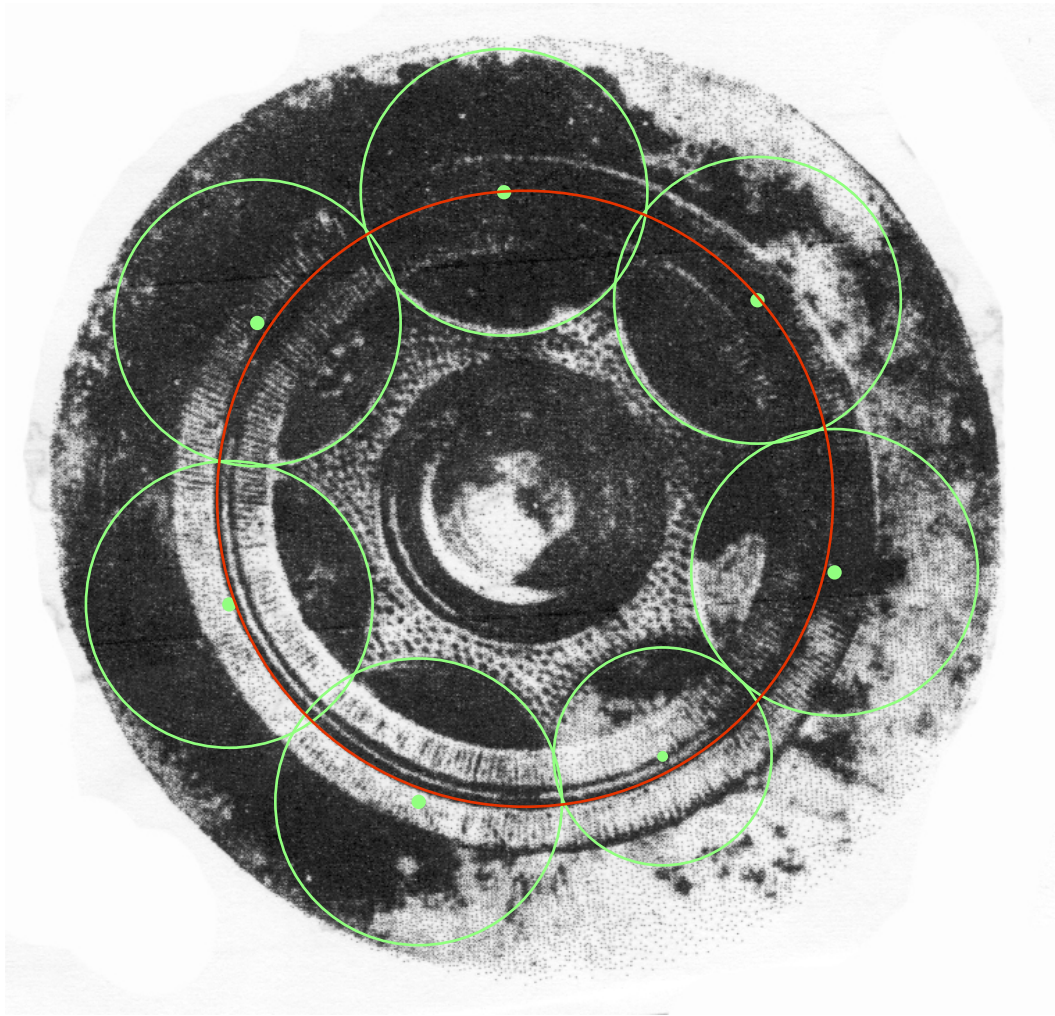


①香川県津頭東古墳(D-BDB・6花文・珠文3式)



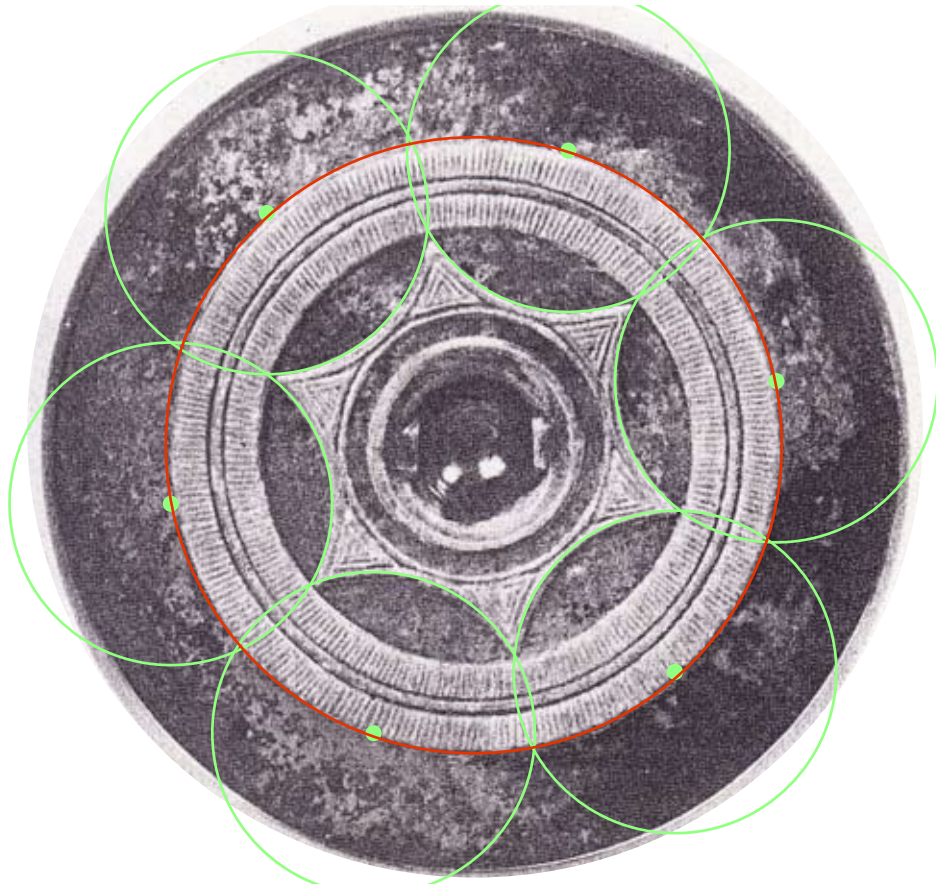
②山梨県鳥居原狐塚古墳(D-BDB・5花文・珠文3式)

第124図 花文の検討

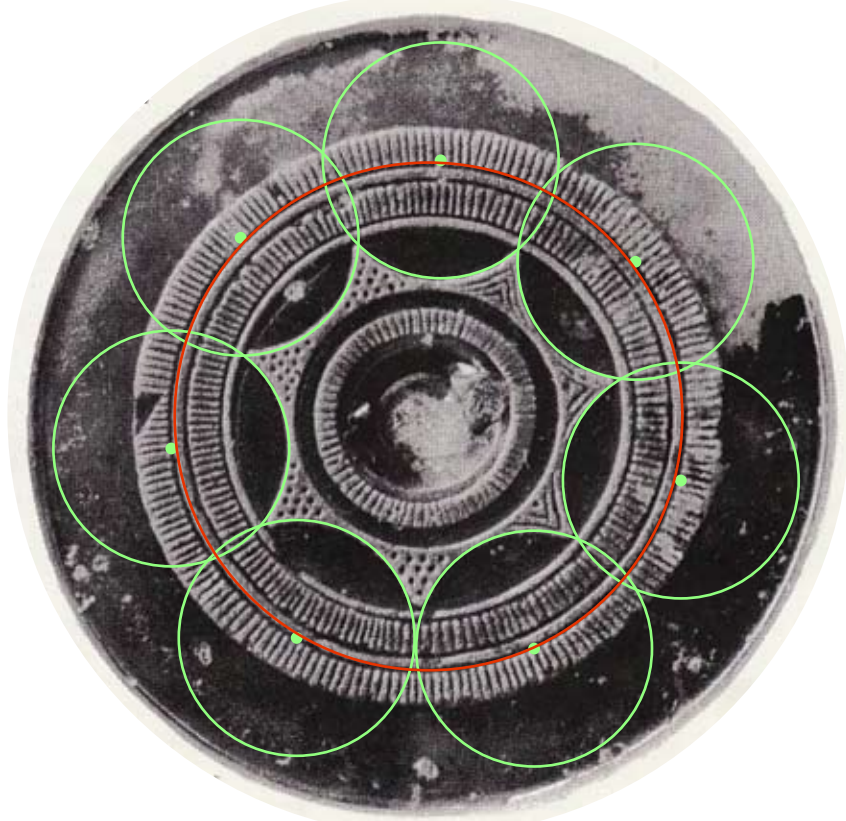


①兵庫県梶尾古墳(D-BDB・6花文・珠文3式)

第 125 図 花文の検討



①香川県ハカリゴロ古墳(D-BDB・6花文・三角文2式)



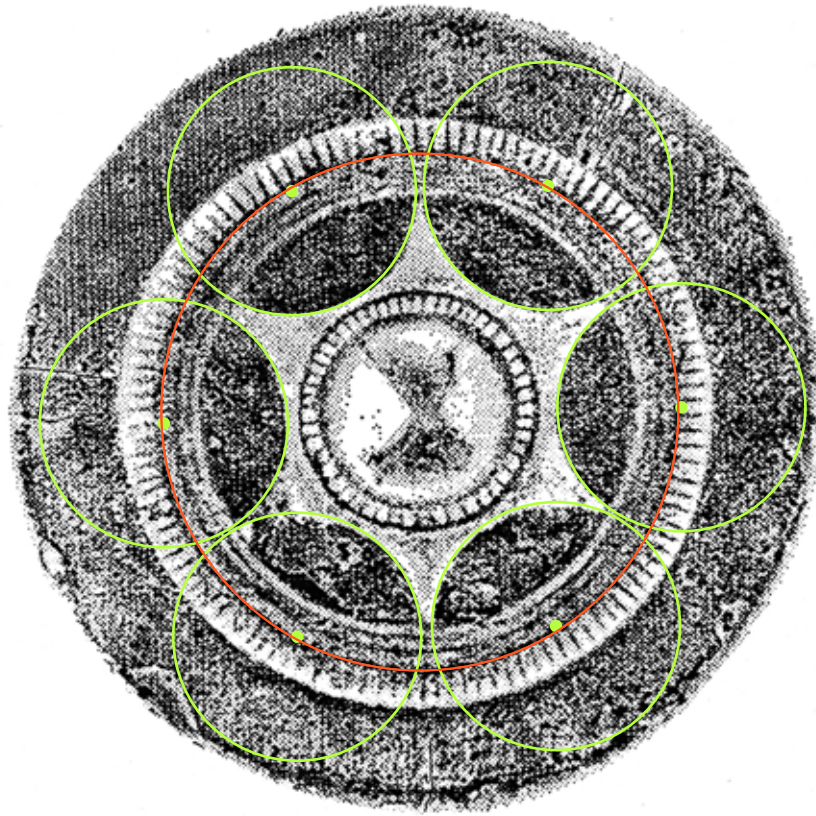
②佐賀県小隈古墳(D-BDB・7花文・珠文3式・山形文5式)

第126図 花文の検討

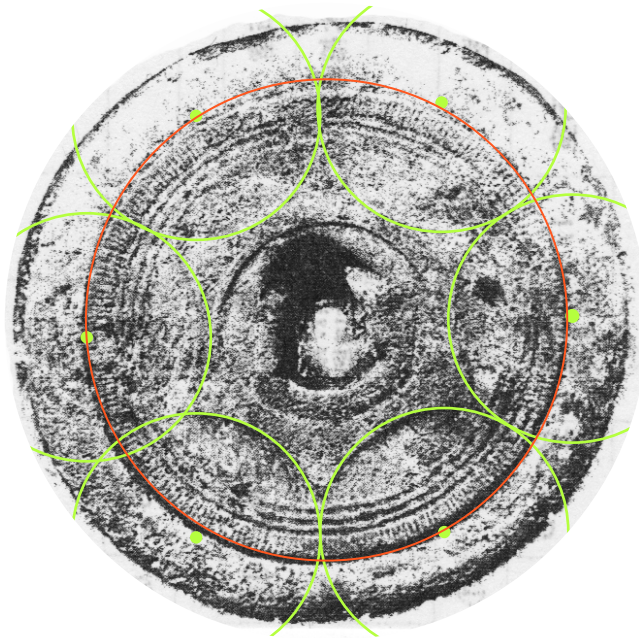


①熊本県門前1号墳 (D-B 2・6花文・珠文1式)

第 127 図 花文の検討

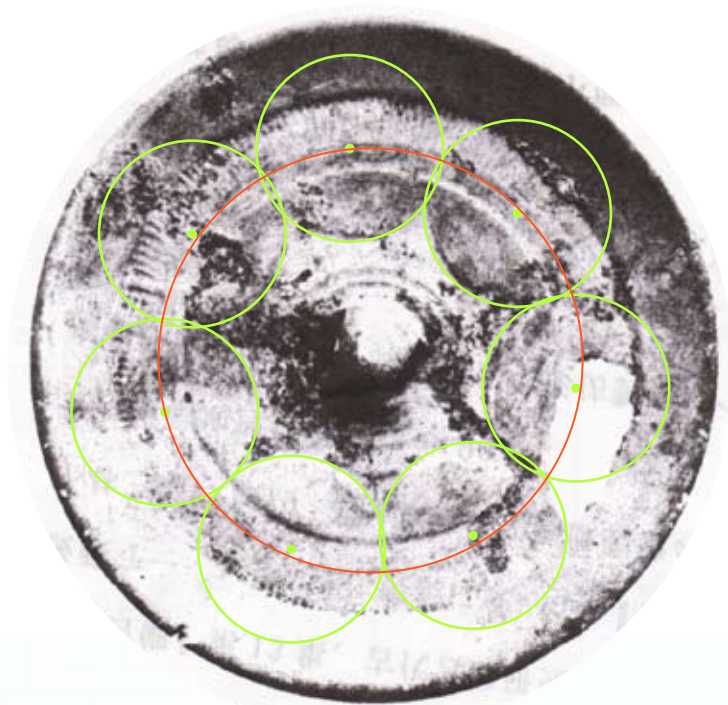


①広島県宮ノ谷8号墳 (D-BK・6花文・無文)



②愛知県甲屋敷古墳 (D-BK・6花文・無文)

第128図 花文の検討

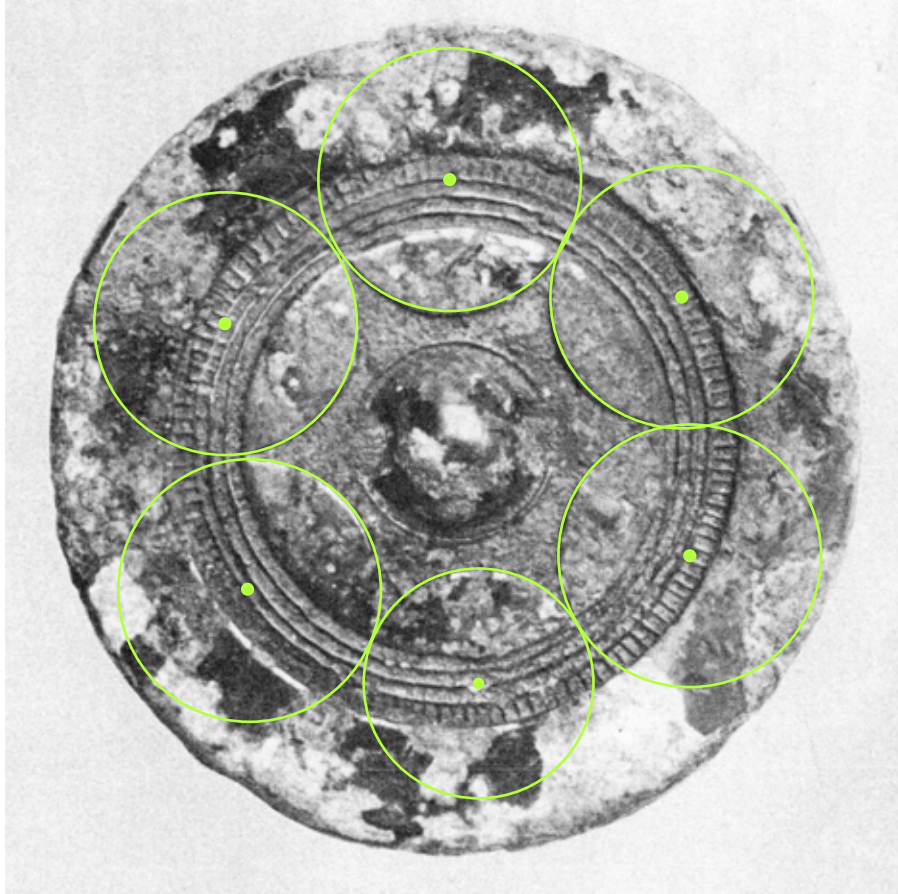


①宮崎県六野原5号墳 (D-BK・7花文・珠文1式)

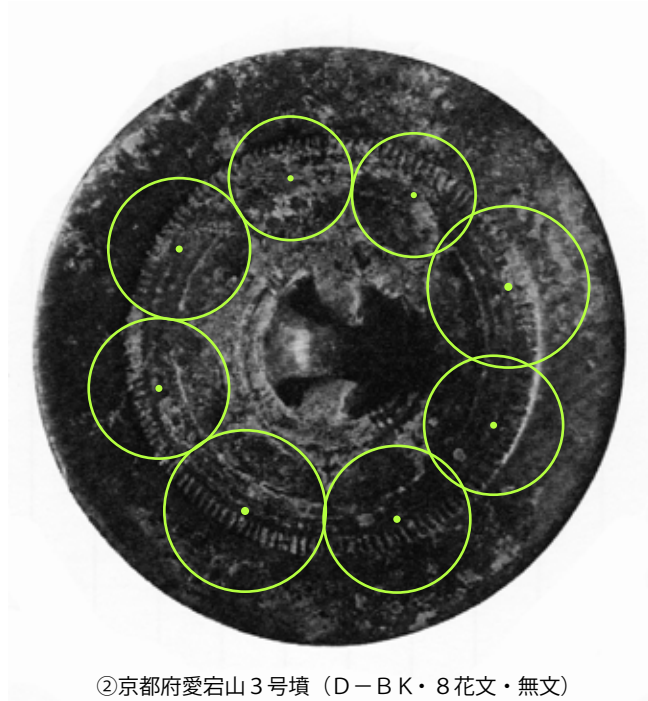


②広島県石鎚権現5号墳 (D-BK・7花文・珠文1式)

第129図 花文の検討

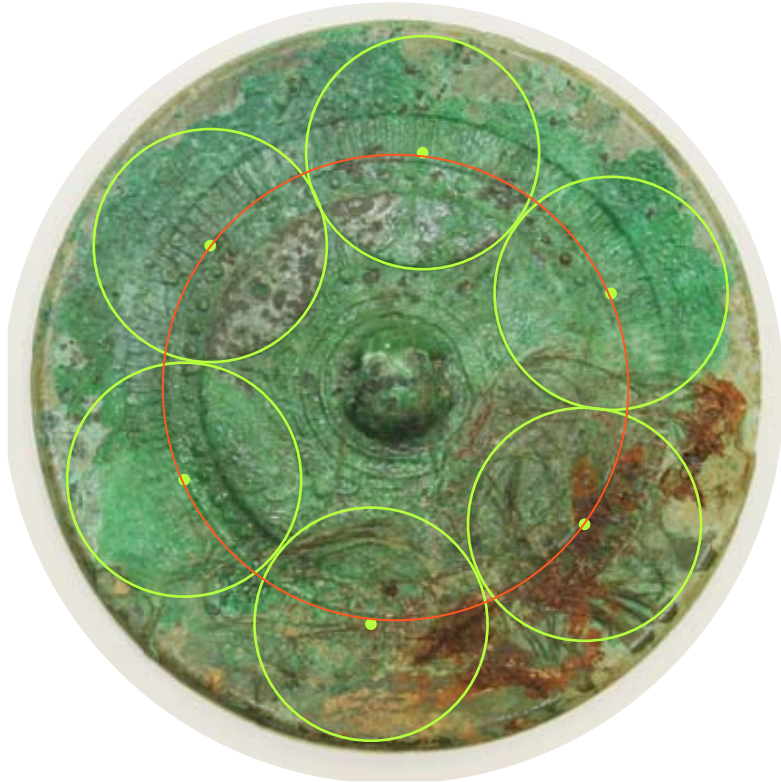


①富山県国分山A号墳 (D-BK・8花文・無文)

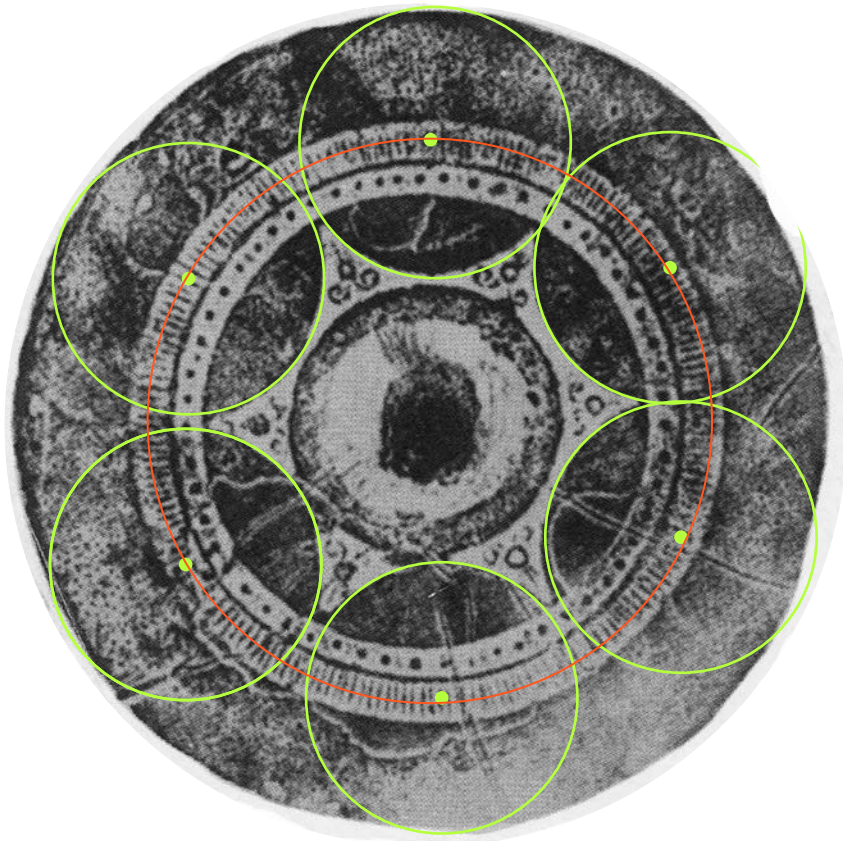


②京都府愛宕山3号墳 (D-BK・8花文・無文)

第130図 花文の検討

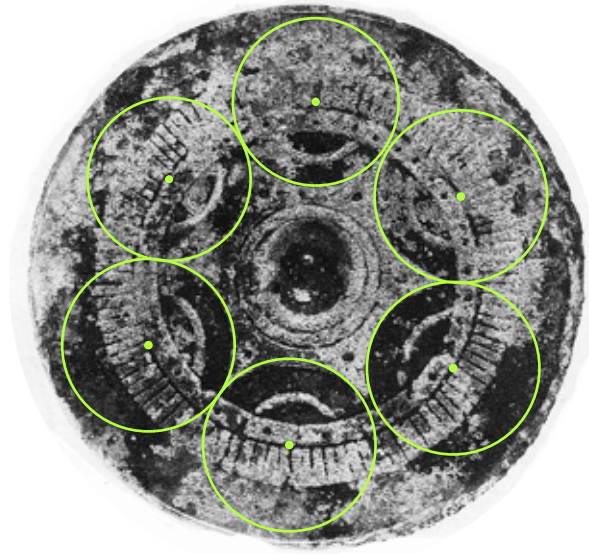


①広島県横路1号墳 (D-B S・6花文・曲線文6式)

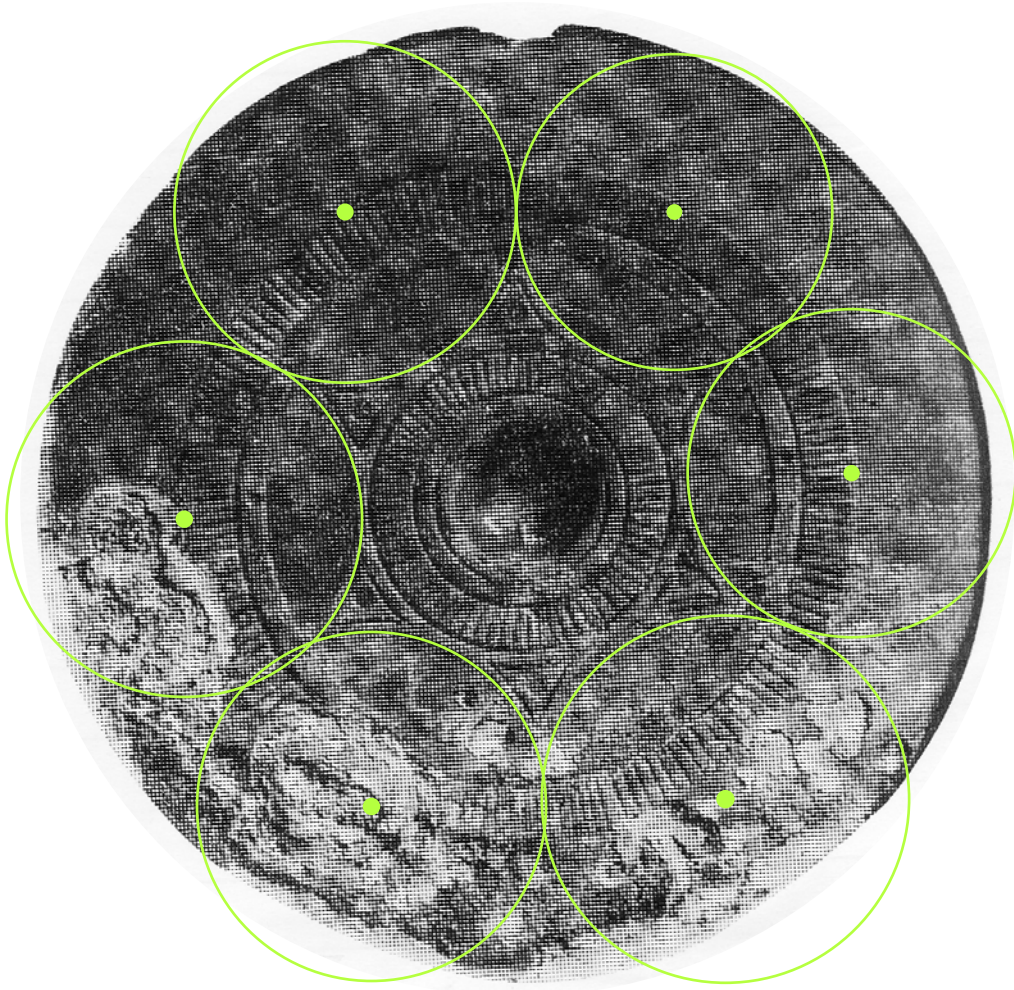


②伝京都府美濃山大塚古墳 (D-B Y S・6花文・曲線文3式)

第 131 図 花文の検討

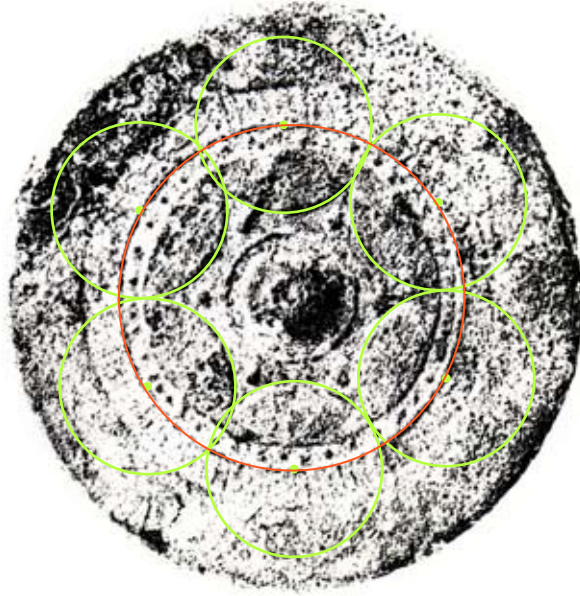


①岡山県竹田9号墳 (D-B S・6花文・線文3式)

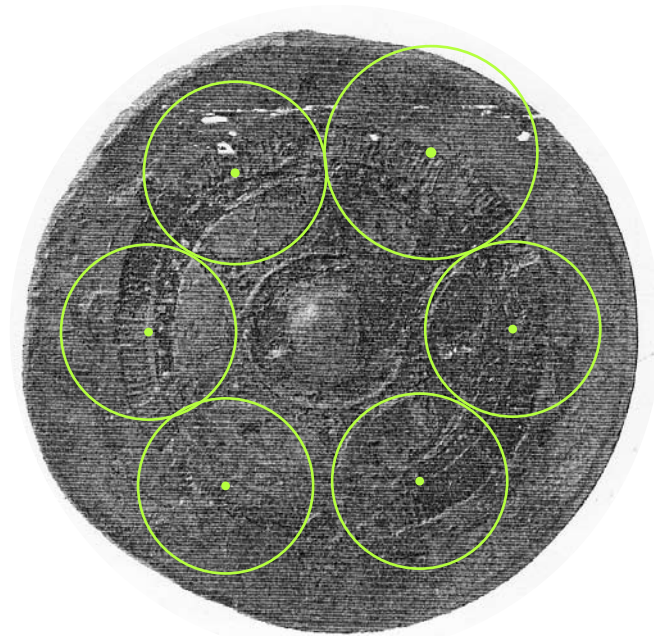


②愛知県白山藪古墳 (D-B S・6花文・三角文3式)

第132図 花文の検討

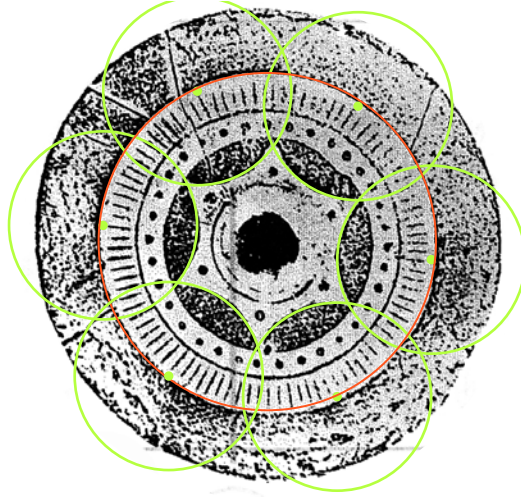


①香川県前の原7号石棺 (D-B S・6花文・珠文1式)

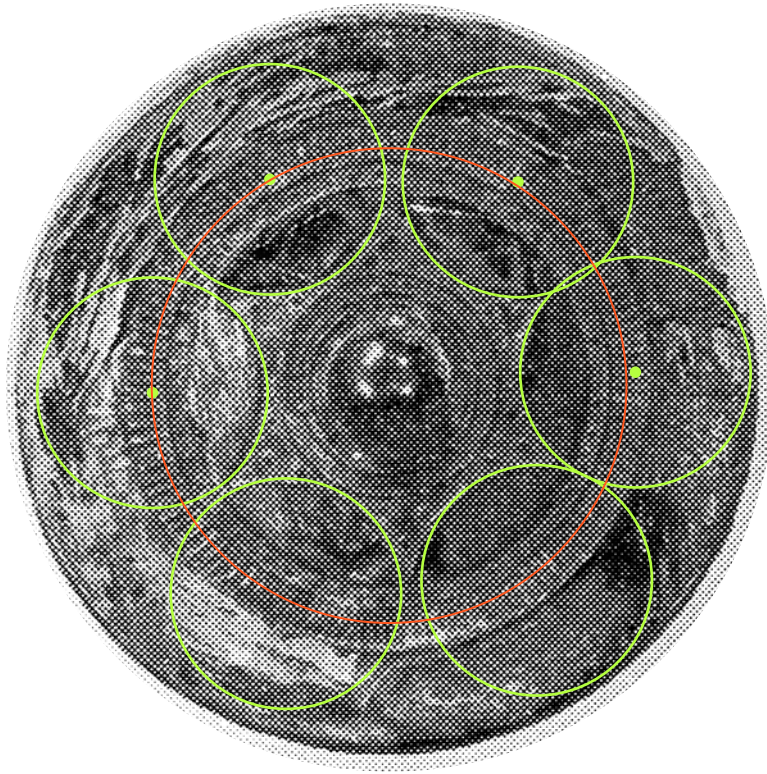


②鳥取県本高14号墳 (D-B S・6花文・珠文1式)

第133図 花文の検討

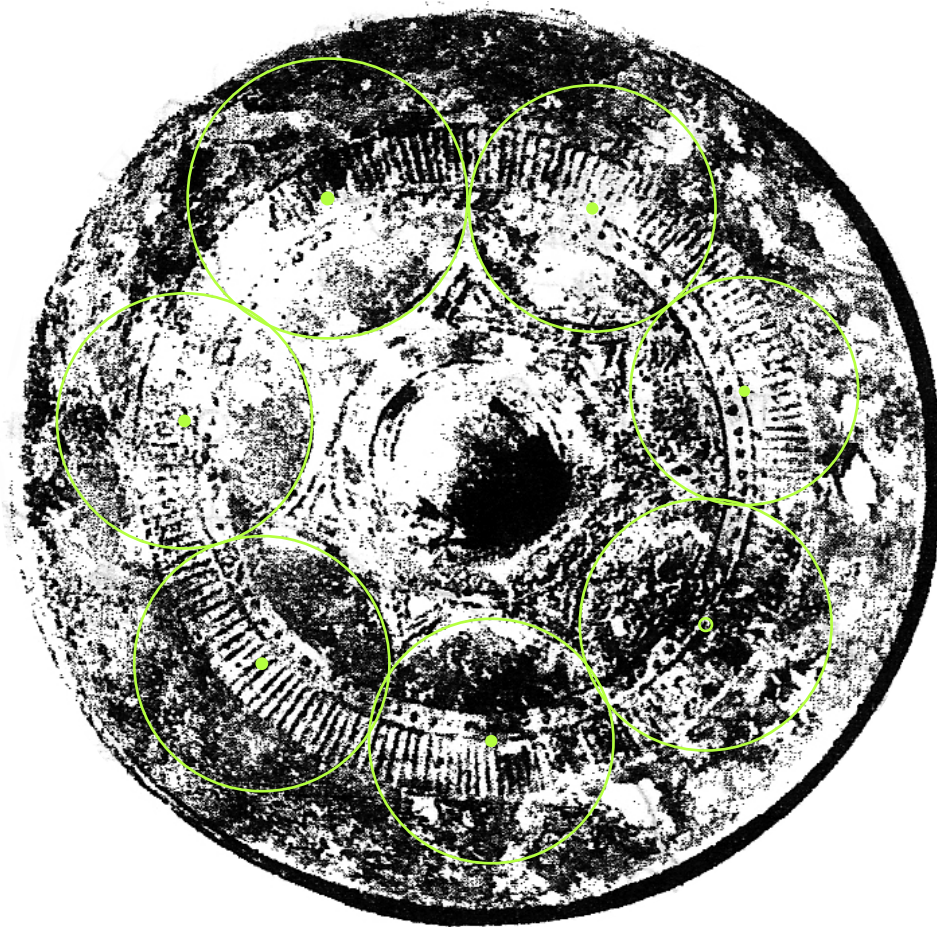


①大阪府御旅山古墳 (D-B S・6花文・珠文1式)



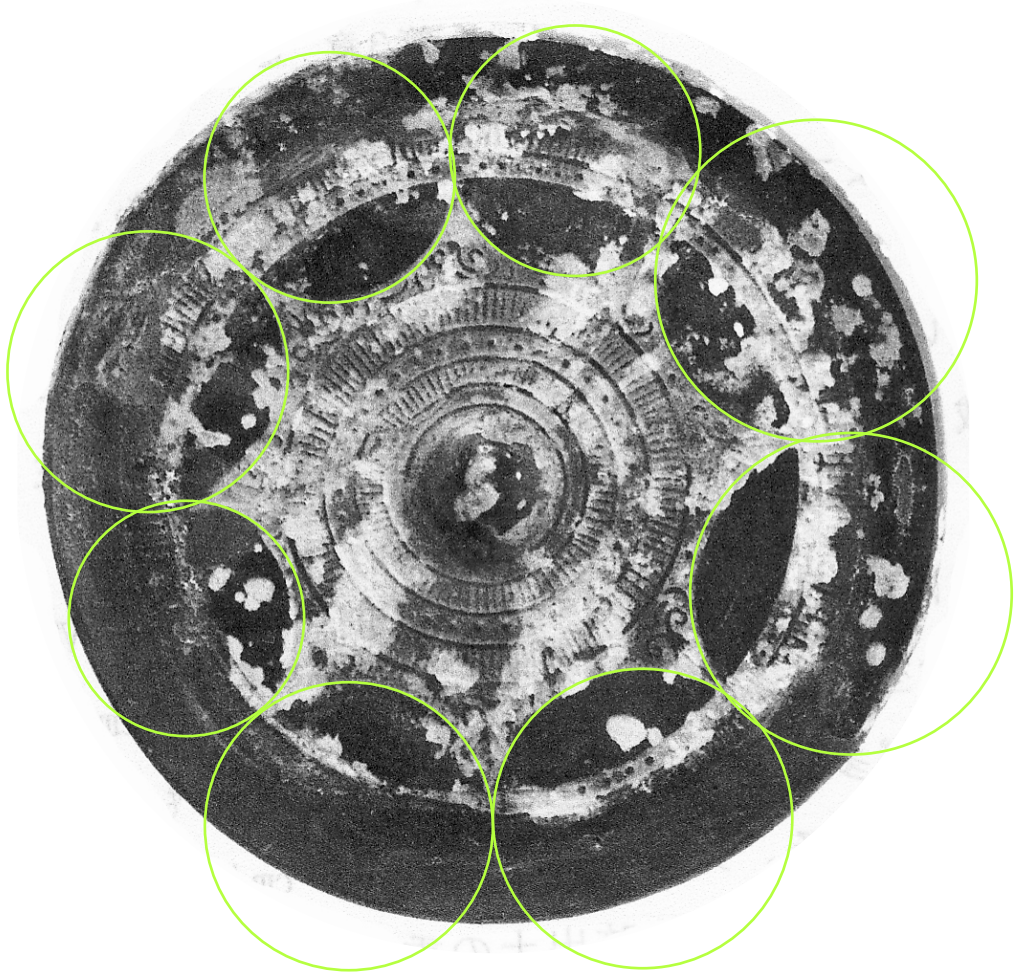
②群馬県柴崎蟹沢古墳 (D-B S・6花文・珠文2式)

第134図 花文の検討



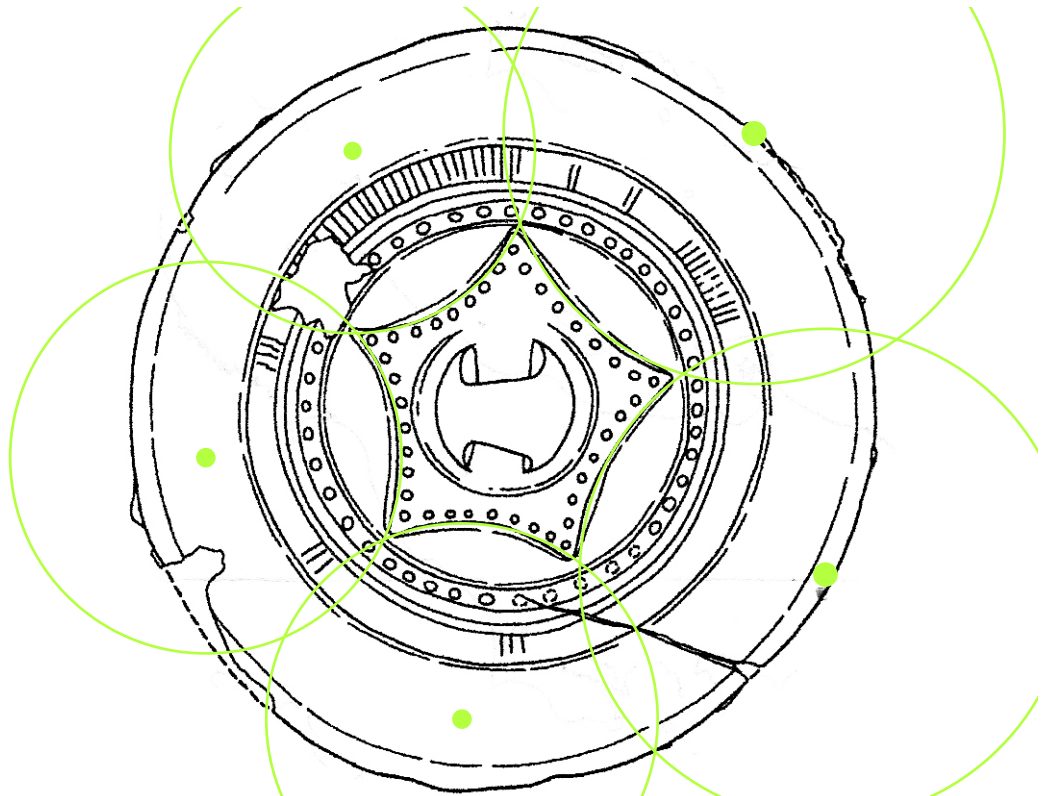
①鳥取県馬山（橋津）4号墳（D-B S・7花文・山形文2式）

第 135 図 花文の検討

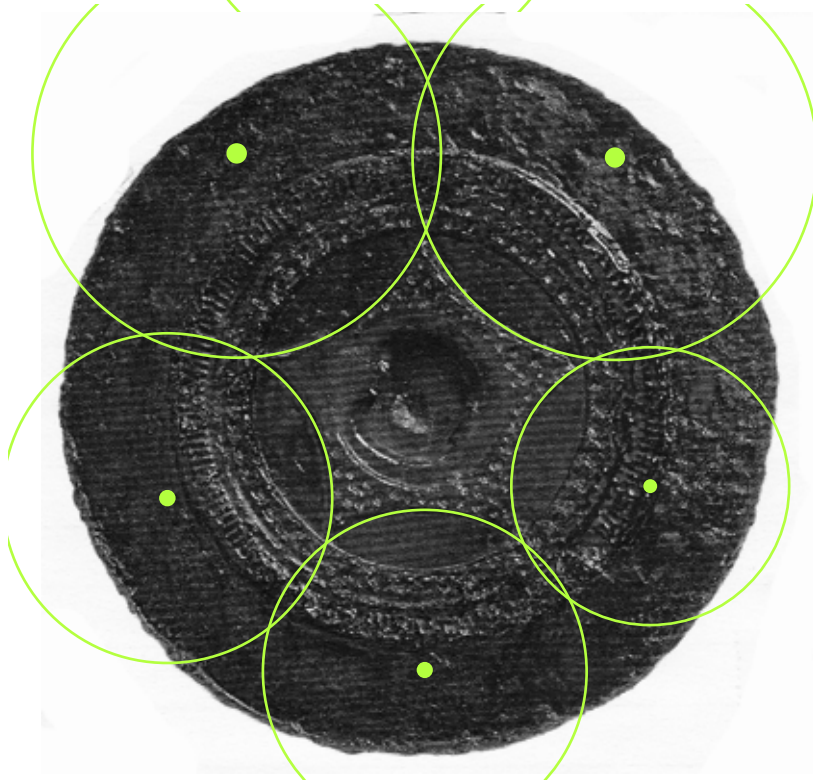


①奈良県衛門戸丸塚古墳 (D-B S・8花文・曲線文3式)

第 136 図 花文の検討

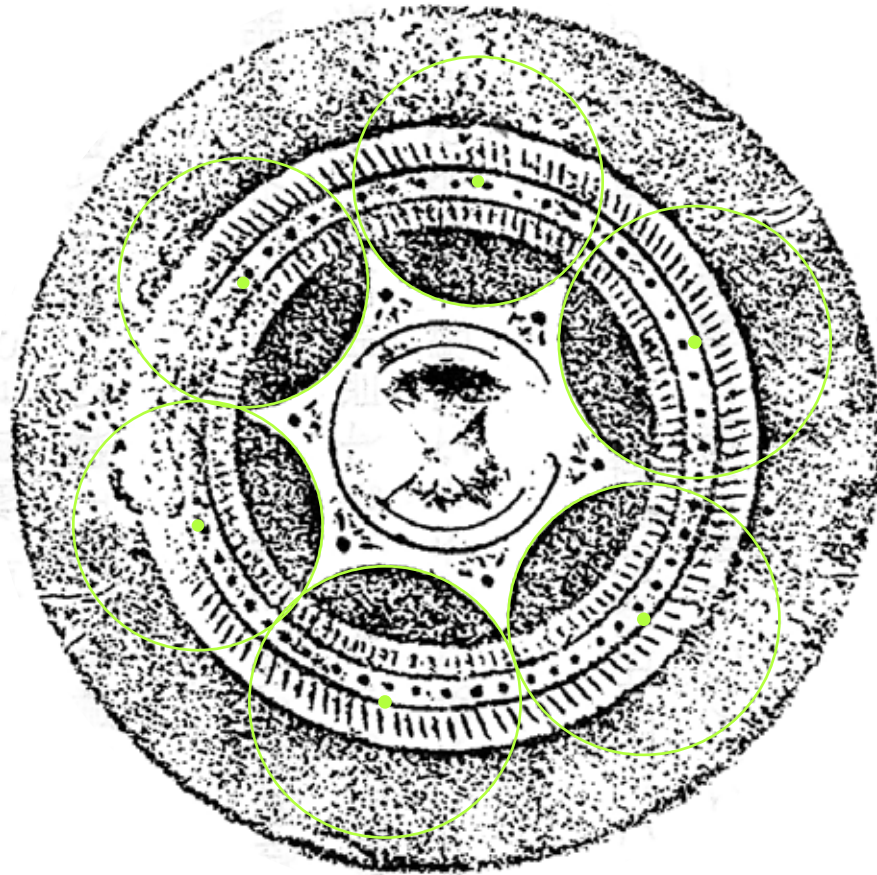


①島根県石田古墳 (D-B S垂・5花文・珠文3式)

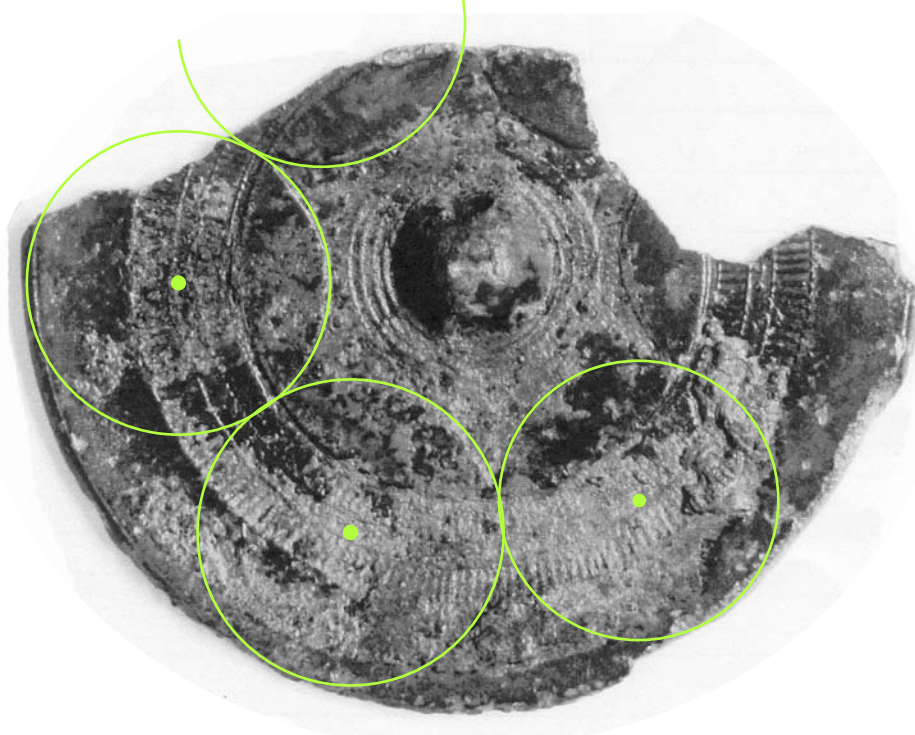


②兵庫県深谷1号墳 (D-B S垂・5花文・珠文3式)

第 137 図 花文の検討

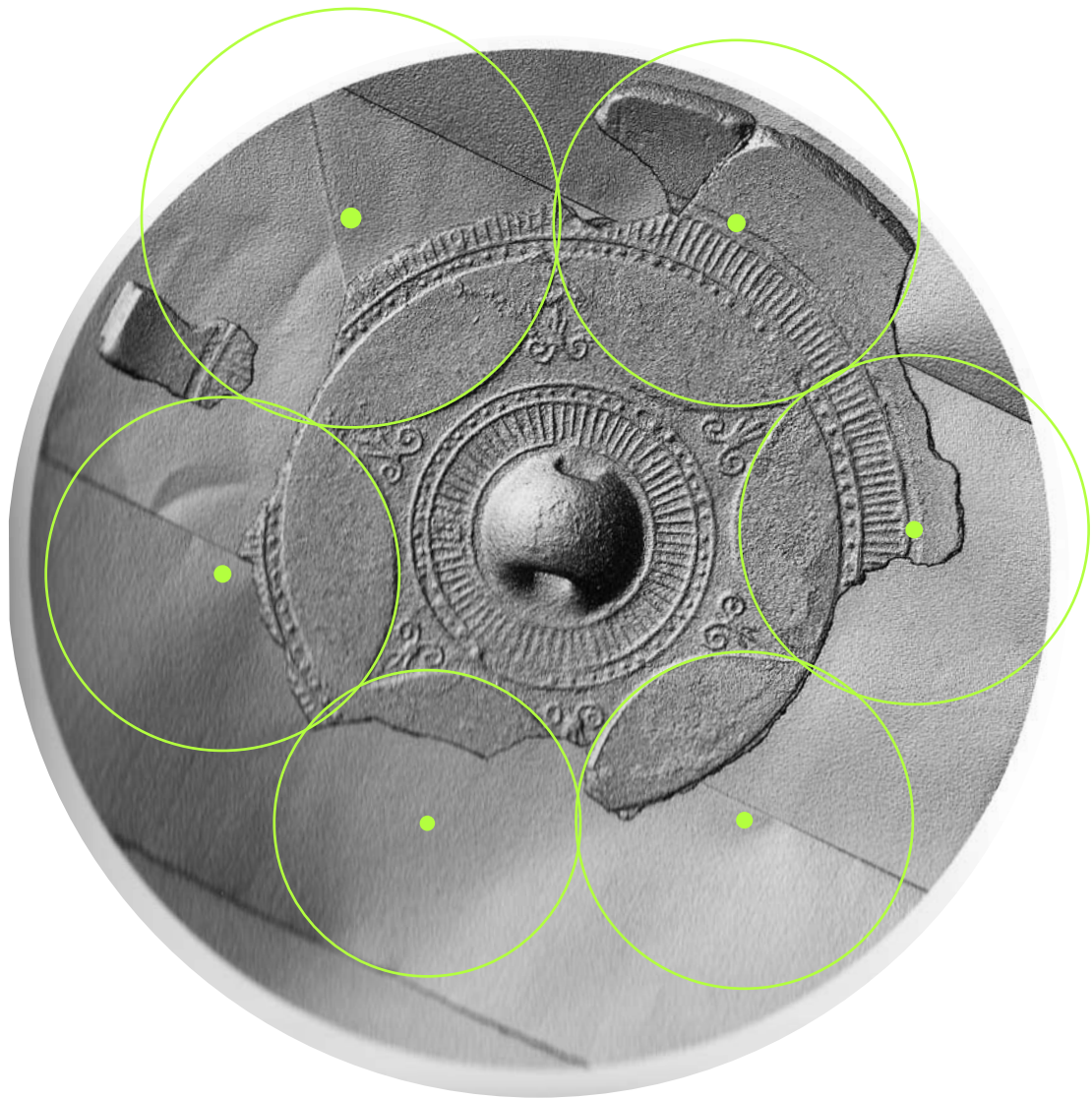


①島根県釜代1号墳 (D-B S垂・6花文・変形文12式)



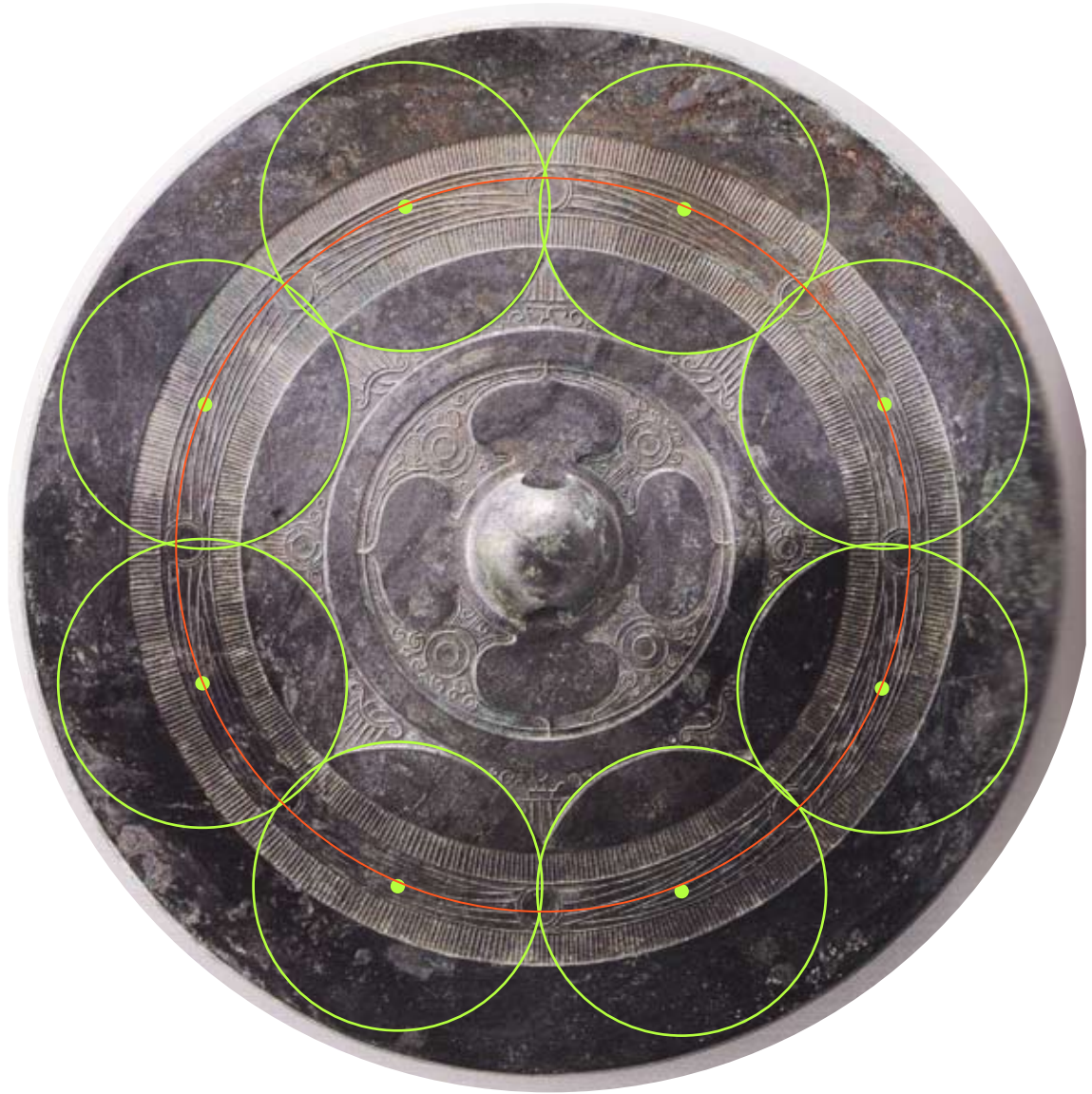
②山口県松崎古墳 (D-B S垂・6花文・珠文3式)

第138図 花文の検討



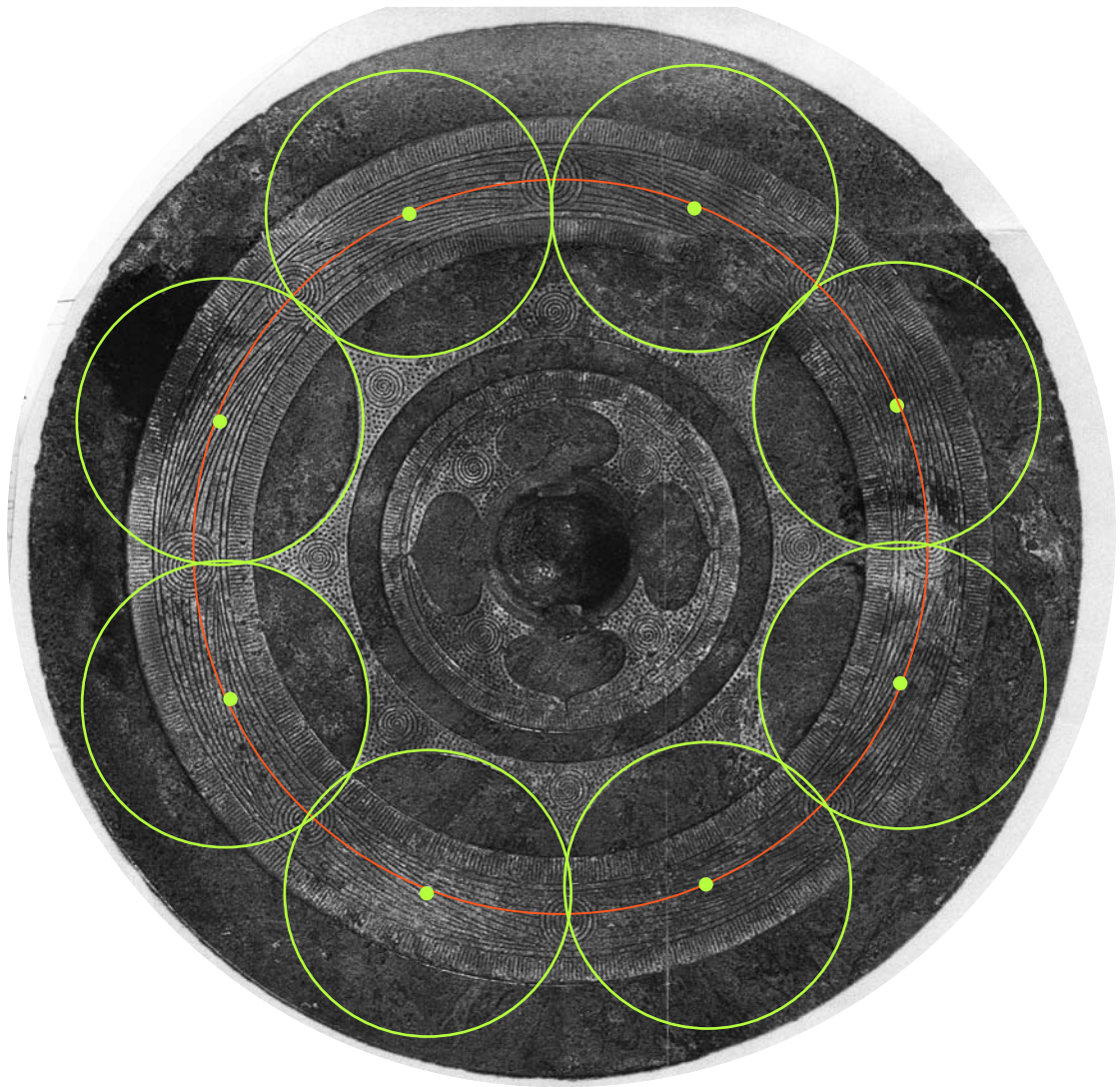
①京都府興戸2号墳 (D-B S垂・6花文・曲線文3式)

第 139 図 花文の検討



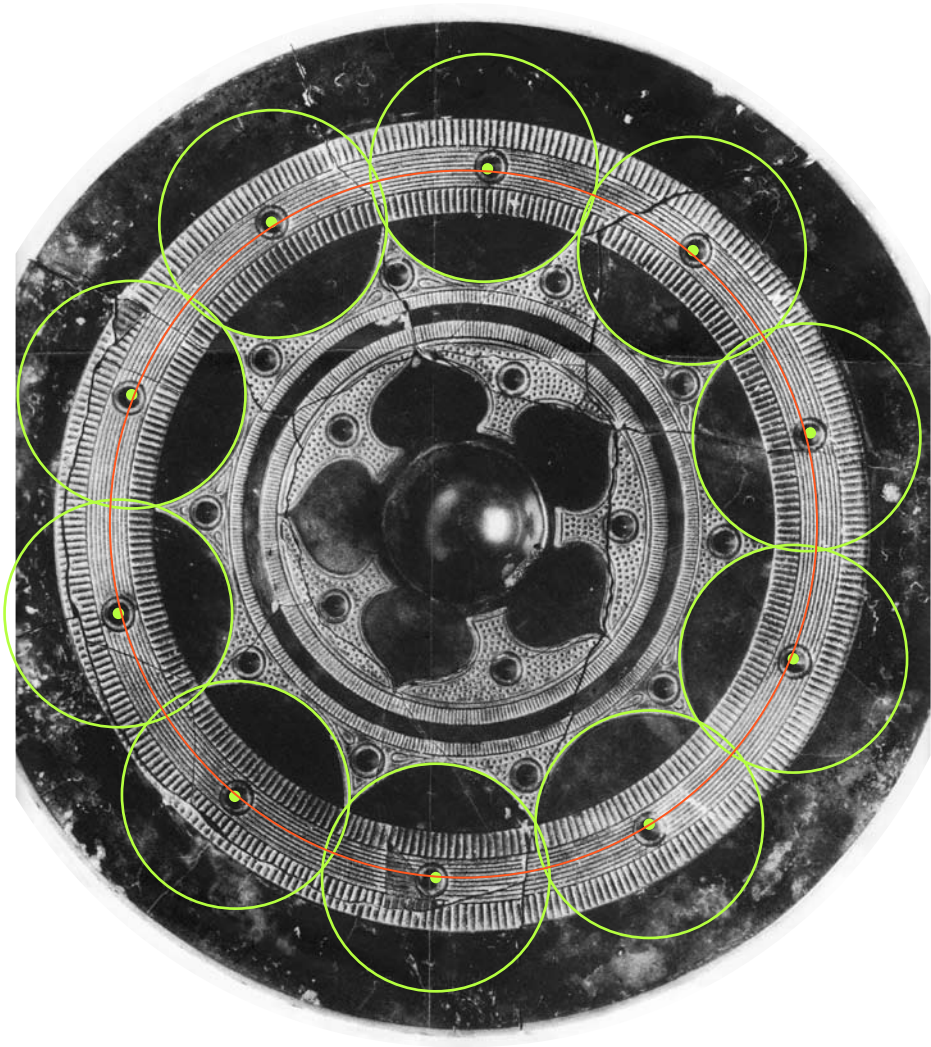
①奈良県下池山古墳 (D-BYB・8花文)

第 140 図 花文の検討



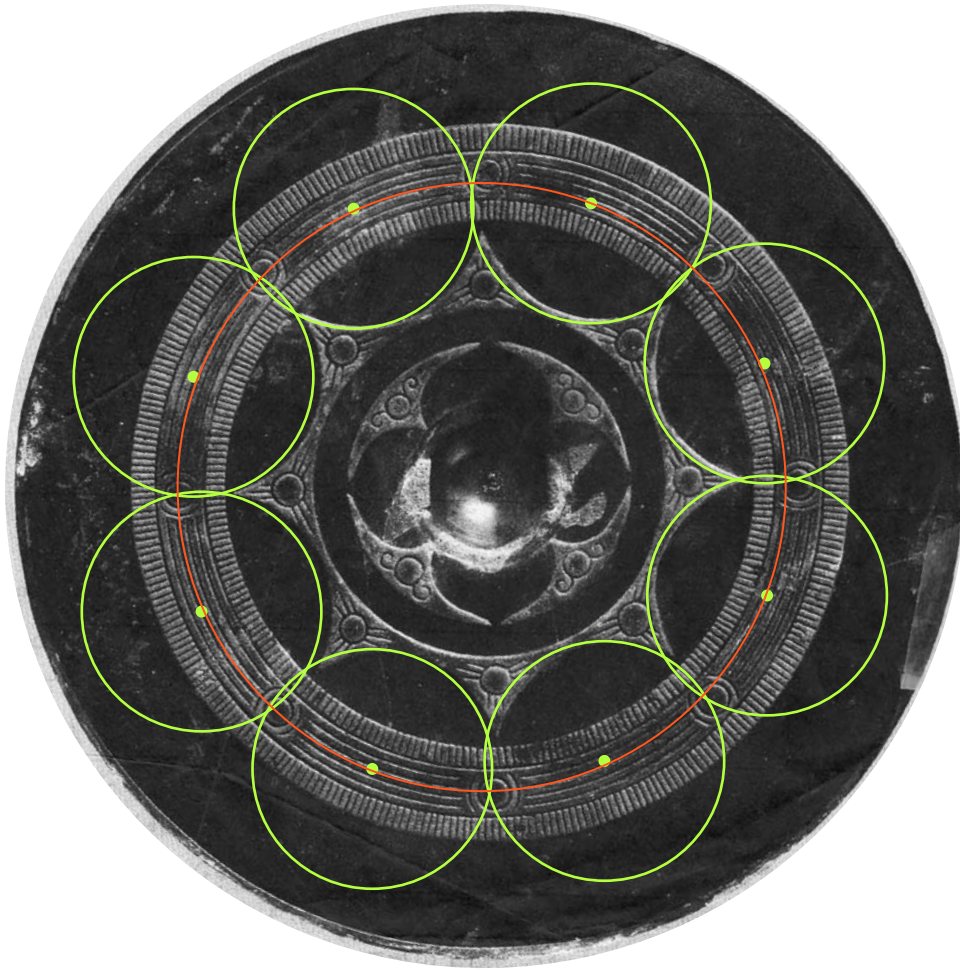
①奈良県柳本大塚古墳 (D-BYB・8花文・珠文6式)

第 141 図 花文の検討



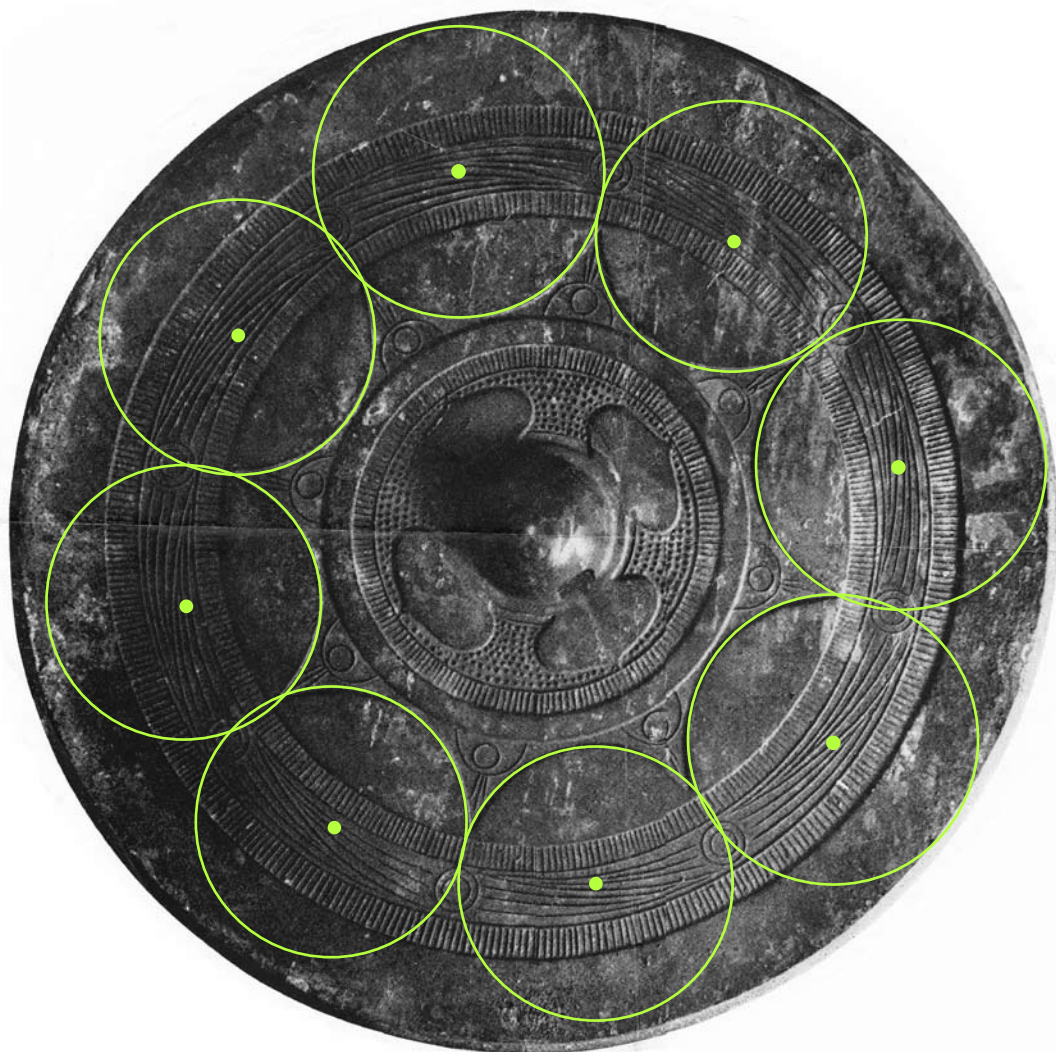
①滋賀県雪野山古墳 (D-BYB・9花文・珠文8式)

第142図 花文の検討



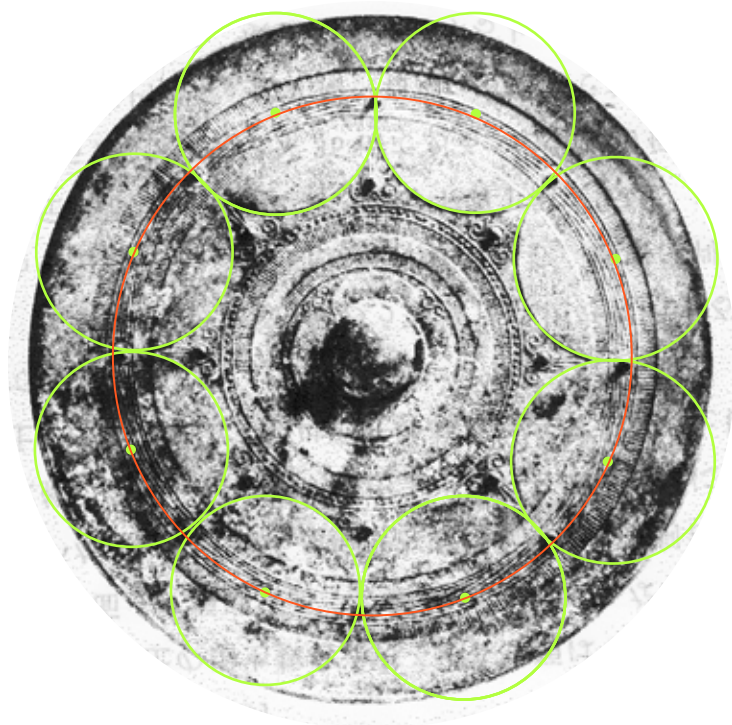
①奈良県新沢 500 号墳 (D-BYB・8花文・線文6式)

第 143 図 花文の検討

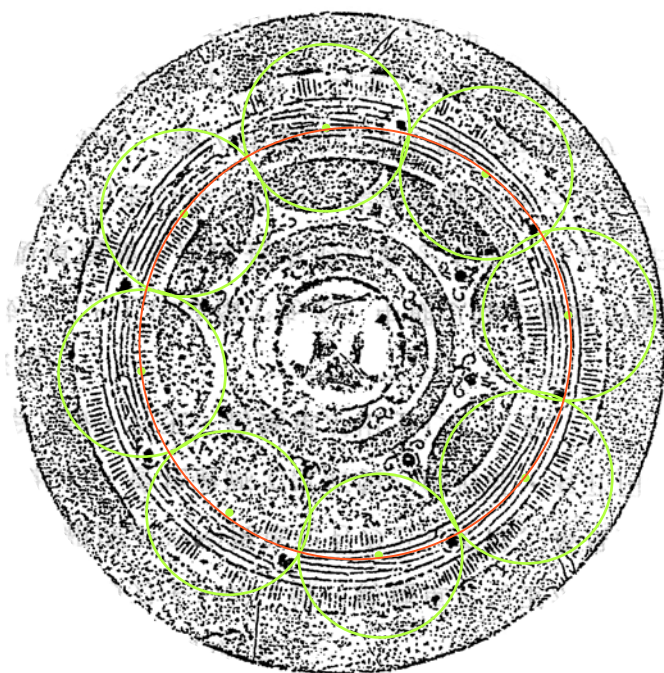


①静岡県松林山古墳 (D-BYB・8花文・半弧文3式)

第144図 花文の検討

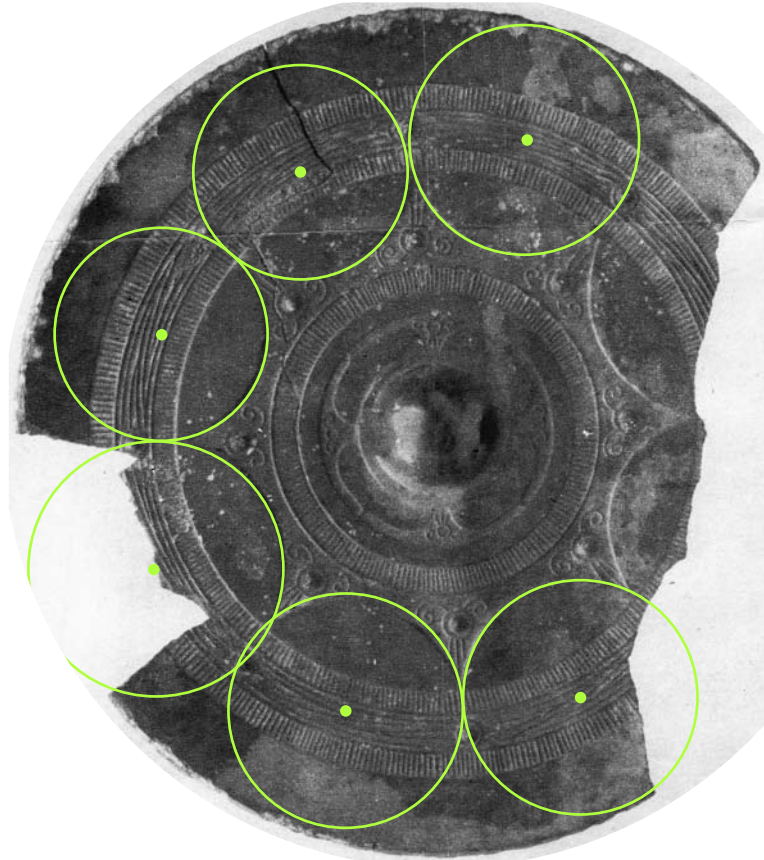


①福岡県沖ノ島 17 号遺跡 (D-BYB・8 花文・曲線文 8 式)

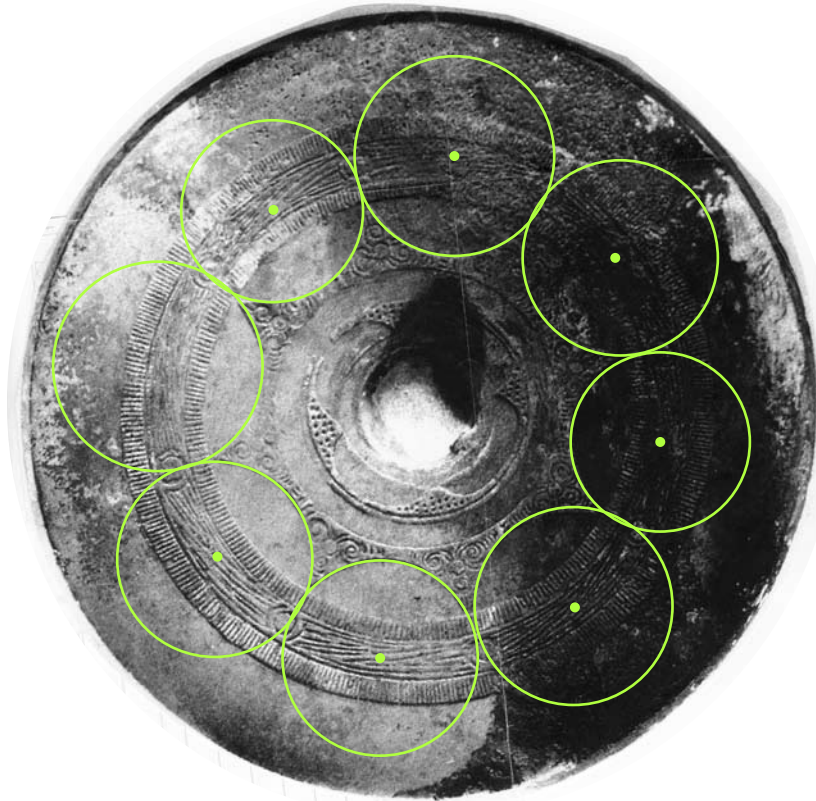


②島根県奥才 14 号墳 (D-BYB・8 花文・曲線文 8 式)

第 145 図 花文の検討



①大阪府慈願寺古墳 (D-BYB・8花文・曲線文8式)

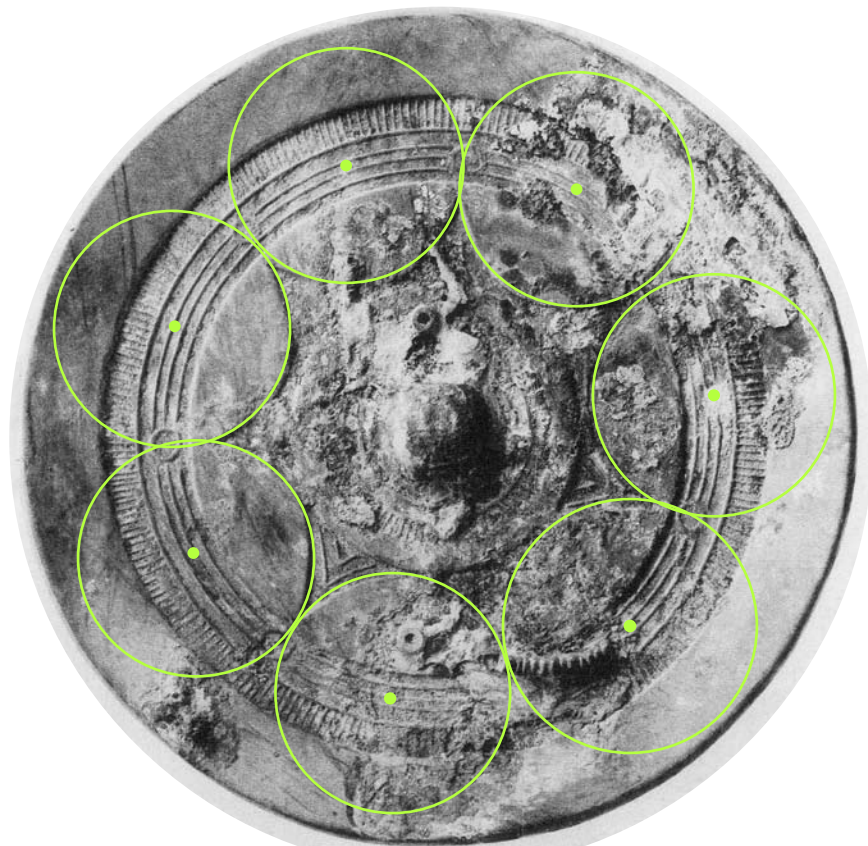


②岡山県鶴山丸山古墳 (D-BYB・8花文・曲線文8式)

第146図 花文の検討

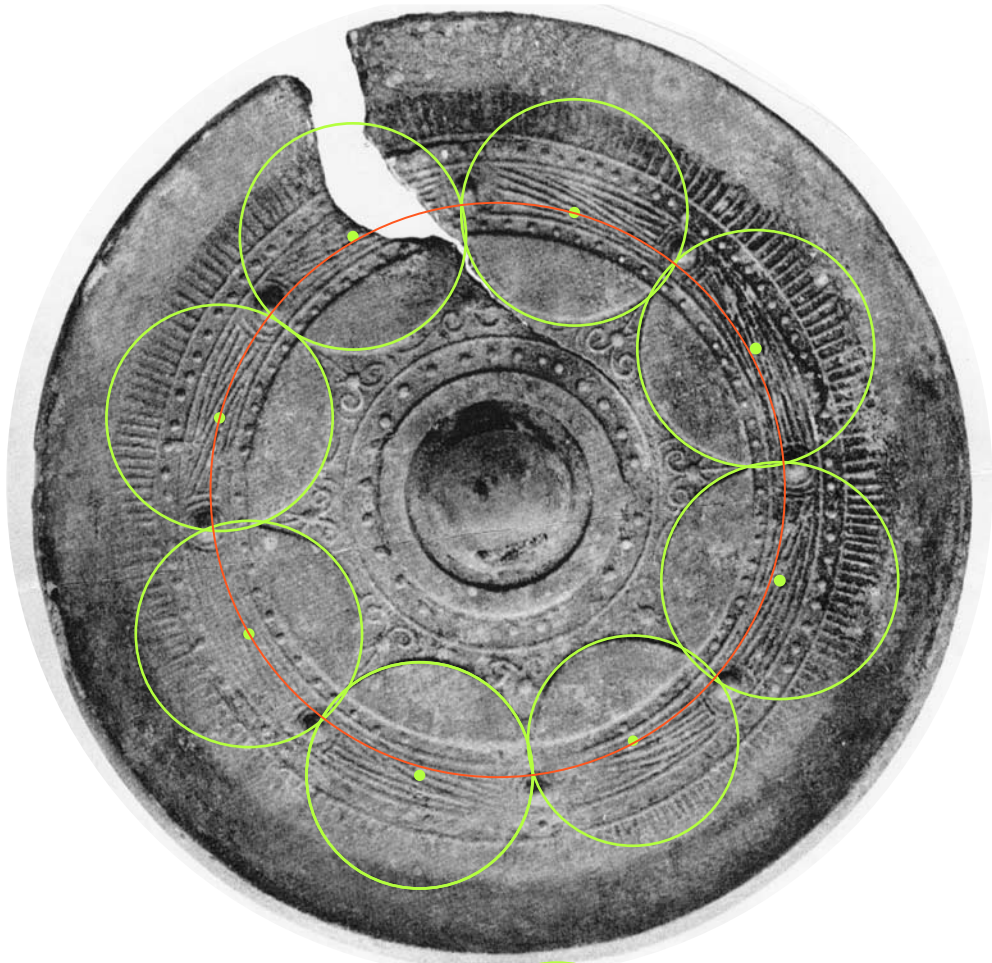


①熊本県立花大塚古墳 (D-BYB垂・6花文・山形文3式)

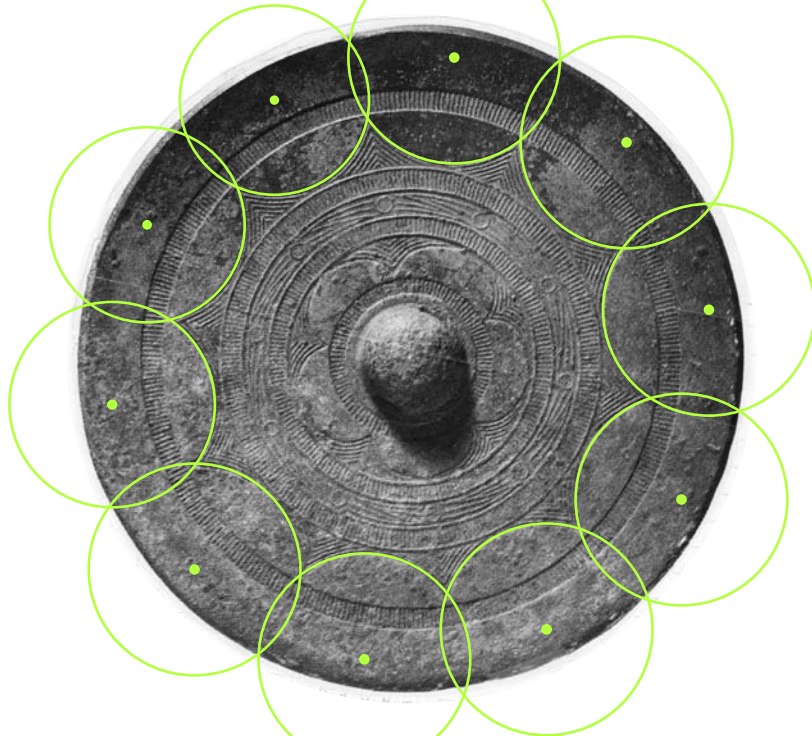


②静岡県東坂古墳 (D-BYB垂・7花文・山形文2式)

第 147 図 花文の検討

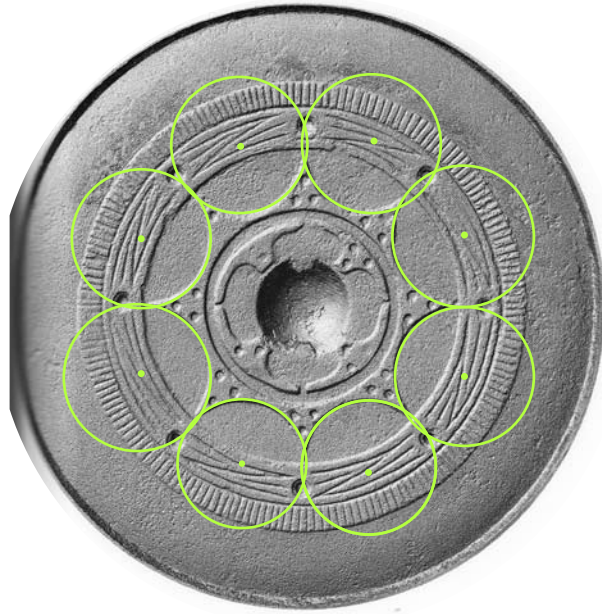


①福岡県沖ノ島19号墳 (D-BYB垂・8花文・S=1:2)

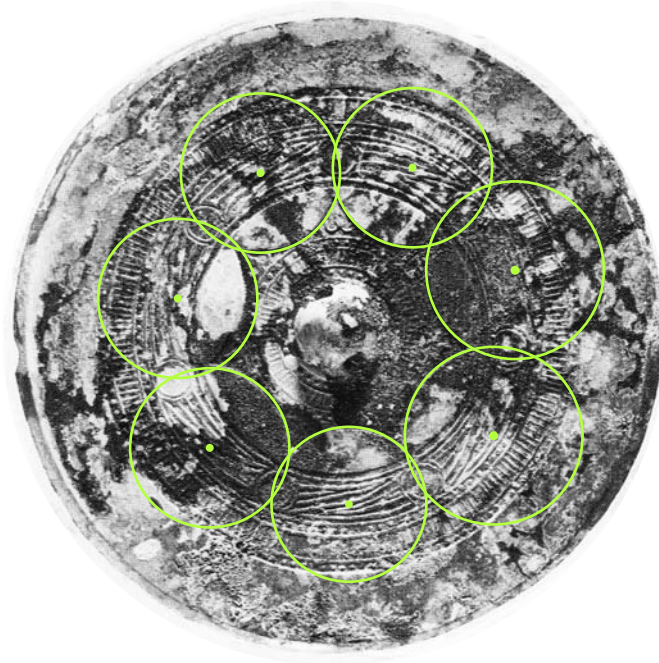


②福岡県沖ノ島17号墳 (D-BYB垂・8花文・S=1:2)

第148図 花文の検討

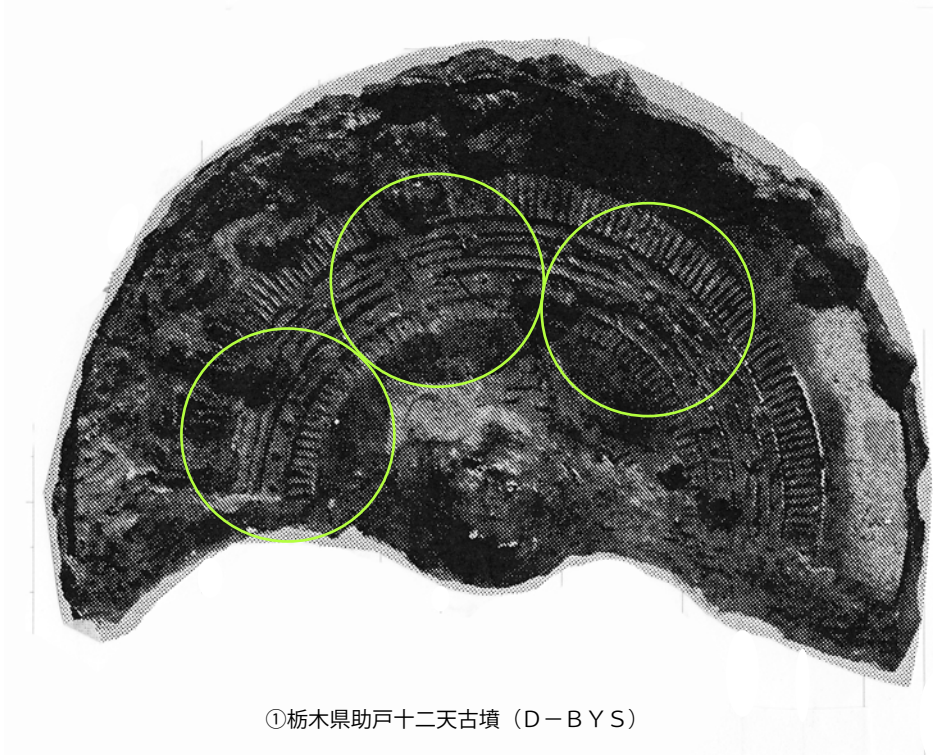


①奈良県新山古墳 (D-B Y B垂・8花文・珠文2式)



②奈良県マエ塚古墳 (D-B Y B垂・7花文・曲線文1式)

第 149 図 花文の検討

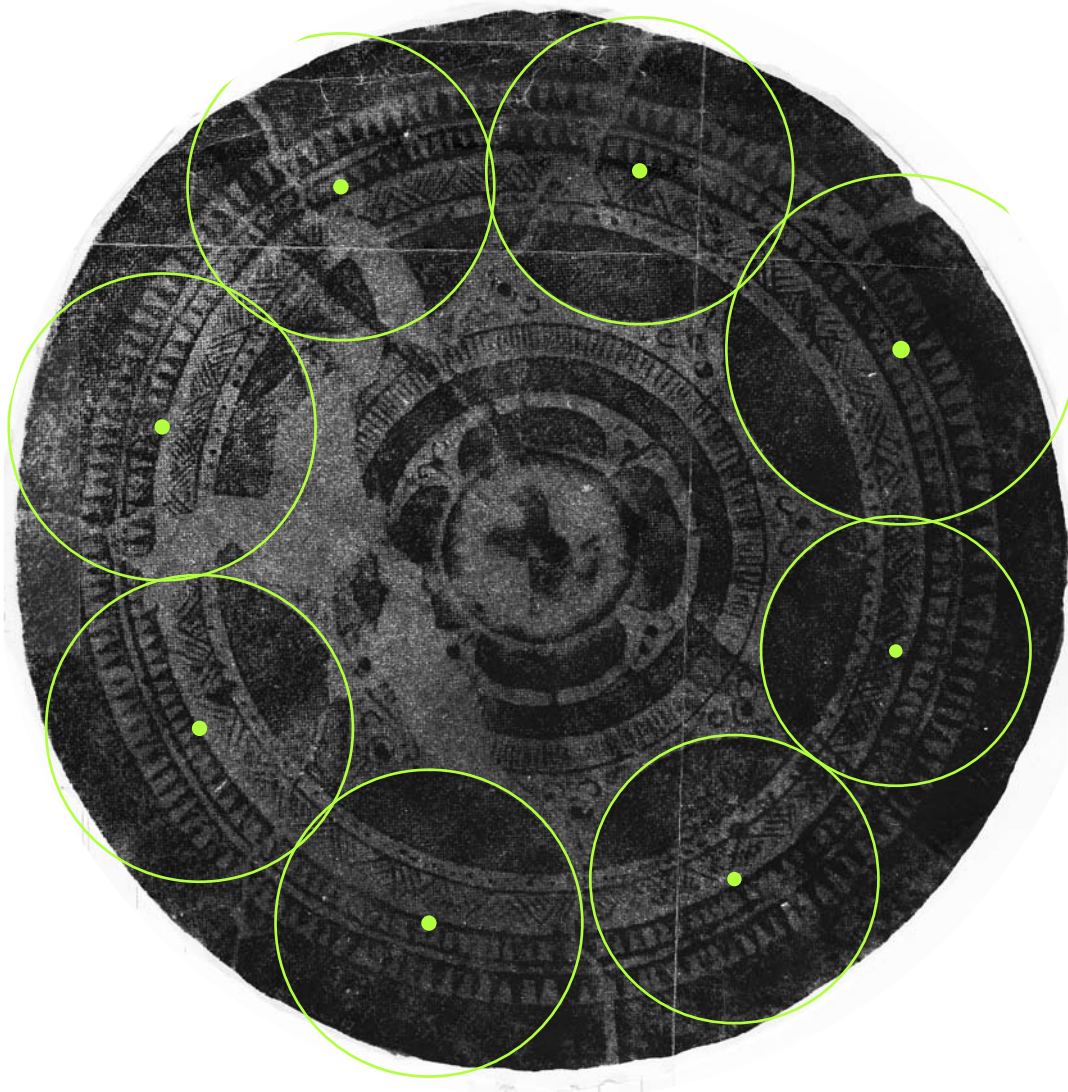


①栃木県助戸十二天古墳 (D-BYS)



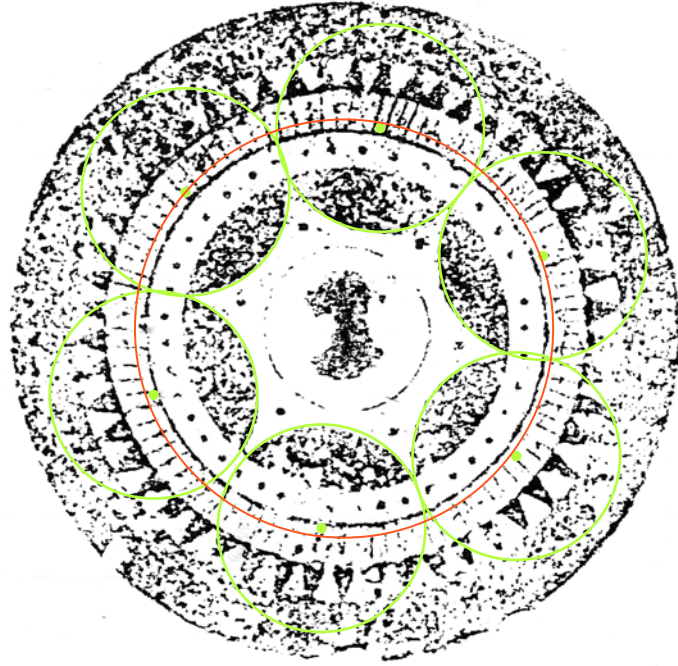
②宮城県台町20号古墳 (D-BYS・6花文)

第150図 花文の検討

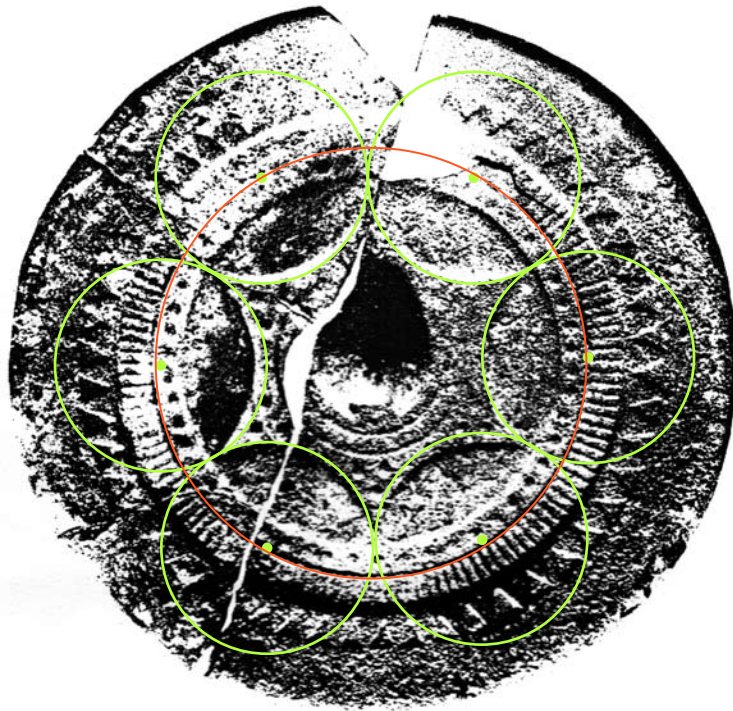


①山口県柳井茶白山古墳（ADA-A3S・8花文・曲線文8式）

第 151 図 花文の検討



①岡山県伊与部山2号墳（A-B S・6花文・珠文1式）



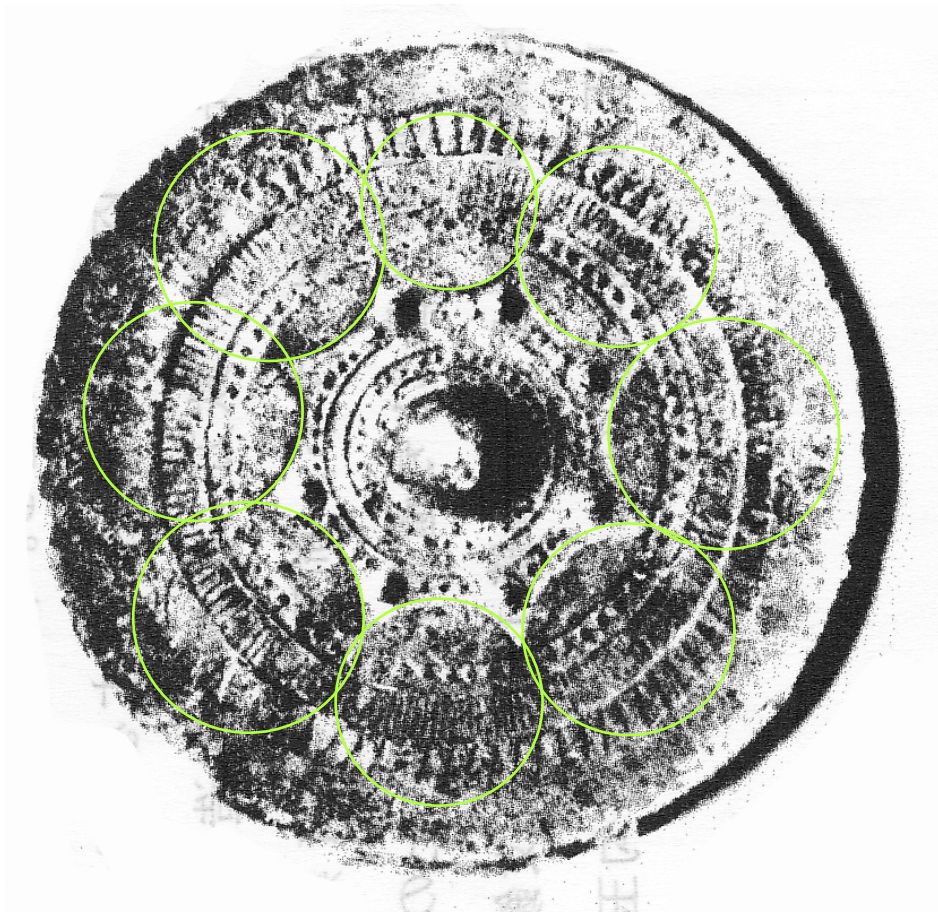
②香川県石清尾山摺鉢谷出土（A-B S・6花文・珠文2式）

第152図 花文の検討



①香川県大日裏山1号墳出土内行花文鏡

第153図 花文の検討

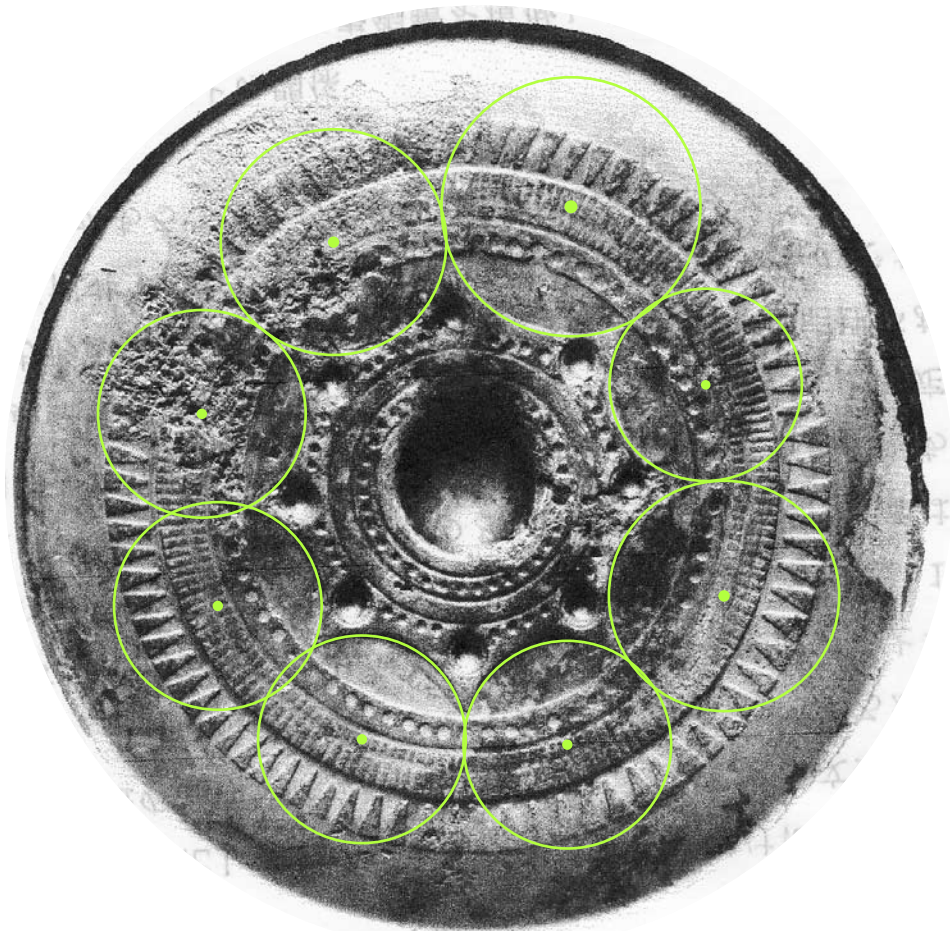


①愛知県篠木古墳群（A-B S・12花文・珠文7式）

第154図 花文の検討

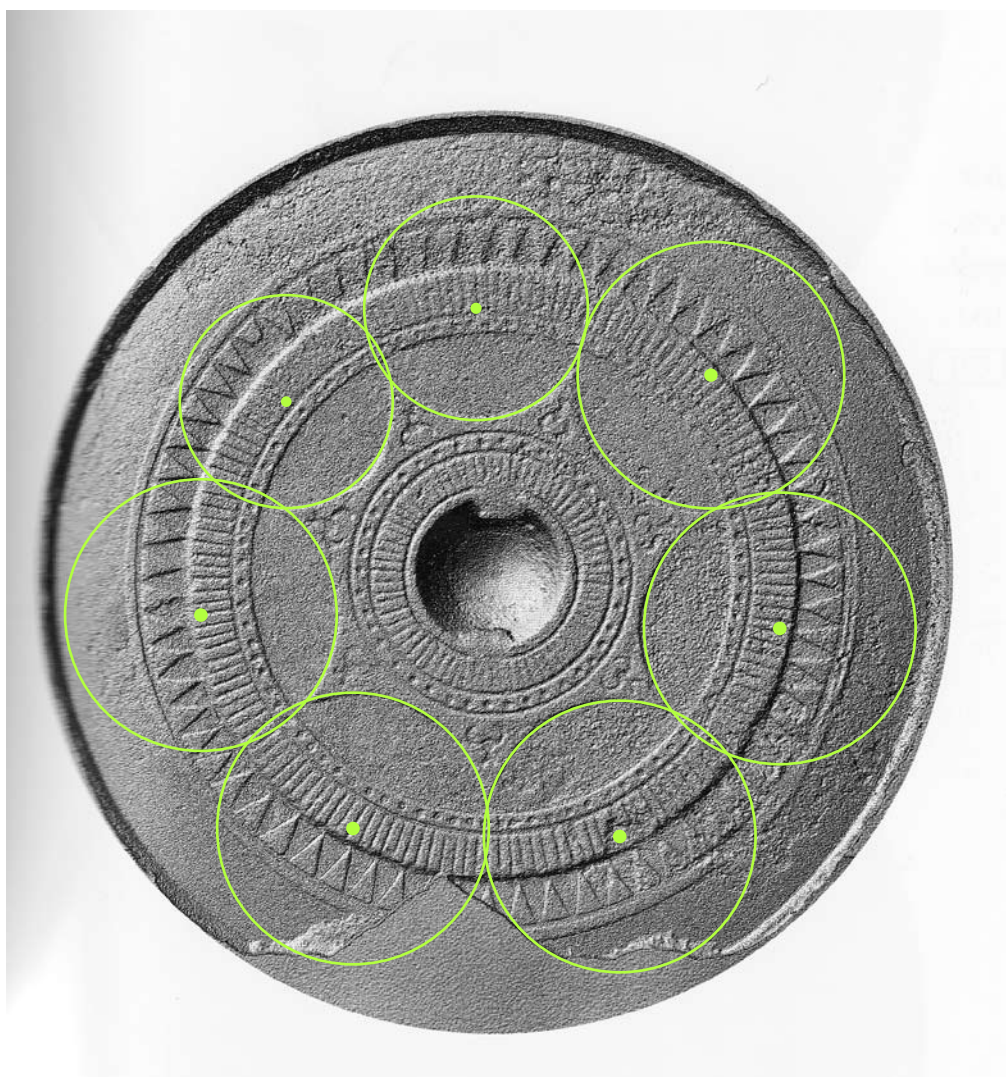


①広島県山ノ神1号墳(A-B S垂・6花文・珠文1式)

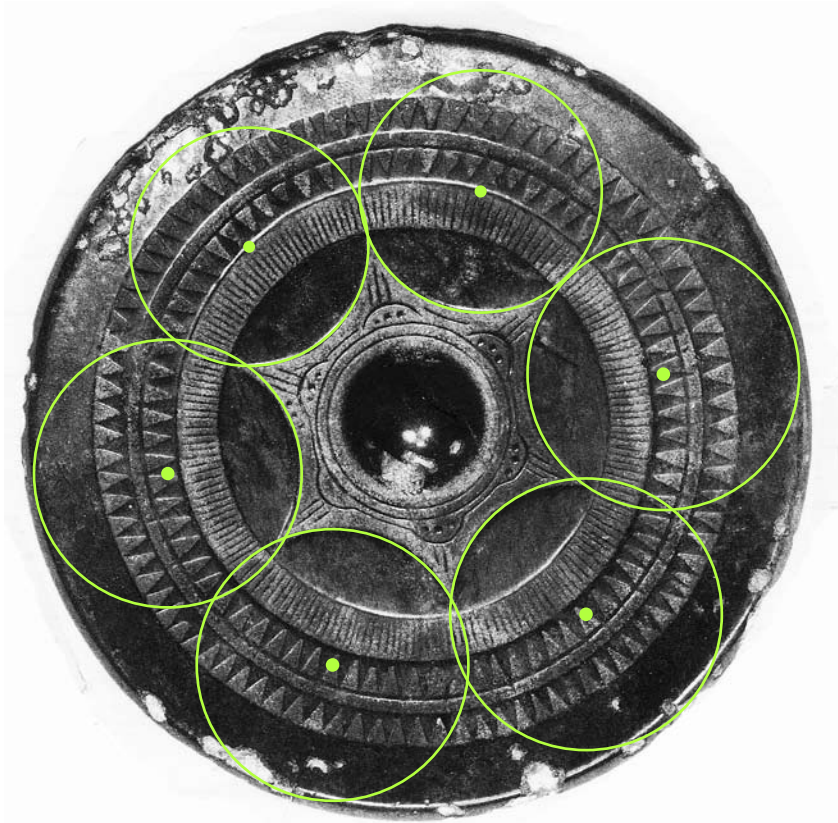


②奈良県佐味田貝吹山古墳(A-B S垂・8花文・珠文7式)

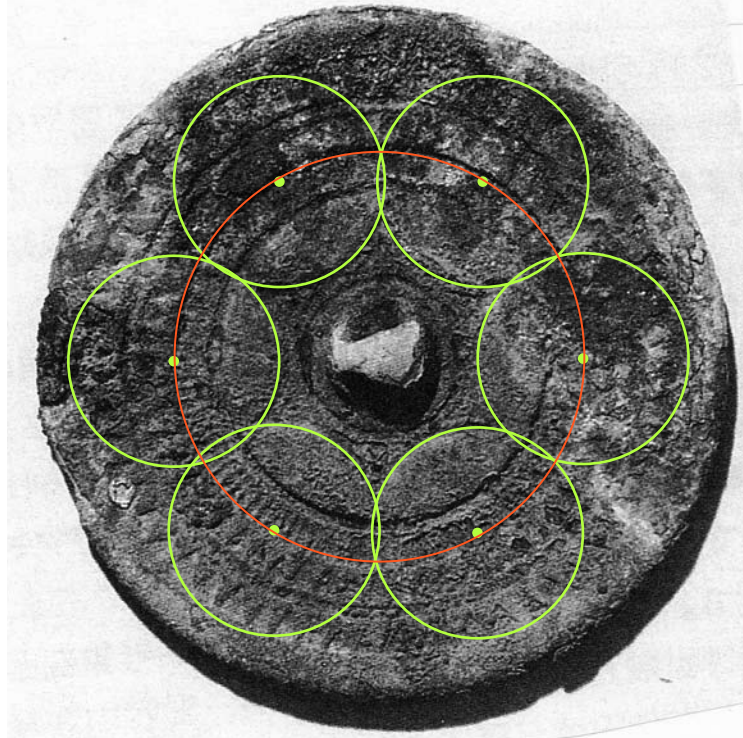
第 155 図 花文の検討



第 156 図 花文の検討

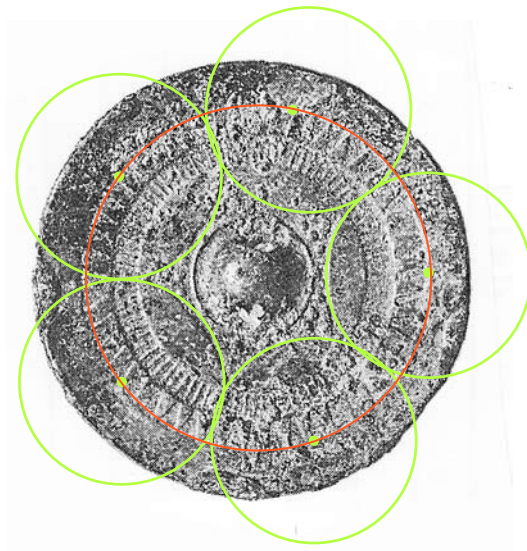
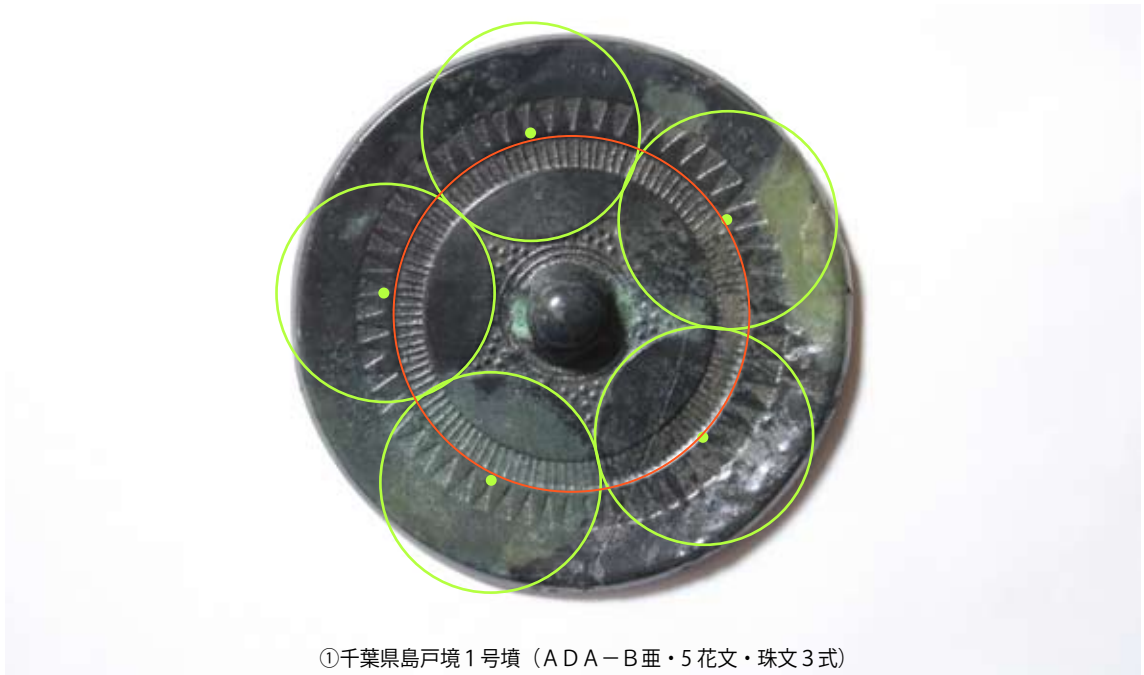


①静岡県馬場平3号墳(ADA-B・6花文・半弧文3式)

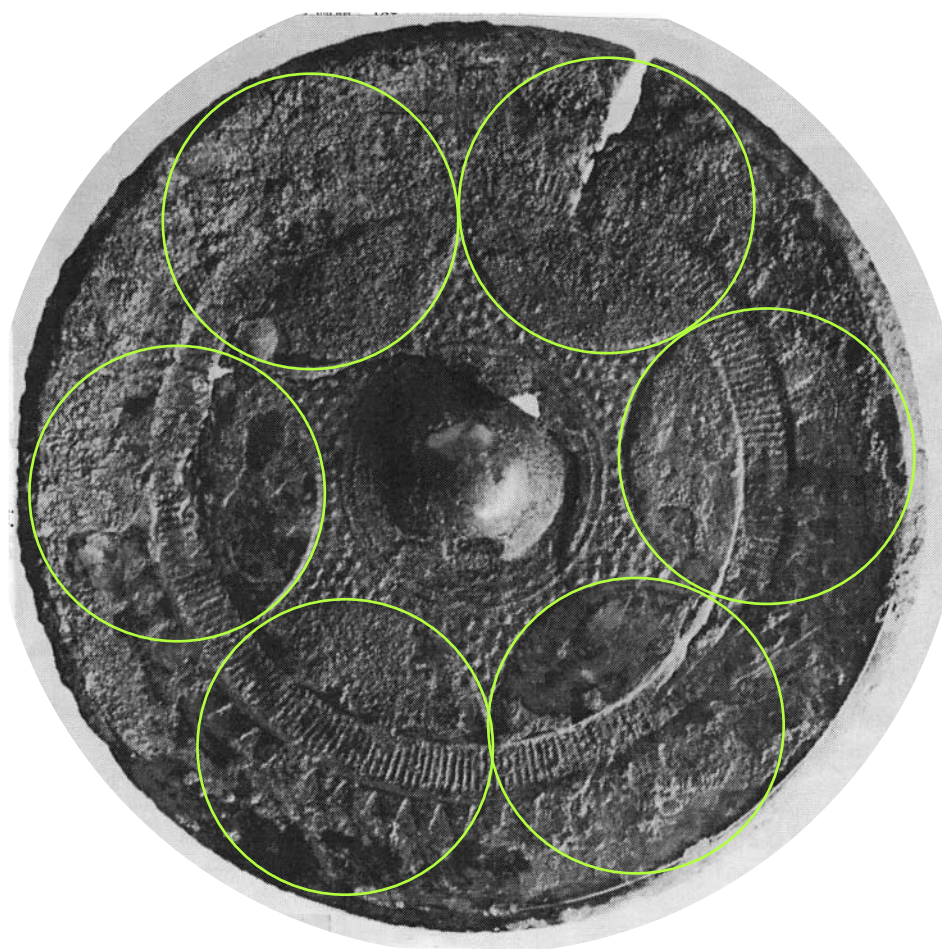


②京都府荒神塚古墳(ADA-B・6花文・三角文1式)

第157図 花文の検討

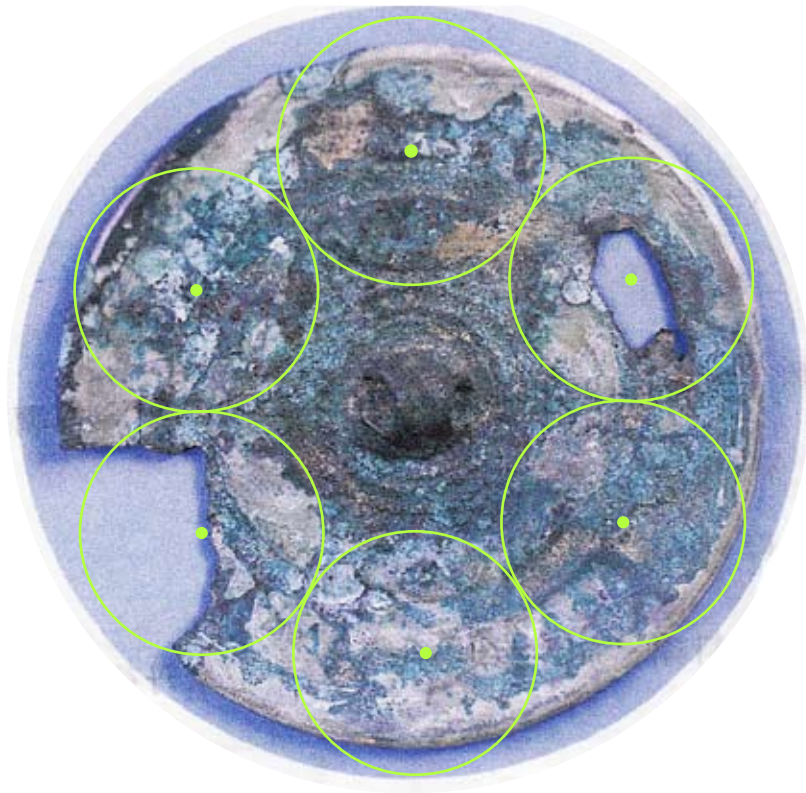


第158図 花文の検討

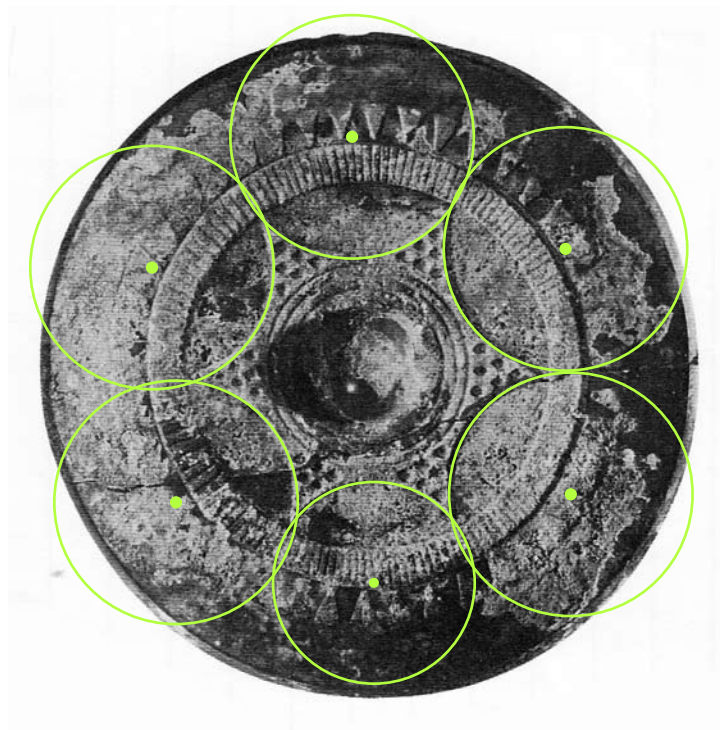


①静岡県富士岡古墳群F48号墳（ADA-B垂・6花文・珠文3式）

第 159 図 花文の検討

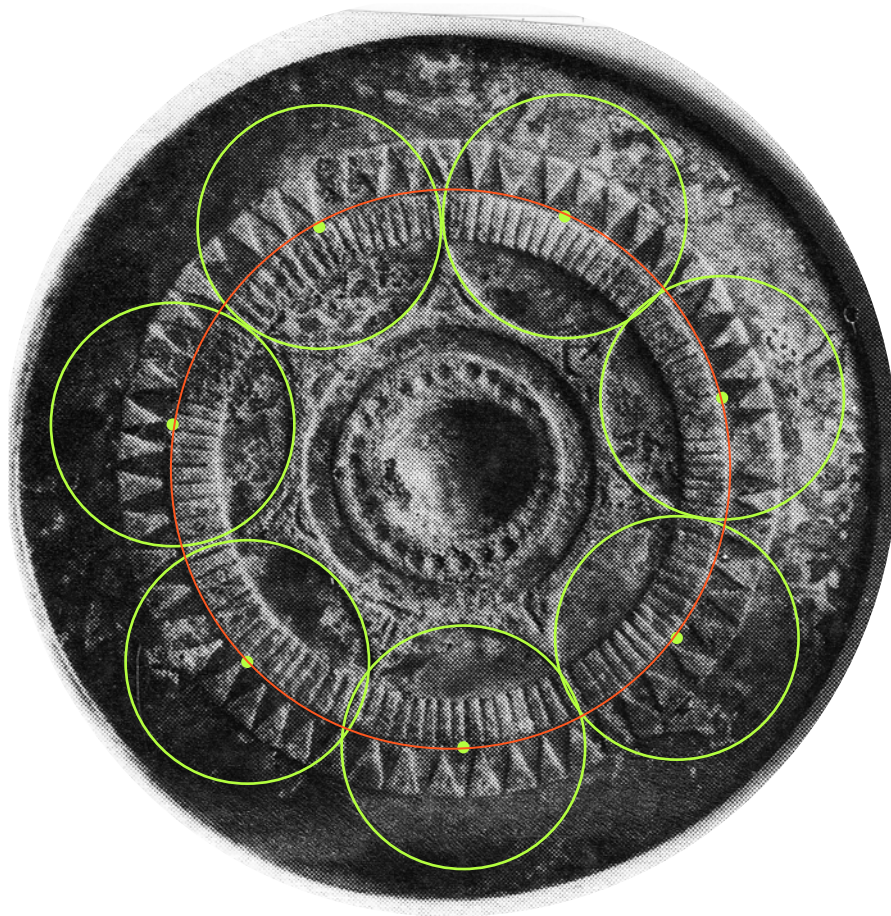


①広島県太田古墳（ADA-B垂・6花文・珠文1式）



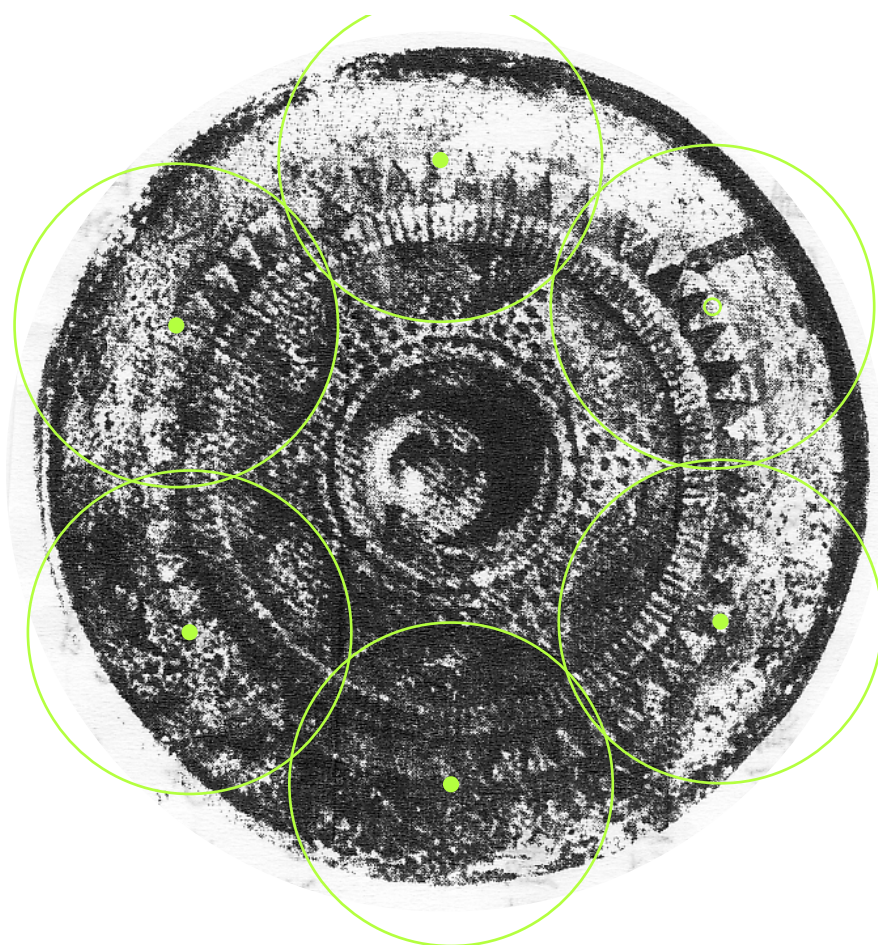
②京都府西山4号墳（ADA-B垂・6花文・珠文3式）

第160図 花文の検討



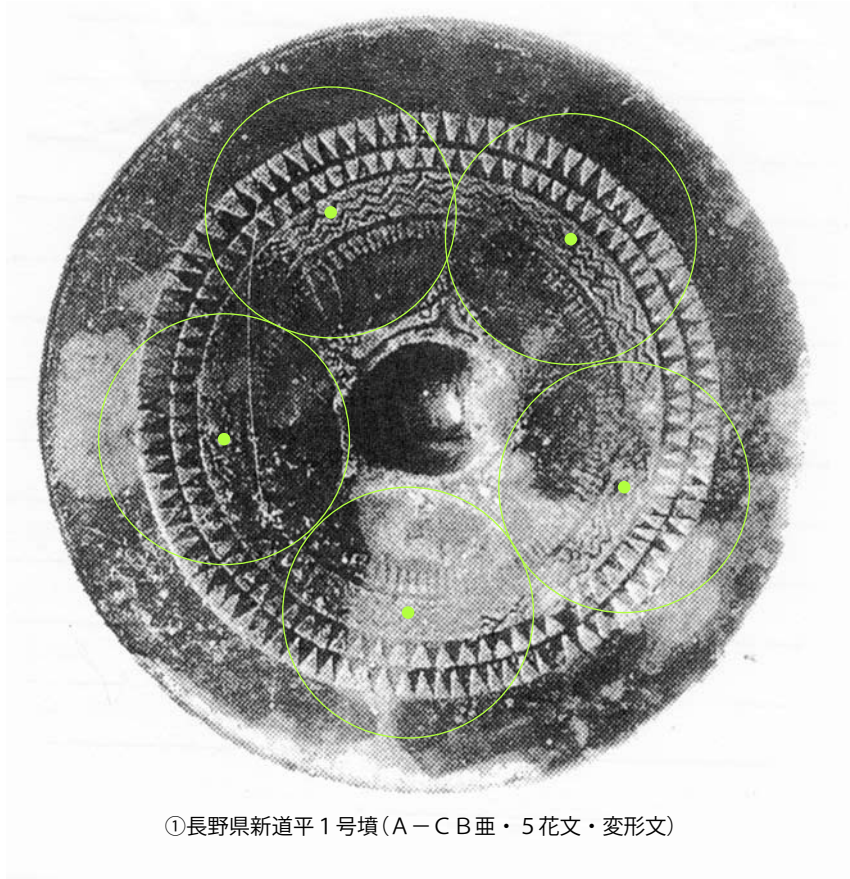
①奈良県北原西古墳（ADA-B垂・6花文・半弧文）

第 161 図 花文の検討

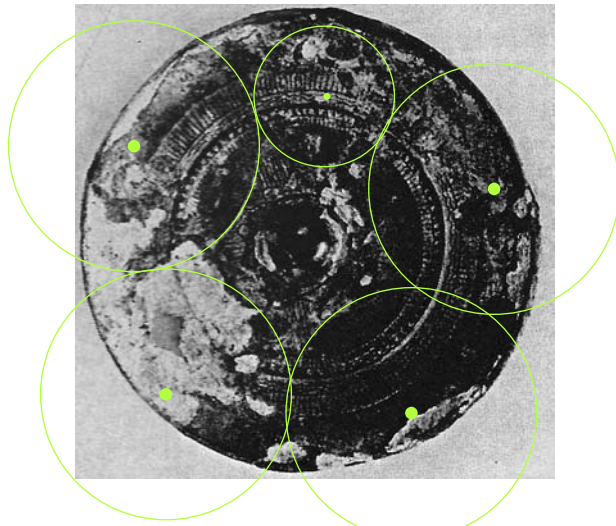


②佐賀県雄塚古墳（ADA-B垂・6花文・珠文3式）

第162図 花文の検討

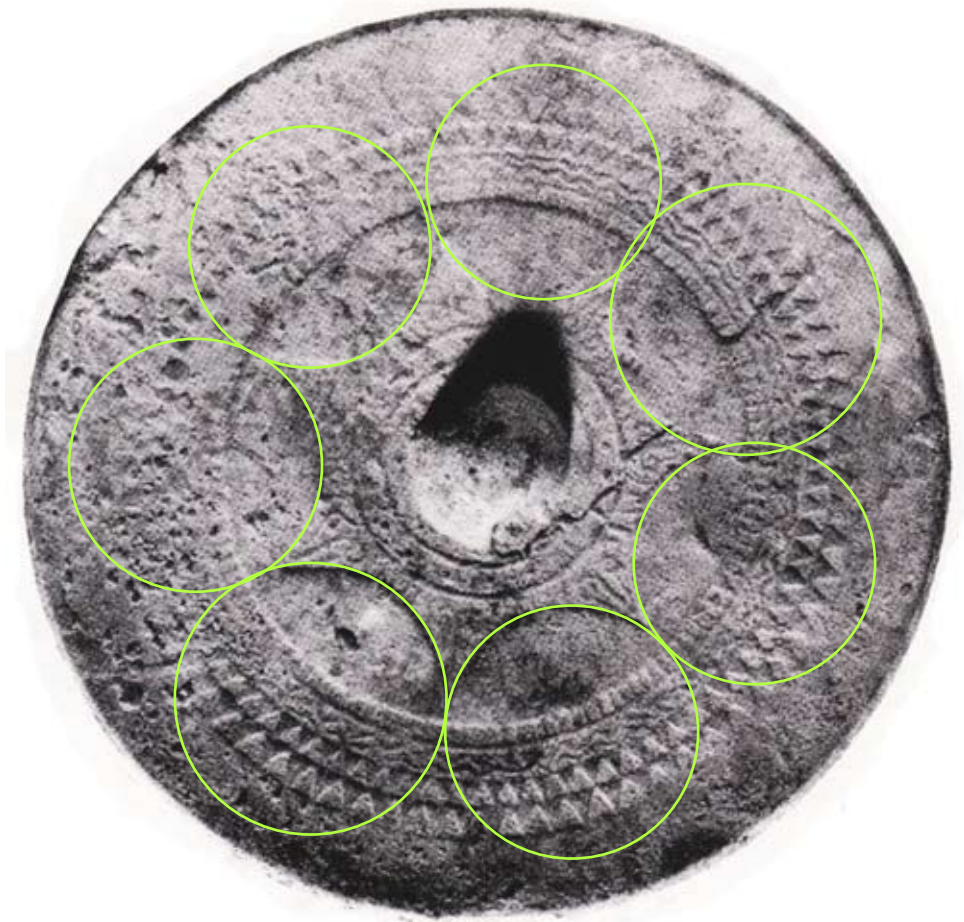
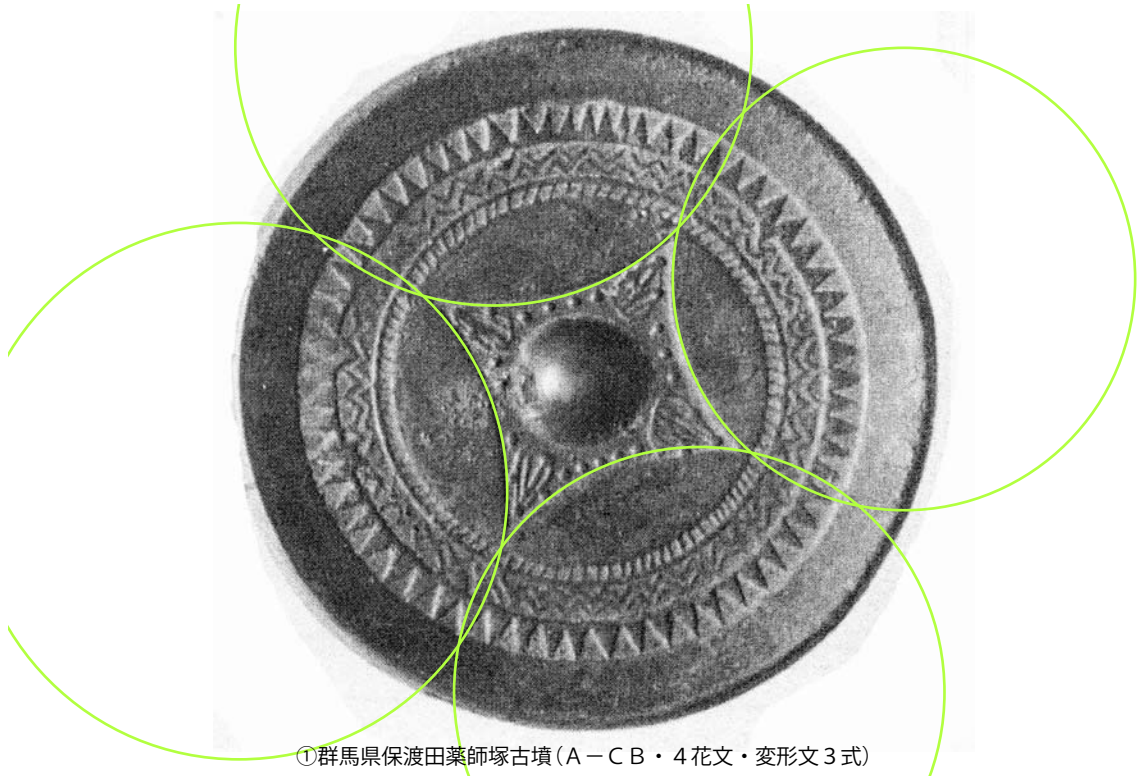


①長野県新道平1号墳(A-CB垂・5花文・変形文)



②栃木県助戸十二天古墳(A-CB垂・5花文・変形文9式)

第 163 図 花文の検討

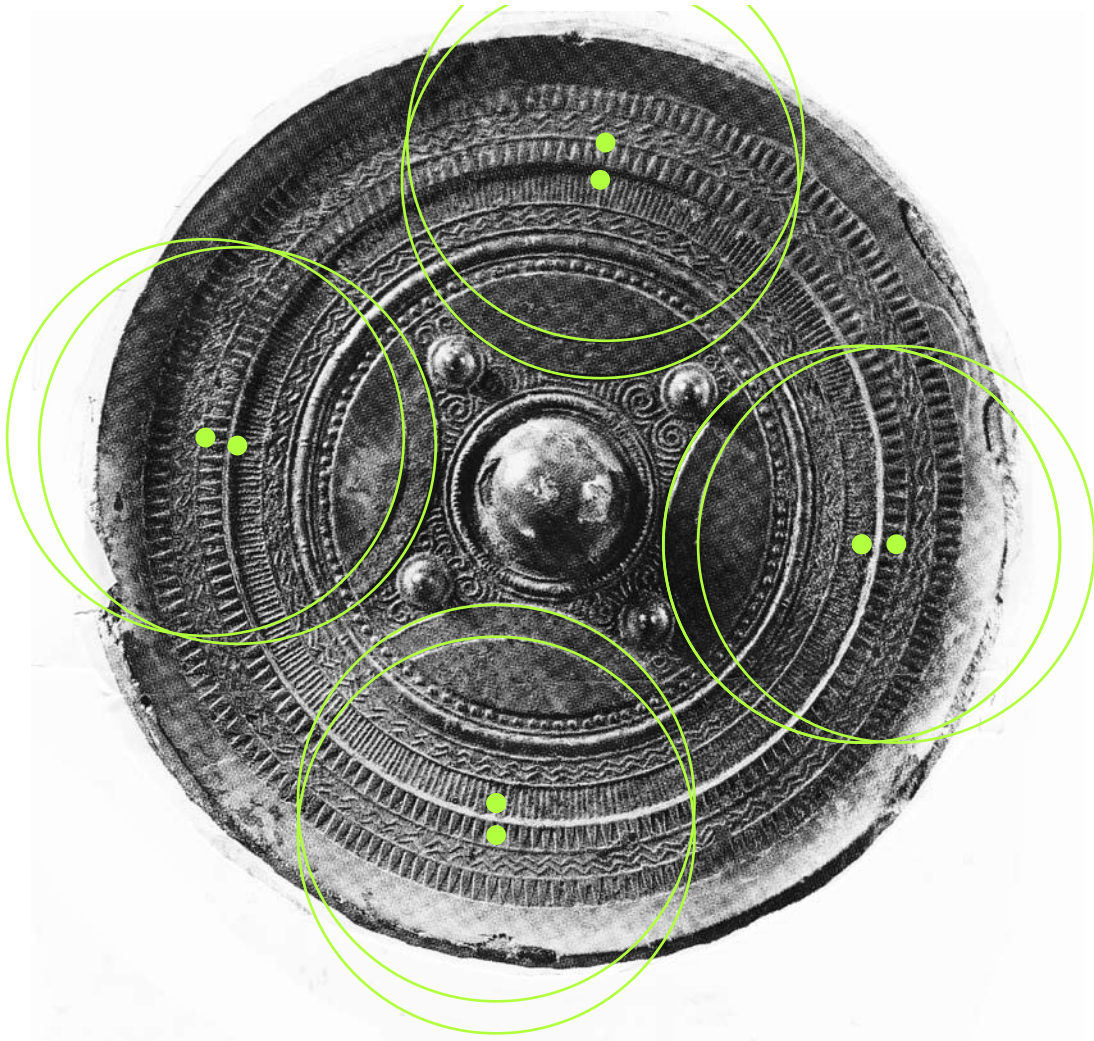


第164図 花文の検討



①奈良県新沢129号墳(A-CB垂・6花文・珠文3式)

第 165 図 花文の検討



①奈良県佐味田貝吹山古墳(A-C B垂・4花文・曲線文9式・17.3cm)

第166図 花文の検討



第 167 図 松林山古墳出土の舶載内行花文鏡

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大貫編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
1 鹿児島県曾於 郡大崎町	神領1号地下式横穴	地下式横穴		8.6	中I期~ 中II期	D-BDB	7	珠文3式	不明	骨製鏡1・イモガイ製鏡2・剣1	
2 宮崎県国富市	六野原5号墳	円墳	10	9.5	中期	D-BK	7	珠文1式	同じ	銅先・鉄弁・直刀・鉄鏡2・剣	
3 宮崎県延岡市	榎山古墳	前方後円墳	55	13.3	中皿期~ 中IV期	ADA-B重	8	珠文1式			
4 宮崎県宮崎市	運ヶ池横穴	横穴		10.8	後期	ADA-B重	6	珠文3式			
5 大分県宇佐市	千石古墳	不明		8.5	古墳時代	D-B	5	珠文3式	同じ		
6 熊本県阿蘇市	番出1号墳	円墳?		10	前期~中 前期	D-B	6	不明	検討対象外	刀・剣・櫛	
7 熊本県阿蘇市	長目塚古墳前方部	前方後円墳	111.5	8.4	中期	判断不可	6	不明	検討対象外	小玉267・管玉5・丸玉23・勾玉4・大刀 2・刀子8・鉄鏡57・斧1	
8 熊本県玉名市	立花大塚古墳	円墳	20	10.9	中期	D-BYB重	6	山形文3式	異なる		
9 熊本県八代市	門前1号墳石櫃内	前方後円墳		38	10.2	D-B	6	珠文1式	同じ	管玉・勾玉・刀2・剣4	内行花文鏡1・不明1
10 熊本県八代市	門前1号墳	前方後円墳		38	11.8	D-B2	6	珠文1式	同じ	管玉・勾玉・刀2・剣4	内行花文鏡1・不明1
11 熊本県上益城 県益城町	城の本古墳	円墳	11	9	中期	D-BD	8	変形文6式			
12 熊本県熊本市	高穂稻荷石棺群	不明		7.7	古墳時代	D-BD	6	不鮮明	不鮮明	滑石勾玉1	
13 熊本県合志市	ハヤマ2号石棺	不明		9.5	古墳時代	ADA-B重	6	変形文4式			
14 熊本県山鹿市	辻古墳1号石棺	円墳	30.3	9.7	中期	D-BDB	5	珠文1式	同じ	勾玉2	
15 長崎県津島市	朝日山遺跡4号箱式石 棺			11.4	中期	分類不可	17	不明	検討対象外		

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大冢編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副製品	共伴鏡
16 佐賀県杵島郡 白石町	稲佐古墳群	箱式石棺	不明	5.8	前期	D-B	6	珠文1式	同じ		
17 佐賀県佐賀市	小原古墳4号石室	円墳	18	10.3	前期	D-BDB亜	7	山形文3式・ 山形文5式・ 珠文5式	同じ	碧玉管玉1	
18 佐賀県佐賀市	高島古墳	円墳	20	10.5	前期	ADA-B亜	9	珠文1式		管玉22・瑪瑙勾玉2・水晶勾玉1・刀2・ 刀子1・剣1・鉄鏝19・斧2・鉈・鎌・櫛	
19 佐賀県三養基 郡みやき町	雄塚古墳	円墳	30	11	中期	A-B	6	珠文3式			
20 佐賀県鳥栖市	平原遺跡2区SX222	祭祀遺跡		7.4	前四期	A-BD	6	不詳明	検討対象外	ガラス小玉7・滑石勾玉1・滑石小玉4・ 滑石臼玉746	
21 福岡県筑紫郡 那珂川町	油田古墳群1号墳	円墳	20	9	前V期~ 前四期	分類不可	6	不詳明	検討対象外	鉄鏝	
22 福岡市南区	老司古墳3号石室	前方後円墳	75	9.2	前四期	D-B	5	珠文3式	同じ	小玉1・硬玉霽玉1・ガラス管玉1・硬玉 勾玉7・碧玉管玉125・刀6・刀子27・剣 6・鉄鏝104・斧11・鉈11・銚4・鎌3・櫛 5・鬘6・金環2・甲1・馬具	三角縁神獸鏡1、船載 内行花文、方格規矩鏡 2、腰文鏡1、仿製方格 規矩鏡1、仿製内行花 文鏡1
23 福岡市南区	老司古墳3号石室	前方後円墳	75	9.38	前四期	D-BK	7	山形文4式		〃	〃
24 福岡県行橋市	(伝)福岡県行橋市			10	不明	ADA-B亜	5	山形文5式	同じ		
25 福岡県宗像市	沖ノ島16号遺跡	祭祀遺跡		6.9	中期~後 期	D-B	6	珠文1式	同じ	滑石霽玉11・ガラス小玉41・硬玉勾玉 2・碧玉管玉44・碧玉石剣2・滑石管玉 64・滑石勾玉6・滑石小玉26・滑石臼玉 2・刀4・刀子7・剣3・斧・銚2	三角縁神獸鏡1・素文 鏡1・菱形方格規矩鏡1

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大貫編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
26 福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡			17.6	17.6 中期	分類していない	8	変形文7・ 8・9式		滑石小玉298・滑石玉4・ガラス小玉 75・硬玉勾玉10・石鏡1・車輪石2・滑石 管玉11・滑石勾玉1・刀5・刀子3・剣7・ 鉄剣4	変形方格規矩鏡7・変 形内行花文鏡2・扇形 鏡2・変形文鏡1・変形 鏡帯鏡2・変形圓鏡 2・変形三角縁神鏡 3・変形扇形鏡1
27 福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡			17	17 中期	D-BYB亜	8	曲線文3式	異なる	"	"
28 福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡			18.7	18.7 中期	D-B	10	山形文4式		"	"
29 福岡県宗像市	沖ノ島19号遺跡	祭祀遺跡		24.8	24.8 中期	D-BYB	8	曲線文8式	異なる		
30 福岡県粕屋郡 志免町	七夕池古墳	円墳	29	12.2	中I期~ 中II期	A2-CB	7	変形文7式	異なる	琴柱形石製品2・滑石製白玉3300・管 玉・蛇紋岩製勾玉・銅環・鉄輪・鉄刀・ 藤手刀子・櫛・土師器	
31 愛媛県東宇和 郡宇和町	長作森古墳			8.7	8.7 中期	D-BD	6	珠文1式	同じ		
32 愛媛県西条市	大日裏山1号墳	円墳	26	11.1	11.1 中期	A-BS	6	珠文3式	同じ		
33 香川県観音寺 市	前の原7号石棺	墳丘なし		7.5	7.5 前期	D-BS	6	珠文1式	同じ	碧玉管玉1・刀子1	
34 香川県丸亀市	秋天山古墳第2号石棺	前方後円墳	100	12	12 前IV期	D-BD	6	山形文4式	不詳明	刀子2、棺外から管玉2・剣3・斧1	

第23表 内行花文鏡一覽

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大買編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副製品	共伴鏡
35 香川県丸龜市	快天山古墳第3号石棺	前方後円墳	100	9	前IV期	D-BD	6	線文4式	同じ		棺外に破片
36 香川県丸龜市	津頭東古墳第1主体部	円墳	35	10.6	前期	D-BDB	6	珠文3式	同じ	刀1・刺3・鉄鏃・斧2・鉈1・櫛	
37 香川県坂出市	ハカリゴ—口古墳後円部 竪穴式石室	前方後円墳	49	11.6	前期	D-BDB	6	山形文2式	同じ	鉄鏃11	
38 香川県高松市	石清尾山裾鉢谷出土	不明		9.5	不明	A-BS	6	珠文2式	同じ		
39 香川県さぬき 市	成山1号墳	円墳	14	11.5	古墳時代	D-B2型	6	珠文3式		小玉・管玉・勾玉	
40 香川県さぬき 市	龍王山古墳	円墳	27.8×23	11.5	前期	D-B?	8	山形文3式		刀子1・刺1・鉄鏃2・鉈1	
41 香川県丸龜市	岩崎山5号墳	墳丘なし		11.2	前VI期	D-BS	8	不詳明	検討対象外	勾玉1・ガラス小玉38・刀子1	
42 徳島県名西郡 神山町	長谷古墳	円墳	13	9.2	前期	D-B2	6	珠文3式	判断できな い	硬玉勾玉1・刀子・刺3・鉄鏃1・鉈1・鉢 1・鏃2	
43 徳島県石井町	清成古墳	円墳	15	12.1	前期	D-B	8	珠文3式			面文帯神獸鏡1・麴龍 鏡2・不明1
44 山口県柳井市	柳井茶臼山古墳	前方後円墳	79.5	19.7	前VI期	ADA-A3S	8	曲線文8式	異なる	ガラス小玉1・刺・銅鏃・鉄鏃・鉢	
45 山口県下関市	吉田古墳	円墳	約20	8.95	中期	分類不可	6	山形文5式	検討対象外		
46 山口県宇部市	松崎古墳	円墳	20	11.7	前IV期	D-BS型	6	珠文3式	異なる	管玉14・滑石製勾玉8・琥珀丸玉1・刀 3・鉄鏃2・斧4・鏃6・鈿2	仿製三角線神獸鏡1・ 仿製四線鏡1
47 山口県山口市	赤妻古墳	円墳	40	7.4	中I期	D-BD	6	珠文3式	同じ	ガラス小玉・硬玉勾玉・瑠璃勾玉・碧玉 管玉・刀・針・櫛	位至三公鏡1・内行花 文鏡1・銀文鏡1

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大貫編 年	分類名	花 文 鏡 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副群品	共伴鏡
48 山口県山口市	赤妻古墳	円墳	40	7.4	中 I 期	D-B2	5	珠文9式	同じ	"	"
49 広島県広島市	丸古古墳	円墳	16×20	9.5	古墳時代	ADA-B重	8	珠文1式			
50 広島県広島市	恵下第1号古墳	方墳		7.8	中期	分類不可	6	不詳明	検討対象外	管玉2・ガラス小玉36	
51 広島県山県郡 安芸太田町	横路1号墳第2主体部	円墳	20	9.6	中 I 期	D-BS	6	曲線文6式	同じ	葉玉2・瑪瑙勾玉1・碧玉管玉20・	
52 広島県三次市	知原開山9号墳	円墳	10	8.1	前V期~ 前IV期	D-BD	5	珠文2式	不詳明	刀子1・剣2・筒形銅器1・鉄鍔7・鉈1・ 鑿1	
53 広島県三次市	善法寺9号墳	前方後円墳	35	8.6	中期	D-B	6	珠文2式	同じ	鉄剣1・鉄鍔4・鉄斧1	
54 広島県三原市	宮ノ谷8号墳	円墳	10	11.1	中Ⅲ期~ 中Ⅳ期	D-BK	6	無文	同じ	(棺内)管玉6・鉄斧11・鉄剣1・鉄刀 1・手刀1・手刀子1・手鉢、(棺外)鉄斧 1・鉄刀1・土師器	
55 広島県福山市	汐首C遺跡第3地区SK- 2	墳丘なし		8.8	前期	D-BK	6	不詳明	判断できな い	琴柱形石製品2・刀1	
56 広島県福山市	石籠権現5号墳	前方後円墳	37.5	11.4	前V期~ 前IV期	D-BK	7	珠文1式	異なる		
57 広島県福山市	太田古墳			9.5		ADA-B重	6	珠文3式		勾玉1・石鏡1・刀子1・斧1・鉈1・鑿1	
58 広島県府中市	山ノ神1号墳第1号箱式 石棺	円墳	12	7.1	中 I 期	A-BS重	6	珠文1式	異なる	管玉2・ガラス玉36	
59 岡山県総社市	伊与部山2号墳	方墳	10×14	9.3	前V期~ 前IV期	A-BS	6	珠文1式	同じ	石鏡1・勾玉1・斧・ヤリガンナ・鑿	
60 岡山県総社市	江崎古墳	円墳		9.3	不明	ADA-B重	7	珠文1式?		管玉9・ガラス小玉1・ガラス勾玉1・硬 玉勾玉1・刀子3・鉄鍔1	
61 岡山県総社市	殿山9号墳第1主体部	方墳	13	9	前Ⅱ期~ 前Ⅲ期	D-BD	6	珠文3式	同じ		
62 岡山県岡山市	浅川3号墳	円墳	6×5	8.3	前Ⅳ期~ 前Ⅲ期	分類不可	7	不明瞭	検討対象外	筒形銅器1・鉄剣1	
63 岡山県赤磐市	用木15号墳第1主体部	円墳	11.5	9.2	中期	D-BS	8	珠文1式	不明	墓域内上面:土師器	
64 岡山県瀬戸内 市	(伝)色久町			11.4	不明	D-BDB	6	半弧文4式	破片のため 不明		

第23表 内行花文鏡一覽

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大冢編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様 数	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
65 岡山県瀬戸内市	(伝)色久町			6.7	不明	D-BS	6	変形文10式			
66 岡山県久米郡美咲町	月の輪古墳南棺	円墳	61	9	中I期	分類不可	8	不明	検討対象外	碧玉3・管玉32・勾玉6・ガラス小玉311・石釧1・滑石小玉1048・刀4・刀子1・刺3・鉄鏝1・針22・櫛8	
67 岡山県久米郡美咲町	奥の前1号墳	前方後円墳	68	10.1	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-B	6	半弧文1式	同じ	管玉1・勾玉2・銅鏝1・堅矧板皮織式短甲	
68 岡山県苫田郡鏡野町	竹田9号墳中央棺	円墳	14.8	7.2	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BS	6	線文3式	同じ	管玉2・刀子1・刺1・鉄鏝3・斧1	
69 岡山県苫田郡鏡野町	土居妙見山古墳	前方後円墳	25	8.8	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	分類不可	不 鮮 明	不鮮明	検討対象外	刺2	
70 岡山県苫田郡鏡野町	土居妙見山古墳	前方後円墳	25	8.4	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-B	6	珠文2式	外区	刺2	
71 岡山県津山市	近長丸山1号墳第1主体	円墳	20	9	前I期～ 前II期	D-B'K	5	変形文11式	同じ面径	ヒスイ勾玉2・碧玉管玉16・刺1・	
72 岡山県津州市	鶴山丸山古墳	円墳	55×68	20.6	前VI期	D-BYB		曲線文5式	異なる	碧玉勾玉・碧玉管玉・車輪石・碧玉製模造品・	箱内:船載三角縁神獸鏡1、仿製内行花文鏡1、箱外:内行花文鏡5、変形面文帯神獸鏡1、変形方格規短鏡4、変形高獸文鏡、仿製三角縁神獸鏡2、羸龍鏡1、変形四高鏡2、環状乳四神四獸鏡1、変形面文帯神獸鏡1、半円方形帯神獸鏡1、変形三神三獸鏡1、変形五獸鏡1、変形六獸鏡1、
73 岡山県津州市	鶴山丸山古墳	円墳	55×68	20.6	前VI期	D-BYB		曲線文5式	異なる	"	"
74 岡山県津州市	鶴山丸山古墳	円墳	55×68	14.8	前VI期	D-BS		曲線文1式		"	"
75 岡山県津州市	鶴山丸山古墳	円墳	55×68	26.7	前VI期	D-BYB				"	"
76 岡山県津州市	鶴山丸山古墳	円墳	55×68	17.3	前VI期	D-BDB		曲線文4式		"	"

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大買編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
77 岡山県津寺市	鶴山丸山古墳	円墳	55×68	14.8	前VI期	D-BYB亜				"	"
78 鳥取県松江市	石田古墳	方墳	12	9.8	前V期~ 前四期	D-BS亜	5	珠文3式	異なる	刀子・勾玉4・管玉5・ガラス製丸玉1・ 小玉160・垂飾石4	
79 鳥取県松江市	釜代1号墳第2主体部	円墳	20	11.4	前V期~ 前四期	D-BS亜	6	変形文12式	異なる	碧玉製勾玉1・ガラス小玉67	
80 鳥取県松江市	金崎1号墳	前方後方墳	32	6.8	中Ⅲ期~ 中Ⅳ期	A-CB	5	不鮮明	検討対象外	鉄刀1・鉄銚1・鉄刺1・鉄鋤先1・刀子 1・紡錘車模倣製品・子持勾玉2・碧玉 製管玉2・碧玉製管玉4・碧玉製管玉 5・瑪瑙製勾玉6・水晶製勾玉1・水青 水晶製垂飾1・ガラス製小玉・滑石製白 玉多数・須臾器	
81 鳥取県松江市	奥才14号墳	円墳	18	17.9	前V期~ 前四期	D-BYB	8	曲線文8式	異なる	紡錘車1・大刀1・剣1・槍1・鉄鏃1・鉈 1・刀子1	仿製方格短鏡1
82 鳥取県安来市	小谷遺跡第1土塚			8.2	前I期~ 前II期	D-B'N	6	無文	確認できな い		
83 鳥取県日南町	霞17号墳	前方後円墳	19.6	8.5	前期	分類不可	7	不明	検討対象外	鉄刀1・鉄刺1・鉄鏃2・不明鉄製品1・ 勾玉4・高坏1	
84 鳥取県米子市	(伝)米子市			9.5	不明	D-B	5	珠文3式	同じ		
85 鳥取県米子市	上の山古墳第2石室	帆立貝形古墳	35	8.9	不明	D-BD	8	珠文1式		管玉8・勾玉3・瑪瑙勾玉1・碧玉管玉 6・滑石勾玉500・滑石小玉・刀	
86 鳥取県米子市	青木遺跡F区7号墳第1 主体	方墳		11.3	不明	D-BD	6	無文	同じ	周溝:壺・高坏	
87 町	馬山(糟津)4号墳第1墳 輪円簡棺	前方後円墳	88	11.5	前IV期	D-BDB	6	珠文3式	不明瞭		
88 町	馬山(糟津)4号墳竪穴 式石室	前方後円墳	88	12	前IV期	D-BS	7	山形文2式	異なる	ヒスイ勾玉1・碧玉石鏃8・碧玉車輪石 4・鉄鏃多数・斧1・鉈1	面文帯神獸鏡1・船載 三角縁神獸鏡1・仿製 方格短鏡1・変形二 獸鏡1
89 鳥取県鳥取市	青谷上寺地遺跡	包含層		8.7	弥生後期 ~古墳前 期初頭	D-B'	4	線文と珠文	同じ		

第23表 内行花文鏡一覽

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大真緒年	分類名	花文 数	花文間文様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
90 鳥取県鳥取市	広岡81号墳第1主体部	円墳	11	9.52	不明	D-B S	6	珠文3式	判断できな い		
91 鳥取県鳥取市	本高14号墳埋葬施設3	前方後円墳	63.7	8	前Ⅲ期~ 前Ⅳ期	D-B S	6	珠文1式	異なる	水晶製勾玉・凝灰岩製管玉10	
92 鳥取県鳥取市	生山28号墳第1主体部	円墳	19.5×16.6	8.6	不明	A-B	5	半弧文1式		鉄剣2、埴丘：高坏2・壺	
93 兵庫県南あわ じ市	新田古墳			8.4	弥生時代 後期末	D-B	6	無文	フリーハンド か		
94 兵庫県南あわ じ市	倭文委文古墳			9	不明	D-B	8	山形文3式		刀	
95 兵庫県姫路市	手柄山南丘			11	不明	ADA-B 亜	9	珠文3式			
96 兵庫県姫路市	観尾古墳	円墳	不明	12.6	前期	D-BDB	6	珠文3式	同じ		
97 兵庫県小野市	王子宮山古墳	円墳		9.7	中期	ADA-D	8	珠文1式		鉄鏃	
98 兵庫県栗原市	五十波古墳群	不明	15	8.4	中期	D-B	6	珠文3式	不詳明		
99 兵庫県豊岡市	田多地3号墳第1主体部	方墳	30×?	6.6	前期	ADA-B 亜	5	珠文3式			
100 兵庫県豊岡市	深谷1号墳第4組合式石 棺	方墳	21×19	9.5	前期	D-B S 亜	5	珠文3式	異なる		
101 兵庫県朝来市	瀬江中山23号墳	円墳	27	11.7	前期	D-B	6	曲線文1式	同じ	剣・鉄鏃・斧・腕	
102 兵庫県宝塚市	安倉高塚古墳	円墳		11	前期	D-B	6	半弧文1式・ 線文6式	同じ	小玉3・管玉3・刀2・腕2・鏃5・楯1	神獸鏡1
103 兵庫県多紀郡 西紀町	上板井2号墳	円墳	13.8×12.6	7.6	中期	ADA-B 亜	6	珠文3式		管玉2・勾玉1・ガラス小玉29、棺外刀 子	
104 兵庫県丹波市	丸山1号墳北石室	前方後円墳	48	10.3	前Ⅲ期~ 前Ⅳ期	D-B	6	珠文1式	同じ	車輪石1・ガラス製小玉17	

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大真福 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
105 兵庫県高砂市	竜山5号墳	前方後円墳	36	9.1	前期	D-B'K	7	線文1式	同じ	鉄剣1・鉄刀1・鉄槌1・鉄鍬1・鉄斧1・ガス小玉7	
106 京都府与野郡 与野町	林山古墳	円墳	23	11.8	中期	ADA-B亜	6	珠文4式			
107 京都府与野郡 与野町	愛宕山3号墳第1主体部	円墳	27	7.5	前期	D-BK	8	線文1式	異なる	管玉・勾玉・ガラス小玉・剣・鉈・鎌	
108 京都府与野郡 加悦町	作山1号墳	前方後円墳	45	10.4	前V期~ 前四期	ADA-B亜	6	珠文2式		管玉・勾玉・石銅	
109 京都府綾部市	荒神塚古墳	円墳	15	9.2	後期	ADA-B	6	三角文1式		刀・刀子・鉄鍬・斧・鉈・鎌・鑿・馬具・甲	
110 京都府亀岡市	坪田10号墳	円墳	25	8.6	中期	分類不可		不詳明	検討対象外	小玉・ガラス勾玉・滑石白玉・刀・刀子・ 剣・鉄鍬	
111 京都府八幡市	(伝)美濃山大塚	古墳		10.6	不明	D-BS	6	曲線文3式	同じ		
112 京都府城陽市	西山4号墳	円墳	25	8	前期	ADA-B亜	6	珠文3			面文帯神獸鏡1
113 京都府綴喜郡 田辺町	奥戸2号墳	円墳	28	12	前V期~ 前四期	A-BS亜	7	曲線文7式	異なる	管玉・楕形石・石銅・剣	内行花文鏡2
114 京都府綴喜郡 田辺町	奥戸2号墳	円墳	28	12	前V期~ 前四期	D-BS亜	6	曲線文1式	異なる	"	"
115 大阪府高槻市	紅葉山C3号墳1号棺	円墳	18	9.7	中期	ADA-B亜	6	半弧文2式		勾玉・小玉・管玉・滑石小玉・鉄斧	
116 大阪府高槻市	紅葉山C3号墳1号棺	円墳	18	9.3	中期	D-BDB	5	珠文1式	同じ	"	
117 大阪府高槻市	慈願寺山古墳群	古墳	不明	22.2	不明	D-BYB	8	曲線文8式	異なる		
118 大阪府高槻市	奥坂古墳群	不明		8.6	不明	ADA-B亜	6	珠文2式			
119 大阪府羽曳野 市	御旅山古墳	前方後円墳	50	8.6	前V期		6	珠文2式		鉄帯鏡1・三神三獸鏡4・珠文鏡1・内 行花文鏡13・重圍文鏡1	鉄帯鏡1・三神三獸鏡 4・珠文鏡1・内行花文 鏡13・重圍文鏡1

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大買編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
120	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	8.6	前V期		6	珠文2式		"	"
121	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	9.3	前V期		6	珠文1式		"	"
122	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	9.3	前V期		6	珠文1式		"	"
123	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	9.3	前V期	ADA-B	6	珠文1式		"	"
124	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	8.6	前V期		6	珠文と蕨手 文		"	"
125	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	8.2	前V期	D-BS	6	対称文8式		"	"
126	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	8.5	前V期		6	珠文2式		"	"
127	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	8.4	前V期	D-BS	9	珠文1式		"	"
128	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	8.1	前V期	D-B	6	線文4式		"	"
129	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	6.1	前V期	D-B	6	珠文1式	同じ	"	"
130	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	8.3	前V期		6	珠文(乳)1 点		"	"
131	大阪府羽曳野市 御旅山古墳	前方後円墳	50	8.2	前V期	D-BS	6	珠文1式	同じ	"	"
132	大阪府枚方市 楠葉古墳	円墳	20	7.3	中期	D-B	5	珠文3式	同じ	碧玉管玉1・滑石小玉1	なし
133	奈良県奈良市 古市方形墳東部	方墳	23~25	10.2	前VI期	分類していない	7	山形文5式	検附対象外	小玉307・桑玉490・管玉152・勾玉3・滑石白玉37・刀子・刺2・斧4・鎌3・鋸6	船載内行花文鏡1・二神二獣鏡1・画文帯神獣鏡1・盤龍鏡1
134	奈良県奈良市 マ工塚古墳	円墳	47x48	17.4	前V期~ 前IV期	D-BYB垂	7	曲線文1式	異なる	滑石石鏡1・滑石製模造品・刀24・刀子2・刺119・斧9・鎌10・鍬2	内行花文鏡2・獣文鏡3・菱形鏡1

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面積	遺跡年代 /大貫編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ 異なる	副葬品	共伴鏡
135 奈良県奈良市	マエ塚古墳	円墳	47×48	17.2	前V期~ 前四期	D-BYB亜	7	曲線文1式	異なる	"	"
136 奈良県奈良市	丸塚古墳	円墳		10.5	前V期~ 前四期	D-B	6	変形文3式	不鮮明	刀18・銅鏡19・琴柱形石製品	神獸鏡2・仿製半円方 格帯神獸鏡3・内行花 文鏡6・仿製四獸鏡2
137 奈良県奈良市	衙門戸丸塚古墳	円墳		12	前V期~ 前四期	D-BS	8	曲線文2式	異なる	"	"
138 奈良県奈良市	衙門戸丸塚古墳	円墳		12	前V期~ 前四期	D-BS	8	曲線文2式	異なる	"	"
139 奈良県奈良市	衙門戸丸塚古墳	円墳		12	前V期~ 前四期	D-BS	8	曲線文2式	異なる	"	"
140 奈良県奈良市	衙門戸丸塚古墳	円墳		12	前V期~ 前四期	D-BS	8	曲線文2式	異なる	"	"
141 奈良県奈良市	衙門戸丸塚古墳	円墳		12	前V期~ 前四期	D-BS	8	曲線文2式	異なる	"	"
142 奈良県奈良市	衙門戸丸塚古墳	円墳		12	前V期~ 前四期	D-BS	8	曲線文2式	異なる	"	"
143 奈良県奈良市	鶯塚古墳	円墳		9.5	前V期~ 前四期	D-BD	6	珠文2式	同じ		
144 奈良県天理市	柳本大塚古墳	前方後円墳	97	39.8	前II期~ 前III期	D-BYB	8	珠文6式	同じ	銅鏡	
145 奈良県天理市	下池山古墳	前方後方墳	120	37.6	前III期	D-BYB	8	曲線文	同じ		
146 奈良県桜井市	赤尾熊ヶ谷2号墳			12.6	前III期~ 前IV期	D-B	12	不鮮明	検討対象外		
147 奈良県桜井市	赤尾熊ヶ谷2号墳			9.8	前III期~ 前IV期	D-B	6	珠文3式	同じ		
148 奈良県橿原市	新沢129号墳	円墳	15	13.2	中期	A-CB亜	6	珠文3式	異なる	内行花文鏡1・小玉4・直刀1・須恵器	
149 奈良県橿原市	新沢213号墳	前方後円墳	25.5	10	前V期	D-B	6	珠文3式	同じ	ガラス小玉7・硬玉管玉3・碧玉管玉 30・石鏡1・刀1・刀子3・斧1・鏡1	斜縁二神二獸鏡1・獸 形鏡1・流雲文鏡1

第23表 内行花文鏡一覽

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大翼編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
150 奈良県橿原市	新沢千塚500号墳	前方後円墳	62	17.9	前V期	D-BYB	8	縁文6	同じ	"	"
151 奈良県宇陀市	高山1号墳	方墳	23	8.7	中期	D-BD	6	珠文2式	同じ	碧玉勾玉・琥珀勾玉1・ガラス小玉120・ 碧玉管玉16・滑石臼玉・刀4・鉄鏃60・ 斧3・鉈1・鎌5・鑿1・甲2・鉄てい7	変形方格縁鏡1、十 一乳文鏡1
152 奈良県宇陀市	丸尾5号墳	方墳	7×9	10.2	前期	D-BD	6	珠文3式	同じ	刀子1・斧1	
153 奈良県宇陀市	谷畑古墳	円墳	24×27	8.9	前V期~ 前四期	D-BD	6	珠文1式	同じ	石鏡2、棺外から大刀・刀子1・剣2・楯 2・筒型銅器1・斧1・鉈1・鎌1・鑿1・鑿 1	
154 奈良県宇陀市	野山2号墳北棺	円墳	10×12	10.5	後I期	D-BS	6	曲線文3式	異なる	刀子3・鉄鏃6・鎌1	
155 奈良県宇陀市	北原西古墳	前方後方墳	30.5	11.4	中期	ADA-B重	7	半弧文他		葵玉7・管玉23・勾玉30・ガラス小玉17・ 滑石臼玉1554・刀子4・剣1・鉄鏃2・斧 2・鉈3・鎌4・鑿1・針11	
156 奈良県北葛城 郡河合町	佐味田貝吹山古墳	古墳		21.4	中II期	D-DB	9	珠文6式			内行花文鏡2、仿製半 円方形帯神獸鏡1、獸 帯鏡2、三角縁神獸鏡1
157 奈良県北葛城 郡河合町	佐味田貝吹山古墳	古墳			中II期	A-CB重	4	曲線文9式	同じ		"
158 奈良県北葛城 郡河合町	佐味田貝吹山古墳	古墳		12.1	中II期	A-BS重(篠木)	8	珠文7式	異なる		"
159 北葛城郡広陵 町	新山古墳	前方後方墳	138	11.9	前III期~ 前IV期	ADA-B重	6	珠文3式		"	"
160 北葛城郡広陵 町	新山古墳	前方後方墳	137	16.5	前III期~ 前IV期	D-BYB重	8	珠文2式	異なる	"	"
161 北葛城郡広陵 町	新山古墳	前方後方墳	137	16.2	前III期~ 前IV期	D-BYB重	8	珠文2式	異なる	"	"
162 北葛城郡広陵 町	新山古墳	前方後方墳	137	16.5	前III期~ 前IV期	D-BYB重	8	珠文2式	異なる	"	"

第23表 内行花文鏡一覧

	新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大貫編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
163	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.3	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
164	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.2	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
165	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.2	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
166	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.2	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
167	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.7	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
168	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.7	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
169	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	17	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
170	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.5	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
171	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.7	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
172	北葛城郡広陵町	新山古墳	前方後方墳	137	16.5	前Ⅲ期～ 前Ⅳ期	D-BYB亜	8	珠文2式	異なる	"	"
173	奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	破片	前Ⅲ期	判断不可	判断不可	判断不可	核射対象外	ガラス小玉・ガラス管玉1・磁玉勾玉1・ 碧玉管玉6・微形石・石剣・革輪石・刀 子1・剣3・銅鏃2・鉄鏃多数・鉈 鏡片	内行花文鏡片、三角縁 神獸鏡片、画文帯神獸 鏡片
174	奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	破片	前Ⅲ期	判断不可	判断不可	判断不可	核射対象外	"	"
175	奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	破片	前Ⅲ期	判断不可	判断不可	判断不可	核射対象外	"	"
176	奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	破片	前Ⅲ期	判断不可	判断不可	判断不可	核射対象外	"	"
177	奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	破片	前Ⅲ期	判断不可	判断不可	判断不可	核射対象外	"	"
178	奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	破片	前Ⅲ期	判断不可	判断不可	判断不可	核射対象外	"	"

第23表 内行花文鏡一覽

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大貫編 年	分類名	花 文 数	花文間文様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副製品	共伴鏡
179 奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	破片約 30cm	前Ⅲ期	判断不可		判断不可	核射対象外	"	"
180 奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	破片	前Ⅲ期	判断不可		判断不可	核射対象外	"	"
181 奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	約38	前Ⅲ期	判断不可		判断不可	核射対象外	"	"
182 奈良県桜井市	桜井茶臼山古墳	前方後方墳	207	約38	前Ⅲ期	判断不可		判断不可	核射対象外	"	"
183 (伝)三重県松阪市	(伝)三重県松阪市		不明	不明	14.9 不明	D-B並	12	珠文12式			
184 三重県松阪市	向山古墳	前方後方墳	72	6.9	前Ⅴ期~ 前Ⅳ期	分類不可	6	不明	核射対象外	石鏡13・車輪石1・筒型石製品2・鉄刀・ 鉄槍	大型鏡1・重圓文1・張 文1
185 三重県松阪市	高田2号墳	円墳		11.2	前期	D-BS	6	珠文	不鮮明	石鏡2	
186 三重県	出土地不明				不明	D-BD	6	珠文1式			
187 滋賀県栗東市	下味古墳第1主体	円墳	35	9.3	前Ⅴ期~ 前Ⅳ期	D-BD	6	縄文2式	同じ	水晶勾玉・硬玉勾玉・碧玉管玉18・石 鏡1・刀子3・刻4・鉄鏃・斧1・鉈2	
188 滋賀県甲賀市	泉塚越古墳	方墳	55	13	中期	D-B	8	山形文3式		勾玉・甲冑・武器類	
189 滋賀県東近江市	雲野山古墳	前方後円墳	70	23.6	前Ⅲ期	D-BYB	10	珠文8式・三 角文4式	同じ	碧玉1・ガラス小玉2・碧玉線形石1・碧 玉紡錘車2・碧玉琴柱石製品1・刀2・ 刀子5・刻5・楯3・銅鏡96・鉄鏃43・鉈 2・鏃2・鏝1・櫛26・骨	麗龍鏡1・船載三角縁 神獸鏡3
190 滋賀県米原市	山津照神社古墳	前方後円墳	63	13.2	後Ⅱ期		6			三輪玉・金銅製装具3・鹿角装具・刀・ 馬具	飾鏡1・変形神獸鏡1
191 滋賀県米原市	石湖山古墳	前方後円墳			後期	D-BYB	8	珠文1点			
192 石川県加賀市	分校高山古墳	前方後円墳	36	12.8	前Ⅲ期~ 前Ⅳ期	ADA-B	6	不明	核射対象外	小玉1・勾玉2・ガラス小玉24・碧玉管 玉27・	
193 石川県金沢市	神谷内古墳群C支群12 号墳	前方後円墳	28	7.6	前期	D-B'KB	7	変形文1式	同じ		
194 富山県高岡市	板屋谷内5号墳				前Ⅴ期~ 前Ⅳ期	D-B	6	珠文1式	同じ	内行花文鏡1・鉄剣1・玉3・管玉27・葉 玉234・丸玉2・ガラス管玉1・ガラス小 玉15	
195 富山県射水市	小杉上野遺跡				弥生時代 後期末	D-B	6	無文	同じ		

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大夏編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副標品	共伴鏡
196 富山県高岡市	国分山A号墳	円墳	30	10.9	前期	D-BK	6	無文	異なる		
197 岐阜県大垣市	長塚古墳第2主体部	前方後円墳	87	18.2	前V期~ 前IV期		6	曲線文3式		管玉145・勾玉2・ガラス小玉多数・石銅 73・刀・石製舎子1	仿製三角縁神獸鏡2
198 岐阜県相模原 市	野口古墳	円墳	10	9.5	不明		7	半弧文3式			
199 岐阜県本巣市	舟木山24号墳	円墳	20	11.6	前III期~ 前IV期	D-BD	6	山形文5式	同じ	管玉188・ガラス小玉298・石銅3・刀7・ 刀子2・刺13・銅鏃30以上・鉄1・鍔2・ 鍔1・鉈1・鍬1・鑿2	半肉彫式獸帯鏡1・仿 製半円方形神獸鏡1・ 三角縁六神鏡1・六神 鏡1・羅龍鏡1
200 (伝)岐阜県可 児市	(伝)西宮之洞		不明	8.3	不明		不明	不明瞭	検討対象外		
201 (伝)岐阜県可 児市	(伝)西宮之洞		不明	8.3	不明		6	珠文1式			
202 (伝)岐阜県可 児市	(伝)西宮之洞		不明	破片	不明		6	珠文1式			
203 愛知県名古屋 市	白山蔵古墳	円墳?	20	12.4	前IV期	D-BS	6	三角文3式	異なる	琥珀玉3・琥珀丸玉5・琥珀勾玉1・ ガラス小玉600以上・碧玉勾玉2・碧玉 管玉32・刺16・鏃鏃10・斧2・鏃1	三角縁神獸鏡1・変形 四獸鏡1
204 (伝)愛知県名 古屋市	富士ヶ嶺古墳	前方後円墳		14.1	不明	D-BY	8	三角文4式 に類似			
205 愛知県春日井 市	藤木古墳群	円墳		11	不明	A-BS重(佐味)	8	珠文7式	異なる		
206 愛知県小牧市	甲屋敷古墳	円墳	30~35	8.1	前V期~ 前IV期	D-BK	6	不鮮明	同じ		三角縁神獸鏡1
207 愛知県安城市	北本郷古墳			9.04	不明	D-B	6	珠文1式	同じ	管玉19・刺・斧	
208 (伝)愛知県安 城市	(伝)愛知県	古墳	不明	11	不明		6	不鮮明	検討対象外		
209 静岡県磐田市	松林山古墳	前方後円墳	110	24.9	前IV期	D-BYB	8	半弧文3式	異なる	銅鍬・巴形銅器・水字貝製腕輪	三角縁神獸鏡1・船載 内行花文鏡1・変形四 獸鏡1

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大買編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副製品	共伴鏡
210 静岡県浜松市	馬場平古墳	前方後円墳	47.5	7.5	中期	D-B	5	珠文3式		鉄剣4・銅鏡5・鉄鏡5・管玉24・勾玉・ガ 面文帯神獸鏡	共伴鏡 面文帯神獸鏡
211 静岡県浜松市	馬場平3号墳	円墳	20	10.3	中期	ADA-B	6	半弧文3式	異なる	銅鏡2・勾玉1	仿製鉄帯鏡1・仿製内 行花文鏡1
212 静岡県藤枝市	五鬼免古墳群1号墳東 棺	円墳		10.6	中期	D-B	6	珠文3式	異なる	剣・鉄鏡・飾1・楠	
213 静岡県富士市	東坂古墳	前方後円墳	60	17.4	前V期~ 前四期	D-BYB重	7	山形文2式	異なる	蛇紋岩管玉18・長石勾玉・蛇紋岩勾玉 2・ガラス小玉・石剣1・滑石臼玉860・ 鹿角器具3・刀1・剣3	四獣鏡1
214 静岡県富士市	富士岡古墳群F48号墳			12	後期	ADA-B重	6	珠文3式			
215 山梨県西八代 郡川三郷町	鳥居原孤塚古墳	円墳	20	10.2	中期	D-BDB	6	珠文3式	同じ	滑石臼玉・刀3・剣	神獸鏡1
216 長野県長野市	(伝)川柳将軍塚古墳	前方後円墳	93	6.5	前Ⅲ期~ 前Ⅳ期	D-B	6	珠文2式	同じ	小玉・切子玉・管玉・勾玉5・ガラス小 玉・草輪石・楯・銅鏡・金環・銀環	珠文鏡4・異帯字銘文 鏡1・四獣鏡1・乳文鏡 2・重圈文鏡?1
217 長野県長野市	(伝)川柳将軍塚古墳	前方後円墳	93	7.3	前Ⅲ期~ 前Ⅳ期	D-B	6	珠文3式	同じ	〃	〃
218 長野県長野市	石川桑里遺跡	溝		破片	前V期~ 前四期	分類不可	不明	不明	検討対象外	石剣4・草輪石1・滑石紡錘車	
219 長野県長野市	松前遺跡48号住居	竪穴住居	3.7×3.8	6.7	前V期~ 前四期	D-B	6	珠文1式	同じ		
220 長野県飯田市	兼清塚古墳	前方後円墳	73	9.1	中Ⅲ期~ 中Ⅳ期	分類不可		不鮮明	検討対象外	丸玉・ヒスイ勾玉・ガラス勾玉・刀・鉄鏡	
221 長野県飯田市	塚原10号墳	円墳	20.1	8.2	不明	分類不可	8	珠文1点	検討対象外		
222 長野県飯田市	新道平1号墳			10.1	不明	A-CB重	5	半弧文5式	同じ		
223 長野県飯田市	金堀塚古墳	円墳		13.4	中Ⅲ期~ 中Ⅳ期	分類不可	8	不明瞭	検討対象外	勾玉・刀	
224 長野県飯田市	宮の平古墳	円墳			不明	分類不可		不明瞭	検討対象外	勾玉・刀・剣・鉄鏡・	

第23表 内行花文鏡一覧

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面径	遺跡年代 /大貫編 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様 数	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
新潟県佐渡市	蔵王遺跡		祭祀遺跡	10.5	前期	D-B	8	珠文1式	同じ		
東京都八王子市	館町515号遺跡			7.0	前期	D-B'N	4	無文	同じ		
東京都大田区	扇塚古墳			8.5	前期	D-B	5	珠文3式(大分)	同じ		
千葉県市原市	御林跡遺跡第151号住居址	竪穴住居	集落?	7.08	前期	D-BD	6	珠文1式	同じ		
千葉県市原市	新星塚古墳北郭	前方後円墳	60	10.1	前V期~ 前四期	D-BD	6	珠文1式		管玉96・琥珀勾玉1・水晶勾玉1・石鏡1、棺外から刀子5・剣1・槍1・鉄鍬1・斧1・鏃2・鏃1	南御:珠文鏡
千葉県市原市	御霊崎古墳	円墳	30	11.5	後期	ACA-B	6	不鮮明	検討対象外	直刀・鉄鍬	
千葉県山武市	島戸境1号墳	円墳	3.65 x 29.9	7.5	前VI期	ADA-B亜	5	珠文3式	同じ		振文鏡2・珠文鏡1
千葉県香取郡神崎町	西之城古墳	前方後円墳		10.2	不明	D-BD		珠文1式		鉄鍬	
群馬県高崎市	観音塚古墳	前方後円墳	105	10.7	後IV期	D-B	7	半弧文1式	同じ	大刀・斧・鉈・金環	圓文帯神獸鏡1・龍鏡1・五筋鏡1
群馬県高崎市	長者屋敷天王山古墳	前方後円墳	71	8	前V期~ 前四期	D-B	6	珠文3式		ガラス小玉・水晶管器玉2・碧玉管玉13・石鏡2・滑石模造品・滑石白玉・	変形珠文鏡1・変形神獸鏡1・内行花文鏡1
群馬県高崎市	下佐野遺跡I地区A区4号前方後方墳	前方後方墳		8	前I期~ 前II期	D-BD	8	無文			
群馬県群馬郡大類村	柴崎壺沢古墳	円墳	15~18	10.4	後期	D-B	8	珠文2式	同じ	槍・斧	舶載三角縁神獸鏡1、 仿製三角縁神獸鏡1、 内行花文鏡1
群馬県群馬郡大類村	柴崎壺沢古墳	円墳	15~18	9.8	中I期	D-BS	6	珠文2式	同じ	"	"
群馬県藤岡市	白石稲荷山古墳東郭	前方後円墳	140	9.4	中I期	分類不可	不明	不明	検討対象外	勾玉・ガラス小玉・ガラス管玉・碧玉管玉・滑石模造品多数。	
群馬県高崎市	保渡田薬師塚古墳	前方後円墳	105	9	後I期	A-CB	4	変形文5式	異なる		
群馬県佐波郡玉村町	軍配山古墳	円墳	40	13.2	前III期~ 前IV期	不鮮明		不鮮明	検討対象外	琥珀勾玉2・硬玉勾玉2・碧玉管玉36・刀・鉄鍬・斧	内行花文1

第23表 内行花文鏡一覽

新所在地	遺跡名	遺跡	規模	面積	遺跡年代 /大冢 年	分類名	花 文 数	花 文 間 文 様	花文の円の 直径・同じ /異なる	副葬品	共伴鏡
群馬県伊勢崎 市	赤堀茶臼山古墳2号埴	帆立貝型古墳	59	8.1	中I期	D-BD	6	珠文1式		刀	
群馬県太田市	鍾馗塚古墳	円墳		11.1	前Ⅲ期~ 前Ⅳ期	分類不可	7	珠文3式	検討対象外	管玉・勾玉・石鏡2・刀・剣・鉄鏡	六獣鏡1
群馬県新田 郡鳥之郷村	太田市出土	出土地不明		7	不明	D-B	6	不詳明	検討対象外		
栃木県足利市	助戸十二天古墳	不明	19	14.1	中Ⅲ期~ 後I期	A-CB重	5	変形文9式	異なる	勾玉・管玉・刀・埴・飾鏡1・馬具	内行花文鏡1
栃木県足利市	助戸十二天古墳	不明	19	11.2	中Ⅲ期~ 後I期	D-BYS	6	不詳明	検討対象外	勾玉・管玉・刀・埴・飾鏡1・馬具	内行花文鏡1
茨城県石岡市	丸山1号墳	前方後方墳	55	8.2	前Ⅴ期~ 前Ⅳ期	D-BS	6	珠文1式	不詳明	小玉・管玉・丸玉・勾玉・刀・刀子・剣	
茨城県真茨城 郡磯浜町	鐘塚古墳	前方後円墳	96.4	11	前Ⅴ期~ 前Ⅳ期	A-BSS重	6	不明	検討対象外	ヒスイ勾玉5・碧玉管玉23・石鏡6・滑石 製模造品・滑石玉類・刀1・刀子6・埴 2・鎌・櫛	四獣鏡1
埼玉県熊谷市	北鳥遺跡周溝跡			7.7	中Ⅳ期~ 後I期						
福島県会津若 松市	会津田村山古墳	帆立貝型古墳	24.95	11.2	前期					ガラス小玉10・碧玉管玉3・刀・刀子・ 剣・土師器	
福島県会津若 松市	会津田村山古墳	帆立貝型古墳	24.95	9.5	前期		6	珠文3式	不詳明	"	
宮城県伊具郡 丸森町	台町20号墳	前方後円墳	23	11.2	後Ⅱ期	D-BYS	6	不詳明	検討対象外	小玉76・勾玉5・刀子51・管玉3・漆麻 玉1・刀・飾鏡1・銅・銅環・須臾器	飾鏡1
慶尚南道昌原 市	三東洞18号墓			6.1	前期	D-BS	6	不詳明	検討対象外		

内行花文鏡出土遺跡参考文献

《 1 鹿児島県神領 1 号地下式横穴》

甲斐貴充編 2012 『蒼き海路を統べるもの～古墳時代前半の日向海岸部～』宮崎県立西都原考古博物館。

《 2 宮崎県六野原 5 号墳》

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 3 宮崎県檜山古墳群》

東 憲章 2003 『遺物たちの帰郷展』宮崎県立西都原考古博物館。

《 4 宮崎県蓮ヶ池横穴》

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 5 大分県千石古墳》

賀川光夫 1971 『大分県の考古学』吉川弘文館。

《 6 熊本県番出 1 号墳》

島津義昭 1983 「番出一号墳」『肥後考古』3、肥後考古学会、52 - 53 頁。

江本 直・島津義昭・木村幾太郎 1978 「阿蘇谷の石棺」『九州考古学』53、九州考古学会、16 - 19 頁。

《 7 熊本県長目塚古墳》

島津義昭 1983 「長目塚古墳」『肥後考古』3、肥後考古学会、52 頁。

《 8 熊本県立花大塚古墳》

樋口隆康 1979 『古鏡』新潮社。

乙益重隆 1983 「立花大塚古墳」『肥後考古』3、肥後考古学会、48 - 49 頁。

《 9・10 熊本県門前 1 号墳》

松村道博・高木恭二 1983 「門前 1 号墳 I」『肥後考古』3、肥後考古学会、49 頁。

《 11 熊本県城の本古墳》

松本健郎・黒田 司 1983 「城の本古墳」『肥後考古』3、肥後考古学会、53 - 54 頁。

《 12 熊本県高橋稻荷石棺群》

三島 格・高木恭二 1983 「高橋稻荷石棺群」『肥後考古』3、肥後考古学会、51 頁。

頁。

《 13 熊本県ハママ 2 号石棺 》

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 14 熊本県辻古墳 1 号石棺 》

原口長之・高木恭二 1983 「辻 1 号石棺」『肥後考古』3、肥後考古学会、46 - 47 頁。

《 15 長崎県朝日山遺跡 4 号箱式石棺墓 》

樋口隆康 1953 「対馬の原史遺跡（一）」『津島』東亜考古学会、76 - 83 頁。

《 16 佐賀県稲佐古墳群 》

大園 弘編 1977 『柁島山遺跡調査報告書 付佐賀県下出土の古鏡—弥生・古墳時代』佐賀県立博物館調査研究所第 3 集、佐賀県立博物館。

《 17 佐賀県小隈古墳 4 号石室 》

木下之治 1959 「佐賀県大和町小隈古墳調査報告」『考古学雑誌』第 44 卷第 3 号、日本考古学会、22 - 29 頁。

佐賀県立博物館 1979 『鏡・玉・剣—古代九州の遺宝』佐賀県立博物館。

《 18 佐賀県高島古墳 》

佐賀県・佐賀県教育委員会編 1976 「高島古墳」『佐賀県史跡名勝天然記念物調査報告』下巻、青潮社、477 - 491 頁。

佐賀県立博物館 1979 『鏡・玉・剣—古代九州の遺宝』佐賀県立博物館。

《 19 佐賀県雄塚古墳 》

木下之治 1974 『姫方遺跡』佐賀県教育委員会。

《 20 佐賀県平原遺跡 2 区 S X 222 》

徳永貞紹編 1993 『平原遺跡Ⅱ』佐賀県教育委員会。

《 21 福岡県油田古墳群 1 号墳 》

渡辺生気・柳田康夫 1969 『油田古墳群』福岡県教育委員会。

《 22・23 福岡県老司古墳 3 号石室 》

佐賀県立博物館 1979 『鏡・玉・剣—古代九州の遺宝』佐賀県立博物館。

《 24 （伝）福岡県仲津郡 》

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 25 福岡県沖ノ島 16 号遺跡 》

- 原田大六編 1961 『続沖ノ島』宗像神社復興期成会。
- ◀ 26 - 28 福岡県沖ノ島 17 号遺跡 ▶
- 原田大六編 1961 『続沖ノ島』宗像神社復興期成会。
- ◀ 29 福岡県沖ノ島 19 号遺跡 ▶
- 田中 琢 1979 『日本の原始美術 8 古鏡』講談社。
- ◀ 30 福岡県七夕池古墳 ▶
- 佐賀県立博物館 1979 『鏡・玉・剣—古代九州の遺宝』佐賀県立博物館。
- ◀ 31 愛媛県長作森古墳 ▶
- 森 光晴 1986 「長作森古墳」『愛媛県 資料編 考古』愛媛県、562 頁。
- ◀ 32 愛媛県大日裏山 1 号墳 ▶
- 松岡文一 1964 「愛媛県の古墳文化の概要」『伊豫史談』第 171 号、伊豫史談会、44 - 55 頁。
- ◀ 33 香川県前の原 7 号石棺 ▶
- 松本敏三・岩崎 孝編 1983 『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館。
- ◀ 34 香川県快天山古墳 2 号石棺 ▶
- 古瀬清秀 2002 『岩崎山第 4 号古墳・快天山古墳発掘調査報告書』津田町教育委員会・綾歌町教育委員会。
- ◀ 35 香川県快天山古墳 3 号石棺 ▶
- 古瀬清秀 2002 『岩崎山第 4 号古墳・快天山古墳発掘調査報告書』津田町教育委員会・綾歌町教育委員会。
- ◀ 36 香川県津頭東古墳 ▶
- 松本敏三・岩崎 孝編 1983 『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館。
- ◀ 37 香川県ハカリゴロ古墳 ▶
- 渡辺明夫 1983 『鶴尾神社 4 号墳調査報告書』高松市教育委員会。
- ◀ 38 香川県石清尾山摺鉢谷出土 ▶
- 松本敏三・岩崎 孝編 1983 『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館。
- ◀ 39 香川県成山 1 号墳 ▶
- 松本敏三・岩崎 孝編 1983 『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館。
- ◀ 40 香川県龍王山古墳 ▶
- 松本敏三・岩崎 孝編 1983 『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館。

◀ 41 香川県岩崎山5号墳 ▶

古瀬清秀他編 2002 『岩崎山第4号古墳・快天山古墳発掘調査報告書』津田町教育委員会・綾歌町教育委員会。

◀ 42 徳島県長谷古墳 ▶

天羽利夫編 1983 『徳島県博物館紀要』第15集、徳島県博物館。

◀ 43 徳島県清成古墳 ▶

石井町文化財保護委員会 1969 『石井町文化財調査報告書』第4集、石井町文化財保護委員会。

◀ 44 山口県柳井茶臼山古墳 ▶

梅原末治 1921 「周防国玖珂国柳井町水口茶臼山古墳調査報告」『考古学雑誌』第11巻第8号、考古学会、24 - 38頁。

◀ 45 山口県吉田古墳 ▶

弘津史文 1928 「防長通信」『考古学雑誌』第18巻第7号、日本考古学会、63 - 64頁。

◀ 46 山口県松崎古墳 ▶

小野忠熙・中野一人・桑原邦彦・辻田耕次 1981 『松崎古墳』宇部市教育委員会。

◀ 47・48 山口県赤妻古墳 ▶

弘津史文 1928 「周防国赤妻古墳並茶臼山古墳（其一）」『考古学雑誌』第18巻第4号、日本考古学会、20 - 40頁。

梅原末治 1921 「周防国玖珂国柳井町水口茶臼山古墳調査報告（下）」『考古学雑誌』第11巻第9号、日本考古学会、10 - 19頁。

弘津史文 1928 『防長漢式鏡の研究』山高郷土史研究会。

◀ 49 広島県丸古古墳 ▶

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

◀ 50 広島県恵下1号墳 ▶

松本琢己編 1985 『上福万遺跡・日下遺跡・石州府第1遺跡・石州府古墳群』財団法人鳥取県教育文化財団。

◀ 51 広島県横路1号墳 ▶

鍛冶益生 1982 『中国縦断道自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告』3、広島県教育委員会。

◀ 52 広島県畑原開山9号墳 ▶

本村豪章 1961 「備後三次市太郎丸古墳調査報告」『古代吉備』第4集、古代吉備研究会、10 -

20 頁。

《 53 広島県善法寺 9 号墳》

潮見 浩編 1974 「善法寺第 9 号古墳」『広島県双三郡・三次市史料総覧』第 5 篇、広島県双三郡三次市史料総覧刊行会、21 頁。

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

《 54 広島県宮ノ谷 8 号墳》

福井万千ほか 1977 『三原市史 通史編』第 1 巻、三原市役所。

《 55 広島県太田古墳》

植田千佳穂編 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

《 56 広島県石鎚権現 5 号墳》

青山 透・三枝健二・高倉浩一・森重彰文編 1981 『石鎚権現遺跡群発掘調査報告』（財）広島県埋蔵文化財調査センター。

《 57 広島県太田古墳》

植田千佳穂 1993 『ひろしまの青銅器』広島県立歴史民俗資料館。

《 58 広島県山ノ神 1 号墳》

脇坂光彦 1983 『府中・山ノ神 1 号古墳発掘調査報告』府中市教育委員会。

《 59 岡山県伊与部山 2 号墳》

近藤義郎 1987 「伊与部山 2 号古墳」『総社市史 考古資料編』総社市、191 - 195 頁。

《 60 岡山県江崎古墳江崎 D》

遠山荒次 1926 「岡山県の古墳（其四）」『考古学雑誌』第 16 巻第 3 号、日本考古学会、52 - 62 頁。

《 61 岡山県殿山 9 号墳》

平井 勝 1982 『殿山遺跡 殿山古墳群』岡山県教育委員会。

《 62 岡山県浅川 3 号墳》

岡山県古代吉備文化財センター編 1998 『高下遺跡・浅川古墳群ほか・檜原古墳群・根岸古墳』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 123、岡山県古代吉備文化財センター。

《 63 岡山県用木 15 号墳第 1 主体部》

岡山県山陽町教育委員会編 1975 『用木古墳群』岡山県山陽町教育委員会。

《 64・65 （伝）岡山県邑久町》

- 小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。
- ◀ 66 岡山県月の輪古墳 ▶
- 湊 哲夫 1990 『美作の鏡と古墳』津山郷土博物館。
- ◀ 67 岡山県奥の前1号墳 ▶
- 湊 哲夫 1990 『美作の鏡と古墳』津山郷土博物館。
- 実岡 実・生田裕美編 2000 『吉備の古墳』上、吉備考古ライブラリ④、吉備人出版。
- ◀ 68 岡山県竹田9号墳 ▶
- 今井 堯 1984 『竹田遺跡発掘調査報告』第1集、鏡野町教育委員会。
- 湊 哲夫 1990 『美作の鏡と古墳』津山郷土博物館。
- ◀ 69・70 岡山県土居妙見山古墳 ▶
- 土居 徹 1969 「美作鏡野町土居妙見山古墳」『古代吉備』6、古代吉備研究会、31 - 34 頁。
- 湊 哲夫 1990 『美作の鏡と古墳』津山郷土博物館。
- ◀ 71 岡山県近長丸山1号墳 ▶
- 小郷利幸 1992 『近長丸山古墳群』津山市教育委員会。
- ◀ 72 - 77 岡山県鶴山丸山古墳 ▶
- 西川 宏 1986 「鶴山丸山古墳」『岡山県史 考古資料』岡山県、207 - 208 頁。
- 実岡 実・生田裕美編 2000 『吉備の古墳』上、吉備考古ライブラリ④、吉備人出版。
- ◀ 78 島根県石田古墳 ▶
- 瀬古諒子 2004 『石田遺跡発掘調査報告書』松江市教育委員会・(財)松江市教育文化振興事業団。
- ◀ 79 島根県釜代1号墳 ▶
- 飯塚康行ほか 1994 『釜代1号墳他発掘調査報告書』1、松江市教育委員会・(財)松江市教育文化振興事業団。
- ◀ 80 島根県金崎1号墳 ▶
- 第37回山陰考古学研究集会 2009 『山陰の古鏡出土墳』第37回山陰考古学研究集会。
- ◀ 81 島根県奥才14号墳 ▶
- 三宅博士編 1985 『奥才古墳群』鹿島町教育委員会。
- ◀ 82 島根県小谷遺跡 ▶
- 第37回山陰考古学研究集会 2009 『山陰の古鏡出土墳』第37回山陰考古学研究集会。

◀ 83 鳥取県霞 18 号墳 ▶

鳥取県教育文化財団編 2001 『霞遺跡群』(財)鳥取県教育文化財団。

◀ 84 (伝)鳥取県米子市 ▶

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

佐々木 謙・大村雅夫ほか 1964 『福岡古墳群』淀江町教育委員会。

◀ 85 鳥取県上の山古墳 ▶

佐々木謙・大村雅夫ほか 1964 『福岡古墳群』淀江町教育委員会。

◀ 86 鳥取県青木遺跡 F 区 7 号墳第 1 主体 ▶

鳥取県教育委員会編 1976 『青木遺跡発掘調査報告書 I』鳥取県教育委員会。

◀ 87・88 鳥取県馬山(橋津) 4 号墳 ▶

佐々木 謙 1961 『馬山古墳』羽合町教育委員会。

◀ 89 鳥取県青谷上寺地遺跡 ▶

木村直人・君嶋俊行・野島 永・岡村秀典・廣川 守編 2011 『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告 6 金属器』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告 39、鳥取県埋蔵文化財センター。

◀ 90 鳥取県広岡 81 号遺跡 ▶

第 37 回山陰考古学研究集会 2009 『山陰の古鏡出土墳』第 37 回山陰考古学研究集会。

◀ 91 鳥取県本高 14 号墳 ▶

第 37 回山陰考古学研究集会 2009 『山陰の古鏡出土墳』第 37 回山陰考古学研究集会。

◀ 92 鳥取県生山 28 号墳 ▶

鳥取市教育委員会編 1989 『津ノ井遺跡群』鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団。

◀ 93 兵庫県釧田古墳 ▶

櫃本誠一 2002 「釧田遺跡」『兵庫県出土の古鏡』学生社、215 頁。

◀ 94 兵庫県倭文委文古墳 ▶

櫃本誠一 2002 「倭文委文古墳」『兵庫県出土の古鏡』学生社、214 - 215 頁。

◀ 95 兵庫県手柄山南丘 ▶

櫃本誠一 2002 「手柄山」『兵庫県出土の古鏡』学生社、162 頁。

◀ 96 兵庫県梶尾狐塚古墳 ▶

櫃本誠一 2002 「梶尾古墳」『兵庫県出土の古鏡』学生社、146 - 147 頁。

◀ 97 兵庫県王子宮山古墳 ▶

- 鎌谷木三次 1973 『播磨出土漢式鏡の研究』鎌谷木三次。
- ≪ 98 兵庫県五十波古墳群 ≫
- 櫃本誠一 2002 「五十波古墳」『兵庫県出土の古鏡』学生社、195 - 197 頁。
- ≪ 99 兵庫県田多地 3 号墳 ≫
- 櫃本誠一 2002 「田多地 3 号墳」『兵庫県出土の古鏡』学生社、225 - 226 頁。
- ≪ 100 兵庫県深谷 1 号墳第 4 組合式石棺 ≫
- 櫃本誠一 2002 「深谷 1 号墳」『兵庫県出土の古鏡』学生社、246 - 247 頁。
- ≪ 101 兵庫県筒江中山 23 号墳 ≫
- 櫃本誠一 2002 「筒江中山 23 号墳」『兵庫県出土の古鏡』学生社、272 - 273 頁。
- ≪ 102 兵庫県安倉高塚古墳 ≫
- 櫃本誠一 2002 「安倉高塚古墳」『兵庫県出土の古鏡』学生社、58 - 61 頁。
- ≪ 103 兵庫県上板井 2 号墳 ≫
- 市橋重喜・岸本一宏・和田早芳子 1986 『兵庫県文化財調査報告書』第 34 集、兵庫県教育委員会。
- ≪ 104 兵庫県丸山 1 号墳北石室 ≫
- 山本三郎・井守徳男 1977 『丸山古墳群一調査の概要』山南町。
- ≪ 105 兵庫県竜山 5 号墳 ≫
- 山本三郎編 1978 『播磨・竜山 5 号墳発掘調査報告』高砂市文化財調査報告 6、竜山 5 号墳発掘調査団・高砂市教育委員会。
- ≪ 106 京都府枝山古墳 ≫
- 小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。
- ≪ 107 京都府愛宕山 3 号墳 ≫
- 梅原末治 1955 「田辺町興戸古墳」『京都府埋蔵文化財調査報告』21、京都府教育委員会、36 - 48 頁。
- ≪ 108 京都府作り山 1 号墳 ≫
- 樋口隆康 1991 「京都府下出土の古鏡について (2)」『京都府埋蔵文化財論集』第 2 集、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、327 - 334 頁。
- ≪ 109 京都府荒神塚古墳 ≫
- 高橋美久三 1987 『鏡と古墳一景初四年鏡と芝ヶ原古墳』京都府立山城郷土資料館・京都

府立丹後郷土資料館。

《 110 京都府拝田 10 号墳 》

高橋美久三 1987 『鏡と古墳—景初四年鏡と芝ヶ原古墳』京都府立山城郷土資料館・京都府立丹後郷土資料館。

《 111 (伝) 京都府美濃山大塚 》

梅原末治 1920 『京都府史蹟勝地調査会報告』2、京都府。

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 112 京都府西山 4 号墳 》

佐々木 謙編 1961 『馬山古墳』羽合町教育委員会。

《 113・114 京都府興戸 2 号墳 》

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 115・116 大阪府紅葺山 C 3 号墳 1 号棺 》

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 117 大阪府慈願寺山古墳群 》

高槻市史編さん委員会 1973 『高槻市史』第 6 卷、高槻市役所。

《 118 大阪府奥坂古墳群 》

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 119 - 132 大阪府御旅山古墳 》

田代克己 1968 『羽曳野市壺井御旅山前方後円墳調査概報』大阪府教育委員会。

《 133 奈良県古市方形墳東柳 》

伊達宗泰 1968 「古市方形墳」『奈良市史 考古編』奈良市、309 - 356 頁。

《 134・135 奈良県マエ塚古墳 》

小島俊次 1968 『マエ塚古墳』奈良県教育委員会。

《 136 - 142 奈良県衛門戸丸山古墳 》

佐藤虎雄ほか 1968 『奈良市史考古編』奈良市。

徳田誠志 2004 「新山古墳（大塚陵墓参考地）出土鏡群の検討」『三次元デジタル・アーカイブを利用した古鏡の総合的研究』第 2 分冊、橿原考古学研究所研究成果第 8 冊、奈良県立橿原考古学研究所、437 - 448 頁。

奈良県立橿原考古学研究所編 2004 「新山古墳（大塚陵墓参考地）出土鏡群の検討」『三

次元デジタル・アーカイブを利用した古鏡の総合的研究』第2分冊、橿原考古学研究所研究成果第8冊、奈良県立橿原考古学研究所。

《 143 奈良県鶯塚古墳 》

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

《 144 奈良県柳本大塚古墳 》

梅原末治・森本六爾 1923 「大和磯城郡柳本大塚古墳調査報告」『考古学雑誌』第13巻第8号、483 - 492 頁。

《 145 奈良県下池山古墳 》

卜部行弘編 2008 『下池山古墳の研究』奈良県立橿原考古学研究所。

《 146・147 奈良県赤尾熊ヶ谷2号墳1号棺 》

桜井市文化財協会編 2008 『赤尾熊ヶ谷古墳群 鳥見山北麓における古墳群の調査』桜井市文化財協会。

《 148 奈良県新沢129号墳 》

寺沢知子ほか 1981 『新沢千塚古墳群』奈良県立橿原考古学研究所。

《 149 奈良県新沢213号墳 》

寺沢知子ほか 1981 『新沢千塚古墳群』奈良県立橿原考古学研究所。

《 150 奈良県新沢千塚500号墳 》

寺沢知子ほか 1981 『新沢千塚古墳群』奈良県立橿原考古学研究所。

《 151 奈良県高山1号墳 》

千賀 久 1992 『大和の古墳の鏡』橿原考古学研究所。

《 152 奈良県丸尾5号墳 》

井上義光 1989 「丸尾支群の調査」『野山遺跡群Ⅱ』奈良県教育委員会。

《 153 奈良県谷畑古墳 》

網干善教編 1974 『谷畑古墳』榛原町教育委員会。

《 154 奈良県野山2号墳 》

井上義光ほか 1988 『野上遺跡群Ⅰ』奈良県教育委員会。

《 155 奈良県北原西古墳 》

楠元哲夫・竹田政敬ほか 1988 『大和を掘る』Ⅷ、奈良県橿原考古学研究所附属博物館。

《 156 奈良県佐味田貝吹山古墳 》

河上邦彦ほか 1986 「佐味田宝塚古墳」『河合町文化財調査報告』1、河合町教育委員会。

◀ 157・158 奈良県池ノ内1号墳 ▶

泉森 皎 1973 『磐余・池ノ内古墳群』奈良県教育委員会。

◀ 159 - 171 奈良県新山古墳 ▶

梅原末治 1922 『佐味田及新山古墳研究』岩波書店。

徳田誠志 2004 「新山古墳（大塚陵墓参考地）出土鏡群の検討」『三次元デジタル・アーカイブを利用した古鏡の総合的研究』第2分冊、橿原考古学研究所研究成果第8冊、奈良県立橿原考古学研究所、437 - 448 頁。

◀ 172 - 181 奈良県桜井茶臼山古墳 ▶

寺沢 薫（研究代表者） 2011 『東アジアにおける初期都宮および王墓の考古学的研究』平成19年度 - 平成22年度科学研究費補助金基盤研究（A）（課題番号19202025）研究成果報告書、奈良県立橿原考古学研究所。

◀ 182 三重県小牧町出土 ▶

三重県埋蔵文化財センター 1991 『三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

◀ 183 （伝）三重県松阪市 ▶

三重県埋蔵文化財センター 1991 『三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

◀ 184 三重県向山遺跡 ▶

後藤守一 1912 「伊勢一志郡豊地村の二古式墳」『考古学雑誌』第14巻第3号、日本考古学会、31 - 43 頁。

小林三郎 1979 「古墳時代初期倣製鏡の一側面 - 重圈文鏡と珠文鏡 - 」『駿台史学』46、78 - 96 頁。

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『第10回三重県埋蔵文化財展 三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

◀ 185 三重県高田2号墳 ▶

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『第10回三重県埋蔵文化財展 三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

◀ 186 三重県出土地不明 ▶

三重県埋蔵文化財センター編 1991 『第10回三重県埋蔵文化財展 三重の古鏡』三重県埋蔵文化財センター。

- ◀ 187 滋賀県下味古墳第1主体 ▶
鈴木博司・西田 弘ほか 1961 『滋賀県史蹟名勝調査報告』第12冊、滋賀県教育委員会。
- ◀ 188 滋賀県泉塚越古墳 ▶
滋賀県立安土城考古博物館 2006 『吾、天下を左治す一大王と豪族―』滋賀県立安土城考古博物館。
- ◀ 189 滋賀県雪野山古墳 ▶
都出比呂志・福永伸哉・杉井 健編 1996 『雪野山古墳の研究』雪野山古墳発掘調査団。
- ◀ 190 滋賀県山津照神社古墳 ▶
中川泉三 1911 「近江国山津照神社と神寶錢」『考古学雑誌』第1巻第10号、日本考古学会、43 - 48 頁。
- ◀ 191 滋賀県石渕山古墳 ▶
赤澤徳明・本多達哉編 2008 『今市岩畑遺跡』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター。
- ◀ 192 石川県分校高山古墳 ▶
田嶋明人・湯島修平・梶 幸夫 1978 「江沼古墳群分布調査報告」『石川考古学研究会会誌』21号、石川考古学研究会。
- ◀ 193 石川県神谷内古墳群C支群12号墳 ▶
金沢市埋蔵文化財センター編 2004 『神谷内古墳群C支群』金沢市埋蔵文化財センター。
- ◀ 194 富山県板屋谷内5号墳 ▶
杉山大晋 2005 「板屋谷内B・C古墳群の金属製品の一考察」『富山考古学研究 紀要』8、(財)富山県文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所。
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所編 2008 『板屋谷内B・C古墳群・堂前遺跡発掘調査報告』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所。
- ◀ 195 富山県小杉上野遺跡 ▶
藤田富士夫編 1983 『日本の古代遺跡13 富山』保育社。
- ◀ 196 富山県国分山A墳 ▶
小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。
- ◀ 197 岐阜県長塚古墳第2主体部 ▶
檜崎彰一ほか 1979 『岐阜県史』資料編考古・文化財、岐阜県。
- ◀ 198 岐阜県野口古墳 ▶

森本六爾 1926 「二三鏡鑑の新例について」『考古学雑誌』第16巻第5号、日本考古学会、39 - 43 頁。

≪ 199 岐阜県舟木山 24 号墳 ≫

榎崎彰一ほか 1979 『岐阜県史』資料編考古・文化財、岐阜県。

≪ 200 - 202 (伝) 岐阜県可児郡伏見村 ≫

榎崎彰一ほか 1979 『岐阜県史』資料編考古・文化財、岐阜県。

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

≪ 203 愛知県白山藪古墳 ≫

伊藤秋男編 1977 『白山藪古墳発掘調査報告』人類学研究所紀要第6号、南山大学人類学研究所。

≪ 204 愛知県富士ヶ嶺古墳 ≫

名古屋市立博物館編 1984 『守山の遺跡と遺物』名古屋市立博物館編。

≪ 205 愛知県篠木古墳群 ≫

岩野見司編 1976 『愛知の古鏡』毎日新聞社。

≪ 206 愛知県甲屋敷古墳 ≫

岩野見司編 1976 『愛知の古鏡』毎日新聞社。

≪ 207 愛知県北本郷古墳 ≫

岩野見司 1975 「尾張の三角縁神獸鏡」『月刊 歴史手帳』巻3・12号、名著出版、20 - 26 頁。

≪ 208 (伝) 愛知県 ≫

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

≪ 209 静岡県松林山古墳 ≫

加藤菅根編 1939 『静岡県磐田郡松林山古墳発掘調査報告』静岡県磐田郡御厨村郷土教育研究会。

大塚初重ほか 1994 『静岡県史 通史編1』静岡県。

≪ 210 静岡県馬場平古墳 ≫

辰巳和弘編 1983 『引佐町の古墳文化Ⅲ』引佐町史編纂室報告第3冊、引佐町教育委員会。

≪ 211 静岡県馬場平3号墳 ≫

辰巳和弘編 1983 『引佐町の古墳文化Ⅲ』引佐町史編纂室報告第3冊、引佐町教育委員会。

《 212 静岡県五鬼免古墳群 1 号墳東棺 》

焼津市歴史民俗資料館編 1986 『開設記念特別展 古代静岡考古遺宝展－古代のエスプリ－』焼津市歴史民俗資料館。

《 213 静岡県東坂古墳 》

吉原市教育委員会 1958 『吉原市の古墳』吉原市教育委員会。

《 214 静岡県富士岡古墳群 F 49 号墳 》

吉原市教育委員会 1958 『吉原市の古墳』吉原市教育委員会。

《 215 山梨県鳥居原古墳 》

後藤守一 1925 「赤鳥元年鏡発見の古墳」『考古学雑誌』第 14 卷第 6 号、1－14 頁。

《 216・217 (伝)長野県川柳將軍塚古墳 》

森本六爾 1929 『川柳將軍塚の研究』岡書院。

《 218 長野県石川条里遺跡 》

市川隆之・臼居直之編 1997 『石川条里遺跡』長野県教育委員会。

《 219 長野県松節遺跡 》

長野市教育委員会編 1986 『塩崎遺跡群Ⅳ－一道松節－小田井神社地点遺跡－』長野市教育委員会。

《 220 長野県兼清塚古墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編 4 (遺構・遺物)』全 1 巻、長野県史刊行会。

《 221 長野県塚原 10 号墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編 4 (遺構・遺物)』全 1 巻、長野県史刊行会。

《 222 長野県新道平 1 号墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編 4 (遺構・遺物)』全 1 巻、長野県史刊行会。

《 223 長野県金堀塚古墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編 4 (遺構・遺物)』全 1 巻、長野県史刊行会。

《 224 長野県宮の平 2 号墳 》

長野県史刊行会 1988 『長野県史考古資料編 4 (遺構・遺物)』全 1 巻、長野県史刊行会。

《 225 新潟県蔵王遺跡 》

新穂村教育委員会 1998 『新穂村玉作遺跡群村内遺跡発掘調査の概報』新穂村教育委員会。

《 226 東京都館町 515 遺跡 》

- 小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。
- ◀ 227 東京都扇塚古墳 ▶
- 扇塚古墳発掘調査団編 2001 『扇塚古墳発掘調査報告書』扇塚古墳発掘調査団。
- ◀ 228 千葉県御林跡遺跡 ▶
- 鈴木仲秋・山田和夫ほか 1980 『房総風土記の丘展示図録』No. 8、房総風土記の丘友の会。
- ◀ 229 千葉県新皇塚古墳北塚 ▶
- 齋木 勝 1974 『市原市菊間遺跡』(財)千葉県都市部。
- ◀ 230 千葉県御霊崎古墳 ▶
- 小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。
- ◀ 231 千葉県島戸境1号墳 ▶
- 田村 隆・平山誠一・椎名信也編 1994 『島戸境1号墳』山武町教育委員会。
- ◀ 232 千葉県西之城古墳 ▶
- 小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。
- ◀ 233 群馬県観音山古墳 ▶
- 群馬県教育委員会・高崎市教育委員会編 1963 『上野国八幡観音塚古墳調査報告書』群馬県教育委員会・高崎市教育委員会。
- ◀ 234 群馬県長者屋敷天王山古墳 ▶
- 飯塚卓二ほか 1989 『下佐野遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- ◀ 235 群馬県下佐野遺跡 ▶
- 飯塚卓二ほか 1989 『下佐野遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- ◀ 236・237 群馬県柴崎蟹沢古墳 ▶
- 森本六爾 1928 「上野に於ける口始元年鏡出土古墳」『考古学研究』第2巻第4号、7－18頁。
- 保坂三郎 1963 『上野国八幡観音塚古墳調査報告書』群馬県教育委員会・高崎市教育委員会。
- ◀ 238 群馬県白石稻荷山古墳東塚 ▶
- 東京国立博物館編 1983 『東京国立博物館図版目録古墳遺物編』関東Ⅱ、東京国立博物館。
- 後藤守一・相川龍雄ほか 1936 「田野郡平井村白石稻荷山古墳」『群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告』3輯、群馬県。

◀ 239 群馬県保渡田薬師塚古墳 ▶

群馬県立歴史博物館 1980 『群馬の古鏡』群馬県立歴史博物館。

◀ 240 群馬県軍配山古墳 ▶

後藤守一ほか 1937 『古墳発掘品調査報告』帝室博物館。

◀ 241 群馬県赤堀茶臼山古墳2号塚 ▶

後藤守一ほか 1937 『古墳発掘品調査報告』帝室博物館。

保坂三郎ほか 1963 『上野国八幡観音塚古墳調査報告書』群馬県教育委員会・高崎市教育委員会。

◀ 242 群馬県鍾馗塚古墳 ▶

群馬県立歴史博物館編 1980 『群馬の古鏡』群馬県立歴史博物館。

◀ 243 群馬県太田市出土 ▶

東京国立博物館編 1983 『東京国立博物館図版目録古墳遺物編』関東Ⅱ、東京国立博物館。

◀ 244・245 栃木県助戸十二天古墳 ▶

高橋健自 1913 「下野国足利町助戸の古墳及発掘遺物」『考古学雑誌』第3巻第6号、318 - 323 頁。

望月幹夫 1981 「栃木県足利市十二天古墳の再検討」『MUSEUM』No. 361、東京国立博物館、4 - 19 頁。

◀ 246 茨城県常陸丸山1号墳 ▶

茨城県史編さん原始古代史部会編 1974 『茨城県史料考古資料編古墳時代』茨城県。

◀ 247 茨城県鏡塚古墳 ▶

稲村 繁 1983 「茨城県における埴輪の出現」『古墳文化の新視覚』雄山閣出版。

大場盤雄 1954 「茨城県東茨城郡鏡塚古墳」『日本考古学年報』2号、日本考古学協会、89 - 91 頁。

◀ 248 埼玉県北島遺跡周溝跡 ▶

大谷 徹編 2004 『北島遺跡Ⅷ／田谷』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団。

◀ 249・250 福島県会津田村山古墳 ▶

小林三郎 2010 『古墳時代倣製鏡の研究』六一書房。

◀ 251 宮城県台町20号墳 ▶

志間泰治 1954 「宮城県伊具郡金山町臺町古墳群調査概報」『歴史』第7輯、東北史学会、

43 - 52 頁。

《 252 大韓民国慶尚南道三東洞 18 号墓》

小田富士雄 1988 「韓国古墳出土の倭鏡」『考古学叢考』上巻、斎藤忠先生頌寿記念論文集刊行会、549 - 567 頁。

福泉博物館 2009 『神의 거울 銅鏡』福泉博物館。

第6章 石製模造鏡の研究

はじめに

第2章から第5章では小型仿製鏡を中心にその意義について論じてきた。小型仿製鏡のうち素文鏡や重圏文鏡は集落・祭祀遺跡で数多く出土し、珠文鏡や内行花文鏡の一部も、素文鏡や重圏文鏡と比べると割合は低いものの集落・祭祀遺跡からも出土すると指摘した。本章では、青銅鏡を模倣して出現したと考えられる石製模造鏡について、小型仿製鏡との違いを検討し、青銅鏡との違いの意味するところを導き出す。

これまで石製模造鏡⁽¹⁾は、石製模造品の組成の中で議論されることが多く、石製模造鏡のみで検討したものは少なかった。そこで、本研究ではまず石製模造鏡の分類を行い、出土する遺跡や分布などについて考察し、その性格について明らかにしたい。

第1節 石製模造鏡の研究史

石製模造鏡に関連する研究史について述べる。まず、石製模造品について検討を行った高橋健自は、石製模造鏡は、扁平な円板から裁頭円錐形状のものに至るものすべてとしており（高橋 1919）、紡錘車もこれに含めていた。亀井正道は、福島県建鉾山遺跡の報告で、遺跡から出土した石製模造鏡 27 点の分類を試み、第1類から第3類に分けている。第1類は断面の中央部が最も厚く、両端へ行くに従って次第に薄くなるもの。第2類は断面の厚さがほぼ一定しており、縁辺で多少薄くなる程度のもので、面に反りをもたないもの。第3類は中央部からやや厚さを減じながら途中で段を作り、ここで匙面をなして急に薄い縁に終わるものとしている（亀井 1966）。その後は大場磐雄によって、祭祀遺跡出土 11 遺跡、古墳出土 10 遺跡の集成がなされ、古墳出土の石製模造鏡は、祭祀遺跡出土のものより丁寧に作られたものが多く、また出土遺跡の数は西日本に比べ東日本からの出土が多いと指摘されている（大場編 1969・大場 1981）。

河野一隆は石製模造品のうち石製の刀子・斧・鎌を中心に研究した。4世紀末から5世紀前半に、刀子・斧・鎌の小型粗製化や多量化が進み、工具類が衰微し、鏡・下駄・容器類などの品目へと交替することや、古墳から出土している。石製模造鏡は、ほかの石製品よりも遅れて出現すると指摘する（河野 2002・2003）。

木下亘は石製品全体の検討を行った。研究の中で、群馬県築瀬双子塚古墳出土の石製模造鏡は本来の形からかけ離れた形態であり、かろうじて模造原体が何かを判断できる程度となっていると述べる（木下 1988）。

篠原祐一は、有孔円板に石製模造鏡を含めて編年している。石製模造鏡は、有孔円板より前に出現しており、4世紀後半には確認できるとする（篠原 2005）。

沖ノ島遺跡と竹幕洞遺跡の石製模造鏡の関係について述べた研究に岡田裕之と篠原祐一のものがある。岡田は竹幕洞遺跡の石製品組成は長野県神坂峠遺跡や福島県建鉾山遺跡に類似するとし、東山道および関東の祭祀遺跡との類似性を指摘した（岡田 2005）。篠原は竹幕洞遺跡出土のものは、精製品であることから、5世紀初頭から前葉の製作であろうとし、石材の一部は近畿産のもので、地元の頁岩が混ざると指摘している。また沖ノ島遺跡からは精製品に近い鏡形や剣形は出土していないことから、竹幕洞遺跡と沖ノ島遺跡では奉納品の在り方や祭具が異なると指摘する。さらに竹幕洞遺跡の石製模造品については東日本的な系譜に乗るものであるとも述べている（篠原 2012）。

研究史をみると、石製模造鏡の研究はほかの石製模造品の中で研究がおこなわれており、単独で検討されたものは1919年に行われた建鉾山遺跡の検討のみである。石製模造鏡については、近年の研究では集成は行われておらず、分類に関しても細かく検討したものはない。

第2節 石製模造鏡の分類

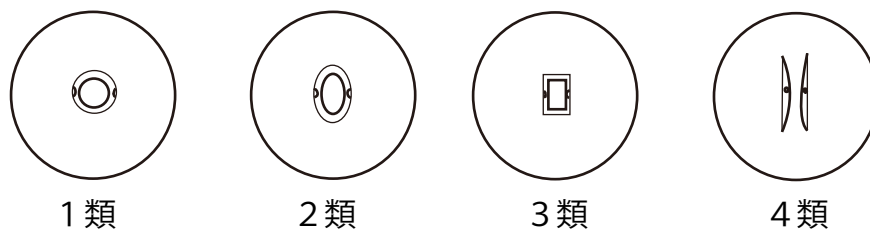
(1) 分類

石製模造鏡を分類した研究は亀井正道の建鉾山遺跡報告以外にはみとめられない。分類は第1類から第3類まで分けている。第1類は断面の中央部が最も厚く、両端へ行くに従って次第に薄くなるもの。第2類は断面の厚さがほぼ

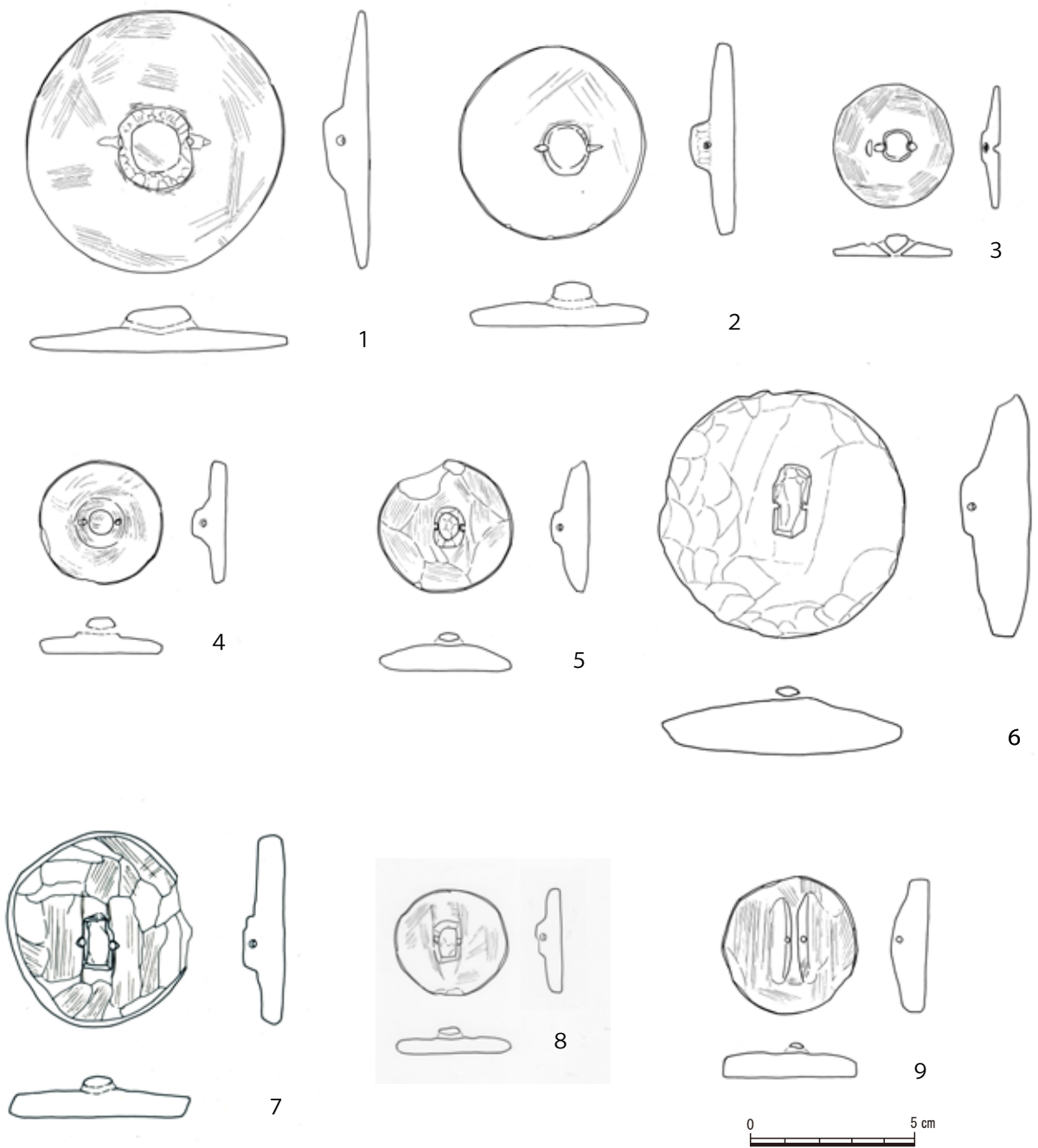
一定しており、縁辺で多少薄くなる程度のもので、面に反りをもたない。第3類は中央部からやや厚さを減じながら途中で段を作り、ここで匙面をなして急に薄い縁に終わるものとしている（亀井1966）。しかし、ほかの遺跡の石製模造鏡は縁に行くにつれて細くなるものが多いことから、別の視点での検討が必要になると考える。

石製模造鏡では文様を表現するものは、わずか3遺跡5点を確認できるのみであることから、文様による分類はできないと考える。今回の分類では、模倣する際に最も注意して製作したと考えられる鈕を、上部からみたときの形状に着目して分類する。以下に分類を示す。58遺跡から出土した石製模造鏡の形状を確認している。

- 1類 鈕が円形を呈するもの。青銅鏡の鈕の形状を忠実に模倣したと考えられる。丸い鈕をもつ青銅鏡にみられる鈕の形状に近いと考える。断面の上部が平らになるものと丸くなるものがある。
- 2類 鈕が楕円形を呈するもの。1類が簡略化したものととらえる。
- 3類 鈕が方形を呈するもの。断面の上部は平らとなる。
- 4類 鈕が細長い方形を呈するもの。断面の上部は平らとなる。この4類の鈕の形状は土製模造鏡にも多くみられるものである。



第 168 図 石製模造鏡の模式図



1・3. 群馬県剣崎天神山古墳 2. 埼玉県須黒神社遺跡
 4～5. 山口県神田遺跡 6. 群馬県三ツ寺I遺跡 7. 群馬県築瀬二子塚古墳
 8. 山口県神田遺跡 9. 岡山県菅生小学校裏庭遺跡
 (1類:1・2・3・4、2類:5、3類:6・7・8、4類:9)

第169図 石製模造鏡の分類

(2) 石製模造鏡出土の資料紹介

石製模造品は、関東地方以北に多いと指摘されているが、石製模造鏡は、南は福岡県から北は山形県までの範囲で出土しており、韓半島においても出土が確認できた⁽²⁾。

1 福岡県春日市門田遺跡

門田遺跡は春日丘陵南部に位置し、包含層から石製模造鏡が出土しているため、時期は判断できない。

石製模造鏡は、滑石製であり、面径は3.6×4.6 cmである、方形の鈕をもち、分類3類である。

2 福岡県福岡市和白遺跡

和白遺跡の詳細は不明である。石製模造鏡の面径は不明である。円形の鈕をもち、分類は1類である。

3 福岡県古賀市田淵遺跡

田淵遺跡の詳細は不明である。石製模造鏡は包含層からの出土である。面径3.9～4.4 cmで、方形の鈕をもち、分類は3類である。

4 福岡県福津市井手ノ上古墳

井手ノ上古墳の墓壇内埋土より石製模造鏡が出土している。模造鏡には赤色顔料が塗布されていることから、葬送儀礼に伴うものであったと考えられる。2号主体部からは刀子類・鉄鏃類・鉄斧類・鋤先など多くの副葬品が出土している。時期は中I期である。

石製模造鏡は、面径6.0～6.1 cmであり、円形の鈕をもち、櫛歯文と1圏線が描かれている。分類は1類である。

5 福岡県宗像市名残6号墳

名残6号墳は標高30～60 mの丘陵上に位置し、横穴式石室より石製模造鏡1・土玉が出土している。時期は後II期である。

石製模造鏡は面径3.6～4.7 cmであり、方形の鈕をもつ。分類は3類である。

6 福岡県京都郡みやこ町五反田遺跡

五反田遺跡では単独で石製模造鏡が出土している。時期は中期から後期である。

石製模造鏡の面径は不明である。方形の鈕をもち、分類は3類である。

7 福岡県北九州市潤崎第4・5

潤崎遺跡は貫川左岸の低丘陵から西に緩傾斜する標高 4.3 m の低地に立地している。集落遺跡であり、包含層から石製模造鏡 1 が出土している。時期は不明である。

石製模造鏡は面径 3.9 ～ 4.4 cm であり、蛇紋岩製である。鏡体厚 1.0 cm、重量 18.9 g である。鏡背中央に方形の鈕を削り出している。鈕の両側から穿孔する。分類は 3 類である。

8 福岡県北九州市長野 A 遺跡

長野 A 遺跡は周防灘にそそぐ竹馬川とその支流である長野川にはさまれた低丘陵上に位置している。古墳時代後期から平安時代にかけての集落遺跡であり、石製模造鏡は包含層より出土している。時期は不明である。

石製模造鏡は、面径 3.9 cm、鏡体厚 0.9 cm、重量 21.3 g であり、滑石製である。鈕の上半部は欠損している。鈕は方形であり、分類は 3 類である。

9 山口県下関市下七見遺跡

下七見遺跡は田部川北側の洪積台地上に位置しており、背後には六万坊山及びそれに連なる低丘陵地を控え、全面の段丘下には田部川により形成された低湿地が広がる。時期は不明である。

竪穴住居址より石製模造鏡が出土している。面径は 5.0 cm であり、滑石製であり、円形の鈕をもつ。分類は 1 類である。

10 山口県下関市神田遺跡（第 175 図①・②）

神田遺跡は集落遺跡であり、包含層から石製模造鏡 2 が出土している。時期は前 V 期～前 VII 期である。

石製模造鏡の実見・観察を行った。1 面（第 175 図①）はいびつな円形を呈し、縁部が一部欠損している。面径 4.1 cm、最大厚 1.2 cm、鈕孔径 0.1 cm である。色調は淡褐色である。鏡面には反りを意識した作成がなされている。鈕は楕円形である。両側から穿孔されたことが窺われる。分類は 2 類である。

もう 1 面（第 175 図②）もいびつな円形であり、鈕は一部欠損している。面径 3.2 × 3.5 cm、最大厚 0.8 cm、鈕孔径 0.2 cm であり、色調は褐色である。縁部は中央部に比べ薄く作られている。鈕は楕円形であり、分類は 2 類である。

11 山口県下関市土井ヶ浜南遺跡

土井ヶ浜南遺跡は標高 34.9 m の寺山から伸びる丘陵先端部に立地している。土師器高坏や手捏ね土器と共に石製模造鏡 1 が出土している。これらの遺物は

川辺から一括した状態で出土しており、川に関する祭祀を想定できそうである。時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。

石製模造鏡は面径 5.5 cm であり、鏡面を磨いた丹念な作りとされている、鈕孔は両方向から先行している。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である、

12 山口県萩市椿遺跡（第 175 図③）

椿遺跡は丘陵上や平野部に立地する弥生時代から近世にかけての遺跡である。石製模造鏡は包含層からの出土であるため、時期は判断できない。

石製模造鏡の実見・観察を行った。面径 3.6 cm、重量 14 g、縁厚 0.4 cm、鈕幅 1.0 cm、鈕高 1.0 cm、鏡体厚 0.5 cm である。色調は黒色を呈し、鏡体は正円であり、鈕は円形であり、分類は 1 類である。長瀬高浜遺跡例は展示にての観察であるが、当遺跡例と類似している。

13 岡山県倉敷市菅生小学校裏山遺跡（第 175 図④）

菅生小学校裏山遺跡は包含層より石製模造鏡 1 が出土している。遺物はほかに土製模造鏡 1・土師器・須恵器・軟質土器・紡錘車・有孔円板が出土している。石製模造鏡の実見・観察を行った。鏡体はいびつな円形を呈する。色調は淡灰色であり、鈕は両側穿孔である。面径 4.1 cm、重量 22 g、鈕高 1.0 cm、鈕孔幅 0.15 cm、鈕孔高 0.15 cm である。石製模造鏡の鈕の形態は長方形である。鏡面は研磨がなされている。分類は 4 類である。

当遺跡からは土製模造鏡 1 も出土している。当遺跡の石製模造鏡は、土製模造鏡の鼻鈕のものに酷似しているが、土製模造鏡も石製模造鏡も鼻鈕をもつ素文鏡を模倣していると推測する。

14 鳥取県湯梨浜市長瀬高浜遺跡

長瀬高浜遺跡は鳥取県のほぼ中部を流れている天神川の右岸にあり、北条砂丘の東端近くに位置する。竪穴住居跡 S I 10 から石製模造鏡 1・手捏ね土器、S I 127 から手捏ね土器・傘形土製品、S I 49 から手焙り形土器が出土している。他の遺物には、銅剣・素文鏡・櫛歯文鏡・内行花文鏡 1・金銅製模造品・銅製模造品・鉄製模造品・銅釧・銅矛形石製品・土鈴・小銅鐸・土師器が出土している。集落遺跡であり、時期は前Ⅵ期～中Ⅶ期である。

面径は 3.4 cm であり、鏡体は円形であり、鈕の形態は円形である。分類は 1 類である。

15 鳥取県鳥取市秋里遺跡

秋里遺跡は千代川下流左岸の自然堤防上に立地する。この地は宗像三女神を祀る三嶋社があり、祭祀遺物は包含層からの出土である。石製模品は鏡1・勾玉が出土しており、土製模造品には鳥舟・舟・馬・傘・勾玉・丸玉・手捏ね土器・手焙り形土器・土師器がある。採集品であり、時期は判断できない。

石製模造鏡は面径約5.5 cmであり、鈕の形態は円形である。分類は1類である。

16 香川県坂出市大浦浜遺跡

大浦浜遺跡は櫃石島に所在し、島の南東部にある海浜部に位置する。石製模造鏡3・須恵器・土玉・紡錘車・ミニチュア甗・土製品・船形土製品・製塩土器が出土している。時期は後期である。

石製模造鏡は3点出土している。鈕の形態が円形のは凝灰岩製で面径3.0 cmである。包含層からの出土であり、分類は1類である。

鈕の形態が方形のものは古代の包含層から出土している。石材は滑石製であり、鏡面は欠損している。残存長1.2 cmであり、分類は3類である。

鈕がいびつであり三角形状を呈するものは、包含層からの出土である。滑石製で面径3.2 cmであり、この形状のものは他に類例がないことから、分類していない。

17 徳島県徳島市鮎喰遺跡

鮎喰遺跡は微高地に立地する弥生時代から奈良時代にかけての集落遺跡であり、包含層より石製模造鏡が出土している。時期は判断できない。

石製模造鏡は面径4.6 cm、重量21.3 gであり、硬質の滑石製である。鈕の形態は円形で、丁寧な研磨が施されている。分類は1類である。

18 大阪府東大阪市若江遺跡

若江遺跡は平野部に位置する弥生時代から江戸時代の複合遺跡である。石製模造鏡は包含層から出土であるため、時期は判断できない。

石製模造鏡は面径5.5 cmの不整円形であり、蛇紋岩製である。鈕の形態は円形で、分類は1類である。

19 大阪府四条畷市蔀屋遺跡

蔀屋遺跡は集落遺跡であり、調査区全体から勾玉・子持勾玉・管玉・白玉・ガラス玉・琥珀玉・土玉・有孔円板・剣形模造品・石製模造鏡・砥石が出土している。

石製模造鏡は面径 5.2 cm であり、鈕の形態は楕円形であり、分類は 2 類である。

20 奈良県橿原市曾我遺跡

曾我遺跡は集落遺跡であり、沼状遺構の水洗作業中に青銅製の素文鏡 3 点出土している。他にも玉作りに関する遺物が大量に出土している。時期は中Ⅱ期～中Ⅲ期である。素文鏡は直径 1.2～2.6 cm である。

石製模造鏡は面径 3.3 cm であり、青緑色のやや硬質の滑石を使用している。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。

21 京都府長岡京市稻荷山古墳

稻荷山古墳の詳細は不明である。石製模造品（鏡 1・斧・刀子・算木状不明品）のみが出土品として伝わっている。

石製模造鏡は面径 8.3 cm であり、背面中央に円形の鈕を作りだす。鏡面には反りがある。鈕の周囲には圏線 1 を描き、内区側は一段低く削られおり、それによって内外区を区別している。青銅鏡の実物に近い断面形態である。分類は 1 類である。

22 京都府京都市鏡山古墳

鏡山古墳は円墳である。遺物は墳頂下約 1.6 m で発見され、長径 2.5 m ほどの楕円形の範囲に小石を多数並べていたとされている。出土遺物には、石製模造鏡 1・四獣鏡 1・銅釧・刀・石製下駄・埴輪が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅱ期である。

石製模造鏡は円形の鈕をもち、分類は 1 類である。面径は約 4.2 cm である。

23 滋賀県草津市中兵庫遺跡

中兵庫遺跡は琵琶湖の東岸に位置する弥生時代から近世の集落遺跡である。溝から石製模造鏡 1 が出土しており、時期は中期から後期である。他の地点からは石製模造品の剣形や有孔円板が出土している。

石製模造鏡は面径 4.1 cm であり、鈕の形態は円形である。分類は 1 類である。

24. 滋賀県草津市門ヶ町遺跡

門ヶ町遺跡は琵琶湖に流れこむ西淀川流域に位置する。遺跡は弥生時代から平安時代の集落遺跡である。

石製模造鏡は、滑石製品に比べて良質な石材を用いている。楕円形の鈕であり、鈕孔は両方向から穿孔されている。分類は 1 類である。時期は後Ⅰ期～後

Ⅱ期である。面径は鈕のみであるため、不明である。

25 滋賀県守山市古高遺跡

古高遺跡は野洲川下流域に位置し、集落遺跡から滑石を中心とする玉製品が出土している。溝状遺構から石製模造鏡1が出土している。その他にも滑石製品や未成品チップなどが多量に出土している。時期は中期から後期である。

石製模造鏡は面径2.7cmであり、約3分の1を欠損する。鏡面は一定方向に丁寧に研磨されている。鈕は削り出されており、頂上にカット面を残す。1mmの鈕孔が貫通している。鈕の形態は円形であり、分類は1類である。

26 滋賀県守山市金ヶ森西遺跡

金ヶ森西遺跡は野洲川の支流である守山川左岸の沖積平野に立地する。古墳時代から奈良時代の集落跡であり、水田から壺に入った状態で珠文鏡が出土している。工事中に石製模造鏡1・多量の土器・有孔円板も出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅶ期である。

石製模造鏡は、面径5.2cmであり、鈕の形態は円形であり、分類は1類である。

27 滋賀県長浜市大戌亥・鴨田遺跡

大戌亥・鴨田遺跡は河川跡が検出されており、水辺の祭祀と報告されている。木製祭祀用具として、刀形・剣形・鏃形・鳥形・舟形があり、石製模造品としては、鏡2・有孔円板・勾玉が出土している。古墳時代初頭を中心とした川跡の祭祀遺跡と報告されている。時期は前期である。

石製模造鏡2面は、共に円形の鈕をもち分類は1類である。面径は報告されていない。

28 長野県下伊那郡阿智村神坂峠

神坂峠は長野県と岐阜県の県境の遺跡である。南北に連なる木曾山脈の中間鞍部に位置し、古くは信濃峠と呼ばれ、記紀万葉に記載のある古代東山道の最高地点である。古墳時代から中世までの長期に渡って祭祀が行われていた峠の祭祀である。遺物には大量の石製品（白玉・剣・有孔円板・勾玉・刀子・斧・鎌・鏡1・馬形）がある。他にも碧玉製管玉・滑石製管玉・棗玉・ガラス製小玉・石製小玉・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・中世陶器・中国磁器・鉄鏃・鉄斧・鉄刀子・鉄ヤリガンナ・鉄環・板状品・砥石・石鏃・磨製石鏃がある。時期は中期から後期である。

石製模造鏡は、面径5.0×5.8であり楕円形である。鈕の形態は方形であり、

分類は3類である。

29 長野県下伊那郡阿智村大垣外遺跡

大垣外遺跡は南小河内区のほぼ中央部に位置し、沢川の北側に広がる扇状地上に立地している。この辺りは古代東山道の通過点の一つと想定されている場所である。祭器19の地点からは、土師器・石製模造品には鏡・剣形品・白玉が出土している。石製模造鏡の総数は、勾玉4・有孔円板52・剣形185・白玉79である。

石製模造鏡は鏡体が楕円形であり、面径約5.0cmであるが、鈕はつくりだしていないため、分類はできない。

30 長野県長野市篠ノ井遺跡

篠ノ井遺跡は、千曲川に流れ込む聖川と岡田川によって区分された地域に位置する。土坑SK58から多量の土師器・滑石製白玉・勾玉・管玉・赤玉・ガラス玉が出土している。

石製模造鏡は遺構検出時に出土しているため、出土位置は不明であるがSK58に伴うと報告されている。時期は中I期～中II期である。石製模造鏡の他、勾玉・剣形・有孔円板も出土している。石製模造鏡は面径3.1cmで、方形の鈕をもつ。分類は3類である。

31 神奈川県相模原市勝坂祭祀遺跡

勝坂祭祀遺跡は相模川の支流である鳩川東岸に位置する。出土地は鳩川により開墾された相模川河岸段丘内の浅い谷の低地部である。上流約100mには湧水地点があり、その脇には有鹿神社の石宮が存在する。遺物は、管玉・白玉・小玉・子持勾玉・石製模造品（鏡・剣・刀子・勾玉）・土師器が出土している。珠文鏡5面、櫛歯文鏡1面、変形六獣鏡1面が湧水地から出土したとある。また珠文鏡1面は鼻鈕である。時期は中I期～中II期である。

石製模造鏡2面が確認でき、1面は面径6.0cm、重量41g、滑石製品で色調は暗青緑色である。鈕は方形であり、鈕孔は両側から斜めに丸く穿孔している鏡体は丸みをもつ。分類は3類である。

もう一面は面径3.3cm、重量30gである。滑石製品で暗青灰色である。鈕は円形で両側から丸く穿孔している。円形の鈕をもつ1類と方形の鈕をもつ3類が同じ遺跡から出土し、これらは当遺跡から出土した銅鏡にも円鈕と鼻鈕がみられることから、それぞれ異なる鈕を模倣したと考えられる。

32 千葉県木更津市長州塚

出土状況等は不明な点が多く、古墳内から滑石の鏡・斧・鎌・刀子が発見されたと報告されている。

石製模造鏡は、面径 9.5 cm であり、鏡体は正円を呈する。鏡面に反りは認められない。鏡背面中央に円形の鈕を設け、その両側から断面 V 字状に鈕孔が穿孔されている。文様は、複合鋸歯文が刻まれており、これは複合鋸歯文帯をもつ仿製鏡を模倣の対象としたものと考えられる。石製模造鏡の中では最も写実的なものである。分類は 1 類である。

33 千葉県市原市草刈六之台遺跡

六之台遺跡の石製模造鏡は表面採集であり、詳細は不明である。

石製模造鏡は面径 9.0 cm であり、鈕の形態は円形であり、分類は 1 類である。

34 千葉県成田市東明神山遺跡

東明神山遺跡は利根川と根木名川が合流する地点にあり、台地上縁辺部に位置する。遺物は石製模造品および未成品がある。白玉・勾玉・剣・有孔円板・鏡 2・斧形が出土している。その他に土製模造品の丸玉がある。竪穴住居 2 軒が検出され、そのうちの 1 軒からは未成品が出土したことから、石製模造品製作の工房と考えられている。時期は中期である。

石製模造鏡は分類 1 類と 3 類が 1 面ずつ出土している。面径は不明である。

35 千葉県香取郡神崎町北の内古墳

北の内古墳から石製模造鏡 1 が出土している。詳細は不明である。面径は不明である。石製模造鏡は 3 類である。

36 千葉県香取郡神崎町出土（熊照寺裏古墳）

石製模造鏡 1 は採集品である。それ以外に、石製品（刀子・石枕・立花）・鉄剣なども出土している。面径は不明である。石製模造鏡は 1 類である。

37 埼玉県深谷市石蒔 A 遺跡

石蒔 A 遺跡は集落遺跡であるが、詳細は不明である。石製模造鏡の詳細は不明である。分類は 1 類である。

38 埼玉県深谷市大野田西遺跡（第 176 図②）

大野田西遺跡は集落遺跡の竪穴住居から石製模造鏡 1 が出土している。その他には土師器・敲石・土製紡錘車が出土している。時期は不明である。

石製模造鏡は、面径約 4.5 cm であり、鈕の形態は円形であり、分類 1 類で

ある。

39 埼玉県東松山市須黒神社遺跡（第 176 図①）

須黒神社遺跡は荒川に臨む舌状台地上に位置する。集落遺跡であり、35号住居跡（7.1 × 7.1 m）から石製模造鏡1・土師器が出土し、61号住居跡からは土玉が出土している。

石製模造鏡の実見・観察を行った。色調は黒色であり、面径は5.6 × 5.9 cm、重量43 g、鈕幅1.5 cm、鈕高1.3 cm、鈕孔幅0.1 cm、鈕孔高0.1 cmである。鈕孔は中央から少し偏っている。鈕は円形で、鈕の頂部は平らであり、断面形態は台形に近い。鈕の形態は円形であり、分類は1類である。

40 栃木県小山市田間東道北遺跡

田間東道北遺跡は石製模造鏡1・勾玉・白玉・有孔円板・剣形が表採されている。石製模造品の未成品もあり、生産遺跡と考えられる。時期は中期である。

石製模造鏡は1面あり、面径5.4 × 6.4 cmであり、鈕の形態は方形である。分類は3類である。

41 栃木県宇都宮市雷電山古墳

雷電山古墳は江曾山島に位置する。起伏する平野部を南に流れる田川と姿川の舌状台地につくられた全長230 mの前方後円墳であり、二重周溝を巡らす巨大墓である。槨の構造は不明である。沖積地との比高は約30～50 mである。遺物は、石製品は鏡・刀子・甲・斧・盾・鎌・櫛など多様な精製品が出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

石製模造鏡2が出土しており、共に鈕は円形である。面径は不明である。分類は1類である。

42 群馬県安中市築瀬二子塚古墳（第 176 図③）

築瀬二子塚古墳は碓氷川中流域の中位段丘上に立地している墳長80 mの前方後円墳であり、この地域で最初に出現した横穴式石室である。明治期の発掘とその後の調査によって、装飾大刀・直刀・刀子・鹿角製刀子・石突・鉄鏃・弓両頭金具・挂甲小札・馬具・釣針・針・鉋・馬具・ヒスイ製勾玉・ガラス製勾玉・碧玉製管玉・水晶製丸玉・水晶製算盤玉・水晶製切小玉・碧玉製棗玉・琥珀製丸玉・水晶製丸玉・ガラス三連玉・ガラス製丸玉・ガラス製小玉・垂飾付耳飾・空玉・石製模造品・須恵器・埴輪が出土している。当遺跡では石製模造鏡の出土位置は不明である。時期は後Ⅰ期である。

石製模造品は刀子・鏃・鎌・白玉・有孔円板・剣・盾が出土している。時期は後Ⅰ期である。

石製模造鏡の実見・観察を行った。不整円形であり、淡褐色を呈する。面径 5.5 × 5.7 cm、重量 52 g、縁厚 0.7 cm、鈕幅 1.7 cm、鈕高 1.3 cm、鈕孔幅 0.15 cm、鈕孔高 0.15 cm、鈕孔形態は円形である。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。鏡背面には鉄製工具で削った痕跡が確認できる。

43 群馬県高崎市三ツ寺Ⅰ遺跡（第 178 図①）

三ツ寺Ⅰ遺跡は榛名山東南井野川左岸の台地上にある豪族居館である。北西約 1 km に同時期の前方後円墳である愛宕塚古墳・八幡塚古墳・薬師塚古墳が位置し、これらの古墳は三ツ寺遺跡の居館の被葬者である可能性が高いとされる。祭祀の対象は水の祭祀である。出土遺物は約 250 点あり、滑石製石製品（子持勾玉・鏡 1・刀子・斧・鎌・勾玉・有孔円板・剣形・白玉・有孔方板）が出土している。その他は土師器・木製模造品の刀・弓・鳥形がある。石製模造鏡は西濠からの出土である。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期と判断している。

石製模造鏡の実見・観察を行った。色調は灰色であり、不整円形を呈する。面径 7.4 cm、重量 137 g、縁厚 0.7 cm、鈕幅 2.0 cm、鈕高約 2.0 cm、鈕孔幅 0.15 cm、鈕孔高 0.15 cm である。鈕孔形態は円形である。鏡背面には粗く面を整えた鉄製工具の痕跡がみえる。鈕は方形であり、鈕孔は両側穿孔である。全体的に摩耗しており、製作時の研磨の痕跡が明瞭ではないなど、長期間の使用が想定できる。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。

44 群馬県高崎市剣崎長瀬西古墳

長瀬西古墳は台地上に位置する円墳群の一つであり、高さ 6 m の円墳である。墳丘には埴輪や葺石はなく、自然石をもって築造された。竪穴式石室の中には、青銅鏡を中心に石製模造品の類が一端に置かれていた。出土遺物には捩文鏡 1・三角板革綴式短甲・銚・石突・鉄鏃一括の他、石製模造品（鏡 1・斧・鎌・刀子・勾玉・白玉・有孔円板）がある。出土状況は、捩文鏡を胸の上に置き、石製模造鏡は他の石製品と共に、頭部に接した場所に置かれていた。短甲などの武器武具は脚先におかれていたと報告されており、青銅鏡と石製模造鏡の出土状況に明らかな差がみられる。時期は中Ⅳ期である。

石製模造鏡は面径 6.3 cm であり、鏡面の周縁はわずかに欠損する。鏡面には反りはない。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。

45 群馬県高崎市剣崎天神山古墳（第177図①・②）

天神山古墳は工事の破壊によって、石製模造品（鏡2・埴・槽・杵・斧・鎌・刀子・琴柱形石製品）の79点が出土している。多様な精製石製品が副葬されている点特徴的である。石製模造鏡の出土位置は不明であり、時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。

石製模造鏡の実見・観察を行った。1類が大小1点ずつみられ、大型のものは正円であり、色調は濃緑色である。鈕は形態は正円である。面径6.9cm、重量70g、鈕幅2.5cm、鈕高1.3cm、鈕孔幅0.2cm、鈕孔高0.2cmである。分類は1類である。

小型のものは、色調が濃緑色で、面径3.7cm、重量7g、鈕幅0.9cm、鈕高0.7cm、鈕孔径約0.2cmである。鈕は円形であり、鈕孔は両側から下方斜めに向かって穿孔し、正円である。鈕は鏡面にまで貫通した孔が観察できる。分類は1類である。

46 群馬県甘楽郡甘楽町出土

古墳からの出土と伝えられており、遺物は石製模造鏡以外に、珠文鏡1・碧玉製管玉・ガラス製管玉・白玉・直刀・砥石・石製刀子・滑石製斧・轡・鈴杏葉・三環鈴などがみられる。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

石製模造鏡3面が出土しており、各鏡に櫛歯文と圏線が刻まれている。面径はそれぞれ7.0cm・7.6cm・8.3cmである。鈕は楕円形および方形であり、分類2類は1面、分類3類は2面である。

47 茨城県稲敷郡美浦村大塚古墳

大塚古墳の詳細は不明であり、石製模造鏡以外に、仿製方格規矩鏡1も出土している。

石製模造鏡の鈕の形態は方形であり、分類は3類である。面径は記述がないため不明である。

48 茨城県稲敷市立切遺跡18号竪穴住居

立切遺跡は新利根川左岸の台地上に立地し、北東約5kmには尾島祭祀遺跡や尾島神社が存在する。竪穴住居跡からの出土であり、石製模造品の工房跡と報告されている。石製品（勾玉・鏡2・剣・有孔円板・白玉）・手捏土器が出土している。

18号竪穴住居跡からは、石製品（鏡1・剣形・有孔円板・円板・白玉・石核）

が出土しており、その他に、土師器・耳環・不明鉄片・磨石が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

石製模造鏡は面径 6.6 × 7.0 cm であり、鈕の形態は方形である。分類は 3 類である。

49 茨城県稲敷市宮の脇遺跡

宮の脇遺跡は霞ヶ浦湖畔の標高 5～6 m の砂州状の台地に立地し、南東側には天安年間の創設とされる尾島神社が存在する。集落遺跡の遺構外から石製模造鏡 1 が出土している。それ以外に石製剣形品・有孔円板・手捏土器・土師器・石製紡錘車・土玉・環状土錘が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

石製模造鏡は面径 4.1 × 4.3 cm である。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。

50 茨城県稲敷市尾島貝塚

尾島貝塚は、霞ヶ浦に立地する遺跡であり、浮島での祭祀が行われたとされている。石製模造鏡 1 以外には、土師器・須恵器・土製品（鏡・鋤先・勾玉）・石製品（剣・砥石・有孔円板・白玉・紡錘車）・滑石の石核・鉄刀子・鉄釘・鉄鎌・鉄斧・鉄鋤先などが出土している。当遺跡の特徴は祭祀遺跡で出土する土製模造鏡と石製模造鏡が共に出土している点である。なお、土製模造鏡は 24 点出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

石製模造鏡は面径 4.9 × 5.2 cm であり。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。

51 茨城県北茨木市立野遺跡

立野遺跡は五浦海岸の段丘上に立地し、航海の安全祈願を行った祭祀と報告されている。約 10 m²の間から石製品（有孔円板・勾玉・鏡 6・刀子・剣・鎌）が出土している。時期は中Ⅲ期～後Ⅱ期である。

石製模造鏡は 2 面あり、面径はそれぞれ 5.2 cm・5.7 cm である。鈕は共に欠損しているが、残存部の形状から円形の鈕と判断できる。分類は 1 類である。

52 福島県郡山市正直遺跡

正直遺跡は台地上の沖積平野に臨む浅い支谷に立地する。遺物は A・B・C 地点にての出土である。B 地点にて、現地地表下 30～40 cm の間に滑石製模造品と土師器が無秩序に包含された状態で出土している。出土遺物は石製品（滑石製鏡・有孔円板・剣形品・勾玉・白玉等）・手捏ね土器・土師器であり、石製品は採集品を合わせると 500 点に近くのものにのぼる。詳細な時期は判断できない。

石製模造鏡は鈕を含む部分が残存しており、鏡背面は削り痕がみられる。製作は丁寧ではない。復元面径 5 cm であり、鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。

53 福島県白河市建鉾山遺跡

建鉾山遺跡は県南部にある阿武隈川の支流社川南岸の残丘である建鉾山周辺に立地している。標高 420 m の三角錐形の山で、山頂付近には基盤岩の露頭がみられる。祭祀の対象は山岳とされる。遺物包含層から石製模造品（勾玉・鏡・釧・鎌・刀子・剣・有孔円板）・土師器が出土している。その他には表採資料として珠文鏡 1・鉄鉾・鉄剣・鉄刀がある。

石製模造鏡は 27 面あり、分類は 1 類 5 面、2 類 9 面、3 類 5 面、不明 8 面である。

面径は最小のもので 4.0 cm、最大のもので面径 9.3 × 9.5 cm である。

54 福島県いわき市中塩遺跡

中塩遺跡は夏井川東岸の低位段丘に立地している。祭祀対象は明確ではないが、本遺跡の東方に水石山と呼ばれる神奈備型の山が祭祀の対象といわれている。石製品は（有孔円板・有孔方板・剣形・鏡 1・勾玉・白玉・紡錘車）・土師器・須恵器がある。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

石製模造鏡は、面径 5.4 cm の不整円形であり、鏡背面中央からやや偏った場所に方形の鈕が削りだされ、左右から断面 V 字形に鈕孔が穿たれている。全体的に整形された痕跡がある。分類は 3 類である。

55 福島県本宮市天王壇古墳

天王壇と称する円墳の墳丘裾から石製品が出土したと報告されている。滑石製の鏡 1・櫛・刀子・有孔円板が発見されている。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

石製模造鏡の面径 6.5 cm、鈕の位置はやや中央から偏っており、細長い鈕が作られている。鏡面にはわずかな反りを作り出している。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。

56 福島県相馬郡鹿島町真野古墳群 A 地区 49 号墳

前野古墳群 A 地区 49 号墳は約 80 基の古墳群中のほぼ中央に位置する円墳で、径 21 m・高さ 2 m である。古墳中央の礫塚からの西端からは石製模品（鏡 1・槽・斧・鎌・刀子）の計 11 点が近接した場所から出土している。その他に滑石製品の白玉のみが東端から 1.5 m の南壁に接して出土している。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

石製模造鏡は面径 8.5 cm、鏡背面中央に円形の鈕を設けている。鈕は円形であり、鈕の上部は平らに作られる。滑石は灰色と褐色が混ざっている。滑石製品の原石は真野川中流域の上真野村六神山麓のものと考えられている。分類は 1 類である。

57 山形県尾花沢市八幡山遺跡

八幡山遺跡は奥羽山脈の西側、銀山川と丹羽川とに挟まれた傾斜面に位置する。宮城県古川市付近から軽井沢峠を越えて、山形県側の尾花沢に至る東山道に沿った場所である。山越えや峠越えの祭祀と考えられている。石製品（鏡 4・斧・鎌・刀子・有孔円板・剣形・勾玉・小玉）・土師器・鉄刀片が出土する。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期である。

模造鏡は粘板岩製であり、一面は非常に大型で面径 15.6 cm である。鈕の形態は楕円形であり、分類 2 類である。

他の 2 面は 5.5 cm・6.8 cm である。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。

もう一面は面径 5.9 cm である。鈕の形態は方形であり、分類は 3 類である。鈕孔はない。石製鏡は多くが穿孔によって鈕孔が形成されていることを考えると例外的といえる。展示にて実見を行ったところ、色調はいずれも灰色であり、大形のものが最も研磨が丁寧である。

58 宮城県加味郡色麻町念南寺古墳

念南寺古墳は鳴瀬川右岸の丘陵上に立地している。この丘陵は、奥羽山脈から派生し東に延び出た標高 60 m 前後の台地である。古墳が立地する丘陵部と、鳴瀬川対岸の平野部との比高差は 40 m 前後ある。

全長 56 m の前方後円墳であり、土師器・須恵器・石製品には鏡 1・斧・鎌・有孔円板が出土している。石製模造鏡は盗掘坑より出土しており、本来は石室内部か石室外に置かれたものかは判断できない。

石製模造鏡は面径 7.2 cm であり、鏡面は丁寧に研磨されているが、部分的に工具の加工痕や剥離面が残る。背面は全面に工具の加工痕が残ると報告されている。

鈕孔は欠損しているが、残存部分から、形状は方形であると判断する。分類は 3 類である。

59 全羅北道扶安郡竹幕洞遺跡

竹幕洞遺跡は韓半島の南海岸に突出した邊山半島の西端にあり、海拔 600 m

の丘陵と海に囲まれている。この遺跡の周辺は、海水の流れが非常に複雑であり、冬は季節風が強く、昔から遭難の危機が多いとされる。現在は水城堂と呼ばれる小さな祠が建ち、近年に至るまで海の祭祀が続けられていた。

鉄鏡1・銅鏡3・鉄銚・鉄鏃・鉄刀・鉄劍・鉄刀子・鉄斧・鉄鎌・札甲片・鞍片杏葉・銅鈴・鉄鈴・銅鐸・鉄鐸・絞具・皮金具・青銅環・鉄環・鉄鋌・不明鉄器・陶質土器が出土している。

石製模造鏡は2点出土している。大型のものは14.4 cmであり、小型のものは6.2×7.0 cmである。展示品を確認したところ、色調は共に暗灰色である。大型のほうの石製模造鏡の鈕は円形であり、上面は平らになっている。鈕の周囲は一段低く掘り込まれている。鈕の周りを掘り込む石製模造鏡は、茨城県立野遺跡や山形県八幡山遺跡例にみられる。面径については、竹幕洞遺跡例は、山形県八幡山遺跡例に次ぐ面径である。分類は1類である。小型のものは、方形の鈕であり、分類は3類である。

報告書によると、偏光顕微鏡観察の結果、変成岩の一種である頁岩を主に用いられており、この石材は遺跡の周囲から採集されたと考えられている。

第3節 分類と出土時期の検討

遺跡の時期ごとにどのような分類がみられるかを述べる。前期、中期、後期の順で説明するが、前Ⅳ期～中Ⅱ期のように時期が前期と中期の両方に含まれる場合には、中Ⅰ期～中Ⅳ期に含めている。時期ごとの分布について述べ、古墳出土例と集落・祭祀遺跡出土例に分けて説明していきたい。

(1) 石製模造鏡の分布 (第170図)

前Ⅴ期～前Ⅶ期 出土例は非常に少なく、山口県下七見遺跡・山口県神田遺跡・鳥取県長瀬高浜遺跡・滋賀県大戌亥鴨田遺跡・滋賀県金ヶ森西遺跡のみであり、中国地方と滋賀県のみで分布する。分類は1・2類である。石製模造鏡は前Ⅴ期から確認された。

中Ⅰ期～中Ⅳ期 24遺跡で出土している。福岡県井手ノ上古墳・山口県土井ヶ浜南遺跡・岡山県菅生小学校裏山遺跡・長野県篠ノ井遺跡・千葉県北の内古墳・千葉県東明神山遺跡・千葉県長州塚・埼玉県須黒神社遺跡・栃木県雷電山古墳・

栃木県田間東道北遺跡・群馬県三ツ寺Ⅰ遺跡・群馬県剣崎長瀬西古墳・群馬県剣崎天神山古墳群馬県甘楽郡甘楽町出土・茨城県立切遺跡・茨城県宮の脇遺跡・茨城県尾島貝塚・茨城県県立野遺跡・福島県真野古墳群A地区49号墳・福島県中塩遺跡・福島県天王壇古墳・福島県建鉾山遺跡・山形県八幡山遺跡・宮城県念南寺古墳にみられる。

この時期は石製模造鏡の出土が最も多く、さらに出土する地域も広がり、石製模造鏡の最盛期を迎えている。九州地方の福岡県から東北地方の宮城県や山形県にまで出土している。特に、関東地方から東北地方の出土点数が際立って多い。分類は前Ⅴ期～前Ⅶ期にはみられなかった3・4類が新たに出現し、1～4類のすべてがみられる。

後Ⅰ期～後Ⅳ期 18遺跡で出土している。福岡県名残6号墳・福岡県五反田遺跡・香川県大浦浜遺跡・奈良県曾我遺跡・京都府鏡山古墳・滋賀県中兵庫遺跡・滋賀県門ヶ町遺跡・滋賀県古高遺跡・長野神坂峠・千葉県神崎出土・千葉県長州塚・群馬県築瀬二子塚古墳・群馬県甘楽郡甘楽町出土・茨城県立切遺跡・茨城県宮の脇遺跡・茨城県立野遺跡・福島県中塩遺跡・山形県八幡山遺跡がある。近畿地方・関東地方で出土数が多い。近畿地方でも5例みられる。出土遺跡数が減少し始め、石製模造鏡は後Ⅲ期以降には終焉を迎えることになる。

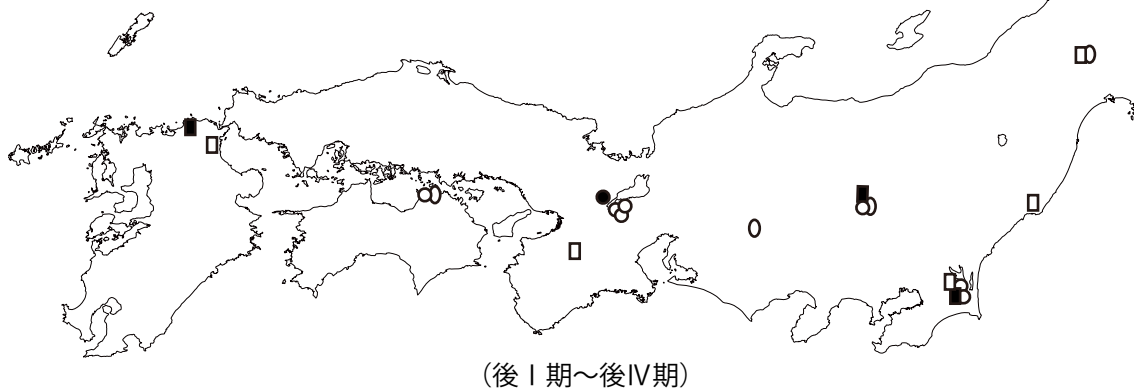
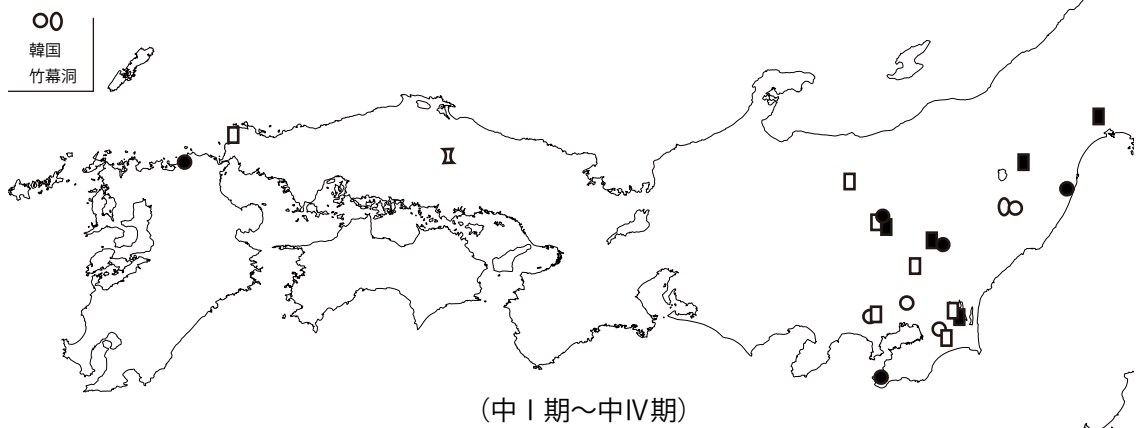
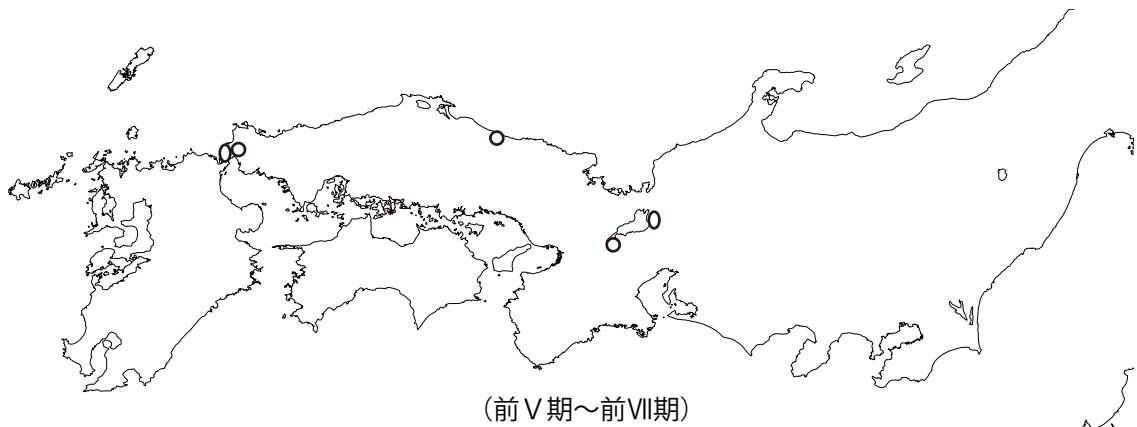
(2) 古墳出土の石製模造鏡

古墳出土の石製模造鏡は集落遺跡に比べて少なく、形状の判明する資料は14例のみである。古墳からの出土がみられるのは中期からである。

中Ⅰ期～中Ⅱ期の古墳出土のものとしては、1類の群馬県剣崎天神山古墳のものをあげることができ、これは土師器を模倣した埴形石製品から年代を判断している。福岡県井手ノ上古墳は中Ⅰ期であり、第2主体部からは、短甲・鉄柄手斧などの鉄製品が出土している。石製模造鏡は墓壙上面から出土している。分類は1類であり、櫛歯文帯と圏線が刻まれている。

中Ⅲ期～中Ⅳ期のものは栃木県雷電山古墳・群馬県剣崎長瀬西古墳・福島県真野古墳群A地区49号墳・福島県天王壇古墳をあげることができる。栃木県雷電山古墳と福島県真野古墳群A地区49号墳は1類で、群馬県剣崎長瀬西古墳は3類である。

中Ⅲ期～後Ⅱ期は、京都府鏡山古墳・千葉県長州塚・群馬県甘楽郡甘楽町出



○○
韓国
竹幕洞

1類	●	○
2類	●	○
3類	■	□
4類	Ⅸ	Ⅹ

黒：古墳 白：集落・祭祀遺跡

第170図 石製模造鏡の分布

土のものがある。京都府鏡山古墳・千葉県長州塚出土例は1類、群馬県甘楽郡甘楽町出土例は2類1点・3類2点である。

後Ⅰ期のものには群馬県築瀬二子塚古墳で3類である。後Ⅱ期のものには福岡県名残6号墳で3類である。後期はこの2遺跡のみであり、古墳への副葬が衰退していったことがわかる。

(3) 集落・祭祀遺跡出土の石製模造鏡

集落・祭祀遺跡から出土する石製模造鏡のうち鈕の形状が判断できるものは36遺跡ある。時期ごとに説明していきたい。

前Ⅰ期～前Ⅳ期の確実な資料はみられない。前Ⅴ期～前Ⅶ期の可能性のあるものは4例みられる。山口県神田遺跡・鳥取県長瀬高浜遺跡・滋賀県大戌亥遺跡・滋賀県金ヶ森西遺跡であり、石製模造鏡の分類は1・2類である。

福島県建鉾山高木地区は前期から中期の遺跡であり、分類は1・2類がみられる。

中Ⅰ期～中Ⅳ期は、山口県土井ヶ浜南遺跡・岡山県菅生小学校裏山遺跡・長野県篠ノ井遺跡・千葉県東明神山遺跡2点である。石製模造鏡の分類は、東明神山遺跡1例は1類、土井ヶ浜南遺跡・篠ノ井遺跡・東明神山遺跡は3類、菅生小学校裏山遺跡は4類である。集落・祭祀遺跡では、中Ⅰ期以降に3・4類が出現すると思われる。

後Ⅰ期～後Ⅳ期の遺跡は、香川県大浦浜遺跡・滋賀県門ヶ町遺跡・茨城県宮の脇遺跡・茨城県立野遺跡・福島県中塩遺跡・山形県八幡山遺跡などがみられる。分類は1・2・3類がみられる。香川県大浦浜遺跡は1類が2点・3類が1点あり、門ヶ町遺跡は1類が1点、宮の脇遺跡は1類が1点、立野遺跡3類が1点、中塩遺跡3類が1点、八幡山遺跡1類が1点・2類が3点となる。

鈕の形状が円形や楕円である1・2類は、前Ⅳ期～前Ⅶ期に出現し、中Ⅲ期～後Ⅱ期にもみられる。1類は福岡県から福島県までの広範囲であるが、まばらに分布する。鈕の形態が方形である3類は、中Ⅰ期～中Ⅱ期に出現し、後Ⅱ期までみられる。分布をみると、福岡県北部から山口県の地域、長野県から山形県の地域でみられ、大きくに地域に分かれる。また、後Ⅱ期まで円形と楕円形の鈕をもつ1・2類と、方形の鈕をもつ3類は同時期に存在することを確認した。

石製模造鏡の円形の鈕と方形の鈕との関係について述べると、円形の鈕から方形の鈕への省略化という意見（木下 1988 など）もあるが、例えば方形の鈕をもつ山口県土井ヶ浜南遺跡出土の石製模造鏡 3 類は、丁寧に製作されており、円形から方形の鈕へと単純に簡略化したとも考え難い事例も存在する。また、3 類が出現した時期には、鼻鈕の素文鏡 1 A 類が盛行する時期にあたり、これは上方から見たときに鈕が方形を呈するという点で共通している。奈良県曾我遺跡でも石製模造鏡 3 類と鼻鈕の素文鏡 1 A 類が共に同じ遺跡からの出土例もあり、一つの根拠になると考える。以上の理由から、筆者は素文鏡 1 A 類の鼻鈕を模倣して方形の鈕をもつ石製模造鏡 3 類が製作された可能性を考える。尚、素文鏡は祭祀に試用された鏡としての機能をもっており、石製模造鏡も同じ使用方法であることを考えると、鈕の形状にも意味があったものと思われる。

（4）石製模造鏡の出現時期

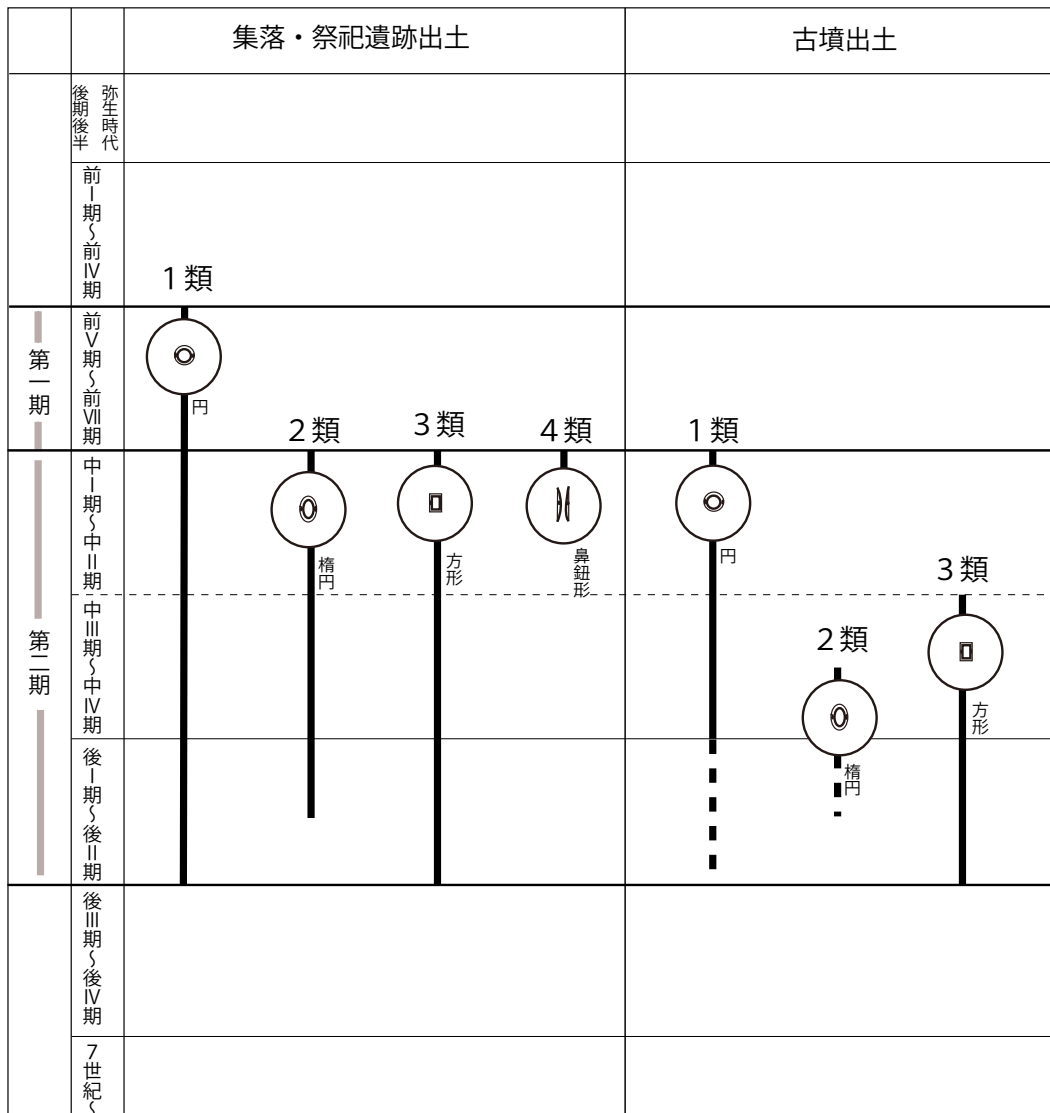
河野一隆は古墳出土の石製模造品の編年を以下のように示している。第Ⅰ期は斧・鎌などの鉄製工具の模造の段階、第Ⅱ期は刀子が斧・鎌を凌駕し、鑿・ヤリガンナに加えて臼玉・勾玉がそろそろ。第Ⅲ期は刀子・斧・鎌の小型組成化、数量の多様化、工具類が衰退し、鏡、下駄、容器類などの品目へと交代する。第Ⅳ期は刀子、斧、鎌の小型粗製化と多量化傾向が極限となり、古墳の埋葬儀礼には共伴しなかった有孔円板・剣形・子持勾玉などの品目が加わる。第Ⅰ期は 4 世紀後半、第Ⅱ・Ⅲ期は 4 世紀末～5 世紀前半、第Ⅳ期は 5 世紀後半として分類を行っている（河野 2002）。

筆者の検討では、石製模造鏡のうち最も古いものを挙げると鳥取県長瀬高浜遺跡例であり、前Ⅵ期～前Ⅶ期である。集落・祭祀遺跡出土の石製模造鏡は、古墳からの出土よりも時期が遡ることを確認した。この段階は、石製模造鏡は最終的に集落などで埋納・廃棄する性格のものであり、集落遺跡で出土する小型仿製鏡の代用品となるようなものであったと考えられる。

中Ⅰ期～中Ⅱ期に入って古墳の副葬品として石製模造鏡が使用されはじめる。集落・祭祀遺跡よりも遅れての使用となるまた、刀子や斧等のほかの石製模造品は河野編年Ⅰ期にはすでに出現しており、石製模造鏡が古墳の副葬品として使用されるのは少し遅れることが分かった。

(5) 石製模造鏡の画期

これまで検討した内容から石製模造品の画期を設定する。第一段階は前V期～前VII期である。この段階は、西日本を中心として集落・祭祀遺跡から1類が出土している。第二段階は中I期～後II期までであり、古墳から出土が始まる。出土する地域が広範囲になり、韓半島から東北地方までみられる。集落・祭祀遺跡は2・3・4類が加わる。この段階で石製模造鏡の終焉を迎える。



第171図 石製模造鏡出土遺跡の年代

(6) 韓国竹幕洞遺跡との関係

朝鮮半島では石製模造鏡が全州市扶安竹幕洞遺跡から2面出土している。竹幕洞遺跡の石製模造鏡の検討を行い、日本列島の出土例と比較してみるとどのように位置付けられるのであろうか。

地理的にみると竹幕洞遺跡は海岸絶壁の頂上に造営された遺跡であり、百済西海岸の航路を広く眺められる場所に位置している。航海の安全を祈願した遺跡とされ、この遺跡からは日本列島の遺物、中国製の土器なども大量に出土している。その他にも石製模造鏡2点・鉄鏡1面・多鈕精文鏡片1面・韓半島製の仿製鏡2面がある。石製模造鏡の一点は面径14.4cmと大型であり、もう一面は面径6.2×7.0cmと小型である。石製模造鏡以外にも鎌・斧・勾玉・剣・有孔円板などの石製模造品が出土している。この遺跡の石製模造鏡の特筆すべき点は、大小の2面が出土していることである。

日本列島においては、大小の石製模造鏡をあわせもつ遺跡および古墳はあまり多くない。各遺跡から出土する石製模造鏡に注目してその概要を述べることにする。

栃木県宇都宮市雷電山古墳

全長230mの大型の前方後円墳である。石製模造鏡は2点出土している。大型の石製模造鏡は、青銅鏡にみられるような反りがあり、鈕の上面は平たい。小型の石製模造鏡の鈕は側面からみると半円球状を呈する。ともに1類に分類され、時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。他には有孔円板・櫛・甲冑・斧・鎌・刀子の石製模造品がある。

群馬県高崎市剣崎天神山古墳

直径30mの円墳で、石製模造鏡は2点ある。大型は面径6.9cm、小型は3.7cmである。他には埴1・槽1・杵1・斧1・鎌1・刀子71・琴柱形製品1の石製模造品がある。時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。

山形県尾花沢市八幡山遺跡

この遺跡は軽井沢・銀山越の峠にちかく東山道に沿った場所に位置している。東山道の終着点と考えられており、エミシの土地の接触点にあたると指摘されている。さらに、これらの遺跡の祭りが畿内から来た人々によって行われたのであるならば、未知の国に入っていくときの峠の険しさに対する畏怖心ではなく、未知の国に入る際にそれをさまたげる他国の国魂に対しての鎮魂の祭りである。

あったと述べられている（加藤 1980）。石製模造鏡は4点あり、1点は15.7 cmで、日本列島で出土している資料の中では最も大型のものである。ほかの3点は5.0～5.5 cmと小型である。有孔円板194・勾玉6・白玉23・剣15・鎌3・刀子4の石製模造品があり、時期は中Ⅳ期～後Ⅱ期である。

竹幕洞遺跡で大型と小型の石製模造鏡が共伴する特徴は、関東地方北部から東北地方南部の遺跡の在り方と非常に共通している。日本列島の3遺跡はいずれも中Ⅰ期～中Ⅳ期におさまることから、竹幕洞遺跡の石製模造鏡もこの時期に含まれるのではないかと考える。

航海の安全を祈る遺跡としては、韓国竹幕洞遺跡と福岡県沖ノ島祭祀遺跡がよく比較される。しかし、沖ノ島祭祀遺跡では石製模造品は、勾玉・管玉・棗玉・小玉・白玉・平玉・子持勾玉・人形・馬形・舟形であり（鏡山編 1958）、石製模造鏡はみられない。篠原祐一は、石製模造品の組成から九州地方と竹幕洞遺跡との積極的な関係は見いだせないと指摘している（篠原 2012）。

岡田裕之は石製模造品の組成から、竹幕洞遺跡は、建鉾山遺跡や神坂峠遺跡のような東山道および関東地方の祭祀遺跡における組み合わせと類似性があると指摘する（岡田 2005）。篠原は5世紀中葉以降に関東地方に石製模造品が多い理由としては、畿内政権の東国経営本格開始によるもので、その際に石製模造品が使用されたという指摘をしている（篠原 2005）。

改めて竹幕洞祭祀遺跡と日本列島の遺跡を比べることとする。竹幕洞遺跡は鏡・鎌・斧・勾玉・剣形・有孔円板という石製模造品が出土しており、日本列島でこの石製模造品の組成をもつ遺跡は、長野県神坂峠遺跡・茨城県立野遺跡、群馬県三ツ寺Ⅰ遺跡・福島県建鉾山遺跡の4遺跡があり、いずれも中部地方から東北地方に位置すると指摘することができる。石製模造品は大和王権の東山道ルートを利用した東国進出と関わりのある資料と考えられている。先ほども述べたが、山形県八幡山遺跡は東山道の到達点であり、エミシとの境界に位置する遺跡と考えられている。東国進出と同じような視点で朝鮮半島を考えると、竹幕洞遺跡は大和王権の韓半島への進出における境界を示す遺跡の可能性のあることを指摘しておきたい。韓半島では同時期に竹幕洞遺跡よりも南側約20 kmに栄山江流域の前方後円墳が築造されている。同様に山形県においても八幡山遺跡より南に約30 kmに日本海側最北端とされる前方後円墳の坊主窪1号墳が築造されている。八幡山遺跡と竹幕洞遺跡より内側の範囲で大和王権

の採用した前方後円墳が築造されていることから、この二つの遺跡は境界を示すことを証明するものであったと考える。

第4節 小型仿製鏡と石製模造鏡の関係

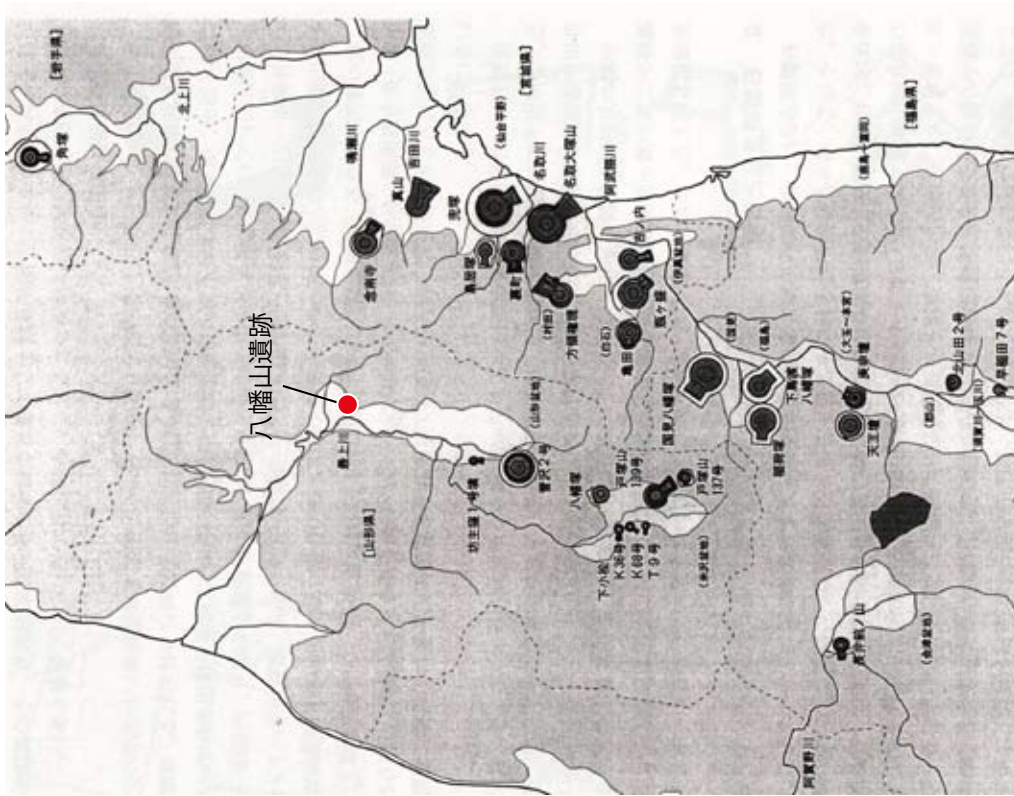
(1) 模倣の対象となった鏡に関する検討

前V期～前VII期にみられる石製模造鏡はすべてが集落・祭祀遺跡出土である。以前、筆者は仿製鏡の出土する集落・祭祀遺跡について集成しており、この時期に出土する仿製鏡としては、完形の素文鏡、重圏文鏡、珠文鏡が多くみられることを指摘している。石製模造鏡には文様がなく、鈕は丸いことを考慮すると、この時期の石製模造鏡は丸い鈕をもつ素文鏡2A類を模倣したものと考える。

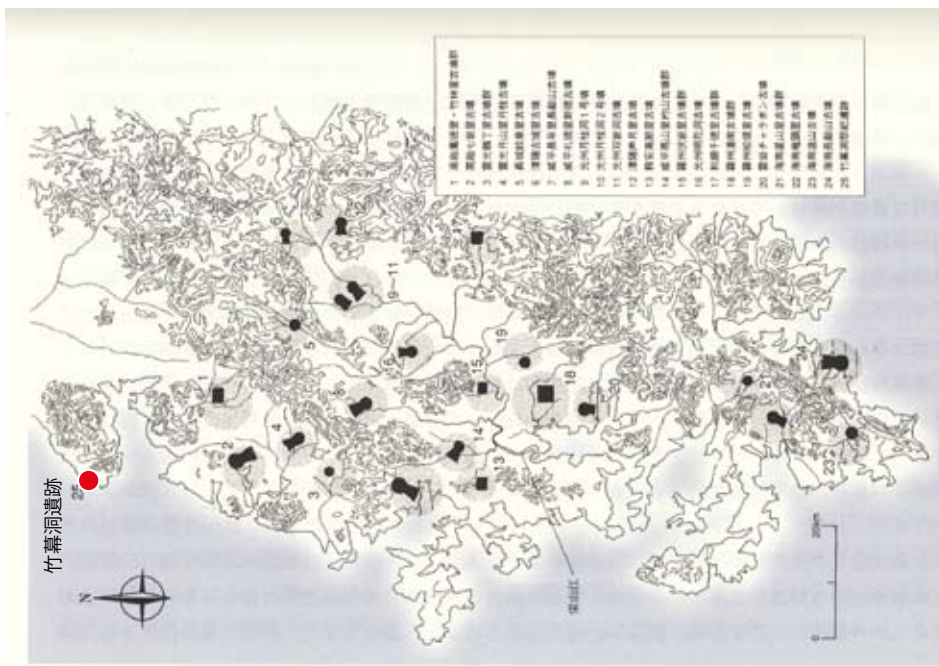
中III期になると、石製模造鏡は大型化し始め、面径は6cmを越すものも多くなる。最も大型のものは面径15.7cmである。大小の作り分けをされた石製模造鏡は中期以降に出現することから、大型のものは、中期以降に大和王権によって配布されたと考えられる画像鏡、画文帯神獸鏡などの踏み返しされた舶載鏡を模倣の対象としたのではないかと考える。一方で大型の石製模造鏡と共に出土する小型の石製模造鏡に関しては、舶載鏡よりも小型の仿製鏡を模倣していると考えたい。また岡山県菅生小学校裏山遺跡では鈕の長辺のみを粗く削り鈕を表現する4類がある。この石製模造鏡は、鈕の形態から素文鏡の鼻鈕のものを模倣することによって出現したと考える。

後I期からは方形の鈕をもつ2類が増加する。これらは、前V期から増加する鼻鈕の素文鏡1A類を模倣したものであると思われる。奈良県曾我遺跡では、鼻鈕の素文鏡1A類と方形の鈕をもつ石製模造鏡3類が出土しており、鼻鈕の素文鏡1A類との関連を想定できる。

特殊な例としては石製模造鏡に文様をもつ例が3遺跡5点みられる。福岡県井手ノ上古墳出土例は鈕の周囲に櫛歯文と一条の圏線が刻まれている。時期は中I期であり、同時期の櫛歯文帯をもつ櫛歯文鏡や珠文鏡を模倣した可能性がある。千葉県長州塚1点があり、鈕の周囲には複合鋸歯文が刻まれる。この文様は仿製鏡のみにみられ、珠文鏡にも複合鋸歯文をもつものがあることから、古墳出土の仿製鏡を模倣していると思われる。



第173図 八幡山遺跡と前方後円墳の関係
(佐久間 2013 を一部改変)



第172図 竹幕洞遺跡と前方後円墳の関係
(朴 2006 を一部改変)

群馬県甘楽郡甘楽町出土3点があり、いずれも鈕から外側に向かって櫛歯文—圏線—櫛歯文—圏線—櫛歯文の順で文様が刻まれている。時期は中Ⅲ期～後Ⅰ期であり、共伴する遺物には珠文鏡1面がみられる。文様は鋸歯文と櫛歯文をもつA—B類である。この時期には重圏文鏡や櫛歯文鏡はほとんどみられないことを考慮すると、共伴する珠文鏡の櫛歯文鏡を強調して製作されたと推測できる。

文様をもつ石製模造鏡はすべてが古墳出土例であることから、古墳に副葬されるような青銅鏡を意識していると考えられる。また、文様は仿製鏡にみられる文様のみで構成されることから、小型仿製鏡の珠文鏡を模倣した可能性が高い。

石製模造鏡の円形と方形の鈕の関係については先ほども指摘したが、筆者は石製模造鏡の円形の鈕から方形の鈕への省略化とは考えず、方形の鈕の出現には鼻鈕の素文鏡の影響が強く受けていると考えた。鼻鈕をもつ素文鏡の出土遺跡はその当時を代表とするような福岡県沖ノ島遺跡や奈良県山の神遺跡があり、鼻鈕そのものに祭祀的意味合いが込められていた可能性も示唆したい。

(2) 青銅鏡の共伴する事例

石製模造鏡と青銅鏡が共伴する事例はわずかではあるがみとめられる。祭祀・集落遺跡および古墳からの出土が確認できる。例を挙げると、祭祀・集落遺跡では、福島県建鉾山遺跡は珠文鏡1点、長野県神坂峠遺跡は獣首鏡片1点、鳥取県長瀬高浜遺跡は素文鏡10面・櫛歯文鏡1面・捩文鏡1面が出土する。韓国竹幕洞遺跡は鉄鏡1面と銅鏡3面が出土している。特筆すべき点は、同じ遺跡から出土する青銅鏡の多くは小型仿製鏡であり、その点を考慮すると、石製模造鏡は小型仿製鏡の役割を引き継いでいる可能性も指摘しておきたい。

石製模造鏡の古墳出土例をみると、(伝)茨城県大塚古墳は仿製方格規矩鏡1面、(伝)群馬県甘楽郡甘楽町は珠文鏡1面、群馬県剣崎長瀬西古墳は捩文鏡1面である。京都府鏡山古墳と同府稲荷山古墳からは石製模造鏡と共に青銅鏡が出土していると伝えられている。

次に古墳における石製模造品と青銅鏡の配置状況をみる。真野古墳群A地区49号墳では石製模造品11点は南西壁から約1mの場所にまとめておかれている。剣崎長瀬西古墳では、聞き取り調査で捩文鏡は被葬者の頭部付近、石

製品は被葬者の頭よりの空間、短甲類を脚先に置いたと推測されている（後藤1937）。真野古墳群A地区49号墳と剣崎長瀬西古墳の石製模造鏡の取り扱い方をみると、石製模造品は一括して置かれていることが分かる。このような出土状況をみると、石製模造鏡は単独で配置されておらず、石製模造品の一種としてみなされていたと思われる。

剣崎長瀬西古墳は、捩文鏡は石製模造鏡よりも被葬者の身体の近い場所であり、この古墳においても青銅鏡と石製模造鏡とでは出土位置に明らかな差があると考えられる。

第6節 小結

北山峰生も述べるように、石製模造品の中では農工具を模したものの出現が最も早いのであるが、前期後葉になるとミニチュア鉄製品の製作が一定量に到達し、これ以降中期を通じてさかんに副葬される。このような鉄製品の動向と生産具形石製模造品の消長は当然一体のものとして理解すべきであると指摘する（北山2002）。

そのような視点で、仿製鏡のミニチュア化や形骸化について考えることとする。仿製鏡の中で最もミニチュア化が進んだものには素文鏡をあげることができる。素文鏡は前Ⅰ期～前Ⅱ期には面径3cm前後のものが出現する、丸い鈕の2A類が製作され、前Ⅴ期～中Ⅱ期にかけて鼻鈕の1A類が盛行し、後Ⅳ期まで使用される。この素文鏡の出現時期と石製模造鏡の時期は対応しておらず、石製模造鏡の出現は遅れていることがわかる。おそらく素文鏡はミニチュアになっても、青銅鏡のもつ意義をもち続けており、石製模造鏡の模造鏡とは歴然とした違いがあったためと思われる。石製模造品化が農具等と比べ遅れていたのも青銅鏡は小型長良もその意味をもち続けていたためと思われる。

石製模造品は中期以降になると、中部・関東・東北地方で突如盛行し始める。その理由として、石製模造品は大和王権の東国進出のために使用された器物と考えられており、中部地方から東北地方の石製模造鏡もそのような理由で製作されたと考えたい。また、後Ⅲ期以降出土量が減少したことについては、大和王権と東国における関係性が安定的なものになったためと推測する。

(註)

(1) 石製模造鏡は、ほかにも「鏡形石製品」「石製鏡」と称されることもあるが、本文中では「石製模造鏡」に統一している。

(2) 石製模造鏡は日本列島・朝鮮半島だけではなく、中国湖南省常德市でも確認されているが、これらの鏡は鏡背面に文様が刻まれており、中国で製作された方格規矩鏡などを模倣したと判断できるものがある。なお一例を示すと、前漢代の徳山恒安紙業出土の石製模造鏡は、方格規矩鏡を模倣しており、面径は 15.6 cm である(龍 2010)。日本列島のものとは約 400 年の年代差があり、直接的な関係はないものと思われる。日本と中国の石製模造鏡の関係について菅谷文則は直接関係するかは日本出土例のものが無いので論じられないとしつつも、江南地方から輸入されていることもあり、注目する必要があると指摘している(菅谷 1991)。

(3) 奈良県田原本町の十六面・薬王寺遺跡では、古墳時代中期～後期の溝から、石製模造鏡 2 品が出土している、30 m 離れた場所では重圏文鏡 1 面も出土したことが 2013 年 9 月に報道された、本報告が待たれる。

(引用文献一覧)

大場磐雄編 1969 『神坂峠』阿智村教育委員会。

大場磐雄 1981 「石製模造品の種類」『神道考古学講座』第 3 巻、雄山閣出版、10 - 39 頁。

岡田裕之 2005 「祭祀遺跡における滑石製品－沖ノ島と竹幕洞を中心として－」『古墳時代の滑石製品－その生産と流通－』第 54 回埋蔵文化財研究集会事務局、181 - 194 頁。

鏡山 猛編 1958 『沖ノ島』宗像神社復興期成会。

亀井正道 1966 『建鉦山』吉川弘文館。

加藤 稔 1980 「日本最大の石製鏡」『尾花沢風土記』尾花沢市史編纂委員会、13 - 22 頁。

河野一隆 2002 「石製模造品」『考古資料大観』第 9 巻、小学館、331 - 340 頁。

河野一隆 2003 「石製模造品の編年と儀礼の展開」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第 11 集、帝京大学山梨文化財研究所、15 - 27 頁。

木下 亘 1988 「石製模造品」『古墳時代の研究』8 古墳Ⅱ副葬品、雄山閣、161 - 171 頁。

後藤守一 1937 「上野國碓水郡八幡村大字剣崎字長瀬西古墳」『皇室博物館学報』第 8 冊。

佐久間正明 2013 「東北地方南部における中期古墳の再検討」『第 18 回東北・関東前方後円墳研究会第回シンポジウム 中期古墳の再検討』第 18 回東北・関東前方後円墳研究会大会実行委員会、111 - 130 頁。

篠原祐一 2005 「滑石の生産と使用をつなぐ視点」『古墳時代の滑石製品－その生産と流通－』

第54回埋蔵文化財研究集会事務局、239－256頁。

篠原祐一 2008 「マツリで使われる石製模造鏡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、9－18頁。

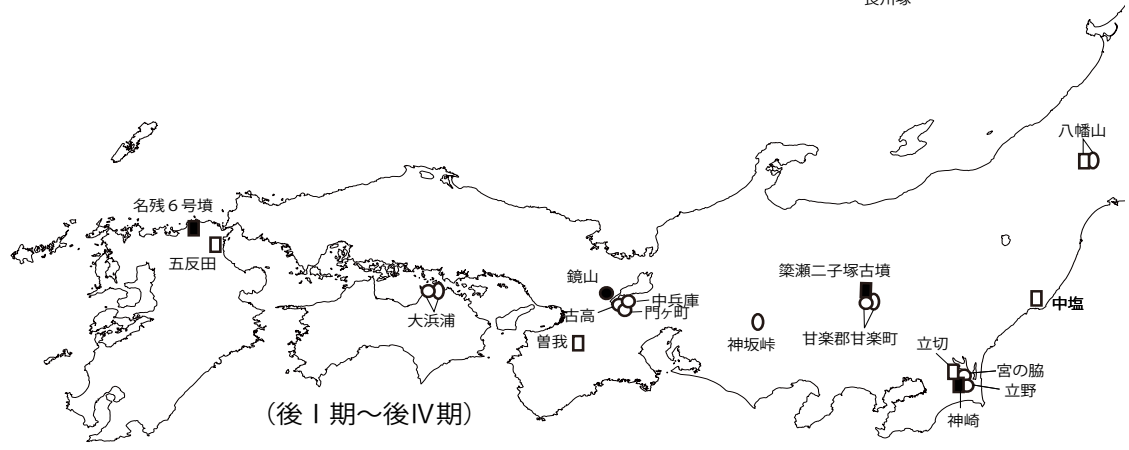
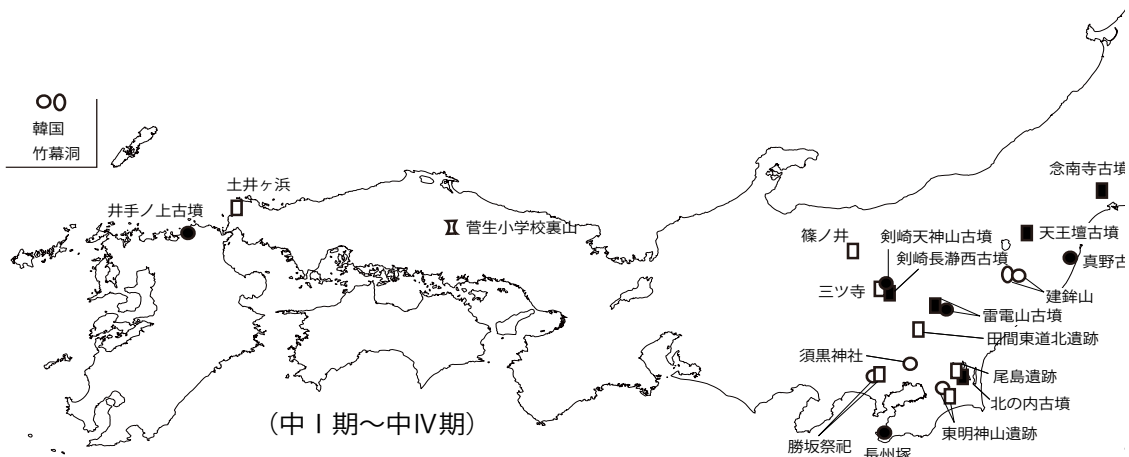
篠原祐一 2012 「五世紀における石製祭具と沖ノ島の石材」『宗像・沖ノ島と関連遺産群』研究報告』Ⅰ、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議、329－367頁。

菅谷文則 1991 『日本人と鏡』同朋舎。

高橋健自 1919 『古墳発見石製模造器具の研究』帝室博物館。

朴 天秀 「栄山江地域における前方後円墳からみた古代の韓半島と日本列島」『海を渡った日本文化』鉾脈社、49－104頁。

龍朝彬編著 2010 『常徳出土銅鏡』岳麓書社。



- 1類
 - 2類
 - 3類
 - Ⅱ 4類
- ※黒は古墳出土
白は集落・祭祀遺跡出土

第174図 石製模造鏡出土の遺跡名



①山口県神田遺跡出土石製模造鏡



②山口県神田遺跡出土石製模造鏡

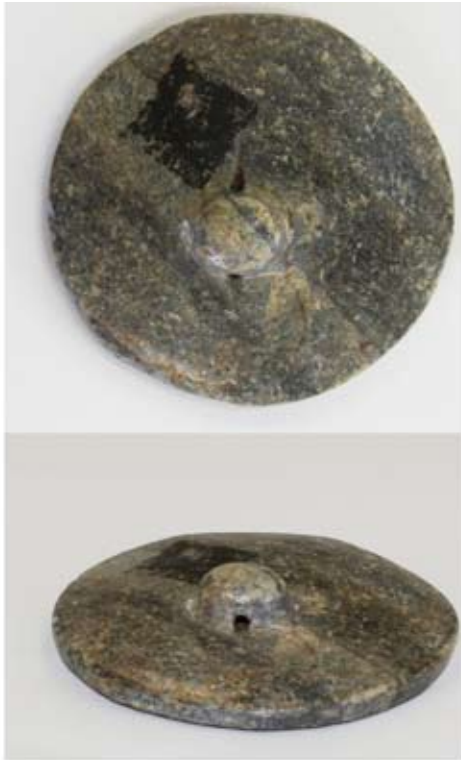


③山口県椿井遺跡出土石製模造鏡



④岡山県菅生小学校裏山遺跡出土石製模造鏡

第175 図 石製模造鏡の諸例



① 埼玉県須黒神社遺跡出土石製模造鏡



② 埼玉県大野田西遺跡出土石製模造鏡



③ 群馬県築瀬二子塚古墳出土石製模造鏡

第 176 図 石製模造鏡の諸例



①群馬県剣崎天神山古墳出土石製模造鏡



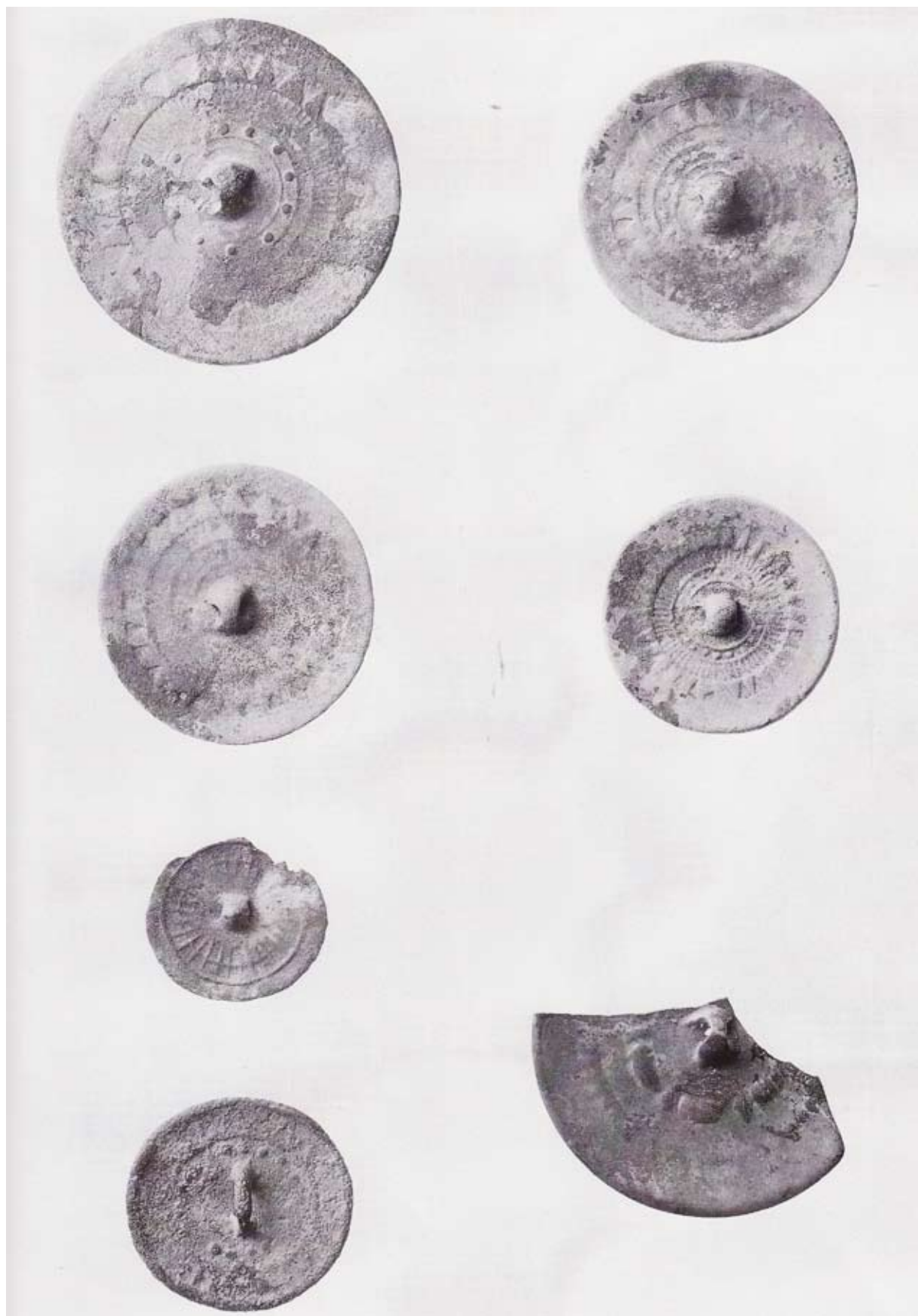
①群馬県剣崎天神山古墳出土石製模造鏡

第 177 図 石製模造鏡の諸例

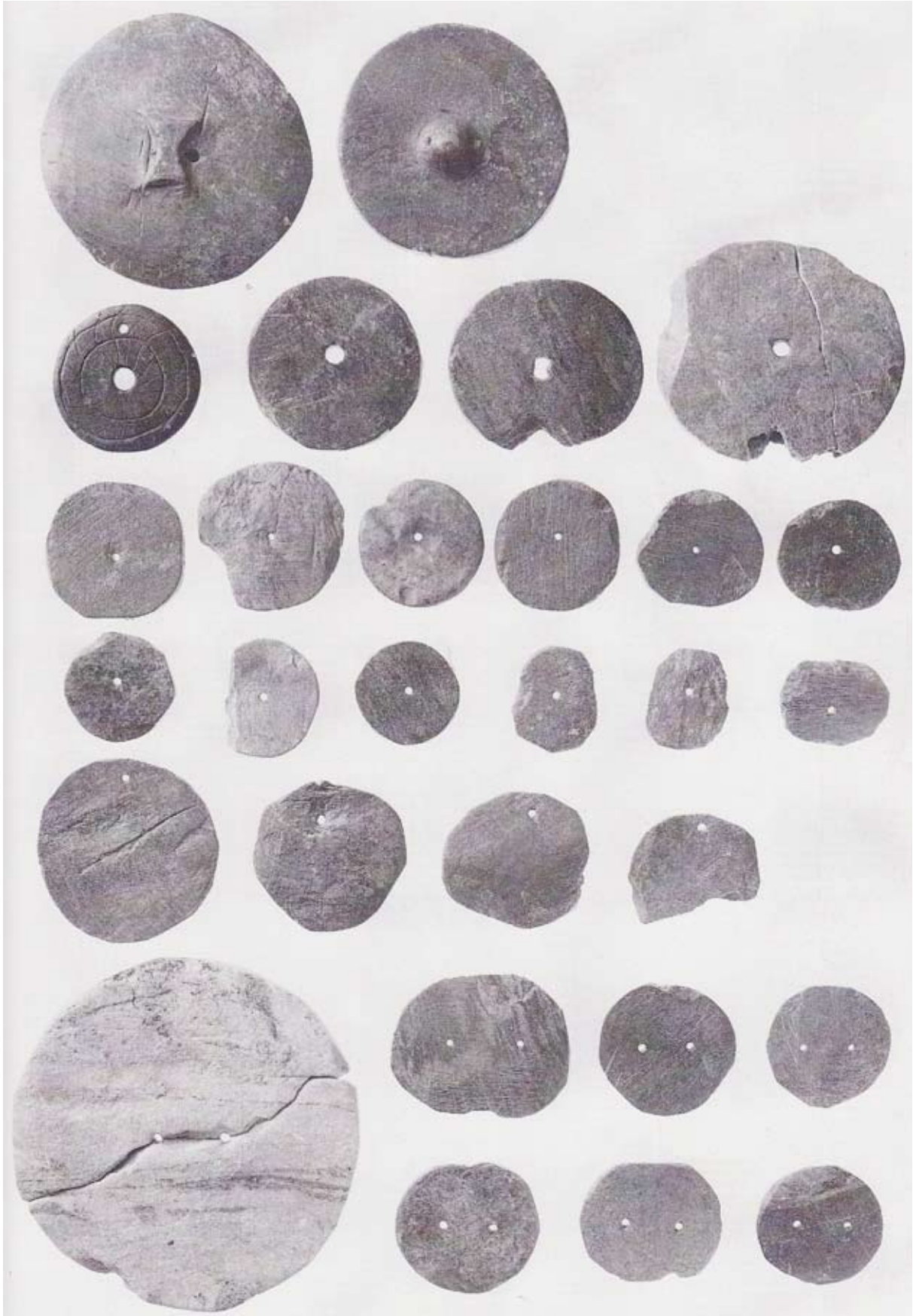


①群馬県三ツ寺Ⅰ遺跡出土石製模造鏡

第 178 図 石製模造鏡の諸例



第 179 図 勝坂祭祀遺跡出土銅鏡（加藤ほか 2010 より転載）



第 180 図 勝坂祭祀遺跡出土石製品（加藤ほか 2010 より転載）

第24表 石製模造鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	分類	直径 (cm)	遺跡年 代/大 賀編年	共伴鏡	石製鏡	石製斧	石製鎌	石製甲	石製盾	石製櫛	石製刀子	石製劍形	石製勾玉	有孔円板	日玉	紡錘車	その他の遺物	特記事項	
1	福岡県春日市	門田遺跡	集落遺跡?	包含層	3	3.6~ 4.6	不明	○	○									○		土師器			
2	福岡県福岡市	和白遺跡			1?		不明	○															
3	福岡県古賀市	田淵遺跡	集落遺跡?	包含層	3	3.9~ 4.4	不明	1	1														
4	福岡県福津市	井手ノ上 古墳	古墳		1(櫛・1 円環)	6.0~ 6.1	中I期	1	1												第2主体部:刀子3・鉄 鍔10・鉄斧1・墓1・鉄 柄手斧3・鉄刀1・鉄剣 2・鉄鏃1・短甲	墓墳内より出 土。	
5	福岡県宗像市	名残6号 墳	古墳	横穴式 石室	3	3.6~ 4.7	後II期	○	○												土玉8	盛土残っていない。	
6	福岡県京都郡 みやこ町	五反田遺 跡		単独で 出土	3	記述な し	中期~ 後期	1	1													単独の出土であ ることから、時 期は特定できな い。	
7	福岡県北九州 市	潤崎第 4・5	集落遺 跡?	包含層	3	3.9~ 4.4	不明		1														
8	福岡県北九州 市	長野A遺 跡	集落遺跡	包含層	3	3.9	不明															単独の出土のた め、時期不明。	
9	山口県下関市	下七見遺 跡SB2	集落遺跡	竪穴住 居	1	5.0	判断で きない	1	1													穿孔部分に鉄片 が詰まる。鏡背 面に擦痕有り。	
10	山口県下関市	神田遺跡	集落遺 跡?	包含層	2	4.1・ 3.2× 3.5	前V期 ~前Ⅷ 期		2												銅		
11	山口県下関市	土井ヶ浜 南遺跡	祭祀遺跡	川辺	3	5.5	中I期 ~中II 期		○												土師器・手握ね土器	川辺から一括で 投棄された状態 で検出された。	
12	山口県萩市	椿遺跡	集落遺 跡?	包含層	1	3.6	不明		1														

第24表 石製模造鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	分類	面径 (cm)	遺跡年 代/大 貫編年	共伴鏡	石製鏡	石製斧	石製鎌	石製甲	石製盾	石製櫛	石製刀子	石製劍形	石製勾玉	有孔円板	白玉	紡錘車	その他の遺物	特記事項
13	岡山県倉敷市	菅生小学 校裏山遺 跡	集落遺跡		4	4.1× 4.2	中I期		1									2			土師器・須恵器・軟質土 器・紡錘車・有孔円板	
14	鳥取県湯梨浜 市S101	長瀬高浜 遺跡	集落遺跡	竪穴住 居	1	3.4	前VI期 ～中Ⅳ 期	素文鏡10・ 重圓文鏡 2・内行花 文鏡1	1									○			鉄製模造劍20・銅劍1・ 石劍1・土鈴1・土製模 造尊1・手捏ね土器10・ 手焙り形土器1	ほかにもう一面 あるが、報告書 未確認。
15	鳥取県鳥取市	秋里遺跡	集落遺 跡?	包含層	1	約5.5	不明		○								○				舟形土製品・鳥形土製品 2・馬形土製品1・傘形 土製品6・土製勾玉1・ 土製丸玉1・手焙り形土 器1・手捏ね土器5	
16	香川県坂出市	大浦浜遺 跡	祭祀遺跡		1 (3.0 cm)・3 (1.2cm)	1.2・ 3.0・ 3.2	後I期 ～後Ⅳ 期		3									○			須恵器・土玉・紡錘車・ 須子了瓶・土製品・ 船形土製品・製埋土器 土師器・須恵器・鉄製 品・土馬1	
17	徳島県徳島市	鮎喰遺跡	集落遺 跡?	包含層	1	4.6	不明		1													
18	大阪府東大阪 市	若江遺跡	集落遺跡		1	5.5	不明		1												石製管玉	
19	大阪府四條畷 市	節屋北遺 跡	集落遺跡	包含層	2	5.2	中期～ 後期		1									○			勾玉・子持ち勾玉・管 玉・ガラス玉・琥珀玉・ 土玉・磁石	
20	奈良県橿原市	曾我遺跡	製作遺跡		3	3.3	中Ⅳ期 ～後I 期		1									○			石製管玉	
21	京都府長岡京 市	稻荷山古 墳	古墳		1 (平縁)	8.3			○	1	○											
22	京都府京都市	鏡山古墳	古墳		1	約4.2	中Ⅳ期 ～後Ⅱ 期	1	1	○	○										銅製腕輪1・刀・石製下 駄6・埴輪	
23	滋賀県草津市	中兵庫遺 跡	集落遺跡		1?	4.1	中期～ 後期		1									○				
24	滋賀県草津市	門ヶ町遺 跡	集落遺跡		1?	紐のみ	後I期 ～後Ⅱ 期		1									○	○	○	石製管玉・石製剣・土師 器・須恵器	未成品が出土す る。滑石製品を 製作する。

第24表 石製模造鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	分類	面径 (cm)	遺跡年 代/大 賀編年	共伴鏡	石製鏡	石製斧	石製鏡	石製甲	石製盾	石製櫛	石製刀子	石製劍形	石製勾玉	有孔円板	日玉	紡錘車	その他の遺物	特記事項
25	滋賀県守山市	古高遺跡	集落遺跡		1	2.7	中期～ 後期		1								○	○		石製管玉・算盤玉・丸玉	チップ・原石が あり、生産遺跡 と思われる。	
26	滋賀県守山市	金ヶ森西 遺跡	集落遺跡		1	5.2	前V期 ～前VII 期		1									5		土師器	布留式の土器と 出土する。	
27	滋賀県長浜市	大成亥・ 鴨田遺跡	集落遺跡	川に關 する祭 祀	1	記述な し	前期		2													
28	長野県下伊那 郡阿智村	神坂峠	祭祀遺跡		3	5.0× 5.8	中期～ 後期	獸首鏡片1	1	1	1				310	45	903			碧玉製管玉4・滑石製管 玉15・算玉2・馬型模造 品2・ガラス製小玉29・ 石製小玉3・須賀器・綠 釉陶器・灰輪陶器・中世 陶器・中國磁器・鉄鏡 2・鉄斧1・刀子3・ヤ リガンナ3・鉄環1・板 状品3・磁石2・石鏡 2・磨製石鏡1		
29	長野県下伊那 郡阿智村	大垣外遺 跡・祭器 跡19	祭祀遺跡		○	約5.0	中期～ 後期		○						○					土師器		
30	長野県長野市	篠ノ井遺 跡	祭祀遺跡	竪穴住 居	3	3.1	中I期 ～中II 期		1								27	130		勾玉2・管玉2・土玉 1・赤玉1・ガラス玉 4・土師器	住居の覆土から 出土する。	
31	神奈川県相模 原市	勝坂祭祀 遺跡	祭祀遺跡		1 (3.3 cm)・3 (6.0cm)	6.0・ 3.3	中I期 ～中II 期	珠文鏡5・ 櫛齒文鏡 1・菱形六 獸鏡1	2						1	6	3	57		手捏ね土器・土師器・管 玉1・鉄刀子1		
32	千葉県木更津 市	長州塚	前方後円 墳	110～ 130	1、複合鏡 齒文有	9.5	中III期 ～後II 期		○	○	○											
33	千葉県原市	草刈六之 台遺跡	集落遺跡	表探	1	9.0	不明		1												孔は貫通してい ない。	
34	千葉県成田市	東明神山 遺跡	生産遺跡		1・3	不明	中I期 ～中II 期?		2			2			12	8	61	38	以上	石製丸玉4・土師器・原 石・未成品・剥片・チッ プなど		

第24表 石製模造鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	分類	直径 (cm)	遺跡年 代／大 貫編年	共伴鏡	石製鏡	石製斧	石製鏃	石製刀子	石製剣形	石製勾玉	有孔円板	白玉	紡錘車	その他の遺物	特記事項
46	群馬県甘 楽郡甘 楽町	群馬県甘 楽郡甘 楽町出土	円墳		2類1面・ 3類2面 (榊・團線 有り)	8.3・ 7.6・ 7.0	中Ⅲ期 ～後Ⅰ 期	珠文鏡1	3	3	8	3				58		碧玉製管玉26・ガラス製 管玉2・直刀2・釧1・砥 鉛岩葉5. 三環飾1・砥 石2	
47	茨城県稲 敷郡 美浦村	伝大塚古 墳(井天 塚古墳)	古墳?		3	記述無	不明	仿製方格規 矩鏡1	1	1	2	3						甲・鉄膏・鉄刀2	江戸時代の記録 にみられる。
48	茨城県稲 敷郡	立切遺跡 18号竪穴 住居	集落遺跡		3	6.6×7	中Ⅲ期 ～後Ⅰ 期		1			6	6	2	2			土師器・石製円板2・耳 環1・不明鉄片・石核 1・磨石1	土師器より年代 を考えた。
49	茨城県稲 敷郡	宮の跡遺 跡	集落遺跡	遺構外	1	4.1× 4.3	中Ⅲ期 ～後Ⅰ 期		○			○	○	○					周辺の土師器の 年代から判断し た。
50	茨城県稲 敷郡	尾島貝塚	祭祀遺跡		3	5.2× 4.9	中Ⅲ期 ～中Ⅳ 期		1		34	6	151	34	1			須恵器・土師器・ミ 子ユア土器・土製模造品 (鏡20・勾玉2・鏡先 2・垂飾1・刀子3・臼 3鉄鏃6・鉄鏃1・鉄斧 1・鉄鏃先1)・石核・ 砥石	
51	茨城県北 茨木 市	立野遺跡	祭祀遺跡		1	5.2・ 5.7	中Ⅲ期 ～後Ⅱ 期		6	2	2	3	2	7	20				土器から年代判 断できない。
52	福島県郡 山市	正直遺跡	祭祀遺跡		3	5.0			○			○	○	○	○			土師器	石製模造品は 500点は出土す る。
53	福島県白 河市	建鉾山高 木地区	祭祀遺跡		1・2	4.0～ 9.3× 9.5	前期～ 中期	珠文鏡1	27	26	11	29	569	24	518	278		石劍1	
54	福島県い わき 市	中埜遺跡	祭祀遺跡		3	5.4	中Ⅲ期 ～後Ⅰ 期		1				1	3	58	1		土師器	神奈備型の山岳 祭祀?
55	福島県本 宮市 字南ノ内	天王塚古 墳	古墳		3	6.5	中Ⅲ期 ～中Ⅳ 期		1			9			3			石製櫛1	

第24表 石製模造鏡の出土遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	分類	面径 (cm)	遺跡年 代/大 貫編年	共伴鏡	石製鏡	石製斧	石製鎌	石製甲	石製盾	石製櫛	石製刀子	石製刀形	石製勾玉	有孔円板	日玉	紡錘車	その他の遺物	特記事項	
56	福島県相馬郡 鹿島町	真野古墳 群A地区 49号墳	古墳	21	1	8.5	中Ⅱ期 ~中Ⅳ 期		1	1	1				7		1				石製槽 1	石製品は室内か らまとめて出 土。	
57	山形県尾花沢 市	八幡山遺 跡	祭祀遺跡		2・3	15.7・ 5.5・ 5.9・ 6.8	中Ⅱ期 ~後Ⅰ 期		4		3				4	15	6	114	12		土師器		
58	宮城県加味郡 色麻町	念南寺古 墳	前方後円 墳	56	3	7.2	中Ⅱ期 ~中Ⅳ 期		1	3	1							5			土師器・須恵器	石製模造鏡は盗 掘坑より出土し ており、本来は 石室内部からな い。	
59	全羅北道扶安 郡	竹幕洞遺 跡	祭祀遺跡		1・2	14.4・ 7 x 6.2	中Ⅱ期 ~中Ⅳ 期	鉄鏡 1・銅 鏡 3	2	0	0											鉄鏡26・鉄鏡6・鉄刀 3?・鉄剣4・鉄刀子 1・鉄斧3・鉄鎌1・札 甲片20・鍔片杏葉4・銅 鈴2・鉄銚1・銅鐺1・ 鉄鐺1・鉄具3・皮金具 6・青銅環4・鉄環3・ 鉄紐1・不明鉄器1・陶 質土器	石製模造品は3 群できき、時期差 がある指摘され ている。

石製模造鏡出土遺跡参考文献

《 1. 福岡県門田遺跡 》

井上裕弘編 1979 『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第11集、福岡県教育委員会。

《 2. 福岡県和白遺跡 》

熊本博物館編 1982 『開館30周年特別展九州古代のまつり』熊本市立熊本博物館。

《 3. 福岡県田淵遺跡 》

高倉洋彰編 1973 『鹿部山遺跡』日本住宅財団。

《 4. 福岡県井手ノ上古墳 》

橋口達也編 1991 『宮地井手ノ上古墳』津屋崎町文化財調査報告第7集、津屋崎町教育委員会。

《 5. 福岡県名残6号墳 》

飛野博文編 1990 『名残』Ⅲ、宗像市文化財調査報告書第25集、宗像市教育委員会。

《 6. 福岡県五反田遺跡 》

大場盤雄編 1972 『神道考古学講座』第2巻、原始神道期1、雄山閣出版。

《 7. 福岡県潤崎第4・5 》

谷口俊治・関川 妥編 1995 『潤崎遺跡4 第4・5地点』北九州市埋蔵文化財調査報告書第169集、財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。

《 8. 福岡県長野A遺跡 》

関川 妥編 2012 『長野A遺跡(Ⅸ・Ⅹ区の調査)』北九州市文化財調査報告書第128集、財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。

《 9. 山口県下七見遺跡 》

村岡和雄編 1989 『下七見遺跡Ⅰ』菊川町教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 10. 山口県神田遺跡 》

山本一朗編 1972 『神田遺跡第二次発掘調査概報』山口県教育委員会。

《 11. 山口県土井ヶ浜南遺跡》

古庄浩明編 2000 『土井ヶ浜南遺跡Ⅲ』豊北町埋蔵文化財調査報告書第19集、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム。

《 12. 山口県椿遺跡》

小南裕一・高木英明・山田圭子編 2010 『椿遺跡』山口県埋蔵文化財センター調査報告第72集、山口県埋蔵文化財センター。

《 13. 岡山県菅生小学校裏山遺跡》

中野雅美編 1993 『山陽自動車道建設に伴う発掘調査5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告81、岡山県教育委員会。

《 14. 鳥取県長瀬高浜遺跡》

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 15. 鳥取県秋里遺跡》

加藤利晴・杉谷愛象・辻本武・平川 誠編 1976 『秋里遺跡Ⅰ』鳥取市文化財調査報告書Ⅳ、鳥取市教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 16. 香川県大浦浜遺跡》

大山真充・真鍋昌宏編 1988 『大浦浜遺跡』瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ、香川県教育委員会。

《 17. 徳島県鮎喰遺跡》

松永住美・河野雄次・吉成克則編 1985 『庄・鮎喰遺跡』徳島県教育委員会。

《 18. 大阪府若江遺跡》

金村浩一編 1996 『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1994年度』財団法人東大

阪市文化財協会。

《 19. 大阪府葎屋遺跡 》

岡本敏行編 2009 『葎屋北遺跡 I』大阪府教育委員会。

《 20. 奈良県曾我遺跡 》

関川尚功ほか 1984 『奈良県遺跡調査概報告（第 1 分冊）1983 年度』奈良県立橿原考古学研究所。

《 21. 京都府稻荷山古墳 》

亀井正道 1966 『建鉢山』吉川弘文館。

北條芳隆・禰宜田佳男編 2004 『考古資料大観』第 9 卷、弥生・古墳時代、石器・石製品・骨角器、小学館。

《 22. 京都府鏡山古墳 》

下村三四吉 1897 「山城国大原野村鏡山古墳の発掘品」『考古学会雑誌』第 4 号、182 - 185 頁。

《 23. 滋賀県中兵庫遺跡 》

中村健二編 2001 『中兵庫遺跡』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会。

《 24. 滋賀県門ヶ町遺跡 》

宮崎 歩編 2001 『門ヶ町遺跡第 18 次発掘調査報告書』草津市文化財調査報告書 43、草津市教育委員会。

《 25. 滋賀県古高遺跡 》

畑本政美編 1988 『古高遺跡発掘調査報告書』守山市文化財調査報告書第 31 冊、守山市教育委員会・守山市立埋蔵文化財センター。

《 26. 滋賀県金ヶ森西遺跡 》

大橋信弥編 1980 『金ヶ森西遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 27. 滋賀県大戊亥・鴨田遺跡 》

長浜市教育委員会 1994 『大戊亥・鴨田遺跡 2』長浜文化財ファイル 5、長浜市教育委員会。

《 28. 長野県神坂峠》

大場磐雄編 1983 『神坂峠』阿智村教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸》』東日本埋蔵文化財研究会。

北條芳隆・禰宜田佳男編 2004 『考古資料大観』第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、小学館。

《 29. 長野県大垣外遺跡》

今村善興編 1999 『大垣外遺跡』長野県下伊那郡阿智村農林課・長野県下伊那郡阿智村教育委員会。

《 30. 長野県篠ノ井遺跡》

風間栄一編 2002 『篠ノ井遺跡群(5)』長野の埋蔵文化財第101集、長野市教育委員会・長野市埋蔵文化財センター。

《 31. 神奈川県勝坂祭祀遺跡》

杉山林継 1972 「関東」『神道考古学講座』第2巻、雄山閣、33－68頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第II分冊－東日本編II－関東地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

加藤 修・篠原祐一・相山林継・山田不二郎編 2010 『勝坂有鹿谷祭祀遺跡資料報告書』相模原市史調査報告書6、相模原市。

《 32. 千葉県長州塚》

原田淑人 1936 『文学部考古学研究室蒐集品 考古図編』第十輯、東京帝国大学。

亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。

《 33. 千葉県草刈六之台遺跡》

小林清隆・酒井 宏・山口典子編『千原台ニュータウン 市原市草刈遺跡(L区)』千葉県教育振興財団調査報告第646集、財団法人千葉県教育振興財団文化財センター。

《 34. 千葉県東明神山遺跡》

寺村光晴 1974 『下総国の玉作遺跡』雄山閣出版。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』東日本埋蔵文化財研究会。

《 35. 千葉県北の内古墳 》

香取郡市文化財センター編 1999『事業報告Ⅷ』(財)香取郡市文化財センター。

《 36. 千葉県神崎出土(熊照寺裏古墳) 》

神崎町史編さん委員会編 1985『神崎町史 史料集一』神崎町。

千葉県史料研究財団編 2002『千葉県古墳時代関連資料(第3分冊)』千葉県。

《 37. 埼玉県石蒔A遺跡 》

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』東日本埋蔵文化財研究会。

《 38. 埼玉県大野田日遺跡 》

佐藤康二編 1994『大野田西遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第138集、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団。

《 39. 埼玉県須黒神社遺跡 》

浜野美代子編 1986『須黒神社遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第56集、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団。

《 40. 栃木県田間東道北遺跡 》

岩上照朗・篠原祐一・亀田幸久・太田嘉彦・斎藤 弘 1994『田間東道北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書149集、栃木県教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』東日本埋蔵文化財研究会。

《 41. 栃木県雷電山古墳 》

田代善吉 1939『栃木縣史』第12巻考古編、下野史談会。

吉岡和子・伴千秋・三坂典子・酒井正浩・千葉浩一 1989「宇都宮市岩本町雷電山古墳墳丘測量調査報告」『峰考古』第7号、宇都宮大学考古学研究会、47－56頁。

北條芳隆・禰宜田佳男編 2004『考古資料大観』第9巻、弥生・古墳時代、石器・石製品

骨角器、小学館。

◀ 42. 群馬県築瀬二子塚古墳 ▶

清野謙次 1955 『日本考古学・人類学史』下巻、岩波書店。

大工原 豊編 2003 『築瀬二子塚古墳・築瀬首塚古墳』群馬県安中市教育委員会。

群馬県立歴史博物館 1980 『企画展群馬の古鏡』群馬県立歴史博

◀ 43. 群馬県三ツ寺 I 遺跡 ▶

井上唯雄・下城正・女屋和志雄・右島和夫・外山政子 1988 『三ツ寺 I 遺跡』（本編）、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第 II 分冊－東日本編 II－関東地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

北條芳隆・禰宜田佳男編 2004 『考古資料大観』第 9 巻、弥生・古墳時代、石器・石製品
骨角器、小学館。

◀ 44. 群馬県剣崎長瀬西古墳 ▶

後藤守一 1937 「上野國碓水郡八幡村大字剣崎字長瀬西古墳」『皇室博物館学報』第 8 冊
22 - 28 頁。

亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。

東京国立博物館 1983 『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇（関東 II）、東京国立博物館。

北條芳隆・禰宜田佳男編 2004 『考古資料大観』第 9 巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・
骨角器、小学館。

◀ 45. 群馬県剣崎天神山古墳 ▶

外山和夫 1976 「石製模造品を出土した剣崎天神山古墳をめぐって」『考古学雑誌』第
62 巻第 2 号、31 - 53 頁。

群馬県立歴史博物館 1980 『企画展群馬の古鏡』群馬県立歴史博物館。

北條芳隆・禰宜田佳男編 2004 『考古資料大観』第 9 巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・
骨角器、小学館。

◀ 46. 群馬県甘楽郡甘楽町出土 ▶

東京国立博物館 1983 『東京国立博物館図版目録』古墳遺物篇（関東 II）、東京国立博物館。

◀ 47. 茨城県伝大塚古墳 ▶

清野謙次 1955 『日本考古学・人類学史』下巻、岩波書店。

◀ 48. 茨城県立切遺跡 18 号竪穴住居 ▶

河野辰男編 1988 『立切遺跡』茨城県東村・桜川村立切遺跡発掘調査会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 49. 茨城県宮の脇遺跡 ▶

人見暁朗編 1988 『一般県道新川・江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 尾島貝塚 宮の脇遺跡 後九郎兵衛遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 46 集、財団法人茨城県教育財団。

◀ 50. 茨城県尾島貝塚 ▶

人見暁朗編 1988 『一般県道新川・江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 尾島貝塚 宮の脇遺跡 後九郎兵衛遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第 46 集、財団法人茨城県教育財団。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 51. 茨城県立野遺跡 ▶

茨城県史編さん原始古代史部会 1974 『茨城県史料』考古資料編古墳時代、茨城県。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 52. 福島県正直遺跡 ▶

亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 53. 福島県建鉾山遺跡 ▶

亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』第Ⅰ分冊－東日本編Ⅰ－東北・東海地方・中部・北陸』東日本埋蔵文化財研究会。

北條芳隆・禰宜田佳男編 2004 『考古資料大観』第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、小学館。

《 54. 福島県中塩遺跡 》

渡辺 誠 1963 「磐城地方の祭祀遺跡」『歴史考古』9・10 合併号、日本歴史考古学会、47－53 頁。

亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。

渡辺一雄・松本友之・渡辺 誠・馬目順一 1964 「福島県平市中塩祭祀遺跡発掘調査報告」『上代文化』34、, 國学院大學上代文化研究會、43－54 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』第Ⅰ分冊－東日本編Ⅰ－東北・東海地方・中部・北陸』東日本埋蔵文化財研究会。

《 55. 福島県天王壇古墳 》

佐久間正明 2008 「福島県阿武隈川流域における古墳出石製模造品－天王壇古墳出土遺物の再検討から－」『地域と文化の考古学』Ⅱ、明治大学文学部考古学研究室、493－508 頁。

《 56. 福島県真野古墳群A地区49号墳 》

藤田亮策 1948 「真野古墳群調査報告」『史学』23 卷3号、慶應義塾大學文學部、53－75 頁。

亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。

渡辺 誠 1968 「相馬市柏崎の石製模造品」『福島考古』第9号、福島県考古学会、12－13 頁。

鹿島町史編纂委員会編 1981 『鹿島町史』第3巻資料編2 原始・古代・中世資料、鹿嶋市。

福島県編 1985 『福島県史』第6巻（資料編1 考古資料）、福島県。

《 57. 山形県八幡山遺跡 》

尾花沢市史編纂委員会編 1980 『尾花沢風土記』尾花沢市史編纂委員会。

伊東信雄 1972 「東北」『神道考古学講座』第2巻、雄山閣出版、9－32 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』(第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸) 東日本埋蔵文化財研究会。

《 58. 宮城県念南寺古墳 》

八島伸明編 1998 『壇の越遺跡・念南寺遺跡』宮城県文化財調査報告書第177集、宮城県教育委員会。

《 59. 大韓民国竹幕洞遺跡 》

国立全州博物館編 1994 『扶安竹幕洞祭祀遺跡』国立全州博物館。

禰宜田佳男編 2004 『考古資料大観』第9巻、小学館。

第7章 土製模造鏡の研究

はじめに

第2章から第6章では小型仿製鏡を中心に論じてきた。第7章では土製模造鏡について検討したい。土製模造鏡との比較を通じて、小型仿製鏡の意義も明らかにしたい。

土製模造鏡は、弥生時代後期後半から古墳時代にかけて、主に集落・祭祀遺跡において使用された祭祀器物の一種である。本章では、土製模造鏡の分類、模倣対象、出土遺跡、出現した背景などについて検討し、弥生時代後期後半から古墳時代における小製模造鏡と土型仿製鏡との関係について考察することとする。

古墳時代の祭祀遺物には石製模造品・土製模造品がある。この時代は、石製模造品である鏡・剣・玉・有孔円板・剣形・勾玉・白玉・子持勾玉などがあり、土製模造品には人形・動物・舟・鏡・勾玉・丸玉・武具・機織・農具・楽器・厨房・食物などがある。

本章では、土製模造鏡について取り上げ、祭祀の性格・年代・立地・環境・出土状況について論じる。

第1節 土製模造鏡の研究史

(1) 分類に関する研究

土製模造鏡の分類は小山・折原・稲垣によって、主に鈕の形態・鈕孔の有無に着目して行われている。

折原洋一は、全国の土製模造鏡を集成し、以下のⅠ～Ⅵ類に分類した（折原2003）。

Ⅰ類 鈕は半球形・円柱形・円錐形等のように横断面が円形を呈した立体的な粘土塊を貼り付け、その側面に小孔を穿つ形状となる。最も原形の銅鏡の鈕に近い形状を呈する。

Ⅱ類 鈕は鏡本体から指頭により摘み出し、その側面に小孔を穿つ形状とな

る。

Ⅲ類 鈕は鏡本体から指頭により摘み出し、その側面に小孔を穿つ形状となる。鏡の断面は楕円形となる。

Ⅳ類 鈕は板状の粘土を貼り付け、側面に小孔を穿つ形状となる。無関係と思われるが鉄製模造鏡の鈕に似る。

Ⅴ類 鈕は粘土紐を橋状に貼り付けた形状となる。

Ⅵ類 鈴鏡を模した例を一括する。

小山雅人は京都府野崎古墳群の報告の中で、土製模造鏡の分類を行っており、A～F類とした。

A類 アーチ形の粘土棒の両端を円盤に張り付け鈕とした馬連状のもの。

B類 鈕となる粘土を貼り付けた後、原則として1孔を貫通させるもの。

C類 鈕が大きく、円盤の両端に達する鍋蓋状のもの。

D類 鈕部分の粘土を円盤面から摘み出し、孔を貫通させるもの。

E類 鈕部分の粘土を摘み出しただけで、孔を設けないもの。

F類 円盤の縁に突起を設けるか、あるいは縁を波状に仕上げ、鈴鏡を表現したものの。

さらに、小山は古墳出土の事例として福岡県五穀神山遺跡である古墳墳丘からの出土した例、福岡県剣塚第2号墳周辺の竪穴の堆積土からの出土例、鳥取県青木遺跡B地区の古墳から出土例をあげ、集落・祭祀遺跡の数と比べ、非常に少ないことを指摘している。京都府野崎古墳や同府三宅古墳群例は、日常生活の場の祭祀が墓地にもち込まれた数少ない例とすべきとした。その祭事も葬送と同時であるとは言い切れず、しばらく後に行われた可能性もあると指摘した（小山1992）。

稲垣自由は土製模造鏡の出土遺構の分析を行い、分類も行っている。分類方法は土製模造鏡の鈕の形状に着目し、その断面形からA～E類とした（稲垣2010）。

A類 鈕が円柱状を呈するもの。

B類 鈕が柱状を呈するもの。

C類 粘土紐を貼り付けて断面形が橋状を呈するもの。

D類 粘土板を貼り付けて断面形が方形ないし長方形を呈するもの。

E類 円板面から粘土を摘み上げて鈕を作りだしたもの。

いずれの研究においても、鈕の形態に注目して分類を行っている。鈕を丸く作るもの、粘土紐を貼り付けるもの、もしくは摘み上げるものに大別している。

(2) 模倣の対象や意義に関する研究

折原洋一は土製模造鏡の分布状況から、古墳時代の中枢部である大和地域に無関係な拡散の存在を指摘できると述べる（折原 2003）。

土製模造鏡の模倣の対象となった青銅鏡について具体的に論じた研究を紹介する。筒井正明は土製模造鏡の鈕に半環状のものが多くのは、日本で最初に導入した青銅鏡が多鈕細文鏡であったことが関連しているのではないかと考えた。同じ遺構から様々な鈕の形態が混在して出土する事例もあり、その形態の相違が地域性によるものではなく、祭祀の目的によって鈕の形態を分けていたと指摘している（筒井 1999）。土製模造鏡の祖形や、鈕による形態の意義について踏み込んで論じた点で評価できる。

筒井正明は、土製模造品について、神マツリに用いられ、神を招いたり、接触したりする道具として、また神に捧げる幣帛として使用されたことは想像に難くないと述べる。「アメノイワヤ伝説、景行紀 12 年 9 月条、仲哀紀 8 年正月条、万葉集巻 13 - 3263 の例等、神マツリの際の、サカキに玉や鏡を懸ける行為は、石製模造品や土製模造品を使用する場合も想定できる」と述べる。「祖先崇拜に伴う祖先との接触の道具とも考えたい。魔除け的なもの・個人的に護符的なものとして使用した可能性も考えられる」、さらに「住居廃絶の際に意図的に置かれたのであれば、神に対して自分達が住んでいた場所を捧げるという行為があったのかもしれない」と述べ（筒井 1999）、土製模造鏡を用いて行われたであろう祭祀について様々な可能性を提示した。

土製模造品の使用方法がわかる例には、熊本県両迫間日渡遺跡を指摘でき、この遺跡では木の周辺から多量の石製模造鏡とともに土製模造鏡 2 点が出土しており、これらは孔に紐を通して木の枝に掛けて使用されていたと推測されている（荒木・古閑・兵谷・末永編 2009）。

(3) 土製模造鈴鏡の研究史

土製模造鏡には、鈴鏡を模倣したものもある。檜村宣行の研究があげられ、全国から出土した土製模造鈴鏡の分類を鈕孔の形状より行った。

A類：鈕となる粘土紐を貼り付けたもの。

B類：鈕となる粘土塊を貼り付けた後、工具によって穿孔したもの。

C類：円板の背面から粘土を摘み出して鈕とし、工具によって穿孔したもの。

D類：鈕を意識して、円板に1か所穿孔したもの。

鈴部の表現を2つに分類する。

1類：円板の周縁部に粘土塊を貼り付けたもの。

2類：円板の周縁部を摘み出したもの。

土製模造鈴鏡は銅製鈴鏡を簡略化したものであり、鈴部の形状は1類よりも2類に簡略化が認められると指摘した。土製模造鏡は4世紀に出現し8世紀前半で消滅するのに対し、土製模造鈴鏡は5世紀中ごろに出現し6世紀代をピークに7世紀中ごろに消滅すると指摘する（檜村 2011）。

第2節 土製模造鏡の分類

(1) 分類

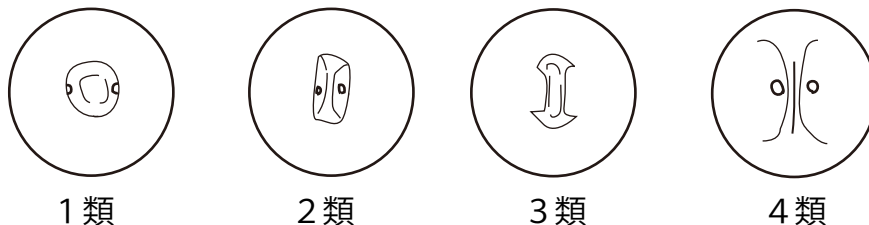
土製模造鏡の分類は鈕を上部からみた形状と、鈕の製作方法に着目して分類を行うこととする。

1類 鈕の形態は円形である。鈕は粘土の塊を貼り付け、鈕を棒状の工具で穿孔する。模倣の対象は丸い鈕をもつ青銅鏡であると考えられる。

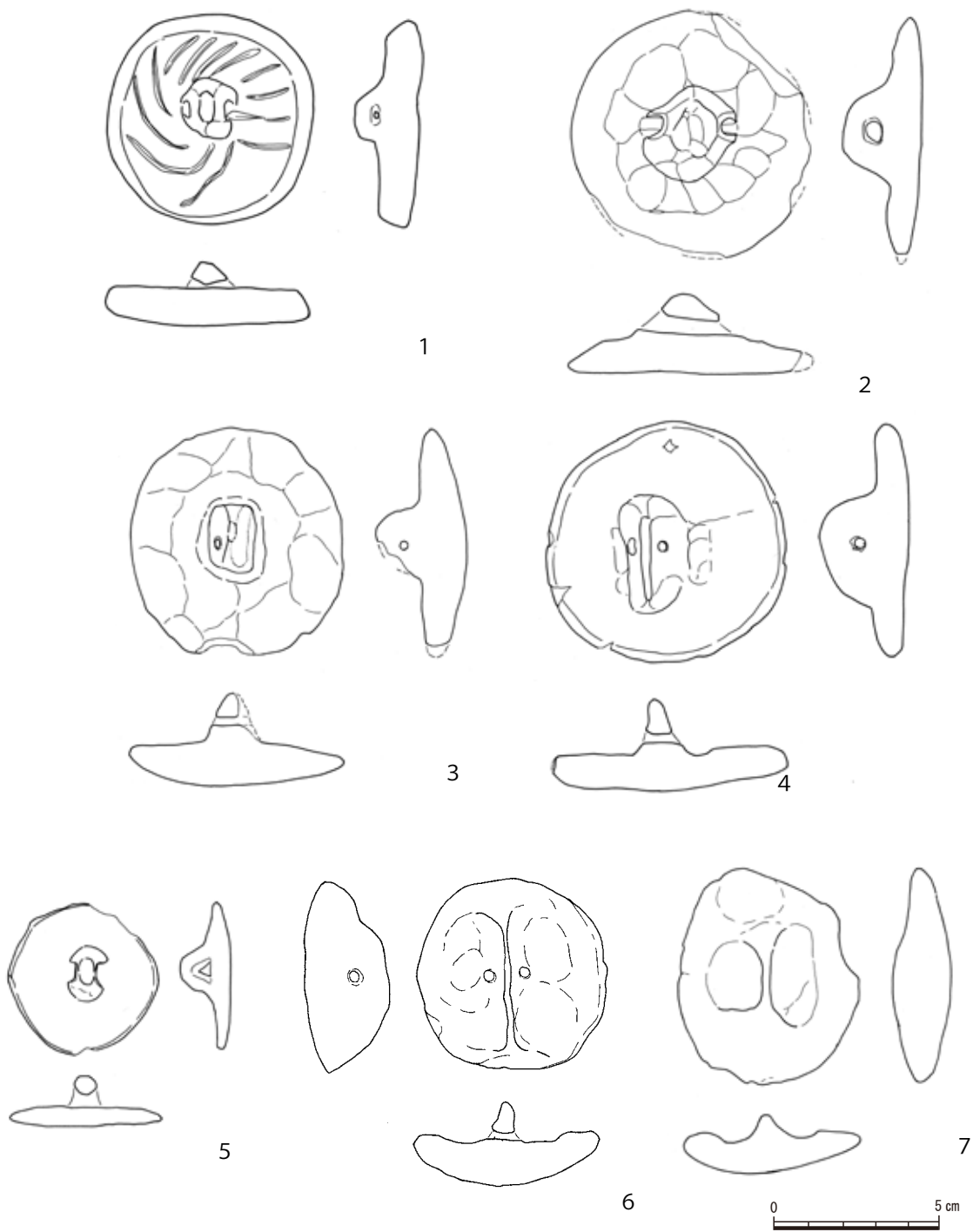
2類 鈕の形態は長方形や楕円形である。鈕は粘土の塊を貼り付け、鈕を棒状の工具で穿孔する。

3類 鈕の形態は長方形である。鈕は紐状にした粘土を貼り付ける。

4類 鈕の形態は長方形である。鈕は指先で粘土を摘み上げて製作する。模倣の対象は鼻鈕の仿製鏡とする。



第 181 図 土製模造鏡の模式図



1. 広島県梨ヶ谷遺跡 2. 熊本県柳町遺跡 3. 熊本県両迫間日渡遺跡
 4. 茨城県尾島貝塚 5. 広島県岡の段遺跡 6. 高知県具同中山遺跡
 7. 岡山県下湯原B遺跡
 (1類: 1・2、2類: 3・4、3類: 5、4類: 6・7)

第182図 土製模造鏡の分類

土製模造鏡には、原形となる仿製鏡があったと想定している。原形となった仿製鏡との関係について後に述べることとする。

(2) 土製模造鏡の資料紹介

1 熊本県宇土市馬場遺跡

馬場遺跡出土の土製模造鏡は、水路掘削工事によって採集されものである。土製模造鏡の詳細は不明である。

2 熊本県宇土市境目遺跡

境目遺跡は畑から土製模造鏡が出土したと報告される。穴を掘った際に出土したというのが詳細は明らかではない。土製模造鏡は2面あり、そのほかに土師器が出土している。

土製模造鏡は面径7.0 cmで、鏡縁はややとがっている。鈕の形も整えている。分類は2類と考える。

3 熊本県熊本市上江津遺跡

上江津遺跡は江津湖東岸に位置し、健軍川が江津湖に入る場所に位置する。当時は付近に大きな岩と湧き水があり、この付近から布目瓦などにまざり土師器・弥生土器・土師器（高坏・甕）が採取されている。土製模造鏡1点も採集品であり、土器と共に採集されている。水神に祀ったものと考えられている。

土製模造鏡は一部欠損しており、面径5.0 cm、中央部に0.5 cmの鈕を作り出す。鈕は横から穿孔されている。鏡面は凸面であり、中央部が高くなる。全体的に丁寧な作りで、赤褐色である。分類は4類である。

4 熊本県熊本市綿打遺跡

綿打遺跡は独鈷山の西裾に位置し、坪井川・井芹川合流点の東に位置する。

土製模造鏡は庭先にみかんを植える際に多量に出土している。土坑は1.5 m四方で深さ0.5～0.6 mである。その底には遺物が大量に堆積していたとある。共伴遺物には多量の土師器が出土し、大多数が壺形で少量の甕と高坏がある。他に手捏土器もある。祭祀の対象と思われるものには、西山をはじめ城山などがある。遺跡東側には岩の露頭があり、北側には湧き水がみられる。時期は不明である。

模造鏡の鏡体は楕円形をなし、面径6.2×6.9 cmである。色調は明黄褐色で、一部に黒斑があり。鏡面はふくらんでおり、手のひらで粘土塊を整形したこと

が推測される。背面はその中央部を摘み上げて鈕を作りだし、孔を貫通させる。分類は4類である。

5 熊本県玉名市両迫間日渡遺跡（第187図①～③）

両迫間日渡遺跡では合計3点の土製模造鏡が出土している。

祭祀遺構からは石製模造品（剣・有孔円板・勾玉・白玉）・土製模造品（鏡・勾玉・土製管玉・丸玉・手捏土器約）・土師器・須恵器が出土している。

土製模造鏡の実見・観察を行った。面径は淡褐色であり、2点は面径6.0 cmである。鈕は楕円形であり、鈕孔は穿孔で表現する。時期は中IV期～後I期である。分類は2類である。

その他に包含層からも土製模造鏡1点が出土している。時期は判断できない。面径も不明である。

6 熊本県玉名市上小田宮の前遺跡8・9区（第192図）

上小田宮の前遺跡では自然流路から土製模造鏡が14点出土している。ガラス小玉・碧玉製管玉・滑石製白玉・土製丸玉・土製勾玉・土師器・手捏土器・埴埴・滑石製有孔円板・滑石製剣形品・滑石製紡錘車・須恵器を摸倣した土師器が出土している。

土製模造鏡の実見・観察を行った。14点の面径は3.7～5.1 cmである。分類は1類と4類である。

7 熊本県玉名市小園遺跡（第191図①～③）

小園遺跡は集落遺跡であり、計3点の土製模造鏡が出土している。

36号住居からは、土製模造鏡2・手捏土器・土師器・須恵器が出土している。土製模造鏡は面径2.8×3.0 cm・2.5×2.9 cmであり、時期は後II期である。

他にも包含層より土製模造鏡1点が出土している。面径は2.3×4.5 cmである。時期は判断できない。分類はすべて2類である。

8 熊本県玉名市柳町遺跡（第188図②・第189図）

柳町遺跡は菊池川にほぼ隣接している。縄文時代晩期から平安時代初頭の集落遺跡であり、土製模造鏡7点は包含層から出土している。他には破鏡1・石製有孔円板1・土師器・土製管玉・土製勾玉・ミニチュア土器・木製品が出土している。時期は判断できない。

土製模造鏡の面径は、4.9 cmと6.6 cmである。5点は破片であり面径は不明である。6.6 cmは1類であり、それ以外はすべて分類は4類である。

9 熊本県玉名市柳町遺跡Ⅰ（第190図）

柳町遺跡は菊池川に隣接する縄文時代晩期から平安時代初頭の集落遺跡である。土製模造鏡は計8点あり、7号竪穴住居・包含層・2号竪穴住居・2号流路から出土している。他には土師器・ミニチュア土器・土製勾玉が出土している。

土製模造鏡は合計8点であり、面径は5.1～5.9 cmである。分類はすべて4類である。

10 熊本県玉名市柳町遺跡Ⅱ（第191図③・④）

柳町遺跡は菊池川に隣接する縄文時代晩期から平安時代初頭の集落遺跡である。溝・包含層から土製模造鏡が4点出土している。他には土師器・須恵器・ミニチュア土器が出土している。面径は3.5～5.3 cmである。分類は2類1面、4類3面である。

11 熊本県菊池市古閑原遺跡

古閑原遺跡は、花房台地のほぼ中央にあたり、合志川に面して立地する。出土状況は不明である。土師器は古代のものが出土している。また、遺跡の南側からは弥生時代後期の土器も出土している。

土製模造鏡は楕円形であり、色調は褐色を呈する。鏡面に部分に黒斑がある。焼成は良好である。鏡背面共に掌紋が付き、両手で粘土塊をつぶした状態が窺える。鈕は鏡背面中央を親指と人指し指でひねりあげ、鈕孔を貫通させている、面径4.8×5.3 cmである。分類は4類である。

12 大分県大分市東田室遺跡

東田室遺跡は弥生時代から古代の集落遺跡である。土製模造鏡は包含層から出土している。土製模造鏡は面径10.0 cmであり、分類は2類である。

13 大分県玖珠郡玖珠町小田遺跡

小田遺跡は集落遺跡であり、住居から土製模造鏡1点・鉄鎌・土師器・須恵器が出土している。時期は後Ⅳ期である。面径は不明である。分類は1類である。

14 佐賀県小城市久蘇遺跡

久蘇遺跡は集落遺跡であり、住居から土製模造鏡6点が出土している。他には土製勾玉・土製丸玉・手捏土器・木製品が出土している。時期は前期である。土製模造鏡の詳細は不明である。

15 佐賀県古城市石木遺跡

石木遺跡は集落遺跡であり、川から土製模造鏡6点が出土している。他には子持勾玉・有孔円板・手捏土器・木製品・土師器・須恵器が出土している。分類はすべて4類である。土製模造鏡は面径4.0～4.8cmである。時期は中Ⅱ期～中Ⅲ期である。

16 佐賀県佐賀市平尾二本杉遺跡（第193図）

二本杉遺跡は沖積低地の山麓寄りの立地し、土製模造鏡は溝から1点・土坑4基から各1点・ピット1基から1点、合計6点が出土している。分類はすべて4類である。時期は中Ⅳ期～後1期と、後Ⅱ期のものが確認されている。

17 佐賀県佐賀市大野原遺跡

大野原遺跡は集落遺跡であり、住居からは土製模造鏡1点・土師器が出土している。時期は前Ⅰ期である。土製模造鏡は面径4.2×4.0cmである。分類は1類である。

18 佐賀県佐賀市肥前国府跡

肥前国府跡は集落遺跡であり、土製模造鏡1点が表面採集されている。時期は不明である。土製模造鏡は面径3.0×3.4cmである。分類は4類である。

19・20 佐賀県鳥栖市牟田寄遺跡（第194図）

牟田寄遺跡は集落遺跡の貝塚から土製模造鏡約30点が出土している。その他にはガラス小玉・滑石製有孔円板・土製模造鏡・土製模造勾玉・土製模造玉・支脚状土製品・鉢型土製品などが出土している。

土製模造鏡は1・2・4類がみられ、その中でも4類が最も多い。土製模造鏡は30点すべてが面径3.0～5.1cmである。時期の判断できるものは後Ⅲ期～後Ⅳ期である。

21 佐賀県鳥栖市梅坂炭化米遺跡

梅坂炭化米遺跡は集落遺跡であり、住居からは土製模造鏡1点・手捏土器が出土している。時期は後Ⅱ期である。土製模造鏡は面径3.6×4.8cmである。分類は4類である。

22 佐賀県三養基郡基山町伊勢町遺跡

伊勢町遺跡の詳細は不明である。竪穴住居2棟から土製模造鏡1点ずつが出土している。その他に手捏土器・土師器が出土している。実測図がないため詳細は不明である。

23 福岡県大牟田市上内地区遺跡群

上内地区遺跡群は集落遺跡であり、土壙からは土製模造鏡1点が出土している。他には土師器・滑石製白玉・ガラス小玉・滑石製紡錘車・鳥形土製品・手捏土器が出土している。時期は後Ⅲ期～後Ⅳ期である。土製模造鏡は面径4.9cmであり、分類は4類である。

24 福岡県筑後市鶴田西畑遺跡

鶴田西畑遺跡は集落遺跡であり、住居は土製模造鏡1点が出土している。他には土師器・手捏土器・模造鏡・土製人形・不明土製品・石製品・蛇紋岩製勾玉・砥石・鉄製鋤先が出土している。時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。

土製模造鏡は面径5.7cmであり、分類は2類である。

25 福岡県筑後市津島九反坪遺跡

津島九反坪遺跡は集落遺跡であり、土器溜りから土製模造鏡1点・土師器が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅴ期である。

土製模造鏡は面径6.2cmである。分類は2類である。

26 福岡県八女市高野町遺跡

高野町遺跡は集落遺跡であり、住居・溝から土製模造鏡が2点が出土している。他には子持勾玉・ミニチュア土器・須恵器等が出土している。時期は後Ⅰ期である。土製模造鏡は面径3.5cmと3.8cmである。分類は共に4類である。

27 福岡県筑後郡那珂川町平蔵遺跡

平蔵遺跡は集落遺跡であり、包含層から土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。土製模造鏡は面径3.4×4.5cmである。分類は4類である。

28 福岡県久留米市乙隈天道町遺跡

乙隈天神町遺跡は集落遺跡であり、土坑から土製模造鏡1点が出土している。他には須恵器・土師器・鉄鏃片が出土している。時期は不明である。

土製模造鏡は面径7.5～8.0cmである。分類は2類である。

29 福岡県浮羽郡吉井町塚堂遺跡

塚堂遺跡は集落遺跡であり、住居からは土製模造鏡1点が出土している。詳細は不明である。

30 福岡県小郡市三国の鼻遺跡

三国の鼻遺跡は集落遺跡であり、住居からは、土製模造鏡5点が出土している。その他には須恵器・土師器・手捏土器・土製小玉・白玉・有孔円板・鉄鏃が出土している。時期は後Ⅰ期～後Ⅱ期である。

土製模造鏡は面径 2.6 ～ 3.1 cm である。分類は全て 4 類である。

31 福岡県小郡市津古生掛遺跡

津古生掛遺跡は集落遺跡であり、3 基の竪穴住居から土製模造鏡 4 点が出土している。他には土師器・須恵器・丸玉が出土している。時期は後 I 期～後 II 期である。

土製模造鏡は面径 2.6 ～ 4.2 cm である。分類はすべて 4 類である。

32 福岡県小郡市干潟遺跡

干潟遺跡は土壙墓と報告されているが詳細は不明である。

33 福岡県朝倉郡筑前町宝楽遺跡

宝楽遺跡は砥部岳南麓から続く台地上に営まれた集落跡である。30 軒の住居跡が検出されており、1・7・11・15・19・25・26 号住居からは土製模造鏡が出土している。分類は 4 類が大部分である。1 号住居出土例は 1 面であり、面径 3.0 cm、分類は 4 類である。時期は後 II 期である。7 号住居出土例は 1 面あり、2.1 × 2.5 cm で、分類は 4 類である。時期は後 II 期である。11 号住居は 4.3 cm であり、時期は後 I 期である。15 号住居出土例は 2 面出土しており、面径は約 3.0 × 4.0 cm ・ 約 3.0 × 3.8 cm で、分類は 4 類である。時期は後 II 期である。19 号住居出土例は面径 3.4 cm で、分類は 4 類である。時期は後 II 期である。25 号住居出土例は面径 2.1 × 3.4 cm と 2.3 × 3.8 cm で、分類は 4 類である。時期は後 II 期である。26 号住居出土例は面径 3.4 cm であり、分類 1 である。時期は後 II 期である。

34 福岡県朝倉郡筑前町久間遺跡（第 195 図③～⑥）

久間遺跡は砥部岳南麓から続く台地上に営まれた集落跡である。竪穴住居が 83 軒検出され、土製模造鏡は 44・66・71 号住居、および遺構外から出土している。44 号住居は土製模造鏡 3 点が出土しており、面径は 2.5 × 3.0 cm、2.8 × 3.0 cm ・ 3.3 × 3.4 cm であり、分類は 4 類である。土師器・土製模造鏡 3 ・ 手捏土器が出土している。中 III 期～中 IV 期である。

66 号住居は土製模造鏡 1 であり、面径 2.1 × 3.2 cm で、分類は 4 類である。時期は後 I 期～後 II 期である。土師器・土製模造鏡 1 が出土している。

71 号住居からは土製模造鏡が 2 面出土しており、面径は 3.4 × 3.9 cm と 4.6 × 4.8 cm である。分類は 4 類である。時期は中 III 期～中 IV 期である。

35 福岡県朝倉郡筑前町梨子木遺跡

梨子木遺跡は集落遺跡であり、住居5棟と包含層から土製模造鏡が計55点出土している。他には手捏土器・人形土製品・土玉・土製管玉が出土している。分類は全て4類である。鈕孔の有るものとないものがある。土製模造鏡の面径は記述がなく、不明である。時期は後期である

36 福岡県朝倉郡筑前町松崎遺跡 I

松崎遺跡は集落遺跡であり、耕作土から土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。

土製模造鏡は面径3.5×4.4cmである。分類は4類である。鈕孔はない。

37 福岡県朝倉郡筑前町松崎遺跡 II (第195図⑦～⑨)

松崎遺跡は集落遺跡であり、大溝から土製模造鏡6点が出土している。その他には手捏土器・土玉・刻目のある土板・土錘が出土している。時期は後Ⅲ期～後Ⅳ期である

土製模造鏡の6点の面径は2.5～3.5cmである。分類はすべて4類である。鈕孔の有るものとないものがある。

38 福岡県朝倉郡筑前町三国手遺跡 (第196図)

三国手遺跡は宝満川と合流する曾根田川と草場川によって形成された河岸段丘上に立地する。竪穴住居・掘立柱建物跡・溝状遺構・大溝などが検出されている。1・4・7・8号住居から土製模造鏡が合計7点出土している。1号住居は土製模造鏡4点で、それ以外の住居は各1点ずつの出土である。1号住居では、竈周辺埋土中から出土している。土製模造鏡7点の面径は2.5～5.8cmであり、全て4類である。時期は後期である。

39 福岡県朝倉郡筑前町切杭遺跡 (第195図②)

切杭遺跡は集落遺跡であり、箱式石棺から土製模造鏡1点が出土している。他には、手捏土器・土師器・須恵器が出土している。時期は7世紀後半である。

土製模造鏡は面径は2.9×3.3cmであり、分類は4類である。

40 福岡県朝倉郡筑前町七板遺跡

七板遺跡は宝満川と合流する曾根田川と草場川によって形成された河岸段丘上に立地する。3号竪穴住居より土師器・須恵器・手捏土器が出土している。時期は後Ⅱ期である。

土製模造鏡の面径は4.1cm・4.5cmである。ともに分類は4類である。

41 福岡県朝倉市八並遺跡

八並遺跡の詳細は不明である。土製模造鏡は3点出土と報告されるのみである。

42 福岡県松延池遺跡

松延池遺跡は砥部山より南に派生した丘陵先端にあり、標高約44mであり、水田面からの比高約10mとなる。祭祀遺物は丘陵谷部を利用して蔵瀬された松延池の北側池畔より土製模造鏡・土製勾玉・土製柄杓・土製丸玉・器台形土製品・手捏土器が出土している。

土製模造鏡3点で、そのうちの1点は面径2.5×3.5cmであり、鏡から鈕を摘みだしている。分類4類である。

43 福岡県朝倉郡夜須町立野遺跡

立野遺跡は集落遺跡で住居・溝・土壇から土製模造鏡が12点出土している。他には手捏土器・土師器・須恵器等が出土している。時期は後Ⅲ期～後Ⅳ期である。

土製模造鏡は面径2.1×4.3～4.5～6.5cmである。鈕孔のないものが多くみられる。分類はすべて4類である。

44 福岡県朝倉郡夜須町松の木遺跡

松の木遺跡は集落遺跡であり、住居の竈から土製模造鏡2点が出土しており、土製模造鏡の詳細は不明である。その他には、土製勾玉・土製丸玉・手捏土器・支脚が出土している。時期は後期である。

45 福岡県筑紫野市貝元遺跡1

貝元遺跡は集落遺跡であり、住居・ピットから土製模造鏡が5点出土している。その他に須恵器・土師器・手捏土器・土製円板・砥石等が出土している。時期は後Ⅲ期～後Ⅳ期である。

土製模造鏡は面径1.6×2.4cm～4.7×5.5cmである。分類は全て4類である。

46 福岡県筑紫野市貝元遺跡2

貝元遺跡は集落遺跡であり、住居から土製模造鏡2点が出土している。その他には須恵器・土師器・手捏土器・土製円板・砥石が出土している。時期は後期である。

土製模造鏡は面径2.9×3.6cm・4.7×5.5cmであり、分類は4類である。

47 福岡県筑紫野市杉原廃寺

杉原廃寺の詳細は不明であり、表土から土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である

土製模造鏡は面径 3.4 × 4.1 cm である。分類は4類である。

48 福岡県筑紫野市岡田地区遺跡（第214図①）

岡田地区遺跡の詳細は不明である。土製模造鏡1点が出土している。他には土師器・手捏土器が出土している。時期は後Ⅰ期～後Ⅱ期である。

土製模造鏡は面径 6.2 cm である。分類は2類である。

49 福岡県筑紫野市トドキ遺跡

トドキ遺跡の詳細は不明である。土製模造鏡1点が出土している。時期は後期である。土製模造鏡は面径 2.8 × 4.8 cm である。分類は4類である。

50 福岡県筑紫野市八ヶ坪遺跡

八ヶ坪遺跡の詳細不明である。土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。土製模造鏡は面径 3.5 cm である。分類は1類である。

51 福岡県筑紫野市長道遺跡

長道遺跡は砥上山の山麓の丘陵先端部に立地する。遺物は果樹園造成時に土製模造鏡6点・土製丸玉・手捏土器が出土している。時期は後期である。

土製模造鏡の大型品は 4.5 × 5.5 cm、小型品は長径 3.5 ~ 4.5 cm、短径 3.0 ~ 4.0 cm である。製作方法は類似しており、円盤状の粘土から鈕をつまみ出して製作している。分類はすべて4類である。

52 福岡県筑紫野市針楯出土

針楯遺跡の詳細は不明である。土製模造鏡2点が出土している。時期は後期である。土製模造鏡は面径 2.9 × 3.6 cm・4.7 × 5.5 cm である。分類は4類である。

53 福岡県筑紫野市大曲り遺跡

大曲り遺跡は集落遺跡であり竪穴住居から土製模造鏡2点が出土している。時期は後Ⅱ期である。土製模造鏡は面径 2.4 cm と 3.1 cm である。1点は鈕孔がない。分類は4類である。

54 福岡県筑紫野市五穀神社遺跡

五穀神社遺跡の詳細は不明である。土製模造鏡の詳細も不明である。

55 福岡県筑紫野市鷺田山遺跡

鷺田山遺跡の詳細は不明である。

56 福岡県筑紫野市山の谷遺跡

山の谷遺跡の詳細は不明である。

57 福岡県筑紫野市塚遺跡

塚遺跡は集落遺跡であり、堅穴住居から土製模造鏡2点が出土している。時期は後Ⅰ期である。土製模造鏡は面径3.5cmと3.9cmである。分類は4類である。

58 福岡県春日市石橋遺跡

石橋遺跡は大野川・丹生河河口付近を結ぶ大在から坂の市にかけての一角で砂丘上に位置する。弥生時代から古墳時代までの17棟の堅穴住居からなる遺跡であり、堅穴式住居から土製模造品が発見されている。

土製模造鏡の鈕は摘みだされて整形されており、二カ所に棒状工具で鈕を穿孔している。

59 福岡県春日市惣利西遺跡

当遺跡は牛頸側の小丘陵の谷に面した急斜面に立地する。6世紀末から7世紀にかけての集落を中心とした集落である。丘陵最下段に営まれた住居の作り付けの竈から土製勾玉・土製鈴が出土している。住居内からは土製模造鏡1点・紡錘車・白玉が出土している。土製鈴半円球をなし、中空で丸を入れる。

鏡は鈴鏡と思われ、鈕を摘み出して作り、鈕孔は穿たれている。分類は土製模造鈴鏡4類である。

60 福岡県春日市赤井出遺跡

赤井出山遺跡の詳細は不明である。出土が伝えられるのみであり、土製模造鏡の詳細は不明である。

61 福岡県太宰府市大宰府史跡

大宰府史跡は集落遺跡であり、整地層から土製模造鏡1点・手捏土器・須恵器・土師器が出土している。時期は後Ⅱ期である。土製模造鏡は面径2.4×2.7cmである。分類は4類である。

62 福岡県太宰府市観世音寺

観世音寺は集落遺跡であり、包含層から土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。土製模造鏡は面径4.7cmである。分類は4類である。

63 福岡県嘉穂郡桂川町影塚南遺跡

影塚南遺跡は集落遺跡であり、25号住居から土製模造鏡1点・土師器・手捏土器が出土している。時期は後Ⅱ期である。土製模造鏡は面径2.3×3.1cm

である。分類は4類である。

64 福岡県福岡市野芥遺跡 3

野芥遺跡は集落遺跡であり、溝から土製模造鏡2点・土師器・ミニチュア土器・滑石製有孔円板・須恵器が出土している。時期は後Ⅰ期である。

土製模造鏡は面径2.7cmと2.8×3.5cmである。分類は4類である。

65 福岡県福岡市羽根戸古墳群 2

羽根戸古墳群は集落遺跡であり堅穴状遺構外から土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。

土製模造鏡は面径7.0cmであり、分類は4類である。

66 福岡県福岡市大又遺跡

大又遺跡は脊振山地から北方から伸びる標高16～18mの低い台地上に位置している。祭祀場と考えられる堅穴状遺構の南北壁推定ラインより外側から土製模造鈴鏡4と土製模造鏡1・手捏土器が出土している。報告書では古墳時代後期の所産としている。

土製模造鏡は面径3.6～5.0cm、土製模造鈴鏡は面径4.2cmである。分類は全て4類である

67 福岡県福岡市下山門遺跡

下山門遺跡は祭祀遺構から土製模造鏡2・須恵器・土製模造品・手捏土器・土製丸玉・有孔円板・白玉・勾玉・刀子・剣形品・紡錘車が出土している。時期は後Ⅰ期～後Ⅲ期である。

土製模造鏡は面径2.4×3.5cmと3.5×4.1cmであり、分類は4類である。である。

68 福岡県福岡市拾六町平田遺跡

拾六町平田遺跡は室美川と十郎川・金屑川などの小河川によって形成された早良平野に立地する。祭祀遺構からは土製模造鏡1点・手捏土器・土製丸玉・滑石製白玉・滑石製管玉・子持勾玉・円盤製滑石製品が出土している。土製模造鏡の時期は判断できない。

土製模造鏡は面径4.1cmであり、分類は1類である。

69 福岡県福岡市那珂遺跡

那珂遺跡は集落遺跡であり土壙から土製模造鏡1点が出土している。

土製模造鏡は面径4.0cmである。時期は後Ⅱ期である。分類は4類である。

70 福岡県古賀市鹿部井ノ上遺跡

鹿部井ノ上遺跡は集落遺跡であり、溝から土製模造鏡6点が出土している。時期は後Ⅱ期である。

土製模造鏡は6面の面径は 2.8×4.0 cm～ 4.7×5.7 cmである。分類はすべて4類である。

71 福岡県宗像市野坂一丁目遺跡

野坂一丁目遺跡は集落遺跡であり5号住居から土製模造鏡1点・鉄鏃・土製紡錘車・投弾・手捏土器・土師器が出土している。時期は中Ⅰ期である。

土製模造鏡は面径 3.9×4.1 cmである。分類は2類である。

72 福岡県遠賀郡水巻町立屋敷遺跡

立屋敷遺跡は集落遺跡であり包含層から土製模造鏡2点が出土している。土製模造鏡の詳細は不明である。

73 福岡県遠賀郡芦屋町夏井ヶ浜遺跡

夏井ヶ浜遺跡は集落遺跡であり包含層から土製模造鏡1点・石製白玉・土製丸玉・手捏土器が出土している。時期は後期である。

土製模造鏡は面径は不明である。分類は4類である。

74 福岡県若宮市小原遺跡

小原遺跡は集落遺跡であり包含層から土製模造鏡2点・土鈴・手捏土器・石庖丁・砥石・須恵器・土師器が出土している。時期は後Ⅳ期である。

土製模造鏡は面径 3.1×3.2 cmと 3.5×3.8 cmであり、分類は4類である。

75 福岡県北九州市畠山遺跡

畠山遺跡は集落遺跡であり土坑から土製模造鏡1点が出土している。土製模造鏡は面径5.3 cmであり、分類は4類である。

時期は不明である。

76 福岡県北九州市寺田遺跡

寺田遺跡は集落遺跡であり包含層から土製模造鏡2点が出土している。面径は3.4 cmと4.3 cmである。分類は4類である。

時期は不明である。

77 福岡県北九州市潤崎遺跡

潤崎遺跡は集落遺跡であり包含層から土製模造鏡1点が出土している。土製模造鏡の詳細は不明である。

78 福岡県北九州市長野E遺跡

長野E遺跡は集落遺跡であり包含層から土製模造鏡1点が出土している。時期は後IV期である。

土製模造鏡の面径は4.3×5.8cmであり、4類である。

79 福岡県北九州市長野A遺跡

長野A遺跡は集落遺跡であり、包含層から土製模造鏡1点・土師器・手捏土器が出土している。時期は不明である。

面径2.8×3.3cmであり、分類は4類である。

80 福岡県北九州市勝円遺跡

勝円遺跡は集落遺跡であり、包含層より合計6点の土製模造鏡が出土している。A区は土製模造鏡2点・土製勾玉1点が出土しており、土製模造鏡は分類2類である。G区は土製模造鏡4点であり、分類4類である。時期は判断できない。

81 福岡県京都郡みやこ町犀川小学校校庭西側遺跡

犀川小学校校庭西側遺跡は集落遺跡であり、住居から土製模造鏡1点が出土している。他には土製輪形・土製勾玉・土製算盤玉が出土している。時期は後期である。

土製模造鏡は図面が報告されていないため、詳細不明である。

82 福岡県京都郡みやこ町皆見遺跡

皆見遺跡の詳細は不明である。土製模造鏡は7点出土している。

83 福岡県築上郡上毛町垂水地区遺跡群

垂水地区遺跡群は集落遺跡であり、溝から土製模造鏡1点・土師器・須恵器が出土している。時期は不明である。

土製模造鏡は面径4.9cmであり、分類は2類である。

84 福岡県筑紫郡那珂川町井河遺跡

井河遺跡は住居の土坑から土製模造鏡は4点が出土したと報告されている。土製模造鏡の詳細は不明である。

85 高知県四万十市東神木遺跡

東神木遺跡は集落遺跡であり、土製模造鏡2点が出土している。その他に有孔円板・石製勾玉・石製白玉・石製模造剣・土製勾玉・土製丸玉が出土している。

土製模造鏡の詳細は不明である。

86 高知県中村市船戸遺跡

船戸遺跡は集落遺跡であり、包含層から土製模造鏡2点・手捏土器・土師器・須恵器が出土している。時期は不明である。

土製模造鏡は面径5.2×5.5cm・7.1cmであり、分類は共に4類である。

87 高知県中村市具同中山遺跡（第197図・第198図①・②）

具同中山遺跡は四万十川の支流である中筋川左岸に立地し、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。古墳時代中期を中心とした祭祀跡が検出されることに特徴があり、四国でも有数の祭祀遺跡である。

S F 1では土製模造鏡1点で分類4類、S F 10は3点で分類1・4類、S F 10は6点で4類、S F 11は15点で分類は1類1面、4類14面である。S F 15は2点で1類1点・4類1点である。S F 17は3点で4類である。S F 20は2点である。

88 高知県中村市具同中山遺跡Ⅱ-1

具同中山遺跡は四万十川の支流である中筋川左岸に立地し、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。古墳時代中期を中心とした祭祀跡が検出されることに特徴があり、四国でも有数の祭祀遺跡である。

包含層から土製模造鏡1点・土師器が出土している。時期は不明である。面径は4.6×6.0cmであり、分類4類である。

89 高知県中村市具同中山遺跡Ⅲ-3（第198図③・④）

具同中山遺跡は、四万十川の支流である中筋川左岸に立地し、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。古墳時代中期を中心とした祭祀跡が検出されることに特徴があり、四国でも有数の祭祀遺跡である。

祭祀遺構・包含層から土製模造鏡が計12点が出土している。石製模造品（有孔円板・管玉・剣形品・臼玉）・敲石・鉄鏃・土製勾玉が出土している。

包含層からは土製模造鏡が4点出土し、面径は5.2×5.4cm・4.9cm・6.2cmである。分類はすべて4類である。時期は中Ⅳ期～後Ⅱ期である。

祭祀遺構からは土製模造鏡8点が出土し、面径は5.3×5.4cm～6.3×6.8cmである。分類はすべて4類である。時期は後Ⅰ期である。

90 高知県中村市具同中山遺跡Ⅳ

具同中山遺跡は四万十川の支流である中筋川左岸に立地し、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。古墳時代中期を中心とした祭祀跡が検出される

ことに特徴があり、四国でも有数の祭祀遺跡である。

祭祀遺構から土製模造鏡2点・土師器・須恵器・手捏土器が出土している。時期は後I期である。

面径6.4cmの土製模造鏡は分類2類、面径5.4×6.0cmの土製模造鏡は分類1類である。

91 高知県土佐市居徳遺跡（第199図①・②）

居徳遺跡は高知平野西部の標高8mの低湿地に位置する集落遺跡であり、包含層から土製模造鏡が出土している。時期は判断できない。土製模造鏡は4点出土しており、面径は2.0×2.6cm・3.0×3.1cm・4.3×5.0cmである。

92 高知県土佐市上ノ原遺跡Ⅱ

上ノ原遺跡は集落遺跡であり、包含層から土製模造鏡3点が出土している。時期は明である。

土製模造鏡は面径4.0cmと4.2cmであり、分類は共に2類である。

93 高知県高知市王子遺跡

王子遺跡は集落遺跡であり、溝から土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。土製模造鏡の詳細は不明である。

94 香川県坂出市下川津遺跡

下川津遺跡は集落遺跡であり、流路から土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。面径7.1cmで、分類は1類である。

95 愛媛県伊予郡砥部町宮内大畑遺跡

宮内大畑遺跡は集落遺跡で、住居から土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。面径5.0cmであり、分類は3類である。

96 愛媛県松山市文京遺跡

文京遺跡は四国西南部の道後平野に位置する東西20km、南北17kmの平野に立地する。トレンチからは土製模造鏡1点が出土している。面径は3.6cmであり、分類は1類である。

97 山口県下関市川棚条里跡遺跡（第203図①～③）

川棚条里遺跡は川棚川によって形成された谷底の平野に立地している。低丘陵の西方、川棚川左岸にあり、標高は5～9mである。土製模造鏡4点は表採されており、時期は不明である。

土製模造鏡の実見・観察を行った。4面の土製模造鏡は面径5.8×6.2cm・

5.9 × 6.0 cm・6.7 × 7.0 cm・復元径 4.2 cmである。

このうち面径 5.8 × 6.2 cmの土製模造鏡の鏡背面には櫛歯文帯が描かれている。面径 6.7 × 7.0 cmのものは鈕が欠損しているが、鈕の痕跡から 3類と判断できる。それ以外の 3面は 4類である。

98 山口県下関市下七見遺跡

下七見遺跡は田部盆地の南縁、田部川右岸に位置し、標高 30 mの洪積台地上に立地する。竪穴住居跡 S B - 1からは土製模造鏡 2点、土壙墓 S K - 3からは土製模造鏡 1点が出土している。時期は判断できない。

S B - 1出土例は面径 3.4 × 3.7 cm・5.2 × 6.9 cmであり、分類はすべて 4類である。S K 3出土例は面径は不明であり、分類は 2類である。

99 山口県山口市吉田遺跡

吉田遺跡は榎野川左岸の沖積低地ならびに洪積台地上に立地する現山口大学構内遺跡である。遺物包含層からは土製模造鏡 2点・石製模造品（有孔円板・剣形・盾・斧）が出土している。時期および祭祀の対象は判断できない。土製模造鏡 2点の面径は不明であり、分類はともに 4類である。

100 山口県美祢市中村遺跡（第 200 図①・②）

中村遺跡は集落遺跡であり、住居から土製模造鏡は 2点が出土している。時期は 7世紀後半である。面径は 4.3 × 5.0 cm・4.5 × 4.5 cmであり、共に分類は 4類である。2点共に橙色であり、形状が類似することから、同時に製作されたと思われる。

101 山口県美祢市国秀遺跡（第 200 ③～⑧・201・202 図）

国秀遺跡は厚東川と日峰川による扇状地に立地する。古墳時代後期から 8世紀の竪穴住居跡 120軒が検出されている。土製模造鏡や手捏土器もみられる。

土製模造鏡の実見・観察を行った。土製模造鏡は竪穴住居 S B 22 から 1点出土しており、面径は 4.8 × 5.2 cmである。分類は 4類である。時期は 7世紀末～ 8世紀前半である。

竪穴住居 S B 26からは土製模造鏡 1点が出土しており、面径 5.6 × 6.3 cmで、分類は 4類である。時期は 7世紀後半である。

竪穴住居 S B 90からは土製模造鏡 6点が出土しており、面径 1.4 × 2.9 cm・1.4 × 2.9 cm・1.5 × 3.1 cm・1.7 × 3.3 cm・1.8 × 3.3 cm・2.6 × 3.6 cmである。分類はすべて 4類である。6点の内 5点は楕円形であり、本来の青銅鏡の形状

からはかけ離れたものとなっている。時期は7世紀後半である

堅穴住居S B 93からは8点出土しており、面径2.5×2.9 cm・2.2×3.2 cm・1.9×3.8 cm・2.2×3.8 cm・1.9×4.5 cm 2.5×4.7 cm・2.3×4.2 cmである。分類は全て4類である。時期は不明である。8点はすべて楕円形である。S B 90出土の土製模造鏡と類似する。

102 広島県廿日市市地御前南町遺跡

地御前南町遺跡では試掘調査によって土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である。土製模造鏡は面径5.4cmであり、分類は4類である。

103 広島県広島市梨ヶ谷遺跡（第204図①）

梨ヶ谷遺跡は標高107～125 mの尾根筋に位置している。弥生時代後期の集落遺跡であり、堅穴住居や土坑が検出されている。第3号住居から土製模造鏡1・手捏土器が出土している。時期は弥生後期後半である。

土製模造鏡の実見・観察を行った。土製模造鏡は面径4.8 cmで厚みは8.5 mmである。鏡面には12条の斜行櫛歯文が施されており。鈕は半円形で忠実に青銅鏡をしたと考えられる丁寧なつくりとなる。分類は1類である。

104 広島県東広島市浄福寺2号遺跡

浄福寺2号遺跡は高屋町に所在し、標高240～255 m、水田からの比高15～35 mの丘陵上に位置する弥生時代から古代までの集落遺跡である。弥生時代中期から中世の遺物が出土しており、堅穴住居跡S B 55からは土製模造鏡1点・土師器・須恵器が出土している。時期は中期である。

鈕はつまみ出しで形成され、鈕孔をあけるための刺突痕があるものの、貫通していない。面径は3.6 cmであり、分類は4類である。

105 広島県東広島市乃美2号遺跡

乃美2号遺跡は未報告であるため詳細は不明である。土製模造鏡1点が出土している。分類は4類である。

106 広島県東広島市古市2号遺跡（第204図②・③）

古市2号遺跡は西条盆地の中央部に広がる標高228～244 mの低丘陵の先端部に位置し、周囲の水田からの比高は約10 mである。一辺3.7 mのF 2-02住居址からは土製模造鏡2点・土師器・ミニチュア土器・不明土製品・土製管玉が出土している。時期は中Ⅱ期～中Ⅲ期である。

土製模造鏡は5.0 cmと3.5×4.0 cmである。鈕は指先のつまみ上げによっ

て形成され、粘土に爪跡が残る。土製模造鏡の鈕は欠損している。分類は共に4類である。

107 広島県世羅郡世羅町宇山遺跡

宇山遺跡は宇山集落と太田平野をつなぐ峠に位置する。遺物は切通しの崖面より採集され、1.5 mの範囲から出土している。すべて土製模造品であり、人形・動物形・鏡・勾玉・丸玉・管玉・短甲・刀杼・綜棒・梭・中筒・埴・柄杓が出土している。祭祀の対象は峠の信仰に関すると考えられている。時期は後Ⅲ期から7世紀前半である。

土製模造鏡は実測図が報告されていないため詳細は不明である。

108 広島県山県郡北広島町岡の段C地点遺跡（第205図）

岡の段C遺跡は丘陵下部の河岸段丘上に位置する。祭祀に関連する遺構は集落の端の小さな川に向けて傾斜する場所で検出されている。ここからは須恵器・土師器・手捏土器・土製品（鏡・勾玉・管玉・丸玉）、白玉が出土している。時期は中Ⅳ期である。

土製模造鏡の実見・観察を行った。土製模造鏡は29点が出土しており、このうち面径の判断できるものは面径3.1 cm・3.4 cm・3.8 cm・3.8 cm・4.0 cm・4.1 cm・4.3 cm・4.5 cm・4.8 cm・5.3 cm・5.5 cm・5.5 cm・5.5 cm・5.6 cm・6.1 cm・6.6 cm・7.0 cmである。鏡体の形状は楕円形・正円がみられる。29点のうち2点は粘土紐を貼り付けて鈕を作るものであり、分類3類である。面径は3.1 cmと4.1 cmである。残りは指で摘み上げて作るものであり、25面は4類である。

109 広島県庄原市大成遺跡

大成遺跡は庄原盆地の北東方向に延びる丘陵端部に位置している。標高は約270～280 mであり、周囲との比高は約20～30 mである。調査区の包含層から手捏土器・勾玉・土製模造鏡1点・土馬・石製玉・土師器・須恵器が出土している。時期は中期である。

土製模造鏡の実見・観察を行った。面径は3.4×3.8 cmである。分類は4類である。鈕孔はない。鏡面は歪んでおり、丁寧な整形はなされていない。

110 広島県廿日市市ザブ遺跡

ザブ遺跡は福山平野の西部に位置し、本谷川が形成した標高8 mの扇状地に立地する。弥生時代から中世の遺構や遺物が出土し、土製模造鏡1点はF-5区の包含層から出土している。その他には手捏土器もみられる。時期は判断で

きない。

土製模造鏡の分類は4類である。面径は5.0×5.2 cmである。

111 岡山県倉敷市菅生小学校裏山遺跡（第206図②）

菅生小学校裏山遺跡は菅生小学校の裏山にあり、谷Aより土製模造鏡1点・土師器・須恵器・軟質土器・紡錘車・有孔円板が出土している。

土製模造鏡の実見・観察を行った。面径は4.2×4.8 cmであり、分類は4類である。

112 岡山県岡山市津島遺跡

津島遺跡は岡山平野のほぼ中央に位置する集落遺跡である。土製模造鏡は3点している。面径は不明であり、分類は1類が1面・4類が2面である。

113 岡山県真庭市下湯原B遺跡（第206図①）

下湯原B遺跡は集落遺跡であり、住居から土製模造鏡1点・須恵器・土師器・刀子が出土している。時期は後Ⅳ期である。

土製模造鏡の実見・観察を行った。鏡体は楕円形であり、面径は4.7×5.1 cmである。鈕孔はない。分類は4類である。

114 鳥取県米子市福市遺跡

福市遺跡は米子平野を北流する日野川流域と、法勝寺川と合流する扇状地の丘陵上に立地する。弥生時代後期から古墳時代にかけての集落と墳墓群である。日焼山地区の竪穴式住居から土製動物形と土製模造鏡1点が出土している。時期は判断できない。

土製模造鏡の詳細は不明である。

115 鳥取県米子市青木B6号古墳

青木B6号古墳は日野川と法勝寺河とにより開析された長者原台地に位置し、標高40 m前後の丘陵上に立地する。遺跡の北西側には福市遺跡が隣接する。祭祀具は、住居跡・古墳その他の遺構外からの出土である。径9 mの円墳の周溝内から土製品（勾玉形・丸玉・鏡・手捏土器）がまとまって出土している。時期は後Ⅱ期である。

土製模造鏡2点は鈕を摘みだしてつくり、孔をあけている。遺構外からは馬形が出土している。面径は不明である。分類は4類である。

116 鳥取県倉吉市谷畑遺跡

谷畑遺跡は国府川の丘陵に挟まれた谷の左岸に位置する。土製模造品を中心

に多種にわたる祭祀具が発見された。祭祀は大きく東西二カ所に分かれる。東側では土製品（人形・動物形・有溝円板）・6世紀末頃の土器が出土している。ここから24 m離れた西側では大きな木の根元から、土製支脚、竈等とともに、土製模造鏡や土玉・瑪瑙製勾玉が出土している。7世紀前半代の須恵器を伴う。壺・甕を模倣した手捏土器は様々な形があり、大きな器に小さな器が重なって出土するなど、祭祀後丁寧に置かれた状態が想定されている。

土製模造鏡は5点が出土している。鈕の形態は円形であり、鈕孔はない。鈕孔が穿孔されていない状況を見ると、模造化が進んでおり新しい様相を呈する。面径は報告されておらず不明である。すべて1類である。

117 兵庫県宍粟市飯見遺跡

飯見遺跡は西播磨の揖保川上流域にある引原川右岸の小扇状地に立地する。遺物は採集品であり、遺構の詳細は明らかではない。集落遺跡内の祭祀と考えられている。土製模造鏡2点・手捏土器である。土製模造鏡の年代は弥生時代後期から古墳時代初頭である。

土製模造鏡は、面径5.7 cm・6.0 cmであり、鈕の形状は楕円形である。分類は2類である。

118 兵庫県加古郡播磨町大中遺跡

大中遺跡は印南野大地の縁辺部にあたり、喜瀬川右岸の河岸段丘上に立地する。海岸部は南へ約2 kmの場所である。弥生時代から古墳時代の集落遺跡である。中国鏡の内行花文鏡片も出土している。91号住居は土製品（鏡1点・玉形1）が出土している。1号住居から土製鳥形品が出土している。時期は弥生時代後期後半から古墳時代初頭とされている。

土製模造鏡は面径5.2 cmであり、鈕の形態は円形であり、鈕は穿孔されている。分類は1類である。

119 兵庫県河高・上ノ池遺跡

河上・上ノ池遺跡は加古川上流域右岸にあり、青野ヶ原台地から流出した土砂の堆積によって形成された小規模な扇状地に立地している。北約2.5 kmに式内社住吉神社に比定される住吉神社が鎮座する。出土遺物は竪穴住居跡の一段高いベット上のコーナー遺構部分より土製模造品（鏡2点・勾玉・人形・盾・短甲・手捏土器）・土師器が出土している。5.8×7.0 mの隅丸方形の焼失した竪穴住居内から一括出土したものである。人形が住居址から出土するのは全

国的にも稀である。竪穴住居内が祭祀の場と考えられている。時期は土師器からみて中Ⅲ期である。

土製模造鏡は2点あり、面径は4.6 cm・5.9 cmである。分類はともに2類である。

120 京都府京丹後市三宅11号墳

三宅11号墳は犀川左岸の河岸段丘上に立地する。西端部の微高地には9基前後の円墳からなる古墳群が存在する。11号墳は径約14 mの円墳であり、墳丘および埋葬主体部は削平を受けている。周溝からは土製模造鏡4点が出土する。他には土製舟形・人形・須恵器が出土している。時期は後Ⅲ期～後Ⅳ期である。

土製模造鏡はすべて破損している。復元面径はそれぞれ6.0 cm・6.8 cmで、残りの2面の面径は不明である。分類は1類である。

121 京都府綾部市野崎3号墳

野崎3号墳は八田川上流の丘陵の先端に位置する。土製模造品（鏡・獣・馬・円盤）・ミニチュア土器・土師器・須恵器が出土している。3号墳は径17 mの円墳であり、その周溝からは土製模造品が出土している。時期は中Ⅳ期である。

土製模造鏡は1点であり、面径は6.3 cmである。分類は2類である。

122 奈良県北葛城郡寺戸遺跡

寺戸遺跡は馬見丘陵の東縁部の緩斜面に位置し、すぐ南には巢山古墳、西には倉塚および一本松古墳が築かれる。土製模造品（鏡1・臼形・紡錘車形・土馬）・土師器・須恵器・青磁が出土している。時期は古墳時代後期から8世紀である。

土製模造鏡は1点で、分類は1類である。

123 三重県名張市中出向26号墳

中出向26号墳は古墳であり、土製模造鏡が3点が出土している。詳細は不明である。

124 三重県松阪市草山遺跡

草山遺跡は沖積低を隆起する標高16 m、比高約8 mの丘陵上に立地する。規模6×9 m、高さ1 mの方形台上遺構の盛土中から土製模造品が集中して発見された。破損後に数回に分けて無作為に投げ捨てられた可能性が想定されている。人形土製品・獣形土製品・円形土製品・玉形土製品・有孔円板・須恵器が出土している。土器から5世紀～6世紀初めと想定されている。

土製模造鏡は2点あり、面径は4.6 cmである。指頭で摘み上げて鈕を作っている。分類は4類である。

125 三重県四日市市山奥遺跡

山奥遺跡は集落遺跡であり住居からは土製模造鏡1点・丸玉・手捏土器が出土している。時期は弥生時代後期後半である。

土製模造鏡は面径6.5 cmであり、鏡背面には二重に櫛歯文が描かれている。分類は2類である。

126 滋賀県大津市中畑田遺跡

中畑田遺跡は集落遺跡であり、土製模造鏡は1点出土している。面径4.5 cmであり、分類は1類である。

127 滋賀県栗東市十里遺跡

十里遺跡は集落遺跡であり、土製模造鏡は1点出土している。文様には刺突文がみられる。面径は6.0 cmであり、時期は前V期～前VI期である。分類は4類である。

128 滋賀県長浜市高月南遺跡

高月遺跡は高時川西岸の自然堤防上に位置しており、出土遺物は、有孔円板・剣・土製模造鏡3点・管玉・白玉・勾玉・小玉・子持勾玉がある。弥生時代から奈良時代までの集落遺跡である。

土製模造鏡の詳細は不明である。

129 滋賀県守山市赤野井湾遺跡

赤野井湾遺跡は集落の祭祀遺跡であり、土製模造鏡は2点が出土している。分類は1・2類である。時期は不明である。

130 岐阜県可児郡可児町北裏遺跡

北裏遺跡は木曾川左岸の低位段丘面とその支流である加古川との合流地点に立地し、古東山道ルート of 候補地でもある。時期は不明である。

縄文から歴史時代の本遺跡は、縄文晩期の土器がまとまった資料である。古墳時代の住居跡から床から10～15 cm浮いた状態で土師器片と土製模造鏡1点が出土している。面径5.8 cmであり、鈕は円形である。鏡背面に櫛歯文帯が描かれている。分類1類である。

131 愛知県馬見塚遺跡

馬見塚遺跡は木曾川水系より形成された自然堤防に立地する遺跡である。土

製模造鏡の詳細な時期は不明である。発掘時の記録では78点に達する土器が二重に積み重ねられたような状況で出土したとある。土器の中やその周辺からは手捏土器・ガラス玉・鉄製品・石製品・鉄刀子・鉄鏃・鉄鎌・炭化米が出土している。祭祀遺物は円盤・鉄剣・勾玉・管玉・白玉が出土している。土製模造鏡は採集品である。時期は前期から後期である

土製模造鏡は面径7.8cmで鈕の上部は欠損する。分類は1類である。

132 愛知県青山貝塚

青山貝塚は集落は貝塚から土製模造鏡が出土している。時期は不明である。その他に、手捏土器・土師器・須恵器・製塩土器が出土している。土製模造鏡は1類であり、面径7.0cmである。

133 静岡県中津坂上遺跡

中津坂上遺跡は三方原台地の北辺にあたり、北側を西流する都田川の浸食谷が入り込む台地上に立地する。遺物は開墾中に偶然発見され採取されたものであり、詳細は不明である。遺物は総数450点以上にのぼり、土製の人・犬・舟・鏡・玉類は勾玉・管玉・棗玉、武器は弓・矢・鞘・剣・武具は短甲・頸甲・盾、紡績具はタタリ・紡錘・柀・舞羽・糸巻・布巻・刀杼・貫など、農具は鍬・鎌、工具は斧・横槌、厨房具は杓子・杵・小型土器などの種類がある。

土製模造鏡3点の図面を確認している。1点は面径8.0cmであり、円形の鈕をもち、鈕を穿孔している。分類は1類である。1点は面径7.6cmであり、楕円形の鈕をもち鈕を穿孔で表現している。鏡背面には珠文を表現した文様がみられる。分類は2類である。1点は面径9.2cmであり、鏡背面に粘土紐を貼り付けた痕跡がみられることから、分類3類である。

134 静岡県岡の平遺跡

岡の平遺跡は祭祀遺跡であり、土製模造鏡2・石製有孔円板・石製剣形品・石製勾玉・管玉・ガラス小玉・白玉が出土している。時期は中Ⅳ期である。

土製模造鏡2点は面径約4.0cmであり、分類は3類である。

135 静岡県明ヶ島古墳

明ヶ島古墳は丘陵地形を成した台地縁円部に位置し、土製品は墳丘下から出土している。当遺跡は2700個体以上の土製品が出土し、人・犬・猪・鳥（水鳥・鶏）・鏡・玉（勾玉・管玉・丸玉）、装身具（耳環・釧・指輪）・武器（大刀・剣・弓・矢・鞘・鞆）、武具（短甲・冑・盾）、紡錘車（タタリ・紡錘・柀・舞羽・糸巻・布巻・

刀杼)、農具(鋤)、工具(縦斧・横斧)、漁労具(土錘・櫂・舟)、厨房具(杓子・杵・臼・小型土器)、楽器(琴・横笛・縦笛)、供物(餅・貝)などの種類が認められた。時期は中Ⅰ期～中Ⅱ期である。6ヵ所の祭祀跡や包含層は土製模造鏡が合計14点出土している。分類は1類が8点、分類3類は3点を確認した。面径は4.1cm・4.3cm・4.6cm・4.8cm・5.2cm・5.4cm・5.5cm・5.5cm・6.5cm・6.5cm・6.6cm・6.6cm・6.7cm・6.7cmである。

136 静岡県静岡市神明原・元宮川遺跡

神明原・元宮川遺跡は、静岡平野南東側の低地を南流する大谷川中流域に立地する。河川工事に先立って調査され、土製模造鏡・滑石製剣形・白玉・有孔円板・土製丸玉・土製人型・動物が出土している。他には重圈文鏡・素文鏡1・仿製鏡片1が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。古墳時代から中世までの祭祀遺跡である。

土製模造鏡は1点出土している。面径は不明である。鈕の形態は円形であり、穿孔されている。分類は1類である。

137 静岡県賀茂郡南伊豆町日野遺跡

日野遺跡は青野川と鯉名川との合流地点に発達した沖積平野に立地する。古墳時代前期の水田遺構、古墳時代中期から後期の祭祀遺構、平安時代の鉄関連遺構などが検出されている。遺物は勾玉・管玉・石製模造品(有孔円板・白玉)・土製模造鏡3・土製丸玉・土製垂飾り・手捏土器・土師器・須恵器・鉄滓・鞆羽口が出土している。土器の多くは、煮沸された痕跡があり、饗宴が祭祀で行われたと報告されている。

土製模造鏡3点の面径は6.3cm・6.6cm・6.8cmであり、鈕がはがれているが、その痕跡から分類は3類と判断している。

138 静岡県加茂郡南伊豆町日詰遺跡

日詰遺跡は青野川中流域の沖積地であり、弥生時代後期から平安時代にかけて続いた集落跡である。弥生時代の竪穴式住居、方形周溝墓、環濠等、古墳時代の竪穴住居跡、祭祀遺跡など、奈良・平安時代の掘立柱建物跡、製鉄遺構・鍛冶遺構などが検出されている。祭祀遺物は集落内の祭祀遺構及び竪穴住居内で検出されている。古墳時代中期から後期にかけてのものである。土製模造鏡は計12点で、他には有孔円板・土製勾玉・土製丸玉・手捏土器・土師器・須恵器が出土している。祭祀の対象は集落・川・山と考えられている。

土製模造鏡面径はそれぞれ 6.4 cm・6.6 cm・6.8 cm である。いずれも鈕は欠損しているが、棒状の鈕を貼り付けた痕跡が確認できることから、すべて 3 類である。

139 静岡県加茂郡南伊豆町下条遺跡

下条遺跡は青野川河口の弓が浜海岸北側に位置し、丘陵の裾部に立地している。敷石遺構周辺からは多量の手捏土器と土製模造品が出土している。また鉄滓・韃羽口片も出土しており、製鉄関連の遺跡としても注目されている。手捏土器は壺形のものが多く、65 点を数える。その他に高坏形もあり、須恵器も多量に出土している。海側に祭祀跡が分布し、山裾部分に住居跡群とその上方に祭祀域があることが分かっている。時期は後Ⅲ期～後Ⅳ期である。

土製模造鏡は 3 点の内 1 点は、面径 6.6 cm であり、分類は 2 類である。

140 静岡県下田市洗田遺跡

洗田遺跡は伊豆半島の東南側、下田市街地の西方を南流する大賀茂川左岸の丘陵突端部尾根上に位置し、海岸より約 2 km 遡った場所に立地する。対岸に美しい円錐型の三倉山が聳えている。神奈備形祭祀の代表である。珠文鏡 1・素文鏡 1・有孔円板・石製勾玉・石製白玉・石製模造剣・石製管玉・土製模造鏡多数・土製円板・土製丸玉・土製模造酒造具臼・土製管玉・手捏土器・土師器・須恵器が出土している。時期は中Ⅱ期～後Ⅱ期である。

土製模造鏡は 25 点以上出土しており、鈕は楕円形を呈し棒状工具によって鈕を穿孔するものと、粘土紐を鏡面に張り付けるものがあると報告される。このうち 3 点の図面を確認している。面径 6.9 cm の分類は不明である。面径 7.5 cm の分類は 3 類である。面径 8.4 cm の分類は 1 類である。

141 静岡県加茂郡河津町姫宮遺跡

姫宮遺跡は河津川河口から 500 m あまり遡った付近に位置し、河津川の形成した沖積地に立地する。遺跡が最大規模になったのは古墳時代中期である。姫宮幼稚園の南東隅のトレンチにおいて祭祀遺物が大量に出土している。石製模造品は 26 点で、勾玉・有孔円板・白玉・土製模造鏡 2・手捏土器が出土している。この下層より焼土が検出されており、祭祀遺物との関連が注目される。第 3 次調査では 31 号住居址から土師器・須恵器・手捏土器・土製模造鏡 1 点が出土している。第 4 次調査では乳文鏡も出土している。

土製模造鏡 2 点は円形の鈕であり、面径はそれぞれ 4.5 cm・7 cm であり、共

に分類は1類である。

142 長野県長野市駒沢新町遺跡

駒沢新町遺跡では0.4 m掘り下げた長方形の土坑から大量の土器と石製模造品が出土している。手捏土器は20数点あり、2号址からも手捏土器2点が出土している。3号址は500以上の土器片を径5 mの円形状に集積したマウンド上の遺構であり、石製模造品のほか、土製模造品（鏡・勾玉・丸玉）も出土している。時期は中期である。

土製模造鏡の詳細は不明である。

143 長野県長野市石川条里遺跡

石川条里遺跡は微高地に位置し、大溝とその周囲に約400基の土坑群が検出されている。土坑は祭祀行為に関する廃棄土坑や井戸跡柱跡が含まれる。転用羽口・土錘・管玉・砥石・骨類・骨鏃・土製勾玉・土製杵状品・土製棒状品が出土している。土製品には鏡・円板・丸玉・土師器が出土している。時期は前VI期～中I期である。

土製模造鏡は面径5.2 cmであり、鈕は円形であり、分類は1類である。

144 長野県千曲市城の内遺跡

城の内遺跡は千曲川の反乱によって堆積した自然堤防上に位置し、近くには將軍塚古墳・倉科將軍塚古墳・土口將軍塚古墳などの前方後円墳がある。住居址19・祭祀遺構1が検出されている。祭祀遺構は直径の1 mほどの炉跡とその西方約1.5 mの地点に0.5 mほどの扁平な石が置かれ、その周囲に土製勾玉・鏡1・釧・土師器と共に散乱していた。他には石製模造品（勾玉・剣形品・有孔円板・白玉）・管玉・土製勾玉・土製丸玉が出土している。祭祀遺構であり、竪穴式構造物であった可能性が高い。時期は中期～後期である。

土製模造鏡は面径約6 cmである。鈕の形態は楕円形であり、分類は2類である。

145 長野県埴科郡坂城町百々目利遺跡

百々目利遺跡は昭和5年に個人宅より出土した土製模造鏡1点であり、その後の発掘調査は行われていない。時期は不明である。

土製模造鏡は面径11.6 cm、縁には放射状の刻みがあり、分類は3類である。

146 長野県上田市西之手遺跡

西之手遺跡の詳細は不明である。土製模造鏡は面径約4.2 cmであり、鏡背

面には円形の刻みが配されている。珠文鏡を模倣したと考えられる。

147 長野県小諸市竹花遺跡

竹花遺跡は集落遺跡であり、竪穴住居から土製模造鏡1・滑石製白玉・剣形が出土している。土製模造鏡は竈右裾からの出土である。

土製模造鏡は面径7.2cmであり、鏡背面には鈕を接着した痕跡があることから、分類は3類と判断する。

148 長野県松本市高宮遺跡

高宮遺跡の詳細は不明であり、土製模造鏡は1点出土している。

面径3.3cmであり、分類は4類である。

149 山梨県韮崎市坂井南遺跡

坂井南遺跡は塩川と釜無川によって形成された舌状台地に立地する。75軒ほどの古墳時代の住居跡と4基の方形周溝墓などが検出されている。住居跡より土製模造鏡1・土師器・ミニチュア土器が出土している。時期は前Ⅲ期～前Ⅴ期である。

面径4.0cmであり、鈕の形態は円形である。分類は1類である。

150 山梨県韮崎市大原遺跡

大原遺跡は扇状地の端部に形成された集落遺跡である。土製模造鏡の出土状況は不明である。土製模造鏡は面径約5.0cmであり、分類は1類と判断する。

151 福井県大飯郡おおい町浜禰遺跡

浜禰遺跡は海岸に接する砂丘であり、古墳時代前期後半から後期前半にかけて製塩が行われた漁業集落である。検出された遺構は製塩炉・土坑であり、住居は確認されていない。祭祀土坑からは甕・高坏・壺・製塩土器、石製模造品である勾玉・有孔円板、土製品である小玉が出土している。土製模造鏡の出土状況は不明である。祭祀の対象は漁業に関する祭祀といわれている。

土製模造鏡は2面あり、面径はそれぞれ3.6cm・3.8cmであり分類は共に1類である。

152 福井県三方郡三方町田名遺跡

田名遺跡は、はす川左岸の湿地に位置する。遺跡の詳細は不明である。古墳時代の祭祀遺跡は二カ所にまとまって検出されている。遺構は検出されず、多数の遺物が集積された状況で出土した。祭祀1では石製模造品は勾玉・白玉・ガラス小玉・手捏土器・須恵器・土師器が出土している。祭祀2では白玉・手

捏土器・須恵器・土師器が出土している。川に関わる水の祭祀といわれている。

土製模造鏡は1点あり、面径は3.5×7.6 cmである。分類は3類である。

153 福井県三方郡三方町松原遺跡

松原遺跡は海に関する祭祀と考えられている。土製模造鏡は23点・土製管玉・土製勾玉・土製舟・土製釧・土製短甲・土製ミニチュア品などが出土している、時期は中IV期～後IV期であり、長期間に複数回の祭祀が行われている。

土製模造鏡は計23点であり、1点は破片で、それ以外は完形である。面径2.5 cm・2.9 cmは4点・3.1 cm・3.3 cmは5点・3.6 cmは3点・4.0 cmは2点・4.1 cm・4.3 cmは2点・4.5 cmは2点・6.6 cmは1点であり、分類は1類5面・2類1面・4類16面である。

154 神奈川県横浜市上郷猿田遺跡

上郷猿田遺跡は柏尾川の支流に位置する。標高約70 mの南面する丘陵性台地上に立地する。竪穴住居跡から土製模造鏡1・土師器・土玉が出土している。祭祀の対象は竈と考えられている。時期は判断できない。

土製模造鏡は面径6.2 cmであり、分類は4類である。

155 千葉県館山市東田遺跡

東田遺跡は汐入川とその支流の合流点付近の河岸段丘面上に立地し、古墳時代後期の遺構として竪穴住居・大形の総柱建物・溝などが検出されている。祭祀関連の土製模造品は汐入川に面した部分に掘られた溝内から集中して出土している。土製模造鏡7点・土師器多数・須恵器・石製品の剣形・管玉・白玉・有孔円板・土製品（勾玉・管玉・斧形・鋤先・手捏土器）が出土している。時期は後I期である。

土製模造鏡7点が出土しており、そのうち2点は鈴鏡を模倣したものである。土製模造鏡は3.3 cm・3.9 cm・4.8 cm・6.0 cm・9.9 cmであり、土製模造鈴鏡は6.3 cmと7.5 cmである。土製模造鏡は1類は1点、4類は3点である。土製模造鏡は鈕を穿孔によって表現しており、分類できない。

156 千葉県館山市猿田祭祀遺跡

猿田祭祀遺跡は崖錐堆積物中からから土製模造鏡2・土製勾玉・土製丸玉・手捏土器が出土している。

時期は判断できない。祭祀の対象は富士山と報告されている。

土製模造鏡1点の面径は約8 cmである。分類は2類である。

157 千葉県館山市建館の前遺跡

建館の前遺跡は湿地に位置しており、土製模造品は鏡・勾玉・土玉・手捏土器が出土している。祭祀の対象は富士山と報告されている。

土製模造鏡の詳細は不明である。

158 千葉県館山市つとるば遺跡

つとるば遺跡は汐入川南岸に位置し、河川が形成した幹枝状に延びる浸食谷に面した丘陵斜面に立地する。土製四鈴鏡1・土製模造鏡2・土製有孔円板・土製勾玉・土製管玉・土製平玉・土製丸玉・土製鈴・土製鈴釧・土製不明品・土製鐸・小型手捏土器・粗製土器・土師器・白玉が出土している。土師器から7世紀中ごろから後半と推定されている。

土製模造鈴鏡は3点あり、7鈴は鈴込13cmで分類2類、4鈴は鈴込12.2cmで、分類は4類。5鈴は鈴込で面径7.0cmであり鏡体に孔をあけるもので、今回は鈕を作り出したもののみを分類しているため、分類は行っていない。

159 千葉県館山市長須賀条里遺跡

長須賀条里遺跡は館山平野内を南北に走る砂丘列の後背低地内に立地する。古墳時代中期後半を中心とした時期に水田や水路周辺で石製品と子持勾玉・土製模造品・銅鏡・土師器・初期須恵器を使用した祭祀を行っていた。

溝状遺構のCSD-2からは土製模造鏡1点・勾玉形土製品・土製土玉・鏡形土製品・紡錘車形土製品・滑石製模造品が出土している。土製模造鏡は面径9.6cmで分類は3類である。

溝状遺構のCSK-2からは・手捏土器・土師器・滑石製剣形品・紡錘車が出土している。土製模造鏡は2点あり、共に欠損しており、残存長5.2cm・残存長2.4cmである。分類は3類である。

溝状遺構のESD-1は導水施設であり、土製模造鏡1点・紡錘車・土玉が出土している。分類3類である。

溝状遺構EFからは土製模造鏡1点が出土している。時期は不明である、面径7.8cmであり、分類は3類である。

この遺跡では5点はすべて3類である。

160 千葉県館山市出野尾洞穴遺跡

出野尾洞穴遺跡は標高約30mの場所に位置する洞穴である。土砂崩れにより、7世紀代の須恵器・土製模造品（勾玉・丸玉・鏡形・有孔円板）が出土し

ている。遺跡の詳細は不明である。

土製模造鏡の面径は 7.8 cm であり、分類は 3 類である。

161 千葉県柏市戸張南台遺跡

戸張南台遺跡は大塚川を東に臨む標高 20 m 前後の台地上に位置する集落遺跡であり、焼失住居の第 1 号住居跡からは、土製模造鏡 1 点・土師器が出土している。時期は前Ⅳ期～前Ⅴ期である。

土製模造鏡は面径 6.3 cm である。鈕は欠損しているが、棒状の粘土を貼り付けて鈕を形成していると判断でき、分類は 3 類としている。

162 千葉県木更津市千束台遺跡

千束台遺跡は東京湾に面する標高 48 m ほどの丘陵上に立地する。弥生時代中期から古墳時代中期までの竪穴住居跡 173 軒が検出されている。祭祀遺構は集落域を南に外れた見晴らしのよい丘陵先端部に位置し、6 世紀末期に築造された古墳墳丘下となっていたため極めて遺存状態が良い。祭祀遺構は古墳時代前期の大形住居跡の窪地にあり、直径 0.5 m、深さ 1.1 m から、多量の土師器・石製模造品の有孔円板・剣形・扁平勾玉・釧形の環状製品・棒状製品・白玉・剥片が出土している。時期は中Ⅳ期～後Ⅰ期である。

土製模造鏡は 2 点あり、面径は 5.7 cm と 6.2 cm である。分類は 4 類である。

163 千葉県市原市南岩崎遺跡

南岩崎遺跡からは集落遺跡の集積に混ざって土製模造鏡 1 点・土師器が出土している。時期は中Ⅰ期である。土製模造鏡は 1 点で、面径 5 cm 以上である。分類は 3 類である。

164 千葉県市原市草刈六之台遺跡

草刈六之台遺跡は集落遺跡であり、121 号住居址から土製模造鏡 3 点・滑石製小玉・有孔円板・ミニチュア土器・高坏が出土している。

土製模造鏡は面径はそれぞれ 3.2 cm・4.6 cm・4.8 cm であり、3 面ともに分類は 1 類である。

165 千葉県市原市草刈遺跡

草刈遺跡は集落の住居址であり、土製模造鏡 1 点が出土している。

207 号住居では土製模造鏡が 1 点が出土しており、面径は 2.7 cm である。時期は後Ⅰ期である。分類は 1 類である。

184 号住居では土製模造鏡は 1 面出土しており、時期は前Ⅱ期～前Ⅲ期であ

る。分類は3類である。

166 千葉県匝瑳市柳台遺跡

柳台遺跡は栗山川の支流の借当川上流に面した台地上にあり、旧樺海の西側に位置する集落遺跡である。

166号住居からは、土製模造品（玉・管玉・勾玉・鏡）と手捏土器3点が出土している。時期は不明である。

土製模造鏡の分類は共に2面であり、分類は共に2類である。面径は不明である。

167 東京都八王子市中田遺跡

中田遺跡は川口川に面する段丘上に立地しており、C¹-2住居から、土製模造鏡8点・勾玉が出土している。時期は後Ⅲ期～後Ⅳ期である。

土製模造鏡の面径は6.2cm・6.5cm・6.6cm・6.8cm・7.0cm・7.2cm・8.0cm・8.6cmである。

168 東京都八王子市船田遺跡

船田遺跡は集落遺跡であり、竪穴住居址より土製模造鏡1点が出土している。時期は古墳時代後期である。土製模造鏡の詳細は不明である。

169 東京都八王子市北八王子西野遺跡

北八王子西野遺跡は谷地川より開析された加住南丘陵に立地している。当遺跡は古墳時代後期の竪穴住居跡8軒が調査されている。1号住居からは土製丸玉・手捏土器が出土している。6号住居からは土製模造鏡15点の鈕のみが出土している。

土製模造鏡は鈕を紐状に製作しており、分類は3類である。

170 東京都あきる野市草花遺跡

草花遺跡は草花台地と秋留台地に位置する。11号住居からは土製模造鏡1点・土師器が出土している。時期は前Ⅴ期～前Ⅵ期である。

土製模造鏡は残存径3.0cmであり、分類は2類である。

171 東京都多摩市多摩ニュータウン

多摩ニュータウン遺跡は、境川左岸の段丘北側に開析された谷から西側の丘陵頂部にかけて立地している。NO918遺跡の17号住居からは土製模造鏡1点、NO916遺跡4号住居では土製模造品が出土している。

土製模造鏡の面径は不明であり、円形の鈕をもつ。分類は1類である。

172 東京都足立区水神橋際遺跡

水神橋際遺跡は、旧入間川の一部を成す毛長川の南岸の微高地に位置し、伊興遺跡から東方約1.4 kmにあたる。土製模造鏡の出土が伝えられるのみである。

土製模造鏡は径4.1 cmであり、方形の鈕をもち、貫通している。分類は2類である。

173 東京都北区赤羽台遺跡

赤羽台遺跡は、武蔵野台地東縁の荒川低地から東京低地に接する標高約20 mの台地先端部上に位置する。住居址より土製模造鏡1点・手捏土器が出土している。

土製模造鏡は約4分の1が残存し、復元径は4.5 cmである。鈕は円形であり、分類は1類である。

174 東京都足立区伊興遺跡

伊興遺跡は東京都北東部と埼玉県の境を東流する旧入間川の一部を成す毛長川南岸の微高地に立地している。毛長川流域における水霊の祭祀と考えられている。桶竪穴住居跡の遺構が確認され、床面上に25～30 cm上層にて土製模造鏡2点や滑石製勾玉が出土している。時期は古墳中期と思われる。

この遺跡からは、他にも捩文鏡1面・素文鏡2面・珠文鏡1面・石製模造品・白玉・平玉・勾玉・管玉・丸玉・子持勾玉・有孔円板・剣形品・紡錘車・土製模造品が出土している。

土製模造鏡の面径は4.5・4.7 cmである。共に円形の鈕であり、分類は1類である。

175 埼玉県深谷市今泉遺跡

今泉遺跡は、古代の榛澤郡と小玉郡・那賀郡の境界地帯に位置する山崎山丘陵の一支陵に位置する。遺物の出土は3回あったと伝えられ、2回目は地主が山林と畑の境界に根切り溝を掘った際に土製人形が出土したため、4 mに広げたところ、多量の土製模造品が出土したとある。この際に出土した土製模造品86点は、人形・動物・武器・弓・鏡・丸玉・器具・食器・竈・釜・有孔円板・棒状品である。祭祀の対象は峠の境界の祭祀である。時期は後期である。

土製模造鏡の面径は不明で、分類は3類である。

176 埼玉県戸板市上谷遺跡

上谷遺跡は小畦川を臨む舌状立地上に位置する。遺構は竪穴住居39軒が検

出されており、祭祀遺物は6軒の竪穴住居跡から出土している。34号住居は3軒の住居跡が重複したもので、出土遺物は最新の住居に伴う。ミニチュアの高坏1があり・いずれかの遺構に伴うか判断できないが土製模造鏡1点が検出されている。本遺跡はミニチュア土器が多いとある。出土遺物は土製模造鏡・手捏土器・土師器・須恵器・砥石・土製支脚である。時期は不明である。土製模造鏡の詳細も不明である。

177 埼玉県本庄市西富田新田遺跡

西富田新田遺跡は集落遺跡であり、住居から土製模造鏡1点が出土している。土製模造鏡の詳細は不明である。

178 埼玉県本庄市久下前遺跡

久下前遺跡は集落遺跡であり、住居から土製模造鏡1点が出土している。土師器があり、時期は後Ⅱ期である。

土製模造鏡の面径は7.1cmである、分類は3類で、二重の櫛歯文帯が描かれている。

179 群馬県邑楽郡板倉町伊勢ノ木遺跡

伊勢ノ木遺跡は谷田川右岸の河川敷内の埋積台地上に位置し、遺跡からは手捏土器・石製の有孔円板・不明品・土製の勾玉・管玉・碧玉製管玉・土製有孔円板・土製模造鏡1などが出土している。21号住居から土製模造鏡1・土師器・須恵器がみられる。時期は後Ⅳ期である。

土製模造鏡は4鈴の鈴鏡を模倣しており、面径は不明である。分類は土製模造鈴鏡1類である。

180 群馬県太田市反丸遺跡

反丸遺跡は渡良瀬川と八王子丘陵に挟まれた微高地上にあり、古墳時代中期の住居1軒と後期の住居53軒が検出されている。集落の北東部では祭祀遺構のみが確認され、祭壇状施設とその周囲の住居内での祭祀との相違点を考える上で重要とされている。東西4m・南北7mの範囲から土師器・須恵器が出土する。23号竪穴住居から土製模造鏡1点が出土している。7・9号住居からは石製小玉・19号住居からは有孔石製品・54号住居からは碧玉製管玉1が出土する。時期は不明である。

土製模造鏡は面径5.1cmで、分類は1類である。

181 栃木県下津賀郡野木町清六Ⅲ遺跡

清六Ⅲ遺跡は思川低地に面した絶状台地上に位置している。住居より土製模造鈴鏡が床埋土から出土している。

土製模造鈴鏡1点は面径6.6cm、鈕は粘土紐を貼り付け橋状となるものであり、分類は3類である。5鈴を取り付ける形状である。

182 栃木県足利市田島持舟遺跡

持舟遺跡は足利市田島に所在している。6世紀～7世紀の住居跡の埋土からの出土である。

土製模造鈴鏡は面径6.1cm、鈕は欠損しているが、穿孔の痕跡があることから、分類2類とする。

183 栃木県河内郡上三川町五分一上原遺跡

五分一上原遺跡は田川左岸の河岸段丘上に位置している。祭祀関連遺物は土製模造鏡1点・土製模造品高坏・手捏土器・須恵器がみられる。時期は中Ⅲ期～中Ⅳ期である。

土製模造鏡は面径3.7×4.0cmであり、円形の鈕であり、鈕は穿孔により貫通している。分類は1類である。

184 栃木県宇都宮市雷電山遺跡

雷電山遺跡は集落であり、S I 15から土製模造鏡1・土師器・須恵器が出土している。時期は中Ⅳ期～後Ⅰ期である。

土製模造鏡は面径3.5cm、分類は3である。

185 栃木県矢板市上長井遺跡

上長井遺跡は小河岸左岸の丘陵末端部に位置する。祭祀関連遺物は土製六鈴鏡1点であり、鈴は1個が欠損している。鏡背面にはへら描き沈線がみられる。その他に須恵器と手捏土器が出土している。

土製模造鈴鏡は面径は8.2cmであり、線刻がみられる。分類は1類である。

186 茨城県鉾田市阿巳の山遺跡

阿巳の山遺跡は巴川右岸の標高26mの行方台地上に立地し、北西約7kmには延喜式内社の主石神社が存在する。土砂採集工事に伴って、竪穴住居跡1から土製模造鏡1点・円板が出土している。時期は中Ⅲ期である。

土製模造鏡の面径は不明である。

187 茨城県稲敷市尾島遺跡 (第207～209図)

尾島遺跡は霞ヶ浦に位置し、浮島での祭祀が行われたとされる遺跡である。

石製模造鏡1類が1点が出土している。それ以外には、土師器・須恵器、土製品は鏡・鋤先・勾玉、石製品は剣・砥石・有孔円板・白玉・紡錘車、滑石の石核、鉄製品は刀子・釘・鎌・斧・鋤先などが出土している。この遺跡からは、土製模造鏡が数多く出土しており、石製模造鏡も出土する点に特徴がある。祭祀場からは土製模造鏡20点が出土し、遺構外からは土製模造鏡4点が出土している。竪穴住居・包含層から24点出土している。時期は後Ⅲ期～後Ⅳ期である。祭祀場からは石製品は鏡1・勾玉・剣・有孔円板・白玉・滑石原石、土製品は鏡20・鍬・臼・勾玉・円板・手捏土器、遺構外から土製鏡3・手捏土器16が出土している。

土製模造鏡の実見・観察を行った。土製模造鏡20点の面径は3.9 cm～7.5 cmの範囲である。分類は3・4類が確認できた。

188 茨城県つくば市高須賀中台東遺跡

中台東遺跡は集落遺跡であり、住居址より土製模造鏡が出土している。他には土師器・土製品がみられる。住居の炉跡が出土であり、分類は不明である。

189 茨城県北茨城市神岡上3号墳

神岡上3号墳の墳丘中からは土製模造鏡40点・勾玉・丸玉・手捏土器が出土している。埋葬施設内からは、須恵器・直刀・鉄鏃・ガラス勾玉・ガラス小玉・金銅製品・七鈴鏡・直刀・刀子・鉄鏃・耳環・金銅製品、墳丘上からは須恵器・土師器・手捏土器・土製勾玉・土製小玉が出土している。時期は後Ⅳ期である。

土製模造鏡は40点の面径は、4.9 × 5.3 cm～9.9 × 10.2 cmの範囲に収まる。分類は2・3・4類が確認できる。

190 福島県本宮市北ノ脇遺跡

北ノ脇遺跡は3号住居から土製模造鏡が1点出土している。その他に、土師器・須恵器・手捏土器がある。時期は後Ⅳ期である。土製模造鏡は面径5.6 cmであり、分類は4類である。

集落の2号溝からは、土製模造鏡2点・土師器・ミニチュア土器・土製紡錘車・須恵器・土製勾玉が出土している。時期は後Ⅳ期である。分類は面径は5.7 cm、一面は分類3類で、もう一面は鈴付であるが、鈕が造り出されいない特殊なものであるため、分類は行っていない。

当遺跡は集落の包含層より土製模造鏡1点が出土している。土製模造鏡のほか土師器・須恵器・ミニチュア土器・土製勾玉・土製丸玉などが出土した。

時代は不明である。土製模造鏡は面径 5.6 cm であり、分類は 3 類である。

191 福島県南相馬市赤柴遺跡

赤柴遺跡は集落遺跡であり、遺構外から土製模造鏡 2 点が出土した。年代は不明であり、土製模造鏡の面径は 3.2 cm のものは分類 1 類である。面径 4.2 cm であり、分類 3 類である。

192 福島県伊達市岩谷遺跡

岩谷遺跡は祭祀遺跡であり、土製模造鏡 2 点・勾玉・丸玉が出土している。土製模造鏡の詳細は不明である。

193 宮城県仙台市栗遺跡

栗遺跡は集落遺跡であり、包含層から土製模造鏡が 1 点出土している。面径 5.0 cm であり、詳細不明である。分類は 1 類である。

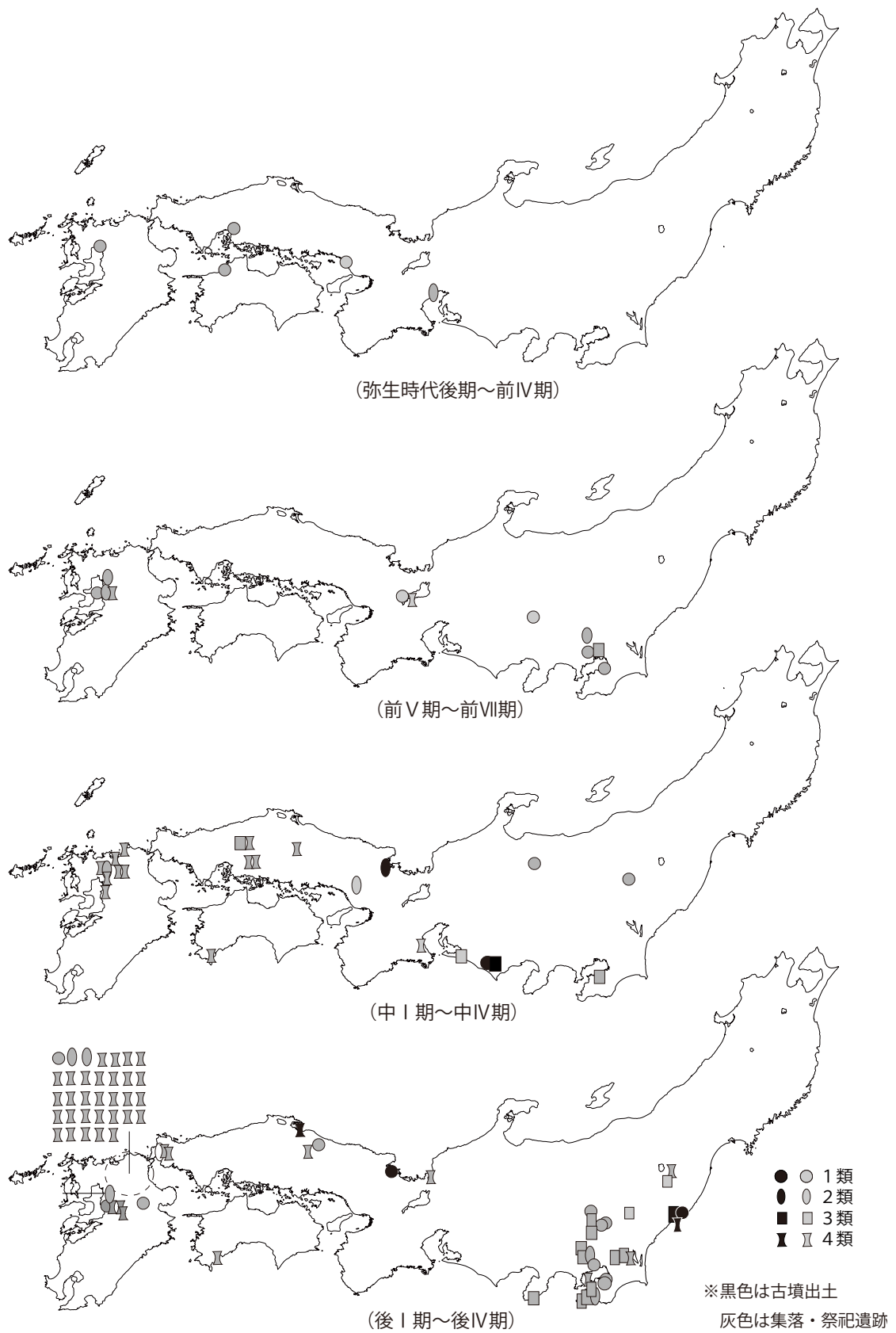
(2) 土製模造鏡の時期ごとの特徴

第 183 図に土製模造鏡の分布を示している。各記号は、土製模造鏡の分類である。

弥生時代後期～前Ⅳ期 出土例は 5 遺跡 5 点である。佐賀県大野原遺跡・愛媛県文京遺跡・広島県梨ヶ谷遺跡・兵庫県大中遺跡・三重県山奥遺跡を確認できる。各遺跡 1 点ずつの出土である。分類は 1 類と 2 類である。梨ヶ谷遺跡は 1 重の斜行櫛歯文帯をもち、山奥遺跡は 2 重の斜行櫛歯文帯をもつ。土製模造鏡の分布状況をみると西日本からの出土に限られていることが分かる。これは、弥生時代小型仿製鏡が西日本を中心として分布していることから、弥生時代の小型仿製鏡を模倣の対象として製作されたと考える。斜行櫛歯文帯をもつ土製模造鏡が出土することもこれを証明するものである。

前Ⅴ期～前Ⅶ期 出土例は 9 遺跡 29 点であり、土製模造鏡の分布は広範囲となる。南では九州地方の熊本県、北では関東地方の千葉県にまで及ぶ。具体的な遺跡名と土製模造鏡の出土点数をあげると、熊本県柳町遺跡 7 点・熊本県柳町遺跡Ⅰ 2 点・熊本県柳町遺跡Ⅱ 1 点・福岡県津島九反坪遺跡 1 点・滋賀県中畑田遺跡 1 点・滋賀県十里遺跡 1 点・山梨県坂井南遺跡 2 点・千葉県戸張南台遺跡 1 点・千葉県草刈遺跡 1 点・東京都草花遺跡 1 点・同都赤羽台遺跡 1 点である。

土製模造鏡は九州地方北部から関東地方までの広範囲にみられ、鈕の形状



第 183 図 土製模造鏡出土遺跡の分布

		祭祀・集落遺跡出土	古墳出土		
第一期	弥生時代 後期後半	1類 円鈕			
	前I期～前IV期	2類 方形・楕円形			
	前V期～前VII期	3類 紐貼り付け			
	中I期	4類 摘み上げ			
	第二期	中II期		1類 円鈕	
		中III期～中IV期		2類 方形・楕円形	
		後I期～後II期		3類 紐貼り付け	
		後III期～後IV期		4類 摘み上げ	
		第三期	7世紀～		

第184図 土製模造鏡出土遺跡の年代

は1類～4類のすべての分類がみられる。全体を通すと、鈕は指先で粘土を摘み上げて製作する4類が最も多く、関東地方を中心とする地域では、1類が最も多く2類・3類がそれに続く。4類の出土例はない。前V期～前VII期になると、1遺跡から複数面もの土製模造鏡が出土する遺跡がみられるようになる。例を挙げると前IV期～前V期の柳町遺跡（第127図）からは、土製模造鏡7点、中国鏡の破鏡1面と共に出土し、土製模造鏡は多量に用いられるようになる。土製模造鏡のうち鈕の形状が円形の1類は1点、鈕を指先で粘土を摘み上げて作る4類は6点である。

中Ⅰ期～中Ⅳ期 この時期には遺跡数が増加傾向を示し、土製模造鏡は18遺跡60点を確認できた。今までに出土例がみられなかった中国地方の内陸部、中部地方の遠州灘付近にも分布するようになる。出土遺跡数が最も多いのは九州地方北部であり、関東地方からも引き続き出土している。

遺跡例をあげると、熊本県柳町遺跡Ⅰ1点・佐賀県石木遺跡6点・福岡県久間遺跡4面・福岡県鶴田西畑遺跡1点・福岡県大曲り遺跡1点・福岡県野坂一丁目遺跡1点・広島県浄福寺2号遺跡1点・広島県古市2号遺跡2点・広島県岡の段C地点遺跡29点・岡山県菅生小学校裏山遺跡1点・兵庫県河高・上ノ池遺跡2点・京都府野崎3号墳1点・三重県草山遺跡2点・静岡県岡の平遺跡2点・静岡県明ヶ島古墳11点・長野県石川条里遺跡1点・千葉県南岩崎遺跡1点・栃木県五分一上原遺跡1点である。

土製模造鏡の種類としては、九州地方から近畿地方において2類・4類がみられ、特に指で摘み上げた細長い形状の鈕をもつ4類の出土例が多いことがうかがえる。中部地方から関東地方では1類・3類であり、中でも粘土紐を貼り付ける3類の出土例が多くみられる。九州地方を中心として製作された4類と、関東地方で多く出土する3類の分布の範囲であるが、一部を除き、ほぼ重なりあわない。広島県岡の段C地点遺跡では3類2点・4類25点がともに出土しており、両地域のの影響を受けていることが分かる。両地域の文化を取り入れやすい地域であったともいえる。

後Ⅰ期～8世紀 後Ⅰ期以降は、出土遺跡数が地域によっては大幅に増加しており、日本列島で64遺跡274点がみられる。遺跡例をあげると熊本県上小田宮の前遺跡2点・熊本県小園遺跡2点・熊本県両迫間樋渡遺跡2点・大分県小田遺跡1点・佐賀県二本杉遺跡2点・佐賀県牟田寄遺跡17点・佐賀県梅坂炭化米遺跡1点・福岡県上内地区遺跡群1点・福岡県高野町遺跡1点・福岡県三国の鼻遺跡5点・福岡県津古生掛遺跡5点・福岡県宝楽遺跡9点・福岡県梨子木遺跡53点・福岡県松崎遺跡Ⅱ6点・福岡県三国手遺跡6点・福岡県切杭遺跡1点・福岡県七板遺跡2点・福岡県立野遺跡7点・福岡県貝元遺跡6点・福岡県岡田地区遺跡1点・福岡県長道遺跡6点・福岡県針樞2点・福岡県大曲り遺跡2点・福岡県大宰府史跡1点・福岡県鹿部井ノ上遺跡6点・福岡県下山門遺跡2点・福岡県那珂遺跡1点・福岡県影塚南遺跡1点・福岡県原遺跡2点・福岡県長野E遺跡1点・山口県中村遺跡2点・山口県国秀遺跡6点・岡山県下

湯原B遺跡1点・鳥取県谷畑遺跡5点・鳥取県青木B6号古墳2点・京都府三宅11号墳4点・千葉県久下前遺跡1点・千葉県東田遺跡5点・千葉県草刈六之台遺跡11点・千葉県つとるば遺跡3点・千葉県出野尾洞穴1点・千葉県上郷猿田遺跡1点・東京都中田遺跡1点・東京都北八王子西野遺跡8点・埼玉県今泉遺跡1点・栃木県清六Ⅲ遺跡1点・栃木県田島持舟遺跡1点・茨城県神岡上3号墳40点・茨城県尾島遺跡23点・福島県北ノ脇遺跡3点である。

一遺跡から多量に出土する例が多く、特に、西日本においては福岡県・山口県・高知県の遺跡数が目立つ。東日本では関東地方での遺跡数が際立っており。特に、千葉県・栃木県・茨城県からの出土数が目立つ。九州地方北部から中国地方にかけては基本的に手指で摘んで製作する4類であり、ほかの分類はわずかに出土するのみである。関東地方では1～4類のすべてがみられ、円形の鈕をもつ1類・鈕を粘土紐で製作する3類の出土例が多い。なお、関東地方では後I期以降になると、4類の出土例がみられるようになる。折原洋一は、4類の出土例が多い九州地方との直接的な関係を想定できると述べた（折原2003）。筆者の分類においても後期になると千葉県・茨城県・福島県から4類の出土例がみられることから、九州地方で盛んに行われていた土製模造鏡を使用する祭祀の方法が、人の移動と共に日本海側では鳥取県や福井県、太平洋側では関東地方の千葉県・茨城県、さらには東山道を北上して福島県にまで広がりを見せるといえる。4類の分布は海沿いに多いことを鑑みると、土製模造鏡の4類は海上交通を用いた活発な人的交流が行われたことを裏付ける資料であるといえる。4類の出土する遺跡は直接九州地方北部とのかかわりがある地域といえる。福井県松原遺跡は、古代の海上交通の祭祀遺跡を執り行った場所であり、それ以前からも土製模造鏡を用いた海上交通の祭祀が行われていたと考える。一方で3類の出土する地域は関東地方を中心として、北は東北地方、南は静岡県にまでひろがり、例外的に広島県の岡の段C地点遺跡からも出土している。日本海側では一面も出土しておらず、3類は関東地方を中心に出現したことから、関東地方との直接的な関わりを示す資料である。

全時期において、土製模造鏡の出土範囲は、仿製鏡の出土範囲よりも狭く範囲に偏りがあることに気付く。小型仿製鏡は九州地方で最も南の鹿児島県から東北地方の岩手県までに及ぶが、土製模造鏡は、九州地方中部の熊本県から東北地方南部の福島県の範囲内で分布する。青銅鏡は権威の象徴として広範

圀に行きわたり、大和王権との関係を示す資料といわれている。土製模造鏡はというと、九州地方北部および関東地方で出土例が突出する。出土例のない地域としては、沖縄県・鹿児島県・宮崎県・徳島県・和歌山県・石川県・富山県・新潟県・山形県・岩手県・秋田県・青森県・北海道である。地域によって出土量に偏りがみられることを考慮すると、土製模造鏡を使用する祭祀は各地域で執り行われた祭祀であったと想定できる。ただし、土製模造鏡を用いる祭祀は、全国的にみて手捏ねのミニチュア土器を伴うものが多い。地域に隔たりはあるものの、祭祀の考えに何らかの共通性があったと思われる。

(3) 集落・祭祀遺跡出土の土製模造鏡

土製模造鏡の出土する遺跡は大部分が集落・祭祀遺跡である。時代ごとに説明を行う。

弥生時代後期後半から前Ⅳ期 この時期はすべてが集落遺跡からの出土であり、出土遺跡数は9遺跡である。古墳からの出土例はない。竪穴住居から出土した遺跡名をあげると佐賀県大野原遺跡・広島県梨ヶ谷遺跡・愛媛県文京遺跡・兵庫県大中遺跡・三重県山奥遺跡がある。岡山県津島九反坪遺跡は土器だまりからの出土である。山奥遺跡では手捏ねのミニチュア土器を伴っており、大野原遺跡・大中遺跡では土製丸玉、そのほかの遺跡では弥生土器や土師器が伴う。弥生時代後期後半～前Ⅳ期においては集落内で土製模造鏡を用いた祭祀も行われていたと考えられる。

前Ⅴ期～前Ⅵ期 出土遺跡は15例を数える。河川跡や流路跡から出土したもののとして、熊本県上小田宮の前遺跡・熊本県柳町遺跡・福岡県野芥遺跡・広島県上里遺跡・静岡県岡の平遺跡・長野県石川条里遺跡をあげることができる。竪穴住居からの出土例は熊本県柳町遺跡・福岡県野坂一丁目遺跡・山梨県坂井南遺跡・千葉県戸張遺跡・東京都赤羽台遺跡がある。特に九州地方北部と関東地方からの出土が目立つ。沼や池のような湿地における祭祀遺跡には静岡県姫宮遺跡がある。ほかにも、包含層・土坑・井戸などから出土している。

この時期になると、手捏土器・土製模造品だけではなく滑石製品を伴う柳町遺跡のような事例もみられる。

中Ⅰ期～中Ⅳ期 16遺跡みられる。竪穴住居の事例をあげると、熊本県柳町遺跡・福岡県久間遺跡・福岡県鶴田西畑遺跡・福岡県野坂一丁目遺跡・広島県

岡の段C地点遺跡・広島県浄福寺2号遺跡・広島県古市2号遺跡・岡山県菅生小学校裏山遺跡・兵庫県河高上ノ池遺跡・三重県草山遺跡・静岡県岡の平遺跡・長野県石川条里遺跡・千葉県南岩崎遺跡・栃木県五分一上原遺跡がある。土製模造品・手捏土器・土師器などを伴う遺跡が多く、代表的なものとして久間遺跡があり、複数の竪穴住居から出土している。鶴田西畑遺跡では人形土製品が共伴する。祭祀遺跡は岡の段C地点遺跡・草山遺跡・千束台遺跡があり、石製模造品を伴うものが多く、土製模造品の種類も増加する傾向を示す。

後I期～後IV期 60遺跡ほどみられる。竪穴住居の例をあげると、熊本県小園遺跡・大分県小田遺跡・佐賀県梅坂炭化米遺跡・福岡県高野町遺跡・福岡県宝楽遺跡・福岡県三国手遺跡・福岡県七板遺跡・福岡県立野遺跡・福岡県三国の鼻遺跡・福岡県貝元遺跡・福岡県岡田地区遺跡・福岡県大曲り遺跡・福岡県那珂遺跡・福岡県影塚南遺跡・福岡県小原遺跡・福岡県犀川小学校校庭西側遺跡・福岡県長野E遺跡・高知県具同中山遺跡群・山口県中村遺跡・山口県国秀遺跡・千葉県久下前遺跡・千葉県草刈六之台遺跡・東京都中田遺跡・東京都船田遺跡・東京都北八王子西野遺跡・群馬県伊勢の木遺跡・栃木県田島持舟遺跡・茨城県尾島遺跡・福島県北ノ脇遺跡などがある。

祭祀遺跡としては、福岡県梨子木遺跡があり、土製模造鏡と共に手捏土器や人形土製品もみられる。鳥取県谷畑遺跡は人形・動物形土製品も伴っており、住居の祭祀ではないことが分かる。

福岡県高野町遺跡・福岡県鹿部井ノ上遺跡では溝からの出土例もあり、鹿部井ノ上遺跡では手捏土器以外に、石製模造品も出土している。

(4) 古墳出土の土製模造鏡の時期 (第184図)

土製模造鏡は、その大部分が集落・祭祀遺跡からの出土であり、古墳から出土する事例は6例に過ぎない。ここでは古墳出土の土製模造鏡について紹介することとする。福岡県羽根戸古墳群、鳥取県青木B6号古墳、京都府三宅11号墳、同府野崎3号墳、静岡県明ヶ島古墳、茨城県神岡上3号墳がある。

中I期～中IV期 弥生時代から前VII期においては墓や古墳から出土する事例はみあたらない。古墳にみられるのは中IV期の明ヶ島古墳と野崎3号墳の2例だけである。

明ヶ島古墳では墳丘上より、人形や動物形土製品が多量に出土している。1・

2類の土製模造鏡16点が出土した。野崎3号墳は周溝からの出土であり、2類の土製模造鏡が1点ある。これらの事例のように中Ⅳ期になると土製模造鏡は古墳の墳丘上や周溝で使用されるようになる。墳丘上での祭祀が執り行われたことが分かる・

後Ⅰ期～後Ⅳ期 3遺跡がみられる。茨城県神岡上3号墳は墳丘上から40点、京都府三宅11号墳では周溝から4点、鳥取県青木6号墳も周溝から2点出土する。青木6号墳は後Ⅱ期でいずれも4類である、三宅11号墳は後Ⅲ期～後Ⅳ期で、1・2類である。神岡上3号墳は後Ⅳ期であり、2・3類である。墳丘上からは40点もの土製模造鏡が出土している。この時期の土製模造鏡の出土位置は、中Ⅳ期と同様に墳丘上や周溝であると確認できた。

全時期における古墳出土の土製模造鏡について簡単にまとめると、中Ⅳ期より出現し後Ⅳ期までみられる。土製模造鏡の出土位置としては、古墳の墳丘上や周溝のみであり、特徴としては石室内や土壇内において副葬品として納められることはない。明らかな試用方法の違いがあり、いずれにしても、土製模造鏡が古墳で使用されている事例は非常に少なく、特殊な古墳の祭祀であったと想定できる。

小山雅人が指摘するように、集落・祭祀遺跡出土の土製模造品と組成に違いがないことや遺跡数が非常に少ないことから、古墳で土製模造鏡を用いる祭祀は、集落・祭祀遺跡の祭祀形態を取り入れたものと考えられており（小山1992）、筆者も同様に考える。

（5）土製模造鏡の画期（第184図）

これまでに検討した内容から、土製模造鏡の画期を見出し、3段階に設定した。第一段階は弥生時代後期後半から中Ⅰ期である。第二段階は中Ⅱ期～後Ⅳ期である。第三段階は7世紀以降と設定した。

第一段階は、祭祀・集落遺跡からの出土であり、円鈕の1類や方形・楕円形の鈕の2類が出現し、その後、3類（鈕貼り付け）・4類（摘み上げ）の鈕の形態が出現する。

第二段階になると、古墳からの出土例が6例出現する。ただし、墳丘溝や周溝からの出土に限られている。第二段階は、第一段階の家・竈・火・峠・山という自然を祭祀の対象としたものから、古墳という埋葬者にまで祭祀の対象が

広がった段階である。九州地方の北部において土製模造鏡を用いる古墳上の祭祀は第一段階からは行われていない。第三段階は再び集落遺跡からの出土のみとなり、土製模造鏡の4類のみが土製模造鏡の終焉に至るまで作られる段階である。

第3節 土製模造鏡の特質

(1) 土製模造鏡の模倣の対象について

土製模造鏡の模倣対象については、あまり論じられてこなかった。ここでは文様を配するもの、文様を配さないものについて、それぞれの模倣の対象について論じることとする。

文様を配するものは非常に少なく、現在までに8面が確認できた。それ以外は無文である。文様をもつ土製模造鏡の遺跡例をあげると、山口県川棚条里遺跡・広島県梨ヶ谷遺跡・三重県山奥遺跡・滋賀県十里遺跡・岐阜県北裏遺跡・長野県百々目遺跡・埼玉県久下前遺跡・栃木県雷電山遺跡の8例である。このうち斜行櫛歯文をもつものは梨ヶ谷遺跡例(第202図①)・山奥遺跡例であり、これは弥生時代小型仿製鏡に斜行櫛歯文が使用されること、これらの遺跡の時期は弥生時代後期であることから、弥生時代小型仿製鏡を模倣した土製模造鏡と推測できる。櫛歯文をもつ土製模造鏡の遺跡名をあげると、川棚条里遺跡(第203図①)・百々目遺跡・久下前遺跡の3例である。時期の判明するものは久下前遺跡例の後Ⅱ期であり、小形仿製鏡の櫛歯文鏡や珠文鏡などの櫛歯文の文様を模倣したと考える。

圏線と櫛歯文をもつ遺跡をあげると北裏遺跡の1例であり、時期は不明であるが、これも櫛歯文鏡を模倣したと思われる。珠文状の文様をもつものは十里遺跡と雷電山遺跡の2例で、十里遺跡は前Ⅴ期～前Ⅶ期、雷電山遺跡は中Ⅳ期～後Ⅰ期であり、いずれの時期にも珠文鏡はみられることから、珠文鏡を模倣して製作したと考える。

櫛歯文鏡・重圏文鏡・珠文鏡は集落・祭祀遺跡から出土する事例が最も多い青銅鏡であり、模倣の対象となってもおかしくはない。又土製模造鏡の文様には複線波文や、獣状の文様などは描かれない。この文様をもつ青銅鏡は、集落・祭祀遺跡での出土が極めて少ないことに関係していると考えられる。

次に文様のない土製模造鏡について検討すると、1類は青銅鏡の破鏡片にみられる鈕や、弥生時代小型仿製鏡、円鈕の素文鏡2A類を模倣していると考えられる。2類は楕円形の鈕をもつものであり、1類から変化したと思われる。3類は貼り付けによって鈕を製作するものであり、鈕の平面形態が方形を呈することから、鼻鈕をもつ素文鏡1A類を模倣したと考える。4類は鏡面を摘むことで鈕をつくるものであるが、これも鈕の平面形態は方形を呈することから、素文鏡1A類を模倣すると考える。3・4類は楕円形や長方形を呈しており、1類のような円鈕の土製模造鏡が簡略化したものも一部にあると思われるが、筆者は柳田遺跡のように同じ遺構から、円鈕の1類と鼻鈕の4類の土製模造鏡が共伴する事例もあるため、円鈕と鼻鈕の土製模造鏡は明らかに模倣する対象が異なっていたと想定している。筒井は長方形の鈕についてはその祖形を多鈕細文鏡に求めると提示しているが（筒井1999）、多鈕細文鏡は弥生時代中期には使用が終焉し、弥生時代後期後半から出現する土製模造鏡とは同時期に存在していない。時期差があることから多鈕細文鏡を模倣した可能性は低いと考える。

(2) 石製模造鏡と土製模造鏡との関係

石製模造鏡と土製模造鏡は、ともに青銅鏡を模倣したものである。篠原祐一は石製模造品と土製模造品を比較しており、その中で土製模造鏡は古墳時代の全期間に確認できると指摘する。土製模造品は、石製模造品より先行し、石製模造品が消長を迎えた後も使用されていることが特徴的であると指摘する（篠原2008）。

今回の検討でも、石製模造鏡は前V期～前VII期に出現し、後IV期までみられるものの、土製模造鏡のように7～8世紀に製作されてはいないことが判明した。第62図をみると、土製模造鏡は弥生時代後期から出現し、8世紀までみられ、長期間にわたって製作されたことを確認した。土製模造鏡と石製模造鏡はいずれも前VII期までは盛行していない。前II期～前VII期に、土製模造鏡は長方形の鈕の3・4類が出現し、それ以前にもみられた円鈕の仿製鏡を模倣した1・2類と、鼻鈕の素文鏡1A類を模倣したと思われる3・4類が同時期にみられる。

中I期以降、土製模造鏡は九州地方北部から中国地方を中心とする地域、石製模造鏡は関東地方や東北地方中心として盛行する様子がみられ、この2つの

模造鏡が盛行する時期は中Ⅰ期～後Ⅱ期において重なる。さらに、この時期は鼻鈕の素文鏡ⅠA類を模倣したと思われる土製模造鏡Ⅲ・Ⅳ類、石製模造鏡Ⅲ類が盛んに製作されるようになる。鼻鈕をもつ素文鏡ⅠA類は前Ⅴ期以降に増加し始めるものであり、それ以前は円鈕の素文鏡ⅡA類が盛行していた。素文鏡の鈕の変化と土製模造鏡および石製模造鏡の鈕の変化が対応することを確認した。

(3) 土製模造鏡と共伴する青銅鏡

土製模造鏡と青銅鏡が同じ遺跡から出土する事例をあげると熊本県柳町遺跡、静岡県洗田遺跡、東京都伊興遺跡、茨城県神岡上3号墳の4例である。

柳町遺跡では前Ⅳ期～前Ⅴ期の河川跡より、土師器・有孔円板などとともに舶載鏡片1面、土製模造鏡7点がみられる。なお舶載鏡片は円鈕をもち、その鈕を模倣したと思われる丸い鈕をもつ土製模造鏡Ⅰ類1点のみであり、ほかの6点は指頭で鏡面を摘み鈕を作る4類である。Ⅰ類と4類は同時に製作されたと考えられるため、Ⅰ類から4類への省略化というよりは、異なる青銅鏡を模倣の対象としたために鈕に違いが生じたと考えたい。

洗田遺跡は丘陵上に位置しており、土製模造鏡はⅠ類が2点である。珠文鏡と素文鏡が1面ずつ出土している。珠文鏡は土師器の中からの出土である。素文鏡は発掘での出土である。

伊興遺跡は円鈕をもつ土製模造鏡Ⅰ類が2点、珠文鏡1面、素文鏡1面、勾玉文鏡1面が出土している。素文鏡・珠文鏡・土製模造鏡は発掘調査で出土している。素文鏡と珠文鏡は石製模造品が伴わず、土製模造鏡には石製模造品が伴うことから、土製模造鏡はやや後出すると考えられる。土製模造鏡の鈕が丸いため、同じ遺跡の素文鏡や珠文鏡の丸い鈕を模倣したと考えられる。祭祀を行う過程で小型仿製鏡である素文鏡や珠文鏡が次第に土製模造鏡へと置き換わったことを示す遺跡といえそうだ。

神岡上3号墳は、墳丘上から土製模造鏡が40点出土している。Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類である、横穴式石室内からは鈴鏡1面が出土している。時期は後Ⅳ期である。やはり石室内の副葬品としては土製模造鏡が使用されることはなく、土製模造鏡が青銅鏡とは全く異なる性格のものとみなされていたことが分かる。

(4) 土製模造鈴鏡との関係

土製模造鈴鏡の研究は檜村宜行によって、分類や考察が行われている。檜村は鈕の形態から4分類している。「A類：鈕となる粘土紐を貼り付けたもの。B類：鈕となる粘土塊を貼り付けた後、工具によって穿孔したもの。C類：円板の背面から粘土を摘み出して鈕とし、工具によって穿孔したもの。D類：鈕を意識して、円板に1か所穿孔したもの。」とした。鈴部の表現をもとに2つに分類している。「1類：円板の周縁部に粘土塊を貼り付けたもの。2類：円板の周縁部を摘み出したもの」とした。

檜村は鈴鏡の集成も行っており、栃木県上長井遺跡、栃木県田島持舟遺跡、栃木県清六Ⅲ遺跡、千葉県つとるば遺跡、千葉県東田遺跡、静岡県日詰遺跡、長野県高花遺跡、福岡県大又遺跡をあげる。すでに詳細な遺跡の検討が行われているが、筆者が先ほど提示した土製模造鏡の分類を用いて説明する。

土製模造鈴鏡1類：上長井遺跡1点、田島持舟遺跡1点、日詰遺跡2点である。上長井遺跡出土土製鈴鏡では櫛歯文及び圏線をもつ。この4点は6鈴を表現する。時期は不明である。田島持舟遺跡例は直径6.2cmであり後Ⅳ期の住居跡の出土である。日詰遺跡は大型河原石の集中地点から出土している。土製模造鈴鏡1類は後Ⅰ期から後Ⅳ期に製作されたと考えられる。

土製模造鈴鏡2類：つとるば遺跡が1点ある。7鈴で、7世紀中葉である。

土製模造鈴鏡3類：つとるば遺跡・清六Ⅲ遺跡が1点ずつみられる。つとるば遺跡例は4鈴で、7世紀中葉である。清六Ⅲ遺跡は5鈴である。

土製模造鈴鏡4類：大又遺跡のみである。直径4.2cmで、6鈴と想定できる。祭祀跡より手捏土器などと出土する。時期は後期と考えるが、それ以上の詳細な時期の判断はできない。鈕の形状からみると土製模造鏡の4類から派生していると考えられる。

第4節 小結

分布からみると、地域によって出土量にかなり偏りがあることが証明された。土製模造鏡の分布をみると近畿地方では少なく、九州地方北部・山口県・広島県・高知県・福井県・静岡県・関東地方からは出土例が多くみられる。また、土製模造鏡の出土地域は、小型仿製鏡の出土範囲よりも狭く、小型仿製鏡の出土地

域とは必ずしも共通するものではないことが判明した。

土製模造鏡は手軽に製作できることから、在地のものであり、その土地で製作されたものと思われる。土製模造鏡の出土する遺構は、主に集落・祭祀遺跡であり、古墳からの出土例は、墳丘上や周溝付近に限られている。石製模造品鏡は、古墳の副葬品としても出土しているため、土製模造鏡とは使用方法に明らかな相違があったと思われる。小型仿製鏡では2 cm以下の超小型の素文鏡もみられるが、前方後円墳や円墳から出土する素文鏡は大和王権からの配布を想定しており、政治的な意味合いが含まれる遺物と考えられる。一方で土製模造鏡においては古墳の副葬品とはならず、全く政治的な意味合いはなかったことが分かる。

第2章で素文鏡について論じたように、鼻鈕をもつ素文鏡1 A類は、福岡県沖ノ島祭祀遺跡、奈良県山ノ神祭祀遺跡など、古墳時代の代表格である祭祀遺跡で出土している。これらの祭祀遺跡は、地方における祭祀のモデルとなった可能性もある。素文鏡1 A類は古墳時代前V期から後期まで生産され続けたものであり、鼻鈕の青銅鏡は、土製模造鏡3・4類の出現に強い影響を与えたと推測する。鼻鈕をもつ素文鏡には祭祀性が強くあり、この素文鏡を模倣することで土製模造鏡による祭祀を行ったものとする。

(引用文献一覧)

荒木隆宏・古閑敬士・兵谷有利・末永 崇編 2009 『両迫間日渡遺跡』玉名市文化財調査報告第19集、玉名市教育委員会。

稲垣自由 2010 「古墳時代における土製模造鏡祭祀についての一考察—土製模造鏡出土遺構の分析を通じて—」『研究紀要』26、山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター、18—37頁。

伊野近富・戸原和人・伊賀高弘・筒井崇史編 2003 『木津城山遺跡』京都府遺跡調査報告書第32冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター。

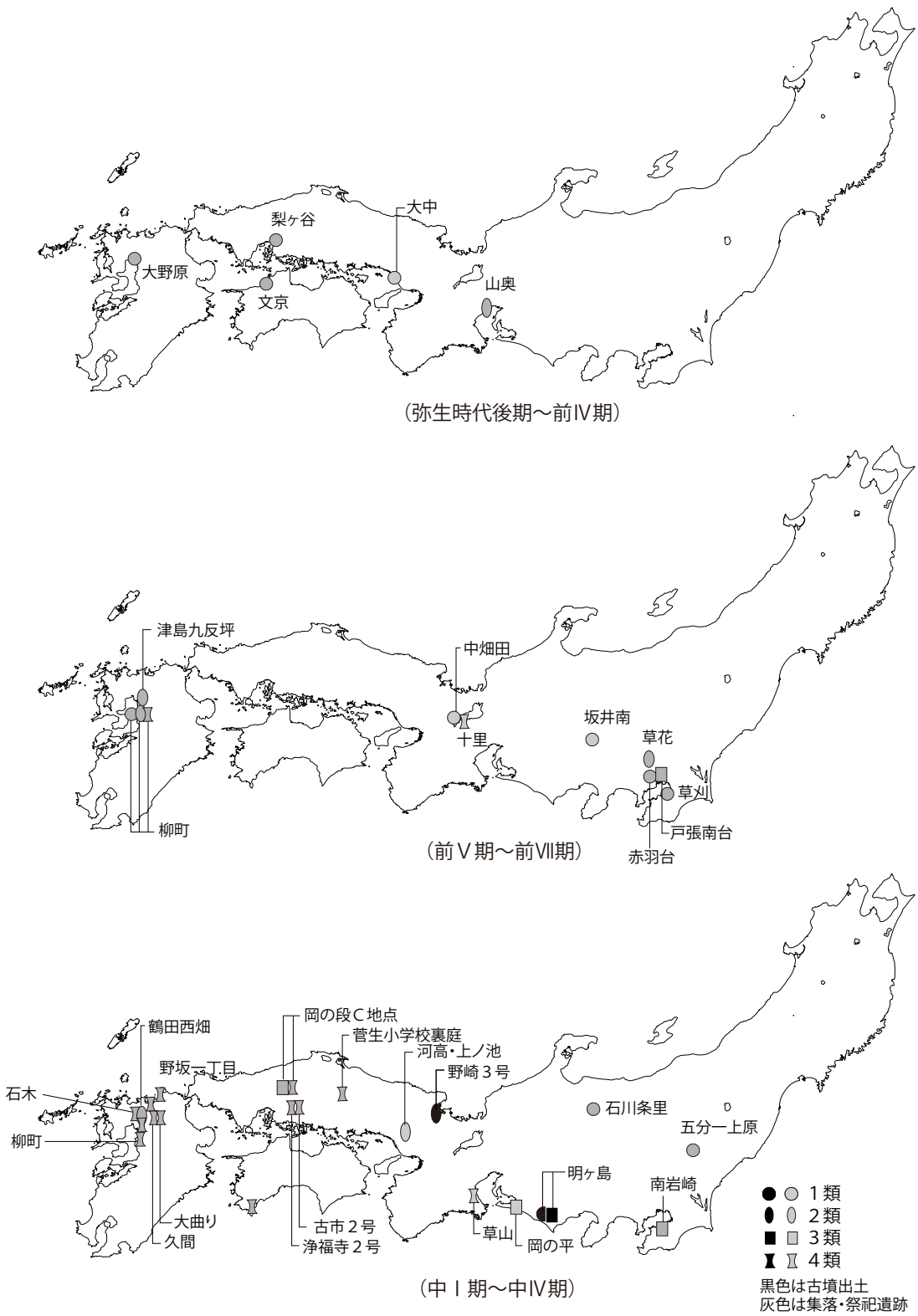
折原洋一 2003 「古墳時代土製模造鏡の類型と拡散に関する覚書」『研究紀要』第5号、山武考古学会。

樫村宣行 2011 「鈴鏡形土製模造品についての一考察」『旃檀林の考古学』大竹憲治先生還暦記念論文集刊行会、297—307頁。

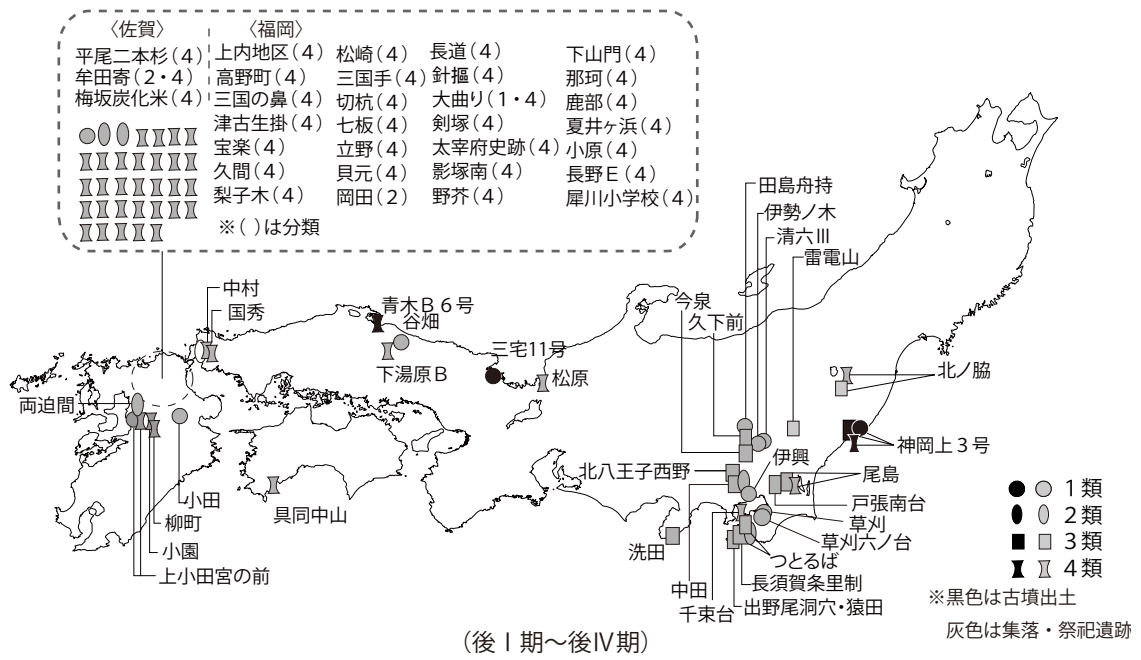
小山雅人 1992 「土製模造鏡」『京都府遺跡調査報告書』第17冊、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、234—237頁。

篠原祐一 2008 「マツリで使われる石製模造鏡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、9－18頁。

筒井正明 1999 「土製模造品鏡について」『研究紀要』第8号、三重県埋蔵文化財センター、109－113頁。



第 185 図 土製模造鏡出土の遺跡名



第186図 土製模造鏡出土の遺跡名



①熊本県両迫間日渡遺跡出土土製模造鏡 (104)

② 熊本県両迫間日渡遺跡出土土製模造鏡 (105)



③熊本県両迫間日渡遺跡出土土製模造鏡

第 187 図 土製模造鏡の諸例



①熊本県柳町遺跡出土破鏡

②熊本県柳町遺跡出土土製模造鏡（191）

第 188 図 土製模造鏡と破鏡の諸例



①熊本県柳町遺跡出土土製模造鏡（197）



②熊本県柳町遺跡出土土製模造鏡（193）



③熊本県柳町遺跡出土土製模造鏡（195）



④熊本県柳町遺跡出土
土製模造鏡（194）



⑤熊本県柳町遺跡出土
土製模造鏡（196）

第 189 図 土製模造鏡の諸例



①柳町遺跡 | 出土土製模造鏡 (1051)



②柳町遺跡 | 出土土製模造鏡 (172)



③柳町遺跡 | 出土土製模造鏡 (1052)



④柳町遺跡 | 出土土製模造鏡 (1049)

第190図 土製模造鏡の諸例



①熊本県小園遺跡出土
土製模造鏡 (303)



②熊本県小園遺跡出土
土製模造鏡 (304)



③熊本県小園遺跡出土
土製模造鏡 (305)



④熊本県柳町遺跡Ⅱ出土
土製模造鏡 (1065)



⑤熊本県柳町遺跡Ⅱ出土
土製模造鏡 (949)

第 191 図 土製模造鏡の諸例



①熊本県上小田宮の前遺跡出土土製模造鏡 (110)



②熊本県上小田宮の前遺跡出土土製模造鏡 (105)



③熊本県上小田宮の前遺跡出土土製模造鏡 (106)



④熊本県上小田宮の前遺跡出土土製模造鏡 (106)

第 192 図 土製模造鏡の諸例



①佐賀県平尾二本杉遺跡 SB1195 出土土製模造鏡



②佐賀県平尾二本杉遺跡 SB1337
出土土製模造鏡



③佐賀県平尾二本杉遺跡 P10653 出土土製模造鏡



④佐賀県平尾二本杉遺跡 SK1290
出土土製模造鏡

第 193 図 土製模造鏡の諸例



①佐賀県牟田寄遺跡V出土土製模造鏡 (39)



②佐賀県牟田寄遺跡V出土土製模造鏡 (24)



③佐賀県牟田寄遺跡V出土土製模造鏡 (7)



④佐賀県牟田寄遺跡V出土土製模造鏡 (44)

第194図 土製模造鏡の諸例



①福岡県岡田遺跡II SD50 出土
土製模造鏡



②福岡県切杭遺跡出土
土製模造鏡



③福岡県久間遺跡 46 号住居
出土土製模造鏡



④福岡県久間遺跡 46 号住居
出土土製模造鏡



⑤福岡県久間遺跡 46 号住居
出土土製模造鏡



⑥福岡県久間遺跡 66 号住居
出土土製模造鏡



⑦福岡県松崎遺跡大溝出土
土製模造鏡

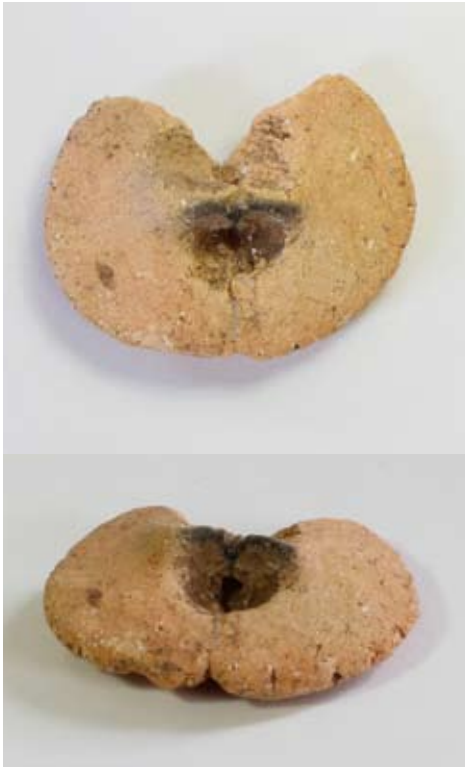


⑧福岡県松崎遺跡大溝出土
土製模造鏡



⑨福岡県松崎遺跡大溝出土
土製模造鏡

第 195 図 土製模造鏡の諸例



①福岡県三国手遺跡 2号住居出土土製模造鏡



②福岡県三国手遺跡 3号住居出土土製模造鏡



③福岡県三国手遺跡 3号住居出土土製模造鏡



④福岡県三国手遺跡 8号住居出土土製模造鏡

第 196 図 土製模造鏡の諸例



①高知具同中山遺跡出土土製模造鏡 (42)



②高知具同中山遺跡出土土製模造鏡 (48)



③高知具同中山遺跡出土土製模造鏡 (49)



④高知具同中山遺跡出土土製模造鏡 (75)

第 197 図 土製模造鏡の諸例



①高知県具同中山遺跡出土土製模造鏡（1）



②高知県具同中山遺跡出土土製模造鏡（2）



③高知県具同中山遺跡Ⅲ-3 出土土製模造鏡（104）



④高知県具同中山遺跡Ⅲ-3 出土土製模造鏡（106）

第 198 図 土製模造鏡の諸例



①高知県居徳遺跡出土土製模造鏡 (593)



②高知県居徳遺跡出土土製模造鏡 (592)



③高知県船戸遺跡出土土製模造鏡 (35)



④高知県船戸遺跡出土土製模造鏡 (7)

第 199 図 土製模造鏡の諸例



①山口県中村遺跡出土土製模造鏡 (129)



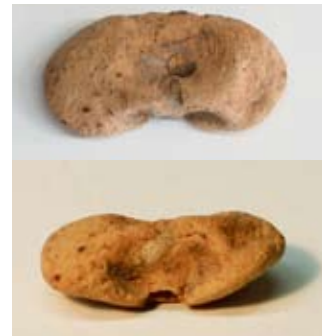
②山口県中村遺跡出土土製模造鏡 (130)



③山口県国秀遺跡出土土製模造鏡 (145)



④山口県国秀遺跡出土
土製模造鏡 (146)



⑥山口県国秀遺跡出土
土製模造鏡 (147)



⑦山口県国秀遺跡出土
土製模造鏡 (148)



⑧山口県国秀遺跡出土
土製模造鏡 (149)



⑨山口県国秀遺跡出土
土製模造鏡 (150)

第 200 図 土製模造鏡の諸例



①山口県国秀遺跡出土土製模造鏡 (151)



②山口県国秀遺跡出土土製模造鏡 (152)



③山口県国秀遺跡出土土製模造鏡 (153)



④山口県国秀遺跡出土土製模造鏡 (154)



④山口県国秀遺跡出土土製模造鏡 (155)



⑤山口県国秀遺跡出土土製模造鏡 (156)

第 201 図 土製模造鏡の諸例



①山口県国秀遺跡出土土製模造鏡（157）



②山口県国秀遺跡出土土製模造鏡（158）



③山口県国秀遺跡出土土製模造鏡（159）



④山口県国秀遺跡出土土製模造鏡（160）

第 202 図 土製模造鏡の諸例



①山口県川棚条里遺跡出土土製模造鏡 (236)

②山口県川棚条里遺跡出土土製模造紙 (237)



③山口県川棚条里遺跡出土土製模造鏡 (235)

第 203 図 土製模造鏡の諸例



①広島県梨ヶ谷遺跡出土土製模造鏡



②広島県古市2号遺跡出土土製模造鏡



③広島県古市2号遺跡出土土製模造鏡

第204図 土製模造鏡の諸例



①広島県岡の段 C 地点遺跡出土土製模造鏡 (738)



②広島県岡の段 C 地点遺跡出土土製模造鏡 (726)



③広島県岡の段 C 地点遺跡出土土製模造鏡 (724)



④広島県岡の段 C 地点遺跡出土土製模造鏡 (726)

第 205 図 土製模造鏡の諸例



①岡山下湯原B遺跡出土土製模造鏡



②岡山県菅生小学校裏山遺跡出土土製模造鏡

第 206 図 土製模造鏡の諸例



①茨城県尾島貝塚出土土製模造鏡 (504)

②茨城県尾島貝塚出土土製模造鏡 (504)

第 207 図 土製模造鏡の諸例



①茨城県尾島貝塚出土土製模造鏡 (504)

②茨城県尾島貝塚出土土製模造鏡 (504)

第 208 図 土製模造鏡の諸例



①茨城県尾島貝塚出土土製模造鏡 (504)

第 209 図 土製模造鏡の諸例

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大翼 編年	相伴鏡	相伴する土製模造品										手捏土器	土師器	須恵器	その他の遺物	
										円板	勺玉	管玉	丸玉	土玉	斧	舟	盾	短甲	鍔					先
"	佐賀県高橋市	"2区	集落	貝塚	2	4	3.4~ 4.2	不明										3	3	2	0	0	0	弥生土器・磁石不 明品・手捏土器 2・土師器・須恵 器・壺
"	佐賀県高橋市	"2区	集落	貝塚														3	2					
20	佐賀県高橋市	牟田寄遺跡VGL-80cm出土遺物	集落		4	2・4	3~4.8	後III期~後IV期?										1						紡錘車1・耳環1
"	佐賀県高橋市	"遺跡V No. 6 トレンチ	集落		17?	4	3.4~ 4.6	後III期~後IV期?										2	43	24	0			ガラス小玉3・滑 石製穿孔円板1・ 支脚状土製品24・ 不明土製品3
"	佐賀県高橋市	"V No. 7 トレンチ	集落		3?	1・2	5.1	不明										1						
21	佐賀県高橋市	梅坂炭化米遺跡 2号住居	集落	住居	1	4	4.8× 3.6	後II期																磁石
22	佐賀県三養基 郡基山町	伊勢山遺跡	集落	住居	1		図面無																	
"	佐賀県三養基 郡基山町	"	集落	住居	1		図面無																	滑石製臼玉3
23	福岡県大牟田 市	上内地区遺跡群	集落	土壇	1	4	4.9	後III期~後IV期																滑石製臼玉1・方 ラズ小玉1・滑石 製紡錘車1・鳥形 土製品1
24	福岡県筑後市	鶴田西畑遺跡1 S110竪穴住居	集落	住居	1	2	5.7	中I期~中II期																不明土製品・石製 品・陀敷岩製勾 玉・磁石・鉄製銅 先
25	福岡県筑後市	津島九区坪遺跡 S X 300	集落	土器溜り	1	2	6.2	前II期~前V期																弥生土器
26	福岡県八女市	高野町遺跡1号 住居	集落	住居	1	4	3.5	後I期																
"	福岡県八女市	"1号溝	集落	溝	1	4	3.8	後I期																子持ち勾玉
27	福岡県筑紫郡 那珂川町	平蔵遺跡	集落	包含層	1	4	3.4× 4.5	不明																
28	福岡県久留米 市	乙隅天神町遺跡 15号廃業土坑	集落	土坑	1	2	7.5~8	不明																鉄鏡片・羽口

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	面径 (cm)	遺跡年代/大貫編年	共伴鏡	共伴する土製模造品											須臾器	土師器	その他の遺物
										円板	勾玉	管玉	丸玉	土玉	弁	舟	盾	短劍	先	鏃柄杓形			
"	福岡県朝倉郡筑前町	"71号住居	集落	住居	2	4	3.4× 3.9・ 4.6× 4.8	中Ⅲ期~中Ⅳ期											○	○			
"	福岡県朝倉郡筑前町	"	集落	包含層	1	2	4.4	不明											○	○			
35	福岡県朝倉郡筑前町	梨子木遺跡第1調査区	集落	包含層	12	4		後期											○	○			
"	福岡県朝倉郡筑前町	"72号住居	集落	住居	21	4		後Ⅲ期											○	○			
"	福岡県朝倉郡筑前町	"第3調査区	集落	住居	12	4		後期											○	○			
"	福岡県朝倉郡筑前町	"14号掘立柱遺物	集落	住居	6	4		後期											○	○			
"	福岡県朝倉郡筑前町	"土坑	集落	住居	2	4		後期											○	○	砥石		
"	福岡県朝倉郡筑前町	"溝状遺構	集落	住居	2	4		後期											○	○			
36	福岡県朝倉郡筑前町	松崎遺跡Ⅰ	集落	排土中	1	4・孔無	3.5× 4.4	不明															
37	福岡県朝倉郡筑前町	松崎遺跡Ⅱ	集落	集落・大溝	6	4・4点孔無	2.5~ 3.5	後Ⅲ~Ⅳ?											2	24	土鏃		
38	福岡県朝倉郡筑前町	三國手遺跡1号住居	集落	住居・竪周辺埋土中	4	4	5.8	後Ⅱ期											1	1	棒状土製品1		
"	福岡県朝倉郡筑前町	"4号住居	集落	住居・竪燃焼室	1	4	2.7~ 3.7	後Ⅳ期												2	○	○	
"	福岡県朝倉郡筑前町	"7号住居	集落	住居	1	4	4.9× 3.3	後Ⅰ期												○	○	○	
"	福岡県朝倉郡筑前町	"8号住居	集落	住居・竪埋土	1	4	2.5×3	後Ⅱ期												○	○	○	
39	福岡県朝倉郡筑前町	切坑遺跡	集落	集落・溝	1	4	3.3× 2.9	7世紀後半												○	○	○	
40	福岡県朝倉郡筑前町	七坂遺跡3号竪穴住居	集落	住居	2	4	4.1・ 4.5	後Ⅱ期												○	○	○	
41	福岡県朝倉市	八並遺跡	集落	箱式石棺付近	3																		

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大買 編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										土防器	須臾器	その他の遺物			
										円板	勾玉	管玉	丸玉	土玉	斧	舟	盾	短甲	銅剣				先	匙・動物柄杓形	人形
42	福岡県朝倉郡 夜須町	松延池遺跡	集落	丘陵先端	3	4	2.5× 3.5	不明		1	16								○						
"	福岡県朝倉郡 夜須町	松延池周辺	集落	不明	1.1× 1.9・ 3.2× 4.5・ 3.3																				
43	福岡県朝倉市	立野遺跡22号住居	集落	住居・竪 の祭祀	1	4・孔 無	6.5× 4.5	後Ⅲ期～後Ⅳ期		○									○						
"	福岡県朝倉市	"27号住居	集落	住居	1	4・孔 無	不明	後Ⅲ期～後Ⅳ期											○						磁石・土製不明品
"	福岡県朝倉市	"28号住居	集落	住居	1	4・孔 無	3×4.5	後Ⅳ期											○						磁石・土製不明品
"	福岡県朝倉市	"29号住居	集落	住居	1	4・孔 無	2.1× 4.3	後Ⅳ期											○						磁石・土製不明品
"	福岡県朝倉市	"31号住居	集落	住居	1	4・孔 無	2.3× 4.4	不明											○						磁石・土製不明品
"	福岡県朝倉市	"39号住居	集落	住居	2	4・孔 無	2.4× 4.4・ 3.1× 5.7	不明											○						
"	福岡県朝倉市	"45号住居	集落	住居	1	4・孔 無	2.8× 4.9	後Ⅳ期											○						
"	福岡県朝倉市	"110号住居	集落	住居	1	4・孔 無	3.7× 5.0	後Ⅳ期											○						
"	福岡県朝倉市	"112号住居	集落	住居	1	4	2.5× 4.3	後Ⅳ期											○						
"	福岡県朝倉市	"4号土壕	集落	住居	1	4	3.0× 4.0	後Ⅳ期											○						
"	福岡県朝倉市	"溝1	集落	住居	1	4	3.4× 4.5	後Ⅳ期											○						
44	福岡県朝倉市	松の木遺跡	集落	住居・竪 の祭祀	2		記述の み	後期		1	1								4						支脚
45	福岡県筑紫野 市	貝元遺跡1・S C42	集落	住居	1	4	2.8× 3.6	不明			1														紡錘車

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	面径 (cm)	遺跡年代/大貫編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										須惠器	土師器	手捏土器	その他の遺物
										円板	勾玉	管玉	丸玉	土玉	斧	舟	盾	甲	短鎖				
70	福岡県古賀市	鹿部井ノ上遺跡 2区遺跡	集落	溝	6	4	4.01× 2.85~ 5.7× 4.7	後IV期		3		60以上							○			臼玉250以上・鉄製 小刀・鉄鏃・鉄 鏃・ミニチュア鉄 製斧	
71	福岡県宗像市	野坂一丁目遺跡 第5号住居	集落	住居	1	2	3.9× 4.1	中I期											○	○		鉄鏃1・土製紡錘 車1・投擲1	
72	福岡県遠賀郡 水巻町	立屋敷遺跡	集落	包含層	2																		
73	福岡県遠賀郡 芦屋町	夏井ヶ浜遺跡	集落	包含層	1	図面無	図面無	後期		1										4		石製臼玉1	
74	福岡県若宮市	小原遺跡10号住 居	集落	住居	2	4	3.2× 3.1・ 3.8× 3.5	後IV期												1	○	土師1・石胞丁 1・砥石1	
75	福岡県北九州 市	龜山遺跡P-21	集落	土坑	1	4	5.3	不明															
76	福岡県北九州 市	寺田遺跡	集落	包含層	2	4	3.4・ 4.2	不明															
77	福岡県北九州 市	酒崎遺跡	集落	集落	1															1		有孔円板1	
78	福岡県北九州 市	長野E遺跡13号 住居	集落	住居	1	4	5.8× 4.3	後IV期												○	○		
79	福岡県北九州 市	長野A遺跡2V 区V層	集落	包含層	1	4	3.3× 2.8	不明												○	○		
"	福岡県北九州 市	長野A遺跡X区 Y-4層	集落	包含層	1	破片	7.4	不明															
80	福岡県北九州 市	勝円遺跡A区	集落	包含層	2	2	3.3・ 2.7	不明													1		
"	福岡県北九州 市	"G区	集落	包含層	4	4	4:3 3.2・ 4.4・ 2:1 4.5・ 5.8	不明															
81	福岡県京都郡 みやこ町	犀川小学校校庭 西側遺跡	集落	住居			図面無	後期													1		土製輪形1・土製 算盤玉1
82	福岡県京都郡 みやこ町	皆見遺跡	集落	住居	7																		

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大賀編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										手提土器	土師器	須恵器	その他の遺物						
										円板	勾玉	管玉	土玉	斧	舟	盾	甲	短劍	先					動物形	人形				
83	福岡県筑上郡上毛町	垂水地区遺跡群	集落	集落・溝	1	2	4.9	不明											1				弥生土器						
84	福岡県筑紫郡那珂川町	井河遺跡3号土坑	集落	土坑	4																								
85	高知県四万十市	東神木遺跡	集落		2														1	3							有孔円板1・石製 勾玉1・石製白玉 90以上・石製模造 剣1		
86	高知県中村市	船戸遺跡第1区SR3X層	集落	包含層	1	4	5.2× 5.5	不明																					
"	高知県中村市	"第1区包含層	集落	包含層	1	4	7.1	不明																					
87	高知県中村市	異同中山遺跡S F1	集落		3	1・4	4.0・ 4.5・ 4.7	後I期~後II期																					
"	"	" S F10	集落	祭祀遺構	6	4	4.1・ 4.7・ 3面は 5cm以 上	中IV期~後I期																					
"	"	" S F11	集落	祭祀遺構	15 (42 ~56)	1類1 面、4 類14面	8面は 4cm前 後、6 面は5 cm以上	後I期																					
"	"	" S F15	集落	祭祀遺構	2	1類1 面、4 類1面	3.6・ 4.6	後I期																					
"	"	" S F17	集落	祭祀遺構	3	4	4.5・ 4.8・ 5.6	後I期																					
"	"	" S F20	集落	祭祀遺構	2		4.1× 4.6・ 5.6× 6.0	後II期																					
88	高知県中村市	異同中山遺跡群II-1	集落	包含層	1	4?	4.6×6	不明																					

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大買編年	同伴鏡	同伴する土製模造品										須臾器	土師器	手捏土器	その他の遺物						
										円板	管五	丸五	土五	斧	舟	盾	甲	短	鎖					先	動物柄杓形	人形			
89	高知県中中市	異同中山遺跡群Ⅲ-3	集落	包含層	4	4	5.2× 5.4・ 4.9・ 6.2	中Ⅳ期~後Ⅱ期		2													石製模造品(有孔円板1・管五2・刺形品1・臼玉4)・叩石4・鉄鍔2	○	○				
"	"	"Ⅲ-3SF1	集落	祭祀遺構	8	4	5.3× 5.4~ 6.3× 6.8	後Ⅰ期		5													石製模造品(勾玉1・刺形品1・有孔円板4・紡錘車1・臼玉20)・台石1・叩石4・砥石2	○	○				
90	高知県中中市	異同中山遺跡群ⅣSF5	集落	祭祀遺構	1	2	6.4	後Ⅰ期																	○	○			
"	高知県中中市	異同中山遺跡群Ⅳ土器集27	集落	祭祀遺構	1	1	6.0× 5.4	後Ⅰ期																		2	○		
91	高知県土佐市	居徳遺跡Ⅳ	集落	包含層	1	4	2.0× 2.6・ 3.0× 3.1・ 4.3× 5.0	不明																					
"	高知県土佐市	"	集落	包含層	3	4	不明	不明																					
92	高知県土佐市	上ノ村遺跡ⅡⅢA区	集落	包含層	3	2?	4.0・ 4.2	不明																					
93	高知県高知市	王子遺跡SD1	集落	溝	1	不明		不明																					
94	香川県坂出市	下川湾遺跡	集落	流路	1	1	7.1	不明																					
95	愛媛県伊予郡砥部町	宮内大畑遺跡	集落	住居	1	3	5.0	不明																					
96	愛媛県松山市	文京遺跡	集落	トレンチ	1	1	3.6	弥生時代後期後半																					弥生土器
97	山口県下関市	川瀬桑里遺跡	集落	表面探査	4	3・4	5.6× 6.2~ 7.0× 6.7	不明																					
98	山口県下関市	下七見遺跡SB1	集落	住居	2	4	3.4× 3.7~ 6.9× 5.2	不明																					

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大算編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										須惠器	その他の遺物		
										円板	勾玉	管玉	丸玉	土玉	弁舟	盾甲	短劍	鎖先	匙・柄杓形			動物	人形
108	広島県山県郡北広島町	岡の段C地点遺跡S X 3	祭祀	祭祀遺構	27	3・4	3.1× 3.2~ 6.7× 6.5	中IV期		2	28	4	4						180	○	○	臼玉2	
109	広島県庄原市	大成遺跡	集落	包含層	1	4	3.4× 3.8	不明											○	○			
110	広島県福山市	ザブ遺跡	集落	包含層	1	4	5.0~ 5.2	不明											○	○			
111	岡山県倉敷市	菅生小学校裏山遺跡	集落	谷部	1	4	4.2× 4.8	中IV期												○	○	陶質土器・軟質土器・筋線車・有孔円板	
112	岡山県岡山市	津島遺跡			3	1が1点、4が2点																	
113	岡山県真庭市	下瀬原B遺跡	集落	住居		4	4.7× 5.1	後IV期												○	○	刀子1	
114	鳥取県米子市	福市遺跡	集落	竪穴住居	1	判断できない																	
115	鳥取県米子市	青木B6号古墳	古墳	周溝(直径9m・周溝総径15m)	2	4		後II期			2								10		○		

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	面径(cm)	遺跡年代/大賀編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										手 程 土 器	土 師 器	須 置 器	そのほかの遺物			
										円板	管五	丸五	土五	斧	舟	盾	短甲	劍先	鋤柄杓形					匙	動物	人形
116	鳥取県倉吉市	谷畑遺跡	祭祀	祭祀遺跡	5	1		後IV期~		15	5									56	326	○	○	土製品1・有孔土五・瑪瑙勾玉		
117	兵庫県栗原市	飯見遺跡	集落?	集落?	2	2	5.7・6.0	不明													2					
118	兵庫県加古郡播磨町	大中遺跡91号住居	集落	住居	1	1	5.2	前I期~前II期?		1															鳥1	
119	兵庫県加東郡滝野町	河高・上ノ池遺跡J-2・SK03	集落	住居	2	2	4.6・5.9	中III期		4											6	4	○			
120	京都府京丹後市	三宅11号墳	古墳	周溝	4	1	複元径6.0・複元径6.8・2点は破片	後III期~後IV期							1									○		
121	京都府綾部市	野崎3号墳	古墳	周溝	1	2	6.3	中IV期?																○	○	馬・犬?
122	奈良県北葛城郡広陵町	寺戸遺跡	集落	包含層	1	1		後期																○	○	馬

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	面径 (cm)	遺跡年代/大買編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										手提土器	土師器	須臾器	その他の遺物					
										円板	勾玉	管玉	丸玉	土玉	舟	盾	甲	短劍	先					飾柄杓形	動物	人形		
123	三重県名張市	中出向26号墳	古墳		3																							
124	三重県松阪市	草山遺跡	祭祀	祭祀遺跡	2	4	4.6	中IV期																			有孔円板 1	
125	三重県四日市市	山奥遺跡	集落	住居	1	2・文様有	6.5	弥生時代後期後半																			弥生土器	
126	滋賀県大津市	中畑田遺跡	集落	集落	1	1	4.5	前期?																			有孔円板 1	
127	滋賀県栗東市	十里遺跡	集落	集落	1	4・刺突有	6.0	前V期~前VI期																				
128	滋賀県長浜市	高月南遺跡	集落	集落	3																						子持勾玉 1・有孔円板 23・白玉 35	
129	滋賀県守山市	赤野井溝遺跡	集落	祭祀	2	1・2																						
130	岐阜県可児郡可児町	北薮遺跡	集落	住居	1	1・圏線・刻み有	5.8	不明																				
131	愛知県一宮市	馬見塚遺跡B地 点	祭祀	不明	1	1	7.8	前期~後期																			有孔円板 4・石製勾玉 2・石製白玉 90・石製模造鏡 1・石製管玉 5・鉄製刀子・鉄・方ラス製小玉	
132	愛知県田原市	青山貝塚	集落	貝塚	1	不明	7.0	不明																			製埴土器 土製模造鏡 續後 1・土製提袋 續機織 成 6・土製模造鏡 續機織 1・土製 模造酒造具 臼 5・ 土製模造酒造具 杵 2・土製模造酒造 具 2・土製模造 劍 1・土製模造弓 1・土製模造網 2・ 土製模造鏡 3・土 製模造鏡 1	
133	静岡県浜松市	坂上遺跡	祭祀	祭祀遺構	7	1・2	7.6・ 8.0・ 9.2	後I期~後II期																				犬 2 3

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大買編年	共伴鏡	共伴する土製模造品								手提土器	土師器	須臾器	その他の遺物
										円板	管玉	管玉	土玉	斧	舟	盾	短甲				
134	静岡県浜松市	岡の平遺跡	祭祀	祭祀遺構	2	3	4.0	中IV期									○		石製穿孔円板8・石製銅形品2・石製勾玉17・管玉7・ガラス小玉16・臼玉867		
135	静岡県磐田市	明ヶ島古墳ブロックU2	祭祀	祭祀遺構	1	1	6.6	中I期~中II期		1		1					○	銅形土製品2・板状土製品2・棒状土製品2・突起付土製品1・盾形土製品1・把手形土製品1・容器2			
"	静岡県磐田市	"上層遺構外	祭祀	祭祀遺構	2	1	4.1・4.3	中I期~中II期		1							○	盾形土製品1・駒形土製品1・弓形土製品1・胴輪形土製品1・円盤形土製品1・棒状土製品1・刀狩状土製品1・チキリ形土製品1・棒状土製品1・突起板状土製品・血状容器			
"	静岡県磐田市	"下層遺構外	祭祀	祭祀遺構	2	不明	6.5・6.7	中I期~中II期	1		2		1				○	板状土製品4・駒形土製品1・棒状土製品11・突起状土製品5			
"	静岡県磐田市	"下層ブロックA11	祭祀	祭祀遺構	1	1	6.5	中I期~中II期			5		1								
"	静岡県磐田市	"下層ブロックA13	祭祀	祭祀遺構	4	3	4.8・5.4・5.5・6.6	中I期~中II期		2			2						土師形土製品1・棒状土製品3		
"	静岡県磐田市	"最下層ブロックA52	祭祀	祭祀遺構	1	3	4.6	中I期~中II期		1									板状土製品1		

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大賀編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										須惠器	士師器	手提土器	その他の遺物			
										円板	勾玉	管玉	土玉	舟	盾	短甲	劍先	柄杓形	動物					人形		
"	静岡県磐田市	"最下層プロックA22	祭祀	祭祀遺構	2	1・3	5.2・ 5.1× 5.5	中I期~中II期		2	3	6	4	1	1	1										箕形土製品1・弓形土製品4・大刀形土製品1・土鑊形土製品2・チリ形土製品5・杖状土製品6・把手状土製品4・素羽状土製品1・帯状土製品21・棒状土製品1・突起状土製品1
"	静岡県磐田市	"最下層プロックA30	祭祀	祭祀遺構	1	1	6.7	中I期~中II期		2	10	1	1													弓形土製品3・弧状を呈する土製品1・円柱状品2・杵形土製品1・棒状土製品1・帯形土製品2・帯状土製品・突起状土製品
136	静岡県静岡市	神明原・元宮川遺跡	祭祀	祭祀遺構	1	1		前V期~前VI期	重文・鏡1・鏡素文・仿製鏡片1																	滑石製剣形・臼玉・有孔円板
137	静岡県加茂郡南伊豆町	日野遺跡	祭祀	祭祀遺構	3	3	6.4・ 6.6・ 6.8	中期~後期			3															勾玉2・管玉4・石製模造品(有孔円板)1・臼玉78・土製垂飾り1・鉄滓・輪羽口有孔円板15
138	静岡県加茂郡南伊豆町	日詰遺跡	集落	祭祀遺構	12	2	6.3・ 8.4	中期			2	1														多 数
139	静岡県加茂郡南伊豆町	下条遺跡	祭祀	敷石遺構	3	2	6.6	後III期~後IV期																		鉄滓・ふいご羽口

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大翼 編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										須惠器	その他の遺物	
										円板	勾玉	管玉	丸玉	土玉	弁	盾	甲	短剣	先			鍔柄
140	静岡県下田市	洗田遺跡	祭祀	祭祀遺構	多数	1類 1・3類 1	6.9・ 7.5・ 8.4	中期から後期	珠文鏡 1・素 文鏡1	25 50 以上	○	10							多数	○	有孔円板6・石製 勾玉5・石製臼玉 18・石製透刺 2・石製管玉1・ 土製模造酒造具白 多数・鉄器片 有孔円板14・石製 勾玉2・石製臼玉 10	
141	静岡県加茂郡 河津町	姫宮遺跡	集落	祭祀遺構	2	1	4.5・ 7	不明											600 以上	○		
142	長野県長野市	駒沢新町遺跡	祭祀	祭祀遺構	1			中期		1	1											有孔円板2・石製 模造刺1・石製臼 玉10
143	長野県長野市	石川島里遺跡S Q2016	集落	大溝	1	1	5.2	前VI期~中I期		○	1									○	転用羽口・土師・ 管玉・磁石・骨 類・骨類・土製勾 玉1・土製杖状品2 5・土製棒状品2 石製模造品(勾玉 6・刺形品1・有 孔円板1・臼玉 41)、管玉1	
144	長野県千曲市	城の内遺跡	集落	祭祀遺構	1	2	6.0	中期~後期		2	1											
145	長野県埴科郡 坂城町	百々目利遺跡	不明	探集	1	3・刻 み有	11.6	不明														
146	長野県上田市	西之寺遺跡			1	1? 珠文有	4.2															
147	長野県小諸市	竹花遺跡	集落	竪石裾	1	3?																
148	長野県松本市	高宮遺跡			1	4	3.3															
149	山梨県道志市	坂井南遺跡	集落	住居	1	1	4.0	前III期~前V期												○		
150	山梨県道志市	大原遺跡	集落	祭祀	1	1	約5.0															
151	福井県大飯郡 おおい町	浜瀬遺跡	集落	製塩・海 に関する 祭祀	3	1	3.6・ 3.8・ 5.6	不明													○	製塩土器・骨角 器・滑石製勾玉5・ 管玉5・ガラス小玉 3・臼玉8・有孔円 板2・滑石製紡錘 車・磁石
152	福井県三方郡 三方町	田名遺跡	祭祀?	表探	1	3	7.6× 3.5	不明		1											○	製塩土器・滑石製 勾玉・臼玉

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径 (cm)	遺跡年代/大買編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										須恵器	土師器	手捏土器	その他の遺物					
										円板	勾玉	管玉	丸玉	土玉	斧	舟	盾	短甲	鍔先					柄杓形	動物	人形		
153	福井県三方郡美浜町	松原遺跡	祭祀	海に関する祭祀	22	1・2・4	2.2~6.6	中IV期~後IV期																				
154	神奈川県横浜市中区	上郷猿田遺跡	集落	住居	1	4	6.2	不明																				
155	千葉県館山市	東田遺跡	集落	遺物集積	鏡2・5	面・鏡1点は穿孔を表現	3.9~9.9	後I期	51	26	23	65	31	4	3												棒状土製品3・剣形石製品1・滑石製品1・蛇紋岩石製品1	
156	千葉県館山市	猿田祭祀遺跡	祭祀	包含層	2	2	約8	後期~古代																				
157	千葉県館山市	館の前祭祀遺跡		湿地中	1	2																						
158	千葉県館山市	つとるば遺跡	祭祀	3	4鏡1・7鏡1・5鏡1	4鏡:4.7 7鏡:2.5 5鏡:1	7鏡:13.4 鏡:12.2	後IV期	50	1	78		1														製平玉1・土製鈴3・土製不明品2・土製鐸2・白玉1	
159	千葉県館山市	長須賀桑里制遺跡CS D-2 a・2 b・3	祭祀	溝状遺構	1	3	9.6	後I期																			木製鏡・紡錘車形土製品・滑石製模造品2	
"	"	"CSK-2	祭祀	溝状遺構	2	3	残存5.2・残存2.4	不明																				滑石製剣形品1・紡錘車1
"	"	"ESD-1	祭祀	溝水施設	1	3	5.8	後I期																			白玉14・滑石製勾玉6・穿孔円板2・滑石製剣形品2	
"	"	"EF	祭祀	溝状遺構	1	3	僅元6.2	不明																				
160	千葉県館山市	出野尾洞穴・猿田遺跡	祭祀	溝状遺構	1	3	7.8	後期																				
161	千葉県柏市	戸張南台遺跡	集落	焼失住居	1	3	6.3	前IV期~前V期																				

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	面径 (cm)	遺跡年代/大賀編年	同伴鏡	同伴する土製模造品										須惠器	土師器	手捏土器	その他の遺物
										円板	管玉	勾玉	土玉	斧玉	舟	盾	短甲	劍	鎧先				
162	千葉県木更津市	千束台遺跡	祭祀	住居跡 後の埋地 にて祭祀	2	4	5.7・ 6.2	中IV期～後I期		○	1	○	○	○	○	○	69	○	○	臼玉18779・有孔円板528・剣形品214・扁平勾玉42・環状石製品2・柱状石製品16・鉄器94(鉄鏃・鎧先・刀鏃・穂積み具・刀子・手鏡)、鉄製模造品(斧・鏃・鎧先・鏃)			
163	千葉県市原市	南岩崎遺跡	集落	集落・S X05	1	3	5以上	中I期										○	須惠器転用の砥石				
164	千葉県市原市	草刈六之台遺跡 121号住居	集落	住居	3	1	3.2・ 4.64.8	後I期										○	滑石製小玉・有孔円板				
165	千葉県市原市	草刈遺跡E地区 207号住居	集落	住居	1	1	2.7	後I期															
"	千葉県市原市	"E地区184号 住居	集落	住居	1	3	3.5	前II期～前III期															
166	千葉県匝瑳市	柳台遺跡	集落	住居	2	2		中期		5	1	2											
167	東京都八王子市	中田遺跡C'地 2号住居	集落	住居	8	3	6.5～ 8.5	後III期～後IV期		1								○					
168	東京都八王子市	船田遺跡	集落	住居	1			後期															
169	東京都八王子市	北八王子西野遺 跡	集落	住居	1	3?		後IV期		1								○					
170	東京都あきる野市	草花遺跡	集落	住居	1	2	残存 3.0	前V期～前VI期										○					
171	東京都多摩市	多摩ニュータウン No918遺跡	集落	17号住居	1	1												○					
172	東京都足立区	水神橋遺跡	集落	探検品	1	2?	4.1											○					
173	東京都北区	赤羽台遺跡	集落	住居	1	1	4.5	前V期～前VI期										○					
174	東京都足立区	伊興遺跡	集落	住居	2	1	4.5・ 4.7	後I期										○	石製勾玉・土製模造品				

他の遺
所：重
圖文
鏡・珠
文鏡

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	直径(cm)	遺跡年代/大賀編年	共伴鏡	共伴する土製模造品										須臾器	土師器	その他の遺物						
										円板	管玉	勾玉	丸玉	土玉	斧	舟	盾	短甲	劍				先	匙・柄杓形	動物形	人形	手捏土器	
175	埼玉県深谷市	今泉遺跡	祭祀	水田に関する祭祀?	1	3		後期																		有孔円板・石製勾玉・石製臼玉・石製模造剣・土製棒状具		
176	埼玉県坂戸市	上谷遺跡	集落	住居	1																							
177	埼玉県本庄市	西富田新田遺跡	集落	住居	1																							
178	埼玉県本庄市	久下前遺跡	集落	住居	1	3・2	7.1	後Ⅱ期																				
179	群馬県邑楽郡板倉町	伊勢の木遺跡	集落	21号住居	1	3?	不明	後Ⅳ期																				
180	群馬県太田市	反丸遺跡	集落	祭祀跡	1	1	5.1	不明																			碧玉製管玉・耳環	
181	栃木県下都賀郡野木町	清六Ⅲ遺跡	集落	S1453住居	1	1	9.9	後Ⅳ期																			土製支脚・有孔円板1・石製方板1	
182	栃木県足利市	田島持舟遺跡	集落	443号住居跡	六筋1	1?	5.5	後Ⅳ期																			有孔円板3	
183	栃木県河内郡上三川町	五分一上原遺跡	集落	表探	1	1	3.7×4.0	中期																				
184	栃木県宇都宮市	雷電山遺跡	集落	S105	1	3	3.5	中Ⅳ期~後Ⅰ期																				砥石2
185	栃木県矢板市	上長井遺跡		不明	六筋1	1・刻み有	7.8~8.3	不明																				
186	茨城県鉾田市	阿巳の山遺跡1号住居	集落	住居	1			中Ⅳ期																				
187	茨城県稲敷市	尾島遺跡	集落	竪穴住居・包含層	24	3・4	3.9~7.3×7.5	後Ⅲ期~後Ⅳ期																			石製有孔円板・石製刺形品・砥石・滑石製勾玉・滑石製臼玉	
188	茨城県つくば市	高須賀中台東遺跡	集落	住居・炉跡	1		3.0																					土製品

第25表 土製模造鏡出土遺跡の一覧

No.	所在地	遺跡名	出土遺跡	遺構	土製模造鏡数量	分類	面径(cm)	遺跡年代/大買編年	共伴鏡	共伴する土製構造物										須臾器	その他の遺物				
										円板	勾玉	管玉	丸玉	土玉	舟	盾	短甲	劍先	匙・柄杓形			動物	人形	手捏土器	土師器
189	茨城県北茨城市	神岡上3号墳	古墳	墳丘中	40	2・3・4	4.9× 5.3~ 9.9× 10.2	後IV期	鉾鏡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	埋葬施設内：須臾器・直刀・鉄鏡・ガラス勾玉・ガラス小玉・金銅製品・七筋鏡・直刀・刀子・鉄鏡・耳環・金銅製品・墳丘上：須臾器・土師器・ミ子・ア土器・土製小玉	
190	福島県本宮市	北ノ脇遺跡3号住居	集落	住居	1	4	5.6	後IV期		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
"	福島県本宮市	"2号溝跡	集落	溝	2	3類1点・飾有は紐が無いため分類しない	5.7	後IV期		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	土製紡錘車	
"	福島県本宮市	"包含層	集落	包含層	1	3	5.6	不明		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	磁石・紡錘車・鉄鏡	
191	福島県南相馬市	赤柴遺跡	集落	遺構外	2	1・3	3.2 (1類)・ 4.2	不明																	
192	福島県伊達市	岩谷遺跡	祭祀	祭祀遺跡	2																				
193	宮城県仙台市	栗遺跡	集落	包含層	1	1	5.0	不明																	土製模造鏡2

土製模造鏡出土遺跡参考文献

≪ 1. 熊本県馬場遺跡 ≫

富田紘一 1983 「VI熊本県下出土の土製模造鏡」『肥後考古』第3号、肥後考古学会、129 - 135 頁。

≪ 2. 熊本県境目遺跡 ≫

富田紘一 1983 「VI熊本県下出土の土製模造鏡」『肥後考古』第3号、肥後考古学会、129 - 135 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物≪第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方≫』東日本埋蔵文化財研究会。

≪ 3. 熊本県上江津遺跡 ≫

富田紘一 1983 「VI熊本県下出土の土製模造鏡」『肥後考古』第3号、肥後考古学会、129 - 135 頁。

≪ 4. 熊本県綿打遺跡 ≫

富田紘一 1983 「VI熊本県下出土の土製模造鏡」『肥後考古』第3号、肥後考古学会、129 - 135 頁。

≪ 5. 熊本県両迫間日渡遺跡 ≫

荒木隆宏・古閑敬士・兵谷有利・末永崇編 2009 『両迫間日渡遺跡』玉名市文化財調査報告第19集、玉名市教育委員会。

≪ 6. 熊本県上小田宮の前遺跡8・9区 ≫

廣田静学編 2010 『上小田宮の前・養寺遺跡 県道瀬川玉東線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査』熊本県文化財調査報告第255集、熊本県教育委員会。

≪ 7. 熊本県小園遺跡 ≫

坂口圭太郎編 2010 『小園遺跡』熊本県文化財調査報告第253集、熊本県教育委員会。

≪ 8. 熊本県柳町遺跡 ≫

田中康雄編 2000 『柳町遺跡』玉名市文化財調査報告第20集、玉名市教育委員会。

≪ 9. 熊本県柳町遺跡 I ≫

- 高谷和生編 2001 『柳町遺跡Ⅰ』熊本県文化財調査報告第200集、熊本県教育庁文化課。
- ◀ 10. 熊本県柳町遺跡Ⅱ ▶
- 坂田和弘編 2004 『柳町遺跡Ⅱ』熊本県文化財調査報告第218集、熊本県教育委員会。
- ◀ 11. 熊本県古閑原遺跡 ▶
- 富田紘一 1983 「Ⅵ熊本県下出土の土製模造鏡」『肥後考古』第3号、肥後考古学会、129 - 135 頁。
- ◀ 12. 大分県東田室遺跡 ▶
- 佐藤道文・高島豊・羽田野達郎・松尾聡編 2005 『東田室遺跡2』大分市埋蔵文化財発掘調査報告書第55集、大分市教育委員会。
- ◀ 13. 大分県小田遺跡 ▶
- 清水宗昭編 1987 『小田遺跡群Ⅰ』玖珠町教育委員会。
- ◀ 14. 佐賀県久蘇遺跡 ▶
- 増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。
- ◀ 15. 佐賀県石木遺跡 ▶
- 高橋忠平編 1976 『石木遺跡』佐賀県文化財調査報告書第35集、佐賀県教育委員会。
- 佐賀県立博物館編 1979 『古代九州の遺宝 鏡・玉・剣』佐賀県立博物館。
- 増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。
- ◀ 16. 佐賀県平尾二本杉遺跡 ▶
- 木島慎治・前田達男・松尾直子・種浦加代子・松崎卓郎・岡本広義編 2000 『平尾二本杉遺跡Ⅰ』佐賀市文化財調査報告書第131集、佐賀市教育委員会。
- ◀ 17. 佐賀県大野原遺跡 ▶
- 西田 巖編 1993 『大野原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第48集、佐賀市教育委員会。
- ◀ 18. 佐賀県肥前国府跡 ▶

立石泰久編 1979 『肥前国府跡Ⅰ』佐賀県文化財調査報告書第44集、佐賀県教育委員会。

立石泰久編 1985 『肥前国府跡Ⅲ』佐賀県文化財調査報告書第78集、佐賀県教育委員会。

《 19・20. 佐賀県牟田寄遺跡 》

福田義彦 1993 『牟田寄遺跡』佐賀市文化財調査報告書第49集、佐賀市教育委員会。

角信一郎編 1997 『牟田寄遺跡Ⅴ』佐賀市文化財調査報告書第84集、佐賀市教育委員会。

《 21. 佐賀県梅坂炭化米遺跡 》

藤瀬禎博編 1982 『梅坂炭化米遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第10集、鳥栖市教育委員会。

《 22. 佐賀県伊勢町遺跡 》

佐賀県立博物館編 1979 『古代九州の遺宝 鏡・玉・剣』佐賀県立博物館。

《 23 . 福岡県上内地区遺跡群 》

山田元樹・坂井善哉編 1993 『上内地区遺跡群Ⅱ』大牟田文化財調査報告書第43集、大牟田市教育委員会。

《 24. 福岡県鶴田西畑遺跡 》

柴田 剛編 2000 『筑後東部地区遺跡群Ⅲ』筑後市文化財調査報告書第25集、筑後市教育委員会。

《 25. 福岡津島九反坪遺跡 》

立石真二編 2000 『津島九反坪遺跡』筑後市文化財調査報告書第42集、筑後市教育委員会。

《 26 . 福岡県高野町遺跡 》

赤崎敏男・中川寿賀子編 1994 『高野町遺跡』八女市文化財調査報告書第33集、八女市教育委員会。

《 27. 福岡県平蔵遺跡 》

佐藤昭則・茂 和敏編 1990 『平蔵遺跡Ⅱ』那珂川町文化財調査報告書第22集、那珂川町教育委員会

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 28. 福岡県乙隈天道町遺跡 》

児玉真一編 1989 『乙隈天道町遺跡』福岡県文化財調査報告書第 86 集、福岡県教育委員会。

《 29. 福岡県塚堂遺跡 》

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 30. 福岡県三国の鼻遺跡 》

中島達也編 1987 『三国の鼻遺跡Ⅳ 津古脇田遺跡』小都市文化財調査報告書第 39 集、小都市教育委員会。

《 31. 福岡県津古生掛遺跡 》

柏原孝俊編 1989 『津古生掛遺跡Ⅲ』小都市文化財調査報告書第 50 集、小都市教育委員会。

《 32. 福岡県干潟遺跡 》

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 33. 福岡県宝楽遺跡 》

平嶋文博編 2012 『久間遺跡・宝楽遺跡・上林古墳』筑前町文化財調査報告書第 15 集、筑前町教育委員会。

《 34. 福岡県久間遺跡 》

平嶋文博編 2012 『久間遺跡・宝楽遺跡・上林古墳』筑前町文化財調査報告書第 15 集、筑前町教育委員会。

《 35. 福岡県梨子木遺跡 》

石井扶美子編 1999 『梨子木遺跡』夜須町文化財調査報告書第 46 集、夜須町教育委員会。

《 36. 福岡県松崎遺跡Ⅰ 》

石井扶美子編 1994 『松崎遺跡Ⅰ』夜須町文化財調査報告書第 28 集、夜須町教育委員会。

◀ 37. 福岡県松崎遺跡Ⅱ ▶

石井扶美子編 1996 『松崎遺跡Ⅱ』夜須町文化財調査報告書第33集、夜須町教育委員会。

◀ 38. 福岡県三国手遺跡 ▶

石井扶美子編 2003 『三国手遺跡』夜須町文化財調査報告書第59集、夜須町教育委員会。

◀ 39. 福岡県切杭遺跡 ▶

石井扶美子編 1997 『切杭遺跡』夜須町文化財調査報告書第36集、夜須町教育委員会。

◀ 40. 福岡県七板遺跡 ▶

佐土原隆彦編 1985 『東小田遺跡群』福岡県文化財調査報告書第70集、福岡県教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 41. 福岡県八並遺跡 ▶

椋山林継 1973 「祭祀遺跡地名表」『神道考古学講座』第6巻、雄山閣、=頁。

小田富士雄 1973 「九州」『神道考古学講座』第2巻、雄山閣、225—244頁。

◀ 42. 福岡県松延池遺跡 ▶

赤崎敏男・島津義昭 1974 「福岡県朝倉郡松延池畔発見の土製模造品」『九州考古学』49・50 合併号、九州考古学会、23—29頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 43. 福岡県立野遺跡 ▶

伊崎俊秋編 1986 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告8』下巻、福岡県教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国

地方」』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 44. 福岡県松の木遺跡 ▶

佐々木隆彦編 1979 『安德・道善・片縄地区区画整理事業地内埋蔵文化財調査概報』那珂川町文化財調査報告書第3集、那珂川町教育委員会。

◀ 45. 福岡県貝元遺跡1 ▶

渡邊和子編 1999 『貝元遺跡1』筑紫野市文化財調査報告書第60集、筑紫野市教育委員会委員会。

◀ 46. 福岡県貝元遺跡2 ▶

渡邊和子編 2005 『貝元遺跡2』筑紫野市文化財調査報告書第66集、筑紫野市教育委員会。

◀ 47. 福岡県杉原廃寺 ▶

石村淳彦・奥村俊久編 1979 『杉塚廃寺』筑紫野市文化財調査報告書第4集、筑紫野市教育委員会。

◀ 48. 福岡県岡田地区遺跡 ▶

小鹿野 亮編 1998 『岡田地区遺跡群Ⅱ－Ⅰ区の調査－』筑紫野市文化財調査報告書第56集、筑紫野市教育委員会。

◀ 49. 福岡県トドキ遺跡 ▶

渡邊和子編 1999 『トドキ遺跡Ⅱ』筑紫野市文化財調査報告書第58集、筑紫野市教育委員会。

◀ 50. 福岡県八ヶ坪遺跡 ▶

森山栄一編 1989 『八ヶ坪遺跡第6・7地点』筑紫野市文化財調査報告書第22集、筑紫野市教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 51. 福岡県長道遺跡 ▶

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四

国地方」』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 52. 福岡県針楯出土 ▶

赤崎敏男・島津義昭 1974 「福岡県朝倉郡松延池畔発見の土製模造品」『九州考古学』49・50 合併号、九州考古学会、23 - 29 頁。

◀ 53. 福岡県大曲り遺跡 ▶

伊藤玄三・近藤喬一・寺島孝一・田中勝弘 1970 「大曲り遺跡」『福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第1集、福岡県教育委員会、33 - 70 頁。

◀ 54. 福岡県五穀神社遺跡 ▶

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 55. 福岡県鷺田山遺跡 ▶

赤崎敏男・弓場紀知 1985 「福岡県」『国立歴史民俗博物館』7、国立歴史民俗博物館、682 - 728 頁。

◀ 56. 福岡県山の谷遺跡 ▶

赤崎敏男・弓場紀知 1985 「福岡県」『国立歴史民俗博物館』7、国立歴史民俗博物館、682 - 728 頁。◀ 57. 福岡県塚遺跡 ▶

石山 勲編 1978 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXIV、上巻、福岡県教育委員会。

◀ 58. 福岡県石橋遺跡 ▶

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形—古代形代の世界—』倉吉博物館。

◀ 59. 福岡県惣利西遺跡 ▶

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形—古代形代の世界—』倉吉博物館。

◀ 60. 福岡県赤井出 ▶

丸山康晴ほか 1980 『赤井出遺跡』春日市文化財調査報告書第6集、春日市教育委員会。

◀ 61. 福岡県大宰府史跡 ▶

石丸 洋・倉住晴靖・高倉洋彰・横田賢次郎・森田 勉・高橋章編 1980 『大宰府史跡昭和54年度発掘調査概報』九州歴史資料館。

◀ 62. 福岡県観世音寺 ▶

小田和利・岡寺 良編 2010 『大宰府史跡発掘調査報告書VI』九州歴史資料館。

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形ー古代形代の世界ー』倉吉博物館。

◀ 63. 福岡県影塚南遺跡 ▶

長谷川清之編 1986 『影塚南遺跡（3地点）影塚東遺跡（古墳時代編）』桂川町文化財調査報告書第6集、桂川町教育委員会。

◀ 64. 福岡県野芥遺跡3 ▶

米倉秀紀編 1998 『野芥遺跡3』福岡市文化財調査報告書第576集、福岡市教育委員会。

◀ 65. 福岡県羽根戸古墳群2 ▶

瀧本正志編 1993 『羽根戸古墳群2』福岡市文化財調査報告書第345集、福岡市教育委員会。

◀ 66. 福岡県大又遺跡 ▶

栗原和彦・上野精志編 1973 『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第3集、福岡県教育委員会。

◀ 67. 福岡県拾六町平田遺跡 ▶

山崎龍雄編 1993 『拾六町平田遺跡2』福岡市文化財調査報告書第349集、福岡市教育委員会。

◀ 68. 福岡県下山門遺跡 ▶

三島 格編 1973 『下山門遺跡』福岡市文化財調査報告書第23集、福岡県教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀ー祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊ー西日本編ー近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 69. 福岡県那珂遺跡 ▶

下村 智編 1987 『那珂遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第153集、福岡市教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀ー祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊ー西日本編ー近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 70. 福岡県鹿部井ノ上遺跡 ▶

井 英明編 2007 『鹿部土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告』古賀市文化財調査報告書第48集、古賀市教育委員会。

◀ 71. 福岡県野坂一丁目遺跡 ▶

原 俊一・瀧本正志・阿部裕久編 1985 『埋蔵文化財発掘調査報告書－1984年度－』宗像市文化財調査報告書第9集、宗像市教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 72. 福岡県立屋敷遺跡 ▶

小田富士雄 1972 「九州」『神道考古学講座』第二卷、雄山閣、225－244頁。

◀ 73. 福岡県夏井ヶ浜遺跡 ▶

小田富士雄 1972 「九州」『神道考古学講座』第二卷、雄山閣、225－244頁。

◀ 74. 福岡県小原遺跡 ▶

児玉真一編 1977 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』X I、福岡県教育委員会。

◀ 75. 福岡県畠山遺跡 ▶

宇野慎敏編 1987 『畠山遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第57集、財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。

◀ 76. 福岡県寺田遺跡 ▶

佐藤浩二編 1988 『寺田遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第70集、財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。

◀ 77. 福岡県潤崎遺跡 ▶

赤崎敏男・弓場紀知 1985 「福岡県」『国立歴史民俗博物館』7、国立歴史民俗博物館、682－728頁。

◀ 78. 福岡県長野E遺跡 ▶

小方泰宏編 1985 『長野E遺跡調査報告書』北九州市埋蔵文化財調査報告書第42集、財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。

◀ 79. 福岡県長野A遺跡 ▶

山口信義・佐藤浩司編 1987 『長野A遺跡2』北九州市埋蔵文化財調査報告書第54集、財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。

関川 妥編 2012 『長野A遺跡：IX・X区の調査』財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。

《 80. 福岡県勝円遺跡 》

宇野慎敏編 1985 『勝円遺跡（C地点）』北九州市埋蔵文化財調査報告書第41集、財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室。

《 81. 福岡県犀川小学校校庭西側遺跡 》

小田富士雄 1972 「九州」『神道考古学講座』第二卷、雄山閣、225 - 244 頁。

《 82. 福岡県皆見遺跡 》

筒井正明 1999 「土製模造鏡について」『研究紀要』第8号、三重県埋蔵文化財センター、109 - 112 頁。

《 83. 福岡県垂水地区遺跡群 》

矢野和昭編 2010 『垂水地区遺跡群Ⅲ』上毛町文化財調査報告書第12集、上毛町教育委員会。

《 84. 福岡県井河遺跡 》

茂 和敏編 1989 『井河遺跡群』那珂川町文化財調査報告書第19号、那珂川町教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊—西日本編—近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 85. 福岡県東神木遺跡 》

小田富士雄 1972 「九州」『神道考古学講座』第二卷、雄山閣、225 - 244 頁。

《 86. 高知県船戸遺跡 》

松田直則編 1996 『船戸遺跡』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター。

《 87 - 90. 高知県具同中山遺跡 》

前田光雄・松田直則編 1992 『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』高知県埋蔵文

化財センター発掘調査報告書第1集、高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター。

松田直則編 2000 『具同中山遺跡群Ⅱ-1』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第1集、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター。

筒井三葉編 2001 『具同中山遺跡群Ⅳ』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第59集、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター。

廣田佳久・田坂京子・山本三津子編 2002 『具同中山遺跡群Ⅲ-3』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第70集、高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター。

《 91. 高知県居徳遺跡 》

曾我貴行編 2004 『居徳遺跡郡Ⅵ』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第91集、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター。

《 92. 高知県上ノ原遺跡Ⅱ 》

出原恵三編 2011 『上ノ村遺跡Ⅱ』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第120集、高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター。

《 93. 高知県王子遺跡 》

山本哲也 1992 『王子・西ノ芝遺跡の調査』財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター。

《 94. 香川県下川津遺跡 》

香川県埋蔵文化財調査センター編 1990 『下川津遺跡-第2分冊-』(財)香川県埋蔵文化財調査センター。

《 95. 愛媛県宮内大畑遺跡 》

岡田敏彦編 1981 『一般国道33号砥部道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書』Ⅱ、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター。

《 96. 香川県文京遺跡 》

吉田 広・三吉秀充・山田誠司・濱田美加・村上恭通・兒玉洋志・南 武志 2005 『文京遺跡Ⅳ』愛媛大学埋蔵文化財調査報告XⅣ、愛媛大学埋蔵文化財調査室。

《 97. 山口県川棚条里跡遺跡 》

鈴木 卓・梶山茂樹・石井龍彦 2000 『川棚条里跡(菰池地区・出合地区・藤本地区)』山口県埋蔵文化財センター調査報告第18集、財団法人山口県教育財団・山口県埋蔵文化財センター。

《 98. 山口県下七見遺跡 》

村岡和雄編 1989 『下七見遺跡 I』 菊川町教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』 東日本埋蔵文化財研究会。

大平 茂 2008 「西野本の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』 山梨県考古学協会、95－112 頁。

《 99. 山口県吉田遺跡 》

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』 東日本埋蔵文化財研究会。

《 100. 山口県中村遺跡 》

岩崎仁志編 1987 『中村遺跡』 山口県埋蔵文化財調査報告第 100 集、財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会。

《 101. 山口県国秀遺跡 》

岩崎仁志・白岡 太・村岡真樹編 1992 『国秀遺跡』 山口県埋蔵文化財調査報告第 152 集、財団法人山口県教育委員会、山口県教育委員会。

《 102. 広島県地御前南町遺跡 》

河瀬正利編 1988 「原始・古代の廿日市」『廿日市町史 通史編』上、廿日市町、168－273 頁。

《 103. 広島県梨ヶ谷遺跡 》

荒川正己編 1998 『梨ヶ谷遺跡発掘調査報告』(財) 広島市歴史科学教育事業団調査報告書第 22 集、(財) 広島市歴史科学研究事業団文化財課。

《 104. 広島県浄福寺 2 号遺跡 》

山田繁樹・佐々木直彦編 1993 『東広島ニュータウン遺跡群Ⅱ (本文編・図版編)』 広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第 75 集、財団法人広島県埋蔵文化財センター。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係

の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 105. 広島県乃美 2 号遺跡 》

未報告。

《 106. 広島県古市 2 号遺跡 》

青山 透編 1983 『西条第一土地区画整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 I』東広島市教育委員会文化財調査報告書第 21 集、東広島市教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 107. 広島県宇山遺跡 》

是光吉基 1967 「広島県世羅出土の祭祀遺物」『考古学ジャーナル』5、21－24 頁。

向田裕始 1982 「宇山遺跡」『芸備』第 12 集、芸備友の会、46－47 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

《 108. 広島県岡の段 C 地点遺跡 》

梅本健治編 1994 『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 (Ⅳ)』財団法人広島県埋蔵文化財調査センター。

大平 茂 2008 「西野本の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、95－112 頁。

《 109. 広島県大成遺跡 》

道上康仁編 1989 『大成遺跡』広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第 82 集、財団法人広島県埋蔵文化財調査センター。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係

の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 110. 広島県ザブ遺跡 》

河瀬正利編 1973 『山陽新幹線建設地内遺跡発掘調査報告書』広島県教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 111. 岡山県菅生小学校裏山遺跡 》

中野雅美編 1993 『山陽自動車道建設に伴う発掘調査5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告81、岡山県教育委員会。

《 112. 岡山県津島遺跡 》

岡山県古代吉備文化財センター編 2004 『津島遺跡発掘調査・40年のあゆみ』岡山県教育委員会。

《 113. 岡山県下湯原B遺跡 》

内藤善史編 2002 『下湯原B遺跡・藪途山城跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告166、岡山県古代吉備文化財センター。

《 114. 鳥取県福市遺跡 》

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

《 115. 鳥取県青木B6号古墳 》

鳥取県教育委員会 1978 『青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ（本文編）』鳥取県教育委員会。

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

《 116. 鳥取県谷畑遺跡 》

倉吉市教育委員会編 1985 『倉吉市内遺跡群分布調査報告書Ⅱ』倉吉市教育委員会。

根鈴輝雄 1993 「谷畑遺跡祭祀関係遺物一括」『鳥取県文化財調査報告書』17、鳥取県文化財保存協会、35－36頁。

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

《 117. 兵庫県飯見遺跡 》

大平 茂 2008 「第3章 土製模造品の再検討－兵庫県内出土の古墳時代祭祀遺物を中

心として―』『祭祀考古学の研究』雄山閣、149－187頁。

佐藤宗男 1995 「兵庫県宍粟郡波賀町飯見出土の祭祀関係遺物」『古代文化』47－2、古代学協会、42－47頁。

≪ 118. 兵庫県大中遺跡 ≫

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物≪第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方≫』東日本埋蔵文化財研究会。

大平 茂 2008 「第3章 土製模造品の再検討－兵庫県内出土の古墳時代祭祀遺物を中心として―』『祭祀考古学の研究』雄山閣、149－187頁。

大平 茂 2008 「西日本の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、95－112頁。

≪ 119. 兵庫県河高・上ノ池遺跡 ≫

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

森下大輔・今 芳也編 1997 『河高・上ノ池遺跡』加東郡埋蔵文化財報告19、加東郡教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物≪第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方≫』東日本埋蔵文化財研究会。

大平 茂 2008 「第3章 土製模造品の再検討－兵庫県内出土の古墳時代祭祀遺物を中心として―』『祭祀考古学の研究』雄山閣、149－187頁。

大平 茂 2008 「西日本の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、95－112頁。

≪ 120. 京都府府三宅11号墳 ≫

京都府埋蔵文化財調査研究センター編 1988 『第7回小さな展覧会』京都府埋蔵文化財調査研究センター。

竹原一彦 1988 「三宅遺跡」『京都府遺跡調査概報』第31冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、45－55頁。

竹原一彦 1993 「三宅遺跡」『京都府遺跡調査報告書』第18冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、1－68頁。

《121. 京都府野崎3号墳》

水谷壽克編 1992 『京都府遺跡調査報告書』第17冊、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、207－250頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《122. 奈良県寺戸遺跡》

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅲ分冊－西日本編－近畿・山陽・山陰・九州・発表要旨・文献目録・四国地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《123. 三重県中出向26号墳》

筒井正明 1999 「土製模造鏡について」『研究紀要』第8号、三重県埋蔵文化財センター、109－112頁。

《124. 三重県草山遺跡》

松阪市教育委員会編 1983 『草山遺跡発掘調査月報』No. 6、松阪市教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅰ分冊－東日本編Ⅰ－東北・東海地方・中部・北陸》』東日本埋蔵文化財研究会。

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

大平 茂 2008 「西日本の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神まつり』山梨県考古学協会、95－112頁。

《125. 三重県山奥遺跡》

清水政宏編 2004 『山奥遺跡Ⅱ』四日市市教育委員会。

《126. 滋賀県中畑田遺跡》

西中久典編 2012 『中畑田遺跡発掘調査報告書』大津市埋蔵文化財調査報告書 61、大津市教育委員会。

《 127. 滋賀県十里遺跡 》

北原 治・金松 誠・田中咲子編 2010 『十里遺跡』滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・財団法人滋賀県文化財保護協会。

《 128. 滋賀県高月南遺跡 》

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 129. 山梨県赤野井湾遺跡 》

大平 茂 2008 「西日本の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、95－112頁。

《 130. 岐阜県北裏遺跡 》

大江 上・紅村弘・中村勝国・田口昭二・古川庄作・可児鋼平 1973 『北裏遺跡』可児町北裏遺跡発掘調査団。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 131. 愛知県馬見塚遺跡 》

澄田正一編 1974 『新編一宮市史』資料編四、一宮市。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 132. 愛知県青山貝塚 》

澄田正一編 1974 『新編一宮市史』資料編四、一宮市。

芳賀 陽 1959 「青山貝塚－渥美半島における古代漁村の土器」『古代学研究』第20号、

古代学研究会、44 - 52 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』第 I 分冊－東日本編 I－東北・東海地方・中部・北陸』東日本埋蔵文化財研究会。

《 133. 静岡県中津坂上遺跡 》

向坂鋼二 1964 「浜中市都田町中津・坂上出土の祭祀遺物」『考古学雑誌』第 50 集第 1 号、30 - 55 頁。

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

鈴木敏則 2008 「静岡県の土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、40 - 53 頁。

《 134. 静岡県岡の平遺跡 》

栗原雅也・内山幸子編 2005 『岡の平遺跡発掘調査報告書』細江町教育委員会。

《 135. 静岡県明ヶ島古墳 》

竹内直文・木村弘之・室内美香・谷口安曇編 2003 『東部土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』磐田市埋蔵文化財センター。

鈴木敏則 2008 「静岡県の土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、40 - 53 頁。

《 136. 静岡県神明原・元宮川遺跡 》

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

《 137. 静岡県日野遺跡 》

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』第 I 分冊－東日本編 I－東北・東海地方・中部・北陸』東日本埋蔵文化財研究会。

《 138. 静岡県日詰遺跡 》

稲垣自由 2008 「古墳時代伊豆半島の土製模造品－半島南部に分布する土製模造鏡を例として－」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、127 - 136 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥

羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』(第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸) 東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 139. 静岡県下条遺跡 ▶

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』(第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸) 東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 140. 静岡県洗田遺跡 ▶

大場磐雄・佐藤民雄ほか 1938 「南豆洗田の祭祀遺跡」『考古学雑誌』28巻3号、42－77頁。
堀田美桜男・川合治栄 1950 『静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告』第13集 静岡県。
根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。
増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』(第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸) 東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 141. 静岡県姫宮遺跡 ▶

外岡龍二編 1979 『河津郷 姫宮』河津町教育委員会。
増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』(第I分冊－東日本編I－東北・東海地方・中部・北陸) 東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 142. 長野県駒沢新町遺跡 ▶

笹沢浩 1982 「駒沢新町遺跡」『長野県史考古資料編主要遺跡(北・東信)』長野県。
桜井秀雄 2008 「長野県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、69－82頁。

◀ 143. 長野県石川条里遺跡 ▶

白居直之・市川隆之編 1997 『石川条里遺跡』(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書26、長野県教育委員会・(財)長野県埋蔵文化財センター。

桜井秀雄 2008 「長野県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、69 - 82 頁。

《 144. 長野県城の内遺跡 》

笹沢 浩・岡田正彦「更埴市城ノ内遺跡」『信濃考古』27、長野県考古学会、261 - 264 頁。

長野市立博物館編 1986 『第 13 回企画展鏡の文化－手鏡から望遠鏡まで－』長野市立博物館。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第 I 分冊－東日本編 I－東北・東海地方・中部・北陸》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 145. 長野県百々目利遺跡 》

丸山徹一郎 1967 「坂城町百々目利出土の土製鏡」『信濃考古』No. 22、長野県考古学会、11 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第 I 分冊－東日本編 I－東北・東海地方・中部・北陸》』東日本埋蔵文化財研究会。

桜井秀雄 2008 「長野県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、69 - 82 頁。

《 146. 長野県西之手遺跡 》

桜井秀雄 2008 「長野県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、69 - 82 頁。

《 147. 長野県竹花遺跡 》

桜井秀雄 2008 「長野県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、69 - 82 頁。

《 148. 長野県高宮遺跡 》

桜井秀雄 2008 「長野県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、69 - 82 頁。

《 149. 山梨県坂井南遺跡 》

中島保比古・山下孝司編 1984 『坂井南遺跡』 蕪崎市教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』 第Ⅰ分冊－東日本編Ⅰ－東北・東海地方・中部・北陸』 東日本埋蔵文化財研究会。

入江俊行 2008 「山梨県内における土製模造品について」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』 山梨県考古学協会、54－68頁。

≪ 150. 山梨県大原遺跡 ≫

入江俊行 2008 「山梨県内における土製模造品について」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』 山梨県考古学協会、54－68頁。

≪ 151. 福井県浜禰遺跡 ≫

森川昌和・大森 宏・上野晃・田辺常博・山口英一・東条 裕 1971 『浜禰遺跡』 若狭考古学研究会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』 第Ⅰ分冊－東日本編Ⅰ－東北・東海地方・中部・北陸』 東日本埋蔵文化財研究会。

≪ 152. 福井県田名遺跡 ≫

田辺常博編 1988 『田名遺跡』 三方町文化財調査報告書第8集、福井県三方郡三方町教育委員会。

≪ 153. 福井県松原遺跡 ≫

網谷克彦・佐藤優子 2009 「福井県美浜町松原遺跡の土製模造品－古墳時代後期の地域首长祭祀の一例層－」『敦賀論叢敦賀短期大学紀要』 第23号、敦賀短期大学、1－30頁。

≪ 154. 神奈川県上郷猿田遺跡 ≫

江藤 昭編 1983 『上郷猿田遺跡』 横浜市上郷猿田遺跡調査団。

≪ 155. 千葉県東田遺跡 ≫

高梨友子編 2006 『館山市東田遺跡』 千葉県教育振興財団財団調査報告第551集、財団法人千葉県教育振興財団。

笹生 衛 2008 「千葉県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マ

ツリ』山梨県考古学協会、83 - 94 頁。

≪ 156. 千葉県出野尾洞穴・猿田遺跡 ≫

神尾明正 1976 「古代祭祀遺跡にみられる安房国の地域性」『千葉大学教養学部研究報告 B-9』109 - 116 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物≪第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方≫』東日本埋蔵文化財研究会。

白井久美子・山口典子編 2006 『千葉県古墳時代関係資料』第1分冊、財団法人千葉県教育振興財団。

笹生 衛 2008 「千葉県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、83 - 94 頁。

≪ 157. 千葉県建館の前遺跡 ≫

神尾明正 1969 「古代祭祀遺跡にみられる安房国の地域性」『千葉大学教養部研究報告』B-9、千葉大学教養部、109 - 116 頁。

≪ 158. 千葉県つとるば遺跡 ≫

森谷ひろみ 1971 「千葉県館山市沼つとるば祭祀遺跡の発掘成果からみた遺跡付近の小地誌」『千葉大学教養部研究報告』B-4、千葉大学教養部、87 - 100 頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物≪第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方≫』東日本埋蔵文化財研究会。

根鈴輝雄編 1997 『特別展まつりの造形－古代形代の世界－』倉吉博物館。

白井久美子・山口典子編 2006 『千葉県古墳時代関係資料』第1分冊、財団法人千葉県教育振興財団。

笹生 衛 2008 「千葉県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、83 - 94 頁。

≪ 159. 千葉県長須賀条里遺跡 ≫

土屋治雄・城田義友・高梨友子編 2004 『館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡』財団法人千葉県文化財センター調査報告第474集、財団法人千葉県文化財センター。

笹生 衛 2008 「千葉県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マ

ツリ』山梨県考古学協会、83－94頁。

◀ 160. 千葉県出野尾洞穴・猿田遺跡 ▶

笹生 衛 2008 「千葉県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、83－94頁。

◀ 161. 千葉県戸張南台遺跡 ▶

古宮隆信編 1978 『南台遺跡発掘調査報告書（第一次・第二次）・豊四季遺跡発掘調査報告書』南台遺跡発掘調査団。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

◀ 162. 千葉県千束台遺跡 ▶

斎藤礼司郎編 2008 『千束台遺跡群発掘調査報告書Ⅶ』木更津市教育委員会。

笹生 衛 2008 「千葉県の祭祀遺跡と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会、83－94頁。

◀ 163. 千葉県南岩崎遺跡 ▶

栗田則久・木島桂子編 2006 『市原市南岩崎遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第1集、市原市教育委員会。

◀ 164. 千葉県草刈六之台遺跡 ▶

白井久美子・島立 桂・宇田川浩一・加納 実・田島 新・西野雅人・上守秀明・豊田秀治・谷旬・渡邊高広・田井知二・大久保奈奈・小林信一・二宮修治・清水芳裕 1994 『千原台ニュータウンⅥ－草刈六之台遺跡』千葉県文化財センター調査報告第241集、財団法人千葉県文化財センター。

◀ 165. 千葉県草刈遺跡 ▶

小林清隆・大谷弘幸編 2006 『千原台ニュータウン（D区・E区）』千葉県教育振興財団調査報告第535集、財団法人千葉県教育振興財団。

◀ 166. 千葉県柳台遺跡 ▶

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物◀第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方▶』東日本埋蔵文化財研究会。

《 167. 東京都中田遺跡 》

岡田淳子ほか 1967 『八王子市中田遺跡』資料編Ⅰ、八王子市中田遺跡調査会。

岡田淳子ほか 1967 『八王子市中田遺跡』資料編Ⅱ、八王子市中田遺跡調査会。

岡田淳子ほか 1967 『八王子市中田遺跡』資料編Ⅲ、八王子市中田遺跡調査会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 168. 東京都船田遺跡 》

大場磐雄ほか 1970 『船田・八王子船田遺跡における集落址の調査Ⅰ』八王子市船田遺跡調査会。

《 169. 東京都北八王子西野遺跡 》

永峯光一・我孫子昭二・雪田 孝・小田静夫 1974 『北八王子西野遺跡』東京西線及び北八王子変電所遺跡調査会。

《 170. 東京都草花遺跡 》

竹花宏之・松崎元樹編 2007 『草花遺跡・草花古墳群』東京都埋蔵文化財センター調査発掘報告第200集、財団法人東京都生涯学習文化財団・東京都埋蔵文化財センター。

《 171. 東京都多摩ニュータウン 》

及川良彦 1992 「調査概要－No.918 遺跡」『東京都埋蔵文化財センター年報12 1991年度』東京都埋蔵文化財センター、32－33頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 172. 東京都水神橋際遺跡 》

東京足立区役所 1967 『新修足立区史』上、東京足立区役所。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 173. 東京都赤羽台遺跡 》

鈴木敏弘 1990 『赤羽台遺跡－八幡神社地区－』東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本

旅客鉄道株式会社。

鈴木敏弘 1991 『赤羽台遺跡－八幡神社地区－2』東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物<第II分冊－東日本編II－関東地方>』東日本埋蔵文化財研究会。

≪ 174. 東京都伊興遺跡 ≫

大場磐雄編 1962 『武蔵伊興』國學院大学考古学研究報告第二冊、綜芸舎。

足立区編 1967 『新修足立区史』上巻、足立区。

実川順一・小田静夫・小林重義編 1992 『伊興遺跡』足立区伊興遺跡公園調査会・足立区教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物<第II分冊－東日本編II－関東地方>』東日本埋蔵文化財研究会。

佐々木彰・三ヶ島誠次男・小鍛冶茂子編 1999 『東京都足立区毛濡川流域の考古学調査』足立区伊興遺跡調査会。

≪ 175. 埼玉県今泉遺跡 ≫

小沢国平 1956 「岡部村今泉出土の祭器」『武蔵野史談』3巻3号、埼玉県郷土文化会、32－37頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物<第II分冊－東日本編II－関東地方>』東日本埋蔵文化財研究会。

≪ 176. 埼玉県上谷遺跡 ≫

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物<第II分冊－東日本編II－関東地方>』東日本埋蔵文化財研究会。

≪ 177. 埼玉県西富田新田遺跡 ≫

菅谷浩之編 1972 『西富田新田遺跡古墳時代発掘調査概報』埼玉県本庄市教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥

羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』東日本埋蔵文化財研究会。

《178. 埼玉県久下前遺跡》

松本 完・的野善行編 2010 『久下前遺跡Ⅲ（C1地点）・北堀新田遺跡Ⅱ（A1地点）・宥勝寺北裏遺跡Ⅲ（A1・B1地点）』本庄市埋蔵文化財調査報告書第23集、本庄市教育委員会。

《179. 群馬県伊勢ノ木遺跡》

荻野朝則編 1985 『伊勢ノ木・小保呂遺跡発掘調査報告書』板倉町教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』東日本埋蔵文化財研究会。

《180. 群馬県反丸遺跡》

西田健彦編 1984 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報（吉祥寺・流作場・反丸遺跡）』群馬県教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物』東日本埋蔵文化財研究会。

《181. 栃木県清六Ⅲ遺跡》

上原康子・麻生尚子編 1999 『清六Ⅲ遺跡Ⅲ』栃木県埋蔵文化財調査報告第227集、栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興財団。

《182. 栃木県田島持舟遺跡》

篠原浩恵編 2011 『田島持舟遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第339集、栃木県教育委員会。

《183. 栃木県五分一上原遺跡》

篠原祐一 1989 「上三川町五分一上ノ原遺跡出土の土製祭祀遺物」『考古回覧』第8号、秋元陽光、77－80頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係

の遺跡と遺物《第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 184. 栃木県雷電山遺跡 》

今平利幸編 1994 『雷電山遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第35集、宇都宮市教育委員会。

《 185. 栃木県上長井遺跡 》

山越 茂 1976 「上長井出土の土製六鈴鏡」『栃木県史』資料編 考古一、栃木県史編さん委員会、696－697頁。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 186. 茨城県阿巳の山遺跡 》

渡辺俊夫編 1986 『阿巳の山遺跡』阿巳の山遺跡遺跡発掘調査会・鉾田町教育委員会。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

《 187. 茨城県尾島遺跡 》

人見暁朗編 1988 『一般県道新川・江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 尾島貝塚 宮の脇遺跡 後九郎兵衛遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第46集、財団法人茨城県教育財団。

増田逸朗・駒宮史朗・坂本和俊・今井 宏・山崎 武・金子彰男・山川守男・篠崎 潔・鳥羽政之・平田重之編 1993 『第2回東日本埋蔵文化財研究会 古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物《第Ⅱ分冊－東日本編Ⅱ－関東地方》』東日本埋蔵文化財研究会。

茂手雅弘博 1994 「浮島の祭祀遺跡」『風土記の考古学』1、同成社、195－220頁。

《 188. 茨城県高須賀中台東遺跡 》

未報告。

《 189. 茨城県神岡上3号墳 》

折原洋一編 1995 『神岡上古墳群』北茨城市文化財調査報告Ⅵ、山武考古学研究所。

《 190. 福島県北ノ脇遺跡 》

安田 稔・高久田富裕・佐藤あかり・菅原祥夫・大河原 勉・大波紀子 2002 『阿武隈川

右岸築堤遺跡調査報告発掘2』福島県文化財調査報告書第401集、福島県教育委員会。

《 191. 福島県赤柴遺跡 》

吉田秀享・佐々木慎一・笠井崇吉・三浦武司・伊藤千洋・竹田裕子・西澤正和 2011 『常磐自動車道遺跡調査報告63』福島県文化財調査報告書第472集、福島県教育委員会。

《 192. 福島県岩谷遺跡 》

亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。

《 193. 宮城県栗遺跡 》

加藤孝編 1979 『栗遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第14集、仙台市教育委員会。

第8章 小型仿製鏡生産技術の変化と画期

各鏡式間に共通する技術的な要素を明らかにするために、各鏡の鈕孔形態の検討、断面形態、鉛同位体比の検討を行った。

第1節 小型仿製鏡の鈕孔形態

① 弥生時代小型仿製鏡の鈕孔形態

第210図に弥生時代小型仿製鏡の鈕孔を示している。第210図①は弥生時代の九州系小型仿製鏡である。第210図②～⑩は弥生時代の近畿系小型仿製鏡であり、内行花文鏡・「十」字状文様をもつ仿製鏡・乳状突起をもつ仿製鏡・鋸歯文鏡・重圏文鏡が含まれる。

弥生時代の九州系小型仿製鏡の鈕孔は円形である。弥生時代の近畿系小型仿製鏡の鈕孔は円形や半円形の鈕孔が作られている。弥生時代後期末の鷹塚山遺跡出土重圏文鏡(第210図⑧)や大阪府利倉南遺跡出土鋸歯文鏡(第210図⑦)・兵庫県長田神社境内遺跡出土鋸歯文鏡(第210図⑥)もこれに含まれるものである。

② 重圏文鏡の鈕孔形態 (第211図～第215図)

重圏文鏡の鈕孔形態については、方形のもの(第211図⑨・⑪・⑬・⑯・⑳、第212図㉗・㉘・㉙・㉚・㉛・㉜・㉝・㉞・㉟・㊱・㊲・㊳・㊴・㊵・㊶・㊷・㊸)、第213図①・②)、半円形のもの(第212図㉞)、円形のもの(第212図㉟・㊱)がある。その他は鈕が小さく鈕孔の形状も不整形や楕円形であり、曖昧なものである。重圏文鏡の多くは、方形鈕孔が多いと判明した。

③ 珠文鏡の鈕孔形態 (第216図～第219図)

珠文鏡の鈕孔形態については、円形のもの(第216図②・⑥・⑦)、方形のもの(第216図⑨・⑩・⑪・⑯・㉑・第217図㉗・㉙・㉛・㉝・㉞・㉟)、正方形(第216図⑭・第217図㉜)のものがあり、それ以外は不整形や楕円形の鈕孔である。

④内行花文鏡の鈕孔形態（第 220 図～第 221 図）

鈕孔形態は半円形のもの（第 220 図⑧）、円形のもの（第 220 図⑬・⑭）、方形のもの（第 220 図①・③・⑤・⑨・⑪・⑮）があり、方形のものが最も多い。

⑤素文鏡の鈕孔形態（第 222 図～第 224 図）

鈕孔形態は円形のもの（第 222 図①・④・⑪・⑫・⑬・⑳・第 223 図㉔～㉖）がみられ、その他は不整円形が多い。素文鏡の鈕径が小さいため、それに伴って鈕孔も小さくなり、2mm前後のものが多くみられる。

第 2 節 断面形態からみた画期

断面形態では鈕孔形状と鏡体厚に着目して、画期を第 1 期～第 3 期とした。

第 1 期 円形・半円形鈕孔・鏡体が厚い段階

弥生時代の九州系小型仿製鏡・同時代の近畿系小型仿製鏡・「十」字文様をもつ仿製鏡・乳状突起をもつ仿製鏡・鋸歯文鏡・重圏文鏡・内行花文鏡がみられる。弥生時代の九州系小型仿製鏡と素文鏡の鈕孔形態は酷似する。鏡体は厚手である。

第 2 期 方形鈕孔・鏡体が厚い段階

弥生時代の小型仿製鏡に多くみられた円形の鈕孔はみられなくなり、重圏文鏡の多くは方形鈕孔をもつようになる。第 1 期に引き続き鏡体は厚手である。

第 3 期 隅丸方形鈕孔・鏡体が薄い段階

この段階の小型仿製鏡の多くは隅丸方形の鈕孔となる。重圏文鏡の中でも鏡体の薄いものがここに含まれる。内行花文鏡の大型仿製鏡は半円形鈕孔をもつものが多い。第 3 期に併行すると考えられ、生産場所が鈕孔形態の相違に反映されている可能性もある。素文鏡は不整円形であり、この時期の鏡体は薄くなる。

以上、鈕孔形態を中心に論じてきたが、鈕孔については、これまでも多くの研究者によって検討されている。半円形鈕孔の系譜については古墳時代前期前半に倭に渡来した青銅器工人の手によるものとの考えがある（岸本 1996）。今回の鈕孔形態の検討によって、弥生時代の小型内行花文鏡にはすでに半円形

鈕孔がみられることが判明した。さらに、製作技法における共通点は、弥生時代の近畿系内行花文鏡と古墳時代の大型内行花文鏡は、花文の円の大きさがそれぞれの鏡において統一されていることである。このことからみても、弥生時代の近畿系小型内行花文鏡を生産する集団と大型内行花文鏡の生産集団は同じであったと推測する。次に、方形鈕孔について林正憲は古墳時代前期前半には通常用いられないものであると述べている（林 2005）。今回、鈕孔の実見観察を行った結果、重圏文鏡は方形鈕孔をもつものが半数以上を占めることが判明し、主流となっていることが分かる。弥生時代後期後半において方形鈕孔は皆無であり、古墳時代初頭の前Ⅰ期以降から突然出現し始めている。重圏文鏡よりも後出する珠文鏡や内行花文鏡においても半数以上は方形鈕孔である。しかしながら、珠文鏡や内行花文鏡の鈕孔は、重圏文鏡と比べると、方形の角部に明瞭さを欠くものが多くなる。

筆者は古墳時代初頭には、すでに重圏文鏡が大和王権下において生産がなされていたと想定しており、この時代に青銅器工人が渡来した結果、新たに長方形鈕孔の技術がもち込まれたのではないかと考える。突然方形鈕孔が出現する理由をここに求めたい。その後も方形鈕孔をもつ小型仿製鏡は、引き続き古墳時代後期まで生産され続けたことが、中期以降に出現する複線波文をもつ珠文鏡の鈕孔からみることが出来る。

第1期や第3期では異なる鏡式間でも酷似する鈕孔形態がみられることから、大和王権下において生産が管理されていたことを示すものと判断する。なお、鼻鈕をもつ鈕孔の形状は、正円形の鈕孔をもつものがほとんどであり、鈕孔径は非常に小さい。この形状も全国的な共通性がみられることから、鼻鈕をもつ素文鏡や重圏文鏡においても大和王権下にて管理されて生産された可能性が高いといえよう。



①愛媛県小池遺跡出土仿製鏡
(北部九州系)



②滋賀県服部遺跡出土
弥生時代内行花文鏡



③大阪府山ノ上遺跡出土
「+」状文様をもつ仿製鏡柄



④石川県四柳白山下遺跡出土
乳状突起をもつ仿製鏡



⑤大阪府田井中遺跡出土
乳状突起をもつ仿製鏡



⑥兵庫県長田神社境内遺跡出土
鋸歯文鏡



⑦大阪府戸倉南遺跡出土
鋸歯文鏡



⑧大阪府鷹塚山遺跡出土
重圏文鏡



⑨鳥取県青谷上寺地遺跡出土
内行花文鏡



⑩東京都館町515住居号遺跡出土
内行花文鏡

第 210 図 弥生時代小型仿製鏡の鈕孔形態



第211図 重圈文鏡の鈕孔形態



第 212 図 重圈文鏡の鈕孔形態

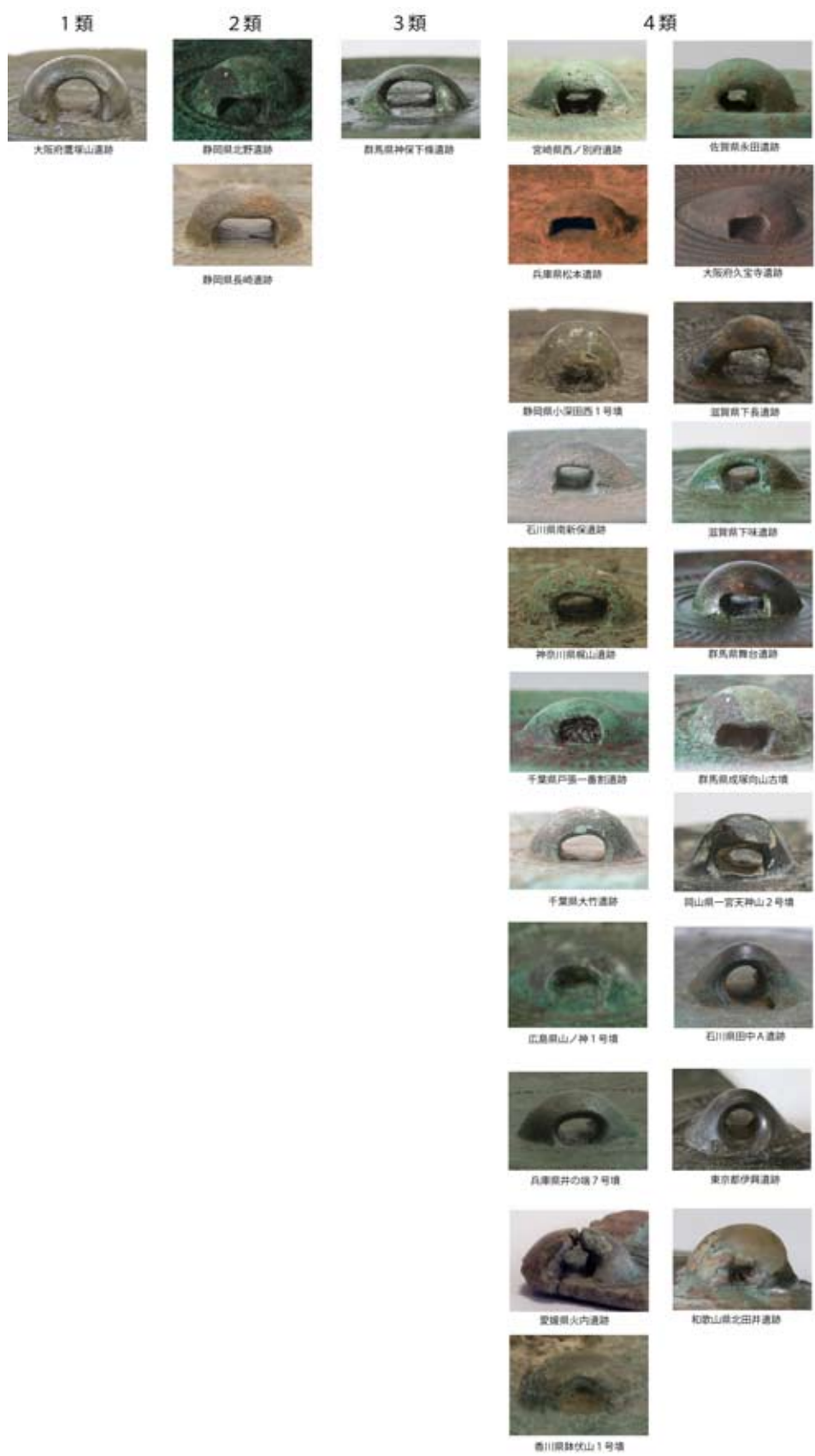


㊦群馬県舞台遺跡

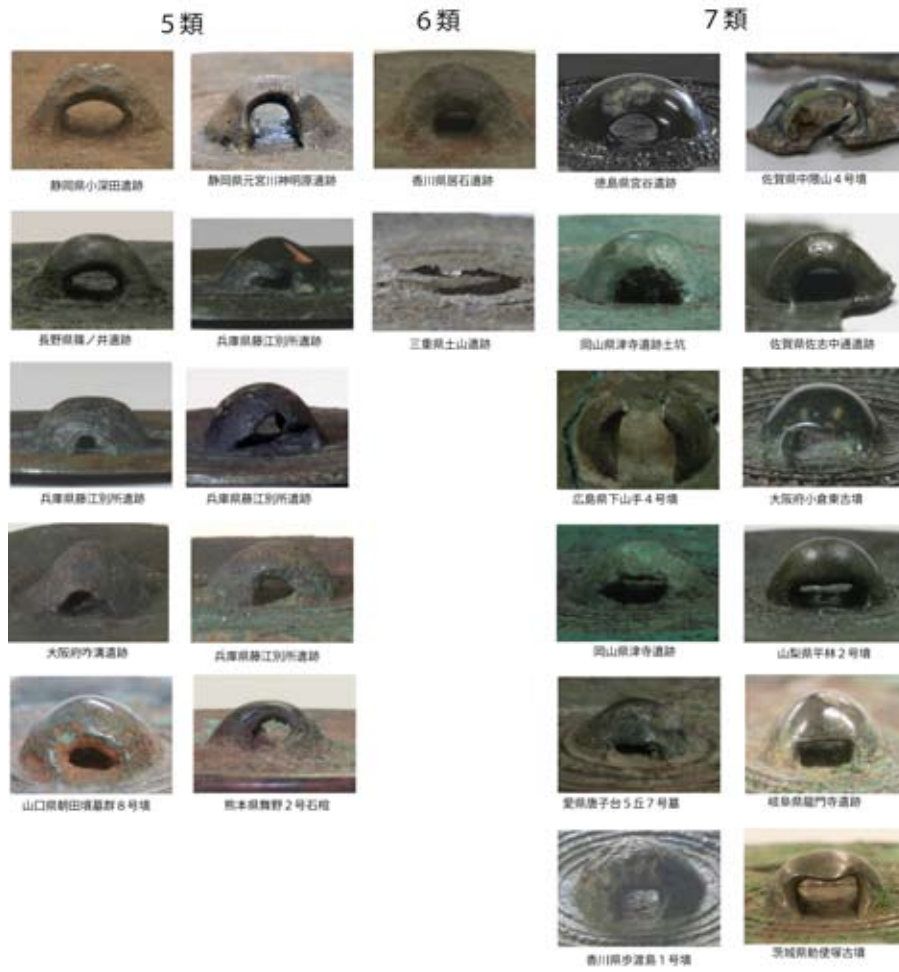


㊧茨城県勅使塚古墳

第 213 図 重圏文鏡の鈕孔形態



第 214 図 重圈文鏡の分類ごとの鈕孔形態



第 215 図 重圈文鏡の分類ごとの鈕孔形態



①宮崎県五反畑遺跡 ②宮崎県東二原地下式横穴墓群2号 ③宮崎県西都原地下式横穴墓4号 ④熊本県久保原石棺



⑤佐賀県関行丸古墳第2主体 ⑥佐賀県関行丸古墳第3主体 ⑦佐賀県中隈山5号墳 ⑧福岡県鋤崎古墳



⑨福岡県成屋形C号石棺 ⑩福岡県乙植木3号墳 ⑪愛媛県円満寺古墳 ⑫香川県居石遺跡



⑬香川県野午古墳 ⑭広島県三ツ城古墳 ⑮広島県山武士塚2号墳 ⑯広島県宇那木山2号墳



⑰広島県四拾貫小原1号墳 ⑱広島県今岡古墳 ⑲広島県汐首3地区C遺跡 ⑳広島県山の神2号墳



㉑広島県広島山の神3号墳 ㉒広島県国成古墳 ㉓広島県寺山1号墳 ㉔岡山県横田遺跡

第216図 珠文鏡の鈕孔形態



第217図 珠文鏡の鈕孔形態



第 218 図 珠文鏡の分類ごとの鈕孔形態



第 219 図 珠文鏡の分類ごとの鈕孔形態



①熊本県辻古墳



②広島県汐首遺跡



③広島県横路小谷1号墳



④広島県山の神1号墳



⑤広島県石鎚権現5号墳



⑥広島県恵下1号墳



⑦山口県松崎古墳



⑧鳥取県青谷上寺地遺跡



⑨香川県快天山古墳第3号石棺



⑩香川県成山1号墳



⑪香川県大日裏山1号墳



⑫香川県津頭東古墳



⑬香川県岩崎山5号墳



⑭大阪府楠葉古墳



⑮静岡県五鬼面古墳



⑯東京都館町515号遺跡

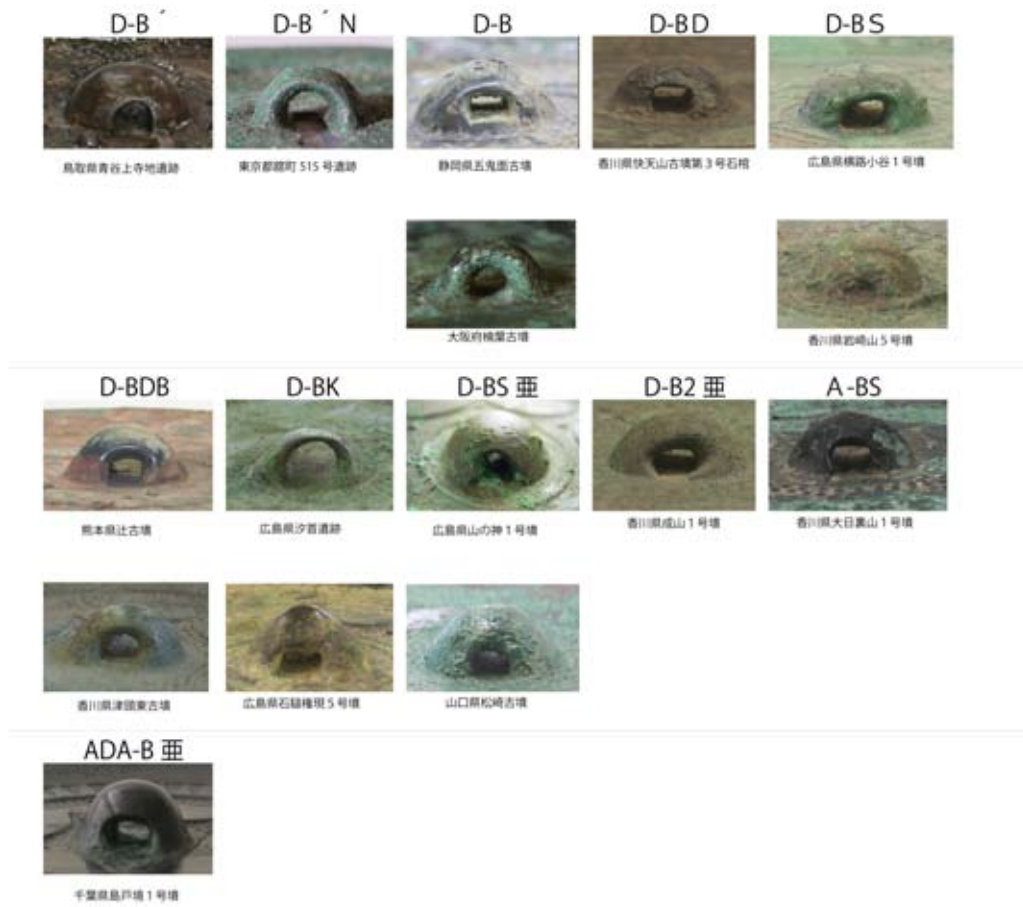


⑰千葉県島戸境1号墳



⑱群馬県下佐野遺跡

第 220 図 内行花文鏡の鈕孔形態



第 221 図 内行花文鏡の分類ごとの鈕孔形態



①愛媛県高橋仏師2号墳



②香川県居石遺跡



③鳥取県博老町遺跡



④鳥取県青谷上寺地遺跡6区



⑤鳥取県青谷上寺地遺跡



⑥鳥取県長瀬高浜遺跡 15ISP01



⑦鳥取県長瀬高浜遺跡 15ISP01



⑧鳥取県長瀬高浜遺跡 SI138



⑨鳥取県長瀬高浜遺跡 16LSK01



⑩鳥取県長瀬高浜遺跡 15ISP01



⑪鳥取県長瀬高浜遺跡 SI100



⑫鳥取県長瀬高浜遺跡 10-I 地区



⑬鳥取県長瀬高浜遺跡 3EII d 地区



⑭広島県石鎚権現7号墳



⑮岡山県下湯原B遺跡



⑯兵庫県藤江別所遺跡



⑰兵庫県藤江別所遺跡



⑱兵庫県木戸原遺跡



⑲大阪府久宝寺遺跡



⑳和歌山県大谷古墳 Mc35



㉑和歌山県大谷古墳 Mc4



㉒和歌山県大谷古墳 Mc4



㉓和歌山県大谷古墳 Mc1



㉔和歌山県大谷古墳

第 222 図 素文鏡の鈕孔形態



②⑤ 滋賀県下長遺跡



②⑥ 滋賀県下長遺跡



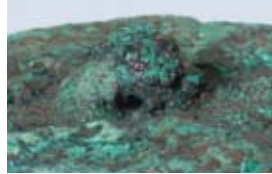
②⑦ 東京都伊興遺跡



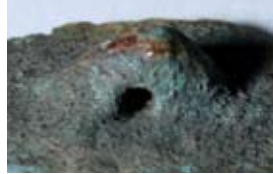
②⑧ 千葉県草刈遺跡 L区 037号



②⑨ 千葉県草刈六之台遺跡



③⑩ 千葉県辺田1号墳③



③⑪ 群馬県久保遺跡



③⑫ 群馬県久保遺跡



③⑬ 栃木県茂原古墳群大日塚古墳



③⑭ 茨城県釜付遺跡



③⑮ 茨城県釜付遺跡












③⑯ 大阪府西ノ辻遺跡

第 223 図 素文鏡の鈕孔形態



第 224 図 素文鏡の分類ごとの鈕孔形態

<p>第1期</p>	<p>九州地方の弥生時代 乳状突起をもつ 小型仿製鏡 鹿嶋文鏡 近畿系弥生時代 小型仿製鏡</p> 	<p>重環文鏡</p> 	<p>内行花文鏡</p> 	<p>素文鏡</p> 
<p>第2期</p>				<p>素文鏡</p> 
<p>第3期</p>				<p>素文鏡</p> 

第225 鈕孔形態からみた画期

第3節 小型仿製鏡の鉛同位体比分析

平尾良光らによって鉛の同位体比分析から青銅器の生産地の推定が行われている。鉛には ^{204}Pb ・ ^{206}Pb ・ ^{207}Pb ・ ^{208}Pb の同位体があり、この分析方法は安定同位体比の ^{208}Pb と、放射壊変する不安定な ^{204}Pb ・ ^{206}Pb ・ ^{207}Pb 量比を世界の鉛鉱山の同位体比と比較することによって鉛の産地の違いを判別するものである。平尾は日本列島から出土している弥生時代から古墳時代の青銅製品と、日本列島に流入している中国の前漢時代と後漢時代および三国時代の鏡の鉛同位体比について検討を行っている。その結果、日本の弥生時代に生産された小型仿製鏡の鉛同位体比は、前漢鏡と同じ領域に位置することから、弥生時代小型仿製鏡と前漢鏡は共通する青銅を用いたと指摘している。また、古墳時代の仿製鏡と後漢・三国鏡とは同一の分布を示す結果となり、この両者は共通する青銅を用いたことを指摘している（平尾編 1999）。

さらに、平尾を中心として、重圏文鏡・櫛歯文帯・珠文鏡・内行花文鏡についても鉛同位体比の分析と検討が行われている。第26表は各報告書から得られたデータを抜き出したものである。

重圏文鏡と櫛歯文帯の鉛同位体比分析結果を第226図に示している。佐賀県中隈山4号墳出土重圏文鏡（第37図⑤）・佐賀県永田遺跡出土重圏文鏡（第37図③）・福岡県立野11号方形周溝墓・岡山県一宮天神山2号墳・群馬県成塚向山1号墳出土重圏文鏡（第45図③）で分析が行われている。この6面のうち中隈山4号墳出土重圏文鏡・福岡県立野11号方形周溝墓・岡山県一宮天神山2号墳は華南産の青銅を使用しており、永田遺跡出土重圏文鏡と成塚向山1号墳出土重圏文鏡は華北産の青銅を使用していることが分かる。特に弥生時代後期になると華北産（A領域）のなかでも、a領域に入ると報告されている。成塚向山1号墳出土重圏文鏡はa領域に入ることから、弥生時代後期の材料を使っていると報告されている（淀川他 2008）。前V期～前VI期の古墳から出土したものであることから、古墳時代初頭にa領域の材質を用いて重圏文鏡が生産されたものが、伝世されたことが分かる。その一方で中隈山4号墳出土重圏文鏡は華南産（B領域）に属し、鋸歯文帯をもつことから、古墳時代の仿製鏡

の特徴を備えている。今回の第3章で行った分類において、筆者は鋸歯文帯をもつ重圏文鏡は、櫛歯文帯のみをもつ重圏文鏡よりも後出すると判断している。中隈山4号墳出土重圏文鏡は、永田遺跡出土重圏文鏡や成塚向山1号墳出土重圏文鏡よりも後出するものであり、筆者の重圏文鏡の編年と鉛同位体比の分析結果には整合性があるといえる。重圏文鏡は弥生時代後期末から古墳時代前期にかけて生産されたものであることは第3章でも述べており、重圏文鏡は華北産から華南産の両方の領域に存在することからも証明できる。

珠文鏡の鉛同位体比は第227図に示している。佐賀県中隈山5号墳・福岡県平石棺墓・福岡県三国ノ鼻1号墳・福岡県藤崎7号方形周溝・福岡県立山山25号墳・岡山県斎富遺跡・岡山県殿山10号墳・岡山県光坊寺1号墳・岡山県横田遺跡・神奈川県勝坂祭遺跡5面・新潟県蔵王遺跡・島根県御崎山古墳・大韓民国生草古墳群で出土した計17面で分析が行われている。第227図をみると、華北産の領域に分布するものは1面、華南産の領域に分布するものは11面、華南産と華北産の間に分布するものは4面、分布が離れるものが1面ある。この分析結果と珠文鏡の分類との関係を見ると、内区外周に櫛歯文帯をもつD-B類はすべて華南産の鉛を用いている。A-B類では、華南産6面、華北産1面、華南産と華北産の間に位置するものが3面みられる。華南産と華北産の間に位置するものは、華南産と華北産の青銅を混ぜたものと指摘されている。このことは、華南産と華北産の青銅をこの時期に大陸から入手したという可能性もあるが、その他には、弥生時代に用いられた銅鐸は華北産の材料であることから、弥生時代の青銅器を鋳つぶした可能性を考えられる。古墳時代に大和王権が成立すると、祭祀の道具は、銅鐸や銅矛・銅劍などから銅鏡の使用に変わる。古墳時代には各地で銅鐸の破片が出土することから、銅鐸を鋳つぶした行為があったことを物語るものとする。銅鐸の一部のみが出土する事例が各地にあり、特に耳などの特徴的なものを残すものがある。これは、本体は再利用されたが、一部のみが丁寧に祭祀をされた結果ではないかと考える。銅鐸の使用を良しとしなくなり、銅鏡による祭祀が確立され始めたことで、銅鐸による祭祀形態が銅鏡にとってかわった結果と考える。銅鐸に込められた豊穡の意味や精神性を受け継ぐ鏡として、華北産と華南産の鉛をもつ珠文鏡A-B類は

製作された可能性もありはしないか。また、文様に関しては、銅鐸に使用された複合鋸歯文帯が、古墳時代に入ると突然鏡の文様に使用されはじめる。複合鋸歯文帯は同時期の中国鏡にはみられない文様帯であり、銅鐸に使用された文様を、銅鐸を鋳つぶすことによってその文様を鏡に取り込んだということも大いに考えられる。新たに作り出そうとした鏡の文様に銅鐸の面影を残す行為があったのではないか。祭祀に用いた銅鐸の文様を鏡に取り込むことがあってもおかしくはない。古墳時代の小型仿製鏡は大和王権下の権力を象徴するものであり、銅鐸は純粹に祭祀の道具であった。祭祀性を鏡の中に融合させる意味もあり、銅鐸を混ぜる行為が行われたのでないか。祭祀の形態が銅鐸を使用せず、銅鏡を使用することが主流になった段階に銅鐸を鋳つぶして銅鏡を製作するようになったと考える。銅鐸の破片は弥生時代後期から古墳時代前期の出土が多いが、古墳時代後期まで銅鐸の破片が出土する事例がある。これは、銅鐸を鋳つぶして銅鏡を製作する行為が長く続いたことを意味する。

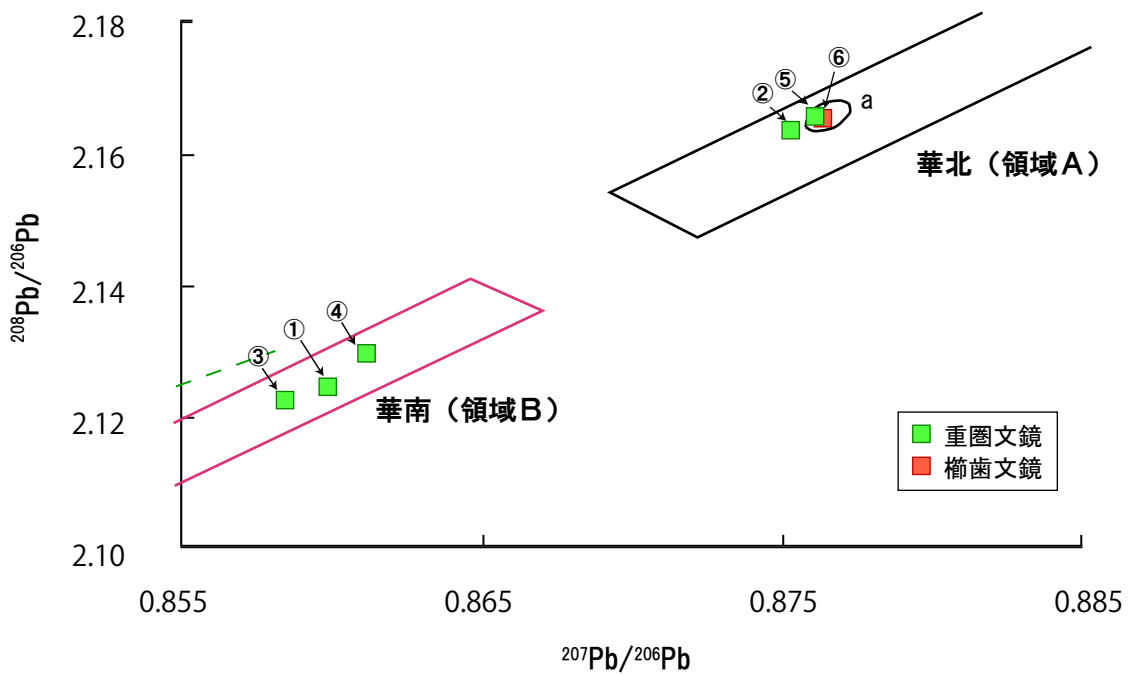
大韓民国山清生草9号墳出土珠文鏡は華南産・華北産の分布域とは異なっているが、朝鮮半島産の分布域とも異なっている。さらに、古墳時代の福岡県金尿古墳出土の舶載内行花文鏡（漢鏡5期）の鉛同位体比率に近く、今後も華南産・華北産に当てはまらない類例は増えると思われる。

内行花文鏡は佐賀県平原遺跡（第96図③）・福岡県油田古墳群1号墳・熊本県高橋稻荷石棺群・岡山県用木15号墳・岡山県鶴山丸山古墳2面・岡山県宮の谷8号墳・島根県釜代1号墳・兵庫県丸山1号墳の計10面で行われている。今回分析されている内行花文鏡は華南産の鉛を用いた青銅で生産されていることから、銅質が良好で格式の高い鏡として、製作されていたことを示す。内行花文鏡は前方後円墳からの出土も多いことから、大和王権下で文様による格差付けの上位であると論じており、このことと矛盾していない。

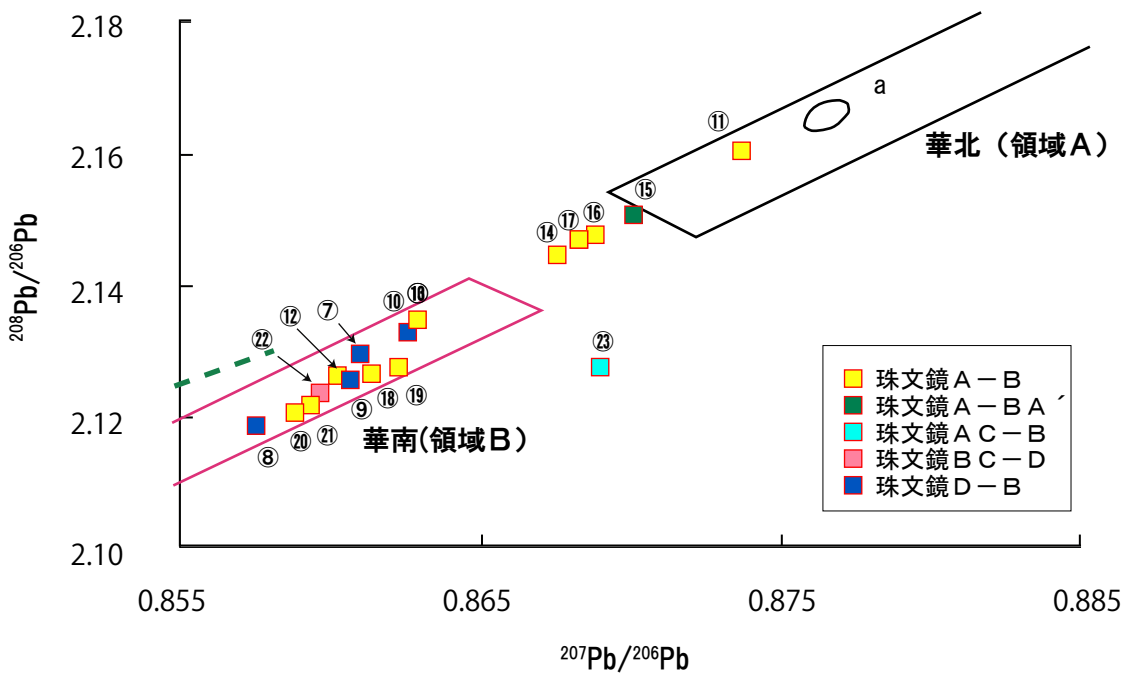
次に、鉛同位体比と鈕孔形態の関係について若干触れることとする。弥生時代に用いられた華北産の領域に含まれる青銅を用い、長方形鈕孔を製作したものとしては、永田遺跡出土重圏文鏡と成塚向山1号墳出土重圏文鏡をあげることができる。これは弥生時代青銅器の材料を用いて、長方形鈕孔をもつ仿製鏡を製作した初段階のものといえる。

第26表 小型仿製鏡の鉛同位体比

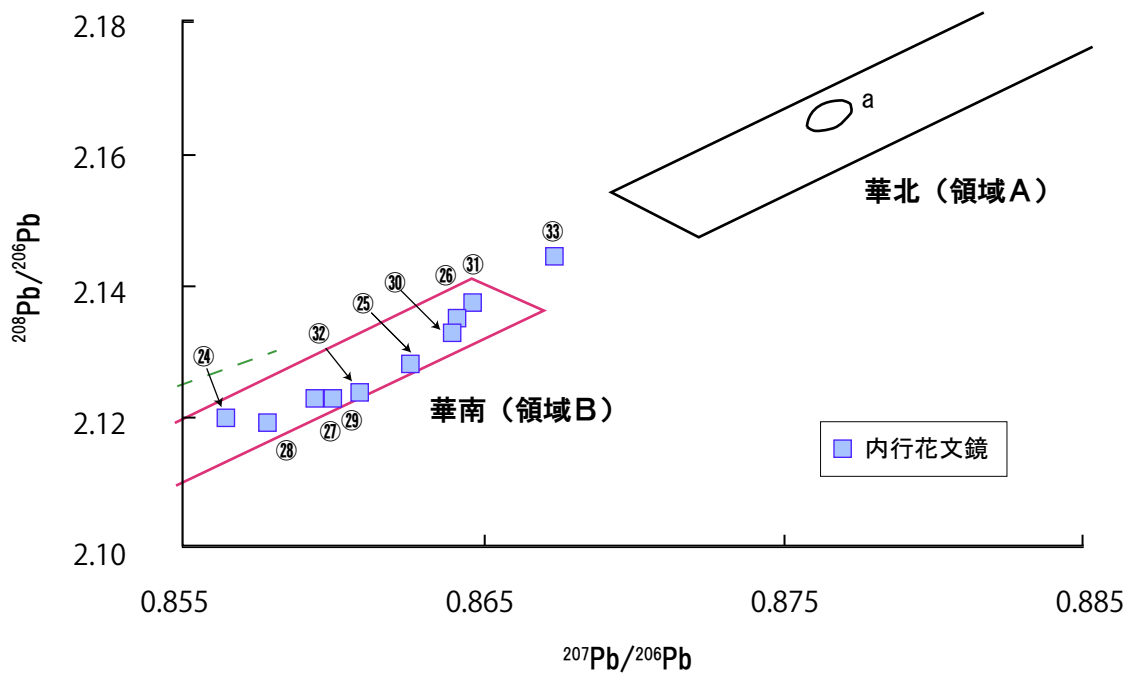
No.	出土地	鏡式	分類	遺跡名	$^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	測定番号	文献
①	佐賀	重圈文鏡	2	中隈山遺跡	18.210	15.658	38.688	0.8599	2.1246	HS564	平尾・鈴木2003
②	佐賀	重圈文鏡	4	永田遺跡	17.758	15.545	38.421	0.8754	2.1636	HS565	平尾・鈴木2003
③	福岡	重圈文鏡	3	立野11号方形周溝	18.192	15.618		0.8585	2.1225	86	馬淵・平尾1990
④	岡山	重圈文鏡	4b	一宮天神山2号墳	18.170	15.650		0.8613	2.1299	2491	馬淵・平尾1996
⑤	群馬	重圈文鏡	4	成塚向山1号墳・内側①	17.745	15.546	38.426	0.8761	2.1654	BP-66	淀川他2008
⑥	神奈川	櫛齒文鏡	櫛齒文	勝坂祭祀遺跡5	17.745	15.549	41.697	0.8762	2.1654	BP1086	魯・平尾2010
⑦	佐賀	珠文鏡	D-B	中隈山遺跡	18.168	15.643	38.691	0.8610	2.1296	HS563	平尾・鈴木2003
⑧	福岡	珠文鏡	D-B	平石棺	18.271	15.666	38.716	0.8574	2.1190	CP-468	平尾編1999
⑨	福岡	珠文鏡	A3-B	三国ノ鼻1号墳	18.206	15.666		0.8605	2.1259	85	馬淵・平尾1990
⑩	福岡	珠文鏡	D-B	藤崎7号方形周溝墓	18.095	15.609		0.8626	2.1328	94	馬淵・平尾1990
⑪	福岡	珠文鏡	A-B	立山25号墳	17.866	15.608		0.8736	2.1605	91	馬淵・平尾1990
⑫	岡山	珠文鏡	A-B	齋富遺跡	18.237	15.687	38.774	0.8602	2.1261	CP-457	平尾編1999
⑬	岡山	珠文鏡	D-B	殿山10号墳	18.131	15.643		0.8628	2.1343	CP0880	平尾2004
⑭	岡山	珠文鏡	A-B	光坊寺1号墳	17.995	15.611		0.8675	2.1446	CP0878	平尾2004
⑮	岡山	珠文鏡	A-BA'	横田遺跡	17.923	15.595		0.8701	2.1508	CP0877	平尾2004
⑯	神奈川	珠文鏡	A-B	勝坂祭祀遺跡1	17.945	15.586	38.543	0.8685	2.1478	BP1082	魯・平尾2010
⑰	神奈川	珠文鏡	A-B	勝坂祭祀遺跡2	17.962	15.595	38.568	0.8682	2.1472	BP1083	魯・平尾2010
⑱	神奈川	珠文鏡	A-B	勝坂祭祀遺跡3	18.150	15.631	38.597	0.8612	2.1266	BP1084	魯・平尾2010
⑲	神奈川	珠文鏡	A-B	勝坂祭祀遺跡4	18.122	15.625	38.555	0.8622	2.1275	BP1085	魯・平尾2010
⑳	神奈川	珠文鏡	A-B	勝坂祭祀遺跡7	18.215	15.643	41.911	0.8588	2.1205	BP1088	魯・平尾2010
㉑	新潟	珠文鏡	A-B	蔵王遺跡	18.217	15.652		0.8592	2.1217	HS438	平尾1998
㉒	島根	珠文鏡	BC-D	御崎山	18.184	15.631		0.8596	2.1234	31	馬淵1985
㉓	韓国	珠文鏡	AC-B	慶尚南道山清生草9号墳	17.951	15.600		0.8690	2.1274	B6143	斉藤2006
㉔	佐賀	内行花文鏡	A-B	平原遺跡	18.316	15.685	38.824	0.8564	2.1197	HS585	平尾・鈴木2003
㉕	福岡	内行花文鏡	分類不可	油田古墳群1号墳	18.150	15.654		0.8625	2.1281	98	馬淵・平尾1990
㉖	熊本	内行花文鏡	D-BD	高橋稲荷石棺群	18.051	15.600		0.8642	2.1349	M-71	馬淵・平尾1982b
㉗	岡山	内行花文鏡	D-BS	用木15号墳	18.213	15.654		0.8595	2.1228	CP0867	平尾2004
㉘	岡山	内行花文鏡	D-BYB	鶴山丸山古墳	18.256	15.660		0.8578	2.1189	CP0872	Y.Hirao et al 2004
㉙	岡山	内行花文鏡	D-BYB	鶴山丸山古墳	18.186	15.638		0.8599	2.1228	KP1977	Y.Hirao et al 2004
㉚	岡山	内行花文鏡	分類不可	宮の谷8号墳	18.069	15.612		0.8640	2.1331	M-68	馬淵・平尾1982b
㉛	岡山	内行花文鏡	D-BD	殿山9号墳第1主体部	18.068	15.622		0.8646	2.1372	CP0880	平尾2004
㉜	岡山	内行花文鏡	D-BS亜	釜代1号墳第2主体部	18.163	15.637		0.8609	2.1234	552	平尾他1996b
㉝	兵庫	内行花文鏡	D-B	丸山1号墳北石室	18.044	15.655		0.8674	2.1442	M-40	馬淵・平尾1982a



第 226 図 重圏文鏡・楡齒文鏡の鉛同位体比 ($^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ - $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$)



第 227 図 珠文鏡の鉛同位体比 ($^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ - $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$)



第 228 図 内行花文鏡の鉛同位体比 ($^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ - $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$)

第4節 小結

本章では小型仿製鏡の生産技術の変化を検討するために、鈕孔・鏡体の断面の分析、小型仿製鏡の鉛同位体比の分析を行った。

重圏文鏡の鈕孔形態、鏡体の厚みの変化、鉛同位体比の分析から、重圏文鏡は弥生時代から古墳時代の移行期の鏡であると判断した。

珠文鏡の鉛同位体比の分析結果については、やや遅れて出現する文様に華南産と華北産を混ぜるものがみられることから、弥生時代に多く使用されていた銅鐸を古墳時代に再利用して、銅鐸のもつ祭祀的な意味を取り込んだ可能性を指摘した。

古墳時代内行花文鏡の鉛同位体比による分析結果をみると、弥生時代の青銅器に使用される華北産のものは確認できなかった。古墳時代に流通する華南産の材料のみで製作することによって、政治的な重要性を際立たせたと述べた。

(引用文献)

馬淵久夫・平尾良光 1982 「鉛同位体比法による漢式鏡の研究」『MUSEUM』370、東京国立博物館、4 - 12 頁。

馬淵久夫・平尾良光 1983 「鉛同位体比法による漢式鏡の研究(二)」『MUSEUM』382、東京国立博物館、16 - 30 頁。

馬淵久夫 1985 「島根県下出土青銅器の原料産地推定」『月刊文化財』261、文化財保護委員会、38 - 41 頁。

馬淵久夫・平尾良光 1990 「福岡県出土青銅器の鉛同位体比」『考古学雑誌』75 - 4、1 - 20 頁。

馬淵久夫・平尾良光 1996 「弥生・古墳時代仿製鏡の鉛同位体比の研究」『平成五・六・七年度科学研究補助金一般研究C時限報告書』。

斉藤 努 2006 『東アジア地域における青銅器文化の移入と変容および流通に関する多角的比較研究』平成16年度科研費研究。

平尾良光他 1996b 「古代日本の青銅器の鉛同位体比」『古代東アジアの青銅器鑄造に関する研究』平成五～七年度科研補助総合研究A。

平尾良光(代表) 1998 『弥生時代青銅器の産地推定』平成八～九年度文部省科学研究費補助金・基礎報告C(2)。

平尾良光編 1999 「岡山赤磐郡斎富遺跡から出土した珠文鏡」『古代青銅の流通と鑄造』株式会社鶴山堂、108 - 114 頁。

平尾良光 2004 『古墳時代青銅器の自然科学的研究』科学研究費補助金研究成果報告書 2002-2003。

Y. Hirao *et al* 2006 , *Chemical of Cultural Objects and Their Technique*, Proc. 28th Intl. symp. on the consevation and Restoration.

平尾良光・鈴木浩子 2003 「佐賀県から出土した弥生時代青銅器遺物についての自然科学的研究」『柚比遺跡群4』分析編、佐賀県教育委員会、1 - 27 頁。

淀川奈緒子・渡辺智恵美・平尾良光・谷光雅治 2008 「群馬県成塚向山1号墳から出土した銅鏃と仿製重圏文鏡の自然科学的調査」『成塚向山古墳群』財団法人埋蔵文化財調査事業団調査報告書第426集、財団法人埋蔵文化財調査事業団。

魯禛玟・平尾良光 2010 「鉛同位体法による銅鏡の産地推定」『勝坂有鹿谷祭祀遺跡資料報告書』相模原市史調査報告書6、相模原市、47 - 55 頁。

第9章 結論

第1節 小型仿製鏡についての総説

まず、本書で行ってきた検討結果とその内容について要約することとする。

第1章では仿製鏡の研究史をまとめ、小型仿製鏡の研究を整理し、本書の研究方法の提示を行った。

第2章では、弥生時代後期から古墳時代後期にみられる小型仿製鏡である素文鏡の動向について検討を行った。鼻鈕をもつ素文鏡と円鈕をもつ素文鏡とは、盛行する時期や出土傾向に相違があることを明らかにした。

円鈕をもつ素文鏡は重圏文鏡の流れをくみ、古墳時代前期を中心に盛行する鏡である。素文鏡は鈕の形状に関わらず、面径3～5cmと小型であり、素文鏡の面径は大和王権から規制を受けていたと結論付けた。地方ごとの生産は考え難く、畿内地方で生産された可能性を指摘した。逆説的に述べると、地方生産であるのならば、大型の素文鏡が出現していてもおかしくはない。東京都伊興遺跡、大阪府久宝寺遺跡、香川県居石遺跡から出土した素文鏡を比較すると、面径、重量、鈕の形状、鏡体厚にあまり変わりがないことがわかり、このことから同時期に配布されたと考えられる。さらに分布状況からみると、近畿地方を中心とした分布形態を呈していることから、古墳時代前期に素文鏡は大和王権から配布される鏡として製作されたと結論付ける。小型鏡の中でも面径は最も小さく、再下位の鏡として位置付けられたと考える。それを示す根拠としては、一重の圏線のみをもつ重圏文鏡があげることができる。素文鏡と断面形態が類似しているにもかかわらず、その面径はわずかに大きく作られている。具体的に述べると、1重の圏線を加えた文様構成をもつ重圏文鏡と、素文鏡とを比べると、素文鏡は面径3cm以下のものが11面あり、一方で1重の圏線をもつ重圏文鏡は面径3cm以下のものが1面のみである。この点からみると、素文鏡と一重の圏線をもつ重圏文鏡との違いは、圏線が一重巡るかどうかというわずかなものであるが、文様による格差付けがなされていたものと考えられる。

一方で、鼻鈕の素文鏡の大部分は、集落・祭祀遺跡で使用されていることに特徴がある。この鼻鈕の素文鏡は福岡県沖ノ島遺跡・奈良県山ノ神遺跡などといった大和王権と強い関係性をもつ祭祀遺跡からの出土が特徴的であり、鼻鈕の素文鏡は、畿内王権の下で生産されたといえる。沖ノ島遺跡は朝鮮半島へ向かう際に航海安全を行った場所であり、畿内王権の力がおよんでいた場所である。又、淡路島の木戸原遺跡は瀬戸内海ルート上にあり、大陸へ行く際の経由航路である。大和王権の玄関口であったことを考えると、非常に重要な場所であったといえる。さらに、和歌山県大谷古墳は瀬戸内海の東端に位置しており、紀ノ川河口の遺跡である。紀ノ川は和歌山から奈良につながる重要な河川で、大和王権下の水運を担ったと考える。大和王権は重要な拠点を押さえていたことを、素文鏡の出土遺跡からうかがうことができる。素文鏡は当時の歴史を物語る重要な歴史的資料の一つといえよう。東日本においても、海上ルートを掌握していた痕跡が、静岡県洗田遺跡、茨城県釜付遺跡から鼻鈕の素文鏡が出土することからもうかがえるのである。

第3章では重圏文鏡の出現と拡散を論じた。古墳時代初頭の大和王権の統一と共に、広域的に分布する古墳時代の威信財であったことを述べた。その理由として、遠距離間で類似する代表的な資料を3面提示した。断面形態・鏡体厚・面径における鈕の比率・鈕孔形態が酷似しており、同一の場所で生産されたことをうかがわせる最も重要な資料といえる。この3面中1面は近畿地方からの出土であることは、大和王権下における近畿地方での生産を推測できる資料といえる。重圏文鏡は近畿で生産された弥生時代小型仿製鏡の生産技術を引き継いでいることも、重圏文鏡が近畿地方で生産されたと結論付ける要因の一つである。

弥生時代小型仿製鏡と古墳時代小型仿製鏡とは生産体制が全く異なるものであったといえる。弥生時代小型仿製鏡は九州系と近畿系で鈕孔形態が明らかに異なっており（田尻 2005・2012）、各地域で異なる文様のものが出土する。この点においても、九州から関東まで統一された文様となる重圏文鏡とは性格が異なっている。

重圏文鏡は日本列島の各地域で出土例があり、古墳時代前期の遺構から出土

し始める状況を加味すると、古墳時代の初期に権威を付与された鏡として、大和王権下での生産・配布が始まっている。重圏文鏡は古墳時代の開始と共に、大和王権の階層システム作りの一端を担うものであったことは明らかである。分布状況をみると、茨城県から宮崎県までみられ、特に、東京湾沿岸、利根川水系、駿河湾、瀬戸内海沿岸、日本海側の鳥取県、九州地方北部において分布が密であり、このような場所は大和王権にとって古墳時代初頭の重要な拠点となる地域であったことがうかがえる。

第4章では珠文鏡の出現について論じた。筆者は珠文の形態からみて、乳状突起をもつ近畿系弥生時代小型仿製鏡に祖形をもとめた。珠文鏡の編年をみると、中期以降にも新たな文様が次々に生産され続けることを確認している。

前期の珠文鏡は重圏文鏡の分布状況と類似しており、中期になると、それまで分布が密であった地域から、拡大の傾向を示し、その分布は九州地方南部や朝鮮半島にまで及んでいる。また、遠距離間で類似する珠文鏡みられることを確認している。このことから、珠文鏡も重圏文鏡と同様に、近畿地方で製作され、大和王権によって配布されたと結論付ける。珠文鏡の検討においても、小型仿製鏡は大和王権下における権力構造を反映するものであり続けたといえる。

第5章では内行花文鏡の発生と展開についてまとめた。古墳時代の小型内行花文鏡は弥生時代小型仿製鏡と中国鏡の内行花文鏡の影響を受けて出現するものがみられると指摘した。前Ⅲ期以降に増加する小型仿製内行花文鏡は、6花文が多いことから、日本列島独自の文様をもつ鏡であり、そのほかにも様々な花文数の内行花文鏡を生産していることも確認した。また、内行花文鏡は前Ⅲ期に大型から小型まで出揃い、近畿地方を中心として大型のものが出土する(下垣 2011)。他の地域においても前方後円墳からの出土例が多くみられることを考慮すると、大和王権との強い結びつきをうかがうことができる鏡である。

また、前期の大型と小型の内行花文鏡の単位文様を比較すると、小型鏡の単位文様には、大型鏡よりも中国鏡の四葉座内行花文鏡に近いものを指摘することができる。この単位文様を花文間に配していることから、筆者は小型仿製鏡が大型仿製鏡に先行する可能性を指摘した。

第6章では青銅鏡を模倣して出現したと考えられる石製模造鏡について検討

している。石製模造鏡について、筆者は古墳時代前期後半において小型仿製鏡の影響によって出現していることを述べた。

古墳時代中期になると、東山道の終着点と考えられている山形県八幡山遺跡では石製模造鏡を用いた祭祀が行われており、これらの遺跡の祭りが畿内から来た人々によって行われていた祭りであり、石製模造鏡は大和王権の東国進出に関連するものといえそうである。

東北地方での石製模造鏡の流通と時を同じくして、韓半島の竹幕洞遺跡でも石製模造鏡2面が出土する。この遺跡の鏡は大型1面・小型1面がある。同時期の東限である八幡山遺跡と、韓半島の竹幕洞遺跡に石製模造鏡がもたらされている。さらに、竹幕洞遺跡の南では七岩里古墳などの前方後円墳が築造されている。一方で八幡山遺跡の南でも坊主久保1号墳という前方後円墳が確認されている。このことも、石製模造鏡が大和王権と何らかの関係があることを物語る遺物といえる。

第7章では小型仿製鏡を模倣して出現したと考えられる土製模造鏡について検討している。土製模造鏡は小型仿製鏡や石製模造鏡と異なり、唯一権威と関わりのない資料といえる。土製模造鏡の出土範囲は今回取り扱った重圏文鏡や珠文鏡の分布範囲より狭いことを確認した。今まで青銅鏡と土製模造鏡の関係について論じられることは少なかったが、筆者は小型仿製鏡は土製模造鏡に少なからず影響を与えていたと論じた。土製模造鏡は古墳からの出土例は溝や墳頂に限られており、副葬品ではないことから政治的な意味合いはないと結論付けた。

第8章では小型仿製鏡の鈕孔および断面形態の分析、鉛同位体比の分析から生産技術の検討を行った。その結果、重圏文鏡は移行期の鏡と結論付けることができた。珠文鏡・内行花文鏡は基本的には古墳時代に流通する華南産の青銅を使用しているが、珠文鏡の一部は華北産と華南産の鉛を混ぜ合わせて使用するなど、鏡式によって使用する青銅に違いがあることを指摘した。当時の小型仿製鏡生産体制の一端を明らかにできたと考える。

第2節 小型仿製鏡および模造鏡の出土遺跡

重圏文鏡・珠文鏡・内行花文鏡の政治的役割の序列を調べるために、出土遺跡について比較する。古墳の墳形についてまず述べることにする。第5章でも論じたように、内行花文鏡が出土する古墳の墳形は、前期においては前方後円墳からの出土数が圧倒的に多い。このことから内行花文鏡は他の小型仿製鏡と比べ政治的な役割が強い鏡であるといえよう。小型・中型内行花文鏡に限ってみても、前方後円墳からの出土例が際立っており、小型仿製鏡の中では最も権威が高い鏡とされ、格付けが上位にあったことが分かる。

次に、珠文鏡をみると、第4章で述べたように前期においては、おおよそ3分の1の珠文鏡が前方後円墳からの出土である。重圏文鏡や内行花文鏡の生産体制の終了と共に、多様な文様構成をもつ珠文鏡が生産され始める。しかしながら、珠文鏡が副葬された古墳の墳形をみると、中期になると前方後円墳からの出土例が非常に少なくなっていることに気付く。それに反して円墳と方墳への副葬数は増加している。後期も中期と同様の傾向を示す。

重圏文鏡は第3章で述べたように、前期の珠文鏡の出土傾向と比べ差がないことから、重圏文鏡の役割は珠文鏡と同等であり、珠文鏡よりも先行し出現を

みる重圏文鏡は、前期に生産を終え、その役割は次第に珠文鏡へと移行したものと考えられる。

素文鏡は弥生時代後期末から出現しており、古墳時代前期は前方後円墳から2面、円墳から1面出土している。前期においては、前方後円墳から出土しており、この時期は素文鏡にも政治的な意味合いがあったことが分かる。

前期において、珠文鏡・重圏

第27表 鏡式ごとの遺跡の比較

前I期～前VI期				
	素文鏡	重圏文鏡	内行花文鏡	珠文鏡
前方後円墳	2	6	44	11
前方後方墳			2	
円墳	1	5	10	11
方墳		7	23	13
祭祀・集落遺跡	11	37	4	14
中I期～中IV期				
	素文鏡	重圏文鏡	内行花文鏡	珠文鏡
前方後円墳		2	7	6
前方後方墳			1	
円墳	1	2	1	20
方墳		2	18	6
祭祀・集落遺跡	8	2	4	8
後I期～後IV期				
	素文鏡	重圏文鏡	内行花文鏡	珠文鏡
前方後円墳	1		6	6
前方後方墳				
円墳		1	3	20
方墳	1		1	5
祭祀・集落遺跡	16	2		3

文鏡・素文鏡はすべて前方後円墳から出土することを鑑みると、小型仿製鏡は権威的な意味合いをもつものとして大型鏡の下位に位置付けられたものであったといえよう。

石製模造鏡は、東国進出との関係の強い遺物である。古墳から出土する割合は高く、前方後円墳からも出土することから、これも政治的な役割をもって生産された器物であったといえる。

しかし、土製模造鏡は副葬品としての出土はみられず、墳丘上や周溝から出土するのみである。これは、生活の中に組み込まれた簡易的な遺物であったことが分かる。弥生時代から長期にわたって8世紀まで使われており、日常的な祭祀用品であったと考える。

次に集落・祭祀遺跡についてみることにする。素文鏡は弥生時代後期末から製作されており、円鈕よりも鼻鈕が先行するものである。前期は古墳に副葬されているのは円鈕のものであり、明らかに鼻鈕の素文鏡との使い分けがある。祭祀の内容をみると、円鈕をもつ素文鏡は集落内の住居からの出土が半数近くみられる。鼻鈕は前V期以降に盛んに製作され、祭祀遺跡で使用されていることに特徴がある。この鼻鈕の素文鏡は福岡県沖ノ島遺跡・奈良県山ノ神遺跡など大和王権と関係性のある祭祀遺跡からの出土が特徴的であり、特に海沿いの祭祀遺跡からの出土が目立つことに気が付く。鼻鈕をもつ素文鏡は、航海上ルート、いわゆる大和王権下における海の祭祀を示す遺物であり、大和王権が瀬戸内海航路、日本海航路、太平洋側の航路のすべてを掌握していたことを示す証拠になりえる。出土する遺跡をみると住居からの出土は後期の例は少ない。全時期を通じて集落の住居内祭祀で用いるものではない。

内行花文鏡は約3%が集落・祭祀出土例であり、全時期を通じて基本的には祭祀に使用する鏡ではないことが分かった。集落・祭祀遺跡出土の鏡の割合を示すと、素文鏡は最も高く、重圏文鏡・珠文鏡・内行花文鏡の順で少なくなる。小型の素文鏡がより祭祀性をもって生産されているといえる。

なお、古墳時代の祭祀遺跡を代表とする福岡県沖ノ島遺跡では、素文鏡・珠文鏡・内行花文鏡が出土しており、重圏文鏡は出土していない。これは、重圏文鏡の盛行した時期に、仿製鏡を用いた祭祀が沖ノ島遺跡では行われていない

ことによるものと考える。

珠文鏡が祭祀に使用される経緯を述べると、重圏文鏡が生産を終えた古墳時代前期になると、集落・祭祀遺跡で珠文鏡が使用されるようになる。面径は8 cm以下のものが使用されている。これは重圏文鏡が祭祀遺跡で使用された面径とほぼ同じであることが判明した。重圏文鏡の生産が停止するとともに、祭祀の鏡は珠文鏡へと移行し、新たな珠文鏡も出現する。これは珠文鏡に重圏文鏡の役割が移行したことが明確にみてとれる現象である。

これまで、小型の素文鏡・櫛歯文鏡・重圏文鏡・珠文鏡は祭祀具という意見や、政治的意味あいをもつという意見があり、小型仿製鏡にはどの程度の政治性をもったのかという点については決着がついていなかった。

筆者は、小型仿製鏡である素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡については、前方後円墳から出土する事例がみられること、さらに生産地も近畿地方で行われたと述べており、大型鏡と同様に政治的な意味合いをもち配布が行われたと指摘した。鼻鈕の素文鏡も、大和王権の航路と関係する祭祀場にて使用されたことを考慮すると、政治的な意味合いを大いに兼ね備えていた祭祀遺物と考える。

小型の仿製内行花文鏡は、前方後円墳からの出土数が多いことや、大型の前方後円墳からも出土することを考慮すると、小型ではあるが強い政治的な意味合いをもち、階層の上位に位置する鏡であったと結論づけたい。鏡の文様は大和王権の階層づけや祭祀の内容を示すものとしての意味が込められており、それぞれの役割を表すものであったと考える。日本列島において小型仿製鏡の文様に全国的な統一性がみられることもこれを証明するものといえよう。

土製模造鏡と素文鏡の出現と終焉の時期をみると、共に出現は弥生時代後期末で、終焉は奈良時代である。土製模造鏡は主に祭祀性の極めて強い素文鏡を模倣した祭祀用品である。土製模造鏡を用いた祭祀の事例は、住居・溝・水・川・海・製塩・水田・竈・古墳の墳丘上などで、様々な祭祀を行うものとして使用されたが、古墳に副葬する役割はなかった。

第3節 小型仿製鏡と模造鏡

ここでは各仿製鏡と模造鏡の関係について時代ごとにまとめていきたい。ま

ず、弥生時代後期後半は、大和王権が成立する以前であり、この時期には九州系と近畿系の小型仿製鏡が生産されている。両地域では文様や断面形態に違いがあることから、確実に異なる仿製鏡の生産体制が存在している（高倉 1995・田尻 2012 他）。

最も古い重圏文鏡は、第3章でも述べたように大阪府鷹塚遺跡例で、この鏡は近畿系の弥生時代小型仿製鏡に類似しており、この地方において製作されたと考えられる。同時に近畿地方では弥生時代後期後半の鋸歯文鏡である兵庫県長田条里遺跡出土鋸歯文鏡（第22図4）・大阪府利倉南遺跡（第22図5）出土鋸歯文鏡・内行花文鏡なども製作されていた。鼻鈕の素文鏡2A類も弥生時代後期末のものが確認されている。

古墳時代初頭（前Ⅰ期～前Ⅱ期）は大和王権が成立し、この時期には重圏文鏡が日本列島の広範囲に拡散している。重圏文鏡は集落・祭祀遺跡からの出土例も多いが、前方後円墳からの出土例も多く、大和王権によって各地に政治的に配布されたものとみてよいだろう。重圏文鏡は近畿地方に多く分布し、すべての分類が近畿地方から出土していることから、近畿地方で生産されたことを示す裏付けになると考える。重圏文鏡は、日本列島で最初に広範囲に拡散する仿製鏡であり、社会的階層差を表す道具でもあったと考える。この時期はその他の小型仿製鏡である珠文鏡や内行花文鏡は本格的に生産されていない。前Ⅲ期になると重圏文鏡が衰退し、珠文鏡や小型や大型の内行花文鏡の生産が本格化し始める。

古墳時代前期後半（前Ⅴ期～前Ⅶ期）には鳥取県において鼻鈕をもつ素文鏡1A類の出土がみられる。この鼻鈕の素文鏡は、大和王権下において海の祭祀で使用された遺物であり、日本海ルートにおいて祭祀が行われたことを示す資料である。素文鏡は引き続き鼻鈕の1A類と円鈕の2A類が確認できる。同時期に素文鏡に影響を受けた石製模造鏡1類がはじめて出現し、集落遺跡にて使用されている。

重圏文鏡も引き続き2類～7類がみられる。また、この時期には鋸歯文帯をもつ珠文鏡が新たにみられるようになる。

古墳時代中期（中Ⅰ期～中Ⅳ期）には引き続き素文鏡1A類・2A類が確認

できる。中Ⅲ期～中Ⅳ期に素文鏡は縁をもつ1C類・外区をもつ2B類がみられる。重圏文鏡はこの時期から次第に減少していく。珠文鏡は中Ⅰ期～中Ⅱ期に複線波文帯をもつAC-B類・AC-D類が新たに出現する。中Ⅲ期～中Ⅳ期にはA-A3類・ACA-D類・B-A類・D-B2類・D-D類の文様構成が出現しており、珠文鏡は次々に新たな文様が創出され、盛んに製作されている。また中期に出現するA-B類の珠文3列のものやAC-B類、AC-D類の分布をみると、前Ⅶ期までに出土例の多かった瀬戸内海沿岸や東京湾沿岸で出土数が減少し、それまでに出土していない朝鮮半島や九州南部からも出土するようになる。このことは広範囲に大和王権の支配力が及んでいたことの証といえよう。

中期の石製模造鏡は分類したすべての類別がみられ、出土量が増加する。石製模造鏡3類は方形の鈕をもつものであり、鼻鈕の素文鏡もこの時期に各地域の祭祀遺跡で使用されていることから、石製模造鏡は素文鏡の形状を模倣していると考えられる。中Ⅲ期から中Ⅳ期にかけて中部地方から東北地方において石製模造鏡の出土量が増加し、前方後円墳をはじめとする古墳からも出土するようになる。石製模造品については、大和王権下の東国進出との関係性が提示されており、筆者も石製模造品である石製模造鏡は、東山道ルートに位置するものが多いことを考慮すると、大和王権下の東国進出に関連する遺物であり、近畿地方への往来が可能になった結果と考えられる。朝鮮半島の同時期の遺跡として竹幕洞遺跡があげられる。この遺跡の石製模造品の組成は中部地方・関東地方のものと類似している。5世紀後半から6世紀前半において竹幕洞遺跡や栄山江流域は百済の領域であり、前方後円墳が築造されるなど、倭との往来があった痕跡がみられる。竹幕洞遺跡にて石製模造鏡を使用した大きな理由として、東国経営と同様な意味合いをもって大和王権によって使用されたのではないかと筆者は推測する。竹幕洞遺跡出土の石製模造品の石材について、篠原は近畿産のものがあることを指摘しており（篠原2012）、この結果は大和王権と竹幕洞遺跡との積極的な関与を示唆するものである。中国製鉄鏡の出土例もあるが、これは伽耶系の大甕からの出土であり、年代は5世紀後半から6世紀前半であるとされており、大和王権が竹幕洞遺跡にて祭祀を行った時期と重なる。伽耶

と倭による共同祭祀の可能性もあるとしておく。

土製模造鏡は九州地方での出土量が増える。この時期は古墳の周溝や墳丘上からの出土例がみられるものの、基本的には集落・祭祀遺跡にて用いられたものである。分布状況を見ると、小型仿製鏡が出土する地域よりも狭い範囲であることを考えると、土製模造鏡は小型仿製鏡や石製模造鏡のように政治的な役割はもたず、容易に製作できることから地域の祭祀で使用されたと考える。

古墳時代後期（後Ⅰ期～後Ⅳ期）に生産された小型仿製鏡には、鼻鈕の素文鏡がある。珠文鏡では新たな文様構成のものが製作されるが、後Ⅲ期～後Ⅳ期にはみられなくなる。内行花文鏡は中期に生産が途絶え、後期に再び生産が始まるものの、その数は全国的にみても非常に少ない。重圏文鏡は出土遺跡の年代から、古墳時代前期には生産が収束するものとする。後Ⅳ期に出土する山梨県平林2号墳例があるが、この事例のみであり、伝世したものであったと推測する。石製模造鏡も後Ⅱ期以降はみられなくなる。土製模造鏡は引き続き盛んに作られており、関東地方や九州地方では後Ⅳ期まで使用され、7世紀に入っても山口県や広島県の一部のみでは使用され続ける。このうち、山口県国秀遺跡では8世紀前半まで使用されたことが確認されている。

素文鏡の鼻鈕について詳細に述べると1A類・1C類のみは古墳時代後期にも散見される。奈良時代においてもこの鼻鈕を受け継いで生産されている。ただし、古墳時代と奈良時代の素文鏡の面径を比較すると、古墳時代のものが2.6～3.1cmと小型であるのに対して、奈良時代のものは3.5～4.6cmであり、やや大型化する傾向がみられる。鼻鈕をもつ代表的な遺跡は福岡県沖ノ島遺跡、奈良県山ノ神遺跡がある。中期から後期においては奈良県曾我遺跡、茨城県釜付遺跡、群馬県久保遺跡で出土している。この状況をみると、祭祀遺跡に用いられる鏡として使用されていたことがわかる。小野本は素文鏡が古墳時代の「伝統的祭祀」の象徴であり、律令的祭祀に引き継がれる祭祀具であったと指摘している。奈良時代における素文鏡は、奈良県平城京周辺と福岡県宝満山・太宰府を除くと、すべて畿内以東に集中しており、石川県寺家遺跡では航海の安全祈願が行われていたとされる。福井県松原遺跡も松原客館の比定地とされ、これらの遺跡は律令国家との関わりが深い遺跡であったとする（小嶋1988・小

野本 2013)。このように奈良時代においても、素文鏡が重要な祭祀遺跡で使用され続けた理由については、文様をもたない鏡であることから、様々な意味合いをもたせることができた鏡であったためと推測する。古墳時代における小型仿製鏡は文様の構成や面径の大小によって階層差があること、また使用方法に違いがあり、小型仿製鏡の文様にもそれぞれ固有の意味をもつものであったと筆者は考える。

第4節 小型仿製鏡の画期

小型仿製鏡からみた古墳時代の画期をまとめている（第229図）。第1期～第4期にまで分けている。

第1期 出現期

近畿地方において大和王権が成立し、近畿系の弥生時代小型仿製鏡の流れを組むものが、近畿地方を中心として小型仿製鏡が生産が開始される段階である。弥生時代小型仿製鏡から流れを組む重圏文鏡や内行花文鏡等の出土が際立っている。これらの鏡の鈕孔形態は円形・半円形を呈しており、この点においても弥生時代小型仿製鏡と類似している。

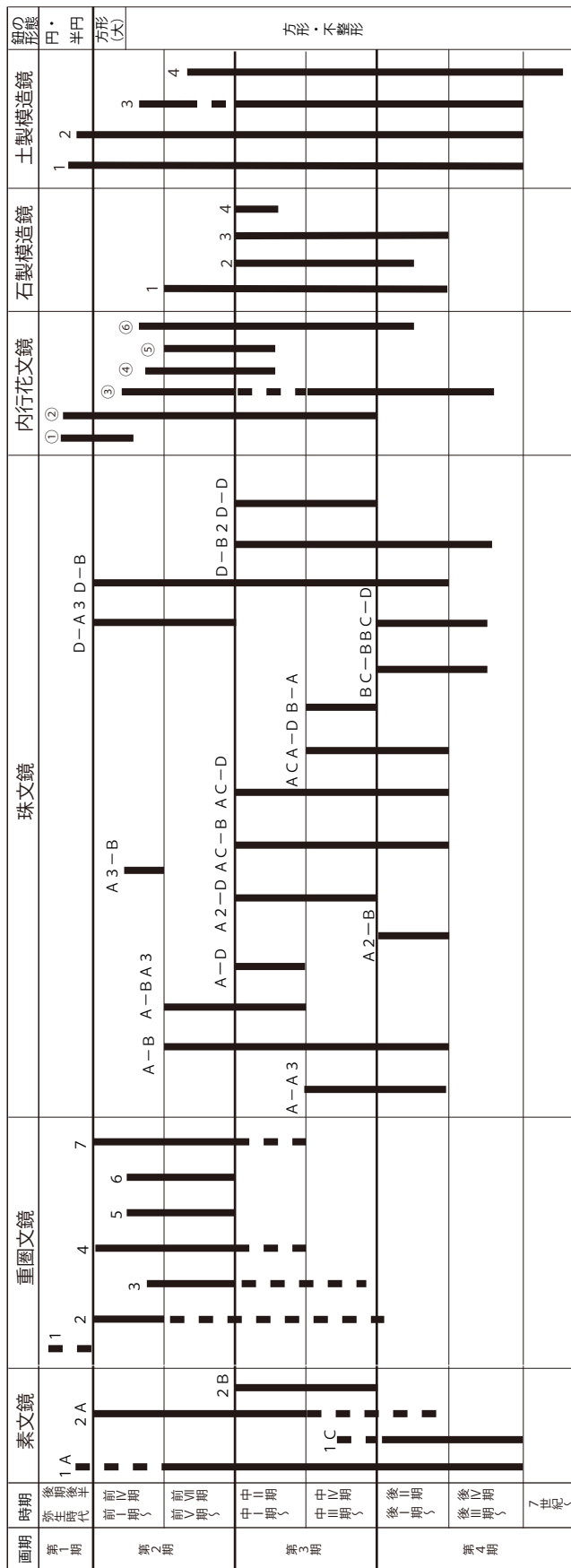
第2期 普及期

大和王権によって青銅鏡が日本列島各地に配布され、中国鏡や仿製鏡を用いることで身分の格付けを行った段階である。仿製鏡は大型のものも生産され、鏡の面径の大小が重視された段階といえる。

第3期 拡散期

小型仿製鏡がより広範囲に大和王権によって配布されるようになり、珠文鏡は今までに大和王権との関係が密であった近畿地方や瀬戸内海からの出土量が減るとともに、その周辺地域や韓半島南部に数多く配布されるようになる。第3期になると大型仿製鏡はみられなくなり、小型仿製鏡が仿製鏡の中心の位置を占める。大和王権が周辺地域との結びつきをより強固なものにし、より広範囲の勢力を取り込むために、小型仿製鏡を利用した段階といえる。

第4期 衰退期



第229図 小型仿製鏡と模造鏡の年代

大和王権による小型仿製鏡に求めた政治的役割が消失していく段階である。小型仿製鏡のもつ政治的役割は薄れ始め、新たな文様の出現は減少の傾向を示す。祭祀的な役割の強い素文鏡は古代まで祭祀具として生産され続けるが、素文鏡以外の仿製鏡は終焉をむかえることとなる。

第5節 小型仿製鏡からみた古墳時代社会

古墳時代小型仿製鏡とは何か、という疑問から本研究が始まった。弥生時代後期後半から古墳時代後期の仿製鏡を中心に検討したわけであるが、この時代には中国製の三角縁神獣鏡・画文帯神獣鏡・斜縁神獣鏡・斜縁獣帯鏡なども存在していた。「魏志倭人伝」には卑弥呼が景初三年（239）年に帯方郡に遣使し、銅鏡100枚を下賜されたという記事がみられる。この時代に古墳時代の小型仿製鏡も出現をみる。仿製鏡は大小の作り分けがなされ、大型のものでは40cm近く、小さなものでは2cm以下という極端な面径差がみられるなど、古墳時代には、仿製鏡に面径・文様のバラエティを必要としていた特殊な社会であったことが分かる。

古代の中国では道教の道士が辟邪のために鏡を使用すると建武元年（317）年の『抱朴子』に記されており（石島訳註1942）、現代においても中国をはじめ東南アジアの各地では、民間信仰として幽霊や邪悪なものを家に入れないうためにガラス鏡や銅鏡を置く風習がみられる。日本の古墳時代の銅鏡にも辟邪の役割も存在したと思われるが、面径のばらつきが中国鏡に比べ大きいことを考えると、その役割だけでは説明ができない。

古墳時代初頭になると前方後円墳が各地で作られはじめ、重圏文鏡はまさにそのような変革期に出現した銅鏡であった。この鏡は日本列島の広い範囲に分布しており、製作方法や鈕孔形態は全国的に共通する特徴をもっている。重圏文鏡は大和王権と各地の結びつきを示す威信財であり、日本列島各地に拡散した最初の小型仿製鏡といえよう。重圏文鏡が出現したのちには珠文鏡・内行花文鏡などの小型仿製鏡が出現する。これらの鏡も日本列島各地で共通する文様をもつため、近畿地方で製作されたものが拡散しているものとする。古墳時

代になると大型仿製鏡や中国鏡だけではなく、小型仿製鏡においても身分や出自を示すような役割を担って創出されたものと考えられ、古墳時代の小型仿製鏡は面径や文様にも意味があったと推測する。

古墳時代社会において小型仿製鏡は鈕孔や鏡体厚に共通性が高いことから、近畿地方の大和王権によって厳しく管理された中で生産されたものであり、地方で生産され、その地方で消費されるようなものではなかったと推測する。小型仿製鏡の生産については、鉛同位体比の分析結果から弥生時代に使用された銅鐸を鋳つぶして再利用したものも一定数存在すると考えられる。このように古墳時代になると弥生時代において代表的な青銅器であった銅鐸による祭祀が終焉を迎え、新たに銅鏡による祭祀が行われた社会であったといえよう。

(引用文献)

石島快隆訳註 1942 『抱朴子』岩波書店。

小野本 敦 2013 「素文鏡考—二宮神社境内出土鏡をめぐって—」『技術と交流の考古学』(株)同成社、223—234頁。

小嶋芳孝編 1988 『寺家遺跡発掘調査報告Ⅱ』石川県立埋蔵文化財センター。

篠原祐一 2012 「五世紀における石製祭具と沖ノ島の石材」『宗像・沖ノ島と関連遺産群』研究報告Ⅰ、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議、329—367頁。

下垣仁志 2011 『古墳時代の王権構造』吉川弘文館。

田尻義了 2005 「近畿における弥生時代小形仿製鏡の生産」『東アジアと日本—交流と変容—』第2号、九州大学大学院比較社会文化研究院、29—45頁。

田尻義了 2012 『弥生時代の青銅器生産体制』(株)九州大学出版会。

おわりに

本論文は、古墳時代小型仿製鏡である素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡・内行花文鏡を比較検討し、模造鏡である土製模造鏡・石製模造鏡と各小型仿製鏡を比較検討することで各鏡式の小型仿製鏡の特徴を明らかにしてきた。本論文作成においては、仿製鏡約 200 面を実見した上でまとめたものである。いまだ実見できていないものもあるが、今後発掘される仿製鏡についても観察する所存である。

研究史では小型仿製鏡の研究の問題点を示した。本論文における研究方法を提示し、第 2～6 章では素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡・内行花文鏡の分類・編年及び祖形の検討研究を行い、どのような意義があったのかを述べた。第 7 章と第 8 章では石製模造鏡と土製模造鏡について論じ、それぞれの性格の違いや、小型仿製鏡が模造鏡に与えた影響について論じた。第 8 章では小型仿製鏡の生産技術について論じ、小型仿製鏡が近畿地方を中心として生産されたと指摘した。第 9 章では各鏡式の関係や小型仿製鏡の画期について論じ、小型仿製鏡の出現から衰退までを指摘した。

今後の課題をいくつかあげておきたい。今回取り扱ったのは主に小型仿製鏡であり、小型の鏡式のものは、そのほかに捩文鏡・乳文鏡などがあり、今後はこれらの鏡との比較検討を行うことで、より各鏡式における階層差や意義が明らかにできると考える。

また、弥生時代後期末から古墳時代には中国鏡も使用されており、中国鏡を所有できた人物との階層差についても大いに明らかにすべき点である。

図表出典

第1図～第3図 筆者作成。

第4図 6は三宅編1994より再トレース。ほかは筆者実測。

第5図 2は内山・志賀編2008より再トレース。ほかは筆者実測。

第6図～第16図 筆者作成。

第17図 2は小林1979より転載。6は岡部編2008より再トレース。7は正岡1985より転載および再トレース。8は浪江・藤原・三浦・加藤・林1993より再トレース。ほかは筆者実測。

第18図 1は筆者実測。2は富田・亥野・勇・大路編1981より再トレース。3は森本編1929より再トレース。4は児玉編1984より再トレース。5は小林1979より転載。

第18図 11は亀田編1982より再トレース。ほかは筆者作成。

第19図～第21図 筆者作成。

第22図 2は岡田編1981より。ほかは筆者作成。

第23図 1は野永編2005より再トレース。6は内本・長嶺編1998より再トレース。7は宮崎編1990より再トレース。ほかは筆者作成。

第24図 筆者作成。

第25図 2は善入編2012より再トレース。ほかは筆者作成。

第26図 筆者撮影。

第27図 1は野田1983より再トレース。2の断面は福田編1990より転載・断面図は筆者作成。ほかは筆者実測。

第28図～第32図 筆者作成。

第33図～第34図 筆者撮影。

第35～第36図 筆者作成。

第37図～第46図 筆者撮影。

第47図～第48図 筆者作成。

第49図 1は内山編2004を再トレース。2～4は筆者作成。5の拓本は高畑・福田1977より、断面は筆者作成。6の拓本は井上編1990より、断面は筆者作成。

第50図 1は片岡他1985を再トレース。2の拓本は大場他1975より、断面は大場他1975を

- 再トレース。3は岡山県立博物館 1974 より。4は佐賀県立博物館 1979 より。5の拓本は松坂市史編さん委員会 1978、断面は松坂市史編さん委員会 1978 を再トレース。6は筆者作成。
- 第51図 1は筆者作成。2は大久保・山越他 1976 より。3は筆者作成。4は拓本は李 2007 より、断面は李 2007 を再トレース。5の拓本は佐田・伊崎 1983 より、断面は佐田・伊崎 1983 より再トレース。6は筆者作成。
- 第52図 1は櫃本 2002 より。2は東京国立博物館 1983 より。3は中村 1993 より。4の拓本は宗像神社復興期成会編 1958 より。断面は宗像神社復興期成会編 1958 より再トレース。5・6は筆者作成。
- 第53図 1は鈴木編 2001 より。2は筆者作成。3の拓本は佐々木・亀井 1972 より。断面は佐々木・亀井 1972 を再トレース。4の平面図は筆者作成、断面は柳田他 1982 より再トレース。5の拓本は小野編 1998 より、断面は筆者作成。6の拓本は増山 1990 より、断面は筆者作成。7. 筆者作成。
- 第54図～第60図 筆者作成。
- 第61図 1の拓本は(社)石川県埋蔵文化財保存協会 1998 より、断面は筆者作成。2の拓本は本間他 1997 より、断面は筆者作成。3は筆者作成。
- 第62図 筆者撮影。
- 第63図 1は河野 1915 より。2の拓本は平井 1987 より、断面は平井 1987 を再トレース。3は久見 1981 より。4は金三津・新宅編 2008 を再トレース。5の拓本は倉田 1998 より、断面は倉田 1998 を再トレース。6は古瀬編 2010 を再トレース。
- 第64図 1の拓本は岩崎他 1998 より。断面は筆者作成。2の拓本は田形 1991 より、断面は筆者作成。3は小西編 2004 を再トレース。4は田中 1979 より。5の拓本は乙益 1983 より、断面は乙益 1983 を再トレース。6は久美浜町教育委員会 1998 を再トレース。
- 第65図 3は浜石編 1982 より。他は筆者撮影。
- 第66図 1は財団法人泉屋博古館編 2004 より。他は筆者撮影。
- 第67図～第71図 筆者作成。
- 第72図～第86図 筆者撮影。
- 第87図～第91図 筆者作成。
- 第88図 下垣 2011 を改変し作成。
- 第89図～第91図 筆者作成。

- 第 92 図 ①岩野編 1976 より。②河上他 1986 より。
- 第 93 図 ①扇塚古墳発掘調査団編 2001 より。②は賀川 1971 より。
- 第 94 図 ①奈良県立橿原考古学研究所 2004 より。②は吉原市教育委員会編 1958 より。
- 第 95 図 筆者作成。
- 第 96 図～第 108 図 筆者写真撮影。
- 第 109 図 ①小郷 1992 より。②山本編 1978 より。③は大谷 2004 より。
- 第 110 図 ①金沢市埋蔵文化財センター編 2004 より。
- 第 111 図 ①富山県文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所編 2008 より。②櫃本 2002 より。
- 第 112 図 ①岩見 1975 より。②筆者撮影。
- 第 113 図 ①櫃本 2002 より。②桜井市文化財協会編 2008 より。
- 第 114 図 ①土居 1969 より。②森本 1929 より。
- 第 115 図 ①寺沢 1981 より。②焼津市歴史民俗資料館編 1986 より。
- 第 116 図 ①櫃本 2002 より。②湊 1990 より。
- 第 117 図 ①群馬県教育委員会・高崎市教育委員会編 1963 より。②保阪 1963 より。
- 第 118 図 ①森本 1929 より。
- 第 119 図 ①本村 1961 より。②森 1986 より。
- 第 120 図 ①斎木 1974 より。②保阪 1963 より。
- 第 121 図 ①網干 1974 より。②鈴木・山田 1980 より。
- 第 122 図 ①弘津 1928 より。②平井 1982 より。
- 第 123 図 ①原口・高木 1983 より。②小林 2010 より。
- 第 124 図 ①松本・岩崎 1983 より。②後藤 1925 より。
- 第 125 図 ①櫃本 2002 より。
- 第 126 図 ①渡辺 1983 より。②佐賀県立博物館 1979 より。
- 第 127 図 ①松村・高木 1983 より。
- 第 128 図 ①福井 1977 より。②岩見 1976 より。
- 第 129 図 ①小林 2010 より。②青山他 1981 より。
- 第 130 図 ①小林 2010 より。②梅原 1955 より。
- 第 131 図 ①鍛冶 1982 より。②梅原 1920 より。

- 第 132 図 ①今井 1984 より。②伊藤 1977 より。
- 第 133 図 ①松本・岩崎編 1983 より。②第 37 回山陰考古学研究集会 2009 より。
- 第 134 図 ①田代 1968 より。②保坂 1963 より。
- 第 135 図 ①佐々木 1961 より。
- 第 136 図 ①佐藤 1968 より。
- 第 137 図 ①瀬古 2004 より。②櫃本 2002 より。
- 第 138 図 ①飯塚 1994 より。②小野・中野・桑原・辻田 1981 より。
- 第 139 図 ①奈良県立橿原考古学研究所編 2004 より
- 第 140 図 ①ト部編 2008 より。
- 第 141 図 ①梅原・森本 1923 より。
- 第 142 図 ①都出・福永・杉井編 1996 より。
- 第 143 図 ①寺沢 1981 より。
- 第 144 図 ①大塚 1994 より。
- 第 145 図 ①原田 1961 より。②三宅 1985 より。
- 第 146 図 ①高槻市史編さん委員会 1973 より。②西川 1986 より。
- 第 147 図 ①乙益 1983 より。②吉原市教育委員会 1958 より。
- 第 148 図 ①田中 1979 より。②原田 1961 より。
- 第 149 図 ①奈良県立橿原考古学研究所編 2004 より。②小島 1968 より。
- 第 150 図 ①望月 1981 より。②志間 1954 より。
- 第 151 図 ①梅原 1921 より。
- 第 152 図 ①近藤 1987 より。②松本・岩崎 1983 より。
- 第 153 図 ①筆者撮影。
- 第 154 図 ①岩見編 1976 より。
- 第 155 図 ①筆者撮影。②河上 1986 より。
- 第 156 図 ①奈良県立橿原考古学研究所編 2004 より。
- 第 157 図 ①辰巳編 1983 より。②高橋 1987 より。
- 第 158 図 ①筆者撮影。②櫃本 2002 より。
- 第 159 図 ①吉原市教育委員会 1985 より。
- 第 160 図 ①植田 1993 より。②佐々木編 1961 より。

- 第 161 図 ①楠元・竹田 1988 より。
- 第 162 図 木下 1974 より。
- 第 163 図 ①長野県史刊行会 1988 より。②望月 1981 より。
- 第 164 図 ①群馬県立歴史博物館 1980 より。②佐賀県立博物館 1979 より。
- 第 165 図 ①寺沢 1981 より。
- 第 166 図 ①河上 1986 より。
- 第 167 図 加藤 1939 より。
- 第 168 図～第 182 図 筆者写真撮影
- 第 183 図～第 190 図 筆者作成。
- 第 191 図 朴 2006 を一部改変。
- 第 192 図 佐久間 2013 を一部改変。
- 第 193 図 筆者作成。
- 第 194 図～第 197 図 筆者写真撮影。
- 第 198 図・第 199 図 加藤他 2010 より
- 第 200 図～第 205 図 筆者作成。
- 第 206 ～ 228 図 筆者写真撮影。
- 第 229 図 筆者作成。
- 第 1 表～第 26 表 筆者作成。

謝辞

本論文の作成においては指導教官の古瀬清秀教授には叱咤激励していただき、卒業論文から博士論文作成に至るまで丁寧なご指導を賜りました。先生との出会いは大学1年の入門ゼミでした。考古学の面白さにひかれ、研究室に入ることになりました。大学2年の時にはたたら研究会で中国河南省に行く機会があり、そのことが中国にひかれるきっかけとなりました。その後の四川大学への留学へと繋がりました。自由に研究することを認めていただき、大学生活の中でいろいろな研究を行うことができました。大学2年時の発掘で広島市宇那木山2号墳から出土した珠文鏡は、私の博士論文のテーマとなりました。とても難解なものでしたが、卒業論文からの12年間私の研究を支えて下さった古瀬先生には感謝の念でいっぱいです。広島大学考古学研究室での帝釈峡遺跡群や佐田峠古墳群の発掘調査では先輩後輩諸氏との思い出がたくさんあります。また、2009年および2011年の二度にわたるイラン国立博物館での資料調査に参加する機会をいただき、大変多くのことを学ぶことができました。これも私にとって大変良い経験となりました。

考古学研究室の竹広文明先生には、一つのテーマに対して真摯に取り組む姿勢を学ばせていただきました。野島永先生からは千歳下遺跡の報告書制作に関わる機会をいただき、埋蔵文化財や論文に対する姿勢を多く学ぶことができました。また論文作成にあたっては丁寧なご指導をいただきました。考古学研究室の先生方に大変感謝申し上げます。

文化財学研究室の三浦正幸先生、広島大学博物館の藤野次史先生・福山市立大学八幡浩二先生・学術振興会特別研究員有松唯氏からも多くの貴重なご助言をいただきました。大変感謝申し上げます。博士課程後期の宮岡昌宣氏・長井健二氏・ミッシェル・グザビエ氏からは切磋琢磨することを学びました。広島大学の先輩後輩諸氏からも貴重なご助言を賜り、有難うございました。

中国社会科学院の白雲翔先生や四川大学歴史文化学院の霍巍先生をはじめ、黄偉先生・李永憲先生・李映福先生・呂紅亮先生、四川大学の先輩後輩諸氏

からも、中国政府奨学生としての留学中には多くのご指導とご配慮を賜りました。留学中に金沙遺跡の発掘調査や涼山彝族自治区の分布調査に参加する許可をいただき、本当に有難うございました。約2ヶ月の院生や学生との共同生活は、私にとって大変貴重な経験となりました。中国における考古学的方法論も学ぶことができました。記して感謝申し上げます。

なお、博士論文を作成するに当たり、公益財団法人日本科学協会による2007年度・2012年度の笹川科学研究助成、広島大学校友会・広島大学同窓会による2010年度・2011年度のドリームチャレンジ賞、財団法人高梨学術奨励基金による2009年度高梨学術奨励基金をうけております。ここに記して感謝申し上げます。

また、以下の諸機関、諸先生、諸氏より、多くのご指導とご鞭撻を賜りました。

ご芳名を記し、感謝の意を示します。

明石市立文化博物館・足立区伊興遺跡公園展示館・安土城考古博物館・綾川町陶公民館・安中市ふるさと学習館・石川県埋蔵文化財センター・市原市埋蔵文化財調査センター・茨城県立歴史館・今立町歴史民俗資料館・今治市教育委員会・魚島郷土資料館・宇都宮市とびやま歴史体験館・宇部市教育委員会・愛媛県埋蔵文化財センター・大阪府埋蔵文化財センター・岡山県古代吉備文化財センター・岡山理科大学・香川県埋蔵文化財センター・柏市教育委員会・柏市文化財整理室・春日市奴国の丘歴史資料館・株式会社東洋クオリティワン・上郡町郷土資料館・神奈川県立歴史博物館・金沢市埋蔵文化財センター・唐津市文化事業団・観音寺市教育委員会・岐阜市歴史博物館・基山町教育委員会・基山町民会館・九州大学考古学研究室・京都府埋蔵文化財調査研究センター・熊本県教育委員会・倉吉市教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県立博物館・公益財団法人枚方市文化財研究調査会・神戸市埋蔵文化財センター・高知県文化財団・古代吉備文化財センター・小林市中央図書館・西条市立小松温芳図書館・西条市立東予郷土館・埼玉県埋蔵文化財調査事業団・佐賀県立博物館・佐賀県立文化財調査研究資料室・佐賀市文化財資料館・さぬき市教育委員会・山陽厚狭図書館・静岡県教育委員会・静岡県埋蔵文化財センター・島根県立八雲立つ風土記の丘・須恵町教育委員会・瀬戸内歴史民俗博物

館・善通寺市教育委員会・草加市歴史民俗資料館・総社市埋蔵文化財学習の館・
袖ヶ浦市郷土博物館・高松市歴史資料館・玉名市教育委員会・筑紫野市教育
委員会・筑前市教育委員会・千葉県教育振興事業団文化財センター・東海村
教育委員会・徳島市立考古資料館・鳥取県教育委員会・富岡市立美術博物館・
豊中市中央公民館・長岡京市埋蔵文化財センター・長野県立歴史館・名張市
郷土資料室・東大阪市郷土博物館・東広島市教育委員会・ひたちなか市埋蔵
文化財センター・枚方市教育委員会・広島県教育事業団・広島県立歴史博物館・
広島市未来都市創造財団・福岡市博物館・福山市神辺歴史民俗資料館・福山
市しんいち歴史民俗博物館・福山城博物館・藤枝市郷土博物館・府中市教育
委員会・府中市歴史民俗資料館・文化庁・舞鶴市民会館・南あわじ市教育委
員会・宮崎県埋蔵文化財センター・宮崎県立西都原考古博物館・三次市歴史
民俗資料館・明治大学博物館・焼津市歴史民俗資料館・八尾市立歴史民俗資
料館・山鹿市立博物館・山口県立埋蔵文化財センター・山武市教育委員会・山
梨県立考古・湯梨浜町教育委員会・湯梨浜町羽合歴史民俗資料館・与島資料館・
米子市埋蔵文化財センター・和歌山県立紀伊風土記の丘・和歌山市立博物館
赤尾重信・阿部敬生・新井悟・石井隆博・石垣敏之・石坂茂・石貫弘泰・石橋新次・
一山典・井上文男・井上義也・稲田健一・稲原昭嘉・今平利幸・岩尾峯希・岩
本貴・岩本崇・上倉郁子・上田千佳穂・上野祥史・上掬武・黄偉・大麻ゆかり・
大川泰広・大竹憲昭・岡田敏彦・岡田容子・沖憲明・小原貴樹・女屋和志雄・
折原洋一・垣内光次郎・笠井由子・蒲原宏行・亀井修一・河合章行・垣内光次郎・
川口徳治朗・川崎保・河村直明・北森さやか・北山健一郎・木村理郎・楠正勝・
久保田昇三・熊谷葉月・倉本 卿介・胡松鶴・小池浩平・越川欣和・腰塚徳司・
後藤克博・小林健二・近藤協・斉藤礼・佐伯正浩・三枝健二・澤田秀実・佐々
木正治・佐々木義則・佐藤一郎・実盛良彦・柴田英樹・嶋文博・島田拓・島田
和高・清水篤・下村節子・下垣仁志・白井久美子・周成梅・笹川龍一・定松佳
重・鈴賀智幸・鈴木源氏・鈴木素行・鈴木康之・角信一郎・園尾裕・高橋康男・
高橋方紀・瀧川仲男・田尻義了・多田彰・田中正弘・田中康雄・谷岡能史・谷
重豊季・丹野拓・椿原靖弘・辻田淳一郎・手島智之・土井基司・徳江秀夫・友
澤明・戸潤幹夫・飛田英世・中島清治・永田千織・中西克宏・中村一義・名本

二六雄・奈良佳子・檜山満照・西岡義貴・根鈴輝雄・能城秀喜・野口陽子・乗安和二三・白雲翔・原雅信・伴野幸一・平山誠一・藤岡孝司・藤丸詔八郎・藤卷正勝・古瀬裕子・細川金也・堀内紀明・前田敬彦・槇林啓介・松尾佳子・松井和幸・松尾佳子・松本晃・松本達也・松田清孝・松永悦枝・増田鉄平・丸毛のぞみ・水上公誠・宮川紳・宮崎歩・宮原晋一・宮本一夫・向田裕始・村上恭通・村上幸雄・村山功志・毛利義嗣・森井健司・森下章司・森田真一・門田了三・安岡猛平・安田滋・柳田康雄・山崎貴美・山下啓之・山田義範・山高久雄・山本一伸・山本輝雄・山手貴生・山名洋通・吉田広・李永哲・劉婫・渡邊芳貴(敬称略・五十音順)。

なお、博士論文を作成するまでの長期にわたって経済的に支えていただいた両親には感謝の念でいっぱいです。また、3年間という長期留学に理解を示してくれたことにも、心から感謝いたしております。弟とは研究に対して話し合えたことは私の糧となりました。また、精神的にも支えてくれたことに感謝しています。

本研究の成果が皆様のご期待に沿うものであればと思います。今後も皆様のご指導ご鞭撻を受けつつ研究に邁進する所存です。最後になりましたが、ここに重ねて厚く謝意を表し、謝辞といたします。